2016年度
経営学部 講義概要
（シラバス）

法政大学

経営学部の学生の皆さんへ

経営学部長　奥西　好夫

【経営学部の理念・教育目標】

法政大学経営学部は、経営学部としては日本の私立大学で２番目の歴史を有する学部である。本学部は、1959年の創設から50余年の間に、経営学及び関連領域に関する教育と研究を行い、多くの有意な人材を社会に輩出してきた。

本学部は、経営学を中心として、広く経済学・商学・情報・一般教養等の理論の修得と実践を通して、幅広い知識と自由な発想の上に立ち、産業の技術的進歩に対応して実務的能力を発揮しうる人材を育成することを基本理念・目的としている。経営学の対象である企業を取り巻く環境は時代と共に激しく変化するため、必然的に経営学は動的な学問の側面を持つこととなる。そのため、学部の持つ長い伝統の蓄積の上に立って、常に時代の変化を捉えた組織構造や教育内容を構築し、「自由と進歩」「進取の気象」の精神に下に新しい課題に積極的に挑戦する姿勢を維持することも学部の基礎を形成する重要な理念となっている。

この講義概要（シラバス）は、皆さんがこれから経営学部で学ぶことのできる経営学関連科目とその内容を示したものであり、各授業の概要・目標、授業計画、使用テキスト・参考文献、成績評価の方法などが具体的に書かれています。内容をよく読み、自分の関心や学習目的にあわせて、履修する科目を系統的に選択するように計画してください。また、各講義の予習と復習についても記載されています。これは、単位の取得には授業と同じ時間の予習と復習がそれぞれ必要とされているからです。また、主として１、２年次に学習する市ヶ谷基礎科目に関するシラバスも別途用意されていますので、本シラバス同様熟読し、履修科目を決定してください。

皆さんがこれから学習する「経営学」は、企業の活動とそこで働く人々の行動を理解することにより、企業組織の内外で発生するさまざまな問題を分析し、課題を解決する学問です。経営学科では経営管理の基礎から、組織、人事、会計に関する専門科目を、経営戦略学科では国際経営、企業戦略、企業家活動、経営分析などに関する専門科目を、そして市場経営学科では、マーケティング、産業・技術、金融・公共サービスなどに関する専門科目を配置しています。企業が直面する諸問題を解決するための概念や方法は多種多様であり、皆さんが経営学を体系的に効率よく履修できるよう経営学部のカリキュラムはその編成に工夫をこらしています。カリキュラムの特徴は以下の通りです。

① １、２年次に専門基礎科目（Ａ群/Ｂ群）、３、４年次には専門科目が配置されています。専門基礎科目は経営学を学ぶ上で基礎となる科目が配置されており、学科に関係なく共通に履修が可能です。他方、３年次以降に配置されている専門科目は３つの学科専門科目群に大きく分けられ、それぞれの学科の教育目標にそった科目が配置されています。皆さんは所属する学科の専門科目を所定の単位数以上履修する必要があります。そして、所属する各学科の専門科目について所定の卒業要件を満たせば、他学科の科目を自由に履修することも可能です。

② ほぼすべての専任教員が演習（ゼミナール、通称ゼミ）を担当し、注力している点も特徴と言えます。ゼミではさまざまなテーマを扱い、それを深く学ぶことになり、教員の専門分野の一端に触れたり、合宿などを通じて教員と学生との全人格的交流も期待できます。ゼミ生の募集は原則として毎年秋に実施されますが、４月に追加募集も予定されていますので学部掲示板等を確認してください。ゼミ生の主体は３、４年生ですが、２年生からも参加できます。また、専門の演習の他に、１年生のうちからゼミの雰囲気に慣れるとともに、大学での学び方を身につけることを目的として、１年次向けの入門演習も開講しています。

③ もうひとつの特徴として、常置科目では扱いきれないテーマを扱う「特殊講義」があります。今年度は「問題解決技法入門」、「ものづくり経営論」、「連結会計」、「租税法」、「国際経営ワークショップ」、「例題で学ぶミクロ経済学入門」等が開講されます。また、キャリアプログラム科目の一つである「インターンシップ」では、企業の実務の現場に入って体験的に経営学を実践する機会を設けています。

④ 経営学部では経営学を英語で学ぶことも重視しています。入門外国語経営学（１年次～）では経営学を平易な英語で理解できるようになることを目指し、ビジネス英語（２年次～）では、ビジネスの現場で用いられる英語について学習します。さらに３、４年次の選択制の外国語経営学も開設されています。今日ではビジネスのあらゆる場面で英語が使われるようになっており、英語の活用は不可欠です。社会に出る前に、英語の基礎をかためておくことを強くお勧めします。

皆さんが、もし何を勉強しているのかが見えなくなったり、何を勉強したいのかについて迷ったら、是非シラバスを原点にヒントを得てください。経営学部での４年間は思いのほか早く過ぎ去ってしまいます。４年間の学生生活が自立した社会人として活躍するための基礎作りの場になるよう、明確な目標の基に計画を立て、真摯に取り組んでくださることを切願します。

Webシラバスについて

経営学部のシラバスは、Web上でも公開しています。利用の際は以下の点に注意してください。

Webシラバス：https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php

１．履修可能な学部学科、学年、クラスについて

閲覧可能な科目でも、履修登録可能なクラスが制限されている場合があります。履修できないクラスを登録してしまうと、授業に出席し、試験を受験しても**単位として認められませんので注意してください。**別途配布される時間割表などから、自分が登録可能な内容か確認しましょう。

２．冊子版シラバスとWebシラバスの扱いについて

この冊子（以下、冊子版シラバス）とWebシラバスは、表記方法の違いから内容に解釈の違いが出ないよう配慮して編集していますが、冊子版シラバスとWebシラバスの内容に差異が生じている、あるいはそのように読み取れる場合は、**冊子版シラバスの内容を正確な内容として扱います。**ただし、科目によっては紙面の都合上Webシラバスにのみ補足情報を掲載している場合があります。

内容の訂正が生じた場合は学部の掲示板に掲示を行いますので、登校時には必ず目を通すようにしてください。

目　次

専門教育科目・連環科目配当表(2007年度～2015年度入学者) -------- ii
専門教育科目・連環科目配当表(2016年度入学者) -------- iv

専門科目講義概要

演　習 ---------- 1 1

専門基礎科目　A群/B群 ---------- 65 2

経営学科専門科目 ---------- 99 3

経営戦略学科専門科目 ---------- 117 4

市場経営学科専門科目 ---------- 131 5

選　択 ---------- 149 6

連環科目 ---------- 195 7

交換留学生受け入れプログラム(ESOP)科目について ------- 199

専門教育科目・連環科目配当表（2007年度 ～ 2015年度入学者）

※　同名科目の担当者は原則として50音順で掲載しています。

系列			科目名	単位	履修年次	担当者	備考	講義概要ページ
専門基礎科目	A群	常置科目	経営学総論Ⅰ・Ⅱ	4	1年次	安藤直紀　教授		66
						佐野　哲　教授		67
						福島英史　教授		68
						吉田健二　教授		69
						李　瑞雪　教授		70
					2年次～	木村純子　教授		71
			簿記入門Ⅰ・Ⅱ	4	1年次	市川佳功　講師		72
						北田皓嗣　准教授		73
						坂上　学　教授		74
						福田淳児　教授		75
					2年次～	大下勇二　教授		76
			ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ	4	1年次～	大木良子　准教授		77
						林　直嗣　教授		78
						平田英明　教授		79
			情報科学実習Ⅰ・Ⅱ	4	1・2年次	担当は講義概要を参照		80
	B群		経営管理論Ⅰ／経営管理論Ⅱ	各2		稲垣保弘　教授		87
			マーケティング論Ⅰ／マーケティング論Ⅱ	各2		竹内淑恵　教授		88
						長谷川翔平　専任講師		89
			会計学入門Ⅰ／会計学入門Ⅱ	各2		坂上　学　教授		90
						筒井知彦　教授		91
					2年次～	平井裕久　講師		92
			基礎統計学Ⅰ／基礎統計学Ⅱ	各2		末松俊明　講師		93
						豊田　敬　教授		94
			経営戦略論Ⅰ／経営戦略論Ⅱ	各2		吉田健二　教授		95
						李　瑞雪　教授		96
			金融論Ⅰ／金融論Ⅱ	各2		林　直嗣　教授		97
学科専門科目	経営学科	常置科目	経営組織論Ⅰ／経営組織論Ⅱ	各2		稲垣保弘　教授		100
			組織認識論Ⅰ／組織認識論Ⅱ	各2		休講		
			経営情報論Ⅰ／経営情報論Ⅱ	各2		岸　眞理子　教授		101
			経営社会学Ⅰ／経営社会学Ⅱ	各2		佐野　哲　教授		102
			組織経済学Ⅰ／組織経済学Ⅱ	各2		奥西好夫　教授		103
			組織行動論Ⅰ／組織行動論Ⅱ	各2		西川真規子　教授		104
			人的資源管理Ⅰ	2		佐野嘉秀　教授	春学期	105
			人的資源管理Ⅱ	2		藤本　真　講師	秋学期	106
			人材育成論Ⅰ／人材育成論Ⅱ	各2		休講		
			国際人事論Ⅰ	2	3年次～	菊地達昭　講師	春学期	107
			財務会計論Ⅰ／財務会計論Ⅱ	各2		鈴木智大　講師		108
			監査論Ⅰ／監査論Ⅱ	各2		坂上　学　教授		109
			税務会計論Ⅰ／税務会計論Ⅱ	各2		大下勇二　教授		110
			管理会計論Ⅰ／管理会計論Ⅱ	各2		北田皓嗣　准教授		111
			原価計算論Ⅰ／原価計算論Ⅱ	各2		福田淳児　教授		112
			原価管理論Ⅰ／原価管理論Ⅱ	各2		休講		
			国際会計論Ⅰ／国際会計論Ⅱ	各2		筒井知彦　教授		113
			情報と倫理	2		寺本卓史　講師	春学期	114
			情報と職業	2		寺本卓史　講師	秋学期	115
	経営戦略学科	常置科目	国際経営戦略論Ⅰ／国際経営戦略論Ⅱ	各2		安藤直紀　教授		118
			国際経営論Ⅰ／国際経営論Ⅱ	各2		洞口治夫　教授		119
			戦略的意思決定論Ⅰ／戦略的意思決定論Ⅱ	各2		福島英史　教授		120
			日本経営史Ⅰ／日本経営史Ⅱ	各2		二階堂　行宣　専任講師		121
			中小企業論Ⅰ／中小企業論Ⅱ	各2		稲垣京輔　教授		122
			日本経済論Ⅰ／日本経済論Ⅱ	各2		平田英明　教授		123
			国際経済論Ⅰ／国際経済論Ⅱ	各2	3年次～	高橋理香　教授		124
			国際金融論Ⅰ／国際金融論Ⅱ	各2		高　準亨　講師		125
			産業史Ⅰ／産業史Ⅱ	各2		藤澤利治　教授		126
			経営分析Ⅰ／経営分析Ⅱ	各2		平井裕久　講師		127
			経営分析Ⅲ／経営分析Ⅳ	各2		休講		
			計量経営分析Ⅰ／計量経営分析Ⅱ	各2		蓮見　亮　講師		128
			統計学Ⅰ／統計学Ⅱ	各2		豊田　敬　教授		129
			システム管理論Ⅰ／システム管理論Ⅱ	各2		児玉靖司　教授		130

■　表中の記載について

科目名で～Ⅰ／～Ⅱとなっている科目は、原則としてⅠが春学期、Ⅱが秋学期です。

科目名でⅠ・Ⅱとなっている科目はⅠ・Ⅱがセットになった通年科目です。別々に履修することはできません。

※インターンシップの実施は、夏休み中を予定していますが、履修登録上は秋学期科目扱いになります。

詳細は履修の手引きのインターンシップのページを参照してください。

系列			科目名	単位	履修年次	担当者	備考	講義概要ページ
学科専門科目	市場経営学科	常置科目	日本経営論Ⅰ / 日本経営論Ⅱ	各2	3年次～	金 容度 教授		132
			流通論Ⅰ / 流通論Ⅱ	各2		横山 斉理 教授		133
			消費者行動論Ⅰ / 消費者行動論Ⅱ	各2		新倉 貴士 教授		134
			マーケティング・リサーチⅠ / マーケティング・リサーチⅡ	各2		西川 英彦 教授		135
			サービス・マネジメント論Ⅰ / サービス・マネジメント論Ⅱ	各2		木村 純子 教授		136
			製品開発論Ⅰ / 製品開発論Ⅱ	各2		田路 則子 教授		137
			技術管理論Ⅰ / 技術管理論Ⅱ	各2		近能 善範 教授		138
			産業組織論Ⅰ / 産業組織論Ⅱ	各2		大木 良子 准教授		139
			非営利組織経営論Ⅰ / 非営利組織経営論Ⅱ	各2		湧口 清隆 講師		140
			応用経済学Ⅰ / 応用経済学Ⅱ	各2		宮澤 信二郎 准教授		141
			交通経済論Ⅰ / 交通経済論Ⅱ	各2		橋本 悟 講師		142
			企業財務論Ⅰ /企業財務論 Ⅱ	各2		金 瑢晋 教授		143
			証券経済論Ⅰ / 証券経済論Ⅱ	各2		岸本 直樹 教授		144
			財政論Ⅰ / 財政論Ⅱ	各2		徐 一睿 講師		145
			情報技術論Ⅰ / 情報技術論Ⅱ	各2		江島 夏実 講師		146
			ファイナンス論Ⅰ / ファイナンス論Ⅱ	各2		山嵜 輝 教授		147
選択	演習		入門演習Ⅰ・Ⅱ	4	1年次	専任教員が担当 講義概要を参照		
			演習1・2(2014年度以前入学者)	4	2年次			
			演習1・2(2015年度入学者)	4/6				
			演習3・4	4/6	3年次			
			演習5・6	4/6	4年次			
	外国語経営学科目		入門外国語経営学Ⅰ / 入門外国語経営学Ⅱ	各2	1年次～	稲垣京輔 教授 岸本直樹 教授 髙橋理香 教授 二階堂 行宣 専任講師 宮澤 信二郎 准教授 横山 斉理 教授	初級 初級 初級 中級 中級 中級	150 151 152 153 154 155
			外国語経営学Ⅰ / 外国語経営学Ⅱ (経営A、経営戦略B)	各2	3年次～	三澤 一文 教授		156・157
			ビジネス英語Ⅰ / ビジネス英語Ⅱ	各2	2年次～	ジョナサン・エーブル 講師	初級・中級	158・159
	キャリアプログラム科目		国際コミュニケーション論Ⅰ / 国際コミュニケーション論Ⅱ	各2	3年次	休講		
			キャリア・マネジメントⅠ/キャリア・マネジメントⅡ	各2		今城志保 講師 小川憲彦 教授	 Ⅰ、Ⅱとも秋学期	160 161
			検定会計Ⅰ / 検定会計Ⅱ	各2	2年次	市川佳功 講師	Ⅰ、Ⅱとも秋学期	162
			インターンシップⅠ / インターンシップⅡ	各2		小林健一 教授	※	163・164
			※ インターンシップⅡについては、インターンシップⅠの履修が必須となりますので、注意してください。					
			SA認定科目	SAプログラム参加者が、留学先で履修した科目が認定された際の科目名です。 詳細は、履修の手引き、経営学部ホームページを参照してください。				
	特殊講義		広告論	2	2年次～	小林健一 教授	春学期	165
			社会貢献・課題解決教育	4		宮木いっぺい 講師		166
			寄附講座・チェーンストア経営論	2		横山 斉理 教授	秋学期	167
			証券投資基礎	2		金 瑢晋 教授 陸川富盛 講師	秋学期	168
			プラニング実務	2		小林健一 教授	秋学期	169
			例題で学ぶミクロ経済学入門	4	1年次～	高橋理香 教授		170
			国際経営ワークショップ	4		洞口治夫 教授	春学期	171
			租税法	4	2年次～	菊谷正人 教授		172
			連結会計	2		菊谷正人 教授	春学期	173
			問題解決技法入門	2	1年次～	三澤一文 教授	春学期	174
			ものづくり経営論	2		三澤一文 教授	春学期	175
			Skills for SA	2	2年次～	ジェームス・ラセガード 教授	春学期	176
	情報関係		プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ	4	1年次～			
			[C言語コース]			飯塚康至 講師 小川久夫 講師	いずれか1コースのみ履修可 いずれか1コースのみ履修可	177 178
			[COBOLコース]			根岸良征 講師	いずれか1コースのみ履修可	179
			[BASICコース]			島野孝史 講師	いずれか1コースのみ履修可	180
			[JAVAコース]			神林 靖 講師 北澤具子 講師	いずれか1コースのみ履修可 いずれか1コースのみ履修可	181 182
			応用プログラミングⅠ・Ⅱ	4	3年次～			
			[計量分析コース]			林 直嗣 教授	いずれか1コースのみ履修可	183
			[統計コース]			中平千彦 講師	いずれか1コースのみ履修可	184
			データ処理論Ⅰ・Ⅱ	4	2年次～			
			[データベース・コース]			飯塚康至 講師 木村昌史 講師	いずれか1コースのみ履修可 いずれか1コースのみ履修可	185 186
			[コンピューター・グラフィックス・コース]			飯塚康至 講師	いずれか1コースのみ履修可	187
			[プレゼンテーション・コース]			上野京子 講師	いずれか1コースのみ履修可	188
			[空間情報システム・コース]			小寺浩二 准教授 沼尻治樹 講師	いずれか1コースのみ履修可 いずれか1コースのみ履修可	189 190
			[情報検索コース]			休講		
			ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ	4	2年次～			
			[通信ネットワーク・コース]			飯塚康至 講師 石原浩幸 講師	いずれか1コースのみ履修可 いずれか1コースのみ履修可	191 192
			[ホームページ・コース]			北澤具子 講師	いずれか1コースのみ履修可	193
連環科目	法律関係		民法	4	2年次～	松田佳久 講師		196
			会社法	4		金澤大祐 講師		197
			労働法	4		沼田雅之 教授		198
	総合科目				2年次～	市ヶ谷基礎科目・総合科目講義概要を参照		
	公開科目				3年次～	公開科目講義概要を参照		
	交換留学生受け入れプログラム				2年次～	グローバル教育センター発行のESOPパンフレットを参照		199
	グローバル・オープン科目				1年次～	公開科目講義概要を参照		

専門教育科目・連環科目配当表（2016年度入学者）

※　同名科目の担当者は原則として50音順で掲載しています。

系列			科目名	単位	履修年次	担当者	備考	講義概要ページ
専門基礎科目	A群	常置科目	経営学総論Ⅰ / 経営学総論Ⅱ	各2	1年次	安藤直紀 教授		66
						佐野　哲 教授		67
						福島英史 教授		68
						吉田健二 教授		69
						李　瑞雪 教授		70
					2年次～	木村純子 教授		71
			簿記入門Ⅰ / 簿記入門Ⅱ	各2	1年次	市川佳功 講師		72
						北田皓嗣 准教授		73
						坂上　学 教授		74
						福田淳児 教授		75
					2年次～	大下勇二 教授		76
			ミクロ経済学入門Ⅰ / ミクロ経済学入門Ⅱ	各2	1年次～	大木良子 准教授		77
						林　直嗣 教授		78
						平田英明 教授		79
			情報科学実習Ⅰ / 情報科学実習Ⅱ	各2	1･2年次	担当は講義概要を参照		80
	B群		経営管理論Ⅰ / 経営管理論Ⅱ	各2		稲垣保弘 教授		87
			マーケティング論Ⅰ / マーケティング論Ⅱ	各2		竹内淑恵 教授		88
						長谷川翔平 専任講師		89
			会計学入門Ⅰ / 会計学入門Ⅱ	各2		坂上　学 教授		90
						筒井知彦 教授		91
					2年次～	平井裕久 講師		92
			基礎統計学Ⅰ / 基礎統計学Ⅱ	各2		末松俊明 講師		93
						豊田　敬 教授		94
			経営戦略論Ⅰ / 経営戦略論Ⅱ	各2		吉田健二 教授		95
						李　瑞雪 教授		96
			金融論Ⅰ / 金融論Ⅱ	各2		林　直嗣 教授		97
学科専門科目	経営学科	常置科目	経営組織論Ⅰ / 経営組織論Ⅱ	各2		稲垣保弘 教授		100
			組織認識論Ⅰ / 組織認識論Ⅱ	各2		休講		
			経営情報論Ⅰ / 経営情報論Ⅱ	各2		岸　眞理子 教授		101
			経営社会学Ⅰ / 経営社会学Ⅱ	各2		佐野　哲 教授		102
			組織経済学Ⅰ / 組織経済学Ⅱ	各2		奥西好夫 教授		103
			組織行動論Ⅰ / 組織行動論Ⅱ	各2		西川真規子 教授		104
			人的資源管理Ⅰ	2		佐野嘉秀 教授	春学期	105
			人的資源管理Ⅱ	2		藤本　真 講師	秋学期	106
			人材育成論Ⅰ / 人材育成論Ⅱ	各2		休講		
			国際人事論Ⅰ	2	3年次～	菊地達昭 講師	春学期	107
			財務会計論Ⅰ / 財務会計論Ⅱ	各2		鈴木智大 講師		108
			監査論Ⅰ / 監査論Ⅱ	各2		坂上　学 教授		109
			税務会計論Ⅰ / 税務会計論Ⅱ	各2		大下勇二 教授		110
			管理会計論Ⅰ / 管理会計論Ⅱ	各2		北田皓嗣 准教授		111
			原価計算論Ⅰ / 原価計算論Ⅱ	各2		福田淳児 教授		112
			原価管理論Ⅰ / 原価管理論Ⅱ	各2		休講		
			国際会計論Ⅰ / 国際会計論Ⅱ	各2		筒井知彦 教授		113
			情報と倫理	2		寺本卓史 講師	春学期	114
			情報と職業	2		寺本卓史 講師	秋学期	115
	経営戦略学科	常置科目	国際経営戦略論Ⅰ / 国際経営戦略論Ⅱ	各2		安藤直紀 教授		118
			国際経営論Ⅰ / 国際経営論Ⅱ	各2		洞口治夫 教授		119
			戦略的意思決定論Ⅰ / 戦略的意思決定論Ⅱ	各2		福島英史 教授		120
			日本経営史Ⅰ / 日本経営史Ⅱ	各2		二階堂　行宣 専任講師		121
			中小企業論Ⅰ / 中小企業論Ⅱ	各2		稲垣京輔 教授		122
			日本経済論Ⅰ / 日本経済論Ⅱ	各2		平田英明 教授		123
			国際経済論Ⅰ / 国際経済論Ⅱ	各2	3年次～	高橋理香 教授		124
			国際金融論Ⅰ / 国際金融論Ⅱ	各2		高　準亨 講師		125
			産業史Ⅰ / 産業史Ⅱ	各2		藤澤利治 教授		126
			経営分析Ⅰ / 経営分析Ⅱ	各2		平井裕久 講師		127
			経営分析Ⅲ / 経営分析Ⅳ	各2		休講		
			計量経営分析Ⅰ / 計量経営分析Ⅱ	各2		蓮見　亮 講師		128
			統計学Ⅰ / 統計学Ⅱ	各2		豊田　敬 教授		129
			システム管理論Ⅰ / システム管理論Ⅱ	各2		児玉靖司 教授		130

■　表中の記載について

科目名で～Ⅰ／～Ⅱとなっている科目は、原則としてⅠが春学期、Ⅱが秋学期です。

※インターンシップの実施は、夏休み中を予定していますが、履修登録上は秋学期科目扱いになります。

詳細は履修の手引きのインターンシップのページを参照してください。

系列			科目名	単位	履修年次	担当者	備考	講義概要ページ
学科専門科目	市場経営学科	常置科目	日本経営論Ⅰ / 日本経営論Ⅱ	各2	3年次～	金　容度　教授		132
			流通論Ⅰ / 流通論Ⅱ	各2		横山斉理　教授		133
			消費者行動論Ⅰ / 消費者行動論Ⅱ	各2		新倉貴士　教授		134
			マーケティング・リサーチⅠ / マーケティング・リサーチⅡ	各2		西川英彦　教授		135
			サービス・マネジメント論Ⅰ / サービス・マネジメント論Ⅱ	各2		木村純子　教授		136
			製品開発論Ⅰ / 製品開発論Ⅱ	各2		田路則子　教授		137
			技術管理論Ⅰ / 技術管理論Ⅱ	各2		近能善範　教授		138
			産業組織論Ⅰ / 産業組織論Ⅱ	各2		大木良子　准教授		139
			非営利組織経営論Ⅰ / 非営利組織経営論Ⅱ	各2		湧口清隆　講師		140
			応用経済学Ⅰ / 応用経済学Ⅱ	各2		宮澤信二郎　准教授		141
			交通経済論Ⅰ / 交通経済論Ⅱ	各2		橋本悟　講師		142
			企業財務論Ⅰ /企業財務論 Ⅱ	各2		金瑢晋　教授		143
			証券経済論Ⅰ / 証券経済論Ⅱ	各2		岸本直樹　教授		144
			財政論Ⅰ / 財政論Ⅱ	各2		徐一睿　講師		145
			情報技術論Ⅰ / 情報技術論Ⅱ	各2		江島夏実　講師		146
			ファイナンス論Ⅰ / ファイナンス論Ⅱ	各2		山嵜輝　教授		147
選択	演習		入門演習Ⅰ / 入門演習Ⅱ	各2	1年次	専任教員が担当 講義概要を参照		
			演習1 / 演習2	各2/各3	2年次			
			演習3 / 演習4	各2/各3	3年次			
			演習5 / 演習6	各2/各3	4年次			
	外国語経営学科目		入門外国語経営学Ⅰ / 入門外国語経営学Ⅱ	各2	1年次～	稲垣京輔　教授 岸本直樹　教授 高橋理香　教授	初級	150 151 152
						二階堂行宣　専任講師 宮澤信二郎　准教授 横山斉理　教授	中級	153 154 155
			外国語経営学Ⅰ / 外国語経営学Ⅱ (経営A、経営戦略B)	各2	3年次～	三澤一文　教授		156・157
			ビジネス英語Ⅰ / ビジネス英語Ⅱ	各2	2年次～	ジョナサン・エーブル　講師	初級・中級	158・159
	キャリアプログラム科目		国際コミュニケーション論Ⅰ / 国際コミュニケーション論Ⅱ	各2	3年次	休講		
			キャリア・マネジメントⅠ/キャリア・マネジメントⅡ	各2		今城志保　講師 小川憲彦　教授	Ⅰ、Ⅱとも秋学期	160 161
			検定会計Ⅰ / 検定会計Ⅱ	各2	2年次	市川佳功　講師	Ⅰ、Ⅱとも秋学期	162
			インターンシップⅠ / インターンシップⅡ	各2		小林健一　教授	※	163・164
			※ インターンシップⅡについては、インターンシップⅠの履修が必須となりますので、注意してください。					
			SA認定科目	SAプログラム参加者が、留学先で履修した科目が認定された際の科目名です。 詳細は、履修の手引き、経営学部ホームページを参照してください。				
	特殊講義		広告論	2	2年次～	小林健一　教授	春学期	165
			社会貢献・課題解決教育	4		宮木いっぺい　講師		166
			寄附講座・チェーンストア経営論	2		横山斉理　教授	秋学期	167
			証券投資基礎	2		金瑢晋　教授 陸川富盛　講師	秋学期	168
			プラニング実務	2		小林健一　教授	秋学期	169
			例題で学ぶミクロ経済学入門	4	1年次～	高橋理香　教授		170
			国際経営ワークショップ	4		洞口治夫　教授	春学期	171
			租税法	4	2年次～	菊谷正人　教授		172
			連結会計	2		菊谷正人　教授	春学期	173
			問題解決技法入門	2	1年次～	三澤一文　教授	春学期	174
			ものづくり経営論	2		三澤一文　教授	春学期	175
			Skills for SA	2	2年次～	ジェームス・ラセガード　教授	春学期	176
	情報関係		プログラミング言語Ⅰ / プログラミング言語Ⅱ	各2	1年次～			
			[C言語コース]			飯塚康至　講師 小川久夫　講師	いずれか1コースのみ履修可	177 178
			[COBOLコース]			根岸良征　講師		179
			[BASICコース]			島野孝史　講師		180
			[JAVAコース]			神林靖　講師 北澤具子　講師		181 182
			応用プログラミングⅠ / 応用プログラミングⅡ	各2	3年次～			
			[計量分析コース]			林直嗣　教授	いずれか1コースのみ履修可	183
			[統計コース]			中平千彦　講師		184
			データ処理論Ⅰ / データ処理論Ⅱ	各2	2年次～			
			[データベース・コース]			飯塚康至　講師 木村昌史　講師	いずれか1コースのみ履修可	185 186
			[コンピューター・グラフィックス・コース]			飯塚康至　講師		187
			[プレゼンテーション・コース]			上野京子　講師		188
			[空間情報システム・コース]			小寺浩二　准教授 沼尻治樹　講師		189 190
			[情報検索コース]			休講		
			ネットワーク論Ⅰ / ネットワーク論Ⅱ	各2	2年次～			
			[通信ネットワーク・コース]			飯塚康至　講師 石原浩幸　講師	いずれか1コースのみ履修可	191 192
			[ホームページ・コース]			北澤具子　講師		193
連環科目	法律関係		民法	4	2年次～	松田佳久　講師		196
			会社法	4		金澤大祐　講師		197
			労働法	4		沼田雅之　教授		198
	総合科目				2年次～	市ヶ谷基礎科目・総合科目講義概要を参照		
	公開科目				3年次～	公開科目講義概要を参照		
	交換留学生受け入れプログラム				2年次～	グローバル教育センター発行のESOPパンフレットを参照		199
	グローバル・オープン科目				1年次～	公開科目講義概要を参照		

演　習

※担当者50音順で掲載しています。
※履修年次および担当者によって単位数が異なるので
　注意してください。

●入門演習（’07年度～’16年度入学者）

●演習

入門演習Ⅰ　（2016 年度入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 2 単位　［春学期授業］
入門演習Ⅱ　（2016 年度入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 2 単位　［秋学期授業］
入門演習Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 4 単位　［年間授業］

小林　健一　教授

※　**原則春学期、秋学期連続で受講してください。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「課題解決力を身につける」

●高校と違って、大学での学び方は多様です。ただ教室に座って講義を聞くだけではなく、自ら調べ、考え、それを筋道立てて人に伝える努力と技術（＝**「考える力　スタディスキル」＋「伝える力　ソーシャルスキル」**）が求められます。そして、それはそのまま、皆さんが将来社会に出て**「生きる力」**にもつながります。
●特に、大学生活も、また大学卒業後の人生も、問題意識を持ってある課題に立ち向かい、その課題を解決することの連続です。この授業では、課題を発見し、解決する力を養うことを目的とします。
●講師は実務家出身ですので、将来研究者を志す学生の皆さんよりは、実業を目指す学生の皆さんを対象として、課題解決の技術を身につけていただきたいと思います。

【到達目標】
●課題について個人で考え、情報を集め、その結果と自分の考えをレポートにまとめることができる。
●課題をグループで解決し、解決策を他の人に説得力をもって伝えることができる。

【授業の進め方と方法】
●年間を通じて、身近なテーマ（例えば「○○という商品の売上を上げる」「○○という街のプレゼンスをあげる」等）をひとつ設定し、その課題について調べ、考え、筋道立ててまとめ、人に伝える事を、「講義」「個人演習」「グループ演習」を組み合わせながら進めます。
●昨年度は、個人では「日本の大学の課題」について考え、各自レポートを完成させました。グループでは、「法政大学の課題を解決する」ことに挑戦し、最後に大学関係者の皆さんにプレゼンテーションしました。
●課題を解決することは楽しい！ ということを体感してもらえるような授業にしたいと思います。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	教員自己紹介 授業の進め方、年間スケジュールの説明 （受講希望者多数の場合は、選抜のためのアンケートを実施）
第 2 回	自己紹介	学生自己紹介
第 3 回	グループ分けとグループディスカッション	グループに名前をつける グループメンバーがお互いを知る 第 1 回レポート課題提示
第 4 回	情報入手の仕方を学ぶ	図書館の利用方法を学ぶ 図書館を使ってみる
第 5 回	（講義）課題と課題解決	課題とは？ 課題解決とは？ 課題解決の方法とは？
第 6 回	ウオーミングアップ演習①	新聞記事を読む 個人で考える グループで考える
第 7 回	ウオーミングアップ演習②	映像を見る 個人で考える グループで考える
第 8 回	グループの課題を考える	グループで 1 年間考える課題について討議する 第 2 回レポート課題提示
第 9 回	先輩と語る	社会に出た OB の話を聞く
第 10 回	課題の確認	各グループの課題の確認 課題解決のための作業リストを作り、資料を集める
第 11 回	課題解決のための作業	集めた資料を分析する 課題解決のための仮説を作る
第 12 回	（講義）マーケティングについて	マーケティングとは？ マーケティングにおける課題解決とは何か？
第 13 回	第 1 回プレゼンテーションの準備をする①	グループで発表のための資料を作る 発表の練習をする
第 14 回	第 1 回プレゼンテーションの準備をする②	グループで発表のための資料を作る 発表の練習をする
第 15 回	第 1 回プレゼンテーション	各グループからのプレゼンテーションと講評

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	秋学期のオリエンテーション	春学期の授業の振り返り 秋学期の授業の進め方
第 17 回	第 2 回プレゼンテーションの基本ストーリーをまとめる①	各グループで第 2 回プレゼンテーションの基本ストーリーをまとめる
第 18 回	第 2 回プレゼンテーションの基本ストーリーをまとめる②	各グループで第 2 回プレゼンテーションの基本ストーリーをまとめる
第 19 回	各グループ中間報告	各グループの第 2 回プレゼンテーションの基本ストーリー中間報告
第 20 回	グループ A の課題に対する全体討議	グループ A の課題について、全員で討議する
第 21 回	グループ B の課題に対する全体討議	グループ B の課題について、全員で討議する
第 22 回	グループ C の課題に対する全体討議	グループ C の課題について、全員で討議する
第 23 回	グループ D の課題に対する全体討議	グループ D の課題について、全員で討議する
第 24 回	第 2 回プレゼンテーション①	グループ A/B の第 2 回プレゼンテーション、および他のメンバーからのアドバイス
第 25 回	第 2 回プレゼンテーション②	グループ C/D の第 2 回プレゼンテーション、および他のメンバーからのアドバイス
第 26 回	最終プレゼンテーションの準備をする①	最終プレゼンテーションのリハーサル
第 27 回	最終プレゼンテーションの準備をする②	最終プレゼンテーションのリハーサル
第 28 回	最終プレゼンテーションの準備をする③	最終プレゼンテーションのリハーサル
第 29 回	最終プレゼンテーション②	学内学外の関係者にプレゼンテーション/講評
第 30 回	1 年間のまとめ	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は、グループワークや個人の発表に対しての質疑を中心に全員参加で行いたいと思います。したがって、グループワークで使う資料、データや個人発表のための準備は、授業までに各自で行ってください。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、授業に必要な資料は適宜配布します。

【参考書】
「論点思考」内田和成、東洋経済新報社、2011。
「大学生のためのデザイニング・キャリア」渡辺三枝子/五十嵐浩也/田中勝男/高野澤勝美、2011。

【成績評価の方法と基準】
出席 20 回以上を必須として
20 回を超える出席回数 20 %、個人レポートの評価 30 %、
グループの成果 20 %、グループワークへの積極的参加態度 30 %、
の比率で評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
昨年度、学内関係者や若手社会人へのプレゼンテーションがいい経験になったという声があるため、できるだけ外部の方々にも参加してもらえる開かれた授業にしたいと思います。

【その他の重要事項】
●講師は、（株）電通 IMC プランニングセンター長、（株）電通マーケティングインサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。
●積極的に授業に参加する学生を歓迎します。受講希望者が多い場合は、選抜のためのアンケートを行って受講者数を制限します（20 名程度）。
【関連科目】レポートの書き方、プレゼンテーションのやり方等基本的なスタディスキルを学ぶ授業であるため、すべての科目の基礎になる科目です。

入門演習Ⅰ　（2016 年度入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 2 単位　［春学期授業］

入門演習Ⅱ　（2016 年度入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 2 単位　［秋学期授業］

入門演習Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 4 単位　［年間授業］

鈴木　眞奈美　教授

※　**原則春学期、秋学期連続で受講してください。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、まず今までのライフスタイルについて見直し、4 年間の大学生活をいかに充実したものにしていくかについて考察します。また大学における学習法や国際語としての英語コミュニケーション能力の向上、将来の社会人としてのあり方やマナーの習得を目指します。

【到達目標】

この授業では、3 つの目標の達成を目指します。1）大学における基礎的学習技能の習得。2）自らのキャリアを探求するとともに将来について考察し、計画を立て、目標到達のために大学生活の中で実践すべきことを明確にすること。3）総合的英語力の向上。

【授業の進め方と方法】

この授業では、まず今までのライフスタイルについて見直し、4 年間の大学生活をいかに充実したものにしていくかについて考察します。

効果的な学習技能（シャドイング、要約法、動機付けなど）、時間管理、健康維持、社会人としてのあり方やマナー（コンピューター、インターネットの活用法、英語や日本語による手紙や E メールの書き方、コミュニケーション能力、礼儀作法など）、またキャリアの探求について、関連資料や文献を読んだり、討論したり、自分の考えを文章に書くことなどを、実践を通して学んでいきます。

英語コミュニケーション能力の向上のため基本的に授業はすべて英語で行ないます。ただし、文献等は日本語で書かれたものも使用します。またペアワークやグループワークを通して共同学習を行ないます。より良い学習環境の構築を目指し、積極的な授業の参加が求められます。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction Goal Setting Campus Life	You reflect on your life and set goals.
2	Shadowing Summarizing	You will read an article about shadowing and summarizing and watch a DVD about these learning strategies.
3	Review of Shadowing and Summarizing Thank-You Letter	You will review shadowing and summarizing, and use them in your conversation. You also learn how to write a card in English.
4	Reading an Essay	You will learn reading strategies (e.g., skimming, scanning, inference, summarizing).
5	Library Research	You learn how to search literature on a theme of your study.
6	Preparation for a debate	You will learn how to debate and prepare for your debate with your team members.
7	Debate	You will have a debate.
8	Debate	You will have a debate.
9	Book Review How to Write an English Essay	You will discuss the assigned book and submit your paper about it to me. You will learn how to write an English essay.
10	Preparation for Presentation	You will learn how to give a presentation and prepare for it.
11	Presentation	You will give a presentation.
12	Presentation	You will give a presentation. You will submit your final paper to me.
13	Discussion	You will discuss your favorite topics with your classmates.
14	Review	You will review what you learn in this semester.
15	Self-Reflection	You will reflect on your academic performance. You will set your goals for the summer vacation.

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	Review Introduction Discussion about Your Summer Assignments Goal Setting	You will review what you learn in the previous semester. I will introduce what we learn in the fall semester. You will discuss your summer assignments with your classmates. You will set your goals for this semester.
17	Plan for Your Presentation Explore Careers I	You will decide a topic of your presentation and select three books about the topic. You will learn relations between what you study at university and what you are expected to do in society.
18	Explore Careers Ⅱ	You will think of your future job.
19	Motivation	You will learn self-efficacy and self-regulation which are very important for your academic success. You will also analyze your personal traits for self-management.
20	Health I	You will learn how to keep wellness and stay young, happy and healthy in your life.
21	Health II	You will continue to study how to keep fit and healthy, and exchange your ideas and experiences with your classmates.
22	How to Write a Letter in English	You will learn how to write a letter in English.
23	Outline of your Paper	You will show the outline of your paper.
24	How to research	You will learn different types of research methodologies.
25	Preparation for Presentation	You will prepare for your presentation.
26	Presentation	You will give a presentation.
27	Presentation	You will give a presentation. You will submit your final paper to me.
28	Discussion	You will discuss your favorite topics with your classmates.
29	Review	You will review what you learn in a year.
30	Self-Reflection	You will reflect on your academic performance in a year and set your goals for the spring vacation and your new academic year.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected:
1) to read assigned readings before the class
2) to look up words and phrases you don't know in the dictionary when you read English reading assignments before the class
3) to watch or listen to an English program regularly
4) to do assignments and submit them, meeting the deadline

【テキスト（教科書）】

外山　滋比古 (1986) 思考の整理学　ちくま文庫　（図書館での借用可）
handouts

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

出席（２０％）、課題（１０％）、ディベート (必須、１０％)、プレゼンテーション (必須、２０％)、期末試験 (必須、４０％)
*If you have three absences per semester without permission, do not give a presentation, do not participate in a debate, or do not take a final examination, you cannot get a credit of this course.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

I put the syllabus of this course back to the previous one that makes you learn more comprehensively.

【学生が準備すべき機器他】

Hosei's Educational Internet System (H'etudes), E-mail, Computer (Word and Power Point)

【その他の重要事項】

1) Although some of you may not have enough confidence in your English, your effort to learn English is important in this class. I hope that you will come to like studying English as an international language and communicate with people all over the world in English.
2) Good manners and collaborative learning are important in this class. You need to contact me when you are absent from class. You will do a lot of pair work and group work. I would like you to make a good learning community with your classmates and me.
3) 関連科目は特になし

入門演習Ⅰ　（2016 年度入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 2 単位　［春学期授業］
入門演習Ⅱ　（2016 年度入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 2 単位　［秋学期授業］
入門演習Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 4 単位　［年間授業］

長岡　健　教授

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「知的スキルの獲得 + 創造性の醸成 = 企画プロデュース入門」

ビジネスを学ぶに当っては、理論的な「知識を深める」だけでなく、「実践力の修得」を意識することも大切です。そして、実社会での課題解決に求められる「実践力の基礎」となるのが、調査、分析、報告等に関する「知的スキル」やオリジナリティを尊重する「知的マインド」です。

この授業では、「企画プロデュース」というビジネス実践に関連した「参加体験型の活動」を通じて、実学を学ぶ大学生に求められる「知的スキル」と「知的マインド」の修得に取り組んでいきます。具体的には、商品企画や事業プロデュースを意識した様々な演習を行いながら、①グループワーク、②プレゼンテーション、③フィールドワーク（観察・聞き取り）、といった活動の方法と考え方を学びます。そして同時に、創造的な思考や柔軟な発想の基盤となる「知的マインド」を主体的に醸成していきます。

【到達目標】
この授業では、大学生に必要なレベルの「知的スキル」と「知的マインド」を修得し、調査、分析、考察、報告をひとりで実施できるようになることを目指します。また、「企画プロデュース」というビジネス実践に関連した到達目標として、以下の３点が挙げられます。

1）グループワークにおいて、創造的な思考や柔軟な発想を実践できる。
2）「魅せる」ことを意識したプレゼンテーションを計画／準備／実行できる。
3）文献やウェブにはない先端情報を探索するフィールドワークを実践できる。

【授業の進め方と方法】
授業は「参加体験型」で進めます。ゲーム形式の演習、ビデオ鑑賞、ミニプロジェクトなどを行いながら、「体験する」「発表する」「振り返る」というプロセスでのチーム学習に取り組みます。

春学期は、「チームでの問題解決」「魅せるプレゼン」という２つのサブテーマに焦点をあて、創造的なグループワークや魅力的なプレゼンを実施するために必要なスキルを体験的に学びます。それら基礎的な学習の成果を活かしながら、春学期の最後には、「〈楽しさ〉を企画する」というテーマで、チームによる企画作成のミニプロジェクトを行ないます。

秋学期の前半は、主に「マーケット探索」というテーマでの学習に取り組み、フィールドワークでの観察や聞き取りに関するスキルや考え方を体験的に学びます。後半は、ビジネス企画作成のプロジェクトに取り組みます。実際の企業を授業に招き、企業から提示された課題解決の企画案をチームで作成します。そして、コンペ形式での発表会を実施します。

なお、この授業で実施する「参加体験型学習」の特徴は、「はじめから決まった答えのない問題に取り組む」「頭を使うだけでなく、身体も動かす」「交流と笑いがある柔らかい雰囲気の中で学ぶ」などが挙げられます。真剣で楽しい「シリアスファン（serious + fun）」な雰囲気の授業を実現したいと思います。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学習目的、進め方、評価などについて説明します。
第 2 回	チームでの問題解決【基礎編 ①】	チームの意思疎通に関するゲーム型演習を実施します。
第 3 回	チームでの問題解決【基礎編 ②】	チームの合意形成に関するゲーム型演習を実施します。
第 4 回	チームでの問題解決【基礎編 ③】	問題解決の考え方に関するゲーム型演習を実施します。
第 5 回	魅せるプレゼン【基礎編 ①】	「傾聴」「KJ 法」などの発想方法を体験します。
第 6 回	魅せるプレゼン【基礎編 ②】	発表におけるシナリオ作成の考え方と方法を学びます。
第 7 回	魅せるプレゼン【基礎編 ③】	画像や音響を使ったプレゼン資料作成を体験します。
第 8 回	魅せるプレゼン【基礎編 ④】	プレゼンに必要な機材の使い方を体験します。
第 9 回	魅せるプレゼン【基礎編 ⑤】	チームでのプレゼンテーションを体験します。
第 10 回	企画プロデュース物語り【 episode. 1 】	企画プロデュースに携わっている実務家の話を聞きます。
第 11 回	「楽しさ」の企画【ミニ PJ. ①】	企画作成のミニプロジェクトの活動方針を検討します。
第 12 回	「楽しさ」の企画【ミニ PJ. ②】	企画作成に向けた情報の整理／分析を行ないます。
第 13 回	「楽しさ」の企画【ミニ PJ. ③】	作成した企画案をもとに、プレゼンの準備を行ないます。
第 14 回	「楽しさ」の企画【ミニ PJ. ④】	コンペ形式での「企画発表会」を実施します。
第 15 回	春学期ラップアップ	ミニ演習を行い、春学期の活動を振り返ります。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	秋学期オリエン	秋学期の学習目的、進め方などについて説明します。
第 17 回	創造的なチーム運営【基礎編 ①】	秋学期に活動するチームを編成し、チームごとに活動方針を検討します。
第 18 回	創造的なチーム運営【基礎編 ②】	創造的思考に関するゲーム型演習を実施します。
第 19 回	企画プロデュース物語り【 episode. 2 】	企画プロデュースに携わっている実務家の話を聞きます。
第 20 回	マーケット探索の視点【基礎編 ①】	ビデオを鑑賞し、フィールドワークの基本的考え方を学びます。
第 21 回	マーケット探索の視点【基礎編 ②】	ビデオを鑑賞し、発見を導くための観察方法を学びます。
第 22 回	マーケット探索の視点【基礎編 ③】	ゲーム型演習を行い、発見を導くための観察方法を学びます。
第 23 回	ビジネス企画に挑戦【応用編 ①】	ゲスト企業を招き、課題を提示してもらいます。
第 24 回	ビジネス企画に挑戦【応用編 ②】	提示された課題を整理し、企画の方向性を検討します。
第 25 回	ビジネス企画に挑戦【応用編 ③】	企画案を作成するためのグループ活動を行ないます。
第 26 回	ビジネス企画に挑戦【応用編 ④】	企画案を効果的に伝えるためのプレゼン方法を検討します。
第 27 回	ビジネス企画に挑戦【応用編 ⑤】	作成したプレゼン資料を使い、リハーサルを行ないます。
第 28 回	ビジネス企画に挑戦【応用編 ⑥】	ゲスト企業を招き、コンペ形式での「企画発表会」を実施します。
第 29 回	ビジネス企画に挑戦【応用編 ⑦】	企画作成のプロセスを振り返り、企画作成に何が大切かを検討します。
第 30 回	ラップアップ	一年間の活動を振り返り、２年次以降の活動ビジョンを探ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1）企画作成プロジェクトでは、グループでフィールドワークを実施します。
2）「企画発表会」に向けて、グループでプレゼン準備を進めます。
3）参加体験型学習の「振り返りレポート」を個人で作成します。

【テキスト（教科書）】
特にありません。（適宜、プリント等を配布します。）

【参考書】
『大学生　学びのハンドブック　3 訂版』世界思想社編集部 (編), 世界思想社.
『プレゼンテーション ZEN　第 2 版』 G. レイノルズ, 丸善出版.
『アイデアキャンプ　ー創造する時代の働き方ー』中西泰人ほか, NTT 出版.

【成績評価の方法と基準】
1）出席／授業への参画度：　40 %
2）レポート等の個人課題：　30 %
3）グループ発表／提出物：　30 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
1）参加体験型の学習を通じた「実践力の修得」を目指します。
2）活動の進捗などにより、プログラム構成を変更する場合があります。

【学生が準備すべき機器他】
1）資料作成／発表準備等にパソコンを使用します。
2）情報の収集／交換に情報ネットワークを積極的に使います。

【その他の重要事項】
1）受講希望者が多数の場合には、初回の授業で選考を行ないます。
2）この授業は２年次以降に履修する全ての科目と関連しています。

【長岡研究室ウェブサイト】
http://www.tnlab.net
https://www.facebook.com/nagaoka.lab

入門演習Ⅰ　（2016 年度入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 2 単位　［春学期授業］
入門演習Ⅱ　（2016 年度入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 2 単位　［秋学期授業］
入門演習Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 4 単位　［年間授業］

中田　和秀　教授

※　**原則春学期、秋学期連続で受講してください。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学習は、高校までの勉強とは大きく異なります。内容がより深くなるだけでなく、自身で問題を発見し、解決する能力も求められます。そのためには、高度で複雑な情報を調査し、それらをまとめ、結果を発表する力が必要です。このような大学の学習の基本となるスタディースキルを学ぶことが本授業のテーマです。

【到達目標】
大学の授業で適切にノートをとることができるようになることや、図書館やインターネットを利用して適切な文献・情報が得られるようになることを目標とします。また、得られた情報をレジュメやスライドにまとめ、説得力のある発表ができるようになることを目標とします。

【授業の進め方と方法】
本授業では、まず、ノートのとり方、レポートの書き方、情報機器の操作、および、図書館の利用法について講義・実習をおこないます。その後、学生の希望を取り入れたテーマを設定して、教科書を決定し、その内容に沿って授業を進めていきます。各受講生の担当箇所をあらかじめ指定しますので、受講生には、指定された箇所の調査・まとめを行い、レジュメ・パワーポイントなどを用いて発表してもらいます。その後、全員でディスカッションを行い、より良い学習方法について理解を深めていきます。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	授業計画と学習の仕方について講義をおこなう。
第２回	ノートのとり方	ノートのとり方について講義・実習をおこなう。
第３回	レポートの書き方	レポートの書き方について講義・実習をおこなう。
第４回	情報機器の利用１	情報機器の利用について講義をおこなう。
第５回	情報機器の利用２	情報機器の利用について実習をおこなう。
第６回	図書館の利用１	文献の入手法について講義をおこなう。
第７回	図書館の利用２	文献の入手法について実習をおこなう。
第８回	テーマの決定	調査・発表するテーマと使用する教科書を決定する。
第９回	担当部分の決定	各受講生が調査・発表する部分の決定をおこなう。
第１０回	調査・発表１	調査発表・ディスカッションをおこなう。
第１１回	調査・発表２	調査発表・ディスカッションをおこなう。
第１２回	調査・発表３	調査発表・ディスカッションをおこなう。
第１３回	調査・発表４	調査発表・ディスカッションをおこなう。
第１４回	調査・発表５	調査発表・ディスカッションをおこなう。
第１５回	調査・発表６	調査発表・ディスカッションをおこなう。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第１６回	調査・発表７	調査発表・ディスカッションをおこなう。
第１７回	調査・発表８	調査発表・ディスカッションをおこなう。
第１８回	調査・発表９	調査発表・ディスカッションをおこなう。
第１９回	調査・発表１０	調査発表・ディスカッションをおこなう。
第２０回	調査・発表１１	調査発表・ディスカッションをおこなう。
第２１回	調査・発表１２	調査発表・ディスカッションをおこなう。
第２２回	調査・発表１３	調査発表・ディスカッションをおこなう。
第２３回	調査・発表１４	調査発表・ディスカッションをおこなう。
第２４回	調査・発表１５	調査発表・ディスカッションをおこなう。
第２５回	調査・発表１６	調査発表・ディスカッションをおこなう。
第２６回	調査・発表１７	調査発表・ディスカッションをおこなう。
第２７回	調査・発表１８	調査発表・ディスカッションをおこなう。
第２８回	調査・発表１９	調査発表・ディスカッションをおこなう。
第２９回	調査・発表２０	調査発表・ディスカッションをおこなう。
第３０回	まとめ	本授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できるだけ早い段階で、教科書を通読することをお勧めします。また、授業内容の復習、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を行ってください。

【テキスト（教科書）】
教科書は、授業中に受講生の希望を取り入れて決定しますので、あらかじめ購入する必要はありません。

【参考書】
スタディースキルという観点から、下記書籍をお勧めします。
（1）書名：新版　論文の教室　レポートから卒論まで
　　著者名：戸田山和久
　　出版者名： NHK ブックス
（2）書名：アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門
　　著者名：佐藤望、湯川武、横山千晶、近藤明彦
　　出版者名：慶応義塾大学出版会
（3）書名：大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法
　　著者名：松本茂、河野哲也
　　出版者名：玉川大学出版会

【成績評価の方法と基準】
授業に参加する度合い、授業時の発表やレポートによって評価をおこないます。欠席するときは、欠席届を出してください。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特に無し。

【学生が準備すべき機器他】
自分のパソコンを持ってくることが望ましいが、大学からパソコンを借りることもできます。

【その他の重要事項】
積極的に授業に参加する学生を歓迎します。希望者が多い場合は、受講者数を制限します（20 名程度）。
この授業は、教養科目・専門科目を問わず、全ての授業に関連する入門的な科目です。

入門演習Ⅰ　（2016 年度入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 2 単位　［春学期授業］
入門演習Ⅱ　（2016 年度入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 2 単位　［秋学期授業］
入門演習Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 4 単位　［年間授業］

二階堂　行宣　専任講師

※　**原則春学期、秋学期連続で受講してください。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・大学生として身に付けておくべき基礎的なアカデミック・スキル、特に論理的な文章を「書く」力を涵養します。
・経営学・経済学などに関する文献の読解、ディスカッション、レポート執筆活動を通じて、学問に向き合うための基本的態度を養います。
・今後の大学生活や諸活動を有意義に展開するために、論理的思考力と文章表現力を向上させます。

【到達目標】
・経済学・経営学に関する基礎的な文献を読み、理解することができる。
・アカデミックな調査・研究活動の基礎的なルールを理解する。
・文献を要約し、人前でわかりやすく発表する習慣を身につける。
・身近な経営・経済現象について考え、そこで抱いた疑問点について主体的な調査を行い、建設的な議論ができるようになる。
・自らの思考過程を学問的・論理的な文章として表現し、レポートを完成させることができる。
・以上を通じて、基礎的なアカデミック・スキルを習得し、今後の専門的な学習に備える。

【授業の進め方と方法】
Ⅰ　春学期
・春学期は、基礎的なアカデミック・スキルを獲得するため、テキストの輪読とディスカッションを中心に行います。
・事前にテキストを配布し、それぞれの部分について報告者（グループ）を決めます。
・毎回の担当報告者（グループ）は、レジュメまたはパワーポイントを使って、内容の報告を行います。
・報告の際、担当部分に関連する追加的な調査を求めることがあります。
・担当報告者（グループ）によるプレゼンテーションのあと、参加者全員によるディスカッションを行い、疑問点を解消するとともに、内容についての理解を深めます。
・配布するテキストは、日本および世界のビジネスや、経済学・経営学に関するエッセイ・論文から選びます。
Ⅱ　秋学期
・秋学期は、各参加者（グループ）が興味・関心を持つテーマについて、レポートを執筆・完成させることを目指します。
・各参加者（グループ）は、経済・経営について関心のあるテーマを設定し、主体的に調査を行っていきます。
・各参加者（グループ）は、事前に決めたスケジュールに従い、①選定したテーマの内容とその理由、②調査の中間報告、③調査の最終報告、について、計 3 回程度のプレゼンテーションを行います。
・担当報告者（グループ）によるプレゼンテーションのあと、参加者全員によるディスカッションを行います。
・授業の終了にあたって、調査・研究活動の成果をレポートにまとめ、提出します。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	前期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
2	導入①	参加者の自己紹介を行う。
3	導入②	文献・資料調査の方法について解説する。
4	導入③	アカデミックな調査活動のルールについて解説する。
5	導入④	発表資料の作成とディスカッションの方法について解説する。
6-10	実践①	日本の社会・経済・経営に関するテキストの輪読・報告・議論を行う。
11-15	実践②	海外の社会・経済・経営に関するテキストの輪読・報告・議論を行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	イントロダクション	後期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
17-20	調査報告①	各参加者（グループ）が、自ら設定したレポートのテーマについて報告を行い、全員でディスカッションする。
21-25	調査報告②	各参加者（グループ）が、自らのレポート執筆の進捗状況について中間報告を行い、全員でディスカッションする。
26-30	最終報告	各参加者（グループ）が、自らのレポートの目的・分析視角・結論について最終報告を行い、全員でディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・大学 1 年生のうちに、論理的な文章を「読み、理解し、批判し、書く」作業を体験しておけば、今後の学習や諸活動を行う上での大きな知的基盤となります。
・そのためこの入門演習では、1 年間でレポートを書き上げることを最終目標としています。
・特に秋学期は、参加者自らが主体的に学習を行う場となるため、担当教員は参加者個々の関心に応じて主体的な学習・研究をサポートする役割に徹し、それぞれのペースに介入することはできる限り慎みます。
・したがって、参加者は必要に応じ、授業時間以外の調査活動（他大学・自治体図書館への訪問／企業への調査／インタビュー実施など）を行うことも重要になります。
・参加者の学習をサポートするためであれば、担当教員はあらゆる支援を惜しみません。教員と密にコミュニケーションをとり、積極的に指導・助言を仰いでください。

【テキスト（教科書）】
・必要に応じ、授業中にコピーを配布する。

【参考書】
・個々の興味に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・報告（40 %）＋出席（30 %）＋質問・議論への参加（30 %）。
・出席する際には、積極的に議論に参加してください。
・ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。
・欠席する場合は、理由の如何を問わず必ず事前に連絡してください。
・4 回以上欠席する場合は、評価に大きく関わります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
・主体的な学習を行い、1 年弱の期間内でレポートにまとめ上げることは、大学 1 年生にとってはハードルが高いと感じるかもしれません。
・特に、長い文章を書くことに慣れていない方の場合、負荷が大きくなることになります。
・ただし、昨年度の参加者は全員、最後には優れたレポートを完成させました。「はじめは何をして良いかわからず大変な思いをするが、次第に主体的な学習が楽しくなってきた」「論理的に考え、その思考過程を文章としてアウトプットすることの重要性を学んだ」という声が寄せられました。
・この時期に一度、レポートを書く経験をしてみることは大きな意義があると思います。積極的な学生の参加を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
・発表資料の作成の際は、パソコン（ワードやパワーポイント）を使用してください。
・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【関連科目】
特になし

入門演習Ⅰ　（2016 年度入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 2 単位　［春学期授業］
入門演習Ⅱ　（2016 年度入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 2 単位　［秋学期授業］
入門演習Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 4 単位　［年間授業］

長谷川　翔平　専任講師

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業のテーマは学習スキルとアントレプレナーシップ（起業家精神）の習得である。
大学では，高校での受身的な授業とは異なり，学生が主体的に参加する授業も行われている。例えば，テキストを読んで内容を報告資料にまとめ，発表・議論する。または，企業や課題についての調査を行い，その結果を発表したり，レポートを作成したりする。本授業では，ベンチャー企業経営とアントレプレナーシップを学ぶ過程で，大学での学習に必要なスキルを習得ことを目的とする。特に，課題に対して解決策やアイデアを出し，討論する力は，大学だけでなく，卒業後社会に出てからも必要となる。
学習スキルの習得と同時に，アントレプレナーシップを題材とすることで，受講生にはキャリアの 1 つとしての起業を知ってもらいたい。企業の利益の源泉は，顧客のニーズを満たすことであり，ベンチャー企業は新しいビジネスモデルにより，それを達成している。近年では，インターネット・サービスで多くのベンチャー起業が行われており，インターネットにはビジネスチャンスがまだ多く埋まっている。大きな成功を収めた Google や Facebook も元々は学生アントレプレナーによるベンチャー企業だった。本授業では，起業を成功させるためには何が必要かについて基礎的な知識も学ぶ。

【到達目標】
・文献を読み，簡潔にまとめることができる。
・文献やウェブサイトから必要な情報を見つけることができる。
・調査結果を資料にまとめ，プレゼンテーションできる。
・ディスカッションの基礎を身につける。
・アントレプレナーシップを身につける。

【授業の進め方と方法】
受講者を数人のグループに分け，グループ単位を基本とした授業を行う。各学期の授業内容は以下を予定している。
[春学期]
①テキストの輪読：起業のための入門的な知識について書かれた，アントレプレナーシップに関するテキストの輪読を行う。報告担当に割り当てられたグループは，資料を作成してテキスト内容の要約・発表を行う。
②課題討論：テキスト内容に関連する課題についてグループ内でアイデアを出し合い，討論を行う。その後，意見をまとめて発表する。
[秋学期]
前半：興味のある企業を 1 つ選び，ビジネスモデルや市場におけるポジション等を調査し，発表する。
後半：春学期から学んできたことをもとに，起業を想定して独自の事業計画書を作成し，発表する。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	報告資料の作り方	テキスト 1 章を例に文献の読み方と報告資料の作り方について学ぶ
3	テキスト 2 章	事業機会の発見
4	テキスト 3 章	事業機会の評価
5	テキスト 4 章	ビジネスアイデアの育成
6	テキスト 5 章	収益の仕組み
7	テキスト 6 章	販売場所の決定
8	テキスト 7 章	ライバルとの競争
9	テキスト 8 章	自社の強みの強化
10	テキスト 9 章	事業計画の作成
11	テキスト 10 章	組織づくり
12	テキスト 11 章	資金調達の方法
13	テキスト 12 章	資金管理の方法
14	テキスト 13 章	企業の成長
15	テキスト 14 章	株式公開

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16-20	企業調査報告	興味のある企業のビジネスモデルを調査して発表する
21	事業計画書作成 (1) コンセプト作成	ターゲット顧客や提供する価値などの事業コンセプトを決定する
22	事業計画書作成 (2) 市場分析	市場規模や業界動向などの参入市場に関する調査・分析を行う
23	事業計画書作成 (3) 顧客分析	顧客ニーズや顧客の行動を調査・分析する
24	事業計画書作成 (4) 競合分析	競合他社の調査・比較を行い，差別化すべき点を見つける
25	事業計画書作成 (5) 収支計画	提供価格やコストから 5 年間の収支計画を立てる
26-30	事業計画書報告	作成した事業計画書の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
[春学期]
・あらかじめテキストを読み，内容を理解し，疑問点等は授業で質問できるようにまとめておく。
・報告担当グループは発表資料を用意する。
[秋学期]
・各グループで調査，議論の時間を作り，発表の準備を行う。

【テキスト（教科書）】
忽那憲治他『アントレプレナーシップ入門』有斐閣（2013 年）

【参考書】
必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】
・報告・議論への参加（40 %）
・平常点（60 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業時間内に各グループで活動できる時間を作る。

【学生が準備すべき機器他】
・資料の作成にオフィスソフト（Word や PowerPoint）が必要
・発表時にパソコンとプロジェクタの利用が可能

【その他の重要事項】
[関連科目]
すべての基礎になる科目

入門演習Ⅰ　（2016 年度入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 2 単位　［春学期授業］

入門演習Ⅱ　（2016 年度入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 2 単位　［秋学期授業］

入門演習Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 4 単位　［年間授業］

宮澤　信二郎　准教授

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として，経営学部生として，どのような姿勢で，何を学べばよいのでしょうか。Ⅰでは，悔いのない大学生活を送れるようにするために，これらの点について考えて，一緒に考えます。また，経済の仕組みや経営の諸問題に関して，自分たちの頭で考えます。さらに，自分たちの考えを発表したり，他人の考えに対してコメントしたりする方法について，実践的に学びます。

Ⅱでは，相手がいる状況での人々の行動を読み解くための有力なツールである「ゲーム理論」について，そのエッセンスと具体的な事例を多く紹介しているテキストを輪読し，その内容を学びます。併せて，Ⅰに引き続いて，自分たちの考えを発表したり，他人の考えに対してコメントしたりする方法について，実践的に学びます。

【到達目標】

この授業の目標は以下のような点です。
1）大学生としてどのような姿勢で何を学ぶべきかを自覚し，実践する
2）経済の仕組みや経営の諸問題について把握する
3）関心があるテーマについて，どのような議論があるか整理した上で，自分なりの意見を持ち，それを発表できる
4）他人の考えに対して建設的な意見を述べることができる
5）ゲーム理論の考え方のエッセンスについて理解し，身近な問題について当てはめて考えてみることができる

【授業の進め方と方法】

Ⅰでは，基本的に，与えられたテーマについて，議論をしてグループ内の意見をまとめる，グループによる発表を行ったうえで全体で議論するという流れで進めていきます。一部のテーマについて担当教員が講義をすることもありますが，その際にも，積極的な発言が求められます。
Ⅱでは，基本的に，テキストを輪読します。参加者は担当になった箇所について，スライドを作成した上で，それを用いて報告することが求められます。また，担当になっていない箇所についても，テキストをよく読んだ上で，報告に対して建設的なコメントをすることが求められます。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1 回	「大学生」を始めるために	授業の内容，全体の流れについて説明します。
2 回	自己紹介をしよう	参加者全員が自己紹介をした上で，自己紹介の仕方について考えてみます。
3 回	大学生とは？（グループディスカッション）	グループに分かれて，「大学生とは高校生・社会人と比べてどのような点で違うのか」，「大学生活はどのような心構えで過ごさなくてはいけないのか」，などについて議論します。
4 回	大学生とは？（発表・検討）	前回の議論の成果を，グループごとにまとめて，発表します。また，他のグループの発表に対して質問します。最後にクラス全体の考えをまとめます。
5 回	アカデミック・スキルズ／講義の受け方	大学の講義の受け方について学びます。また，スライドを使ったプレゼンテーションの仕方につて学びます。
6 回	図書館の使い方	法政大学図書館の図書館ツアーを利用して，図書館の活用法について学びます。
7 回	新聞を読もう！（グループディスカッション）	グループごとに分かれて，「新聞はどのような構成になっているのか」，「経営学部生として新聞をどのように活用していけばよいのか」などについて議論します。
8 回	新聞を読もう！（発表・検討）	前回の議論の成果を発表した後，全員で議論します。
9 回	経済とは？ 経営とは？（グループディスカッション）	グループごとに分かれて，経済の仕組みや経営の諸問題について，議論します。
10 回	経済とは？ 経営とは？（発表・検討）	前回の議論の成果を発表した後，全員で議論します。
11 回	批判的に読む！	テキストを批判的な読み方について学びます。さらに，日本経済新聞（朝刊）の社説を素材として，批判的な読み方の実践を行います。
12 回	大学で何を学ぶか？（グループディスカッション）	グループごとに分かれて，大学４年間でどのようなことを学ぶべきなのかについて議論します。
13 回	大学で何を学ぶか？（発表・検討）	前回の議論の成果を発表した後，全員で議論します。
14 回	テーマを見つけよう！	グループごとに分かれて，夏休みの課題のテーマを決めます。
15 回	何を読んだらよいか？	グループごとに分かれて，前回に決めたテーマを学習するために読むべき課題図書を選び，割当てを行います。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16 回	夏休みの成果は何だろう？ 反省すべき点は何だろう？	参加者全員が，自らの夏休みについて振り返り，成果と反省点について発表し，この後の大学生活をより充実したものとする方法について全員で議論します。
17 回	レポートを批評しよう	他の参加者による夏休みの課題レポートについて批評を行い，より良いレポートにするための方法について全員で議論します。
18～29 回	テキスト『戦略的思考をどう実践するか』（2～13 章）を読もう	事前に割り当てられた担当者がテキストの内容について報告し，それを受けて，参加者全員で議論します。1 回に 1 章のペースで進む予定です。
30 回	今後の学習に向けて	授業全体を振り返った上で，来年度以降の学習にどのように生かしていくかなどについて参加者全員で議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1）グループディスカッションのテーマについては，事前に，自ら考えたり調べたりして，論点をピックアップしておきます。
2）個人あるいはグループによる発表の前には発表の準備（レジュメ・スライドの作成など）をします。
3）春学期中に学生による論文（法政大学懸賞論文の中から選択）を 1 本読み，レポートを作成します。
4）夏休み中に課題図書を 1 冊（あるいは 2 冊）読み，レポートを作成します。
5）秋学期中は，全員が事前に教科書を読みます。教科書 1 章は 2 章を読む前に各自で読みます。

【テキスト（教科書）】

春学期はテキストを使用しません。
秋学期は以下のテキストを使用します。
ディキシット＝ネイルバフ（嶋津＝池村訳）『戦略的思考をどう実践するか』阪急コミュニケーションズ（2010 年）

【参考書】

春学期の参考書は以下のものになります。
佐藤編著『アカデミック・スキルズ―大学生のための知的技法入門（第 2 版）』慶応義塾大学出版会（2012 年）
秋学期の参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

春学期は，平常点（70 %）と懸賞論文に関するレポート（30 %）で評価します。
秋学期は，平常点（70 %）と夏休みの課題図書に関するレポート（30 %）で評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

初めて担当しますので，参加者の状況によって進め方などを適宜調整することにします。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン，タブレット，ノートＰＣなどの情報機器を何か用意してください。

【その他の重要事項】

1）毎回出席することを前提として進めます。やむを得ない事情で欠席する場合には，必ず事前に連絡するようにしてください。無断の場合は 2 回以上，事情がある場合でも 3 回以上欠席した場合には単位を出しませんので十分に注意してください。
いくつかのグループに分かれて活動をすることを予定していますが，参加者の人数によっては，変更する場合があります。
2）Ⅰ（春学期）とⅡ（秋学期）を合わせて履修するようにしてください。万一，秋学期の未履修することを希望する場合，夏休み前までに，別途指定されるオフィスアワーに訪れるなどして，担当教員まで連絡するようにしてください。
3）議論を深めるため，専門基礎科目（A 群）の各科目と市ヶ谷基礎科目にある「マクロ経済学」などを同時に履修することをお勧めします。なお，初回の授業の際に履修に関するアドバイスをしますので参考にしてください。
4）日本経済新聞の朝刊を利用する回があります。当日は各自で新聞を用意してください。また，それ以外の日も新聞を読むようにしてください。

入門演習Ⅰ　（2016 年度入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 2 単位　［春学期授業］
入門演習Ⅱ　（2016 年度入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 2 単位　［秋学期授業］
入門演習Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 4 単位　［年間授業］

山嵜　輝　教授

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、大学での学びで必要な基本スキルを身に付けることがテーマです。大学では「自分で筋道を立てて論理的に考える」ことや「自分の考えを文章や言葉で正確に伝える」ことが重要になります。少人数の双方向型授業によって、こうしたスキルを習得する機会を提供します。また、グループ演習を実施することでコミュニケーション・スキルや協調性を鍛え、チームとしての知識集約やプレゼンテーションの方法を学びます。

【到達目標】
次の３つを到達目標に掲げます。
①物事に対して自分で道筋を立てて論理的に考えることができる。
②自分の考えを文章（レポート）や言葉（プレゼンテーション）で正確に伝えることができる。
③グループ演習の中で自分の役割を果たし、チームとして知識集約やプレゼンテーションができる。

【授業の進め方と方法】
本演習は 3 つの内容に取り組みます。1 つ目は「大学生の学びの基本スキル」を知ることです。テキストの読み方、レポートの書き方、発表資料の作り方、口頭発表のやり方などについての一般スキルを学びます。2 つ目はテキストの輪読です。一般スキルで学んだやり方に基づいて、テキストを読み、発表資料を作成し、口頭発表を行います。輪読の指定テキスト②は株式や外国為替など金融市場に関する初心者向けの入門書です。レポートの課題にも取り組んでもらいます。3 つ目はグループ演習です。チームで課題に取り組むことで、個々人が協力しあいながらチームとして知識や知恵を集約し、情報発信するプロセスを学びます。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第 2 回	自己紹介	自己紹介による自分自身のプレゼンテーション
第 3 回	テキストの読み方	大学の教科書をどのようにして読むのかを学びます。
第 4 回	レポートの書き方	レポート作成の作法（引用と剽窃の違い、参考文献など）を学びます。
第 5 回	発表資料の作り方	効果的なプレゼンテーション資料の作成方法を学びます。
第 6 回	口頭発表のやり方	説得力のあるプレゼンテーションの方法を学びます。
第 7 回	テキスト②の輪読	金融市場・株式市場１（金融市場とは、市場の機能、金融商品）
第 8 回	テキスト②の輪読	金融市場・株式市場２（株式会社とは、株式市場とは）
第 9 回	テキスト②の輪読	金利、債券、外国為替の仕組み１（金利と債券、社債と格付け）
第 10 回	テキスト②の輪読	金利、債券、外国為替の仕組み２（外国為替市場とは、為替レートの理論）
第 11 回	テキスト②の輪読	企業や株式の価値はこうして測る１（IRR と NPV、理論株価）
第 12 回	テキスト②の輪読	企業や株式の価値はこうして測る２（PER と PBR、EV とは）
第 13 回	テキスト②の輪読	企業や株式の価値はこうして測る３（モジリアニ＝ミラーの定理）
第 14 回	経済ニュースに関する討論	日本経済新聞などの記事を題材にしたディスカッションその１
第 15 回	経済ニュースに関する討論	日本経済新聞などの記事を題材にしたディスカッションその２

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	テキスト②の輪読	デリバティブと裁定取引の原理１（先物取引とは、裁定取引とは）
第 17 回	テキスト②の輪読	デリバティブと裁定取引の原理１（裁定取引の実例、ヘッジファンドとは）
第 18 回	テキスト②の輪読	市場の変動１（リスクとは何か、リスクの種類）
第 19 回	テキスト②の輪読	市場の変動２（分散投資の効果、リスクの概念整理）
第 20 回	テキスト②の輪読	リスクとリターン１（リスク対比リターン、アルファとベータ）
第 21 回	テキスト②の輪読	リスクとリターン２（アクティブとパッシブ、代替投資手法）
第 22 回	テキスト②の輪読	最適な資産配分とは１（リスク許容度、有効フロンティア）
第 23 回	テキスト②の輪読	最適な資産配分とは２（CAPM、アセットアロケーション）
第 24 回	経済ニュースに関する討論	日本経済新聞などの記事を題材にしたディスカッションその３
第 25 回	経済ニュースに関する討論	日本経済新聞などの記事を題材にしたディスカッションその４
第 26 回	グループ演習	課題となる DVD（サブプライム危機に関するドキュメンタリー映画）の視聴
第 27 回	グループ演習	金融危機回避のための提言検討１（チーム内ディスカッション）
第 28 回	グループ演習	金融危機回避のための提言検討２（プレゼンテーション資料の共同作成）
第 29 回	グループ演習	チームによるプレゼンテーションの実施と討論
第 30 回	これからの学び	大学での学びと社会人になってからの学びについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のための資料（レジュメやプレゼン資料）の準備が必須です。さらにレポートの課題に取り組む必要があります。

【テキスト（教科書）】
①佐藤望他、『アカデミック・スキルズ（第２版）大学生のための知的技法入門』、2012 年、慶應義塾大学出版会
②永野学、『図解　いちばん面白いファイナンス理論入門』、2006 年、東洋経済新報社

【参考書】
①世界思想社編、『大学生 学びのハンドブック〔改訂版〕』、2011 年、世界思想社
②佐藤智明他、『大学 学びのことはじめ　初年次セミナーワークブック』、2014 年、ナカニシヤ出版
③石井一成、『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』、2011 年、ナツメ社

【成績評価の方法と基準】
発表（40 %）、課題（30 %）、平常点（30 %）
発表と課題の提出は必須で単位修得の必要条件となります。レポートやプレゼンテーションは内容はもちろんのこと、レポートや発表資料の書式、プレゼンテーション技術も評価の対象になります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
グループ演習でチーム内の作業時間を十分に確保するように努めます。

【学生が準備すべき機器他】
レポートや発表用のレジュメ、プレゼン資料は PC（Word、PowerPoint など）を利用して作成して下さい。

【その他の重要事項】
演習形式の授業を行うので、定員は 20 名程度を予定しています。履修希望者が多い場合には初回授業で選抜試験を行うので、初回授業は必ず出席してください。選抜試験では主に入門演習に対する学習意欲の高さで合否を判定します。

【関連科目】
経営学総論Ⅰ・Ⅱ、簿記入門Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ、情報科学実習Ⅰ・Ⅱ

入門演習Ⅰ　（2016 年度入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 2 単位　［春学期授業］
入門演習Ⅱ　（2016 年度入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 2 単位　［秋学期授業］
入門演習Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　選択＜演習＞　1 年次／ 4 単位　［年間授業］

横山　斉理　教授

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
レポートの書き方、プレゼンテーションのしかた、グループディスカッションのしかたなど、大学での学習において必要となる基本スキルを学びます。

【到達目標】
①専門書や新聞・雑誌記事を読み、それをわかりやすくレポートにまとめる力をつけます。
②プレゼンテーションにより自分の考えをわかりやすく伝える方法を学びます。
③グループディスカッションを通じて、チームの考えを取りまとめる方法を学びます。

【授業の進め方と方法】
授業はほぼすべて演習形式で進めます。レポート作成は個人で、グループディスカッションやフィールドワークは少人数のグループで、それぞれ行います。グループディスカッションのテーマは教員が指定しますが、レポートやフィールドワークのテーマは受講生自身で決めてもらいます。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	春学期オリエンテーション	春学期の演習の概要を説明する
2	グループディスカッション①	特定のテーマについてグループでディスカッションする
3	グループディスカッション②	同上
4	グループディスカッション③	同上
5	レポート作成①	レポートとは何かを学んだ上で、テーマを設定する
6	レポート作成②	資料収集を収集し、レポートを書き進める
7	レポート作成③	同上
8	レポート作成④	同上
9	レポート作成⑤	同上
10	レポート作成⑥	同上
11	発表①	レポートの内容を発表する
12	発表②	同上
13	発表③	同上
14	発表④	同上
15	春学期の総括	これまでの学びを振り返り総括

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	秋学期オリエンテーション	秋学期の演習概要を説明する
17	フィールドワーク①	グループ単位でフィールドワークのテーマを設定する
18	フィールドワーク②	フィールドワークを実施する
19	フィールドワーク③	同上
20	フィールドワーク④	同上
21	フィールドワーク⑤	同上
22	データセッション①	フィールドワークから得られたデータから何が分かるかを議論する
23	データセッション②	同上
24	データセッション③	同上
25	データセッション④	同上
26	データセッション⑤	同上
27	データセッション⑥	同上
28	発表①	フィールドワークの内容・発見事項を発表する
29	発表②	同上
30	秋学期の総括	これまでの学びを振り返り総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート作成は事前準備などが必要です。グループディスカッションとフィールドワークはできるだけ授業内で完結するように運営します。

【テキスト（教科書）】
適宜、指定します。

【参考書】
適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】
レポート&発表 30%
フィールドワーク&発表 30%
授業への積極的な参画&平常点 40%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
できるだけ楽しく学べるようにします。受講生の状況により、内容を適宜調整します。

【学生が準備すべき機器他】
グループワークでは、グループに 1 台くらいはノートパソコンやタブレットがあると便利です。

【その他の重要事項】
他に履修しておくべき関連科目は特にありません。積極的な姿勢で取り組むようにしてください。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］

演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

安藤　直紀　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は国際企業戦略をテーマとします。特に、新興市場への参入とそこでの競争戦略が中心的なテーマになります。学生は、企業がどのように外国市場に参入し、現地のライバル企業と競争し、競争優位を獲得するのかを、調査や議論を通して学びます。

【到達目標】
学生は、国際企業戦略に関する理論を習得します。
外国で企業がとる戦略に関する理解を深めます。
企業が外国で直面するビジネス環境、特に新興経済に関する理解を深めます。
社会科学の調査方法を習得します。
ディスカッションする能力、調査する能力、論理的に考察する能力、プレゼンテーションする能力を向上させます。
自ら問題を設定し、企業を調査、分析できるようになります。

【授業の進め方と方法】
グループによるディスカッションを中心に演習を進めます。設定された大きいテーマのもとで、各グループが具体的なテーマ設定をします。それについて調査し、考察し、議論し、そして成果をプレゼンテーションします。
グループによる研究のほか、４年生は個人研究を行います。個人研究については、中間発表および最終発表をします。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	講義概要	講義概要とオリエンテーション
2	グループ研究①（１）	グループ研究のテーマ設定
3	方法論	社会科学の研究方法
4	グループ研究①（２）	研究テーマに関する文献調査（１）
5	グループ研究①（３）	研究テーマに関する文献調査（２）
6	ケース・スタディ（１）	企業の事例研究（１）
7	グループ研究①（４）	研究テーマに関する資料収集（１）
8	グループ研究①（５）	研究テーマに関する資料収集（２）
9	グループ研究①（６）	これまでの調査をもとにした考察（１）
１０	グループ研究①（７）	これまでの調査をもとにした考察（２）
１１	グループ研究①（８）	研究発表の準備
１２	グループ研究①（９）	研究発表
１３	グループ研究②（１）	新しいグループ研究のテーマ設定
１４	第１回中間発表（１）	個人研究の第１回中間発表（１）
１５	第１回中間発表（２）	個人研究の第１回中間発表（２）
1	第２回中間発表（１）	個人研究の第２回中間発表（１）
2	第２回中間発表（２）	個人研究の第２回中間発表（２）
3	グループ研究②（２）	研究テーマに関する文献調査（１）
4	グループ研究②（３）	研究テーマに関する文献調査（２）
5	ケース・スタディ（２）	企業の事例研究（２）
6	グループ研究②（４）	研究テーマに関する資料収集（１）
7	グループ研究②（５）	研究テーマに関する資料収集（２）
8	グループ研究②（６）	これまでの調査をもとにした考察（１）
9	グループ研究②（７）	これまでの調査をもとにした考察（２）
１０	グループ研究②（８）	これまでの調査をもとにした考察（３）
１１	グループ研究②（９）	研究発表の準備
１２	グループ研究②（10）	研究発表
１３	研究最終発表（１）	個人研究の最終発表（１）
１４	研究最終発表（２）	個人研究の最終発表（２）
１５	研究テーマ発表	次年度に取り組む個人研究テーマの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期
１－２回：グループ研究のテーマを考える
３回：社会科学の研究方法について調べる
４－５回：グループで研究テーマに関連した文献を調べる
６回：ケースとして扱う企業を調べる
７－８回：グループで研究テーマに関連した資料を収集する
９－１０回：これまでの調査をもとに、グループで議論する
１１－１２回：グループで研究発表の準備をする
１３回：新しいグループ研究のテーマを考える
１４－１５回：個人研究の中間発表の準備をする
秋学期
１－２回：個人研究の中間発表の準備をする
３－４回：グループで研究テーマに関連した文献を調べる
５回：ケースとして扱う企業を調べる
６－７回：グループで研究テーマに関連した資料を収集する
８－１０回：これまでの調査をもとに、グループで議論する
１１－１２回：グループで研究発表の準備をする
１３－１４回：個人研究の最終発表の準備をする
１５回：次年度に取り組む個人研究のテーマを考える

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。読む必要がある文献に関しては、講義内に指示します。

【参考書】
浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003 年
高根正昭（１９７９）　創造の方法学　講談社現代新書
その他参考文献に関しては、講義内に指示します。

【成績評価の方法と基準】
クラスへの貢献を 70 %、グループまたは個人によるレポートを 30 %として評価します。クラスへの貢献とは、クラスでの調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどです。出席しているだけでは、クラスへの貢献にはならないことを理解して臨んでください。レポートについては、設定したテーマについてどれだけ深い思考ができているかを重視して評価します。文献に書かれていることを整理しただけでは高い評価になりません。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
国際企業戦略を考えるために必要な理論、企業研究をするために必要な調査方法に関して議論する時間を増やします。

【その他の重要事項】
国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱを履修することが望ましいと思います。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］

演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

池田　宏一郎　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
一般に〈数学〉を身につけるためには，下から積み上げていくような学習が必要な場合が多く，多くの学生が目標に達する前に力尽きてしまうのが現状です。そこで本ゼミでは，まずみなさんにそれぞれ興味をもっているテーマをひとつ決めてもらい，そしてそのテーマに最小限度必要な〈数学〉をグループ単位で学習し，最後に個々に自分のテーマを理解する，という「一点豪華主義」のスタイルをとります。どんなに狭い分野でも，その分野を深く掘り下げたという体験は，みなさんにとって貴重な経験になるはずです。

【到達目標】
〈数学〉は，自然現象のみならず，様々な社会現象を記述する上で非常に有効な道具です。本ゼミでは，みなさんがそれぞれ必要と考えている〈数学〉を身につけてもらうのが目標です。

【授業の進め方と方法】
個人あるいはグループで選んだテキストを使って，誰かが毎回発表を行います。また発表者がその場で考える問題を用意するなどして，全員で考えたり話し合う時間を作ります。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマの選択	進級および卒業論文のテーマを選ぶ.
第 2 回	テーマの選択	進級および卒業論文のテーマを選ぶ.
第 3 回	テーマの選択	進級および卒業論文のテーマを選ぶ.
第 4 回	達成目標の設定	選んだテーマに対して，その具体的目標を中間目標を含めて設定する.
第 5 回	達成目標の設定	選んだテーマに対して，その具体的目標を中間目標を含めて設定する.
第 6 回	達成目標の設定	選んだテーマに対して，その具体的目標を中間目標を含めて設定する.
第 7 回	基本事項の確認	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い，共通する事項があればグループを作って学習する.
第 8 回	基本事項の確認	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い，共通する事項があればグループを作って学習する.
第 9 回	基本事項の確認	自分の目標に必要な知識としてなにが必要かを話し合い，共通する事項があればグループを作って学習する.
第 10 回	目標の達成	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し，お互いに検討する.
第 11 回	目標の達成	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し，お互いに検討する.
第 12 回	目標の達成	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し，お互いに検討する.
第 13 回	中間発表	各自，得られた結果を発表し，最初に設定した目標と比較する.
第 14 回	中間発表	各自，得られた結果を発表し，最初に設定した目標と比較する.
第 15 回	中間発表	各自，得られた結果を発表し，最初に設定した目標と比較する.
第 16 回	春学期の復習	春学期に得られた結果をお互いに検討する.
第 17 回	春学期の復習	春学期に得られた結果をお互いに検討する.
第 18 回	春学期の復習	春学期に得られた結果をお互いに検討する.
第 19 回	最終達成目標の設定	春学期に設定した目標が達成された場合には新たな目標を設定し，そうでない場合には目標の修正なども含め各自検討する.
第 20 回	最終達成目標の設定	春学期に設定した目標が達成された場合には新たな目標を設定し，そうでない場合には目標の修正なども含め各自検討する.
第 21 回	最終達成目標の設定	春学期に設定した目標が達成された場合には新たな目標を設定し，そうでない場合には目標の修正なども含め各自検討する.
第 22 回	レポート作成の経過発表	進級および卒業論文の経過をレポートにまとめ，問題点などを洗い出す.
第 23 回	レポート作成の経過発表	進級および卒業論文の経過をレポートにまとめ，問題点などを洗い出す.
第 24 回	レポート作成の経過発表	進級および卒業論文の経過をレポートにまとめ，問題点などを洗い出す.
第 25 回	最終目標の達成	最終目標に達成するために，必要ならばグループを作り，お互いに問題点などを検討する.
第 26 回	最終目標の達成	最終目標に達成するために，必要ならばグループを作り，お互いに問題点などを検討する.
第 27 回	最終目標の達成	最終目標に達成するために，必要ならばグループを作り，お互いに問題点などを検討する.
第 28 回	最終発表	最後に得られた結果を発表し，進級および卒業論文としてまとめる.
第 29 回	最終発表	最後に得られた結果を発表し，進級および卒業論文としてまとめる.
第 30 回	最終発表	最後に得られた結果を発表し，進級および卒業論文としてまとめる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の選んだテーマに関するテキスト・参考書を読み進め，自分がわからないところがどこかを明確にしておいてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は特にありません．毎回，プリントを配布するなどして授業を進めていきます．最初の授業で１年間で学びたいテーマをいくつか選んで，各テーマに応じてテキストを選びます.

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点６０％，進級および卒業論文４０％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
双方向の授業になるよう心がけます。

【その他の重要事項】
関連科目：「数学、情報を読むためにⅠ/Ⅱ」（あるいは「教養数学 A・B」），「確率・統計」，「基礎数学 I/II」

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］

演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

稲垣　京輔　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習のテーマは、ベンチャー企業や中小企業の経営者の行動、企業家活動について理解を深め、経営現象に関する知識を幅広く身につけるように理論武装することです。実際にフィールドに出て調査をおこなう方法についても学びます。

【到達目標】
単なる知識の詰め込みではなく、考える訓練を身につけることで、議論の作法、論文のまとめ方、プレゼンなど発信能力を鍛えます。

【授業の進め方と方法】
前半は、組織論・戦略論に基づく基礎文献と質的調査方法に関する文献を講読し、個人の関心に従ってグループ毎に研究テーマを設定します。この段階では、経営現象における問題意識を養い、フィールドワークにおけるテーマと切り口を見つけます。
後半は、論理的にグループ研究を組み立てていく作業がメインとなります。実際にフィールドに出て調査をおこない、研究成果についてはインゼミなどで報告し、また論文にまとめる予定です。実際のゼミにおいては、討論をしながら、個々のグループの研究をブラッシュアップしていく作業が中心となります。必要に応じて、テキストの輪読などはサブゼミなどを活用してグループ毎におこないます。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
イントロダクション	グルーピング	3 年生のグループワークへの新入生の参加。 自己紹介
文献講読／研究テーマの選定	テーマ選定の模索 参考文献の紹介 資料の検索方法	ケースレビュー
文献講読／研究テーマの選定	質的調査法の習得	調査／研究方法についての学習
文献講読／研究テーマの選定	質的調査法の習得	調査／研究方法についての学習
文献講読／研究テーマの選定	質的調査法の習得	調査／研究方法についての学習
文献講読／研究テーマの選定	質的調査法の習得	調査／研究方法についての学習
文献講読／研究中間報告	組織論・戦略論・企業家活動に関する文献講読	中間報告：研究テーマの確立と研究計画の策定 課題文献の読み込み
文献講読／研究中間報告	組織論・戦略論・企業家活動に関する文献講読	中間報告：研究テーマの確立と研究計画の策定 課題文献の読み込み
文献講読／研究中間報告	組織論・戦略論・企業家活動に関する文献講読	中間報告：研究テーマの確立と研究計画の策定 課題文献の読み込み
文献講読／研究中間報告	組織論・戦略論・企業家活動に関する文献講読	中間報告：研究テーマの確立と研究計画の策定 課題文献の読み込み
文献講読／研究中間報告	組織論・戦略論・企業家活動に関する文献講読	中間報告：調査計画の策定と方法論の確立
文献講読／研究中間報告	組織論・戦略論・企業家活動に関する文献講読	中間報告：調査計画の策定と方法論の確立
文献講読／研究中間報告	組織論・戦略論・企業家活動に関する文献講読	中間報告：調査計画の策定と方法論の確立
文献講読／研究中間報告	組織論・戦略論・企業家活動に関する文献講読	中間報告：調査計画の策定と方法論の確立
文献講読／研究中間報告	組織論・戦略論・企業家活動に関する文献講読	まとめ
文献講読／研究中間報告	ベンチャー企業論に関する文献講読	中間報告：ヒアリング調査の結果報告 経営者の企業家活動の分析
文献講読／研究中間報告	ベンチャー企業論に関する文献講読	中間報告：ヒアリング調査の結果報告 経営者の企業家活動の分析
文献講読／研究中間報告	ベンチャー企業論に関する文献講読	中間報告：ヒアリング調査の結果報告 経営者の企業家活動の分析
文献講読／研究中間報告	ベンチャー企業論に関する文献講読	中間報告：ヒアリング調査の結果報告 経営者の企業家活動の分析
文献講読／研究中間報告	ベンチャー企業論に関する文献講読	卒業研究中間報告第 1 回
文献講読／研究中間報告	ベンチャー企業論に関する文献講読	卒業研究中間報告第 1 回
文献講読／研究中間報告	ベンチャー企業論に関する文献講読	インゼミプレ報告
文献講読／研究中間報告	ベンチャー企業論に関する文献講読	インゼミプレ報告
インターゼミ１	研究報告	他大学経営学系ゼミとの交流
文献講読／研究中間報告	ベンチャー企業論に関する文献講読	卒業研究中間報告第 2 回
文献講読／研究中間報告	ベンチャー企業論に関する文献講読	卒業研究中間報告第 2 回
文献講読／研究中間報告	ベンチャー企業論に関する文献講読	インゼミプレ報告
文献講読／研究中間報告	ベンチャー企業論に関する文献講読	インゼミプレ報告
インターゼミ２	研究報告	他大学経営学系ゼミとの交流
グループ研究総括	ゼミ報告のレビュー	卒業研究最終報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
サブゼミで、各グループのテーマに即したテキストを指定し、グループ毎に輪読する勉強会を開催。
その他、夏合宿では、4 年生の卒業研究の構想について報告会を開催予定。

【テキスト（教科書）】
初回のゼミで、お知らせします。

【参考書】
グループのテーマ毎に適宜、読むべき文献を指示します。

【成績評価の方法と基準】
出席は当たり前： 0 %（逆に 3 回以上の欠席から減点）
自ら勉強し、内容の濃い報告に対する評価： 30 %
報告技術の向上に対する評価： 30 %
ゼミへのコミットメント： 40 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
個人の発信能力の高いゼミにしていくために、報告の機会を増やし、インゼミや経営者との交流など学外との連携を強化したい。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクター

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
中小企業論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］

演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

稲垣　保弘　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織活動とそのマネジメントについての知識を身につけて、組織現象を理解し、実際の組織活動に活かせるようにする。
この過程で論理的思考力を高めるとともに発想力も高める。
経営関係の英語文献をある程度理解できるようにする。

【到達目標】
テーマについて、出来るだけ能力向上を目指す。

【授業の進め方と方法】
テキスト、論文等を分担して発表してもらう。
夏期合宿では、ケーススタディを発表してもらう。
英語文献に関しては、専門用語を中心にこちらで解説していく。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方についての説明
2	経営学についての基本的な文献の検討Ⅰ。経営に関する専門用語を含む英文についての解説。	経営学についての知識、思考方法を身につけるために、基本的な文献を検討する。経営関係の英文でよく使われる専門用語をマスターする。
3	経営学についての基本的な文献の検討Ⅱ	組織やマネジメントについての基本的な理解を深める。
4	経営学についての基本的な文献の検討Ⅲ	前回の継続。
5	経営学についての基本的な文献の検討Ⅳ	前回の継続。
6	経営学についての基本的な文献の検討Ⅴ	前回の継続。
7	事例研究についての発表Ⅰ	ゼミ生が興味のある企業や業界について調べて発表する。
8	事例研究の発表Ⅱ	他の発表者による前回の継続。
9	事例研究の発表Ⅲ	他の発表者による前回の継続。
10	事例研究の発表Ⅳ	他の発表者による前回の継続。
11	事例研究の発表Ⅴ	他の発表者による前回の継続。
12	最新の経営の論文で、易しいものを検討Ⅰ	組織とマネジメントについての新しい知識の習得。
13	最新の経営の論文で、易しいものを検討Ⅱ	前回の継続。
14	最新の経営の論文で、易しいものを検討Ⅲ	前回の継続。
15	最新の経営の論文で、易しいものを検討Ⅳ	前回の継続。
1	夏期合宿での内容の再検討Ⅰ	夏期合宿でやった内容の補足、検討など。
2	夏期合宿での内容の再検討Ⅱ	前回の継続。
3	実践的（ハウツー的）な論文の検討。英語で経営関係の新聞記事、雑誌記事、欧米のテキストを読む。	理論とハウツーの中間レベルで知識を増やす。英語の読解力と知識をつける。
4	前回の継続。	前回の継続。
5	前回の継続。	前回の継続。
6	前回の継続。	前回の継続。
7	前回の継続。	前回の継続。
8	やや難しい経営関係の論文を検討する。	ゼミ生が発表し、ディスカッションを行う。
9	前回の継続。	前回の継続。
10	さらにレベルを上げて前回の継続。	ディスカッションの質を高める。
11	前回の継続。	前回の継続。
12	前回の継続。	前回の継続。
13	前回の継続。	前回の継続。
14	まとめ。	内容のまとめと関連する文献の紹介。
15	まとめ。	内容のまとめと関連する文献についての講義。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
どのように準備学習をすべきかは、毎回指示します。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示します。論文については、印刷して配布します。

【参考書】
テーマごとに必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
2・3 年生はゼミでの発表、4 年生は卒業論文にもとづいて行います。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
まだアンケート結果が出ていないため、コメントできなかった。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善を試みたい。

【その他の重要事項】
関連科目：経営管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］

演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

大木　良子　准教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論や経営の経済学と呼ばれる分野について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論との関連を議論できるようになる。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつけていく。

【到達目標】
ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方との違いを明確にすることで、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。
考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き伝えるプロセスを確立する。

【授業の進め方と方法】
ゼミではテキストの輪読、要約レポートの読み比べ、ケーススタディの執筆を行う。加えて、4 年生は卒業論文作成を行う。
輪読：受講者と相談した上で、応用ミクロ経済学に関連するテキストやテーマを選び、毎回、テキストの各章を担当者を決めて輪読する。担当者は、そのトピックについて講師として授業を行う。そのために必要なレジュメなど発表の準備をする。このとき、どのようにプレゼンテーションを行えばゼミの参加者が理解しやすいか、工夫することも重要になる。担当者以外は、その章を事前に読み、一人 1 つ必ず質問を考え、授業開始時に提出すること。
要約レポートの読み比べ：各自が選んだテキストの章について 500-1000 字程度の要約を提出し、全員でそのテーマについて議論する。加えて、要約として優れている点を指摘しあう。要約執筆を通して客観的で簡潔な文章を書くことに慣れる。
ケーススタディの執筆：関心が近い人とグループをつくり、産業組織論のトピックを応用できるような市場、企業、ビジネスモデルについてケーススタディを執筆する。分析ツールとして産業組織論やゲーム理論を用いる。ケーススタディの執筆を通じて卒業論文のテーマを決めることに役立てる。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	候補の中から輪読するテキストを決定する。報告の具体的なひな形を説明し、報告の順番を決める。
2-7	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	前半ではテキスト 1 について担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。後半では、テキスト 2 について、担当者が要約を配り、全体で議論、要約批評を行う。
8	卒業論文中間報告会 1	4 年生による卒業論文の中間報告会
9-13	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	前半ではテキスト 1 について担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。後半では、テキスト 2 について、担当者が要約を配り、全体で議論、要約批評を行う。
15	秋学期ケーススタディーテーマに関するディスカッション	各自の関心に基づき、テーマを発表し、研究対象を絞り込む
16	ケーススタディ執筆計画の発表	ケーススタディ執筆にあたり、研究テーマの内容を確認し、重要な文献リストを作成する。
17	卒業論文中間報告 2	4 年生による卒業論文の中間報告会
18-20	参考文献に関する報告	研究計画で挙げられた重要文献のうち、何人かの関心が重なるものについて内容をまとめて報告する
21	ケーススタディ中間報告会	ケーススタディの中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
23-27	参考文献に関する報告	研究計画で挙げられた重要文献のうち、何人かの関心が重なるものについて内容をまとめて報告する
28-29	ケーススタディ最終報告	ケーススタディの最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
30	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。
運営はなるべく参加者に委ねます。何を勉強したいのか、何を明らかにしたいか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。
事前準備にあたり、どうしても分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。

【テキスト（教科書）】
春学期輪読用テキスト（テキスト 1）の現段階の候補として、以下を挙げる。主にこの中から受講生の関心に合わせて選択する。
『入門　ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004 年
『競争の戦略と政策』柳川・川浜著、有斐閣アルマ、2006 年
『競争政策論』小田切宏之著、日本評論社、2008 年
『プラクティカル　産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013 年
春学期要約用テキスト（テキスト 2）の現段階の候補として、以下を挙げる。主にこの中から受講生の関心に合わせて選択する。
『経済学的思考のセンス』大竹文雄著、中公新書、2005 年
『故事成語でわかる経済学のキーワード』梶井厚志著、中公新書、2006 年
『競争と公平感』大竹文雄著、中公新書、2010 年

【参考書】
必要に応じて指定する。
また、下記の本のレベルを前提として授業を進める。
伊藤元重著「ミクロ経済学」日本評論社

【成績評価の方法と基準】
報告・議論への主体的な関わり　80 %
提出物　20 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。
この授業は、ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ、応用経済学Ⅰ/Ⅱ、産業組織論Ⅰ/Ⅱと関連しています。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

大下　勇二　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財務会計の理論的・実践的学習。財務会計の様々な問題を学習し、財務会計の基本的な考え方と具体的な会計処理を学習する。

【到達目標】
財務・会計情報がどのようなルールの下で作成されているのか、そのルールの基本的な考え方はどのようなものかといった財務会計理論の基礎の涵養を目指します。
さらに、二・三年生は財務会計の基礎を学習する中でプレゼンテーションおよび議論の仕方を学び、自分の考えを適切に表現する能力を養います。
四年生は財務会計の特定の問題を深く研究しこれを卒業論文の形にまとめることで、物事を深く考え・分析し、それをまとめる能力を養います。
二・三年生はレポート等の作成により、四年生は論文の作成により、問題の把握、問題へのアプローチの仕方、文献・資料の収集と分析の仕方、自分の考えのまとめ方・文章化など、レポート・論文を作成する能力を養います。

【授業の進め方と方法】
二・三年生は会計学の基礎とデータ分析の基礎を理解できるように努める。毎回報告者が財務会計テキストの担当部分をレポートし全員で議論する。報告者は事前に十分な準備をしておくことが必要になります。また、エクセルによるデータの分析方法を修得します。テキストに基づく基礎的学習の後、3 グループに分かれて企業分析を行い、複数回報告 (プレゼン) してもらい、最終的に報告書にまとめます。
四年生は卒業論文の作成に向けて論文のテーマを決め、関連する論文・文献の収集を始めて論文の作成作業に取りかかります。年数回の中間報告を行います。
三年生の企業分析報告書と四年生の卒業論文はゼミ論文集の形にまとめ印刷します。
授業は教室での学習が中心ですが、この他セミナーハウスでの夏合宿と春合宿を実施する予定です。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	基本的テキスト桜井久勝著『財務会計講義』の分担の決定、参考文献等の紹介など
第 2 回	会計の機能と制度	3 年生はテキスト第 1 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 3 回	利益計算の仕組み	3 年生はテキスト第 2 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 4 回	会計理論と会計基準	3 年生はテキスト第 3 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 5 回	利益測定と資産評価の基礎概念	3 年生はテキスト第 4 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 6 回	現金預金と有価証券	3 年生はテキスト第 5 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 7 回	売上高と売上債権	3 年生はテキスト第 6 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 8 回	有形固定資産と減価償却 (1)	3 年生はテキスト第 8 章前半の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 9 回	有形固定資産と減価償却 (2)	3 年生はテキスト第 8 章後半の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 10 回	無形固定資産と繰延資産	3 年生はテキスト第 9 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 11 回	負債 (1)	3 年生はテキスト第 10 章前半の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 12 回	負債 (2)	3 年生はテキスト第 10 章後半の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 13 回	株主資本と純資産 (1)	3 年生はテキスト第 11 章前半の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 14 回	株主資本と純資産 (2)	3 年生はテキスト第 11 章後半の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 15 回	財務諸表の作成と公開	3 年生はテキスト第 12 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 16 回	連結財務諸表 (1)	3 年生はテキスト第 13 章前半の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 17 回	連結財務諸表 (2)	3 年生はテキスト第 13 章後半の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 18 回	外貨建取引等の換算	3 年生はテキスト第 14 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 19 回 ～第 25 回	グループワークによる企業分析演習と中間報告	複数のグループに分れ、特定の業界・企業を選定し、当該企業の経営内容を分析・比較し、中間報告してもらいます。
第 26 回 ～第 27 回	グループワークによる企業分析の最終報告	企業分析の最終報告 (3 年生) を行い、報告内容は最終的にはゼミ論文集にまとめます。
第 28 回 ～第 29 回	卒業論文最終報告	卒業論文の最終報告 (4 年生) をしてもらい、各報告内容は最終的にゼミ論文集にまとめます。
第 30 回	総括	1 年間のゼミ活動の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報告担当者でなくても、テキストを事前に読んでおき、質問事項を考えておくことが必要です。

【テキスト（教科書）】
財務会計のスタンダードなテキストを用います。今年度は桜井久勝著『財務会計講義』(最新版)(中央経済社) を使用する予定です。データ分析に関するテキストは最初の授業で指示します。

【参考書】
最初の授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】
数回の課題レポート、進級レポートおよび卒業論文を総合的に評価します。なお、春・夏の合宿への出席が義務づけられます。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
会計データの作成プロセスの面とこれに基づく分析の面をバランス良く学習できるよう工夫したいと思います。

【その他の重要事項】
本ゼミは財務会計の分野を中心に学習しますので、1 年次の簿記入門Ⅰ・Ⅱ、2 年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱの既習者であり、3・4 年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳなどの会計関連の専門科目を履修することが望ましい。
ゼミでの報告は基本的に簿記 3 級程度以上の知識、パワーポイントの基礎およびエクセルの基礎を修得していることを前提としていますので、4 月の授業開始までに、これらを修得しておいてください。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］

演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

小川　孔輔　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
輪読、事例研究を通してマーケティングを学ぶ。

【到達目標】
個人発表、グループ発表、フィールドワークの発表。

【授業の進め方と方法】
演習は以下の 6 つの柱からなる。
1. テキストの輪読（ふだんは英文）、合宿では日本語テキストもあり。
2. マーケティング活動についての事例、および雑誌記事などを材料にしたグループ討論
3. フィールドワーク（市場調査と商品開発）と、インタビュー形式の企業ヒアリング。それらを素材にしたディスカッションとレポートの作成（隔月で課題図書の感想文）：2010 年度はハニーズ、カインズ、2011 年度は小田急ランドフローラ、松川弁当店 (米沢牛の駅弁)、2012 年度はデジタルサイネージ、カインズ、ヤオコー、松川弁当店、2013 年度はカインズ、ヤオコー、シーラック (バリ勝男クン わさびマヨ味)、ビレロイ&ボッホ、2014 年度はカインズ、ヤオコー、金羊社、鉄人化計画、2015 年度はカインズ、ヤオコー、シーラック、金羊社を調査対象企業として、企業と協力しながら実施した。
4. 卒業論文（フィールドワークの報告書）。
5. 春・夏の合宿
6. 企業での実務研究（3 年次に、インターンシップに参加）、店舗・工場見学（過去、幸楽苑、カインズ、ロック・フィールド、日高屋工場見学）、食品スーパーヤオコーの「感動と笑顔の祭典」で特別プレゼンテーション（2014 年）、大学院生との共同調査（ユニクロ銀座店でバンドル販売の店頭実験、バンコク市内のファミリーマートで調査）など。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	1 年間の活動内容を計画、決定する
第 2 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 3 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 4 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 5 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 6 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 7 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 8 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 9 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 10 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 11 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 12 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 13 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 14 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 15 回	春学期のまとめ	春学期のまとめと夏期合宿について
第 16 回	課題図書の個人発表	春学期の課題図書の個人発表とディスカッション
第 17 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 18 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 19 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 20 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 21 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 22 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 23 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 24 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 25 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 26 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 27 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 28 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 29 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う。
第 30 回	今年度のまとめ	フィールドワーク最終発表会の準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや課題図書の購読、個人発表の準備、グループ発表の準備、フィールドワークに関する調査、準備等。

【テキスト（教科書）】
『Principles of Marketing』Philip Kotler･Gary Armstrong(2015 年度使用)
2016 年度は未定。

【参考書】
小川孔輔『マーケティング入門』『ブランド戦略の実際＜第２版＞』

【成績評価の方法と基準】
個人報告・グループ討議（1/2)、卒業論文（1/4)、隔月実施の「課題図書」(1/4)

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
テキストの選択時に学生の意見を参考にする。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
経営学総論Ⅰ・Ⅱ、基礎統計学Ⅰ／Ⅱ、マーケティング論Ⅰ／Ⅱ、流通論Ⅰ／Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ／Ⅱ、情報科学実習Ⅰ・Ⅱ。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 4 単位	［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習３・４	選択＜演習＞	3 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習５・６	選択＜演習＞	4 年次／ 6 単位	［年間授業］

小川　憲彦　教授　（春学期代講：森永　雄太　講師）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学における演習とは実際に研究活動に取り組む場であると考えています。したがって研究への取り組み方を学び、卒業論文を完成させることが最終的な目的です。
ただし、その過程において組織心理学や経営学の基本的な理論・考え方を学ぶ必要があります。組織心理学は組織の中の人間行動を学ぶ領域ですので、ゼミ組織のなかの様々な課題を通じた組織や集団単位での達成から体感的に学んでくれることを期待しています。

【到達目標】
クラスを修了した段階で学生に求める姿は以下のとおりです。
・組織心理学の基本的な考え方や理論を知っている
・組織や集団目標に向かって効果的な貢献ができる
・研究の基本的な姿勢・取り組み方を知っている
また、様々な活動を通じて生涯にわたる仲間や友人を得られることを期待します。
そして最終的には、法政大学の教育理念である進取の気象を持って社会に巣立って行ってくれることを望みます。

【授業の進め方と方法】
3 年生には、課題レポート、個人発表、グループ発表、他大学との合同ゼミに向けたグループ研究、その他様々な集団活動があります。4 年生はこれらに加え、卒業論文の提出があります。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	目的・目標・運営の仕方、評価等の説明をします。
第 2 回	組織作り	ゼミの下部組織（委員会）、役割分担などを決定します。
第 3 回	研究計画	合同ゼミや研究計画書の書き方について説明します。
第 4 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度）	3 年生の課題報告、4 年生の卒業研究進捗報告、その他夏季合宿等の計画も随時進めます
第 5 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度）	3 年生の課題報告、4 年生の卒業研究進捗報告、その他夏季合宿等の計画も随時進めます
第 6 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度）	3 年生の課題報告、4 年生の卒業研究進捗報告、その他夏季合宿等の計画も随時進めます
第 7 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度）	3 年生の課題報告、4 年生の卒業研究進捗報告、その他夏季合宿等の計画も随時進めます
第 8 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度）	3 年生の課題報告、4 年生の卒業研究進捗報告、その他夏季合宿等の計画も随時進めます
第 9 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度）	3 年生の課題報告、4 年生の卒業研究進捗報告、その他夏季合宿等の計画も随時進めます
第 10 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度）	3 年生の課題報告、4 年生の卒業研究進捗報告、その他夏季合宿等の計画も随時進めます
第 11 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度）	3 年生の課題報告、4 年生の卒業研究進捗報告、その他夏季合宿等の計画も随時進めます
第 12 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度）	3 年生の課題報告、4 年生の卒業研究進捗報告、その他夏季合宿等の計画も随時進めます
第 13 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度）	3 年生の課題報告、4 年生の卒業研究進捗報告、その他夏季合宿等の計画も随時進めます
第 14 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度）	3 年生の課題報告、4 年生の卒業研究進捗報告、その他夏季合宿等の計画も随時進めます
第 15 回	前期の振り返りと夏季休暇の抱負	合同ゼミに向けた共同研究の進捗発表なども行います
第 16 回	後期イントロ	夏季休暇・合宿の振り返りと後期の抱負
第 17 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度＋ 1 グループ）	3 年生は合同ゼミ用の研究進捗報告（グループ）、4 年生は卒論研究の進捗報告
第 18 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度＋ 1 グループ）	3 年生は合同ゼミ用の研究進捗報告（グループ）、4 年生は卒論研究の進捗報告
第 19 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度＋ 1 グループ）	3 年生は合同ゼミ用の研究進捗報告（グループ）、4 年生は卒論研究の進捗報告
第 20 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度＋ 1 グループ）	3 年生は合同ゼミ用の研究進捗報告（グループ）、4 年生は卒論研究の進捗報告
第 21 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度＋ 1 グループ）	3 年生は合同ゼミ用の研究進捗報告（グループ）、4 年生は卒論研究の進捗報告
第 22 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度＋ 1 グループ）	3 年生は合同ゼミ用の研究進捗報告（グループ）、4 年生は卒論研究の進捗報告
第 23 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度＋ 1 グループ）	3 年生は合同ゼミ用の研究進捗報告（グループ）、4 年生は卒論研究の進捗報告
第 24 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度＋ 1 グループ）	3 年生は合同ゼミ用の研究進捗報告（グループ）、4 年生は卒論研究の進捗報告
第 25 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度＋ 1 グループ）	3 年生は合同ゼミ用の研究進捗報告（グループ）、4 年生は卒論研究の進捗報告
第 26 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度＋ 1 グループ）	3 年生は合同ゼミ用の研究進捗報告（グループ）、4 年生は卒論研究の進捗報告
第 27 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度＋ 1 グループ）	3 年生は合同ゼミ用の研究進捗報告（グループ）、4 年生は卒論研究の進捗報告
第 28 回	研究進捗発表（毎回 3 人程度＋ 1 グループ）	3 年生は合同ゼミ用の研究進捗報告（グループ）、4 年生は卒論研究の進捗報告
第 29 回	卒論発表会	4 年生の卒論発表とフィードバック
第 30 回	卒論発表会	4 年生の卒論発表とフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の内容は、各自の研究進捗によって大幅に変わります。また上記は最低限の内容で、実際はこれらに加え各委員会の報告や合同ゼミ、合宿、その他活動の報告や議論が加わります。

【テキスト（教科書）】
Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008).Essentials of Organizational Behavior Global ed., NJ: Pearson Prentice Hall.

【参考書】
金井壽宏・鈴木竜太編 (2013)『日本のキャリア研究 組織人のキャリア・ダイナミクス』白桃書房。
経営行動科学学会 編 (2011) 『経営行動科学ハンドブック』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】
3 年生は、クラス内での取り組み（発言頻度や内容・発表レベルやその準備度合い・参加姿勢など）と課題やレポート（60 %）、クラス外でのゼミ活動 (40%) の比重で評価します。
4 年生は上記をすべて含めて 50 %、卒業論文 50 %で評価します。なお卒論未提出は不可もしくは評価対象外とします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業は出来るだけ時間内で収めたいと思います。その分の事前準備、事後対応（自学自習等）をお願いします。

【学生が準備すべき機器他】
PC（ネット接続含む）、プロジェクター、スクリーンを使うことが多いですので毎回、準備をお願いします。

【その他の重要事項】
より詳細な説明を別途配布するシラバスによってなされます。その内容に同意したうえで履修して下さい。関連科目は特にありません。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］

演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

奥西　好夫　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

①自ら課題を見つける力、②関連文献を読んだり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導く力、③それらを他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高める力を身につける。こうした力は、将来、どこでどのような仕事をする場合にも、極めて重要である。

また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【授業の進め方と方法】

2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材など）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。4 年生は、それに加えゼミ論文を作成する。映画鑑賞、社会人とのディスカッションなども随時行う。

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
2～15.	グループ報告、議論	・英文ケースの報告、議論 ・その他
夏期休暇	夏合宿	・社会人を交えたケース議論 ・個人レポートの報告と評価 ・4 年生による卒論テーマ発表 ・その他
16～27.	グループ報告、議論	・英文ケースの報告、議論 ・その他（入ゼミ選考を含む）
28～30.	卒論発表	・4 年生による卒論発表 ・その他
春期休暇	冬合宿	・ケースを用いた勉強の仕方 ・その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英文ケース素材等は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう、十分意識すること。担当者は、毎回の議論のテーマ、要点、反省点等をゼミのフェイスブックにアップする。

【テキスト（教科書）】

英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、必読文献は適宜指示する。

【参考書】

日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト　人事管理入門（第 2 版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。

なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視し、総合評価を行う。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。4 年生の場合は、ゼミ論文（卒論）の内容、質も重視する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

2014 年度のアンケートでは改善点の提案はほとんどなかったが、一点だけ「卒論に関する情報を明確にしてほしい」との指摘があった。毎年卒論に関するコメントを全員公開でフィードバックしているが、今後は事前の書き方指導にもより力を入れることにする。

【その他の重要事項】

インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が極めて容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。

さらに、例年、ゼミ中によく発言する者としない者に分かれる傾向がみられる。ゼミは発言の訓練の場でもあるので、全員、毎回必ず 1 回以上は意味のある発言をするよう心がけること。

なお、（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学Ⅰ/Ⅱ、人的資源管理Ⅰ/Ⅱなど。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

神谷　健司　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財務会計を研究するゼミであり、わが国のディスクロージャー制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するかの議論もしたいと思います。

【到達目標】
財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析がある程度できるようになってもらいたいと思います。

【授業の進め方と方法】
受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2 コマ 3 時間が正規の演習時間ですが、希望者による延長戦も予定しています。その時間では卒業論文の中間報告をしてもらったり、英語文献を読みたいと思います。まず IASB が公表した IFRS for SMEs を読み、その後は財務分析に関する英語文献も読みたいと思います。

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
第 1 回	財務会計の基礎、財務諸表の仕組み	報告に基いてディスカッションを行う
第 2 回	棚卸資産の会計、有形固定資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 3 回	無形固定資産および繰延資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 4 回	金融資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 5 回	負債の会計、純資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 6 回	収益と費用の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 7 回	税効果会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 8 回	外貨換算会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 9 回	企業結合会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 10 回	連結財務諸表	報告に基いてディスカッションを行う
第 11 回	企業評価の方法	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 12 回	定性的な分析と財務データの関連付け	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 13 回	財務データの見方	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 14 回	財務比率分析	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 15 回	会計方針と企業分析	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告

通年

回	テーマ	内容
第 16 回	企業会計の本質とフレームワーク	報告に基いてディスカッションを行う
第 17 回	会計制度の論理と体系	報告に基いてディスカッションを行う
第 18 回	企業のディスクロージャー	報告に基いてディスカッションを行う
第 19 回	損益計算書のパラダイム	報告に基いてディスカッションを行う
第 20 回	経営パフォーマンスの測定と表示	報告に基いてディスカッションを行う
第 21 回	貸借対照表のパラダイム	報告に基いてディスカッションを行う
第 22 回	資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 23 回	持分の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 24 回	金融商品の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 25 回	従業員給付の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 26 回	連結グループの会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 27 回	武田薬品工業の分析	武田薬品の歴史、現状、経営戦略について考える
第 28 回	カルビーの分析	カルビーの経営戦略、製菓業界全体の現状について考えある
第 29 回	京セラの分析	京セラの歴史、現状、会計システムについて考える
第 30 回	東芝の分析	東芝の歴史、事業展開、収益分析、最近の不正会計問題について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ翌週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】
桜井久勝『財務会計講義（第 16 版）』中央経済社、『企業分析シナリオ（第 2 版）』東洋経済新報社、伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞出版社、網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』日本経済新聞出版社など

【参考書】
必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
4 年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたい。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されている人達に来てもらって話を聞く機会を年 3，4 回設けたいと思います。

【その他の重要事項】
年 2 回の合宿があります。何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2 年次から参加する学生も歓迎です。また将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加を歓迎します。
本演習についての 1・2 年次の関連科目は「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」、「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」といえるが、企業分析を行う際には「経営戦略論Ⅰ/Ⅱ」の知識も有用である。3 年次以降に開講されている会計科目のすべてが本演習の関連科目である。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

川島　健司　教授　（代講：矢澤　憲一　講師）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業会計（財務報告）に関する卒業論文を執筆する。

【到達目標】
1　社会人として通用する文章表現力をつける。
2　問題提起と仮説・検証の方法を理解し、これを実践する。
3　学術論文（日本語・英語）を身近なものとして読解できる力を得る。

【授業の進め方と方法】
会計・財務報告に関する文献の輪読と履修者の研究報告。
受講生の関心、知識量、理解度、理解の速さなどを考慮しながら、毎回の講義内容を逐次的に決定する。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	輪読・会計学 (1)	文献輪読を行います。
2	輪読・会計学 (2)	文献輪読を行います。
3	輪読・会計学 (3)	文献輪読を行います。
4	輪読・会計学 (4)	文献輪読を行います。
5	輪読・会計学 (5)	文献輪読を行います。
6	輪読・会計学 (6)	文献輪読を行います。
7	輪読・会計学 (7)	文献輪読を行います。
8	輪読・会計学 (8)	文献輪読を行います。
9	輪読・会計学 (9)	文献輪読を行います。
10	輪読・会計学 (10)	履修者による研究報告と質疑応答を行います。
11	研究報告 (1)	履修者による研究報告と質疑応答を行います。
12	研究報告 (2)	履修者による研究報告と質疑応答を行います。
13	研究報告 (3)	履修者による研究報告と質疑応答を行います。
14	研究報告 (4)	履修者による研究報告と質疑応答を行います。
15	研究報告 (5)	履修者による研究報告と質疑応答を行います。
1	輪読・経営学または財務論 (1)	文献輪読を行います。
2	輪読・経営学または財務論 (2)	文献輪読を行います。
3	輪読・経営学または財務論 (3)	文献輪読を行います。
4	輪読・経営学または財務論 (4)	文献輪読を行います。
5	輪読・経営学または財務論 (5)	文献輪読を行います。
6	輪読・経営学または財務論 (6)	文献輪読を行います。
7	輪読・経営学または財務論 (7)	文献輪読を行います。
8	輪読・経営学または財務論 (8)	文献輪読を行います。
9	輪読・経営学または財務論 (9)	文献輪読を行います。
10	輪読・経営学または財務論 (10)	履修者による研究報告と質疑応答を行います。
11	研究報告 (1)	履修者による研究報告と質疑応答を行います。
12	研究報告 (2)	履修者による研究報告と質疑応答を行います。
13	研究報告 (3)	履修者による研究報告と質疑応答を行います。
14	研究報告 (4)	履修者による研究報告と質疑応答を行います。
15	研究報告 (5)	履修者による研究報告と質疑応答を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
輪読・研究報告のための準備が中心になりますが、状況によってその内容は異なりますので、具体的には演習を進めながら指示します。

【テキスト（教科書）】
①伊藤邦雄『新・現代会計入門』（2015 年 4 月現在の最新版）日本経済新聞社。
②新田忠誓『会計学・簿記入門』（2015 年 4 月現在の最新版）白桃書房。

【参考書】
桜井久勝『財務会計講義』（2015 年 4 月現在の最新版）中央経済社。

【成績評価の方法と基準】
C評価: 演習に原則的に毎回出席し、かつ、興味のある研究テーマをもち、論文執筆について意欲がある。
B評価: C評価に加えて、演習で扱った学習内容について、知識として十分に理解している。
A評価: B評価に加えて、自ら文献を読解し、研究を遂行している。懸賞論文大会またはこれと同等の論文大会に、研究成果を論文として提出していること。かつ、4 年生は卒業論文を提出していること（またはその見込みがあること）。
A＋評価: A評価に加えて、演習の他の履修生に対して、自らの経験と知識を教える能力がある、またはその姿勢がある。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
英語文献を読みたいとの意見があったため、関連文献の輪読も検討する。

【その他の重要事項】
1　演習の目的は論文を執筆することです。研究論文を書く動機と意欲があることと、研究の具体的なテーマをもっていることが、演習を履修する条件となります。財務会計に関する知識を受動的に学ぶことを希望する場合には、「財務会計論Ⅰ/Ⅱ」を受講して下さい。
2　演習では、上級生は下級生の模範となるように活動して下さい。
3　演習は正規科目の 1 つですので、他の事情との関係で毎回確実に出席できるという見通しが立たないようであれば、演習の登録は遠慮して下さい。
4　本演習の履修を希望する学生は次の関連科目の履修を推奨します。
簿記入門Ⅰ・Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、企業財務論Ⅰ/Ⅱ

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 4 単位	［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習３・４	選択＜演習＞	3 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習５・６	選択＜演習＞	4 年次／ 6 単位	［年間授業］

河内谷　幸子　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はゼミ形式で、情報化社会の諸現象や IT ビジネスの動向について調査して学ぶ。広い知識を習得し、問題点を整理し、考える姿勢を身につける。また、論文のまとめ方や発表の方法を学ぶ。

【到達目標】
IT ビジネスや IT 時事問題や情報化社会の諸問題について調査して情報を取捨選択できるようになり、自分なりの意見を持ち、その内容を効果的に発信できるようになる。ディスカッション能力や発表力を上げる。

【授業の進め方と方法】
講義、文献の輪読、文献検索を中心とした調査、ディスカッションを行う。
学期に１～２回、個人発表会で各自の研究テーマの調査結果を発表する。
学期に１回、グループ研究による発表会を行う。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	調査と発表の方法	文献検索をはじめとする調査方法、レジュメ作成方法、発表方法などの基礎を学ぶ。
2	SNS	SNS（Social Networking Service）の動向について文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
3	IT ビジネス	ネット広告、ネットショッピング、クラウドソーシング、ビッグデータ、オープンデータなどについて文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
4	個別発表１	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。
5	小型情報端末機器	携帯電話、ノートＰＣ、タブレット端末、電子書籍端末、ウェアラブルコンピュータなどについて文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
6	高速コンピュータ	スーパーコンピュータや量子コンピュータについて文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
7	レアメタル	情報端末の原料となるレアメタルの現状とリサイクルなどについて文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
8	位置情報	地図情報システム、GPS を使った行動ターゲティング、ソーシャルゲーム、プライバシー問題、監視社会などについて文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
9	見学会	電子書籍に関する展示施設を見学して学ぶ。ゼミ時間内に学外の施設へ移動する。
10	IT と法	著作権法、プロバイダ責任法、特定電子商取引法など、IT に関連の深い法律や倫理について文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
11	個別発表２	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。
12	コンピュータ犯罪	コンピュータ犯罪、コンピュータウイルス、サイバー攻撃などの現状と対策について文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
13	グループ発表	グループ分けを行い、各グループでテーマや分担を決め、調査にとりかかる。
14	グループ発表	前回決めたグループでテーマ内容の調査を行い、発表準備をする。
15	グループ発表	グループ別に発表する。また、他のグループの評価を行う。優秀グループの表彰を行う。
16	秋学期ガイダンス	夏休み中に行ったゼミ合宿のまとめを行う。調査発表の方法が適切であったか検討する。
17	位置情報・音声	地図情報システム、ＧＰＳを使った行動ターゲティング、監視社会、音声認識、声の合成、それらを利用したソーシャルゲームについて文献輪読や文献検索により調べて学び、ディスカッションする。
18	電子マネー	電子マネーや仮想通貨について文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
19	セキュリティー	セキュリティー、暗号、生体認証などについて文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
20	個別発表３	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。
21	IT と他分野の融合	車と IT(自動運転)、医療と IT、政治と IT、教育と IT、など IT を利用した新しい技術とビジネスについて文献輪読や文献検索により調べて学び、ディスカッションする。
22	アンケート演習	各自でテーマを決め、それについてアンケートを作成してまとめる。
23	アンケート演習	前回から継続するアンケート集計作業を行う。
24	アンケート演習	前回から継続するアンケート集計結果を発表する。
25	個別発表 4	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。
26	IT とデザイン	３Ｄプリンタ、デジタルアート (芸術)、ユーザインタフェース (使いやすさ)、ユビキタスコンピュータ (いつでもどこでも利用可)、ユニバーサルデザイン (文化や年齢性別などの個人差に関係なく利用できる設計) について文献輪読や文献検索により調べて学び、ディスカッションする。
27	見学会	デジタルアートに関する展示施設を見学して学ぶ。ゼミ時間内に学外の施設へ移動する。
28	グループ発表	グループ分けを行い、各グループでテーマや分担を決め、調査にとりかかる。
29	グループ発表	前回決めたグループでテーマ内容の調査を行い、発表準備をする。
30	グループ発表	グループ別に発表する。また、他のグループの評価を行う。優秀グループの表彰を行う。 また、１年間の活動のまとめと反省を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞記事のチェック、輪読の準備、個人発表の準備、グループ発表の準備等。

【テキスト（教科書）】
下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用いる。

【参考書】
味岡美豊子『社会人・学生のための情報検索入門』ひつじ書房、2009 年。
金井明人・土橋臣吾・津田正太郎『メディア環境の物語と公共圏』法政大学出版会、2013 年。
苗村憲司・小宮山宏之『現代社会と著作権法　デジタルネットワーク社会の知的財産権』慶応義塾大学出版会、2005 年。
藤垣裕子編『科学技術社会論の技法（第３版）』東京大学出版会、2013 年。
濱岡豊・里村卓也『消費者間の相互作用についての基礎研究　クチコミ、e クチコミを中心に』慶應義塾大学出版会、2009 年。
坂村健『ユビキタス・コンピュータ革命』角川、2004 年。
ドナルド.A. ノーマン (野島久雄訳)『誰のためのデザイン？ 認知科学者のデザイン原論』新曜社、1990 年。
※この他にも授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業とゼミ合宿の出席、レポート、発表内容によって評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
上級生が下級生を指導する機会を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
学生が自分で準備しなくてよい。パソコン教室で１人１台パソコンを使用する。

【その他の重要事項】
関連科目：情報処理演習Ⅰ／Ⅱ
入ゼミ直前には IT の知識が少なくてもパソコン操作が不得意でも問題ない。
４年生は９月以後に卒業論文を作成し、１２月に中間発表を行い、１月に提出する。卒業論文集を電子的に配布する。
希望者には IT 関連の資格試験・検定試験の学習計画を指導する。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 4 単位	［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習３・４	選択＜演習＞	3 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習５・６	選択＜演習＞	4 年次／ 6 単位	［年間授業］

岸　眞理子　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IT（情報技術）や ICT（情報通信技術）の活用が当たり前となった今日では、デジタル・メディアを駆使し、情報や知識を活用・創造する組織能力を高めていくことが、組織の重要な課題となります。
この様な課題を考察するために、組織コミュニケーション、知識創造、バーチャルとリアルな場の融合についての理論を学び、これらの理論を応用して具体的な事例について分析する力を養うことを目的としています。

【到達目標】
「学生時代にこれだけは勉強した」と言えるものをつくるために以下の点を目指します。
・関連する理論や概念を理解します。
・表現の技法として、発表の仕方、議論の仕方、レポートや論文の書き方について学びます。
・また、そのために、関連文献の検索の仕方も学びます。
・実際に、あるテーマについての理論や概念を理解する力をを養います。
・理論に基づいて、実際に特定の事例を分析する力を養います。
・卒業論文を作成します。

【授業の進め方と方法】
演習は、原則として、２・３年生はグループごとに、４年生は個人で発表し、それに対して全員で議論するという形式で進めます。レポート及び卒業論文の提出は義務づけられています。
春学期には、２年生は経営情報論の基礎的な理論を学び、３年生は設定テーマに関連した文献を読み込むことで理論の理解を深めていきます。秋学期までには、実際の企業事例を用いて分析できる力を養ってもらいます。演習に社会人を招いて議論する場や企業訪問の機会も設定されています。
４年生は各自テーマを設定し、１年かけて卒業論文を作成していきます。この過程では、決められた時間で発表らしい発表を行うことも勉強します。
その他、発表や議論の方法、レポートや論文の書き方なども学習します。
具体的な授業計画は最初の時間に説明します。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロダクション	春学期の活動のガイダンス
第 2 回	発表の仕方	プレゼンテーションの仕方やレポートの書き方、文献検索の仕方を学ぶ
第 3〜5 回	文献輪読（1）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 6 回	ゲスト・スピーカー（1）	関連課題に関して社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 7〜9 回	文献輪読（2）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 10 回	ゲスト・スピーカー（2）	関連課題に関して社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 11〜14 回	文献輪読（3）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 15 回	春学期総括	春学期のまとめ
第 16 回	秋学期イントロダクション	秋学期の活動のガイダンス
第 17〜20 回	２・３年生の事例研究	選択した事例についての研究報告とディスカッション
第 21 回	ゲスト・スピーカー（3）	関連課題に関して社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 22 回	ゲスト・スピーカー（4）	関連課題に関して社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 23〜28 回	４年生の卒業論文経過報告	４年生の卒業論文の中間報告とディスカッション
第 29 回	４年生の卒業論文最終報告	４年生の卒業論文の最終報告
第 30 回	秋学期総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表や提出物などの準備が必要となります。

【テキスト（教科書）】
授業内で提示します。

【参考書】
授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
発表や議論への参加など、ゼミへの積極的貢献によって評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
サブゼミの実行方法や回数は、学生の要望に応じます。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使用して発表してもらいます。

【その他の重要事項】
関連記事が以下に掲載されています。
http://www.hosei.ac.jp/koho/zemi/keiei/080114.html
http://www.houseikeieidousoukai.com/grad_prof/
関連科目として、「経営情報論Ⅰ/Ⅱ」はもちろんのこと、「経営組織論Ⅰ/Ⅱ」、「組織行動論Ⅰ/Ⅱ」、「経営戦略論Ⅰ/Ⅱ」、「情報と倫理」、「情報と職業」などを受講することで、より理解を深めることができます。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 4 単位	［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習３・４	選択＜演習＞	3 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習５・６	選択＜演習＞	4 年次／ 6 単位	［年間授業］

岸本　直樹　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と呼ばれる、投資家の観点からの企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券投資を考えることです。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス論、会計学、マーケティング論、オペレーション・マネジメント論の観点から分析することができますが、企業活動の成績は、それらすべての機能に依存します。したがって、本演習では、履修者に経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることを奨励しています。その観点から、春学期の前半に上記の専門分野の中のいずれかの分野の専門書を輪読します。また、時間が許せば、秋学期の後半に、企業、産業、経済等に関して履修者が選んだテーマについて調べ学習を行うことがあります。そして、それらの結果はゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションをした上、その成果を岸本ゼミのウェブサイトで公表するようにしています。

【到達目標】
演習での主要な到達目標は次の 3 点です。まず第 1 に、履修者が株式や債券等の証券を保有する者、あるいは、資金の貸手の立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実際の企業に当てはめることができること。第 2 に、経営学の専門書をしっかり読むことができること。第 3 に、履修者が分析したり読んだりした結果を演習で分かりやすく発表することができること。

【授業の進め方と方法】
必要に応じて関連文献を読みながら、特定の企業について分析を進めます。そして、分析した結果をレジュメにまとめ、それをゼミで発表して、他のゼミ生とディスカッションをします。さらに、発表の概要は、岸本ゼミのウェブページで公表します。また、経営学の専門書を履修者全員で分担してレジュメを作り、授業で発表し、ディスカッションをします。さらに、企業分析とは別に、企業、産業、経済等に関して履修者が関心があるテーマについて調べ学習を行い、それをゼミで発表してゼミ生とディスカッションをすることがあります。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1-7	企業分析に有用な輪読	各回で、ゼミ生 2-3 名が、それぞれ企業分析に有用な専門書の担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
8-15	企業分析に関する実習	各回で、ゼミ生 2 名が、担当企業の分析結果をまとめたレジュメをゼミで発表し、他のゼミ生とディスカッションする。
16-20	企業分析に関する実習	各回で、ゼミ生 2 名が、担当企業の分析結果をまとめたレジュメをゼミで発表し、他のゼミ生とディスカッションする。
21-30	自由研究の発表	企業、産業、経済等に関してゼミ生が自主的にテーマを選び、それについて調べ学習を行う。そして、その結果をレジュメにまとめ、それに基いてゼミで発表する。さらに、発表後他のゼミ生とディスカッションをしてテーマの理解を深め、レジュメを改善する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
輪読する文献の事前学習、担当企業の分析、レジュメの作成等。

【テキスト（教科書）】
輪読する書籍は、春合宿で相談の上、指示します。

【参考書】
授業中に適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】
〔3 年次生に対する評価方法〕
評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、出席状況、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリヤした学生に A 評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、B 以下の評価をつけますし、さらに、パーフォーマンスが芳しくない学生については、4 年次へ進級する際ゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、進級時のゼミ継続を自動的に認めていません。
〔4 年次生に対する評価方法〕
4 年次生の評価は、3 年生の評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、4 年次生に対しては、3 年次生より高いパフォーマンスを要求します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
ディスカッションの活性化。

【学生が準備すべき機器他】
発表において 1 年度に少なくとも 1 回パワーポイント等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

【その他の重要事項】
本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基礎知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。
上で説明したように、本演習の活動は、輪読、投資家の観点からの企業分析、自由研究の三本柱で構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用ですが、特に有用なのは、財務諸表を読む力を養う科目と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門Ⅰ・Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅲ/Ⅳがあります。また、後者の科目としてファイナンス論Ⅰ/Ⅱ、証券経済論Ⅰ/Ⅱ、企業財務論 I/II があります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

北田　皓嗣　准教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題や社会問題が多様化し，複雑化するなかで，また社会統治の仕組みが変化するなかで，問題解消のために企業に求められる責任が高まってきています。また先進的な企業では環境ビジネスや BOP ビジネスとして，経済成長の新たな軸を構築しようともしています。このような問題に対して解決方法をすぐに提示することはできませんが，どこに問題の所在があるのか，問題がどのような構造で起きているのかについて学び取る力を習得していきます。またアカウンタビリティやソーシャルビジネスなどの新しい社会統治の潮流の視点から経営現象をみていきます。

【到達目標】
当ゼミでは、このような問題を理解するために一助となりそうな書物を選び、その一般的な理解を身につけていきます。

【授業の進め方と方法】
課題となるテキストの輪読を中心に進めていきます。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
2	サステナビリティの基礎	社会課題、環境問題について考察します。
3	サステナビリティと企業	世界の経営者が企業と社会の関係についてどのように議論を展開しているのかについて学びます。
4	日本企業とサステナビリティ	各自で企業のサステナビリティ経営について調べてもらいます。
5	サステナビリティ戦略	企業のサステナビリティ戦略について考察します。
6	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
7	レポートのまとめ方	アウトラインの設定，論理的な考察の方法について考えます。
8	CSR	企業の社会的な責任のあり方について考えます。
9	アカウンタビリティ	情報開示の基礎理論として、アカウンタビリティについて学びます。
10	CSV	企業戦略への社会的責任の反映の方法を学びます。
11	環境コスト	会計システムのなかに環境配慮を取り入れる方法を考えます。
12	GRI	情報開示の理論的バックグラウンドを整理します。
13	統合報告	通常の財務報告と CSR 報告書の関係について考えます。
14	CDP	温室効果ガスの問題と、その開示の制度について考えます。
15	まとめ	春学期の講義の成果を発表してもらいます。
16	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
17	事例調査	環境経営・CSR 経営の実践について担当の人に発表してもらいます。
18	事例調査	環境経営・CSR 経営の実践について担当の人に発表してもらいます。
19	グループワークの進め方	グループで調査する際のマナーについて考えます。
20	公共性	各グループの研究と公共性の概念から比較、検討します。
21	リハーサル１	合同ゼミに向けて、第一回目のリハーサルを行います。
22	リハーサル２	合同ゼミに向けて、第二回目のリハーサルを行います。
23	合同ゼミ	他大学との研究交流を行います。
24	合同ゼミ	他大学との研究交流を行います。
25	合同ゼミの振り返り１	合同ゼミの反省点を検討します。
26	合同ゼミの振り返り２	合同ゼミの発表の改善点を検討します。
27	卒業論文に向けて	論文作成の基礎的な考え方を学びます。
28	先行研究一覧の作成	論文作成の基礎となる先行研究リストを作成します。
29	卒業論文テーマ設定	卒業論文のテーマを話し合います。
30	まとめ	1 年の講義の成果について発表してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心を持った問題に対して，個別に文献を調べてもらいます。

【テキスト（教科書）】
講義の中で適宜紹介します。

【参考書】
講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の報告（５０％），レポート（５０％）
４年生には卒業論文を作成してもらいます。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
企業実践を調査します。

【その他の重要事項】
他の専門科目で学習した知識を基礎に、CSR や公共性、アカウンタビリティの領域に応用します。
経営学部の多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱと関連があります。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］

演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

木原　章　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①現代社会の動向を新聞を通じて探索し、②その中から何らかの形で自分と関わる問題を見いだし、③その問題意識を発展する形で研究テーマを絞り込み、④テーマを勉強する中で自分としての意見を確立し，⑤卒業研究として発表する、までの段階を勉強します。

【到達目標】
自ら発見したをテーマについて、世の中の動向を調べ、それらに対する自分なりの評価を行った上で、自分の意見を形成することを目指しています。その為に必要な、文章読解能力、データ解析能力、プレゼン能力、文章作成力等の能力を修得することを目標とします。

【授業の進め方と方法】
ゼミでは、以下のトレーニングを行います。
①自分のテーマに関係する新聞記事を適切に抽出する能力
②その記事を 200 字程度に要約する能力
③自分の調べたことを要約して発表するプレゼン能力
④そのテーマに基づいてグループディスカッションを行い、他人の意見を取り入れながら自分なりの見解を構築する能力
⑥輪読を通じて、本を読破する能力
⑤最終的に、卒業論文として自分の意見を文章でまとめ上げる能力
これらのトレーニングを通じて、社会で通用する人材形成を行います。
ゼミ内の情報交換は、全てゼミのサーバーを用い、基本的にペーパーレスで行います。必要に応じて、ノートパソコンを持参してください。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
１	新聞記事抽出・要約入門	新聞記事を 200 字程度で要約するためのトレーニングを行います。
２	記事要約・グループ学習	グループ学習のテーマ決定
３	記事要約・グループ学習	（過去の例）全国民のＤＮＡ採取の義務化は受け入れられるか？
４	記事要約・グループ学習	（過去の例）日本のゴミ問題
５	記事要約・グループ学習	（過去の例）クローン技術は是か非か
６	記事要約・グループ学習	（過去の例）捕鯨問題について
７	記事要約・グループ学習	（過去の例）臓器移植について
８	記事要約・グループ学習	（過去の例）脳死は死か？
９	記事要約・グループ学習	（過去の例）原発を無くすには？
１０	記事要約・グループ学習	（過去の例）生物多様性
１１	記事要約・グループ学習	（過去の例）ホットなバイオ市場
１２	記事要約・グループ学習	（過去の例）有用動物
１３	記事要約・グループ学習	（過去の例）遺伝子組み換え表示規制
１４	夏ゼミ合宿テーマ選定	（過去の例）バイオ燃料
１５	夏ゼミ合宿テーマ決定	（過去の例）築地移転問題
夏ゼミ合宿	各自のテーマに基づいた本のまとめ	自分で選んだ本１冊を読んで、その内容を要約し紹介してもらいます。
１	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）風力発電の可能性
２	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）原発を支えたエネルギー政策
３	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）ブラック企業
４	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）マクドナルド研究
５	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）再生医療（実状と未来）
６	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）日本のバイオベンチャー研究
７	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）地方再生
８	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）バイオミメティクス
９	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）プロスポーツビジネス
１０	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）インバンド消費
１１	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）バイオエタノールの行方
１２	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）クローン人間の悲劇性についての考察
１３	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）遺伝子組み換えの安全性
１４	４年卒論指導・３年研究テーマ周辺研究	（過去の例）日本の農業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞・テレビ・インターネットを通じて、社会で今起こっている事に注意を傾けて下さい。特に、新聞は毎日必ず目を通して下さい。

【テキスト（教科書）】
輪読のテキストは、ゼミ生の意見を聴きながら決めます。

【参考書】
参考書は必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点で成績をつけます。欠席届（事前または事後）を出さずに欠席した場合は、不合格とします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生のテーマ設定をできるだけ早い時期に行う事とします。

【学生が準備すべき機器他】
ゼミ専用の Web を使って連絡・発表を行います。必ずインターネットにアクセスできる環境を用意して下さい。

【その他の重要事項】
ゼミの基本は、自発的な活動です。何の下調べも無しに、手ぶらで参加される方は辞めていただきます。
ゼミのサイトは
http://bionews.i.hosei.ac.jp/
経営学の専門基礎科目の修得が、経営学勉強会に必要となります。
〔関連科目〕
情報と倫理、情報と職業

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］

演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

金　瑢晋　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習では、ファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）と企業財務論に大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う、金融資産への最適な投資意思決定問題を、企業財務論は、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを目的とします。

【到達目標】
・ファイナンスの基本的な考え方を身につけることが出来ます。
・資本市場の役割と株式会社の仕組みについて理解が深まります。
・株式の評価を行うことが出来ます。
・国債、社債などの債券の価格評価を行うことが出来ます。
・企業価値を求めることが出来ます。
・オプションなどの派生証券（デリバティブ）の価格評価ができるようになります。
・企業の経営者として合理的な財務意思決定を行うことが出来ます。

【授業の進め方と方法】
授業は、次のように構成されます。
①グループディスカッション
・ゼミ生は、次回の学習内容について予習を行う。
・グループ毎に、予習内容を確認し、互いの理解を深める。
・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を模索する。
・グループ毎に課題の解決策を発表する。
・他のグループからフィードバックを受ける。
・講師から補足を行う。
・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。
②プロジェクトの発表
・個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。
③出欠管理
・毎回出欠管理を行う。単位取得のためには最低限 2/3 以上の出席が義務付けられる。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	ファイナンスと金融システム	ファイナンスを学ぶ理由、企業組織の理解、企業と金融市場との関係
2	金融システムと金融市場の理解	金融仲介機能、市場利子率、金融仲介機関の理解
3	財務諸表分析	会計学とファイナンスとの接点、財務諸表の役割、財務諸表の基礎知識、簿価と時価、株主収益率、持続可能成長率
4	貨幣の時間価値	複利計算、現在価値と割引計算、年金の分析、ローンの償却、為替レートと貨幣の時間価値、インフレーションと DCF 分析、税金と投資意思決定
5	ライフサイクル・ファイナンシャル・プラニング	ライフサイクルモデルにおける貯蓄、社会保障、リースと購入
6	資本計画の基礎	プロジェクト分析の考え方、NPV ルール、IRR ルール、キャッシュフローの予測、資本コストの測定、感応度分析、インフレーションと資本計画
7	資産評価の理論	一物一価法則、無裁定機会、不動産の評価、株式の評価、効率的市場仮説
8	債券の評価	債券価格の評価、表面金利と利回りの理解、デフォルトリスクの考慮、債券価格の時間的変化
9	株式の評価	株式の理論価格、配当割引モデル、倍率法、配当政策と株価
10	リスク管理の基礎	リスクの理解、リスク管理のプロセス、リスクの移転、ヘッジング、インシュアリング、分散化、リスクの定量化
11	ヘッジングとインシュアリング	リスクヘッジの考え方、リスクヘッジのための先渡しと先物契約、オプションの利用
12	ポートフォリオ選択とリスクの分散化	ポートフォリオの分散化効果の理解、期待収益率とリスクのトレードオフ、効率的ポートフォリオ
13	資本資産評価モデルⅠ	市場ポートフォリオ、個別証券の体系的リスク、ベータの意味あい
14	資本資産評価モデルⅡ	エクセルを用いたベータの推定、CAPM と株主資本コスト
15	総括	学習内容の確認、貨幣の時間価値の重要性を確認、質疑・応答
1	先物	先物市場の経済学的役割、スポット価格と先物価格の関係、先渡し・スポット価格パリティ、外国為替レートのパリティ
2	オプションの評価Ⅰ	オプションの仕組みの理解、オプション情報の解釈、プット・コール・パリティ、ボラティリティとオプション価格
3	オプションの評価Ⅱ	オプション評価の考え方、二項モデルによる評価
4	オプションの評価Ⅲ	ブラック・ショールズ・モデルの紹介、ブラック・ショールズ・モデルの計算
5	オプションの評価Ⅳ	オプション評価モデルの応用、インプライド・ボラティリティ、オプション評価モデルの実際
6	資本構成Ⅰ	資本構成理論の理解、完全資本市場、資本構成の中立性、MM 命題
7	資本構成Ⅱ	資本構成理論における税金の重要性、支払利息節税効果の計算、MM 命題の拡張
8	資本構成Ⅲ	資本構成理論の適用、レバレッジされた投資の評価、APV, FTE, WACC 法の比較
9	ファイナンスと企業戦略	リアル・オプションの理解、リアル・オプションの種類、待機オプション、BS モデルの応用
10	東証見学	証券取引所の役割の理解、東証見学、セミナーの受講、模擬投資の体験
11-14	プロジェクト発表	個人またはチームプロジェクトの報告、問題意識と報告能力の涵養
15	総括	学習内容の確認、オプション評価理論と資本構成理論のおさらい、プロジェクト報告における改善点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
表計算ソフトを使いこなせるよう心掛けます。
日頃、経済関連ニュースに関心を持ちます。

【テキスト（教科書）】
ゼミ参加者と協議の上決めますが、ファインスの標準的なテキストが対象になります。

【参考書】
その他、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
グループワークへの貢献度 30 %
平常点（質問、コメントなど）40 %
プロジェクトの発表 30 %
に基づき総合的に評価します。
特に、出席率が低い場合、またはプロジェクトの報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】
テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、授業支援システムを利用しますので、チェックして下さい。

【その他の重要事項】
関連科目：ファイナンス論Ⅰ/Ⅱ、証券経済論Ⅰ/Ⅱ、企業財務論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

金　容度　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本を中心に各国の企業及び産業の事例についてのディスカッション、また、複数の企業間の比較分析及びグループ発表によって、企業成長のダイナミズム、経営戦略の多面性についての理解を深める。

【到達目標】
企業事例の分析とディスカッションによって、企業成長とビジネスモデルの多様性及び共通点を分析する能力を高める。また、授業中及び合宿時の報告やその準備、レポートの作成、卒業論文の準備・作成 (4 年生) などを通じて、論理的な思考とその表現のスキルを習得する。

【授業の進め方と方法】
本授業では、毎週、企業事例及び産業事例を取上げ、企業成長のダイナミズム、戦略、ビジネスモデル、企業家について多面的にディスカッションする。事例は主に日本企業であるが、海外の企業、事例企業が属している産業も多数取り上げられる。なお、ゲスト・スピーカーをお招きしてディスカッションする授業も設ける。
授業は報告者及び報告グループの報告と全員によるディスカッションという形で進められる。
なお、合宿では、企業間比較を内容とするグループ報告が行われる。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、カルビーの事例	今年度の授業内容、授業の進め方について案内する。その後、カルビーの事例を議論する。
2	ぐるなび	新興企業の戦略と現状について議論する。
3	吉野家	外食産業における企業成長過程についてディスカッションする。
4	コンビニー業界	コンビニー業界における企業間競争を議論する。
5	ドラッグストアー業界	ドラッグストアー業界における企業間競争についてディスカッションする。
6	ユニクロ	同社の成長過程及び戦略についてディスカッションする。
7	オリエンタルランド	同社の成長要因について議論する。
8	任天堂	ゲーム機産業の成長と同社の成長プロセスについてディスカッションする。
9	ANA	日本の航空産業における競争と同社の成長過程について議論する
10	ソフトバンク	同社の成長プロセスと成長要因についてディスカッションする。
11	スマートフォン市場における競争	急成長したスマートフォン市場における i-OS とアンドロイド間の競争についての議論する。
12	アップル	アップルの i-Phone の事例を取り上げ、同社の製品戦略についてディスカッションする。
13	サムスン電子	サムスン電子の液晶 TV 事業の戦略についてディスカッションする。
14	LG 電子	韓国の LG 電子のグローバル戦略を検討する。
15	卒業論文の中間報告	4 年生による卒業論文の中間報告を行う。
16	ゲスト・スピーカーによる講演	ゲスト・スピーカーをお招きして、講演を頂いた上で質疑応答する。
17	集英社	日本の代表的な出版企業の一つである同社の戦略と成長過程についてディスカッションする。
18	ルミネ	同社の戦略について考察する。
19	ヤマト運輸	同社の成長プロセスとビジネスモデルについて議論する。
20	宅配業界の変化と企業間競争	ネット通販事業の拡大を中心に、宅配企業間の競争の変化について議論する。
21	中国の SF 社 (順風速運)	中国宅配最大手の成長過程と戦略についてディスカッションする
22	大和ハウス	同社の賃貸住宅事業の展開についてディスカッションする。
23	竹中工務店	同社の成長プロセスと戦略について考察する。
24	洗剤市場における企業間競争	エコシステムという視点から、P & G、花王、ライオンなどが繰り広げた日本洗剤市場における企業間競争についてディスカッションする。
25	花王	「アタック」の開発及び事業化の事例に現れる、同社の競争戦略をディスカッションする。
26	コマツ	同社の事例を取り上げ、日本企業の海外戦略についての議論を深める。
27	セーレン	地方企業の成長戦略についてディスカッションする。
28	ゲスト・スピーカーによる講演	ゲスト・スピーカーをお招きして、講演を頂いた上で質疑応答する。
29	サントリー	同社のマーケティング戦略について議論する。
30	卒業論文の最終報告	4 年生による卒業論文の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に、毎週の事例テキストを必ず読んでディスカッションのための論点を考えたうえで、授業に参加すること。

【テキスト（教科書）】
毎回の企業事例のテキストは予め授業支援システムにアップロードする。

【参考書】
伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門 3 版』日本経済新聞社、2003 年

【成績評価の方法と基準】
授業での報告、毎週のレポート、出席と授業中の議論への貢献度、合宿時の報告内容および参加度等で評価する。なお、4 年生は、卒業論文 (発表会での報告内容、論文内容) も成績評価基準に含まれる。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
昨年度の授業改善アンケートでの意見に基づき、取り上げる企業が属している産業の事例を増やす。

【その他の重要事項】
新 2 年生も本演習授業を受講できる。
[関連科目] ゼミ生は、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、日本経営史Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱを履修することが望ましい。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］

演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

木村　純子　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、地理的表示を活用した地域活性化に関わる理論と概念を身につけます。
マーケティング論を通じて得た理論を体系的に整理し構成しながら、与えられたプロジェクト課題にチームで取り組みます。プロジェクト課題は架空のものではなく、自治体や観光地や企業が直面している実際の問題や悩みを産学連携で解決していきますので、実践的で実務的な視点が必要となります。

【到達目標】
本演習を通じて、4 つの力を習得します。
1)　身につけた「概念・理論」と「現実・（自らの）経験」を架橋する力
2)　定性的方法論を用いて、自分の足を使ってデータを集め分析する力
3)　内部者（組織や消費者）の論理的思考を理解する力
4)　自分が経験／理解したことを、他の人たちに伝え理解してもらう力

【授業の進め方と方法】
春学期は、2015 年度秋学期に引き続き十勝チーズモールウォッシュのマーケティング立案にグループで取り組みます。

秋学期は、農産物を利用した地域活性化に取り組みます。EU にならい日本でも「特定農林水産物等の名称の保護に関する法律 (地理的表示法)」が成立・公布されました。農産物と農産加工品を用いて地域経済を活性化するメカニズムを具体的な GI 登録産品を用いて明らかにします。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の紹介
第 2 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 3 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 4 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 5 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 6 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 7 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 8 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 9 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 10 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 11 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 12 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 13 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 14 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 15 回	最終報告会	グループ・プロジェクトの最終報告会
第 1 回	オリエンテーション	授業の紹介
第 2 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 3 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 4 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 5 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 6 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 7 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 8 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 9 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 10 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 11 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 12 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 13 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 14 回	グループ活動	プロジェクトの進捗状況の発表
第 15 回	最終報告会	グループ・プロジェクトの最終報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各セッションのテーマに合わせたフィールドワークをしていただきます。授業時間以外の時間とお金を費やすことになりますが、「コスト」とは思わず「（自分への）投資」だととらえてください。

【テキスト（教科書）】
石井淳蔵・廣田章光編『1 からのマーケティング第 3 版』中央経済社

【参考書】
適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】
春学期、秋学期ともに、
1)　平常点
2)　グループ活動
以上を総合的に判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
アンケート結果がまだ出ていないため、コメントできませんでした。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善に取り組みます。

【その他の重要事項】
関連科目：マーケティングに関連する科目、たとえば「マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」「サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ」「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」「マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ」「製品開発論Ⅰ/Ⅱ」「流通論Ⅰ/Ⅱ」

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

倉田　俊彦　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
参加者の興味・能力に応じて「数学やプログラミングの基礎」に関連するテーマを定め、グループ単位の学習・検討を重ねていく予定です。扱う内容を大きく分類すると以下のようになります。
(1) 今まで数学を殆どやらなかったが、この機会に少しでも数学を経験してみたいという方や、SPI や公務員試験などの問題を解く際に必要とされる数学的力量を身につけたいという方のために、様々な数学的思考に現れる基本的な型を習得する。
(2) 数学が得意な方に対しては、オペレーションズリサーチ・経営・経済に関係する実用的な話題を数学的視点から調査・考察する。
(3) 上の話題の中には興味深いアルゴリズムが沢山存在するので、それらを題材にプログラミングの練習を行う。

【到達目標】
各分類毎の具体的な到達目標は以下のようになります。
(1) 数学における基本的な問題の解法を習得しながら、最終的には多変数関数の極値の計算ができるようになる。
(2) 微積分や数理計画法などの知識を、経営・経済の様々な問題に適用した事例を理解できるようになる。
(3) 計算内容の説明からアルゴリズムの構造を理解して、その流れをプログラムとして表現できるようになる。（線形計画法で標準的に使われる計算などを想定しています。）
いずれのテーマについても内容を理解することが重要な目標となります。「理解する」ということの定義は難しいのですが、少なくとも「単に話を聞いて公式や知識を記憶すること」や「漠然と予想・想像すること」を繰り返すのではなく、「できる限り芯から考えて問題を解決する工夫を重ねること」が必要になります。その過程において、必然的に「知識を活用すること」や「考えて理解した内容を論理的に整理して、聞き手に考慮した形で伝えること」も出来るようになります。

【授業の進め方と方法】
様々な形式を考えていますが、基本的には以下の 2 つがあります。
(1) グループ毎に、数学の様々な問題を協力しながら検討・解決する練習をする。（数学検定などを利用して実力を試す機会も設けたいと考えています。）
(2) グループ毎に予備知識・興味に合ったテキストを輪講する。
これらと並行して、余裕のある人には、より具体的な課題に対して考察を行い、論文などの形で成果を纏める機会を持ちたいと考えています。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第１回	微分の定義	関数の極限値と導関数の意味を理解する。
第２回	微分の計算法	和差積商、合成関数、逆関数に関する微分の計算法を習得する。
第３回	様々な関数の微分	指数関数、対数関数に関する微分の計算法を習得する。
第４回	微分の応用	経済学に関連する微分の応用について学習する。
第５回	積分の定義	不定積分・定積分の意味、微分との関係を理解する。
第６回	積分の計算法	部分積分、置換積分の計算法を習得する。
第７回	積分の応用	具体的な例題を通して積分の応用について学習する。
第８回	多変数関数の微分	多変数関数に関する偏微分の定義と計算方法を理解する。
第９回	多変数関数の極値	多変数関数の極値の計算方法を習得する。
第１０回	多変数関数の微分の応用	経済学に関連する偏微分の応用について学習する。
第１１回	プログラミングの準備	コンパイルの方法など、Java を使用する際に必要な知識を纏める。
第１２回	Java の型と入出力文	基本的なデータ型と入出力の方法を習得する。
第１３回	Java の式	例題を通して、変数、演算子、式を利用したプログラミングを学習する。
第１４回	Java の制御文	微積分の問題を通して、制御文を利用したプログラミングを学習する。
第１５回	Java の配列	線形代数の問題を通して、配列を利用したプログラミングを学習する。
第１６回	Java のクラス	簡単な例題を通して、クラスの基本的な使用方法を学習する。
第１７回	プログラミングの応用	各自が興味を持った問題に対して、プログラムに基づく分析を行う。
第１８回	線形計画法の導入	線形計画問題の背景とその幾何学的な解法について理解する。
第１９回	線形計画法の基本定理	線形計画問題の基底解の概念や基本定理を理解する。
第２０回	線形計画法の基礎数理	行列の基本変形による連立方程式の解法を学習する。
第２１回	シンプレックス法	シンプレックス法の計算方法を理解し、プログラムを利用できるようにする。
第２２回	包絡分析法	包絡分析法による効率評価の考え方と計算方法を理解する。
第２３回	線形計画法の応用	学習した内容に関連して、各自が興味を持った事例を研究し纏める。
第２４回	意思決定の基礎数理	行列の固有値、固有ベクトルの意味と計算方法を理解する。
第２５回	階層分析法の計算方法	階層分析法による意思決定の計算方法を習得する。
第２６回	階層分析法の応用	学習した内容に関連して、各自が興味を持った事例を研究し纏める。
第２７回	ゲーム理論の導入	意思決定が同時に行われる非協力ゲームに関する基本的な概念を理解する。
第２８回	混合戦略のゲーム理論	混合戦略の定義とナッシュ均衡の存在を理解する。
第２９回	展開型のゲーム理論	展開型ゲームにより、意思決定が交互に行われる状況の分析を行う。
第３０回	ゲーム理論の応用	学習した内容に関連して、各自が興味を持った事例を研究し纏める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
輪講を行う上で、自分が担当する箇所について内容を理解し、自分の言葉で分かり易く説明できるように整理しておく必要があります。また、他の参加者が担当している部分に対しても、事前に内容を予習して質問や議論が出来るように備えておく必要があります。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
経営効率性の測定と改善（刀根薫著、日科技連、1993 年）
経済学で出る数学: 高校数学からきちんと攻める（尾山大輔、安田洋祐著、日本評論社、2013 年）
など多数使用します。学習を進めていく過程で必要となったものを随時取り入れていく予定です。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (100%) で評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
アンケートや普段のコミュニケーションから、数学の力量が高い学生や数学を重要と考えている学生が想像以上に沢山いることが分かり問題設定や難易度の参考にしています。引き続き「学生の傾向や希望」などを把握しながら、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
有益と思えるものは積極的に使用する予定です。少なくとも、PC 上でプログラミングに基づく分析を行う機会は多いと思います。

【その他の重要事項】
数学の知識・経験は特に必要としません。理解が遅くても構わないので、考えることが苦にならないという方の参加を歓迎いたします。質問・相談等に対しては、可能な限り個別に対応できるようにしたいと考えています。なお、授業計画の項目は、各分類の内容に関する具体的な目安を挙げたもので、実際はそれらをグループ単位で分担して扱います。
〔関連科目〕
基礎数学Ⅰ/Ⅱ
教養数学A/B
コンピュータの裏側

演習１・２　（2014 年度以前入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 4 単位	［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習３・４	選択＜演習＞	3 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習５・６	選択＜演習＞	4 年次／ 6 単位	［年間授業］

児玉　靖司　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に経営戦略に必要な情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学をテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、 フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】
文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。 主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【授業の進め方と方法】
[概要]
経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、CMS (Contents Management System)、LMS(Learning Management System) などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、さらに戦略活動に応用する手段について考察する。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。
[方法]
ゼミのメンバを (原則として)3 人までからなるグループに分け、2・3 年次には、目標とする分野の専門書 (教員が指定) を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらう。4 年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。
現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 時系列解析、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。特に最近では海外（米国・ヨーロッパ）に訪問し企業調査も行っている。ただし、新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもら う。さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3 年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献 (専門書) の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気を養う。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第 2 回	グループ分け、テーマ設定（1）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 3 回	グループ分け、テーマ設定（2）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 4 回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第 5 回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第 6 回	輪読（1）	選定した本の輪読を行う。
第 7 回	輪読（2）	選定した本の輪読を行う。
第 8 回	輪読（3）	選定した本の輪読を行う。
第 9 回	輪読（4）	選定した本の輪読を行う。
第 10 回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第 11 回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第 12 回	輪読（5）	選定した本の輪読を行う。
第 13 回	輪読（6）	選定した本の輪読を行う。
第 14 回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第 15 回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。
第 16 回	テーマの確認（1）	グループ毎のミーティングを行う。
第 17 回	テーマの確認（2）	グループ毎のミーティングを行う。
第 18 回	テーマ別の議論（1）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 19 回	テーマ別の議論（2）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 20 回	テーマ別の議論（3）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 21 回	テーマ別グループ発表	テーマ別に分かれて行った議論の中間発表を行う。
第 22 回	テーマ別調査研究（1）	テーマ別に仕上げの研究を行う。
第 23 回	テーマ別調査研究（2）	テーマ別に仕上げの研究を行う。
第 24 回	テーマ別調査研究（3）	テーマ別に仕上げの研究を行う。
第 25 回	テーマ別調査研究（4）	テーマ別に仕上げの研究を行う。
第 26 回	テーマ別調査研究結果発表	テーマ別に行った調査研究結果について発表を行う。
第 27 回	テーマ別研究（1）	テーマ別に仕上げの研究を行う。
第 28 回	テーマ別研究（2）	テーマ別に仕上げの研究を行う。
第 29 回	テーマ別研究（3）	テーマ別に仕上げの研究を行う。
第 30 回	まとめ	演習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】
特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】
[春学期評価] 夏休みの合宿で発表できるように、ゼミに出席、中間発 表を行うこと。
[秋学期評価] ① 演習への出席率 (原則としてすべてに出席すること)、② 2、3 年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4 年次には、卒業論文の提出 (発表) を義務とする。以上の要素から総合的に判断する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Canvas、Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】
積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的に行い、協調性をもって望むこと。
知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。
〔関連科目〕
特になし。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

近能　善範　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イノベーション・マネジメント

【到達目標】
当演習では、イノベーション・マネジメントに関わる基本的な考え方や概念などを身につけて、実践できるようになっていただくことを目標とします。

【授業の進め方と方法】
〔授業の概要〕
イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなど。及び、そうしたものを創出し、経済的利益を獲得していくプロセスのこと」を意味しています。もっと単純には、「顧客に新しい価値をもたらすようなモノやサービス、仕組みを実現し、新規需要を創出すること」と考えて差し支えありません。例えば、携帯電話やパソコン、インターネットや宅配サービスの登場などは、身近なイノベーションの事例です。
当演習がテーマとする「イノベーション・マネジメント」とは、こうしたイノベーションを『てこ』にした経営戦略－すなわち、単に「規模の経済性」を利用したり他社製品を模倣したりといった、新規性やオリジナリティを伴わない戦略ではなく、新たな顧客価値を生み出した上でそれをビジネスとして成立・成長させていくといった点を重視した戦略－について議論を行う、経営学の比較的新しい研究分野です。
当演習では、こうしたイノベーション・マネジメントを考えていく上で不可欠となる基礎的な知識や能力を、通常のゼミナール（教室）のほか、合宿や他大学ゼミとの交流会、企業へのプレゼンテーション、卒業論文作成などを通じて、実践的に身につけていきます。
〔授業方法〕
当演習は、二つのステップから構成される予定です。
まず第一のステップでは、テキストを読んで全員で討論するという作業を行い、イノベーション・マネジメントに関する基礎的な知識を身につけていただきます。本年度は、イノベーション・マネジメントの数あるトピックの中でも特に、新製品開発マネジメントに関する文献及びケースを読み進めていく予定です。ここでは、「優れた製品コンセプトを作り上げていくためにはどうしたらよいのか」という問題意識に立ち、発想に至るまでの分析手法や方法論、目の付け所といったものを身につけ、訓練を積んでいく予定です。
第二のステップでは、現実の経営現象を分析し、自らの考えをまとめ上げ、それを分かりやすく表現するトレーニングを積み重ねていくことが目標となります。
ここでは、3 年生は幾つかのグループに分かれて、学んだ知識をベースとして現実の企業事例を分析・発表し、それを全員で討論するという作業を行います。
一方、4 年生には、幾つかのグループに分かれてテーマを設定し、中間報告／卒業論文作成を行っていただきます。
スケジュール進行については、夏合宿までを第一のステップ、それ以降を第二のステップに当てる予定です。
また夏合宿では、ケースをもとにディベートを行う予定です。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	イノベーション・マネジメント (1)	ガイダンス
第 2 回	イノベーション・マネジメント (2)	戦略論の基礎 (1)
第 3 回	イノベーション・マネジメント (3)	戦略論の基礎 (2)
第 4 回	イノベーション・マネジメント (4)	戦略論の基礎 (3)
第 5 回	イノベーション・マネジメント (5)	戦略論の基礎 (4)
第 6 回	イノベーション・マネジメント (6)	戦略論の基礎 (5)
第 7 回	イノベーション・マネジメント (7)	新製品開発のマネジメント (1)
第 8 回	イノベーション・マネジメント (8)	新製品開発のマネジメント (2)
第 9 回	イノベーション・マネジメント (9)	新製品開発のマネジメント (3)
第 10 回	イノベーション・マネジメント (10)	新製品開発のマネジメント (4)
第 11 回	イノベーション・マネジメント (11)	新製品開発のマネジメント (5)
第 12 回	イノベーション・マネジメント (12)	新製品開発のマネジメント (6)
第 13 回	イノベーション・マネジメント (13)	新製品開発のマネジメント (7)
第 14 回	イノベーション・マネジメント (14)	新製品開発のマネジメント (8)
第 15 回	イノベーション・マネジメント (15)	ケース企業についてのグループ発表
第 16 回	イノベーション・マネジメント (16)	グループワーク (1)
第 17 回	イノベーション・マネジメント (17)	グループワーク (2)
第 18 回	イノベーション・マネジメント (18)	グループワーク (3)
第 19 回	イノベーション・マネジメント (19)	グループワーク (4)
第 20 回	イノベーション・マネジメント (20)	グループワーク (5)
第 21 回	イノベーション・マネジメント (21)	グループワーク (6)
第 22 回	イノベーション・マネジメント (22)	グループワーク (7)
第 23 回	イノベーション・マネジメント (23)	グループワーク (8)
第 24 回	イノベーション・マネジメント (24)	グループワーク (9)
第 25 回	イノベーション・マネジメント (25)	グループワーク (10)
第 26 回	イノベーション・マネジメント (26)	グループワーク (11)
第 27 回	イノベーション・マネジメント (27)	グループワーク (12)
第 28 回	イノベーション・マネジメント (28)	グループワーク (13)
第 29 回	イノベーション・マネジメント (29)	グループワーク (14)
第 30 回	イノベーション・マネジメント (30)	最終報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しませんが、重要な事項については適宜プリントを配布します。

【参考書】
近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』, 新世社, 2010 年。

【成績評価の方法と基準】
①出席（35 %）、②発表（20 %）、③グループ研究／卒業論文（20 %）、④議論への参加（15 %）、⑤ゼミ活動全般への寄与（10 %）、で評価を行います。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
報告・ディスカッションよりもグループワークへの要望が強いので、本年度も秋学期はグループワーク中心で授業を行いたい思います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（ワード、エクセル、パワーポイント）を使用します。

【その他の重要事項】
合宿等、通常のゼミナール（教室）以外のゼミの行事にも、基本的に参加義務があります。
また、ゼミでの議論に積極的に貢献する、意欲ある学生の参加を望みます。
なお、関連科目は技術管理論Ⅰ/Ⅱになりますので、できるだけ 3 年次に履修するようにしてください。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］

演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

坂上　学　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミでは、広く財務会計領域のトピックを扱うが、とりわけ財務情報を使った企業評価や意思決定の問題を取り上げる。また秋学期には、通常のゼミと平行して日経ストックリーグに参加し、ゼミで学んだ内容を実際の投資意思決定に応用する。

【到達目標】
本ゼミでは、財務報告が果たす役割について、会計学のほか、経済学、行動科学といった諸分野の成果を取り入れながら会計理論を概観し、会計専門家を取り巻く複雑な経済的・政治的環境を理解することを目標としている。

【授業の進め方と方法】
指定したテキストを使い、輪読形式で進める。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
初回	演習の進め方と、担当箇所の割り当て	テキストの紹介、担当箇所の割り当てをおこなう。
第 2 回	証券投資における財務諸表の役立ち（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 3 回	証券投資における財務諸表の役立ち（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 4 回	業績変化と株価動向（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 5 回	業績変化と株価動向（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 6 回	決算発表に対する株価動向（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 7 回	決算発表に対する株価動向（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 8 回	不確実性リスクの評価（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 9 回	不確実性リスクの評価（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 10 回	資本資産評価モデルの基礎（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 11 回	資本資産評価モデルの基礎（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 12 回	割引配当モデルの基礎（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 13 回	割引配当モデルの基礎（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 14 回	割引キャッシュ・フロー・モデルの基礎（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 15 回	割引キャッシュ・フロー・モデルの基礎（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 16 回	残余利益モデルの基礎（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 17 回	残余利益モデルの基礎（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 18 回	資本コストの推定（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 19 回	資本コストの推定（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 20 回	株式評価モデルの実践（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 21 回	株式評価モデルの実践（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 22 回	債権の格付け制度（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 23 回	債権の格付け制度（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 24 回	債権の格付けモデル（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 25 回	債権の格付けモデル（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 26 回	倒産予測モデルのための財務指標の有効性（1）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 27 回	倒産予測モデルのための財務指標の有効性（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッションをおこなう。
第 28 回	卒論発表（1）	4 年生による卒論内容の発表
第 29 回	卒論発表（2）	4 年生による卒論内容の発表
第 30 回	本年度ゼミの総括	本年度で学んだ内容の復習と総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストを熟読しておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは最初の講義でゼミ生と相談して決める予定である。ちなみに、昨年度は以下のテキストを使った。
桜井久勝（著）『財務諸表分析〈第６版〉』（中央経済社、税込定価 3,570 円）

【参考書】
ウィリアム・R・スコット（著）、太田康広・椎葉淳・西谷順平（訳）『財務会計の理論と実証』（中央経済社、税込定価 6,300 円）
W・H・ビーバー（著）、伊藤邦雄（訳）『財務報告革命（第 3 版）』（白桃書房、税込定価 3,465 円）

【成績評価の方法と基準】
出席（30%）
担当箇所の報告（40%）
議論への参加（30%）
出席は講義回数の 3 分の 2 以上を成績評価の条件とする。最初に割り当てた担当箇所について、各自ハンドアウトをまとめ報告を行う。報告内容と質疑応答などを総合的に判断し、最終的な評価をおこなう。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
ストックリーグへの参加など、ゼミ以外の活動について良かったという意見が多かったので、今年度も積極的にそのような活動に参加するようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
発表担当者は、必ずプレゼンテーションツール（パワーポイント等）でプロジェクターを使い発表すること。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
会計学全般の知識を前提として演習を進めるので、「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修していることはもとより、「財務会計論Ⅰ/Ⅱ」「経営分析Ⅰ/Ⅱ」「監査論Ⅰ/Ⅱ」を履修しているか、もしくは並行履修することが望ましい。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 4 単位	［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習３・４	選択＜演習＞	3 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習５・６	選択＜演習＞	4 年次／ 6 単位	［年間授業］

佐野　哲　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残っていく企業” のあり方について考える」

―

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①**経営学総論**（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②**経営社会学**（企業の社会的責任論、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返していく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、**「企業と社会の関係構造を学際的に理解すること」**です。

企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これらから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的理解には、個別企業による**社会貢献活動（CSR ： Corporate Social Responsibility）**の動きや変化を追っていくだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び同関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「“これからの企業のあり方” について意見交換ができる」レベルを目指します。

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、**社会的責任投資（SRI ： Socially responsible investment）**を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR 及び SRI の重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、楽天などを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1-2	オリエンテーション	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定と作業グループの決定
3-4	キックオフミーティング	学外交流先（ファンド担当者）による事業紹介プレゼン・意見交換
5-7	専門用語の理解	学外交流活動に最低限必要な専門用語の学習
8-10	情報収集・文献サーベイ	既存文献のサーベイ及びインターネット上でのリサーチ作業
11-12	活動計画の検討	ネットワークロジックの検討と調査企画書の作成
13-15	対象企業の活動分析①	「見える企業価値」の分析：財務情報や人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
16-18	対象企業の活動分析②	「見えない企業価値」の分析：企業文化・理念や経営者の姿勢など社会学的領域での企業分析及び評価
(13-18)	教科書の輪読	上記の分析活動と同時並行的に実施する「経営学の学び直し」及び企業経営分析への応用
19-28	学外交流活動	交流先勉強会（各種セミナーを含む）への参加、実際の投資活動、その結果評価
29	知見の取りまとめ	上記の活動から得られた諸知見のとりまとめ
30	プレゼンテーション	学外交流先に向けたプレゼンテーション及び意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループもしくは個人による「サブゼミ」の実施（授業内で処理出来なかった作業や教員による指導・指示への対応など、授業外に行う自主的なゼミ活動）と、その進捗に関する報告を求めます。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック［改訂３版］』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／ 3,000 円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点を基本としますが、各活動に関わった「社会人からの評価」を加味して評定します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRI には、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

なお、当授業の関連科目は「経営学総論Ⅰ・Ⅱ」及び「経営社会学Ⅰ/Ⅱ」です。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

佐野　嘉秀　教授　（秋学期代講：松原　光代　講師）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
変化のなかの人材マネジメントをテーマにします。少子高齢化やグローバル化、技術の高度化・IT 化といった社会・経済環境の変化のなかで、日本の雇用・労働・人事管理は変化のなかにあります。例えば、「成果主義」の導入など、正社員の働き方が変わるとともに、パート・アルバイト・契約社員などの非正社員や、派遣スタッフ・個人請負など、正社員以外の働き方で働く人も増えてきています。女性の活用や、仕事と生活の調和など、人材マネジメントにかされた課題の比重も変わりつつあります。この演習では、参加者の関心をふまえつつ、上記のような変化（もちろんそのなかで変わらないこと）にかかわる具体的なトピックに焦点をあてつつ、人事担当者や職場のマネジャー等が担う人材マネジメントの現状や課題について勉強します。

【到達目標】
①文献購読により、人材マネジメントに関する基本的な考え方を理解すること、②ディスカッションを通じて、参加者の意見を取り入れながら自分やグループの考えをまとめる力をつけること、③研究報告を行う中で、自分やグループの関心に基づき研究課題を設定し、文献調査やインタビュー調査等を行い、分析し、発表する力をつけることを授業の到達目標とします。

【授業の進め方と方法】
参加者の報告と議論、教員からの講義を組み合わせてすすめていきます。実務の人を招いて話しを聞くこともあります。ゼミ形式ですから、授業計画を基本に、参加者の希望や学習状況等に合わせて、各回のテーマは柔軟に設定します。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミのテーマや進め方についての情報共有およびゼミ内での役割分担の決定
2	文献研究①	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
3	文献研究②	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
4	グループ研究①	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL = Problem Based Learning）
5	文献研究③	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
6	文献研究④	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
7	総合研究①	春学期前半の学習の振り返り、および春学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定
8	グループ研究②	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL = Problem Based Learning）
9	グループ研究③	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL = Problem Based Learning）
10	グループ研究④	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL = Problem Based Learning）
11	実態調査①	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
12	グループ発表①	グループ研究の成果発表とディスカッション
13	グループ発表②	グループ研究の成果発表とディスカッション
14	グループ発表③	グループ研究の成果発表とディスカッション
15	総合研究②	春学期における学習内容の振り返りとまとめ
16	総合研究③	春学期および夏合宿での学習内容の振り返り、および秋学期の学習テーマ等の確認
17	グループ研究⑤	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL = Problem Based Learning）
18	グループ研究⑥	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL = Problem Based Learning）
19	グループ研究⑦	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL = Problem Based Learning）
20	総合研究④	秋学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定
21	文献研究⑤	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
22	グループ研究⑧	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL = Problem Based Learning）
23	実態調査②	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
24	文献研究⑥	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
25	文献研究⑦	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
26	実態調査③	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
27	グループ発表④	グループ研究の成果発表とディスカッション
28	グループ発表⑤	グループ研究の成果発表とディスカッション
29	グループ発表⑥	グループ研究の成果発表とディスカッション
30	総合研究⑤	１年間の学習内容の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１）演習であつかう課題文献を読みコメントを考えまとめる、２）演習での報告の準備（文献データ収集や調査、報告用資料の作成等）を行います。このほか、授業期間外のイベントとして、夏に合宿形式のゼミを開催します。

【テキスト（教科書）】
とくに教科書はありません。

【参考書】
文献については、授業のなかで紹介します。そのほか、重要な文献を自分で探すことも、参加者にとって大事な課題です。

【成績評価の方法と基準】
毎回、出席することが評価の前提です。そのうえで、課題をこなしていることや、報告、議論への積極的な参加を重視して成績を評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
今年度も、参加者の意見を積極的に取り入れ、考える力を養える演習を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】
マスコミなどにあふれる雇用・労働・人事管理にかかわる主張には、ステレオタイプや根拠のないものも少なくありません。そうしたなかにあって、自分で調べ、考え、判断する力を参加者に身につけてもらいたいと思います。
〔関連科目〕
人的資源管理Ⅰ/Ⅱ

演習１・２　（2014 年度以前入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 4 単位	［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習３・４	選択＜演習＞	3 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習５・６	選択＜演習＞	4 年次／ 6 単位	［年間授業］

高橋　理香　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

［テーマ］　国際経済学・理論経済学・法と経済学

経済学を通じて、論理的思考の方法を学びます。経済学の理論と現状について理解を深め、経済学の分析手法や考え方を学びます。また、現実経済に対するより深い理解と英語のスキルアップを目指して、英字新聞、雑誌記事に関する考察を報告してもらいます。さらに、英語での簡単なスピーチにも挑戦していただきます。2・3 年生は、インターゼミナールでのグループ発表に取り組んでもらいます。4 年生は、3 年次までの学習を踏まえて卒業論文に取り組んでもらいます。

【到達目標】

①経済学を理論的・実証的に理解します
②経済学的思考方法を身につけます
③英語文献をよむことにより英語読解力を身につけます
④英語によるスピーチを行うことにより英語コミュニケーション力を高めます
⑤通常のゼミやインターゼミナールなどでの発表により、発表のスキル、論文作成のスキルを高めます

【授業の進め方と方法】

①テキストを用いた発表と議論（グループ報告）
②英字新聞記事を用いた発表と議論（グループ報告）
③インターゼミナールでの発表論文作成（グループ報告）
④英語によるスピーチ: Show and Tell
⑤卒業論文の報告

文章の書き方・発表の仕方・コンピュータツールの使い方・図書館やデータベースの使い方などの技術についても学びます。

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要の説明
2	発表のコツについて	レジュメの作成方法や効果的な発表の仕方について学びます
3	図書館ツアー	図書館やデータベースの使い方などを学びます
4-7	経済理論および現実の経済に関する学習	テキストの輪読 英語文献の要約と考察 Show and Tell
8	卒業論文の中間発表①	卒業論文のテーマを発表します。
9-13	経済理論および現実の経済に関する学習	テキストの輪読 英語文献の要約と考察 Show and Tell
14	卒業論文の中間発表②	卒業論文のプロポーザル作成し、発表します。プロポーザルでは、テーマ・目的意識・先行研究・参考文献と今後の計画を記述します。
15	まとめ	春学期の授業の総括を行います。
16	イントロダクション	春学期の復習と秋学期の概略を説明します。
17	インターゼミナールのテーマおよびプロポーザル発表	インターゼミナールで発表するテーマと今後の計画を発表します。
18-22	日常生活を経済学的な視点から分析する	テキストの輪読 英語文献の要約と考察 Show and Tell
23	卒業論文中間報告③	卒業論文の進捗状況を発表し、アドバイスを受けます。
24-26	日常生活を経済学的な視点から分析する	テキストの輪読 英語文献の要約と考察 Show and Tell
27	インターゼミナール発表準備	インターゼミナールでの発表の練習を行います。
28-29	日常生活を経済学的な視点から分析する	テキストの輪読 英語文献の要約と考察 Show and Tell
30	卒業論文最終報告	卒業論文の最終発表と秋学期の授業の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学生による報告を行いますので、担当者は事前に発表の準備をする必要があります。レジュメの作成は必須です。また、夏休みのゼミ合宿・他大学とのインターゼミナール・OB 会を行っています。さらに、4 年生には、卒業論文の作成を義務付けています。

【テキスト（教科書）】

例年、春学期は理論経済学または国際経済学のテキストを輪読し、秋学期は洋書の経済読み物を輪読しています。2016 年度のテキストは初回の講義の際に説明します。

【参考書】

近年のゼミで使用したテキストは以下の通りです。

【ミクロ経済学・経営経済学・法と経済学・その他】

丸山雅祥『経営の経済学　新版』有斐閣、2011 年。

矢野誠・中澤正彦『なぜ科学が豊かさにつながらないか？』慶應義塾大学出版会、2015 年。

Levitt, S. and S. Dubner, *Freakonomics,* Harper Collins Publishers, 2005.

【国際経済学・その他】

石川城太・椋寛・菊池徹『国際経済学をつかむ　第 2 版』有斐閣、2013 年。

藤井英次『コア・テキスト国際金融論第 2 版』サイエンス社、2013 年。

Acemoglu, D. and J. A. Robinson, *Why Nations Fail: The Origins of Power, Prosperity, and Poverty*, Profile Books Ltd, 2013.

【成績評価の方法と基準】

【２・３年生】
平常点・ゼミへの貢献度：５０％
発表内容・インターゼミでの発表論文作成への貢献度：５０％
【４年生】
卒業論文：５０％
平常点・ゼミへの貢献度：２５％
発表内容：２５％

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

英語のスピーキングの機会をゼミで得たいとの要望があったため、2014 年度から英語のスピーチ、Show and Tell を導入しています。

また、学生からの積極的な発言を引き出すため、どのような工夫が必要かをゼミ生自身に考えてもらいたいと思っています。2016 年度には、そのための取り組みをゼミの時間に設け、実行したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでの発表を通じて、パワーポイントを使った効果的な報告の仕方を学びます。また、毎回の授業では、パソコン（自分のパソコンでも貸与パソコンでも可）を用意して発表します。

2014 年度には、対外的な情報発信を目的として、SNS 上にゼミのページを作成しました。2015 年度には、卒業生・現役生のためのページを SNS 上に作成しました。2016 年度は、そのページを継承し、学生の皆さんにアップデートしていただきたいと考えています。

【その他の重要事項】

①国際経済論Ⅰ/Ⅱを併せて履修することを強くすすめます。また、これまでミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱを履修していない場合は、今年度履修することをすすめます。2016 年度には、「例題で学ぶミクロ経済学入門」も開講されます。
②主体性のある学生の参加を希望します。ゼミでの自由度は比較的高いと思いますが、何をしても良いというわけではありません。節度ある行動をお願い致します。
③本ゼミは 4 年次に卒業論文が必須です。
注意：出席をとります。無断欠席は論外、到底納得できない理由による欠席も評価に強く反映されます。

例年、通常の学習の他、ゼミ合宿（夏）、他大学とのインターゼミナール、本ゼミ卒業生との交流会（OB 会、卒業生による仕事と勉強に関するパネルディスカッション）なども行っています。履修者は、これらへの参加も求められます。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］

演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

竹内　淑恵　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期には、基本的な文献やテキストの輪読、実務における事例および新聞・雑誌記事等を材料にしたグループ討論を中心に学ぶ。あわせて、秋学期から分析ツールとして用いる SPSS を実習する。
秋学期には、実践としてのマーケットリサーチ (含む企業へのヒアリング)、それに対するディスカッションとレポートの作成を行う。これらを通してマーケティング (特に広告、コミュニケーション、ブランディング関連) を学ぶ。

【到達目標】
・マーケティング関連のテーマに関して、①論文を読んで理解する、②関連情報を調べる、③自分の意見・考えを持つ、④それらを取りまとめて、プレゼンする。
・文章作成力、情報収集・分析・発信力、状況判断・行動力など就業力に関わる総合力を身につける。

【授業の進め方と方法】
・グループに分かれて文献やテキスト、リサーチの内容を報告し、それをもとに全員で議論する。
・サブゼミや合宿 (年 2 回) も実施する。
・大教室での授業と異なり、ゼミへは受け身ではなく毎回積極的な参加が必須である。それに見合うだけの指導を実施する。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方を説明するとともに、テキスト輪読担当とグループワークのメンバーを決定する。
2	テキスト輪読と統計解析の実習 (1)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 1 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
3	テキスト輪読と統計解析の実習 (2)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 2 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
4	テキスト輪読と統計解析の実習 (3)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 3 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
5	テキスト輪読と統計解析の実習 (4)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 4 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
6	関東学生マーケティング大会の研究テーマと卒論テーマ (1)	研究テーマについて 2，3 年生の各班、卒論班がそれぞれ発表し、全員で内容を検討する。
7	テキスト輪読と統計解析の実習 (5)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 5 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
8	テキスト輪読と統計解析の実習 (6)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 6 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
9	テキスト輪読と統計解析の実習 (7)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 7 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
10	関東学生マーケティング大会の研究テーマと卒論テーマ (2)	前回発表した研究テーマを各班が精査した上で、2 回目の発表を行い、全員で内容を検討する。
11	テキスト輪読と統計解析の実習 (8)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 8 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
12	テキスト輪読と統計解析の実習 (9)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 9 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
13	テキスト輪読と統計解析の実習 (10)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 10 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
14	関東学生マーケティング大会の研究テーマと卒論テーマ (3)	これまでの発表に基づき、研究テーマを決定し、仮説を設定する。
15	春学期まとめ	春学期に学習したマーケティング専門書、統計分析の入門書についてまとめを行う。
16	グループ研究の進捗報告 (1)	2，3 年生の各班はアンケート調査票を作成し、報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
17	グループ研究の進捗報告 (2)	2，3 年生の各班は前週の指摘を踏まえて、修正した調査票を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
18	グループ研究の進捗報告 (3)	2，3 年生の各班とも調査票を確定し、実査を行う。
19	グループ研究の進捗報告 (4)	2，3 年生の各班は収集したデータの分析を始め、その一部を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
20	グループ研究の進捗報告 (5)	2，3 年生の各班は引き続きデータ分析の結果を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
21	グループ研究の進捗報告 (6)	2，3 年生の各班は仮説検証の結果を報告する。
22	グループ研究の進捗報告 (7)	2，3 年生の各班は分析結果に基づいて、インプリケーションを含め、研究の全体について報告する。
23	次年度入ゼミ試験	次年度入ゼミの 1 次試験 (面接) を行う。
24	関東学生マーケティング大会の発表準備 (1)	関東学生マーケティング大会の発表に向け、練習を行う。
25	関東学生マーケティング大会の発表準備 (2)	前回発表で指摘のあった点を修正し、再度発表練習を行う。
26	関東学生マーケティング大会の振り返り	発表について振り返り、成果と反省点を報告する。
27	卒論グループによる研究発表 (1)	分析結果を報告する。
28	卒論グループによる研究発表 (2)	再分析の結果を報告する。
29	卒論グループによる研究発表 (3)	研究成果について最終プレゼンを行う。
30	1 年間のゼミ総まとめ	関東学生マーケティング大会の成果と今後の課題について、全員で検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・サブゼミや関東学生マーケティング大会への積極的な参加と貢献を行う。
・論文の書き方を学び、実際にテーマを決め、文章化する。
・毎年学内懸賞論文に応募し、成果を上げているので、今年度も応募する。

【テキスト（教科書）】
①マーケティング関連の専門書については、ゼミ生と相談の上、春合宿までに決定する。
②統計分析の入門書：小塩真司 (2004)『SPSS と Amos による心理・調査データ解析―因子分析・共分散構造分析まで』東京図書。
上記 2 冊を春学期テキストとして使用する。

【参考書】
マーケティング論Ⅰ/Ⅱのテキスト『マーケティングの基礎と潮流』(八千代出版)
その他については、ゼミ開講時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
・個人報告、グループ討議、出席率により総合的に判断し、評価する。
・2、3 年生は進級レポート、4 年生は卒論を提出する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
・例年スケジュール管理が甘くなり、せっかく進めた研究が仕上げの段階で時間不足になるので、今年度は関東学生マーケティング大会のスケジュールを厳格に守り、余裕をもって研究を進める。
・4 年生の卒論も同様にスケジュール管理を徹底する。

【学生が準備すべき機器他】
ゼミでの報告・プレゼンは PC を用い、パワーポイントで行う。
レポートや卒論の作成には、ワードとエクセルが必要となる。
また、統計分析においては SPSS を用いることになる。

【その他の重要事項】
・報告・連絡・相談 (報・連・相＝ホウレンソウ) をキチンとできることがすべての基本。これを忘れずに実践してほしい。
・欠席の場合は事前に連絡する必要がある。欠席が多い場合は単位取得ができないので注意すること。
・2 年生はマーケティング論Ⅰ/Ⅱ、3 年生以上は消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなどマーケティング関連の専門科目を履修し、マーケティング関連の知識を得た上で、ゼミで積極的に発言できるようにしてほしい。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

田路　則子　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新しい産業をおこし、企業が成長していく原動力ともいえるイノベーションを、「新規事業とスタートアップのマネジメント」の視点から考察していく。既存企業が成長するためにチャレンジする新規事業と急成長するスタートアップ、つまりベンチャー企業のマネジメントを取り上げる。特に、グローバル人材の養成が実業界から求められていることを勘案して、英語の強化を併せて行う。

【到達目標】
ケース・スタディによって分析と議論を行い、戦略的視点を養う。
ビジネスプランの作成と応募により、実践的なプランニング能力とプレゼンテーション能力を養う。
実務家の講演やケースを通じてキャリア・デザインについて考える。
学内の英語の講義を並行受講したり、記事を読むことによって英語の能力を向上する。

【授業の進め方と方法】
ケース・スタディは、日本や米国の新規事業やスタートアップのマネジメントを取り上げたケースを事前に読んできて、小数で議論を行って発表する。
ビジネスプランニングの能力を養うために、財務、会計を含めた基礎知識を復習しながら、ビジネスプランニングの手法を学ぶ。2 年目の学生がリーダーシップを取りながら、チームで、ビジネスのアイデア創出から、コンセプトづくり、戦略設定、オペレーション策定までを行う。学生向けのビジネスプランコンテストに応募することを目標とする。予定しているコンテストは、東京都、ビジネスキャンパスグランプリ等である。
当ゼミは、米国シリコンバレーの視察をゼミ合宿と位置付けることもある。また、連携しているスタートアップやベンチャー・キャピタルへのインターンシップに参加する学生も多い。活発な活動への積極的参加を期待している

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1 回	ビジネスプランとは	要素の説明
2 回	財務知識の確認	BS/PL、Cash Flow
3 回	スタートアップのケース・スタディ 1	米国の事例
4 回	スタートアップのケース・スタディ 1	米国の事例
5 回	ゲート 1：アイデア発表	各自の発表
6 回	外部スピーカー	起業家
7 回	スタートアップのケース・スタディ 2	日本の事例
8 回	スタートアップのケース・スタディ 2	日本の事例
9 回	ゲート 2 ：ビジネス・コンセプトの発表	チーム発表
10 回	スタートアップのケース・スタディ 3	日本の事例
11 回	スタートアップのケース・スタディ 3	日本の事例
12 回	ビジネスプランおよびスタートアップの投資評価技法	投資実務の説明
13 回	ゲート 3:マーケテイングおよび財務計画発表	チーム発表
14 回	再検討	チーム作業
15 回	コンテスト応募前のブラッシュ・アップ	各チーム準備
1 回	新規事業のマネジメント	解説
2 回	新規事業のケース・スタディ 1	サービス産業
3 回	新規事業のケース・スタディ 1	サービス産業
4 回	日本企業の新規事業を担う組織体制	解説
5 回	新規事業のケース・スタディ 2	製造業
6 回	新規事業のケース・スタディ 2	製造業
7 回	外部スピーカー	新規事業担当者
8 回	新規事業のケース・スタディ 3	製造業
9 回	新規事業のケース・スタディ 3	製造業
10 回	キャリア・デザイン	理論と実例
11 回	新規事業のケース・スタディ 4	製造業
12 回	新規事業のケース・スタディ 4	製造業
13 回	新規事業のケース・スタディ 5	海外事例
14 回	新規事業のケース・スタディ 5	海外事例
15 回	卒論発表	4 年生

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回のケースを読み、事前にメモを提出する。

【テキスト（教科書）】
「ハイテク・スタートアップの経営戦略」田路則子, 露木恵美子　東洋経済新報社

【参考書】
「アントレプレナーシップ」ウィリアム・バイグレイブ, アンドリュー・ザカラキス, 日経 BP 社
「新規事業はなぜ成功しないのか」大江健　日本経済新聞社

【成績評価の方法と基準】
毎回のメモ、議論への貢献が個人としての評価であり、ビジネスプランニングはグループとしての評価になる。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
サブゼミの時間を設定して、密度の濃いゼミナールとしたい。

【学生が準備すべき機器他】
PC VTR

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
製品開発論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

筒井　知彦　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業会計のルールとディスクロージャーについて学び、企業分析を行う。
①経営戦略分析（定性分析）と②有価証券報告書にもとづく財務分析（定量分析）をもとに企業分析を行う。
①について
　通常、企業分析ではまず、定性分析が行われる。すなわち、競争優位を獲得するための経営戦略分析を通じて、事業の成功要因や事業リスクが明らかにされる。2 年次に履修した「経営戦略論」の知識をもとに、新聞、雑誌、文献、有価証券報告書などの検討をつうじて、選択した業界および各社の経営戦略について調べる。
②について
　企業会計のルールと考え方については 2 年次に履修した「会計学入門」および 3 年次に履修する会計関係科目の知識を前提に、不足する部分を学習する。また、有価証券報告書を読むための基本的な分析手法を身に付ける。次に、①で分析した戦略が実際の成果となっているかどうか、有価証券報告書をもとに財務分析を行う。この作業により、有価証券報告書を読みこなせるよう指導したい。
　以上の分析では、業界及び企業の選択はゼミ生諸君と相談のうえで決定することにしたい。

【到達目標】
①さまざまな会計ルールを理解できる、②財務諸表を読める、③実際の企業の経営戦略の知識が増える、④企業分析ができる、⑤チームで力を発揮できる、⑥プレゼンテーション能力が向上する。

【授業の進め方と方法】
〔授業の概要〕
進め方としては、チーム制を採用し、学生の発表を中心に進める。同一業界から各自 1 社（合計 3、4 社）を選択し、チームごとに財務分析及び経営戦略分析に関する報告を重ね、その結果をレポートにまとめる。それにより、選択した業界について認識を深めてもらいたい。
〔授業の方法〕
　①　チーム制による報告及び議論、②　レジュメ作成
〔授業計画〕
2015 年度はゼネコン、鉄道、製薬の 3 業界を分析したので、以下の授業計画には 2015 年度のスケジュールを記載した。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼネコン業界の分析①（経営戦略分析）	ゼネコン業界の仕組み、特徴、経営戦略、問題点の報告とディスカッション
第 2 回	ゼネコン業界の分析②	大林組の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 3 回	ゼネコン業界の分析③	大成建設の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 4 回	ゼネコン業界の分析④	鹿島建設の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 5 回	ゼネコン業界の分析⑤	清水建設の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 6 回	鉄道業界の分析①	鉄道業界の仕組み、特徴、経営戦略、問題点の報告とディスカッション
第 7 回	鉄道業界の分析②	東急電鉄の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 8 回	鉄道業界の分析③	小田急電鉄の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 9 回	鉄道業界の分析④	京王電鉄の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 10 回	鉄道業界の分析⑤	東武鉄道の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 11 回	製薬業界の分析①	製薬業界の仕組み、特徴、経営戦略、問題点の報告とディスカッション
第 12 回	製薬業界の分析②	武田薬品工業の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 13 回	製薬業界の分析③	アステラス製薬の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 14 回	製薬業界の分析④	第一三共の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 15 回	製薬業界の分析⑤及びまとめ	エーザイの特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション、および、春学期の振り返りと秋学期に向けてのＰＤＣＡプラン策定
第 16 回	ゼネコン業界の財務分析①（定量分析）	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第 17 回	ゼネコン業界の財務分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固資産回転率の報告とディスカッション
第 18 回	ゼネコン業界の財務分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション
第 19 回	ゼネコン業界の財務分析④	成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション
第 20 回	ゼネコンの財務分析⑤	その他指標の分析：ＲＯＥ、ＲＯＡ、ＲＯＥの 3 分解、ＣＶＰ分析の報告とディスカッション
第 21 回	鉄道業界の財務分析①	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第 22 回	鉄道業界の財務分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固資産回転率の報告とディスカッション
第 23 回	鉄道業界の財務分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオ、成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション
第 24 回	鉄道業界の財務分析④	その他指標の分析：ＲＯＥ、ＲＯＡ、ＲＯＥの 3 分解、ＣＶＰ分析の報告とディスカッション
第 25 回	入ゼミ試験	次年度入ゼミ希望者へのオープンゼミ、面接試験
第 26 回	製薬業界の財務分析①	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第 27 回	製薬業界の財務分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固資産回転率の報告とディスカッション
第 28 回	製薬業界の財務分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオ、成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション
第 29 回	製薬業界の財務分析④	その他指標の分析：ＲＯＥ、ＲＯＡ、ＲＯＥの 3 分解、ＣＶＰ分析の報告とディスカッション
第 30 回	まとめ	秋学期の振り返りと最終プレゼンテーションとなる春合宿へ向けてのＰＤＣＡプラン策定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
3 年生はグループ報告に向けて各自が報告準備を整えるとともに、グループで集まり、報告内容について議論すること。4 年生は卒業論文報告会に向けて準備を行うこと。

【テキスト（教科書）】
開講時に説明する。

【参考書】
桜井久勝『財務諸表分析第 4 版』中央経済社
パレプ他『企業分析入門第 2 版』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】
出席状況とグループワークをもとに評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
グループ研究、ディスカッションの進め方について参加者と相談することにしたい。

【その他の重要事項】
関連科目：財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

豊田　敬　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマの範囲は、決定理論（ゲーム理論を含む）and/or 統計学。
各期毎に選択した理論的テーマを素材にし、自主的な相互学習の促進を通じて、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を涵養することを目標とする。

【到達目標】
抽象的な素材であっても議論ができるようにすること。

【授業の進め方と方法】
「本ゼミ」は全員参加によるテキストの輪読で、内容の精読に慣れてからレジュメやパワーポイント等を使用したプレゼンテーションに進む。その準備のために春合宿を行なう。
夏合宿は「本ゼミ」の延長か、新テーマの教材のウォーミングアップである。
「本ゼミ」以外に、隔月に 1 冊程度、指定された書籍の読書感想やコメントのレポートを提出し、ディスカッションの素材にする。
4 年生はゼミの「卒論（2 万字程度）」が課される（必須）。ゼミ論集を刊行して全員の「卒論」を掲載する。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第１回	Introduction to the Paperback Edition & Preface	Smart Choices provides a roadmap for good decision. Smart Choices is clear and easy to understand.
第２回	Making Smart Choices	How to think about your whole decision problem.
第３回	Problem Ｒの実習	How to define your decision problem to solve the right problem.
第４回	Objectives Ｒの実習	How to clarify what you're really trying to achieve with your decision.
第５回	Alternatives Ｒの実習	How to make smarter choices by creating better alternatives to choose from.
第６回	Concequences Ｒの実習	How to descrive how well each alternative meets your objectives.
第７回	Tradeoffs Ｒの実習	How to make tough compromises when you can't achieve all your objectives at once.
第８回	Linked Decisions Ｒの実習	How to plan ahead by effectively coodinating current and future decisions.
第９回	Uncertainty Ｒの実習	How to think about and act on uncertainties affecting your decision.
第 10 回	Risk Tolerance(1) Ｒの実習	How to account for your appetite for risk.
第 11 回	Risk Tolerance(2) Ｒの実習	How to quantify risk tolerance with desirability scorering.
第 12 回	Psychological Traps(1)	How to avoid some of the trics your mind can play on you when you're deciding.
第 13 回	Psychological Traps(2)	continued
第 14 回	The Wise Decision Maker	How to make smart choices a way of life.
第 15 回	事例研究	提示された事例の分析とディスカッション
第１回	経営意思決定論への誘い	意思決定の解剖、システムⅠ思考とシステムⅡ思考、限定合理性、判断ヒューリスティクス。
第２回	共通するバイアス (1)	availability heuristic, representativeness heuristic.
第３回	共通するバイアス (2)	confirmation heuristic, integration and commentary.
第４回	Bounded Awareness	inattentional blindness, change blindness, focalism and the focusing illusion.
第５回	フレーミングと選考逆転 (1)	framing and the irrationality of sum of our choices.
第６回	フレーミングと選考逆転 (2)	mental accounting, do no harm, the omission biase, and the status quo.
第７回	意思決定に及ぼす動機と感情の影響	感情と認知が衝突するとき、 positive illusion.
第８回	The Escalation of Commitment	the unilateral escalation, the competitive escalation.
第９回	意思決定における公正と倫理	公正の知覚、 倫理観の限界。
第 10 回	投資に見られる共通の過ち	まずい投資決定の心理
第 11 回	交渉における合理的意思決定	諸交渉への決定分析アプローチの適用。
第 12 回	Negotiator Cognition	パイの大きさ固定の神話、 コンフリクトのエスカレーション。
第 13 回	意思決定の改善	改善のための諸戦略
第 14 回	事例考察とまとめ	若干の事例分析とディスカッション。
第 15 回	「卒論」発表会	４年生によるプレゼンテーションと質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表の準備：グループ学習をすること。

【テキスト（教科書）】
・*Smart Choices*, Broadway Books.
・*Judgment in Managerial Decision Making* (7th ed.), Wiley.
（『行動意思決定論』白桃書房）

【参考書】
Recommended Readings のリストを配布する。

【成績評価の方法と基準】
発表内容（60 %）、平常点（40 %）。
４年生は、就職活動後ゼミに完全復帰して、「ゼミ卒論」を提出することが単位取得のための最低要件。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
英文のアバウト訳では内容を正しく理解するのが困難になることがある。英英辞典（例えば OALD）で確認することの必要性が分かるような指導をしたい。

【学生が準備すべき機器他】
発表およびＲ実習のためのノート PC。

【その他の重要事項】
事前に履修すべき関連科目：ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ、基礎統計学Ⅰ／Ⅱ。
関連科目：戦略的意思決定論Ⅰ／Ⅱ。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

長岡　健　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「創造的なコラボレーションのデザイン」

このテーマに関連した幅広い活動を行い、体験的な学習に取り組みます。具体的には、ワークショップへの参加や企画運営、フィールドワークの実践、ウェブサイトの運営などを通じて、創造的な「人と人のつながり方／かかわり方」（＝コラボレーション）の可能性を探っていきます。

【到達目標】
1) 未知の世界に一人で踏み出していく
2) ローコンテクストなコラボを実践できる
3) ソーシャルなことを自分事として語る
4)「デザイン思考」を日常的に実践する
5) 言語表現（書く／発表する）を体得する
6) メディアを自由自在に使いこなす

【授業の進め方と方法】
「経験する」「表現する」「振り返る」という活動を中心とした参加体験型で進めます。具体的には、ワークショップ（参加・企画運営・開発）、ゲストや他大学ゼミとの合同セッション、読書会、フィールドワーク、実験的学習イベントの企画・運営など、できる限り多様なものに取り組んでいきます。
参加メンバーは、これらの活動に参加する中で、自分の考え方や振舞い方が変化していくプロセスを実体験しながら、「創造的なコラボレーションのデザイン」についての考察を進めていくことが求められます。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ソーシャルデザイン (1)	「ソーシャルデザイン」について考えるワークショップを実施
第 2 回	ソーシャルデザイン (2)	ゲストを迎え、「ソーシャルデザイン」に関するオープンゼミを開催
第 3 回	ソーシャルデザイン (3)	「ソーシャルデザイン」に関する読書会を実施
第 4 回	越境活動 (1)	「越境活動」について考えるワークショップを実施
第 5 回	越境活動 (2)	「越境活動」について考えるフィールドワークを実施
第 6 回	越境活動 (3)	ゲストを迎え、「越境活動」に関するオープンゼミを開催
第 7 回	越境活動 (4)	「越境活動」に関する読書会を実施
第 8 回	コラボレーション (1)	「コラボレーション」について考えるワークショップを実施
第 9 回	コラボレーション (2)	ゲストを迎え、「コラボレーション」に関するオープンゼミを開催
第 10 回	コラボレーション (3)	「コラボレーション」について考えるフィールドワークを実施
第 11 回	コラボレーション (4)	「コラボレーション」に関する読書会を実施
第 12 回	メディアの創造力 (1)	フリーペーパー『F & N 第 4 巻』の編集
第 13 回	メディアの創造力 (2)	ゲストを迎え、「メディア・創造性・学び」に関するオープンゼミを開催
第 14 回	メディアの創造力 (3)	フリーペーパー『F & N 第 4 巻』の編集
第 15 回	メディアの創造力 (4)	春学期に各メンバーが取り組んできたプロジェクトの成果報告会を実施
第 16 回	場のデザイン (1)	秋学期の活動に関する構想と計画の作成
第 17 回	場のデザイン (2)	ゲストを迎え、「場のデザイン」に関するオープンゼミを開催
第 18 回	ソーシャル＆イノベーション (1)	「ソーシャル＆イノベーション」に関する読書会を実施
第 19 回	ソーシャル＆イノベーション (2)	「ソーシャル」について考えるワークショップを実施
第 20 回	ソーシャル＆イノベーション (3)	「イノベーション」について考えるワークショップを実施
第 21 回	ソーシャル＆イノベーション (4)	ゲストを迎え、「ソーシャル＆イノベーション」に関するオープンゼミを開催
第 22 回	ソーシャル＆イノベーション (5)	「ソーシャル＆イノベーション」について考えるフィールドワークを実施
第 23 回	デザイン思考 (1)	「デザイン思考」に関する読書会の実施
第 24 回	デザイン思考 (2)	ゲストを迎え、「デザイン思考」に関するオープンゼミを開催
第 25 回	デザイン思考 (3)	2015 年度の活動に関する構想と計画の検討
第 26 回	物語と対話 (1)	フリーペーパー『F & N 第 5 巻』の編集
第 27 回	物語と対話 (2)	フリーペーパー『F & N 第 5 巻』の編集
第 28 回	物語と対話 (3)	ゲストを迎え、「物語と対話」に関するオープンゼミを開催
第 29 回	物語と対話 (4)	卒業制作の発表および振り返り
第 30 回	ラップアップ	秋学期に各メンバーが取り組んできたプロジェクトの成果報告会を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミ時間中に「経験する」「表現する」「振り返る」を全て体験できるように活動はデザインされています。ただし、ゼミ以外の時間に活動することが、充実した学びを実現するためには必要です。そこで、参加メンバーには、ワークショップやフィールドワークの準備、その成果の記録／記述、体験の振り返りを「ゼミ以外の時間」に行ってもらいます。
また、参加メンバーは自分の興味・関心をもとにプロジェクトを企画・実施していきます。そして、ゼミ時間内の様々な活動や、フィールドワーク等を通じて新たな出会いを繰り返しながら、自分の関心・興味を深めていきます。

【テキスト（教科書）】
特にありません。（但し、「読書会」での課題図書は授業開始後に指定します。）

【参考書】
・グリーンズ編『ソーシャルデザイン』朝日出版社
・ソーシャルデザイン会議実行委員会 『希望をつくる仕事 ソーシャルデザイン』宣伝会議
・ピンク, D.『モチベーション 3.0』講談社
・上田信行『プレイフル・シンキング』宣伝会議
・加藤文俊『キャンプ論』慶應義塾大学出版会
・レイノルズ，G『プレゼンテーション ZEN』ピアソン桐原
・松下慶太『デジタル・ネイティブとソーシャルメディア』教育評論社
・奥出直人『デザイン思考の道具箱』早川書房
・中原淳・長岡健『ダイアローグ　対話する組織』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
参加体験型の活動が中心となるため、基本的に毎回出席することを前提とし、読書会での発表、ミニワークショップの開発・企画・運営、プロジェクトの成果、振り返りエッセイなどを加味して、総合的に評価します。さらに、活動への貢献度も重視します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
今年度は「フィールドワーク」と「メディア活用」に積極的に取り組みます。

【学生が準備すべき機器他】
facebook、twitter、blog などネットワークを活用したコミュニケーション活動を積極的に展開していきます。また、フィールドワークでは、画像／映像で活動を記録していきます。そのため、ゼミ参加メンバーには、自分の使用する PC やスマホなどのメディア環境を整えてもらいます。

【その他の重要事項】
「創造的なコラボレーションのデザイン」にチャレンジする第一歩は、私たち自身が活動する場（＝ゼミ）を、活動的で対話的な“アトリエ”のような場にしていくことだと思います。既成概念にとらわれることなく、様々な関係性と活動の可能性を探求する姿勢をもつメンバーの参加を望みます。
なお、受講者の興味関心や活動の進捗を勘案して、受講者と相談の上で、活動内容やプログラム構成を変更する場合もあります。

【関連科目】
特にありません

【長岡研究室ウェブサイト】
http://www.tnlab.net
https://www.facebook.com/nagaoka.lab

演習１・２　（2014 年度以前入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 4 単位	［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習３・４	選択＜演習＞	3 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習５・６	選択＜演習＞	4 年次／ 6 単位	［年間授業］

永野　則雄　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①財務諸表の数値がどのようにして決まってくるのか、その仕組みを理解する。
②財務諸表の数値によって企業の状態を分析する方法を理解する。

【到達目標】
貸借対照表や損益計算書といった財務諸表を理解するとともに、実際の企業の財務諸表を見て企業の実態を財務面からある程度理解できることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
春学期では、昨年度のテキストで財務会計論の復習を行うと共に、卒業論文の準備に取り掛かる。秋学期は、卒業論文の中間報告と最終報告を行うことを中心に、論文作成の方法などを学ぶことにする。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第１回	はじめに	授業の進め方と財務会計の意味についての説明。
第２回	会計をめぐる利害	会計の数値が「客観的」なものであるかどうか考える。
第３回	会計の規則と役割	会計を規制する会計基準の意義と、会計が果たす役割を考える。
第４回	財務諸表における表示	貸借対照表と損益計算書の表示区分を学ぶ。
第５回	簡単な経営分析	会計数値を基にして、基本的な経営分析の手法を学ぶ。
第６回	会計の計算原理	会計において採用される評価基準を学ぶ。
第７回	棚卸資産の会計	棚卸資産の評価方法や評価基準を学ぶ。
第８回	有形固定資産の会計	固定資産の種類やその減価償却方法、さらには減損会計やリース会計の基本を学ぶ。
第９回	無形資産と繰延資産の会計	無形資産や研究開発費・ソフトウエア、繰延資産を学ぶ。
第 10 回	金融資産の会計	有価証券やデリバティブを学ぶ。
第 11 回	負債の会計	社債や引当金、退職給付債務を学ぶ。
第 12 回	純資産の会計	純資産の部の各項目と会社再編の会計を学ぶ。
第 13 回	収益・費用の会計	収益・費用の会計と税効果会計を学ぶ。
第 14 回	連結財務諸表①貸借対照表と損益計算書	連結貸借対照表と連結損益計算書を学ぶ。
第 15 回	連結財務諸表②その他の財務諸表	連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、および連結包括利益計算書を学ぶ。
第 16 回	はじめに	秋学期の授業の進め方と分担などを決める。
第 17 回	論文作成の方法①	引用の仕方など、論文作成の基本的な事項を学ぶ。
第 18 回	論文作成の方法②	同上
第 19 回	卒業論文の中間報告①	卒業論文の中間報告とその質疑応答を行う。
第 20 回	卒業論文の中間報告②	同上
第 21 回	卒業論文の中間報告③	同上
第 22 回	卒業論文の中間報告④	同上
第 23 回	卒業論文の中間報告⑤	同上
第 24 回	ケーススタディ	トピックとなっている会計のケースを分析する。
第 25 回	卒業論文の最終報告①	卒業論文の最終報告とその質疑応答を行う。
第 26 回	卒業論文の最終報告②	同上
第 27 回	卒業論文の最終報告③	同上
第 28 回	卒業論文の最終報告④	同上
第 29 回	卒業論文の最終報告⑤	同上
第 30 回	おわりに	卒業論文の提出に向けて最終的な質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
４年生だけになり、卒業論文の作成が主目的となる。自分で選んだテーマに従って、図書館の資料を利用することによって卒論の作成を心掛ける。

【テキスト（教科書）】
春学期は、永野則雄『ケースでまなぶ財務会計』（白桃書房、2013 年、2,800 円）を使う。秋学期は卒業論文の作成を中心とするので特にテキストはない。

【参考書】
春学期では、桜井久勝『財務会計講義』（中央経済社）や伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門』（日本経済新聞出版社）などがある。
秋学期では、高田直芳『ほんとうにわかる経営分析』（ＰＨＰ）やパレプ他『企業分析入門』（東京大学出版会）などがある。

【成績評価の方法と基準】
出席を前提とした上で、卒業論文の内容（80 %）と授業時の発言（20 %）によって評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
ゼミ生諸君からのコメントからは、授業の内容と方法についてはこれまでと同様で良いと判断できるので、これまでと同じように行うことにしたい。

【その他の重要事項】
春と夏の期末試験直後に、ビジネスゲームを主体とした合宿（３泊４日）を行う。このビジネスゲームはパソコンを使わないボードゲーム方式では日本で唯一のゲームであり、多数の会社・会計事務所などで実施されているものである。これによって企業経営と会計との結びつきを体得してもらうことにしている。
〔関連科目〕
簿記入門Ⅰ・Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］

演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

新倉　貴士　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当科目のテーマは、消費者視点のブランドマーケティング研究です。履修生は、積極的に研究プロジェクトに参加して、ゼミメンバーとグループメンバーとの共同作業を通じて、独自のマーケティング知識を創造することに勤めなくてはなりません。他の人と共に働くことによる達成感、それによる独創的な知識の創造ができるようになることを目的とします。

【到達目標】
当演習における到達目標は、以下の３つです。履修生は、以下の目標に向けた積極的な活動を行います。
①消費者行動とブランドマーケティングに関する基礎知識の獲得とこれを基にした現代企業のマーケティング行動の探索をします。
②マーケティングリサーチの基礎的知識の獲得を目指します。
③個人研究・グループ研究によるオリジナリティのある知識の創造をします。
①については、テキスト①②に基づく精緻な知識を獲得します。②については、テキスト③に基づいて、体系立てた調査設計と分析手法を獲得します。③については、研究プロジェクトの推進により、独自の創造的な知識を生み出します。

【授業の進め方と方法】
グループワークを通じて、各事例のケース分析とデータ分析により、独自の仮説や命題を導き出して検証していきます。また、事前に行った調査を各グループごとに報告してもらうために、プレゼンテーションが必須となります。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	春学期イントロダクション	授業概要と年間計画の説明。
2	グループ活動①-1	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
3	グループ活動①-2	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
4	グループ活動①-3	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
5	グループ活動①-4	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
6	グループ活動①-5	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
7	グループ活動①-6	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
8	春学期中間報告会	グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。
9	グループ活動②-1	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
10	グループ活動②-2	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
11	グループ活動②-3	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
12	グループ活動②-4	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
13	グループ活動②-5	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
14	グループ活動②-6	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
15	春学期最終報告会	グループワークの最終報告と秋学期への課題を整理。
16	秋学期イントロダクション	春学期の成果確認。 夏課題の報告。 秋学期の課題確認。
17	グループ活動③-1	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
18	グループ活動③-2	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
19	グループ活動③-3	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
20	グループ活動③-4	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
21	グループ活動③-5	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
22	グループ活動③-6	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
23	秋学期中間報告会	グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。
24	グループ活動④-1	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
25	グループ活動④-2	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
26	グループ活動④-3	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
27	グループ活動④-4	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
28	グループ活動④-5	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
29	グループ活動④-6	担当グループからのプレゼンテーションに対する討議。
30	秋学期最終報告会	グループワークの最終報告と一年間の成果を整理。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループワークを推進するために、毎週サブゼミを行います。各回で課題となったテーマに沿って、文献探索やヒアリング調査、質問紙調査などの設計と実施を行います。

【テキスト（教科書）】
①青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ
②竹内淑恵編著、『リレーションシップのマネジメント』、文眞堂
③土田昭司・山川栄樹、『新・社会調査のためのデータ分析入門』、有斐閣
その他、適宜紹介します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献度、課題遂行などをもとにして総合的に評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
プレゼンテーションの中身を充実させ、さらに深いディスカッションを行う予定です。チームワークの重要性と個人の創造性を自覚できるように運営したい。

【その他の重要事項】
履修生は全員、「マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」を事前に履修、もしくは履修中としておくべき科目とします。また 3 年生以上の履修生は、「マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ」を履修すべき科目とします。その他、「マーケティング関連科目」を履修すべき科目とします。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

二階堂　行宣　専任講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・経済史・経営史専攻の担当教員による、卒業論文の指導・執筆を目標とした演習です。
・各参加者は担当教員の指導のもと、経営学・経済学に関連した実証的な調査・研究を自主的に行い、その成果を授業中に随時報告します。
・以上の反復を通じ、社会科学的な調査スキルを徹底的に磨くとともに、論理的な思考を展開し、その過程を体系的な文章としてまとめ上げる力を向上させます。
・あわせて、社会人として身に付けておくべき教養・知識（特に日本の近現代史に関するもの）を習得します。

【到達目標】
・さまざまな対象（企業・組織・人物・事象など）の歴史的変遷について調査し、その過程や要因を分析するスキルと意義を学ぶ。
・経営史学の専門的知識と方法論を身に付け、その立場から建設的な議論を展開することができる。
・経営学研究における歴史的アプローチのメリットとデメリットを理解し、自らの主体的な議論・研究に反映させることができる。
・現在や未来におけるさまざまな社会的課題を長期的な視角から分析し、理解する能力を養う。
・活動の集大成として、卒業論文を執筆・完成させる。

【授業の進め方と方法】
Ⅰ　春学期
・春学期は、担当教員が選択したテキストに基づき、論理的・学問的な文章を「読み、理解し、批判する」ことを身に付けていきます。
・テキストは、日本経営史・経済史分野のほか、現状の経済・経営に関連した文献のなかから幅広く選択します。
・参加者は事前に配布されたテキストに基づき、指示された作業・課題（事前調査／要約／文章作成など）を行います。
・各回の報告者（グループ）を決める場合は、該当者はレジュメまたはパワーポイントを使って、報告の準備を行います。
・授業へ臨む際には自らの意見を明確化するとともに、積極的に発言し、その場の議論が深まるように心がけます。
Ⅱ　秋学期
・秋学期は、各参加者が興味・関心を持つテーマを選び、卒業論文執筆に向けた作業を行います。
・各参加者は、経営学・経済学について関心のあるテーマを設定し、自ら定めたスケジュールに基づいて、主体的に調査を行っていきます。
・テーマの設定は各自の自由ですが、調査・分析を行う際には、長期的な視角から対象を分析するように心がけてください。
・各参加者は、各回の末尾に調査・研究活動の進捗状況を定期的に報告します。
・また、中間報告の時間を複数回設けます。担当報告者（グループ）は、①卒業論文で取り上げたいテーマとその理由、②論文執筆に向けて必要な調査活動・資料、③卒業論文の目次と分析視角、などについて、随時プレゼンテーションを行います。
・担当報告者（グループ）によるプレゼンテーションのあと、参加者全員によるディスカッションを行います。
・以上の活動に加え、現実のビジネスの現場を見学し、社会人・経営者と接する機会も複数回設け、自らのキャリアを考える際の一助とします。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	前期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
2	導入①	参加者の自己紹介を行う。
3	導入②	発表資料の作成とディスカッションの方法について理解する。
4	導入③	経営史・経済史学の方法と特徴について理解する。
5-10	実践①	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
11-15	実践②	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。
16	イントロダクション	後期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
17-20	調査報告①	各参加者（グループ）が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行い、全員でディスカッションする。
21-25	調査報告②	各参加者（グループ）が、卒業論文の執筆に向けて必要と思われる調査活動・資料について報告を行い、全員でディスカッションする。
26-30	最終報告	各参加者（グループ）が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行い、全員でディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・この演習は、2 年間で卒業論文を仕上げることを最終目標に、参加者自らが主体的に学習を行う場です。
・担当教員は、参加者個々の関心に応じて主体的な学習・研究をサポートする役割に徹し、それぞれのペースに介入することはできる限り慎みます。
・したがって、参加者は必要に応じ、授業時間以外の調査活動（他大学・自治体図書館への訪問／企業への調査／インタビュー実施など）を行うことも重要になります。
・参加者の活動をサポートするためであれば、担当教員はあらゆる支援を惜しみません。教員と密にコミュニケーションをとり、積極的に指導・助言を仰いでください。

【テキスト（教科書）】
・必要に応じ、授業中にコピーを配布する。

【参考書】
・個々の興味に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・報告（40 %）＋出席（30 %）＋質問・議論への参加（30 %）。
・出席する際には、積極的に議論に参加してください。
・ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。
・欠席する場合は、評価に大きく関わりますので、必ず事前に連絡してください。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
・主体的な学習を希望する声が多く寄せられたため、テキストの輪読等は最小限にとどめる授業計画へと変更しました。

【学生が準備すべき機器他】
・発表資料の作成の際は、パソコン（ワードやパワーポイント）を使用してください。
・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【関連科目】
日本経営史Ⅰ／Ⅱ

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

西川　英彦　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習のテーマは、「実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチなどを理論を学びつつ、それらを実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】
到達目標としては、①マーケティングの基礎理論を説明できる、②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる、そして③企画書や論文を作成できる、という３点が挙げられる。

【授業の進め方と方法】
演習では、主には４つのことを実施する。
１）マーケティング・コンペに応募
２）企業への企画提案（無印良品等）
３）S カレでの企画提案
「S カレ」は、メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な製品企画やコミュニケーション活動の実践を行うインカレ形式のプロジェクトである。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。
http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/
４）卒業論文の作成
なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習概要
2	マーケティング・コンペの企画、卒業研究	個人・グループ演習
3	マーケティング・コンペの企画、卒業研究	個人・グループ演習
4	マーケティング・コンペの企画、卒業研究	個人・グループ演習
5	マーケティング・コンペの企画、卒業研究	個人・グループ演習
6	マーケティング・コンペの企画、卒業研究	個人・グループ演習
7	マーケティング・コンペの企画、卒業研究	個人・グループ演習
8	マーケティング・コンペの企画、卒業研究	個人・グループ演習
9	マーケティング・コンペの企画、卒業研究	個人・グループ演習
10	マーケティングの実際（ゲスト・スピーカー予定）	講演および議論（なお、ゲストの都合で予定の変更はあり）
11	マーケティング・コンペの企画、卒業研究	個人・グループ演習
12	マーケティング・コンペの企画、卒業研究	個人・グループ演習
13	S カレ、企業企画、卒業研究	個人・グループ演習
14	S カレ、企業企画、卒業研究	個人・グループ演習
15	春学期総括	総括
16	S カレ、企業企画、卒業研究	個人・グループ演習
17	S カレ、企業企画、卒業研究	個人・グループ演習
18	S カレ、企業企画、卒業研究	個人・グループ演習
19	S カレ、企業企画、卒業研究	個人・グループ演習
20	S カレ、企業企画、卒業研究	個人・グループ演習
21	S カレ、企業企画、卒業研究	個人・グループ演習
22	S カレ、企業企画、卒業研究	個人・グループ演習
23	S カレ、企業企画、卒業研究	個人・グループ演習
24	S カレ、企業企画、卒業研究	個人・グループ演習
25	S カレ、企業企画、卒業研究	個人・グループ演習
26	マーケティングの実際（ゲスト・スピーカー予定）	講演および議論（なお、ゲストの都合で予定の変更はあり）
27	S カレ、企業企画、卒業研究	個人・グループ演習
28	S カレ、企業企画、卒業研究	個人・グループ演習
29	S カレ、企業企画、卒業研究	個人・グループ演習
30	秋学期総括	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自またはグループの研究＆企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。

【テキスト（教科書）】
適宜、紹介する。

【参考書】
適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ報告 50 点
演習活動への貢献 50 点

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】
適宜利用する。

【その他の重要事項】
関連科目は、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 4 単位	［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習３・４	選択＜演習＞	3 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習５・６	選択＜演習＞	4 年次／ 6 単位	［年間授業］

西川　真規子　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科学の観点から、人間の行動を分析する視点・方法を身につけることがこのゼミの中心テーマです。社会学、社会心理学の文献を中心とした先行研究の考察により、ひとの態度や行動傾向についての理解を深めるとともに、身近な社会現象を題材にディスカッションや社会調査を実施することを通じて、その発生メカニズムの社会科学的な解明を目指します。

【到達目標】
第一に、専門文献の読解を通じて、社会科学的視点から人間の行動および相互依存関係の理解を目指します。第二に、社会調査を実施し収集したデータを分析、解釈するスキルを身につけます。第三に、ゼミ活動を通じて自己理解や他者への理解を深め集団活動に必要な自己管理や共感力、コミュニケーションスキルを身につけ、メンバーの一員として信頼される力を高めていきます。第四に、各自が独自の個性を発揮しながら、グローバル社会でも通用する思考力、発言（表現）力を身につけます。

【授業の進め方と方法】
ゼミ初年度は、主にテキストをベースとしたプレゼンテーションや、社会問題に関するディスカッションを行います。ゼミ最終年度は、卒業論文作成を進めます。論文作成に必要な文献調査や社会調査の方法、データ解析に必要な統計手法についても学習を進めます。さらに、ディベートや簡単な英語によるコミュニケーション等も取り入れ、情報収集と発信、自己表現、自己管理、コミュニケーションスキルを鍛えます。ゼミ生の自主・自律性を重んじるため、ディベートや卒業論文のテーマは各自の関心に基づいて決定します。年二回程度の課外授業や合宿も実施する予定です。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介/ゼミ目標の共有/役割の割当て
2	社会学の紹介 卒論研究	社会学とは何か/今後の授業の進め方/4 年生は卒論のテーマを 4 月中に確定
3	関係性の諸問題１ 卒論研究	3 年はテキストをレジュメにまとめて発表/4 年は 4 月中に卒論テーマ発表会を開催
4	関係性の諸問題２ 文献調査の方法	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/図書館ガイダンスを通じて先行文献の探索方法を学習
5	学校から職業へ１ 卒論研究	3 年はテキストをレジュメにまとめて発表/4 年は先行研究を開始
6	学校から職業へ２ 卒論研究	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/4 年は先行研究を実施
7	今日の若者１ 卒論研究	3 年はテキストをレジュメにまとめて発表/4 年は先行研究を実施、5 月中に発表
8	今日の若者２ 卒論研究	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/4 年は先行研究をひきつづき実施、仮説の設定へ
9	ディベート	全員でディベートテーマを決め、ディベートを実施
10	格差と不平等１ 卒論研究	3 年はテキストをレジュメにまとめて発表/4 年は先行研究をひきつづき実施、仮説の設定へ
11	格差と不平等２ 卒論研究	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/4 年は先行研究をひきつづき実施、仮説の設定へ
12	中間発表準備	3 年はこれまでテキストで扱ったテーマや、ディスカッションの内容をもとにグループプロジェクトを開始/4 年は先行研究をひきつづき実施、仮説の設定へ
13	中間発表準備	3 年はグループプロジェクトを実施/4 年は先行研究をひきつづき実施、仮説の設定へ
14	中間発表準備	3 年はグループプロジェクトを実施/4 年は先行研究をひきつづき実施、仮説の設定へ
15	中間発表（夏合宿）	3 年はグループプロジェクト発表/4 年卒論中間発表
16	オリエンテーション	秋期活動内容確認/秋期ゼミ目標設定
17	社会調査の方法１ 卒論研究	社会調査のさまざまな方法について学習/4 年は調査方法を検討
18	社会調査の方法２ 卒論研究	社会調査のさまざまな方法について学習/4 年は調査方法を確定
19	ジェンダーと家族１ 卒論研究	3 年はテキストをレジュメにまとめて発表/4 年は調査を開始
20	ジェンダーと家族２ 卒論研究	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/4 年は調査を実施
21	福祉国家と生活１ 卒論研究	3 年はテキストをレジュメにまとめて発表/4 年は調査を実施
22	福祉国家と生活２ 卒論研究	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/4 年は調査実施状況を報告
23	社会調査の方法３	データ分析に関わる統計手法を学習
24	社会調査の方法４	SPSS を用いてデータ分析を実施
25	リスク社会１ 卒論研究	3 年はテキストをレジュメにまとめて発表/4 年はデータ分析を実施
26	リスク社会２ 卒論研究	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/4 年はデータ分析を実施
27	グローバル化と共生１ 卒論研究	3 年はテキストをレジュメにまとめて発表/4 年はデータ分析結果報告
28	グローバル化と共生２ 卒論研究	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/4 年は論文構成について報告
29	まとめ	1 年間の学習のまとめ
30	卒論発表会	4 年は論文を完成し最終成果を発表/3 年は来年度の卒論についてプロポーザルを発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストの該当箇所について全員が予習を行うこと。3 年は、発表担当箇所のプレゼンテーションについて、授業の前に準備を進めること。4 年は、卒業論文作成、進捗状況発表のための準備をスケジュールに従い各自責任を持って進めること。

【テキスト（教科書）】
本年度は友枝敏雄・山田真茂留（編）『Do!ソシオロジー：現代日本を社会学で診る（改訂版）』有斐閣アルマ、2013 年を使用します（ISBN978-4-641-12496-7)。過去に用いたテキストには、Jon Elster 著 Nuts and Bolts for Social Sciences(邦題『社会科学の道具箱』)、亀田達也・村田光二著『複雑さに挑む社会心理学』などがあります。

【参考書】
参考文献は必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価基準は以下の通りです。
3 年:ディスカッションへの参加等平常点 30 %　個人・グループ発表 30 %、ゼミ活動への貢献度 40 %
4 年:ディスカッションへの参加等平常点 20 %、ゼミ活動への貢献度 30 %、卒業論文の報告・提出 50%
尚、ゼミ活動への貢献度とは、3 年の場合は、割り当てられた委員活動を通じての貢献を含みます。4 年の場合は、先輩としてゼミを引っ張っていくリーダーシップの発揮を意味します。ゼミ活動への貢献度については、講師のみでなくゼミ生全員で相互評価を行います。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生一人ひとりが自主性や個性を十分に発揮し、お互いを高めあうことができるようなゼミを目指します。

【学生が準備すべき機器他】
ゼミ活動に必要な資料の配布や共有を授業支援システムを通じて行います。各自 4 月の授業開始後速やかに授業支援システムに自己登録を済ませてください。

【その他の重要事項】
双方型のゼミですので、学生からの提案や企画をできるだけゼミの運営に反映していきます。各自がゼミの一員としての責任を自覚し協力してゼミ活動に貢献することを期待します。それには毎回の出席は欠かせません。3 回以上の欠席を持って除籍となることがあります。各自の貢献によりゼミが成り立っているので受身ではなく積極的な発言やゼミ活動への提案を奨励します。当たり前のことを当たり前とせず、常に「なぜ」と問うような探究心の強い学生の参加を希望します。

【関連科目】
組織行動論Ⅰ／Ⅱ

演習１・２　（2014 年度以前入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 4 単位	［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習３・４	選択＜演習＞	3 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習５・６	選択＜演習＞	4 年次／ 6 単位	［年間授業］

入戸野　健　教授　（代講：江島　夏実　講師）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報技術の活用とビジネスシステムへの展開および Web 情報の分析をテーマとする。

【到達目標】
文献・事例研究を通じて、情報技術について幅広く理解し、情報社会におけるそれらの役割を考えながら自分の直面する問題を含め、様々な場面で適切な情報活用を行えるようになることを目標とする。同時に報告書作成に必要となる基礎データの統計的な分析手法を身につけ、コンピュータを利用したプレゼンテーションや報告文書作成の技能の向上を目指す。

【授業の進め方と方法】
情報システムの基盤技術となる通信ネットワークやプログラミング言語などに関する知識を身につけながら、それらの新たなビジネスやサービスへの展開の可能性について、実際の Web に関するデータの分析をまじえて考察する。
授業では最近の話題から文献を選び担当者を決めて輪読を行う。毎回担当者が発表を行いそれに対して全員で議論する。発表とディスカッションを基本とするが、その準備段階として、コンピュータを活用した効果的なプレゼンテーション資料の作成や報告文書の作成に関する演習も行う。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミ参加にあたっての心構えや進め方について説明する。
2	報告文書の作成法	レジュメや報告書の作成に必要な技能について解説する。
3	プレゼンテーション作成法	効果的なプレゼンテーションを行うための技法やスライド作成方法について説明する。
4-13	文献・事例研究 (1)	本ゼミのテーマに沿った文献・事例を選定し輪読を行う。
14	春学期の総括	まとめとして春学期の内容を整理し総括する。
15	ゼミ合宿	夏季ゼミ合宿を実施する。
16	活動方針の検討と確認	秋学期の進め方の確認と中期的なゼミ活動の方針（サブゼミ等）の検討を行う。
17	パネルディスカッション	よりフォーマルな発言や議論の進め方に慣れるため、司会とパネリストを配置したディスカッションを行う。
18-28	文献・事例研究 (2) と論文作成	本ゼミのテーマに沿った文献・事例を選定し輪読を行う。4 年生は卒業論文の作成に取り組む。
29	秋学期の総括	まとめとして秋学期の内容を整理し総括する。
30	卒業研究発表	4 年生は卒業研究の最終成果を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表の担当者は事前にスライド・配布資料の作成を含む発表準備を十分に行う。毎回のゼミ授業後にはその回の要点を各自で整理し、疑問点があれば文献やネット等で確認しておく。

【テキスト（教科書）】
授業の冒頭にゼミ生の要望を考慮しながら選定する。また、ゼミの進捗状況に応じて各種の教材を適宜追加指定することがある。

【参考書】
ゼミの中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発言頻度やその内容などの平常点と出席状況を重視 (70 %) する。進捗状況に応じて各時点で取り上げているテーマに沿ったレポートを提出 (30 %) してもらい、それらから総合評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
ゼミ内外におけるディスカッションやコミュニケーションの時間をさらに増やして行きたい。

【その他の重要事項】
関連科目　情報技術論Ⅰ/Ⅱ、システム管理論Ⅰ/Ⅱ
問題意識を持ち自分の考えを積極的に発言する姿勢を身につけて欲しい。自主的なサブゼミ運営にも期待します。
現在、次の２つのテーマを考えています。
１．PHP 言語の習得
実体験を通じて、サーバーアプリケーションの開発のポイントを身につける目的で行う。サーバーアプリケーションの開発には、データベースの知識もあった方が望ましい。データベースの知識は、今後の社会生活・企業活動において不可欠の要素である。
２．学習コンテンツの制作
今日、IT 技術の進歩により、いつでも誰でも映像を簡単に制作できる時代になった。かつ、YouTube やニコニコ動画のように、制作した映像を簡単に公開できる時代になった。今の社会、このすばらしい技術を日常的に駆使して、伝えたいことを正しく伝えていく技術を身につけることが重要である。
そのとき、自分が個人的に伝えたいことを単に伝えていくことは、すぐに誰でもできるようになる。「社会的に伝える意義のあることをわかりやすく伝える」ことができなければ、社会人・企業人として一歩先んじることはできない。
このように、「伝えたいことをわかりやすく伝える」工夫を最も求められるのは教育サービスである。そのサービスの内容、サービスを受ける側の状況・知識背景を正しく想定し、その想定の下でどのような映像を制作したらよいかを考え、その映像の制作・発信を実現するスキルを身につけたい。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける
質問がある場合は E-mail で受け付ける。
メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 4 単位	［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習３・４	選択＜演習＞	3 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習５・６	選択＜演習＞	4 年次／ 6 単位	［年間授業］

長谷川　翔平　専任講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業のテーマは「統計モデルによるマーケティング・データの分析」である。
企業はマーケティング活動を行う際に，様々なデータを収集し，活用している。例えば，新製品開発では消費者ニーズの調査データ，テレビ広告配信では年齢層別テレビ視聴率データなどが使われる。TSUTAYA の T カードに代表される FSP（Frequent Shoppers Program）と呼ばれるポイントカードによるマーケティング手法を用いれば，個人の長期間にわたる購買履歴データを収集することができる。また，Amazon や楽天などのインターネットショッピングサイトでは，「購入に至る前にどんなサイトを何分見ていたか」まで収集している。これらのデータは多数の消費者から収集されるため，その中で商品 A を買った人は次に商品 B を買う傾向が多いと分かれば，商品 A を買った人に商品 B を推薦する，などしてプロモーションの最適化に用いられている。近年，ビッグデータという単語に注目が集まっているが，マーケティングにおいても企業が持つ大規模なマーケティング・データの活用が求められている。また，統計学や機械学習のモデルを応用して様々なデータの分析を行うデータサイエンティストという専門的な職業にも注目が集まっている。データを分析することで企業経営上の有用な知見を取り出す能力は，今後の社会で重要なスキルとなる。
本授業では，様々なマーケティング・データから経営意思決定に必要な知見を取り出すための分析モデルを学び，実際にデータを収集・分析することで応用力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
・マーケティング・サイエンスの基礎的知識を身につける。
・課題を発見し，解決のため必要となるデータの収集方法が説明できる。
・データ分析モデルの説明と実行ができる。
・分析結果を分かりやすく報告できる。
・課題解決能力を身につける。

【授業の進め方と方法】
[春学期]
マーケティング・データを扱った統計学のテキストを用いて，データ分析に必要な知識を学ぶ。また，統計解析ソフト R（フリーソフト）を使い，データ分析の実習を行う。
[秋学期]
前半：外部のデータ分析コンテストに参加する。昨年度は株式会社野村総合研究所の「マーケティング分析コンテスト」に参加した。
後半： 4 年生を中心に卒業研究を行う。4 年生と 2・3 年生のグループを作り，設定したテーマについて，データを収集し，実証的な分析を行い，発表する。テーマ例として昨年度のゼミ生が分析を行ったものを記載する。
①大学生のカフェ利用要因
②売れるアイドルに必要な条件
③エナジードリンク市場の分析
④ペプシがコカコーラに勝つには
⑤ゲーム機市場の販売予測

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	テキスト 3 章： 1 変数の記述統計	平均，分散，ヒストグラム
3	テキスト 4 章： 2 変数の記述統計	相関係数，散布図
4	テキスト 5 章：確率変数	離散型確率変数と連続型確率変数
5	テキスト 6 章：確率分布	様々な確率分布と対応するデータ
6	テキスト 7 章：大数の法則と中心極限定理	データサンプル数と大数の法則，中心極限定理の関係
7	テキスト 8 章：標本分布	母集団からの標本抽出と標本統計量
8	テキスト 9 章：推定	平均・散の点推定と区間推定
9	テキスト 10 章：仮説検定	1 変数の平均と分散の検定
10	テキスト 11 章： 2 標本検定	2 変数間の平均・分散の差の検定
11	テキスト 12 章：分散分析	マーケティング活動の効果検証
12	テキスト 13 章：回帰分析	価格やプロモーションが売上に与える影響の検証と売上予測
13	テキスト 14 章：一般化線型モデル	消費者の購買行動やアクセス回数の予測
14	テキスト 15 章：多項ロジットモデル	ブランド選択モデルによる消費者のブランド選択要因の検証
15	春学期まとめ	春学期に学んだ分析手法について復習する
16	データ分析コンテスト (1) ：研究計画発表	分析テーマ，研究計画の発表
17-18	データ分析コンテスト (2) ：中間報告①	利用データや分析手法の報告
19-20	データ分析コンテスト (3) ：中間報告②	データ分析の途中報告
21-22	データ分析コンテスト (4) ：最終報告	分析結果の最終報告
23	卒業研究 (1) ：研究計画発表	卒業研究テーマの研究背景や目的，研究計画の発表
24-25	卒業研究 (2) ：中間報告①	データ収集方法や利用データの報告
26-27	卒業研究 (3) ：中間報告②	データ分析の途中報告
28-30	卒業研究 (4) ：最終報告	分析結果の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
[春学期]
・事前にテキストを読み，内容を理解する（授業中に指名して説明して貰う）。
・事前にテキスト各章のデータ分析例を自分のパソコンで実行する。
・授業中に出された課題に解答し提出する。
[秋学期]
・各グループでデータ収集から分析，結果考察を行い，発表資料を作成する。

【テキスト（教科書）】
・本橋『R で学ぶ統計データ分析』オーム社（2015 年）
授業速度と受講生の理解度によって以下の教科書も利用する。
・佐藤『マーケティングの統計モデル』朝倉書店（2015 年）

【参考書】
・古川，守口，阿部『マーケティング・サイエンス入門（新版）』有斐閣（2011 年）
・平岡，堀『プログラミングのための確率統計』オーム社（2009 年）
・山田，杉澤，村井『R によるやさしい統計学』オーム社（2008 年）
・船尾『The R Tips』オーム社（2009 年）
その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】
報告・議論への参加（60 %）
平常点（40 %）
4 年生は卒業論文が必須

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
基礎だけでなく発展的な内容も取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
データ分析と報告資料作成にパソコンが必要である。

【その他の重要事項】
・テキストは数式によるモデルの説明が多いため，初歩的な数学（高校レベルの微分積分）と統計学の知識があることが望ましい。
・統計解析ソフト R で簡単なプログラミングを組んでデータ分析を行うため，ある程度のパソコンスキル（エクセルの関数が利用できる等）があることが望ましい。
・受講希望者は，事前に必ず図書館等で上記テキストを一読し，内容が理解できそうか判断してからゼミへ応募して欲しい。
・積極性を持った学生の参加を希望する。
[関連科目]
・マーケティング論Ⅰ/Ⅱ
・マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ
・基礎統計学Ⅰ/Ⅱ
・計量経営分析Ⅰ/Ⅱ

演習１・２　（2014 年度以前入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 4 単位	［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習３・４	選択＜演習＞	3 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習５・６	選択＜演習＞	4 年次／ 6 単位	［年間授業］

林　直嗣　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
金融・財務と経済について、理論と実際を勉強し、コンピューターを活用した実証分析も行う。また金融政策や経済政策など政策問題についても幅広く勉強する。全員がコンピューターを使いこなし、レジュメをパワーポイントで上手に表現し、計量分析や情報処理の技法を習得できるように指導する。本年度は昨年度に引き続き「**大胆な金融政策、機動的な財政政策、活力ある成長政策**」を主な研究テーマとする。そのためマクロ経済学や金融論、日本経済論の理論的・実証的な学習をしつつ、アベノミクスなど経済政策や金融界や産業界の在り方について政策的な分析を行う。

【到達目標】
この演習では、知識の教育**=知育**だけでなく、情報機器を使いこなす**技育**も行い、また少人数の人間的ふれあいの中で精神面での**徳育**も目標とする。
本ゼミの徳育の**指導理念**は、**協調性（チームワーク）**と**独創性（オリジナリティ）**である。実社会に出てから、組織の中で協調して仕事ができるとともに、独創的なアイデアで組織をリードできる人間を養成することを目標とする。

【授業の進め方と方法】
演習 (独語＝ゼミナール、英語＝セミナー）では、教授の指導のもとに、少人数の学生が特定のテーマについて研究し、報告・討論することが主たる授業形態である。テキストの輪読・報告・討論を行い、指導教授による講義・解説も行う。2・3 年生は、日本語や英語の文献をテキストとして輪読や討論を行うとともに、チームで共同論文を作成して夏期休暇に対抗ゼミを行い、**協調性**を養う。また 3 年生は学年末までに各自が興味あるテーマを選定し、進級論文を作成する。4 年生は、各自が進路に合わせて興味あるテーマを決め、**独創性**のある卒業論文を作成する。前半には基本的論文を読んで報告を行い、後半には理論モデルの実証分析をして論文をまとめる。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	年間授業計画の解説と報告者の決定、マクロ経済学の概説
第２回	国民所得と国民経済計算	国民所得の基礎概念、国民経済計算の基礎概念
第３回	春期合宿	卒業論文の第一次報告と指導
第４回	消費支出と消費関数	消費支出の基礎概念、消費関数の理論
第５回	投資支出と投資関数	投資支出の基礎概念、投資関数の基礎理論
第６回	国民所得の決定と乗数効果	国民所得の決定、乗数効果の理論
第７回	貨幣需給、貨幣数量説、流動性選好説	貨幣需給、貨幣数量説、流動性選好説
第８回	ＩＳ＝ＬＭ分析、雇用の理論	ＩＳ＝ＬＭ分析の理論、雇用の理論
第９回	物価、賃金、インフレーション、合理的期待	物価、賃金、インフレーション、合理的期待
第 10 回	金融政策と財政政策：裁量政策かルールか	金融政策と財政政策の基礎理論
第 11 回	景気循環	景気循環の基礎概念と理論
第 12 回	経済成長	経済成長の基礎概念と理論
第 13 回	国際マクロ、経済発展、経済体制	国際マクロ、経済発展、経済体制の基礎概念と理論
第 14 回	論文作成方法の指導	合宿で発表する論文の作成方法
第 15 回	夏期合宿	2 つのパートで対抗討論会
第 16 回	日本経済の長期デフレ不況：	長期のデフレ不況、ゼロ金利とマネタリーベースの制御、機動的な財政政策、活力ある成長政策、
第 17 回	景気と株価・地価・商品相場の動向：	景気の見方、株価動向、地価動向、商品相場
第 18 回	ゼロ金利と金融の動向：	ゼロ金利政策、量的金融緩和、マネタリーベースの制御
第 19 回	為替相場の動向：	円安はどこまで続くか、為替相場動向と為替介入
第 20 回	財政と税制：	財政赤字と行財政改革、消費税増税、所得税・相続税増税
第 21 回	少子高齢化と年金・医療改革：	少子高齢化、年金・医療・介護改革
第 22 回	生活保護、教育問題：	生活保護の実態、教育問題
第 23 回	金融業界の動向：	金融業界の動向、証券業界の動向、生保・損保・消費者金融・外資系金融機関の業界動向
第 24 回	卒業論文の中間報告	卒業論文の中間報告と指導
第 25 回	産業界・企業の動向：	各産業界の動向、企業再編、企業と情報化、企業改革とコーポレート・ガバナンス、内部統制、ＣＳＲ、会計制度改革
第 26 回	個人消費と流通：	個人消費の動向、流通業界、外食産業、ネット通販
第 27 回	進級論文の報告	進級論文の報告と指導
第 28 回	新エネルギー源と環境問題：	新エネルギー源と環境問題、原発事故の処理と原発政策
第 29 回	世界経済と国際協力：	アメリカ経済、ヨーロッパ経済、新興国経済、TPP 交渉と貿易自由化
第 30 回	卒業論文・進級論文の提出	卒業論文・進級論文の提出と指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、プレゼンテーションのために要約したレジュメをパワーポイントで作ってみよう。何が理解できて何がわからないか、はっきりするので、授業に臨む態度やモチベーションが高まり、授業の理解を効果的に高めることができる。

【テキスト（教科書）】
林　直嗣著『経済学入門』新世社
日本経済新聞社編『Ｑ＆Ａ　日本経済の基本』2016 年版、日本経済新聞社

【参考書】
適宜指摘する。

【成績評価の方法と基準】
授業や合宿での出席と発表、さらに 4 年生は卒業論文、3 年生は進級論文などを総合して評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく

【学生が準備すべき機器他】
演習室では、板書を利用するとともに、PC やプロジェクターを使って PowerPoint によるプレゼンテーション用レジュメをスクリーンに投影する。また PC を用いて計量分析を行う。

【その他の重要事項】
〔SA 帰国生・転編入生の募集〕
SA 帰国生や転編入生などを若干名募集するので、希望者は開講時に志望理由書と履歴書を持ってゼミ室へ来て下さい。
〔関連科目の履修〕
ゼミ生は金融論Ⅰ/Ⅱと応用プログラミングⅠ・Ⅱ（計量分析コース）を必ず履修されたい。他にマクロ経済学Ⅰ/Ⅱ、ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ、国際金融論Ⅰ/Ⅱ、企業財務論Ⅰ/Ⅱ、証券経済論Ⅰ/Ⅱ、ファイナンス論Ⅰ/Ⅱ、日本経済論Ⅰ/Ⅱなどを受講することが望ましい。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 4 単位	［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習３・４	選択＜演習＞	3 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習５・６	選択＜演習＞	4 年次／ 6 単位	［年間授業］

平田　英明　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることを教育するように心がけています。

【到達目標】
経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【授業の進め方と方法】
2～3 つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに poor performing なのかを理解していく上で、基礎的な理解となるマクロ経済分析の教科書と近年の金融危機を理解する上で必要な知識としての金融論の教科書をじっくり読み進めていきます。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
１	ゼミの進め方	ゼミ運営について話します
２	テキスト金融論	９－１０章
３	テキスト金融論	１１－１２章
４	テキスト金融論	１３－１４章
５	テキスト金融論	１５－１６章
６	テキスト金融論	１７－１８章
７	テキスト金融論	１９－２０章
８	テキスト金融論	２１－２２章
９	懸賞論文キックオフ会議	懸賞論文のテーマについてのプレゼン
１０	テキスト金融論	２３－２４章
１１	テキスト金融論	２５－２６章
１２	テキスト金融論	２７－２８章
１３	懸賞論文会議	懸賞論文に関する進捗状況の報告
１４	テキスト金融論	２９－３０章
１５	懸賞論文会議	懸賞論文テーマの確定と進捗状況の報告
１６	国際金融論	詳細はゼミ内にて
１７	国際金融論	詳細はゼミ内にて
１８	国際金融論	詳細はゼミ内にて
１９	卒論中間発表	卒論に関する進捗状況の報告
２０	国際金融論	詳細はゼミ内にて
２１	国際金融論	詳細はゼミ内にて
２２	国際金融論	詳細はゼミ内にて
２３	国際金融論	詳細はゼミ内にて
２４	国際金融論	詳細はゼミ内にて
	卒論中間	卒論に関する進捗状況の報告
２５	国際金融論	詳細はゼミ内にて
	卒論中間	卒論に関する進捗状況の報告
２６	インゼミ	夏の懸賞論文を使ってプレゼン大会
２７	国際金融論	詳細はゼミ内にて
２８	国際金融論	詳細はゼミ内にて
２９	国際金融論	詳細はゼミ内にて
３０	卒論	最終発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしてくることが大前提です。受け身では、何も身につきません。主体性を持って学習しましょう。

【テキスト（教科書）】
堀江康熙・有岡律子『テキスト 金融論』新世社

【参考書】
伊藤元重『ゼミナール　国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
福田 慎一・照山 博司 『マクロ経済学・入門』(有斐閣)
蓑谷千凰彦『計量経済学』 （東洋経済）

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの報告、日頃の学習態度などで評価を行います。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
各種のコメントを考慮してゼミ運営をします。

【その他の重要事項】
ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。２－３年生に関しては、各学期で合計で３回以上、通年で４回以上欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にＤ評価となります。
ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。
ゼミ生は、3 年生以上は日本経済論、国際金融論、国際経済論、計量経営分析、2 年生以上は入門外国語経営学（平田担当）の履修を原則として必修とします。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］

演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

福島　英史　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習のテーマは，企業組織が行う戦略上の意思決定について，論理的に考え，理解を深め，自分なりの意見をまとめることです．企業戦略の基本的な考え方を習得するとともに，戦略上の意思決定を理解する助けとして組織論や社会学等の考え方にも触れます．

【到達目標】
経営事象を織りなす様々な意思決定とその合成過程について，論理的に理解し，説明できるようになることが達成目標です．世の中で観察・報じられる経営事象について自分なりの関心を持ち，問題を立て，自分なりの説明をできるようになることを目標とします．経営学部生として，自分なりに，経営学に関する発表を行い，ゼミ内で話し合い，経営学の論文を書いて卒業していきます．卒業時に経営・経営学のどんな問題に取り組んだか自分なりに説明できることが目標です．

【授業の進め方と方法】
２つの学習活動に取り組みます．１つは文献の輪読です．用意したレジュメをもとに，疑問点や議論の論理展開などについて議論します．もう１つは，グループで行う調査研究です．3〜4 人のグループがテーマを自由に決めて調査し，月１回程報告をします．また他大学とインターゼミを行い，研究成果を発表し，意見交換を行います．3 年生後半から卒業論文制作に入り，卒業までにこれを完成させます．夏期にはケース討論や研究発表のための合宿を行います．その際，会社・工場見学に行くことがあります．またゼミ中にミニ・ケース討論を行うことがあります．

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
2	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
3	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
4	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
5	研究テーマ報告	調査研究テーマを報告する 問いをたてる
6	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
7	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
8	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
9	調査研究報告	調査研究の報告を行い，議論から改善策の提案を行う
10	卒論報告	卒業論文研究の中間報告を行い，議論から改善策の提案を行う
11	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
12	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
13	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
14	調査研究報告	調査研究の報告を行い，議論から改善策の提案を行う
15	卒論報告	卒業論文研究の中間報告を行い，議論から改善策の提案を行う
16	工場見学	企業を訪問し生産の現場を知る
17	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
18	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
19	卒論報告	卒業論文研究の中間報告を行い，議論から改善策の提案を行う
20	卒論テーマ報告 1	卒論テーマの報告（3 年生） 問いをたてる
21	次年度ゼミ生面接	次年度ゼミ生候補の面接
22	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
23	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
24	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
25	インターゼミ 1	他大学経営学系ゼミと交流し，意見交換を行う
26	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
27	文献講読と議論	課題文献を読み，意見を交換する
28	卒論テーマ報告 2	卒論テーマの報告（3 年生） 改善策の提案
29	インターゼミ 2	他大学経営学系ゼミと交流し，意見交換を行う
30	卒論報告	卒業論文研究の第１稿について報告を行い，議論から改善策の提案を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
問題意識を持って身近な事例を眺め，考えてみる．ゼミ生同士で調査研究と話し合いを行う．ゼミ及びインターゼミ後には，コメントについて反芻し整理を試みる．

【テキスト（教科書）】
課題文献は演習初回に指示します．過年度には，D．ベサンコ他『戦略の経済学』（ダイヤモンド社），苅谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社），M．ヒット他『戦略経営論』（センゲージ L）などを読みました．

【参考書】
演習中に適宜案内します．

【成績評価の方法と基準】
ゼミに対する準備，ディスカッションへの貢献度，卒業論文および各種課題等の評点に基づいて評価します．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
昨年度は担当者が変更になりましたが，過年度には皆大変よく頑張ってくれていました．引き続きしっかり議論を進めていきます．

【学生が準備すべき機器他】
パソコン，プレゼンテーションソフト．

【その他の重要事項】
ゼミ参加者全員が報告者であるという姿勢をとり，十分な準備と報告に関するディスカッションへの積極的な参加が強く望まれます．調査研究および卒業研究の成果に関する経過報告では自分なりの説得力とオリジナリティを心がけることが必要です．無断欠席は認めません．関連科目は戦略的意思決定論，経営学総論，経営組織論，経営戦略論，マーケティング論，経営管理論，日本経営論，流通論，技術管理論，製品開発論，国際経営戦略論，中小企業論，組織経済学等ですが，これに限らず様々な学びを歓迎します．

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］

演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

福田　淳児　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習Ⅰでは、企業の経営者や管理者が組織内で行なう意思決定および組織単位及び組織単位の管理者の業績測定・評価に役立つ会計情報を提供する管理会計システムの設計に関わる基本的な概念、および理論を理解することを目的とする。演習Ⅱでは、グループごとにテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献を収集し、自分たちなりに調査を行うことを目的とする。そのプロセスで、調査方法また統計技法を習得することを目的とする。

【到達目標】
演習Ⅰでは、管理会計の基礎的な概念および重要なテーマについて学習することで、管理会計研究のために必要な基礎知識と考え方を身につけることを目標とします。さらに、管理会計の領域で何が、現在、議論され、問題とされているのかているのかについて理解することも大きな目標の一つです。演習Ⅱでは、ゼミ参加学生を複数のグループに分け、それぞれのグループでテーマを選択し、毎年 12 月に他大学との間で行われるインターゼミの報告会に向けて文献レビュー、調査および議論を行ないます。演習Ⅱでは調査技法の習得およびプレゼンテーションの仕方などについても習得することを目標とします。

【授業の進め方と方法】
ゼミナールはゼミ生の報告を中心に進めます。演習Ⅰでは指定のテキストについての輪読を行います。毎週、各テーマについて、グループで報告をしてもらい、それについて質問・議論を行う形でゼミを進めていきます。テキストはあくまで基礎的な資料ですので、興味のある内容についてはさまざまな資料を当たってみてください。演習Ⅱでは毎年 12 月に開催される他大学との報告会に向けてテーマを選択してもらい、そのテーマについて文献レビュー、また調査を行ってもらいます。毎回、2 つのグループに報告を行ってもらい、議論するとともに、それぞれのテーマにあわせた参考資料を紹介します。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 管理会計の意義	1 年間の講義のスケジュールを紹介するとともに、管理会計と財務会計の相違点を中心に、これから学習する管理会計の概要を説明する。報告の割当を行う。
2	管理会計学習のための基礎概念	管理会計について学習していく上で必要な管理会計の基礎的概念のいくつかを実例を交え紹介する。
3	意思決定アプローチと業績管理アプローチについて	管理会計を学習する上での２つのアプローチである意思決定アプローチと業績管理アプローチについて説明する。
4	標準原価計算による原価管理	標準原価計算による原価管理の意義またその原価について学習する。
5	長期経営計画	長期経営計画の設定プロセスおよびその分析手法について紹介するとともに、実務の状況を説明する。
6	設備投資計画	設備投資の経済性計算の方法を紹介しそれぞれの手法について説明するとともに、それぞれの経済性計算方法の長所、短所を解説する。
7	利益計画	企業の利益計画の設定および CVP 分析の手法について説明する。
8	予算管理	組織におけ予算管理のプロセスおよび実務上の問題点について議論する。また、予算不要論について検討するとともに実務の状況を検討する。
9	事業部の業績管理	事業部制組織における事業部門また事業部長の業績管理の問題について説明する。
10	ABC/ABM	製造間接費の配賦についての伝統的な方法との比較でＡＢＣの特徴を明らかにする。また、原価管理への ABC 情報の役立ちについて検討する。
11	バランス・スコアカード	ＢＳＣ登場の背景、その意義および４つの視点について説明する。非財務的な指標の意義，およびそれと財務的な指標との関係を明らかにする。
12	原価企画活動	製品の開発・設計段階でのコスト・マネジメントの方法である原価企画についてそのプロセス並びに実務の状況を説明する。
13	アメーバー経営	アメーバー経営ならびにそれをサポートする会計システムについて説明する。
14	分権的な組織の管理会計の問題	カンパニー制また持ち株会社を前提とした管理会計の問題についていくつかの事例を取り上げながら検討する。特に職能別組織との対比を行う。
15	春学期のまとめ	春学期に学習した管理会計の基本的な概念および考え方の整理を行う。
1	インターゼミ（１２月開催予定）に向けてのテーマ選定	各大学２チームの報告であることから、ゼミを２つのグループに分け、それぞれのグループでの報告テーマについて、必要なデータの収集可能性も踏まえ検討する。
2	問題設定	選択したテーマについて、何が問題であるかをある程度明確にする。
3	研究の背景	選択したテーマについて、これまでにどのような研究が行われてきたのかを文献レビューで　を通じて明確にする。
4	文献レビュー	過去の研究を整理し、何がこれまで明らかにされてきたのかのか、何がわかっていないのかを明らかにする。
5	問題の明確化	選択したテーマについて、文献レビューをふまえた上で、何をどこまで、今回の研究で明らかにするかを明確にする。
6	コメントに基づく仮説の設定	これまでの議論に基づいて、研究テーマに関わる仮説を設定する。
7	ケース研究について	ケース研究の方法について説明する。
8	郵送質問票調査について	質問票調査の方法について、具体例をあげて説明する。
9	データを収集するための準備	選択した研究方法に基づいて、具体的な質問項目の設定、インタビュー先の選定を行なう。
１０	質問項目の検討	仮説に基づいて適切な質問項目が設定されているかを検討する。
１１	収集したデータの検討	これまでに得ることのできたデータに基づいて、研究テーマに関連してどのようなことがいえるのかを検討する。
１２	データの分析	実際のデータを分析または解釈することで、リサーチクエスチョンに対してどのようなことがいえるのかを検討する。
１３	データの分析の再検討	前回の検討に基づいて、再度検討した結果を報告し、議論する。
１４	プレゼンテーション	実際の報告会に向けて、プレゼンテーションを行なう。
１５	演習Ⅱのまとめ	演習Ⅱで学習した内容の総まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回のゼミで取り上げられるテーマについて毎回テキストの該当箇所を読んでくること。報告担当者はパワーポイントを利用して、報告を行なう準備をすること。また、報告者はそれぞれのテーマに近い内容が扱われている企業の記事を収集しておくこと。報告者でない学生は質問内容を考えておくこと。管理会計の基本的なテクニカルタームについては事前に調べておくこと。秋学期では各グループの選択したテーマについて教員が紹介する文献を一読しておくこと。

【テキスト（教科書）】
谷武幸著『エッセンシャル管理会計第３版』中央経済社、2013 年

【参考書】
必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミナールへの出席、担当箇所の報告の完成度および議論への参加を加味して評価します。成績評価の配分はゼミナールへの出席 30 %、報告および議論への参加 70 %です。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
ゼミの学生からは管理会計技法が実務でどのように利用されているかについてもっと知りたいという要望を受けています。今年度は管理会計のケースブックを教科書に用いることで、実務への理解を促進する予定です。

【その他の重要事項】
本演習に関連の深い科目として、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび経営分析Ⅰ/Ⅱ、この他に経営学関連の科目があります。積極的にこれらの科目を履修してください。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

福多　裕志　教授　（代講：ジョナサン・エーブル　講師）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
[Economic environments and other cultural factors that affect the decisions of a company]
This year Mr. Jonathan Abel is in charge of this seminar. Various economic and other cultural factors which influence the decision making of a company will be discussed in English based on the Financial Times and The Economist and other publications and articles. It is a practical course in which the sole classroom language is English.
[企業の意思決定に影響する経済環境]
今年度は、ジョナサン・エーブル氏が当ゼミを担当するので、企業の意思決定に影響するさまざまな経済的環境（要因）を、ファイナンシャルタイムズ紙やエコノミスト誌に基づいて議論する。

【到達目標】
Confident communication using business and economic topics
今年度は、経営、経済関連の話題を正確に議論できる英語力の向上に重点を置く。

【授業の進め方と方法】
Using the text as a basis we will build confidence through practical exercises, using English as it is used in a Business environment.
授業では、英語を用いて経営、経済関連の話題を議論する。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class selection and an introduction to the course
2	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
3	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
4	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
5	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
6	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
7	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
8	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
9	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
10	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
11	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
12	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
13	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
14	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
15	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
16	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
17	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
18	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
19	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
20	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
21	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
22	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
23	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
24	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
25	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
26	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
27	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
28	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
29	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations
30	Business and Economics	Discussing articles and giving presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to prepare for seminar at home to enhance their participation in classroom activities and discussions. Students are also expected to find and analyze information from various sources of English media as a means of increasing their vocabulary and general knowledge.
英語で各話題を議論できるよう、各自適切な学習方法を選択し、英語運用力の向上に努めることが要請される。

【テキスト（教科書）】
Text(s) to be announced

【参考書】
Newspapers and weeklies on the Internet

【成績評価の方法と基準】
Students will be assessed continually. Attendance is mandatory.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
The instructor always welcomes questions and comments on the seminar.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
Relevent subjects: Try to read basic subjets such as introduction to micro-economics, introduction to business administration in English.
Using both Japanese and English in the future will be a must. Continue to improve your English skills in the Fukuda seminar.
日・英両語を駆使し真摯に議論することは、今後如何なる職業に就いても必要となるでしょう。参加者皆さんの現時点の素晴らしい動機を継続的に維持し、最後まで頑張ってください。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 4 単位	［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習３・４	選択＜演習＞	3 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習５・６	選択＜演習＞	4 年次／ 6 単位	［年間授業］

藤澤　利治　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
欧州単一通貨ユーロの危機と EU の現状について学ぶ。

【到達目標】
①ヨーロッパの 28 カ国が加盟する、複雑多様な組織である EU を正確に理解する。
② EU を理解することによって、日本やアメリカの政治・経済・社会を考える際の判断基準を身に付ける。
③現在 EU が直面しているユーロ危機の現状とその解決策を理解する。

【授業の進め方と方法】
進め方：演習形式で進める。1999 年から非現金分野で導入された EU の単一通貨ユーロは、2002 年初めから 12 カ国で紙幣やコインとして流通し、2015 年現在では 19 カ国で導入されていて、今や第 2 の国際通貨となっている。また EU も、加盟国が 28 カ国に拡大している。このような統合の深化と拡大を実現した EU であるが、今日ユーロは深刻な危機に直面している。EU とユーロがどのような問題に直面し、解決を求められているかについて分析する。
方法：ゼミ生のヨーロッパ経済についての基礎知識や理解度に従って文献を輪読する方法をとる。予定では、後に示すテキストを取り上げ、検討するつもりでいる。それと並行して、ゼミナール大会参加の準備も行う。
また、夏休みにはゼミ合宿を行う。さらに、例年 11 月と 12 月に行われる関東ブロックと全日本学生ゼミナール大会に参加する予定でいるので、その準備のためのサブゼミを随時開催する。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと基礎知識の確認	授業の概要と進め方に関する説明のほか、EU に関する基本的な知識の確認を行う。
第 2 回	欧州の特徴	欧州の歴史的、社会的、地理的そして政治的特徴を概観する。
第 3 回	第 2 次世界大戦後の欧州	第 2 次世界大戦後の欧州各国の経済実態について概観する。
第 4 回	ECSC の設立とその成功	欧州において紛争の原因となってきた独仏間の対立を解決するための試みであった欧州石炭鉄鋼共同体についてみる。
第 5 回	EEC と Euratom のスタート	欧州経済共同体と欧州原子力共同体の創設過程を見る。
第 6 回	EC の創設	これまでの 3 つの共同体を再編成して EC が創設される過程を見る。
第 7 回	石油危機下の EC	二度にわたる石油危機によって混乱した EC 経済の立て直し策を検討する。
第 8 回	欧州通貨システムの創設	欧州通貨統合の試みについてみる。
第 9 回	欧州市場統合の完成	欧州における非関税障壁の撤廃と市場統合の完成を見る。
第 10 回	マーストリヒト条約の概要	欧州における通貨統合への歩みを見る。
第 11 回	マーストリヒト条約の発効	1993 年に発効したマーストリヒト条約の内容を見る。
第 12 回	単一通貨ユーロの創出	単一通貨としてユーロが創設されるプロセスを見る。
第 13 回	ユーロ導入と通貨統合の完成	1999 年のユーロ導入とその後の順調な推移を見る。
第 14 回	PIIGS と財政危機	2009 年以降ユーロ圏を襲った財政経済危機について概観する。
第 15 回	ギリシャ危機	ギリシャの財政危機についてみる。
第 16 回	アイルランドのバブル経済	アイルランドにおけるバブル発生とその崩壊を見る。
第 17 回	ポルトガルの経済危機	ポルトガルにおける財政危機の発生についてみる。
第 18 回	スペインのバブル崩壊	スペインにおけるバブル形成とその崩壊のプロセスを見る。
第 19 回	イタリアの財政危機	イタリアにおける経済と財政について検討する。
第 20 回	ユーロ危機とフランスの方針	ユーロ危機下のフランス経済についてみる。
第 21 回	ユーロ危機とドイツの対応方針	ドイツがユーロ危機にどう対応しているかを見る。
第 22 回	ユーロ危機の現状	ユーロ危機がどのような問題であるかを見ていく。
第 23 回	ユーロ危機の克服策	ユーロ危機の克服策を分析する。
第 24 回	ゼミナール大会のレジュメ完成	ゼミナール大会に提出するレジュメを完成させる。
第 25 回	ゼミナール大会への準備	討論ゼミからのレジュメを検討し、質問票を作成する。
第 26 回	ゼミナール大会用のレジュメの点検	討論ゼミからの質問票への回答を作成し、レジュメを点検する。
第 27 回	ゼミナール大会の参加報告とまとめ	各ゼミナール大会への参加報告と反省を行う。
第 28 回	ゼミの修了論文の指導	4 年次生のゼミ修了論文についての経過報告と作成指導。3 年次生の関心テーマの発表。
第 29 回	4 年次生のゼミ修了論文発表	ゼミ論文の発表を行う。
第 30 回	4 年次生の報告のまとめ	ゼミ論文の報告へのコメントとディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回　EU の概要をあらかじめ予習しておく。
第 2～23 回　報告者はテキストの担当部分を熟読し、報告用レジュメを作成する。他の履修者もテキストを熟読し、質問点をまとめておく。その際、下の参考文献を利用し、予習しておく。
第 24～25 回　自分の担当するテーマについて情報を集め、分析し、ゼミナール大会用のレジュメの原稿を作成する。その際、自主的にサブゼミを開催し、自分の担当するテーマについて作成したレジュメの原稿を持ち寄って相互に調整し、全体を完成させる。
第 26 回　ゼミナール大会での討論相手ゼミのレジュメを検討して質問票を作成する。
第 27 回　ゼミナール大会の反省とレジュメの修正を行う。
第 28～30 回　4 年次生はゼミ論文について経過報告の準備を行う。3 年次生は自分のゼミ論文のテーマを考えておく。

【テキスト（教科書）】
①藤井良広『EU の知識〔第 16 版〕』日経文庫、2013 年
②田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治『現代ヨーロッパ経済 [第 4 版]』有斐閣アルマ、2014 年
③アンソニー・ギデンズ『揺れる大欧州－未来への変革の時』岩波書店、2015 年

【参考書】
①遠藤乾『【原典】ヨーロッパ統合史―史料と解説』名古屋大学出版会、2008 年
②竹森俊平『ユーロ破綻 そしてドイツだけが残った』日経プレミアシリーズ、2012 年
③久保広正・田中友義『現代ヨーロッパ経済論』ミネルヴァ書房、2011 年
④ブレンダン・ブラウン（田村勝省訳）『ユーロの崩壊』一灯舎、2012 年
⑤田中素香『ユーロ－危機の中の統一通貨』岩波新書、2010 年
⑥ SGCIME 編『グローバル資本主義の変容と中心部経済』日本経済評論社、2015 年

【成績評価の方法と基準】
平常の学習態度、特にゼミでの発言と報告内容を重視する。さらに、3 年次生はゼミ大会レジュメで、4 年次生は学年末に提出をするゼミ修了論文で、最終的な成績の評価を行う。
評価配分：ゼミでの報告内容（50 %）、ゼミ大会レジュメ（3 年次生のみ；50 %）、ゼミ修了論文（4 年次生のみ； 50 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
就職活動でゼミへの貢献度が低下する 4 年生について、ゼミでの活動を活性化するために、報告等の分担を多くする。

【その他の重要事項】
・ゼミは自分の問題意識に従って学習することを前提にしているので、自発的に資料や文献を見つけて調べ、報告や議論に積極的に参加することを求める。さらに、ヨーロッパについての日々の新聞報道や雑誌論文をフォローすることも必要となる。
・関連科目として、産業史Ⅰ/Ⅱ、国際経済論Ⅰ/Ⅱ、国際金融論Ⅰ/Ⅱを履修することを求める。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

藤村　博之　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヒトの側面から企業経営を考えることがこのゼミの目的ですが、その問題だけにとどまらず、広く日本社会のあり方についても議論したいと思います。それは、企業が社会という大きな枠組みの中で活動しているからです。企業経営の本当の姿を知るには、社会に対する理解が不可欠です。私たちが暮らしている日本という社会の姿を考えながら、企業の人事管理を見ていきたいと思います。
その際、国際比較という視点も大事にします。日本社会の本当の姿を知るには、他の国との比較が有効だと考えられます。日本独自の問題だと思われていることが、案外、どの国にも共通して発生していたり、日本は遅れていると言われていることが実は他の国でも同じような実態であったりするからです。企業のヒトの問題を通して、日本社会についての理解を深めてほしいと思います。

【到達目標】
日本社会のあり方、日本企業のあり方、そして学生一人一人の職業人としての生き方を考えられるようになることが到達目標です。そのために、①情報を収集し、整理して、再構成する力、②自分の主張を文章で表現する力、③自分の意見を発表し議論する力の 3 つを身につけることが必要です。できるだけ客観的な情報を収集し、事実を理解した上で、これからのあり方を自分の頭で考えられるようになってほしいと思います。

【授業の進め方と方法】
インターゼミナール大会に出席するための論文作成を中心として、ゼミを運営します。春学期は、議論に必要な共通の基盤を作るために、人事管理関係の教科書を指定して輪読します。夏休みから秋学期の初めにかけては、インゼミ大会参加論文執筆のための共同作業になります。秋学期のゼミは、時事問題の議論や社会人として必要な知識を身につけるための勉強をします。2、3 年生には進級論文の提出を求めます。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	日本企業のヒトの問題	経営資源の一つであるヒトの特徴について学びます。
第 2 回	雇用管理Ⅰ	採用と配置について
第 3 回	雇用管理Ⅱ	雇用調整、退職管理について
第 4 回	人事制度	従業員が組織の目標達成に向かって力を結集する仕組みの理解
第 5 回	能力開発	OJT と Off-JT の組合せ方
第 6 回	評価制度	評価と目標管理の関係について
第 7 回	報酬管理	賃金制度の組み方
第 8 回	労働時間管理	長時間労働の現状とその解決策
第 9 回	非典型雇用	有期雇用社員の現状と課題
第 10 回	高齢者雇用	日本社会の高齢化と雇用問題
第 11 回	女性労働	女性が出産・育児を経ても働き続けられるようにするにはどうすればいいか
第 12 回	外国人労働者	日本の少子化と人口減少の中で、外国人労働者をどう受け入れていくのか
第 13 回	福利厚生	法定福利と法定外福利の関係
第 14 回	労使関係	労使コミュニケーションの現状と課題
第 15 回	他大学との討論会	立正大学戎野ゼミと討論会を行う
第 1 回	インゼミ大会論文執筆Ⅰ	12 月に行われるインターゼミナール大会の論文完成に向けて作業する
第 2 回	インゼミ大会論文執筆Ⅱ	インゼミ大会の論文を完成させる
第 3 回	コミュニケーションを学ぶ	『先生はえらい』を読んでコミュニケーションのあり方を考える
第 4 回	有期雇用契約	有期雇用契約の現状と問題点を政府文書を使って議論する
第 5 回	グローバル経営人材の育成	世界で活躍する経営者を育てるにはどうすればいいかを考える
第 6 回	少子化の現状と対策	少子化がなぜ起こっているのか、少子化はどうすればとまるのかを考える
第 7 回	ワークライフバランス	男性の長時間労働を解消するには何が必要かを考える
第 8 回	高度外国人材の採用	高学歴の外国人を日本企業が雇用して、活用するには何が必要かを考える
第 9 回	生涯現役社会のあり方	働く意欲と能力のある人が何歳になっても働けるようにするにはどうすればいいかを考える
第 10 回	目標管理制度	目標管理制度の正しい使い方
第 11 回	労働組合の役割	日本社会や企業の中で、これから労働組合はどのような役割を担う必要があるかを考える
第 12 回	世界の中の日本	日本は他の国々からどう見られているのか
第 13 回	日本の強み	他国と比べたとき、日本は何を強みとして競争していけるのかを考える
第 14 回	日本の将来	私たちは、日本をどのような社会にしていけばいいのかについて考える
第 15 回	まとめ	年間を通してのまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、討論の題材となる文献が決まっています。それを読み込んでくることが大切な事前学習です。単に読むだけではなく、書かれていることから自分の問題意識をみつけることも重要です。
社会人との交流の場を年に 10 数回設けています。これにできるだけ多く出席することを求めます。

【テキスト（教科書）】
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理 [第 5 版]』有斐閣、2015 年

【参考書】
佐藤・藤村・八代『マテリアル人事労務管理』有斐閣、2006 年。
その他の文献については、講義中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミには毎回出席し、合宿や論文作成にも積極的に取り組むことが必要です。インターゼミナール大会参加論文の作成に積極的に参加したか、ゼミ運営にどれだけ貢献したか、進級論文の水準はどの程度かといった点を中心に評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
それぞれの特徴と役割を尊重します。その上で、ゼミが活発になる自発的な行動を支持します。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使用した報告を課します。

【その他の重要事項】
大学での勉強で大切なのは、課題を与えられてそれを処理するのではなく、自らテーマを見つけてそれを解明していくことです。何事にも主体的に取り組む姿勢を求めます。
社会人との交流の場を年に 10 数回設けています。一つには、小泉産業、ワールド、コクヨ、アシックス、三菱 UFJ 信託銀行、上新電機、ビックカメラなどの労働組合役員と若手組合員が出席し、「働くってどういうことだろう」、「キャリア形成というけれど本当は何？」、「会社の選び方は？」といったテーマでグループ討論を行うものがあります。
また、立正大学戎野ゼミとの討論会や工場見学等の課外活動も予定しています。
さらに、NPO 人財育成ネットワーク推進機構が主催する学生支援セミナーへの任意の参加を求めています。学生支援セミナーは、毎月産業別に労働組合の方々に集まっていただき開催されているものです。医薬品産業・自動車産業・流通業・金融業・電機産業などの企業が参加します。現場をよく知る労働組合の方々に現実を伝えていただき、社会に出たときに迷わないための準備をしてもらうのが目的です。
上記のようにゼミでは複数の活動を伴います。アルバイトなど私的な都合よりも学業を優先することが必要になります。これは、学生として当然のことですが、あえて付け加えておきたいと思います。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【関連科目】
人的資源管理Ⅰ/Ⅱを中心に、すべてに関連する科目。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］

演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

洞口　治夫　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミナールでは、国際経営論の学習を通じて、将来、国際的なビジネスに携わりたいと希望する学生諸君に必要な基礎的学習能力を育成します。グループでの論文作成や春合宿・夏合宿を通じて、チームで作業することの大切さを学びます。ゼミ長、副ゼミ長、企画係、書記、会計係など、ゼミでの役割分担を定めて、慶應義塾大学、東京大学とのインターゼミナールや合宿、ＯＢ会などを運営し、組織運営を実践します。こうした活動を通じて単に学問だけではなく、組織をつくることのできる人間の形成を目的とします。

【到達目標】
ゼミナールでは、英文のテキストを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英文を日本文に訳すことができるようになることを目標とします。そのために基本的な英語の発音、英文法の復習を行い、理解するとともに、専門用語を含んだリスニングを可能として、英会話において使えるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。他大学とのインターゼミナールやＯＢ会の運営などを通じて、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。スポーツや音楽など、毎日の訓練が重要な活動に親しんだ学生諸君の参加を歓迎します。

【授業の進め方と方法】
授業時間には英文のテキストを輪読します。報告者が担当箇所の訳文をつくり、その訳文の意味が正しいかをゼミ生全員で確かめて、本文を理解します。春合宿、夏合宿では日本国内あるいは海外の工場を見学します。昨年度は台湾の工場を見学しました。2 年生には進級レポート、3 年生にはグループ研究による論文作成、4 年生には卒業論文の提出を義務づけています。また、サブゼミではグループに分かれて日本語論文を読み、インタビュー調査の準備をします。学生 3～5 人程度のグループで企業や個人に調査を行い、外部の懸賞論文に応募します。そうした活動のなかで、慶應義塾大学、東京大学とのインターゼミナールで発表し、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。新ゼミ生歓迎会、OB・OG 会等も行います。洞口ゼミで学び社会で活躍している OB や OG と話をすることで、優れた社会人との「話し方」、「接し方」を学んでもらいたいと思います。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	テキストとなる Harvard Business School のケースとリーディングスについての説明を行います。
第 2 回	テキスト輪読、発音矯正	教科書、１ページの音読と発音チェック。
第 3 回	テキスト輪読と英文和訳	教科書、１～２ページの英文和訳。
第 4 回	夏合宿の企画立案。インターゼミの準備作業。英語の発音矯正、リスニング、会話練習。	夏合宿の企画についてのディスカッション。慶應義塾大学とのインターゼミのためのグループ分けと勉強方法のアドバイス。英語補修。
第 5 回	テキスト輪読と英文和訳	教科書、２～３ページの英文和訳。
第 6 回	テキスト輪読と英文和訳、組織論についての講義	教科書、３～４ページの英文和訳。
第 7 回	テキスト輪読と英文和訳	教科書、4～5 ページの英文和訳。
第 8 回	夏合宿の企画立案。３年生インターゼミの準備作業。英語の発音矯正、リスニング、会話練習。	夏合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。英語での自己紹介とディスカッション。
第 9 回	テキスト輪読と英文和訳	教科書、5～6 ページの英文和訳。
第 10 回	テキスト輪読と英文和訳	教科書、6～7 ページの英文和訳。
第 11 回	テキスト輪読と英文和訳	教科書、7～8 ページの英文和訳。
第 12 回	インターゼミの準備作業プレゼン。英語の発音矯正とリスニング。	研究状況のプレゼンテーション。四年生による英語プレゼンテーション。
第 13 回	テキスト輪読と英文和訳	教科書、8～9 ページの英文和訳。
第 14 回	グループ研究の中間報告、ビジネスを題材とした英語会話	インターゼミ準備、英語会話。
第 15 回	グループ研究の中間報告と夏合宿の準備	慶応とのインターゼミ準備と夏合宿の計画、工場見学での質問事項確認。
第 16 回	テキスト輪読と英文和訳	教科書、10～11 ページの英文和訳。
第 17 回	テキスト輪読と英文和訳	教科書、12～13 ページの英文和訳。
第 18 回	テキスト輪読と英文和訳	教科書、14～15 ページの英文和訳。
第 19 回	四年生の卒業論文、二年生の進級レポート中間報告	年度末に向けて論文の書き直し作業を行います。
第 20 回	テキスト輪読と英文和訳	教科書、16～17 ページの英文和訳。
第 21 回	テキストの輪読と英文和訳	教科書、18～19 ページの英文和訳。
第 22 回	四年生卒業論文中間報告	インターゼミ準備。研究経過のプレゼンテーション。
第 23 回	四年生卒業論文中間報告	インターゼミ準備。研究経過のプレゼンテーション。
第 24 回	国際マーケティング論についての講義。	ＩＲグリッドを中心とした国際マーケティングについての講義をして、ケースとの関連を理解していきます。
第 25 回	テキスト輪読と英文和訳	教科書、20～21 ページの英文和訳。
第 26 回	テキスト輪読と英文和訳	教科書、22～23 ページの英文和訳。
第 27 回	年間の英単語ボキャブラリー増加確認	教科書、24～25 ページの英文和訳。この一年間に学んだ新たな英単語の一覧作成とその確認。
第 28 回	二年生進級レポート発表	論文作成の技法について講義します。
第 29 回	四年生英語プレゼンテーションの準備	インターゼミ準備。研究経過のプレゼンテーション。
第 30 回	テキストの輪読と英文和訳	教科書全文の英文和訳確認にもとづいた英語のディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
三年生にはＴＯＥＦＬないしＴＯＥＩＣの受験結果を提出してもらいます。英会話、英語の発音、英語のリスニングなどについては、ＴＯＥＦＬやＴＯＥＩＣの学習を通じて各自行う必要があります。インターセミナーなどに欠席せずに参加する必要があります。留学する学生諸君も多いので、ゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。

【テキスト（教科書）】
ゼミに参加する諸君は以下を購入して下さい。
① Language and Globalization: “Englishnization”at Rakuten (A)
2013 年 4 月 3 日に公表されたハーバード・ビジネススクールのケースです。著者 Tsedal Neeley. 製品番号 9-412-002.
①のケースを購入するためには、http://hbr.org/store
のサイトから case を選択し、タイトルを記入して検索します。6.95 ドル～9 ドル程度（1000 円前後）でＰＤＦを購入できます。ダウンロードしたファイルから自分で印刷します。購入にはクレジットカードが必要です。
https://cb.hbsp.harvard.edu/cbmp/pages/content/cases
のサイトからもアクセスできます。
登録ユーザーとなるには、
http://cb.hbsp.harvard.edu/cb/register
のサイトから Higher Education Individual に必要事項を記入して register をします。その後、上記のタイトルを入力し、show detail、を選択したのちＰＤＦを購入します。
②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント－ゼミナール編－』白桃書房、2008 年. ＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが収められています。＞
③石黒昭博監修『総合英語 Forest』桐原書店、第７版. ＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞

【参考書】
①法政大学経営学会『経営学部生のための用語集』（どの年版でもよい）.
②原田順子・洞口治夫 (2013)『国際経営（放送大学教材）』放送大学教育振興会.
③洞口治夫『集合知の経営』文眞堂、2009 年.
④フィリップ・コトラー他著『ＡＳＥＡＮマーケティング－成功企業の地域戦略とグローバル価値創造－』洞口治夫監訳、マグロウヒル・エデュケーション、2007 年.（2200 円＋税）
⑤洞口治夫・行本勢基 (2012)『入門　経営学－はじめて学ぶ人のために－』同友館.

【成績評価の方法と基準】
授業・合宿への参加（40 %）、宿題の提出と工場見学レポートの提出（20 %）、進級レポート (2 年次)、グループでの進級論文と卒業論文構想 (3 年次)、卒業論文 (4 年次)（40 %）によって判定します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感は高いように思います。専門的な知識や英語力だけでなく、大学という場を通じて、先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。在学生諸君は、教員だけでなく、ゼミの先輩たちが社会で活躍する姿から自分の未来像について多くのことを学ぶことができるでしょう。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書は必要になりますので音声つきのものを準備して下さい。イーメールでの連絡が必要となるので、ファイルを送ることのできるアドレスを確保し、毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。

【その他の重要事項】
ゼミの学生諸君には、「国際経営論Ⅰ/Ⅱ」、「国際経営ワークショップ」の履修を強く勧めます。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］

演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］

演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

宮澤　信二郎　准教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，企業の組織や戦略に関する経済学の考え方を学びます。併せて，ニュース等で触れられる具体的な関連トピックスについて，学んだ考え方を用いて当てはめて検討し，参加者で議論します。履修者がミクロ経済学（特にゲーム理論）の分析手法を身につけ，企業の組織や戦略に関する具体的な問題を理論的に分析・発表できるようになることがこの授業の目的です。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下の通りです。
1）企業の直面するさまざまな問題をミクロ経済学の分析枠組みで捉えることができる
2）論理的に検討して，その結果を発表できる

【授業の進め方と方法】
開講後に参加者の意見や実態を踏まえて変更される可能性がありますが，現時点では以下の内容を考えています。
1）参加者全員が，事前に，企業の組織や戦略に関するテキストの指定された箇所を読む。また，参加者全員が，（なるべく）毎日，日本経済新聞を読む。
2）参加者のうち数名が，指定された箇所について報告をする。また，参加者のうち数名が，関連しそうな新聞記事について報告する。
3）参加者全員で，テキストの内容，関連しそうな新聞記事について議論する。必要に応じて，担当教員がミニ講義をする。
4）参加者全員で，テキストの内容と関連する新聞記事をまとめたノート（レジュメよりは詳しいもの）を作成する。
5）作成したノートの内容について全員で確認し，改善する。
6）年度の最後に，個別に，テキストの内容と関連する新聞記事の中からテーマを選んでレポートを作成する。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方について説明する。
第 2 回	テキストの内容と新聞の記事に関する報告・議論（1）	テキスト 1 章の内容について報告します。また，関連しそうな新聞記事について報告します。報告を受けて，参加者全員で議論します。
第 3 回	ノートの内容確認と議論（1）	テキスト 1 章の内容と関連する新聞記事に関するノートの内容について，全員で確認し，改善点などについて議論します。
第 4･5 回	テキストの内容と新聞の記事に関する報告・議論（2）	テキスト 2 章の内容について報告します。また，関連しそうな新聞記事について報告します。報告を受けて，参加者全員で議論します。
第 6 回	ノートの内容確認と議論（2）	テキスト 2 章の内容と関連する新聞記事に関するノートの内容について，全員で確認し，改善点などについて議論します。
第 7･8 回	テキストの内容と新聞の記事に関する報告・議論（3）	テキスト 3 章の内容について報告します。また，関連しそうな新聞記事について報告します。報告を受けて，参加者全員で議論します。
第 9 回	ノートの内容確認と議論（3）	テキスト 3 章の内容と関連する新聞記事に関するノートの内容について，全員で確認し，改善点などについて議論します。
第 10 回	復習・確認	テキスト 3 章までの復習とノートの確認を行います。
第 11･12 回	テキストの内容と新聞の記事に関する報告・議論（4）	テキスト 4 章の内容について報告します。また，関連しそうな新聞記事について報告します。報告を受けて，参加者全員で議論します。
第 13 回	ノートの内容確認と議論（4）	テキスト 4 章の内容と関連する新聞記事に関するノートの内容について，全員で確認し，改善点などについて議論します。
第 14･15 回	テキストの内容と新聞の記事に関する報告・議論（5）	テキスト 5 章の内容について報告します。また，関連しそうな新聞記事について報告します。報告を受けて，参加者全員で議論します。
第 16 回	春学期の内容についての確認	春学期（および夏合宿）で行った内容について復習・確認をします。
第 17･18 回	テキストの内容と新聞の記事に関する報告・議論（6）	テキスト 7 章の内容について報告します。また，関連しそうな新聞記事について報告します。報告を受けて，参加者全員で議論します。
第 19 回	ノートの内容確認と議論（5）	テキスト 7 章の内容と関連する新聞記事に関するノートの内容について，全員で確認し，改善点などについて議論します。
第 20･21 回	テキストの内容と新聞の記事に関する報告・議論（7）	テキスト 8 章の内容について報告します。また，関連しそうな新聞記事について報告します。報告を受けて，参加者全員で議論します。
第 22 回	ノートの内容確認と議論（6）	テキスト 8 章の内容と関連する新聞記事に関するノートの内容について，全員で確認し，改善点などについて議論します。
第 23 回	復習・確認	テキスト 8 章までの復習とノートの確認を行います。
第 24･25 回	テキストの内容と新聞の記事に関する報告・議論（8）	テキスト 9 章の内容について報告します。また，関連しそうな新聞記事について報告します。報告を受けて，参加者全員で議論します。
第 26 回	ノートの内容確認と議論（7）	テキスト 9 章の内容と関連する新聞記事に関するノートの内容について，全員で確認し，改善点などについて議論します。
第 27･28 回	テキストの内容と新聞の記事に関する報告・議論（9）	テキスト１０章の内容について報告します。また，関連しそうな新聞記事について報告します。報告を受けて，参加者全員で議論します。
第 29 回	ノートの内容確認と議論（8）	テキスト１０章の内容と関連する新聞記事に関するノートの内容について，全員で確認し，改善点などについて議論します。
第 30 回	復習・確認・まとめ	テキスト１０章までの復習とノートの確認を行い，全体のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1）授業までにテキストを読む
2）可能な限り毎日，日本経済新聞を読む
3）担当箇所について報告の準備をする
4）授業の後に協力してノートを作成する
5）授業で扱った内容に関連するテーマを設定して，年度末までに，レポートを作成する
6）夏合宿に参加する

【テキスト（教科書）】
ミルグロム＝ロバーツ（奥野他訳）『組織の経済学』ＮＴＴ出版（1997 年）

【参考書】
開講後に必要に応じて指定します。

【成績評価の方法と基準】
春学期は平常点（100 %）で評価します。秋学期は平常点（70 %）と期末レポート（30 %）で評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
テキストを読み，担当者が報告し，教員が補足説明するという流れだけでは，十分な理解が得られていないようでしたので，全員でノートを作り上げるというステップを入れることにしました。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメやスライドを作成する必要がありますので，パソコンが必要です。ただし，授業時間に持ってこなくても構いません。

【その他の重要事項】
1）授業に関する連絡は電子メールで行いますので，頻繁にメールを確認し，なるべく早く対応できるような体制をとってください。
2）日本経済新聞社が実施している公開試験である日経 TEST を受験してもらう予定です。その対策も兼ねて，なるべく毎日，日本経済新聞を読むようにしてください。
3）3 年生は，ミクロ経済学（特にゲーム理論）の分析手法を学ぶため，「応用経済学Ⅰ/Ⅱ」を同時履修するようにしてください。ほかにも，科目履修のアドバイスをしますので，なるべくすすめられた科目を履修するようにしてください。
4）毎回出席することを前提として授業を進めます。無断欠席は厳禁です。2 回以上無断欠席した場合には，それ以降，単位を与えません。病気や就職活動の面接等でやむを得ず欠席する場合でも，必ず事前に連絡をしてください。正当な理由のある欠席の場合も，原則は 3 回までとし，それ以上欠席した場合には，代替的なレポートの提出を求めます。
5）夏合宿を開催し，その際に，テキストの 5 章と 6 章を進める予定です。予定通り開催された場合には，（少なくとも 3 年生は）必ず参加するようにしてください。ただし，やむを得ない事情がある場合には，別日程で補修をするなどの措置を講じます。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

八重倉　孝　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営戦略と経営分析をテーマとする。経営戦略および経営分析のそれぞれの理解にとどまらず、企業の経営戦略が会計数値にいかに反映されるのか、すなわち経営戦略と会計数値の関係についても検討する。

【到達目標】
経営分析を行うために必要なスキルを身につける。
ゼミ生が、経営分析の理解のみならず、PC を利用した情報収集・分析の能力やコミュニケーション能力（特に、文章を書く力とプレゼンテーション能力）を得られるように指導する。

【授業の進め方と方法】
３年次の前半は経営戦略と経営分析についてテキストの輪読形式を中心に学び、後半はチームプロジェクトを通じて経営分析を実践する。
４年次はゼミ論文作成へ向けた調査・研究の指導を行う。
また、日銀・東証等を適宜訪問する予定である。
下記の授業計画はシラバス作成時点での予定であり，ゼミ生と相談の上適宜調整を行う。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	役職決定・報告日決定
2	文章の書き方・プレゼンテーションのやり方	教員によるレクチャー
3	プレゼンテーションの練習	各自によるプレゼンテーションソフトを用いた自己紹介
4	テキスト輪読（１）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
5	テキスト輪読（２）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
6	テキスト輪読（３）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
7	テキスト輪読（４）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
8	テキスト輪読（５）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
9	テキスト輪読（６）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
10	テキスト輪読（７）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
11	テキスト輪読（８）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
12	テキスト輪読（９）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
13	テキスト輪読（１０）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
14	テキスト輪読（１１）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
15	テキスト輪読（１２）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
1	テキスト輪読（１３）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
2	テキスト輪読（１４）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
3	テキスト輪読（１５）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
4	チームプロジェクト発表（その１）	経営戦略分析・会計分析・財務分析の結果発表
5	テキスト輪読（１６）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
6	テキスト輪読（１７）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
7	テキスト輪読（１８）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
8	テキスト輪読（１９）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
9	テキスト輪読（２０）	担当者によるテキストのプレゼンテーションと質疑応答
10	情報検索ガイダンス 論文テーマの決め方	図書館スタッフによるガイダンス 論文のテーマの決め方についてのレクチャー
11	リサーチ・メソッド 論文テーマ報告（１）	リサーチ・メソッドについてのレクチャー ３年生による論文テーマ案のプレゼンテーション
12	論文テーマ報告（２）	３年生による論文テーマ案のプレゼンテーション
13	チームプロジェクト発表（その２）	将来性分析の結果発表
14	日銀または東証見学	隔年でいずれかの見学を行う。2015 年度は東証の予定。
15	卒業論文報告会	卒業生による卒業論文の報告と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト輪読の回はテキストの該当箇所を読み，事前に発表資料を準備しておくこと。
他の回の準備は適宜指示する。

【テキスト（教科書）】
教科書は毎年変更する。初回に指示する。下記に参考書としてあげた文献は近年使用した教科書の例である。

【参考書】
パレプ他著「企業分析入門」東京大学出版会、2001 年
伊藤邦雄著「ゼミナール企業価値評価」日本経済新聞社、2007 年
桜井久勝著「財務諸表分析（第 5 版）」中央経済社、2012 年
ゲマワット著「競争戦略論講義」東洋経済新報社、2002 年
水越豊著「BCG 戦略コンセプト」ダイヤモンド社、2003 年
嶋口 充輝他著「ビジネススクール・テキスト マーケティング戦略」有斐閣、2004 年
高橋宏誠著「戦略経営バイブル」PHP 研究所、2010 年
池上彰著「会社のことよくわからないまま社会人になった人へ」海竜社、2011 年

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの出席（理由なき欠席・遅刻は認めない）と議論などへの参加の度合いによって決定する。４年生は卒業論文の中間発表・最終発表・提出を単位認定の要件とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
昨年度の授業を反映して、輪読の割り当て方法を変更する。

【学生が準備すべき機器他】
毎回プレゼンテーションプログラムを使用する。

【その他の重要事項】
経営分析は会計・ファイナンス・経営戦略・マーケティングなどの知識を活用する「応用」分野であることから、色々なバックグラウンドや関心を持つ人の参加を期待する。
○教員によるゼミのウエブサイト
http://homepage2.nifty.com/tyaeku/seminar.html
○関連科目は経営分析Ⅰ/Ⅱ。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

山嵜　輝　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・問題演習を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は著しく、その広範な成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展した理論の中には難解な部分があることは確かですが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に把握することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年 1～2 回、現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会を開催します。過去、三菱東京 UFJ 銀行、みずほ銀行、大和証券、メリルリンチ日本証券、みずほ投信投資顧問のアナリストやトレーダーなどが講演を行っています。

【到達目標】
以下の 4 つを到達目標に掲げます。
①ファイナンス理論の諸概念を理解し、それに基づいて金融市場での実際の出来事に対して論理的な解釈ができる。
②ファイナンスの話題に関心を持ち、明確な問題意識を持って討論に参加できる。
③自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション）ができる。
④表計算ソフトを利用してファイナンスに関する初歩的な計量分析や数値実験（シミュレーション）ができる。

【授業の進め方と方法】
本演習は 3 つの課題に取り組みます。1 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書です。精読することでファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。2 つ目はディスカッションです。毎回、授業のはじめに最近の金融市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する議論を行います。実務家講演会でも、金融ビジネスの第一線で活躍する先輩方と活発なディスカッションをします。3 つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第 1・2 次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスのスキルを確固たるものにします。また、PC（Excel）による証券価格の計算や市場分析も行います。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
2	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り
3	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
4	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
5	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
6	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
7	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とプッタブル債
8	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バック証券（MBS）
9	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
10	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
11	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
12-14	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表
15	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
16	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
17	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
18	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
19	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
20	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
21	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR）EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
22	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
23	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
24	テキストの輪読（国際証券投資）	国際証券投資の意義
25	テキストの輪読（国際証券投資）	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ
26	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利パリティ、カバーなし金利パリティ、国際パリティ関係の現実
27-29	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会
30	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の金融市場の動きを自分の言葉で説明できるように纏めること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のための資料（レジュメやプレゼン資料）の準備が必須です。さらに問題演習に取り組む必要があります。

【テキスト（教科書）】
①伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論 II　実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
②小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論 I　理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】
①佐野三郎、『証券アナリスト第 1 次レベル合格最短テキスト　証券分析とポートフォリオ・マネジメント＜ 2016 ＞』、2015 年、ビジネス教育出版社
②佐野三郎、『証券アナリスト第 2 次レベル合格最短テキスト　＜上巻 2016 ＞　証券分析とポートフォリオ・マネジメント』、2015 年、ビジネス教育出版社
③佐野三郎、『証券アナリスト第 2 次レベル合格最短テキスト　＜下巻 2016 ＞　コーポレート・ファイナンスと企業分析、市場と経済の分析、職業倫理・行為基準』、2015 年、ビジネス教育出版社
④ジョン・ハル、『フィナンシャル・エンジニアリング　第 7 版』、2009 年、金融財政事情研究会
⑤木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
発表（50 %）、宿題・課題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学習意欲の高い学生に対して、より高度な内容を提供することを検討します。実務家講演会の講演者の人選はゼミ生の要望がかなうように尽力します。

【学生が準備すべき機器他】
問題演習では PC（Excel）を使うことがあります。発表用のレジュメやプレゼン資料は PC（Word、PowerPoint など）を利用して作成して下さい。

【関連科目】
ファイナンス論 I/II、証券経済論 I/II、企業財務論 I/II、基礎統計学 I/II

【前提知識】
関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の知識は必要ありません。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 4 単位	［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習３・４	選択＜演習＞	3 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習５・６	選択＜演習＞	4 年次／ 6 単位	［年間授業］

横内　正雄　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際金融問題について学ぶ。現代は外国為替相場や国際通貨の問題がその国の経済全体に大きな影響を及ぼすようになっており、そうした国際金融に関する知識は現代の経済を理解する上で必要不可欠となっている。しかし、国際金融の問題は複雑で理解が難しいと見なされている。そのため、ここではいきなり具体的な現実の問題を取り上げるのではなく、まずは国際金融入門として基礎的な知識の習得を目指す。その上で現実の国際金融の問題にアプローチする。

【到達目標】

以下の４点を到達目標とする。
①国際金融に関する基礎的な知識を習得する。
②グローバリゼーションの問題に関する正確な知識を身につける。
③国際金融に関する基本的な英文の読解力を養う。
④論理的な思考方法を身につける。

【授業の進め方と方法】

グローバリゼーションという言葉が盛んに使われるようになって久しい。とりわけ金融現象のグローバル化ははなばなしいが、この金融グローバル化の帰結が最近の金融危機であるといってもよい。金融グローバル化の問題が金融危機にいかにして行き着いたのかということを理解するために、国際金融に関する基本的な理論と具体的な事例について学ぶことが不可欠である。

本年度の演習は、基本的なテキストを読み、国際金融の基礎理論を理解する。その上で外国為替相場等の分析・予想に関して具体的な考察を行い金融のグローバル化の過程について理解を深める。

本演習は、テキストの輪読・グループによる報告とディスカション・進級レポートおよび卒業レポートの中間報告・校外施設見学等で構成される。合宿は夏（9 月）と冬（2 月）に行う。ゼミ参加者は、2～3 年生は進級レポート、4 年生は卒業レポートの提出義務がある。

また、毎週１人が日経ヴェリタス等の新聞から興味深い記事を取り上げ、報告してもらい、それについてディスカッションを行う。

このゼミは、国際金融に関する基礎知識とその応用を修得することにより、文意把握力、資料批判力、共同行動力などに関する就業力を育成する効果がある。

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	１年間の活動計画を決定する（第１回目）
2～7	テキスト輪読 (1)	テキスト①に関する報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
8	校外施設見学	東京証券取引所の見学（予定）
9～14	テキスト輪読 (2)	テキスト①に関する報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
15	まとめ	春学期に購読した文献のまとめと総括的ディスカッション
16	課題図書に関する報告	春学期に提示して各人が読んだ課題図書について報告を行い、それにもとづいて議論する
17～20	テキスト輪読 (3)	テキスト①に関する報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
21	校外施設見学	日本銀行見学（予定）
22～25	進級レポート中間報告	2 年次生および 3 年次生の進級レポートの中間報告に関するプレゼンテーション
26～29	卒業レポート中間報告	4 年次生の卒業レポートの中間報告に関するプレゼンテーション
30	秋学期のまとめ	1 年間のゼミ活動のまとめ
夏季合宿	国際通貨システムについて理解する	テキスト②の第 7 章を題材として国際金融システムの歴史と現状について学ぶ
冬季合宿	国際金融危機について理解する	テキスト②の第 8 章を題材として国際金融危機の現状と背景について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員によるテキストの事前の購読、報告者によるプレゼンテーション資料の作成、グループによる研究報告の準備、進級レポートと卒業レポートの準備

【テキスト（教科書）】

①宿輪純一『通貨経済学入門』第２版、日本経済新聞出版社、2015 年.
② I.MacKenzie, *English for Financial Sector,* Cambridge University Press, 2008.
※テキスト②は予定。

【参考書】

①秦忠夫・本田敬吉・西村陽造『国際金融のしくみ [第 4 版]』有斐閣、2012 年.
②岩本武和『国際経済学：国際金融編』ミネルヴァ書房、2012 年.
③深尾光洋『国際金融論講義』日本経済新聞社、2010 年.
④上川孝夫・藤田誠一『現代国際金融論 [第 4 版]』有斐閣、2012 年.

【成績評価の方法と基準】

報告内容、討論への参加、課題レポートの提出状況、進級レポート（2 年次生と 3 年次生）、卒業レポート（4 年次生）で評価する。国際金融に関する基本的な理論・知識とその簡単な応用ができること、客観的で論理的な思考や記述ができることを評価の基準とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

個人によるプレゼンテーションだけではなく、グループワークとその報告を取り入れることを考えている。

【その他の重要事項】

関連する科目として専門基礎科目Ｂ群の「金融論Ⅰ/Ⅱ」を履修していることが望ましい。また、専門科目の「国際金融論Ⅰ/Ⅱ」を並行して履修することが望ましい。

演習１・２　　選択＜演習＞　　2 年次／ 4 単位　　［年間授業］
演習３・４　　選択＜演習＞　　3 年次／ 4 単位　　［年間授業］
演習５・６　　選択＜演習＞　　4 年次／ 4 単位　　［年間授業］

横山　斉理　教授

この演習は１時限のみです。２時限連続では開講しません。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習の目的は、さまざまな実践を通じて、流通・マーケティングについて深く学ぶことです。

【到達目標】
到達目標は、①身近な現象を流通・マーケティング論の視点から洞察・分析そして他人に解説できるようになること、②専門知識を活かして調査・企画・プレゼンテーション・論文（報告書）作成を行うことができるようになることです。

【授業の進め方と方法】
ほとんどすべて演習形式で進めます。
①輪読
流通・マーケティング関連の文献を自主的に輪読。その目的は、実践を助けてくれる理論、枠組み、概念、分析ツールなどを学ぶことです。
②マーケティング・ゲーム
1 グループ（3~5 人）を 1 社と見立てて、企業のマーケティング競争についてのシミュレーション・ゲームを実施。その目的は、輪読等で学んだ流通・マーケティングの主要概念（マーケティング・ミックスなど）が実践の中でどのように活用できるかを身をもって体験することです。
③フィールドワーク
グループごとに任意の研究テーマを設定し、実際に街に出て観察・インタビュー・アンケートなどの調査を行い、プレゼンした上で報告書を作成。その目的は、さまざまなデータの取得方法やわかりやすいプレゼン方法、報告書の作成プロセスを学ぶことです。
④マーケティング・コンペへの応募
学外の流通・マーケティング関連のコンペに応募する予定です。コンペ応募時には、これまでの活動で培ってきたはずの専門知識・スキルを総動員します。
⑤卒業論文
流通・マーケティングに関わっていればテーマは自由。「立論 → 方法 → 検証」（← 現時点では「？！」という人が多いでしょうが、演習を通じて学びます。）というプロセスがしっかりしていれば、興味があるテーマで論文を作成することを推奨しています。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習概要
2	マーケティング・コンペの企画の課題決定	個人・グループ演習
3~10	マーケティング・コンペの企画	個人・グループ演習
11	フィールドワークのテーマ設定	個人・グループ演習
12～14	フィールドワーク、データセッション、プレゼン、報告書作成	個人・グループ演習
15	春学期総括	春学期の学びからの発見を振り返る
16	オリエンテーション	演習概要
17~29	フィールドワーク、データセッション、プレゼン、報告書作成	個人・グループ演習
30	秋学期総括	春学期の学びからの発見を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習の学習効果を高めるためには、授業時間外にも輪読やグループ討論などが必要です。適宜、合宿や合同ゼミを実施することがあります。

【テキスト（教科書）】
適宜、紹介します。

【参考書】
適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
調査・企画・プレゼンの結果とそこに至るまでのプロセスにより総合的に評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
研究の進み具合に応じて、適宜、スケジュールを柔軟に運用します。

【学生が準備すべき機器他】
適宜、利用します。

【その他の重要事項】
マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。

流通・マーケティングは身近な現象です。我々は消費者として流通・マーケティングの当事者です。日々の生活の中で新製品の動向や新店舗の展開などに注意を向けておくことで、自分なりの問題意識をもつことができます。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 4 単位	［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習３・４	選択＜演習＞	3 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習５・６	選択＜演習＞	4 年次／ 6 単位	［年間授業］

吉田　康伸　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
健康のマネジメント、スポーツにおけるリーダーシップという 2 つのテーマについて学び、理解を深める。

【到達目標】
①健康のマネジメント：自身の日常生活に役立てることができるよう、健康に関する様々な問題について調べ、その理解を深める。
②スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【授業の進め方と方法】
ストレス社会と称される現代において、ストレスに起因する生活習慣病が深刻な社会問題となっている。そこで、われわれが心身の健康を保持・増進するに当たり、運動や食事（栄養）、休息（睡眠）、あるいは喫煙が身体に及ぼす影響といった身近な問題を取り上げ、生涯健康でいるためにはどうしたら良いかを考え、興味のある問題について調べ上げて各自に発表してもらい、皆で検討する。
また、スポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。
以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像（3 年生）および健康の維持（4 年生）に関するレポートを作成し、提出してもらう。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、役員決定	ガイダンスとゼミ長等の役員を決定する。
第 2 回	時事トピックス、教員による健康講義①	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康に関する講義を行う。
第 3 回	時事トピックス、教員による健康講義②	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康に関する講義を行う。
第 4 回	時事トピックス、教員による健康講義③	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康に関する講義を行う。
第 5 回	発表（健康）・ディスカッション①	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 6 回	発表（健康）・ディスカッション②	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 7 回	発表（健康）・ディスカッション③	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 8 回	発表（健康）・ディスカッション④	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 9 回	発表（健康）・ディスカッション⑤	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 10 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション①	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 11 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション②	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 12 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション③	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 13 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション④	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 14 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション⑤	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 15 回	春学期総括、秋学期課題設定	春学期の総括と秋学期の課題設定を行う。
第 16 回	秋学期授業ガイダンス	秋学期授業のガイダンスを行う中で、レポートの概要を発表する。
第 17 回	スポーツ界における問題提議・ディスカッション①	教員よりスポーツに関する問題提議をした後、全体でディスカッションをする。
第 18 回	スポーツ界における問題提議・ディスカッション②	教員よりスポーツに関する問題提議をした後、全体でディスカッションをする。
第 19 回	スポーツ界における問題提議・ディスカッション③	教員よりスポーツに関する問題提議をした後、全体でディスカッションをする。
第 20 回	発表（フリーテーマ）・ディスカッション①	4 年生のフリーテーマでの個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 21 回	発表（フリーテーマ）・ディスカッション②	4 年生のフリーテーマでの個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 22 回	発表（フリーテーマ）・ディスカッション③	4 年生のフリーテーマでの個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 23 回	発表（フリーテーマ）・ディスカッション④	4 年生のフリーテーマでの個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 24 回	発表（フリーテーマ）・ディスカッション⑤	4 年生のフリーテーマでの個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 25 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション①	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 26 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション②	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 27 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション③	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 28 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション④	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 29 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション⑤	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 30 回	レポート提出、授業総括	レポートの提出と授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の出席を前提として、授業への参画状況（50 %）に個人発表（20 %）、レポート作成（30 %）等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べることができるような体制づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてビデオ機器などを使用する。

【その他の重要事項】
学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。ついては、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。
また、3 年次に経営学科専門科目の経営組織論Ⅰ/Ⅱ、組織行動論Ⅰ/Ⅱを履修する（している）ことが望ましい。

【オフィス・アワー】
授業後に質問等を受け付ける。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 4 単位　［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）　選択＜演習＞　2 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習３・４　選択＜演習＞　3 年次／ 6 単位　［年間授業］
演習５・６　選択＜演習＞　4 年次／ 6 単位　［年間授業］

吉田　健二　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】
経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。また、本の要約や自分の考えなどをパワーポイントを使って発表することなどによって、コミュニケーション力を身につけることができる。

【授業の進め方と方法】
春学期は、広い意味での経営戦略の本を積極的に読む予定です。昨年は、『経営戦略入門』（網倉久永・新宅純二郎、日本経済新聞出版社、2011 年）という経営戦略論の教科書を読み、『日経ビジネス』の「経営教室」で富士フイルムホールディングス、ヤオコー、コマツ、カルビー、ヤマトホールディングス、ローソン、アイリスオーヤマという 7 社の経営について勉強しました。担当者がパワーポイントを使って発表し、その後皆でディスカッションを行います。また、関連したビデオを見ることによって、理解を深めていきます。できれば、企業の方をお招きして話を伺ったり、企業を訪問したいとも考えています。昨年は、ナースコールで国内 No.1 のケアコムの本社を訪問して、池川社長さんより会社概要や経営戦略について説明して頂き、その後社内を見学しました。
夏休み中には、『全員経営』（野中郁次郎・勝見明、日本経済新聞出版社、2015 年）と『How Google Works』（日本経済新聞出版社、エリック・シュミット、ジョナサン・ローゼンバーグ、アラン・イーグル、2014 年）の２冊の本を読んで、それぞれの感想文を 800 字で書きました。
秋学期は、12 月に行われる学習院大学との合同研究発表会に向けて、グループ研究を行います。昨年は、「新・缶コーヒー～最新マーケティングで活路を見出そう～」、「挑戦者たちの戦い～競争地位別戦略から捉える旅行業界～」、「口コミの経営への貢献」というタイトルでそれぞれ研究し、その成果をパワーポイントで発表しました。
合宿については、ゼミ生と話し合って決める予定ですが、毎年夏に行っています。昨年は、８月下旬に筑波に行き、２泊３日で勉強とレクリエーションの両方を楽しみました。また、４年生が後輩のために就職活動についてのアドバイスを行いました。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	ゼミの説明	ゼミの概要や進め方等の説明とテキストの決定
2～7	テキストの輪読	担当者の発表と全員によるディスカッション
8	企業訪問	企業を訪問して、経営戦略等の説明を聞き、社内を見学する
9～15	テキストの輪読	担当者の発表と全員によるディスカッション
16	ゼミの説明	合同研究発表会とその準備等の説明
17～29	合同研究発表会の準備と中間発表	グループごとに合同研究発表会の準備と中間発表を行う
30	合同研究発表会	合同研究発表会に参加し、グループごとに発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期は、テキストを事前に読み、疑問点や自分の意見等を整理してくること。
秋学期は、グループごとに合同研究発表会の中間発表の準備をしてくること。

【テキスト（教科書）】
ゼミ生と話し合って決める予定です。

【参考書】
①網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011 年。
②清水勝彦『戦略の原点』日経 BP 社、2007 年。
③三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2013 年。
④デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002 年。
⑤ M.E. ポーター『競争の戦略（新訂版）』ダイヤモンド社、1995 年。
⑥ M.E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985 年。
⑦ジェイ・バーニー『企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社、2003 年。
①②④⑦は経営戦略論のテキストで、③は経営戦略論の 100 年の流れを描いた本で、⑤と⑥は経営戦略論の古典といわれる本です。
他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加、グループ研究への参加、レポートなどを総合して評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすいゼミにするつもりです。また、皆でディスカッションしやすい環境にします。

【その他の重要事項】
少なくとも、１年生で経営学総論Ⅰ・Ⅱを、２年生で経営戦略論Ⅰ/Ⅱとマーケティング論Ⅰ/Ⅱを受講することをお勧めします。
「がっちりマンデー!!」（TBS テレビ、日曜日）、「カンブリア宮殿」（テレビ東京、木曜日）、「ガイアの夜明け」（テレビ東京、火曜日）、「未来世紀ジパング」（テレビ東京、月曜日）、「プロフェッショナル　仕事の流儀」（NHK テレビ、月曜日）のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、それらの番組を見ることをお勧めします。

演習１・２　（2014 年度以前入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 4 単位	［年間授業］
演習１・２　（2015 年度入学者）	選択＜演習＞	2 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習３・４	選択＜演習＞	3 年次／ 6 単位	［年間授業］
演習５・６	選択＜演習＞	4 年次／ 6 単位	［年間授業］

李　瑞雪　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）の基礎的な理論と管理手法、分析手法を学びます。

【到達目標】
１．文献輪読と討論を通じて企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）に関する基礎知識を習得します。
２．ロジスティクスのマネジメントとオペレーションの現場に対する観察と実地調査を通じて、理論・概念の理解を深めるとともに、実態に対する把握力と分析力を養います。
３．「真理の探究」に努めると同時に、ゼミ仲間の友情を涵養し、将来にわたるネットワークを築きます。

【授業の進め方と方法】
春学期においては、ロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）の専門書と事例集をステップ・バイ・ステップで輪読し、討論します。また、フィールド調査の基本技法を学び、また調査企画を行います。秋学期では、企業のロジスティクス組織、ロジスティクス施設を対象とするフィールド調査を実施します。そして、中間報告、追加調査、最終報告というプロセスを踏んで調査レポートを仕上げていきます。なお、この一連の活動はグループ研究の形をとります。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方を説明し、輪読の担当割り当て、スケジュールの策定、グループ編成を行います。
２～11	物流・ロジスティクス・SCM の教科書と専門書の輪読・討論	毎回、すべてのグループによるレジュメ作成と発表。発表後、コメント・質問を中心に討論を行い、輪読内容の理解を深めます。
12～13	フィールド調査手法の研修	フィールド調査の基本的な手法を学びます。
14～15	企業調査の計画作り	秋学期に実施する企業調査の具体的な計画を設計・検討し、グループごとに企画書をまとめます。
16～20	企業調査実施	グループ単位でフィールドリサーチを実施し、フィールド・ノーツを作成するとともに、関連文献のレビューも行います。
21～23	中間報告	フィールドノーツと関連文献に基づいて報告資料を作成して、ゼミで中間報告を行います。
24～27	追加調査	ゼミでのディスカッションを踏まえて、追加調査を行い、レポートの完成度を高めていきます。
28～30	最終レポートの完成と報告	追加調査の内容と追加の文献サーベイを踏まえてレポートを仕上げ、ゼミで発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１．指定された文献内容は必ず事前に読んでおいてください。
２．割り当てられる部分は必ず発表レジュメを作成しておいてください。
３．企業調査の実施と並行して、調査対象に関連する既存文献を積極的に収集しレビューしてください。

【テキスト（教科書）】
輪読文献はゼミの１回目で提示します。

【参考書】
Supply Chain Logistics Management, 3rd edition, by D. J. Bowersox, D. J. Closs, and M. B. Cooper, McGraw-Hill Irwin
Supply Chain Strategy, by E. H. Frazelle, The McGraw-Hill Companies, Inc.
『ロジスティクス概論：基礎から学ぶシステムと経営』苦瀬博仁編著、白桃書房
『ケース・スタディの方法』（第 2 版）Robert K. Yin 著、千倉書房
『月刊　ロジスティクス・ビジネス』各号

【成績評価の方法と基準】
輪読の発表とディスカッション参加（30 %）、企業調査の参加・貢献（30 %）、調査レポートの水準（40 %）を総合して評価します。3 回以上の無断欠席者には成績をつけません。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
より厳しくしてほしいとの要望がありました。そのようにします。

【学生が準備すべき機器他】
輪読の発表資料と企業調査の発表資料は PPT（パワーポイント）にしたうえで、プロジェクターを使用してプレゼンを行います。

【その他の重要事項】
各グループの企業調査とは別途に、ゼミ全体の企業見学を数回ほど実施します。ゼミ合宿や国内のインカレ、海外の大学と合同ゼミなどの機会を利用して、論文を発表することを予定しています。
主な関連科目として、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営学総論Ⅰ・Ⅱ、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

専門基礎科目
Ａ群／Ｂ群

経営学総論Ⅰ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 2 単位　［春学期授業］
経営学総論Ⅱ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 2 単位　［秋学期授業］
経営学総論Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 4 単位　［年間授業］

安藤　直紀　教授

※　クラス指定があります。　※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学総論を通して学生は、企業とはどのような組織なのか、どのように運営されているのか、どのように他社と競争しているのか、など経営学をこれから学んでいくうえで基礎となる事項を習得します。

【到達目標】
学生は、大学で経営学を学ぶために必要な基礎的な事項を理解します。
株式会社に関する基礎的な事項を理解します。
財務諸表に関する基礎的な事項を理解します。
企業の資金調達に関する基礎的な事項を理解します。
組織のマネジメントに関する基礎的な事項を理解します。
企業戦略に関する基礎的な事項を理解します。
国際企業戦略に関する基礎的な事項を理解します。

【授業の進め方と方法】
授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。
理論に関する講義だけでなく、事例研究も行います。
視聴覚教材も適宜活用します。
講義が中心ですが、適宜、ディスカッションも行います。
大企業の行動を中心に議論を進めますが、中小企業、ベンチャー企業などにも言及します。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第１回	講義概要	講義概要とオリエンテーション
第２回	企業活動概観	製品の企画、開発、生産、販売までの流れ
第３回	企業形態（１）	企業とは何か
第４回	企業形態（２）	株式会社とは何か
第５回	企業形態（３）	株式会社のガバナンス
第６回	企業を読む（１）	財務諸表を読む
第７回	企業を読む（２）	様々な指標を読む
第８回	企業財務（１）	資金調達の方法
第９回	企業財務（２）	日本企業の資金調達
第 10 回	組織構造（１）	分業と組織の設計
第 11 回	組織構造（２）	職能制組織と事業部制組織
第 12 回	組織構造（３）	企業の分権化と組織構造
第 13 回	人的資源管理（１）	インセンティブ・システム
第 14 回	人的資源管理（２）	日本企業の人的資源管理
第 15 回	前半の総括	春学期の議論の総括

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第１回	経営戦略	戦略とは何か
第２回	外部環境分析（１）	企業に対する脅威
第３回	外部環境分析（２）	脅威に影響を与える要因
第４回	企業内部分析（１）	リソースとケイパビリティ
第５回	企業内部分析（２）	リソースと競争優位
第６回	事例研究（１）	企業ケースの分析（１）
第７回	企業戦略（１）	コスト・リーダーシップ戦略
第８回	企業戦略（２）	差別化戦略
第９回	事例研究（２）	企業ケースの分析（２）
第 10 回	多角化戦略（１）	多角化の動機
第 11 回	多角化戦略（２）	複数事業のマネジメント
第 12 回	国際企業戦略（１）	グローバル・ビジネス環境
第 13 回	国際企業戦略（２）	グローバル戦略
第 14 回	国際企業戦略（３）	マルチ・ドメスティック戦略
第 15 回	後半の総括	秋学期の議論の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春期
１－２回：企業経営に関する新聞記事を読む
３－５回：どのような企業形態があるのか調べる
６－７回：企業の財務諸表に使用されている指標の意味を調べる
８－９回：日本企業の資金調達に関する新聞記事等を読む
１０－１２回：職能制組織と事業部制組織について調べる
１３－１４回：企業の賃金制度について調べる
１５回：春期の内容を復習する
秋期
１回：戦略とは何か調べる
２－３回：ファイブ・フォース・モデルについて調べる
４－５回：リソース・ベースト・ビューについて調べる
６回：事例企業について調べる
７－８回：企業戦略の類型について調べる
９回：事例企業について調べる
１０－１１回：多角化戦略について調べる
１２－１４回：国際企業戦略の類型について調べる
１５回：秋期の内容を復習する

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。詳しくは開講時に指示します。

【参考書】
加護野忠男、吉村典久『1 からの経営学』碩学舎、2012 年
その他の参考書は、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
春・秋期末試験で評価します。また、不定期的に講義中に行ってもらう作業や、講義内での発言をプラス点として評価し、期末試験の点数に加算します。作業については、開講時に指示します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
双方向のコミュニケーションが促進されるように講義を運営します。企業の事例を話す頻度を増やします。

【その他の重要事項】
これから学んでいく経営学の多くの分野に関連します。

経営学総論Ⅰ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 2 単位　［春学期授業］

経営学総論Ⅱ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 2 単位　［秋学期授業］

経営学総論Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 4 単位　［年間授業］

佐野　哲　教授

※　クラス指定があります。　※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学総論Ⅰ・Ⅱ（佐野哲）では、経営学が取り扱う諸分野について出来る限りウイングを広げ、それぞれの実例（企業のケーススタディ）と論点を抽出しながら講義を進めていきます。

「リアリティのある高度なビジネス知識を、企業未体験の学生に、できるだけ解りやすい言葉で。」

経営大学院（MBA）向けの参考書を援用しつつ、システムや理論のポイントを噛み砕いて解説します。

【到達目標】

経営学は、非常に奥が深く幅の広い学問です。経営哲学のような極めて抽象的な理論から、工程管理のような日々の実践的なノウハウまで、様々なテーマを包摂しています。

２年次以降の専門科目教育に向け、まずは最初の１年で経営学を幅広く学ぶことによって、各自が**「大学時代に究めたい、最も興味ある領域・テーマ」**を選び取ってもらいたいと考えています（その選択が、後のゼミ選びなどにつながるはずです）。本講義の目標は、そのための材料を可能な限り提示することです。

【授業の進め方と方法】

講義形式を取りますが毎回、「Web 検索レポート及びリアクションペーパー」の記入・提出を求め、その都度、質問や意見を集約します。

検索レポートは、事前に提示されたキーワードを Web 上で検索して「予習」する作業です（事前に提示される検索ワード 3 つについてインターネットで検索し、それぞれ 200 字、計 600 字程度にまとめた小レポート）。

また、リアクション（感想・意見や質問）ペーパーでは、それぞれの講義内容について自らの考えを整理してもらいます（出席調査票を使用し、そのコメント欄に 100 字程度の自由記入を基本とします）。講義では、その質問等への回答とともに数々の意見に応じ、可能な範囲でアプローチの変更を加えていきます。

さらに、参加学生からのリアクションペーパーの一部をツイッターで公開し（匿名化します。「経営社会学／経営学総論」でアカウント検索して下さい）、各学生の考え方やアイデアを共有するとともに教員からのコメントも適宜付け加えるなど、講義外での付加的なコミュニケーション機会を設けます。

なお、各期 8 回目の講義時間を使って中間テストを実施します。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
春 学 期 [1]	オリエンテーション	各講義テーマの概要及び学習計画（半期）の提示
[2-4]	株式会社の形態	企業形態の諸類型と株式会社の構造理解
[5-7]	経営戦略	競争優位を築く基本戦略と業界分析手法
[8]	中間テスト	授業内試験の実施
[9-11]	広告・マーケティング	マーケット及び製品特性の分析と広告・流通戦略
[12-14]	思考と交渉の理論	ロジカルシンキング及び営業交渉ノウハウの理論と実際
[15]	まとめと振り返り（予備日）	質問受け付け、リアクションペーパー・フィードバックなど

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
秋 学 期 [1]	オリエンテーション	春学期の総括（春学期試験の結果やリアクションペーパーの傾向と解釈）、秋学期各テーマの概要及び学習計画の提示
[2-4]	会計・アカウンティング	財務諸表の構造と読みかた及び経営分析手法
[5-7]	投資・ファイナンス	企業の資金調達手法と投資意思決定に関する理論
[8]	中間テスト	授業内試験の実施
[9-11]	人材・組織マネジメント	リーダーシップやモチベーションに関する理論と組織設計のありかた
[12-14]	プロジェクト・工程管理	生産現場のライン管理とプロジェクトマネジメントのノウハウ
[15]	まとめと振り返り（予備日）	質問受け付け、リアクションペーパー・フィードバックなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記【授業の進め方と方法】の通り、毎回「Web 検索レポート」の提出を求めます（これが毎回の「予習」、「宿題」となります）。

【テキスト（教科書）】

『MBA マネジメントブック』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／ 3,000 円）

＊最新版は「改訂３版」ですが、インターネット書籍通販で広く流通している旧版（中古）でも構いません。旧版はネット上の各種ショッピングサイト（アマゾンなど）でより安価に入手できます。

【参考書】

リアクションペーパーの内容や講義の進捗に合わせ、必要に応じて、その都度提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点に留意しつつ（リアクションペーパー及び Web 検索レポートを出席点として読み替えます）、春・秋各半期ごとに、以下 [1]～[4] の配点による合計点で評価します。

なお、本講義は通年科目なので、春学期（前期）と秋学期（後期）の平均点を最終評定とします。

[1] リアクションペーパー（指定以上の、十分な記述量のあるもの）
→ 各期 12 回分 ×1 点配点＋初回オリエンテーション分 1 点＝小計 13 点

[2] Web 検索レポート（指定以上の、十分な記述量のあるもの）
→ 各期 12 回分 ×1 点配点＝小計 12 点

[3] 中間テスト（筆記・参照可：各期講義済み範囲から）
→ 出題 1 題 ×25 点配点＝小計 25 点

[4] 定期テスト（筆記・参照不可：各期全範囲から）
→ 出題 2 題 ×25 点配点＝小計 50 点

[5] その他加算
→ ツイートやディスカッションでの発言等 ×1～5 点

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

毎回のリアクションペーパーから得られる受講者ニーズに合わせ、必要に応じて、講義内容の難易度及び進行スピードを調整します。

【学生が準備すべき機器他】

各自パソコンを持ち込み、講義を受けながら（わからない概念等について）その都度ワード検索をかけると便利です。

【その他の重要事項】

授業環境を良好な状態で確保するため、講義中の私語等については、状況に応じて厳正に対処します。

なお、当授業の関連科目は、上記【授業計画】のテーマ「全てに関連する科目」です。

経営学総論Ⅰ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 2 単位　［春学期授業］

経営学総論Ⅱ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 2 単位　［秋学期授業］

経営学総論Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 4 単位　［年間授業］

福島　英史　教授

※　クラス指定があります。　※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世の中で広く行われているビジネスに関心を持ち，これを考えるためのベーシックな概念と考え方，枠組みを理解することが本講義の目的です．企業組織が市場を中心とした環境に働きかける活動とこれを支える組織の問題をテーマとして考えていきます．どのように精緻に活動を計画できたとしても，組織がこれを適切に遂行できなければ，期待するような成果を得ることはできるはずもありません．そこで，組織の対外的な活動とこれを計画し，遂行する組織内部の問題についてみていきます．

【到達目標】

経営及び会社組織を対象として経営学の基本的な概念，考え方について，広く基礎的に理解し，社会で観察・報道される経営現象について，一定の説明ができるようになることが到達目標です．今後学んでいく経営学専門科目の土台として，また経営学を学ぶ経営学部生として，経営学の全体像や大まかな流れ，主なトピックスについて説明できるようになることを目標とします．

【授業の進め方と方法】

経営学の一般的なトピックスについて学んでいきます．会社とはどのようなものでどういった形をとるのか．ビジネスのための資金はどうやって調達されているのか．ビジネスのために人を雇用したりされたりするときにどのような問題を考えるのか．顧客・競合他社を経営学ではどのような視点でとらえるのか．組織にはどんな存在意義があって，人々の参加・調整をどのように促すのか．日本企業の経営には特徴があるのかといったトピックスを扱います．大教室で行われる大人数の講義です．講義中に扱われるトピックスに関連したエクササイズやミニ・ケースを解くなどの課題が課されます．その際，指名された履修者は，意見を求められます．

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
	問題意識の理解	身近な事例で考える
2・3	会社の諸形態	会社制度の基本を学ぶ
	株式会社の特徴	株式会社の意味を考える
4～6	会社の資金調達	資金調達の経路と経営の自由度
	経路毎の特徴を理解	新聞報道で考える
7～9	会社の雇用構造	雇用問題を捉える枠組み
	基本視点の理解	身近な事例で考える
10・11	日本的雇用慣行	日本企業の雇用面の特徴
	一般的特徴の理解	身近な事例で考える
12～14	事業システム	事業の組立と顧客・競争の捉え方
	組立を理解	身近な事例で考える
15	試験	学習成果の確認
		講義内容の復習

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
	問題意識の理解	身近な事例で考える
2・3	組織を見る視点	組織の機能と諸問題
	基本視点の理解	身近な事例で考える
4・5	組織と市場	取引費用や情報処理の観点
	基本視点の理解	なぜ組織をつくるのか
6・7	モチベーション	働く人のやる気に関する理論
	基本視点の理解	身近な事例で考える
8・9	リーダーシップ	リーダーシップに関する理論
	基本視点の理解	身近な事例で考える
10・11	組織の調整メカニズム	管理原則や作業標準化，組織文化
	基本枠組みの理解	身近な事例で考える
12・13	組織構造の理論	様々な組織体制の意味と戦略
	基本枠組みの理解	新聞報道で考える
14	日本企業の組織変革	近年の組織変革の意味
15	試験	学習成果の確認
		講義内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義について復習するとともに，身近な事例についてその意味を考えてみましょう．身の回りには，様々な商品やサービスがあり，それを提供する様々な会社や団体組織があります．商品やサービス，会社，経営について，どうして・なぜの問題を考えてみましょう．

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません．

【参考書】

授業中に適宜おすすめしますが，ここでは以下を上げておくことにします．経営学の入門レベルのテキストであればこれに限りません．伊丹敬之・加護野忠男（2003）『ゼミナール経営学入門 3 版』日本経済新聞社．

【成績評価の方法と基準】

経営学総論Ⅰ（前期）・経営学総論Ⅱ（後期）それぞれについて期末試験を行って，両者の合計点から通年の成績を決定いたします．講義中に行われるエクササイズの点数は，「ボーナス」として上記合計点に加算いたします．なお，経営学総論Ⅰ（前期）または経営学総論Ⅱ（後期）の期末試験を受けなかった場合の成績は E となります．ご注意ください．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

担当者に変更があったため，近年の実績はありません．

【その他の重要事項】

講義中の私語はご遠慮ください．今後経営学部で学ぶすべての基礎になる科目です．

経営学総論Ⅰ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 2 単位　［春学期授業］
経営学総論Ⅱ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 2 単位　［秋学期授業］
経営学総論Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 4 単位　［年間授業］

吉田　健二　教授

※　クラス指定があります。　※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、経営学の様々な分野を勉強することによって、経営学の考え方や経営現象を理解するための概念や理論などを学ぶ。

【到達目標】
経営学の基礎を身につけ、企業や経営にかかわる現象を説明することができる。また、経営学に興味を持ってもらえるようにします。

【授業の進め方と方法】
講義を行いますが、ときどきビデオを使って、なるべく分かりやすいようにするつもりです。
板書されないことでも、自分が重要だと思ったことは、ノートに書くようにして下さい。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	コースの説明	コースの概要と進め方等の説明
2～7	経営学とは何か	第 2 版の刊行にあたって 企業経営の全体像（第 1 章） 経営学の全体像（第 2 章） 企業と会社（第 3 章） 企業とインプット（金融資本・労働） 市場との関わり（第 4 章）
8～11	経営戦略とは何か	企業とアウトプット（製品・サービス）市場との関わり（第 5 章） 経営戦略の要素 経営戦略の策定プロセス
12～15	事業戦略	競争戦略のマネジメント（Part.1）（第 6 章） 競争戦略のマネジメント（Part.2）（第 7 章） 競争地位別の戦略 製品のライフサイクル

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	コースの説明	コースの説明と春学期の復習
17～19	企業戦略	多角化戦略のマネジメント（第 8 章） 国際化のマネジメント（第 9 章） 製品・市場マトリックス
20～22	組織構造	マクロ組織のマネジメント（第 10 章） 組織構造とは何か 組織構造の分類
23～26	リーダーシップ	ミクロ組織のマネジメント（第 11 章） リーダーシップとは何か リーダーシップの理論
27～30	モチベーション	ミクロ組織のマネジメント（第 11 章） モチベーションとは何か モチベーションの理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容の復習とテキストの指定された部分を事前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】
加護野忠男・吉村典久編著『1 からの経営学（第 2 版）』碩学舎、2012 年。

【参考書】
①伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門（第 3 版）』日本経済新聞社、2003 年。
②網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011 年。
③清水勝彦『戦略の原点』日経 BP 社、2007 年。
④三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2013 年。
⑤スティーブン・ロビンス『【新版】組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社、2009 年。
①は大学生やビジネスマン向けの経営学総論のスタンダードテキストですが、少し難しいです。②と③は経営戦略論のテキストで、④は経営戦略論の 100 年の流れを描いた本で、春学期（経営学総論Ⅰ）の参考になります。⑤は世界で最も読まれている組織行動論の教科書ですが、秋学期（経営学総論Ⅱ）の参考になります。
他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期試験（50%）と秋学期試験（50%）によって評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
経営学の基礎を身につけるために、分かりやすい授業にするつもりです。
また、見やすいように板書することに努めます。

【その他の重要事項】
すべての経営学の基礎になる科目ですが、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、組織行動論Ⅰ/Ⅱと、深く関連しています。
「がっちりマンデー!!」（TBS テレビ、日曜日）、「カンブリア宮殿」（テレビ東京、木曜日）、「ガイアの夜明け」（テレビ東京、火曜日）、「未来世紀ジパング」（テレビ東京、月曜日）、「プロフェッショナル　仕事の流儀」（NHK テレビ、月曜日）のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、それらの番組を見ることをお勧めします。

経営学総論Ⅰ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 2 単位　［春学期授業］
経営学総論Ⅱ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 2 単位　［秋学期授業］
経営学総論Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 4 単位　［年間授業］

李　瑞雪　教授

※　クラス指定があります。　※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、初めて経営学を学ぶ人のための入門授業です。春学期には、大学で経営学を学ぶということの意義は何かについて説明し、「経営学」の学説史的な概説を行います。経営組織論と経営戦略論、マーケティング、国際経営といったトピックを中心に「経営学」の全体像をとりあげます。秋学期には経営戦略論、経営組織論、経営管理論のそれぞれが、どのように結びついて発展してきたのかについて説明します。

【到達目標】
経営学部の専門科目やゼミナールでの学習のための準備として経営学の基礎的な概念を理解することを目標にします。

【授業の進め方と方法】
〔授業方法〕
講義を主体とした授業なので、きちんとノートを取る必要があります。必ず、毎回の講義ノートをとること。講義の合間には、学生同士で、ケース（事例）について議論したりします。なお、授業内に簡単な小テストを行うことがあります。ゲストをお招きする場合もあります。通年授業ですので、夏休みのレポートがあります。出席調査も行います。
パワーポイント、配布資料、ネット上の企業・業界情報、財務データ、法政大学図書館のオンライン・データベース、ビデオ／ DVD、板書などのメディアを用いて、多角的な説明をしたいと思います。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	経営学とは、何か。	経営学の範囲、経済学との関連と相違など
2～4 回	生産管理の発達と豊かさの源泉―テイラーとリーン生産システム―	科学的管理法、トヨタ生産システムなど
5～6 回	組織とは何か―バーナードと人間関係論―	組織論の系譜など
7～9 回	企業成長の理論―ペンローズと経営資源―	資源ベースの企業論と戦略論など
10～12 回	戦略論入門―ポーターの学説と社会福祉、環境問題への応用―	産業組織論、ポジショニング戦略論など
13～15 回	イノベーションとは何か―教育、産業と産学連携―	知識管理と企業経営

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16～17 回	知識管理論にみる 21 世紀の動向―暗黙知と形式知―	知識管理と企業経営
18～19 回	人的資源管理―日本的経営論とフィールド・リサーチ―	人事管理、労務管理など
20～21 回	大学のゼミナールでは、何を、どう学ぶか。	専門教育としての経営学と教養教育
22～23 回	マーケティング論入門―国際経営の事例―	マーケティング論、国際経営論
24～25 回	意思決定論の登場―サイモンとゲーム理論―	戦略的意思決定論
26～27 回	経営戦略とイノベーション―成長と成熟―	経営戦略論
28～29 回	ファイナンス―借り入れ、株式発行、社債―	ファイナンス論、財務管理論
30 回	総まとめ	総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定教科書の熟読と日経新聞や日経ビジネスの購読をしましょう。

【テキスト（教科書）】
洞口治夫・行本勢基『入門・経営学―初めて学ぶ人のために―』(第 2 版）同友館、2012 年.
配付資料.

【参考書】
伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社
日本経済新聞社編『ゼミナール現代企業入門』日本経済新聞社

【成績評価の方法と基準】
春学期試験 30 %、秋学期試験 30 %、平常点（出席、授業参加、レポート、小テスト、授業内練習など）40 %。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業スピードの調整を適宜行います。

【学生が準備すべき機器他】
法政大学授業支援システム、インターネット、法政大学図書館のオンライン・データベース、ビデオ／ DVD などの情報機器を利用します。配布資料や宿題の提出などを法政大学授業支援システムを用いて行いますので、ログイン方法やダウンロード方法を理解しましょう。

【その他の重要事項】
授業中の私語は厳禁です。他の学生に迷惑がかかりますので、即座に授業への出席資格を失いますのでご注意下さい。携帯電話の電源は OFF に願います。
本授業は経営学の入門概論を扱うもので、ほぼすべての基礎科目と専門科目と関連します。

経営学総論Ⅰ・Ⅱ

専門基礎科目 A 群　　2～4 年次／ 4 単位［年間授業］

木村　純子　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会において最も重要な位置を占めている組織は、「企業（会社）」とよばれる組織です。商品・サービスを提供し、多くの人びとは生活の糧を企業から得ています。この講義では、この「企業（会社）」組織の運営に焦点を当てます。NTT ドコモ、ソフトバンク、セブン-イレブン、トヨタ自動車、任天堂…といった大企業から、近所にある中堅・中小企業まで、世の中には大小さまざまな企業があります。企業経営にかかわるさまざまな授業（経営学総論、戦略論、組織論など）の入門となる授業です。
授業を通じて学生は経営学の基礎理論を体系的に習得します。

【到達目標】
経営学検定試験の初級レベルの合格を目標とします。
多彩なスタイルで構成される授業を通じて、学生は理論と現実をつなぎ、論理的な議論を展開し、他者に説得的に説明する力を身につけます。

【授業の進め方と方法】
授業は 3 つのスタイルで行われます。
1 つ目はレクチャーです。学生は教員の講義によって経営学の理論を学びます。
2 つ目は授業内のグループ活動です。学生は単に授業に出席するだけではなく学生同士のスモールグループで教員が与えた課題に議論し発表します。
3 つ目は講演です。一流企業のマネジャー・経営者として活躍する人たちを招き実社会における経営の実際をお話いただきます。学生との活発なインタラクションを期待します。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 第 1 章： 企業経営の全体像：『もしドラ』の「ドラ」とは？	企業経営とは？ ： 企業、企業と各市場、情報的経営資源
第 2 回	第 1 章： 企業経営の全体像：『もしドラ』の「ドラ」とは？	企業経営とは？ ： グループ活動と発表
第 3 回	第 2 章： 経営学の全体像	経営学とは？ ： 広義・狭義の経営学、心理学などとの関係、面白さ・実践性
第 4 回	第 2 章： 経営学の全体像	経営学とは？ ： グループ活動と発表
第 5 回	第 3 章： 企業と社会	会社とは？ ： 株式会社の基本的な仕組み
第 6 回	第 3 章： 企業と社会	会社とは？ ： グループ活動と発表
第 7 回	第 4 章：企業とインプット（金融資本・労働）市場との関わり	「カネ・ヒト」の工面とは？ ： 金融資本市場、株式、借入、労働市場、「三種の神器？」
第 8 回	講演会①	調整中
第 9 回	第 4 章：企業とインプット（金融資本・労働）市場との関わり	「カネ・ヒト」の工面とは？ ： 金融資本市場、株式、借入、労働市場、「三種の神器？」
第 10 回	第 5 章：企業とアウトプット（製品・サービス）市場との関わり	経営戦略とは？ ： 製品サービス市場、経営戦略の定義・階層性
第 11 回	講演会②	調整中
第 12 回	第 5 章：企業とアウトプット（製品・サービス）市場との関わり	経営戦略とは？ ： 製品サービス市場、経営戦略の定義・階層性
第 13 回	第 6 章：競争戦略のマネジメント（Part.1）：基本的な考え方	競争戦略とは？ ①： 顧客価値
第 14 回	講演会③	調整中
第 15 回	まとめ	これまでの授業のまとめ
第 1 回	オリエンテーション 第 7 章：競争戦略のマネジメント（Part.2）： 違いを作る 3 つの基本戦略と仕組みの競争	競争戦略とは？ ②： 3 つの基本戦略、事業システム
第 2 回	第 7 章：競争戦略のマネジメント（Part.2）： 違いを作る 3 つの基本戦略と仕組みの競争	競争戦略とは？ ②： グループ活動と発表
第 3 回	第 8 章： 多角化戦略のマネジメント	企業戦略とは？ ： 多角化戦略、M&A と提携
第 4 回	第 8 章： 多角化戦略のマネジメント	企業戦略とは？ ： グループ活動と発表
第 5 回	第 9 章： 国際化のマネジメント	国際化の戦略とは？ ： グローバリゼーション、国際化の進展
第 6 回	講演会④	調整中
第 7 回	第 10 章：マクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？ ①： マクロ組織論、各種の組織形態
第 8 回	第 10 章：マクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？ ①： グループ活動と発表
第 9 回	第 11 章：ミクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？ ②： ミクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学
第 10 回	第 11 章：ミクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？ ②： グループ活動と発表
第 11 回	第 12 章： キャリアデザイン	キャリアをデザイン？ ： そもそも、キャリアとは
第 12 回	講演会⑤	調整中
第 13 回	第 13 章：経営学の広がり（Part.1）：ファミリービジネスのマネジメント	経営学の広がり： 長寿・老舗企業、同族企業
第 14 回	第 14 章：経営学の広がり（Part.2）：病院組織のマネジメント	経営学の広がり： 病院経営
第 15 回	まとめ	これまでの授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義に際しては前もって、教科書の指定した範囲を読んでくるようにしてください。適宜、課題を出します。

【テキスト（教科書）】
加護野忠男・吉村典久編著『1 からの経営学（第 2 版）』（2012 年、碩学舎・中央経済社刊）。

【参考書】
適宜、紹介します。『日本経済新聞』や『日経ビジネス』など、企業経営にかかわる情報がある出版物の紹介もします

【成績評価の方法と基準】
1) 平常点 (出席と授業内レポート) 50 %
2) 定期試験　50 %
試験では、経営学の基本的な理論・概念の理解度をチェックします。講演会の質疑応答で質問をした学生には追加点を与えます。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
講義形式ではなく、授業内で学生のグループワークを行いたいという希望がありましたので、授業内での活動および発表をしていただきます。

簿記入門Ⅰ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 2 単位　［春学期授業］
簿記入門Ⅱ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 2 単位　［秋学期授業］
簿記入門Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 4 単位　［年間授業］

市川　佳功　講師

※　クラス指定があります。　※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は初めて簿記会計を学習する学生を対象として、簿記の基礎的な事項を理解してもらう事を目標にしている。この授業では 2，3 年次で会計関係の専門科目を学習する際の基礎となる事項を学習し、また講義の内容は社会人になった時にビジネスの常識として必要と思われる会計に関する基本的事項である。

【到達目標】
日商簿記 3 級に合格できるような知識を身につけてもらうことである。2017 年の 2 月には必ず日商簿記 3 級合格レベルに達しているはずである。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。授業中に問題を解くことがあるので電卓（定期試験では必須である）を用意すること。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	簿記の役割、簿記会計を学ぶ意義等について学習する
第 2 回	収益・費用	収益・費用の概念、損益計算、損益計算書等について学習する
第 3 回	資産・負債・純資産	資産・負債・純資産の概念、貸借対照表等について学習する
第 4 回	取 引	簿記上の取引の意味について学習する
第 5 回	仕 訳	仕訳の意味と具体的処理について学習する
第 6 回	勘定記入	勘定記入の意味、勘定記入の仕方について学習する
第 7 回	帳簿・伝票	帳簿の種類、伝票による処理について学習する
第 8 回	試算表の作成	試算表の意義と各種試算表の作成について学習する
第 9 回	決算手続き（1）	決算の意味と手続き、精算表の作成について学習する
第 10 回	決算手続き（2）	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切り、財務諸表の作成等について学習する
第 11 回	現金・預金の記帳	現金・預金取引について学習する
第 12 回	商品売買取引の記帳	商品売買取引の記帳について学習する
第 13 回	売上原価の計算、商品有高帳の処理	商品有高帳の記入、期末の売上原価の計算について学習する
第 14 回	商品売買取引の総合問題	総合問題を解いてもらい、解説する
第 15 回	春学期のまとめと総合復習問題	春学期に学習した部分の総復習を行う

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	掛取引の記帳	掛取引、人名勘定、貸倒れ等について学習する
第 17 回	手形取引の記帳	手形取引とは何か、約束手形の処理について学習する
第 18 回	手形取引の記帳	為替手形、手形の裏書売却等の処理について学習する
第 19 回	その他の債権・債務の記帳	未収金・未払金、立替金・預り金他の処理について学習する
第 20 回	有価証券の記帳	有価証券の取得時・売却時の処理、期末の評価等について学習する
第 21 回	固定資産の記帳（1）	有形固定資産の取得、減価償却の計算について学習する
第 22 回	固定資産の記帳（2）、営業費の記帳	固定資産の売却時の処理、各種営業費の処理について学習する
第 23 回	税金の記帳、純資産の記帳	税金の処理、資本金、引出金の処理について学習する
第 24 回	決算手続き（1）	決算整理事項について学習する
第 25 回	決算手続き（2）	８桁精算表、帳簿の締め切りについて学習する
第 26 回	決算手続き（3）	財務諸表の作成、財務諸表の読み方について学習する
第 27 回	練習問題による演習と解説（1）	実際の 3 級の試験問題を解いてもらう
第 28 回	練習問題による演習と解説（2）	実際の 3 級の試験問題を解いてもらう
第 29 回	練習問題による演習と解説（3）	実際の 3 級の試験問題を解いてもらう
第 30 回	練習問題による演習と解説（4）	実際の 3 級の試験問題を解いてもらう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
簿記ができるようになる最も効果的な方法は問題を解くことである。各自必要に応じて市販の日商簿記 3 級の問題集を解いて力を補強すること。特に、参考書として示したワークブックの利用は有効である。

【テキスト（教科書）】
大下勇二他『簿記講義ノート』白桃書房

【参考書】
渡部裕亘他編『検定簿記講義 3 級商業簿記（各年度版）』中央経済社
渡部裕亘他編『検定簿記講義ワークブック 3 級商業簿記』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
春学期・秋学期にそれぞれ定期試験を実施する。
成績評価は原則として秋学期の定期試験の結果のみによって判定する。ただし、秋学期の定期試験の結果が６０点未満であった場合のみ、春学期の定期試験結果の 20 %を加算して判定することとする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
可能な限り授業中に問題を解く時間を設けていく。

【その他の重要事項】
簿記は企業活動を理解するために必要不可欠な知識です。次の科目を履修するのに役立ちます。
会計学入門Ⅰ/Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅲ/Ⅳ、検定会計Ⅰ/Ⅱ、会社法

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

簿記入門Ⅰ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 2 単位　［春学期授業］

簿記入門Ⅱ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 2 単位　［秋学期授業］

簿記入門Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 4 単位　［年間授業］

北田　皓嗣　准教授

※　クラス指定があります。　※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業会計の基礎である複式簿記の基礎的な事項の学習が本講義の目的です。また経営学部での 4 年間の学習の基礎として，学習の導入となる科目です。

【到達目標】
講義や演習を通じて帳簿記帳および基礎となる会計理論の習得を目標とします。またこれらを通じて，経営学や会計学を学ぶことに関心を持ってもらえるようにします。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。また必要に応じて記帳・計算演習を交えながら習得していきます。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の内容と目的と説明，簿記の役割と簿記を学習する意義について解説します。
第 2 回	資産・負債・純資産 (1)	資産・負債・純資産の概念，貸借対照表の仕組みについて学習していきます。
第 3 回	資産・負債・純資産 (2)	資産・負債・純資産の概念，貸借対照表の仕組みについて学習していきます。
第 4 回	収益・費用	収益・費用の概念，損益計算書の仕組みについて学習していきます。
第 5 回	取引	簿記上の取引の意味，取引要素について学習していきます。
第 6 回	仕訳 (1)	仕訳の意味を学習し，仕訳帳への記入の練習します。
第 7 回	仕訳 (2)	仕訳の意味を学習し，仕訳帳への記入の練習します。
第 8 回	勘定記入	総勘定元帳の意味，総勘定元帳への転記の仕方について学習します。
第 9 回	帳簿	帳簿の種類と，伝票による処理について学習します。
第 10 回	試算表の作成	試算表の種類と作成の方法について学習します。
第 11 回	決算手続き (1)	決算の意義や精算表の仕組み，6 桁精算表の作成の方法について学習します。
第 12 回	決算手続き (2)	総勘定元帳と仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成の方法について学習します。
第 13 回	決算手続き (3)	損益計算書・貸借対照表の作成の方法について学習します。
第 14 回	現金・預金の記帳	現金，現金出納帳，現金過不足，当座預金について学習します。
第 15 回	まとめと復習問題	総合練習問題を行います。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	商品売買の記帳 (1)	3 分法と分記法と違いについて説明するとともに，仕訳帳と売上帳について学習します。
第 17 回	商品売買の記帳 (2)	商品有高帳の記帳を練習し，商品販売損益の計算の仕組みを学習します。
第 18 回	掛取引の記帳	売掛金・買掛金および貸倒れについて学習します。
第 19 回	手形取引の記帳 (1)	受取手形および支払手形について学習します。
第 20 回	手形取引の記帳 (2)	手形の意味や種類について説明するとともに，手形の処理について学習します。
第 21 回	その他の債権債務の記帳	貸付金・借入金，未収金・未払金，前払金・前受金，立替金・預り金，仮払金・仮受金，商品券について学習します。
第 22 回	有価証券の記帳	有価証券の処理および利息と配当金の処理について学習します。
第 23 回	固定資産の記帳 (1)	固定資産の取得および減価償却の処理について学習します。
第 24 回	固定資産の記帳 (2)，営業費の記帳	固定資産の売却時の処理および各種営業費の処理について学習します。
第 25 回	税金の記帳	税金の処理について学習します。
第 26 回	資本金と引出金	個人企業の資本金，引出金の処理について学習します。
第 27 回	決算手続き (1)	決算整理事項について学習します。
第 28 回	決算手続き (2)	8 桁精算表の作成方法について学習します。
第 29 回	帳簿の締切り	仕訳帳の締切りや総勘定元帳の締切りについて学習します。
第 30 回	まとめと復習問題	総合練習問題を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後に復習として演習問題を解いてみてください。

【テキスト（教科書）】
大下勇二・福多裕志・神谷健司・筒井知彦著『簿記講義ノート』白桃書房。

【参考書】
渡部裕亘, 片山覚, 北村 敬子『新検定簿記ワークブック 3 級/商業簿記』（中央経済社）（こちらも授業や宿題で使用するので，必ず用意するようにして下さい）

【成績評価の方法と基準】
各期末の定期試験および出席，授業内の計算課題によって評価を行います。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
各トピックごとに練習問題を授業や宿題として解けるようにします

【その他の重要事項】
経営学部で学習するすべての会計系科目の基礎となるだけでなく、簿記の仕組みに対する考え方は、経営学部の専門科目や演習での学習にも関連してきます。

簿記入門Ⅰ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 2 単位　［春学期授業］
簿記入門Ⅱ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 2 単位　［秋学期授業］
簿記入門Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／ 4 単位　［年間授業］

坂上　学　教授

※　クラス指定があります。　※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、初めて簿記を学習する学生を対象として、簿記の基本的仕組を理解してもらうことを目的にしている。企業は財務諸表を作成しているが、それを作成 するためには、日常発生した経済的な出来事を一定のルールに従って記録しておく必要がある。講義の前半では、記録するためのルールの説明と基本的な決算手続について説明する。講義の後半では、前半の講義内容を理解していることを前提に、入門コースで必要と思われる各勘定科目の具体的処理について説明する。 また決算手続についても重要事項は一通り説明を行う。簿記入門Ⅰ･Ⅱを学習することによって、将来企業社会で必要とされる簿記会計の基本的事項を身につけることができる。

【到達目標】
日商簿記検定 3 級レベルの簿記会計の知識の習得を目標とする。

【授業の進め方と方法】
講義形式でおこなう。必要に応じてミニテストを実施する予定である。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第１回	資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表	資産・負債・純資産（資本）の各概念と貸借対照表について学習します。
第２回	収益・費用と損益計算書	収益・費用の各概念と損益計算書について学習します。
第３回	取引	会計上の取引の概念について学習します。
第４回	仕訳	仕訳について学習します。
第５回	勘定記入	勘定記入の基礎について学習します。
第６回	帳簿	帳簿の種類と体系について学習します。
第７回	試算表の作成（１）	簿記一巡の手続きと試算表を作成するまでを学習します。
第８回	元帳の締切りと財務諸表の作成（１）	元帳の締切り方法と財務諸表（貸借対照表と損益計算書）の作成の基本について学習します。
第９回	清算表の作成（１）	決算整理がない６桁精算表の作成を学習します。
第 10 回	復習問題（ミニテスト）	ここまでの学習内容についてミニテストを実施します。
第 11 回	現金・現金過不足	現金取引および現金過不足時の処理について学習します。
第 12 回	当座預金・当座借越	当座預金および当座借越の処理について学習します。
第 13 回	小口現金	小口現金の処理について学習します。
第 14 回	商品売買	商品売買の処理について学習します。
第 15 回	春学期講義のまとめ	春学期で学んだ内容に復習します。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	売掛金・買掛金	売掛金・買掛金の処理について学習します。
第 17 回	その他の債権・債務	その他の債権・債務の処理について学習します。
第 18 回	手形	手形の処理について学習します。
第 19 回	有価証券	有価証券の処理について学習します。
第 20 回	固定資産	固定資産の処理について学習します。
第 21 回	資本と引出金	資本と引出金の処理について学習します。
第 22 回	収益と費用	収益と費用の処理について学習します。
第 23 回	税金と伝票	税金と伝票の処理について学習します。
第 24 回	試算表の作成（２）と決算整理手続	試算表の作成と決算整理手続について学習します。
第 25 回	精算表の作成（２）	修正仕訳欄のある８桁精算表の作成について学習します。
第 26 回	元帳の締切りと財務諸表の作成（２）	元帳の締切りと財務諸表（貸借対照表と損益計算書）の作成について学習します。
第 27 回	総合模擬問題（１）	仕上げとして、実際の３級レベルの総合模擬問題の答案練習をおこないます。
第 28 回	総合模擬問題（２）	仕上げとして、実際の３級レベルの総合模擬問題の答案練習をおこないます。
第 29 回	総合模擬問題（３	仕上げとして、実際の３級レベルの総合模擬問題の答案練習をおこないます。
第 30 回	総合模擬問題（４）	総仕上げとして、実際の３級レベルの総合模擬問題の答案練習をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストを読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
渡部裕亘, 片山覚, 北村 敬子『新検定簿記講義３級 商業簿記』（中央経済社）
※最新年度版を使います。

【参考書】
渡部裕亘, 片山覚, 北村 敬子『新検定簿記ワークブック ３級/商業簿記』（中央経済社）

【成績評価の方法と基準】
春学期・秋学期の定期試験、ミニテストと総合模擬問題を実施し、総合点で成績を評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
総合模擬問題による答案練習は好評のようなので、今年度も力を入れて取り組む予定である。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使い説明をおこなう。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
この講義は、２年次からの「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」、３年次からの会計専門科目の基礎となるものである。複式簿記による記帳ルールを習得しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進する。
〔その他注意事項〕
簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。日商簿記３級をマスターして同２級・１級、さらには公認会計士・税理士といった職業会計人の国家試験にチャレンジしよう。

簿記入門Ⅰ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／2 単位　［春学期授業］

簿記入門Ⅱ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／2 単位　［秋学期授業］

簿記入門Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　専門基礎科目 A 群　1 年次／4 単位　［年間授業］

福田　淳児　教授

※　クラス指定があります。　※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記入門Ⅰ・Ⅱでは、企業が投資家や債権者をはじめとする外部の利害関係者に公表する損益計算書や貸借対照表といった財務諸表の作成方法を理解するとともに、そこで示された情報の意味をできるようになることを目的とします。損益計算書や貸借対照表は、企業が行った経済活動を簿記の一連のルールに基づいて、分析・記録することを通じて作成されますが、本講義ではこの簿記の一連の手続きを理解することを目的とします。

【到達目標】
簿記入門Ⅰでは、簿記の目的や基本的な取引の仕訳、また６桁精算表の作成ならびに基本的な貸借対照表や損益計算書の作成ができることを目標とします。簿記入門Ⅱでは、複雑な商企業の取引を仕訳するとともに、８桁精算表を作成できることを目標とします。

【授業の進め方と方法】
簿記入門Ⅰ・Ⅱとも、授業は講義形式で行います。毎回、個別のテーマについて教員がテキスト、また受講生の理解を促進する目的で授業支援システムを利用し事前配布した資料に基づいて説明を行います。手続きの説明後、当該テーマについての例題を解く練習を行います。簿記は単に理論を学ぶだけではなく、自分で実際に、問題を解くことで理解が深まります。講義においても時間の許す限り練習問題を取り入れるとともに、受講生に参加意識を持ってもらうために、黒板を利用して問題を解いてもらいます。また、ほとんどの回で宿題を出すので、必ずそれを解いてくること。次回の講義の始めに、解答を行うことで前回の講義の復習と今回の講義内容への導入を行います。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	簿記の役割・種類	簿記入門Ⅰの講義スケジュールを紹介し、簿記の基本的な目的や役割について説明を行う。
2	貸借対照表の意義とその形式	貸借対照表の役割および基本的な様式を説明する。また、資産、負債、資本の意味内容について説明する。
3	損益計算書の意義とその形式	損益計算書の役割を説明するとともに、その基本的な様式を説明する。また、収益、費用の意味内容を説明する。
4	損益計算の方法	損益計算の２つの方法である財産法と損益法ついて説明する。問題演習を行うことで損益計算の方法の理解を確実にする。
5	簿記上の取引および取引要素の結合関係について	簿記上の取引の意味を明らかにするとともに、簿記上の取引の分類について説明する。
6	主な取引要素の結合関係について	簿記上の取引の結合関係のうち、基本的なものを取り上げて説明を行う。
7	仕訳の意味および記入、その演習	仕訳の意味を説明するとともに、具体的な例題に基づいて、比較的簡単な取引の仕訳を行う練習をする。
8	仕訳の練習	簿記上の取引の仕訳について演習問題を解き、仕訳を確実に理解する。
9	総勘定元帳への転記	総勘定元帳の意味・形式、および仕訳帳から総勘定元帳への転記のプロセスを説明する。
10	帳簿・伝票	伝票，特に本講義では 3 伝票制に基づく取引の記帳の方法について紹介する予定である。
11	試算表の作成およびその検証機能	合計試算表、残高試算表の意味・内容およびその検証機能について説明する。
12	精算表（6 ケタ精算表）の作成	決算の意味とその一連の手続きについて説明する。春学期では 6 桁精算表の作成の手順について説明する。
13	帳簿の締め切りについて	仕訳帳および総勘定元帳の締め切りおよび繰越試算表の作成について説明するとともに例題演習を行う。
14	損益計算書及び貸借対照表の作成	総勘定元帳をしめ切り、損益計算書および貸借対照表を作成するプロセスについて説明する。
15	簿記入門Ⅰのまとめ	簿記入門Ⅰで学習した内容に関連した総合問題を解く。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	簿記入門Ⅱの概要説明	簿記入門Ⅱで学習する主なテーマについてその概要を説明する。
2	現金および預金の記帳	現金および当座預金にかかわる取引について説明するとともに、現金出納帳や小口現金出納帳の記入について説明を行う。
3	商品売買の記帳における三分法ならびに分記法について	商品売買の記帳方法である三分法と分記法の相違について説明するとともに、仕訳帳や売上帳の記入方法について説明する。特に、売上原価の計算について、例題を交え説明を行う。
4	売掛金・買掛金	掛取引にかかわる記帳方法について説明する。また、貸倒れについてもその基礎的な説明を行う。
5	約束手形と為替手形の基本的な説明	手形の意味を約束手形と為替手形に分けて説明するとともに、その仕訳方法を説明する。さらに、手形の裏書と売却および金融手形について説明する。
6	そのほかの債権・債務	これまでに学習してきた債権・債務以外の貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金などといった一連の債権・債務について説明する。
7	売買目的有価証券の記帳	売買目的有価証券の記帳方法について説明する。さらに、売買目的有価証券の評価替えの問題についても説明する.
8	固定資産の記帳：減価償却	有形固定資産の取得および減価償却の方法およびその記帳方法（直接法、間接法）について、練習問題を交え説明する。
9	税金の記帳	費用として認められる税金と費用として認められない税金について説明するとともに、その記帳方法を明らかにする。
10	純資産の記帳	個人企業の資本金また引出金の記帳方法について説明する。
11	決算手続き	決算整理事項の内容について説明し、決算整理仕訳の方法を説明する。
12	8 桁精算表の作成およびその練習問題	秋学期では８桁精算表の作成方法を説明し、その演習を行う。特に整理仕訳の問題を詳しく説明する。
13	帳簿の締め切り	仕訳帳の締め切りや総勘定元帳の締め切りについて、詳しく説明する。
14	財務諸表の作成	損益計算書の作成、貸借対照表の作成について、一連のプロセスを説明する。
15	簿記入門Ⅱのまとめ	簿記入門Ⅱで学習した内容に関連した総合問題を解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義計画で示された内容について、事前にテキストの該当箇所また授業支援システムを通じて事前配布するプリントの内容を読み、できる範囲で理解しておくこと。テキストの例題については、必ず自分で一度解いてみること。どこがわからないのかを自分なりに明確にして講義にのぞむこと。適宜、講義の終了時点で、復習プリントを配布または教科書の問題を宿題に指定するので、次回の講義に問題を解いて持参すること。

【テキスト（教科書）】
大下勇二・福多裕志・神谷健司・筒井知彦著『簿記講義ノート』白桃書房。（最新版を入手してください。）

【参考書】
参考文献は、必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
各期末に実施される定期試験に、講義への出席また課題の提出状況を加味して評価します。成績評価の配分は各期末に行われる試験結果が 80 %、講義への出席および課題の提出が 20 %です。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業で取り扱う各テーマについて練習問題をもっと解きたいという希望がありました。この点については、授業時間だけでは、時間的な制約もあるので、できるだけ宿題などの形で課題を解いてもらい、次の時間に解説をしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
事前配布プリントについては授業支援システムを通じて配布を行います。必ずプリントアウトして授業に望むこと。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
　この講義は、2 年次からの「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」、3 年次からの財務会計論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび原価計算論Ⅰ/Ⅱといった会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳ルールを習得しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。
〔その他注意事項〕
　簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。

簿記入門Ⅰ・Ⅱ

専門基礎科目 A 群　　2～4 年次／ 4 単位［年間授業］

大下　勇二　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

【到達目標】
簿記入門Ⅰ・Ⅱでは日商簿記 3 級程度を共通の目標としているが、このクラスでは、特に 2 年次以上の学生向けに 3 級程度の簿記の基礎を習得することを目標とします。

【授業の進め方と方法】
授業では、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを目標に、具体的には、複式簿記の原理、帳簿記録の方法、決算の概要、決算書の作成方法を、テキストに従い、板書講義、パワー・ポイントのスライドによる解説および記帳・計算演習をおりまぜながら習得する。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	簿記会計の基礎	簿記の役割、簿記の種類について解説します。
第 2 回	資産・負債・純資産 (資本)(1)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産 (資本) について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第 3 回	資産・負債・純資産 (資本)(2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産 (資本) について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法を学びます。
第 4 回	収益・費用	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第 5 回	簿記上の取引	取引 簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第 6 回	仕訳 (1)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。仕訳帳への記入練習を行います。
第 7 回	仕訳 (2)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。仕訳帳への記入練習を行います。
第 8 回	勘定記入	勘定記入仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。取引から仕訳、それの勘定口座への転記の作業を習得します。
第 9 回	帳簿組織	帳簿組織の種類と役割から、帳簿組織を学習します。
第 10 回	試算表の作成	試算表の作成 合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第 11 回	決算手続き (その 1)(1)	決算の意味と手続き、精算表の仕組み、6 桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第 12 回	決算手続き (その 1)(2)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きの最後までを学習します。
第 13 回	決算手続き (その 1)(3)	決算手続き (その 1)(1) および決算手続き (その 1)(2) で学んだ内容を前提に、精算表の作成、帳簿の締切り、損益計算書・貸借対照表の作成に関する練習問題に取り組みます。
第 14 回	現金・預金の記帳	現金・預金の記帳 現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、小口現金を学習します。
第 15 回	総括	第 14 回までの学習内容に関する総合問題に取り組みます。
第 16 回	商品売買の記帳 (1)	3 分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売買の記帳を練習します。
第 17 回	商品売買の記帳 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを理解します。
第 18 回	売掛金・買掛金の記帳	掛取引の記帳 売掛金と買掛金、人名勘定、売掛金元帳と買掛金元帳、貸倒れの処理を練習します。
第 19 回	手形取引の記帳	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、為替手形の仕組みと種類、手形の裏書と売却の処理を学びます。
第 20 回	その他の債権・債務の記帳	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券の各勘定の役割と記入方法を練習します。
第 21 回	有価証券の記帳	有価証券の処理、有価証券の利息と配当金の処理を学習します。
第 22 回	固定資産の記帳 (1)	固定資産の取得、減価償却について学習します。
第 23 回	固定資産の記帳 (2)	減価償却費の計算と記帳方法、固定資産の売却の処理について学習します。
第 24 回	税金の記帳	個人企業の税金、費用として認められる税金、費用として認められない税金、費用・収益に関係のない税金の処理を学習し、源泉徴収制度の仕組みを学びます。
第 25 回	営業費の記帳	その他の営業費に関する勘定の特徴と記帳方法を学習します。
第 26 回	資本の記帳	個人企業の資本金、引出金の処理について学習します。
第 27 回	決算手続き (その 2)(1)	決算整理の意味、貸倒引当金、有価証券の評価替えを中心に、決算整理の処理を学習します。
第 28 回	決算手続き (その 2)(2)	費用・収益の繰延べと見越し、消耗品残高の整理を中心に、決算整理の処理を学習します。
第 29 回	決算手続き (その 2)(3)	棚卸表の作成から 8 けた精算表の作成、帳簿の締切りおよび財務諸表の作成練習を行います。
第 30 回	総括	総合練習問題に取り組みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ずテキストを事前に読んでおき、例題を解いておくことが求められます。また、毎授業の最後に、「仕訳トレーニング」という問題プリントを配布しますので、次回までに解答しておくことが必要です。

【テキスト（教科書）】
大下・福多・神谷・筒井著『簿記講義ノート』白桃書房

【参考書】
日商簿記検定試験問題集

【成績評価の方法と基準】
基本的には、春学期・秋学期の定期試験により評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
仕訳トレーニングの問題を毎回学生に解答してもらい、授業内容の理解度を確認しながら、授業を進めて行きます。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
　この講義は、2 年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4 年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳなど会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。
〔その他注意事項〕
　簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。

ミクロ経済学入門Ⅰ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

ミクロ経済学入門Ⅱ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　専門基礎科目 A 群　1～4 年次／ 4 単位［年間授業］

大木　良子　准教授

※　クラス指定があります。　※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、「今日のランチに何を食べるか？」から、「どんな値段設定にすれば、モノが売れるか」、「大気汚染を防ぐにはどうすればよいか？」まで、身近なトピックを通じて人生のいろいろな場面で役立つ「地図」であるミクロ経済学の知識が身につきます。そして、履修を通じて、ミクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

ミクロ経済学の基本的な理論を理解し、それを応用した現実のビジネスや消費者行動の事例分析ができるようになることを目標とします。

経済学はレゴのような学問です。つまり、レゴで車を作るにしても、まずは土台と車輪がちゃんとしていないと、上に乗るボディがどんなにいかしていても、使い物になりません。経営学は経済学から発展した学問分野です。この科目では、今後、経済学系の科目だけでなく、経営学系の科目を履修する上でもとても大事な内容を学びます。

【授業の進め方と方法】

この授業では、世界的にも最先端のオンライン教材を活用する予定です。スマホからでも、パソコンからでもアクセス可能です。毎週 3-5 問程度の宿題を解いてもらいます（所要時間は 30 分程度）。こういったトレーニングが、実際の企業行動や消費者行動を論理的に説明する上で大切です。千里の道も一歩から。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業のテーマについて説明します。また、宿題の提出方法などこの授業の進め方について詳しく説明します。
2	ミクロ経済学とは	ミクロ経済学：予告編。
3	需要と供給 1	モノやサービスの買い手の思考（需要）と売り手の思考（供給）：安く買いたい！ 高く売りたい！
4	需要と供給 2	たばこの需要量を減らす方法とは？アイスの供給量が増えるのはなぜ？
5	均衡 1	需要と供給の一致：市場が「落ち着く」ところを探す。
6	均衡 2	猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなったら、アイスの値段はどうなる？
7	弾力性 1	値段が上がったら、どのくらいモノが売れなくなる？
8	弾力性 2	麻薬の禁止は麻薬に関係する犯罪を減らすか、増やすか？
9	中間テスト	2～8 回目までの授業内容から出題します。終了後、解説を行います。
10	政府の役割 1	政府の出番はどこにある？
11	政府の役割 2	消費税率アップは私たちの生活にどのような影響を及ぼすのか？
12	余剰分析 1	今のモノの価格で売り手と買い手はどのくらい満足している？
13	余剰分析 2	臓器市場は存在すべきか？
14	外部性 1	他者のせいで迷惑を被っている影響や恩恵を受けている影響をどう評価する？
15	外部性 2	なぜガソリンには重税が課せられるのか？

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	生産と費用 1	経済学の利潤と会計学の利潤は違う？
17	生産と費用 2	企業の生産にかかる費用の内訳を考えてみよう。
18	生産と費用 3	企業の生産にかかる費用毎の特徴をマスターしよう。
19	短期と長期	目先のことしか考えないか、将来のことも考えるか？
20	競争市場 1	競争市場において企業はどんな行動をするのが合理的だろうか。
21	競争市場 2	空席だらけのレストランはどうして閉めないのか？
22	中間試験	16-21 回目までの授業内容から出題します。終了後、解説を行います。
23	独占 1	独占企業と競争に晒される企業は何が違う？
24	独占 2	独占企業の企業行動を理解します。
25	独占 3	医薬品市場における特許とジェネリック医薬品
26	寡占 1	寡占企業は相手の行動を読みながら動く。
27	寡占 2	入門ゲーム理論：寡占企業はゲームをしている！？
28	寡占 3	マイクロソフトの戦略は違法？
29	応用トピック	ミクロ経済学において近年発展してきたトピックについて、これまで学んだ道具立てを応用して紹介します
30	復習	演習等を通じて理解を深めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提とはしません。代わりに復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが予習につながります。

【テキスト（教科書）】

マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学　ミクロ編（第三版）』東洋経済新報社　2013 年

教科書購入については 1 回目の授業で詳しく説明します。絶対に授業の前に購入しないでください。

【参考書】

伊藤元重　『ミクロ経済学　（第 2 版）』日本評論社　2003 年

伊藤元重･下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社　2007 年

安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』　有斐閣　2013 年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（40 %）、中間テスト（15 %）、宿題（45 %）で評価します。出席は取りませんので、成績評価に加味しません。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

学期中の学生の皆さんの理解度や感想をなるべく反映して授業を進めていきます

【学生が準備すべき機器他】

資料や宿題はオンラインで配布します。提出もオンラインでして頂きます。詳細は第 1 回の授業で説明します。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学入門Ⅰ、Ⅱは続けて履修することを前提にしています。授業の進度だけでなく、教材の手配等の手続きもありますので、必ず前期に「ミクロ経済学入門Ⅰ」を履修した上で、後期の「ミクロ経済学入門Ⅱ」を履修してください。

ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱのうち、平田、大木担当の授業は共通のシラバス・教材で行われます。テストも評価も全く同様に行います。ただし、履修はクラス指定がありますので、そちらにしたがって下さい。

同時期に開講されている「例題で学ぶミクロ経済学入門」（高橋理香先生）では、この授業と進度を合わせて、同じ教材を用いた問題演習を行います。

この授業は、2 年次以降の経済学関連科目（たとえば、「日本経済論Ⅰ／Ⅱ」や「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」）の基礎となるものです。ミクロ経済学のイロハを自分のものにすることで、今後の経済学関連科目の学習が格段に楽に、そして楽しくなります。

ミクロ経済学入門Ⅰ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1～4 年次／ 2 単位［春学期授業］
ミクロ経済学入門Ⅱ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］
ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　専門基礎科目 A 群　1～4 年次／ 4 単位［年間授業］

林　直嗣　教授

※　クラス指定があります。　※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学は消費者や企業、政府など個別経済主体の経済行動を、価格や生産量などミクロの経済量をベースに分析する。消費者は何をどう需要するか、企業はどう生産計画を立てるか、市場価格はどう決まるのか、独占はなぜ問題なのか、賃金や利潤などはどう分配されるのか、投資と資本蓄積はどんな基準で行われるのか、、市場機構の限界と政府の役割とは何か、民主的意思決定機構はどう可能となるのか、不確実性は経済活動にどう影響するのか、など私たちの身の回りの経済問題について易しく、しかも体系的に講義する。

各個人の身の回りから企業や産業、日本経済や世界経済に至るさまざまな経済問題を、消費者や企業、政府などの個別経済主体の視点から理解することが、この授業の目的である。

【到達目標】

消費者や企業、政府の経済問題を易しく解説することを通じて、履修生がミクロ経済への関心や理解を深めるとともに、日常生活や就職に活用できるようにすることを、授業の到達目標とする。単に理論を勉強するだけにとどまらず、章ごとに具体例を用いた問題演習を行い、実際の分析力を養うトレーニングも目標とする。公務員試験、公認会計士試験、ファイナンシャルプランナー試験などの各種資格試験や就職試験に役に立つ実践力を養うためには、問題演習は必須である。

【授業の進め方と方法】

授業の方法はパワーポイントのスライドを活用した講義を主体とする。この授業ではインターネットによる先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を視聴して e ラーニングを行うので、予習や復習に役立てることができる。ミクロ経済学の基礎を易しく解説し、章末では問題演習を行う。また授業内では教員と学生との間で活き活きとした双方向のクイズを Q&A 方式で行い、学生参加型のアクティブ・ラーニングの授業を行う。またレポート提出や小テストなどを行い、履修生の理解を着実に深めていく方法を採る。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	経済とミクロ経済学 (1)	ミクロ経済学の基礎的な考え方を易しく解説する。
第 2 回	経済とミクロ経済学 (2)	ミクロ経済学の基礎的概念を説明する。
第 3 回	市場経済と貨幣 (1)	市場経済と貨幣について基礎的概念を解説する。
第 4 回	市場経済と貨幣 (2)	市場経済と貨幣について進んだ考え方を説明する。
第 5 回	消費者の行動 (1)	消費者行動の基礎概念を説明する。
第 6 回	消費者の行動 (2)	消費者行動の基礎理論を説明する。
第 7 回	消費者の行動 (3)	消費者理論の核心を解説する。
第 8 回	消費者の行動 (4)	消費者理論の進んだ考え方を説明する。
第 9 回	企業の行動 (1)	企業理論の基礎を説明する。
第 10 回	企業の行動 (2)	企業理論の核心を解説する。
第 11 回	企業の行動 (3)	企業理論の進んだ考え方を説明する。
第 12 回	市場均衡 (1)	市場均衡論のエッセンスを解説する。
第 13 回	市場均衡 (2)	一般均衡論の核心を解説する。
第 14 回	市場均衡 (3)	一般均衡論の進んだ問題を解説する。
第 15 回	1～14 回のまとめ	まとめをする。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	独占市場 (1)	完全独占の基礎理論を解説する。
第 17 回	独占市場 (2)	独占の進んだ問題を解説する。
第 18 回	独占市場 (3)	寡占理論の核心を解説する。
第 19 回	独占市場 (4)	寡占理論の進んだ考え方を説明する。
第 20 回	所得分配 (1)	所得分配の基礎理論を説明する。
第 21 回	所得分配 (2)	所得分配の進んだ問題を解説する。
第 22 回	資本と利子 (1)	資本理論の核心を解説する。
第 23 回	資本と利子 (2)	資本理論の進んだ問題を説明する。
第 24 回	厚生経済学と社会的選択 (1)	厚生経済学のエッセンスを解説する。
第 25 回	厚生経済学と社会的選択 (2)	市場の失敗の諸問題を考える。
第 26 回	厚生経済学と社会的選択 (3)	厚生経済学の進んだ問題を考える。
第 27 回	情報と不確実性の経済学 (1)	情報と不確実性の基礎理論を説明する。
第 28 回	情報と不確実性の経済学 (2)	情報と不確実性の進んだ問題を理論的に分析する。
第 29 回	情報と不確実性の経済学 (3)	情報と不確実性の応用問題を考察する。
第 30 回	16～29 回のまとめ	まとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、Web 授業を e ラーニングし、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか、はっきりするので、授業に臨む態度やモチベーションが高まり、授業の理解を効果的に高めることができる。大学設置基準では、予習 1 時間、授業 1 時間、復習 1 時間を 15 週やって 1 単位とされているので、できるだけ頑張って主体的に学修しましょう。

【テキスト（教科書）】

林　直嗣著『経済学入門』新世社（入門の教科書）
林　直嗣著『問題演習　ミクロ経済学　再訂版』（スタディ・ガイドと問題集）

【参考書】

林　直嗣著『ミクロ経済学入門』世界書院（初級の教科書）

【成績評価の方法と基準】

定期試験を行う。授業内クイズ、レポート提出ないし小テストをさらに加えることもある。それらの総合点を合計して、問題の難易度や当該クラスのでき具合などをすべて調整した上で、全員の得点分布を算出し、その得点分布に基づく合理的で歪みのない相対評価により成績をつける。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を作成し、本学サイトから聴講できるようにしてあるので、学内の PC 端末から、あるいは学外からは VPN 接続をした PC 端末から、予習をしたりテスト前に復習をすると効果的である。病気などで欠席した場合には、それを聴講して代用できる。

教室では、板書を利用するとともに、プレゼンテーション用教材（Power Point による教材）をスクリーンに投影する。

【その他の重要事項】

公務員試験や会計士試験などの資格試験や就職試験では、経済学の出題傾向が専門化しているので、理論だけでなく問題演習もすることが望ましく、この授業をとることを特に勧める。

〔関連科目〕

マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ（基礎科目 2 群）と並んで、この科目は経済学関係の基礎的科目なので、必ず履修登録することが望ましい。

ミクロ経済学入門Ⅰ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1～4 年次／ 2 単位［春学期授業］
ミクロ経済学入門Ⅱ　（2016 年度入学者）　専門基礎科目 A 群　1～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］
ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ　（2015 年度以前入学者）　専門基礎科目 A 群　1～4 年次／ 4 単位［年間授業］

平田　英明　教授

※　クラス指定があります。　※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。
この授業では、「今日のランチに何を食べるか？」から、「どんな値段設定にすれば、モノが売れるか」、「大気汚染を防ぐにはどうすればよいか？」まで、身近なトピックを通じて人生のいろいろな場面で役立つ「地図」であるミクロ経済学の知識が身につきます。そして、履修を通じて、ミクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】
ミクロ経済学の基本的な理論を理解し、それを応用した現実のビジネスや消費者行動の事例分析ができるようになることを目標とします。
経済学はレゴのような学問です。つまり、レゴで車を作るにしても、まずは土台と車輪がちゃんとしていないと、上に乗るボディがどんなにいかしていても、使い物になりません。経営学は経済学から発展した学問分野です。この科目では、今後、経済学系の科目だけでなく、経営学系の科目を履修する上でもとても大事な内容を学びます。

【授業の進め方と方法】
この授業では、世界的にも最先端のオンライン教材を活用する予定です。スマホからでも、パソコンからでもアクセス可能です。毎週 3-5 問程度の宿題を解いてもらいます（所要時間は 30 分程度）。こういったトレーニングが、実際の企業行動や消費者行動を論理的に説明する上で大切です。千里の道も一歩から。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業のテーマについて説明します。また、宿題の提出方法などこの授業の進め方について詳しく説明します。
2	ミクロ経済学とは	ミクロ経済学：予告編。
3	需要と供給 1	モノやサービスの買い手の思考（需要）と売り手の思考（供給）：安く買いたい！ 高く売りたい！
4	需要と供給 2	たばこの需要量を減らす方法とは？ アイスの供給量が増えるのはなぜ？
5	均衡 1	需要と供給の一致：市場が「落ち着く」ところを探す。
6	均衡 2	猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなったら、アイスの値段はどうなる？
7	弾力性 1	値段が上がったら、どのくらいモノが売れなくなる？
8	弾力性 2	麻薬の禁止は麻薬に関係する犯罪を減らすか、増やすか？
9	中間テスト	2～8 回目までの授業内容から出題します。終了後、解説を行います。
10	政府の役割 1	政府の出番はどこにある？
11	政府の役割 2	消費税率アップは私たちの生活にどのような影響を及ぼすのか？
12	余剰分析 1	今のモノの価格で売り手と買い手はどのくらい満足している？
13	余剰分析 2	臓器市場は存在すべきか？
14	外部性 1	他者のせいで迷惑を被っている影響や恩恵を受けている影響をどう評価する？
15	外部性 2	なぜガソリンには重税が課せられるのか？

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	生産と費用 1	経済学の利潤と会計学の利潤は違う？
17	生産と費用 2	企業の生産にかかる費用の内訳を考えてみよう。
18	生産と費用 3	企業の生産にかかる費用毎の特徴をマスターしよう。
19	短期と長期	目先のことしか考えないか、将来のことも考えるか？
20	競争市場 1	競争市場において企業はどんな行動をするのが合理的だろうか。
21	競争市場 2	空席だらけのレストランはどうして閉めないのか？
22	中間試験	16-21 回目までの授業内容から出題します。終了後、解説を行います。
23	独占 1	独占企業と競争に晒される企業は何が違う？
24	独占 2	独占企業の企業行動を理解します。
25	独占 3	医薬品市場における特許とジェネリック医薬品
26	寡占 1	寡占企業は相手の行動を読みながら動く。
27	寡占 2	入門ゲーム理論：寡占企業はゲームをしている！？
28	寡占 3	マイクロソフトの戦略は違法？
29	応用トピック	ミクロ経済学において近年発展してきたトピックについて、これまで学んだ道具立てを応用して紹介します
30	復習	演習等を通じて理解を深めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習を前提とはしません。代わりに復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが予習につながります。

【テキスト（教科書）】
マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学　ミクロ編（第三版）』東洋経済新報社　2013 年
教科書購入については 1 回目の授業で詳しく説明します。絶対に授業の前に購入しないでください。

【参考書】
伊藤元重　『ミクロ経済学　（第 2 版）』日本評論社　2003 年
伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社　2007 年
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』　有斐閣　2013 年

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（40 %）、中間テスト（15 %）、宿題（45 %）で評価します。出席は取りませんので、成績評価に加味しません。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学期中の学生の皆さんの理解度や感想をなるべく反映して授業を進めていきます

【学生が準備すべき機器他】
資料や宿題はオンラインで配布します。提出もオンラインでして頂きます。詳細は第 1 回の授業で説明します。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学入門Ⅰ、Ⅱは続けて履修することを前提にしています。授業の進度だけでなく、教材の手配等の手続きもありますので、必ず前期に「ミクロ経済学入門Ⅰ」を履修した上で、後期の「ミクロ経済学入門Ⅱ」を履修してください。
ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱのうち、平田、大木担当の授業は共通のシラバス・教材で行われます。テストも評価も全く同様に行います。ただし、履修はクラス指定がありますので、そちらにしたがって下さい。
同時期に開講されている「例題で学ぶミクロ経済学入門」（高橋理香先生）では、この授業と進度を合わせて、同じ教材を用いた問題演習を行います。
この授業は、2 年次以降の経済学関連科目（たとえば、「日本経済論Ⅰ／Ⅱ」や「産業組織論Ⅰ／Ⅱ」）の基礎となるものです。ミクロ経済学のイロハを自分のものにすることで、今後の経済学関連科目の学習が格段に楽に、そして楽しくなります。

情報科学実習Ⅰ　(2016 年度入学者)　専門基礎科目Ａ群　1・2 年次／ 2単位［春学期授業］
情報科学実習Ⅱ　(2016 年度入学者)　専門基礎科目Ａ群　1・2 年次／ 2単位［秋学期授業］
情報科学実習Ⅰ・Ⅱ　(2015 年度以前入学者)　専門基礎科目Ａ群　1・2 年次／ 4 単位［年間授業］

【授業の到達目標・テーマ】

最近ではインターネットの高速化が進み、ますますあらゆるシステムの情報化・ネットワーク化が進んでいる。さらに、インターネット通信が、様々な産業分野においてはもちろん、我々の生活の中のあらゆる場面で広く活用され、今や情報通信機器を道具として使いこなすことは、誰にとっても当然のこととして要求されるようになっている。
情報学に関する基礎科目の目標は、皆さんが PC や情報ネットワークに慣れ親しみ、情報化社会の中で問題を解決するために有効に活用することができる能力を養うことである。具体的には第一に、情報機器に慣れ親しみ、「読み・書き・算盤」に相当する情報リテラシを学ぶことであり、不自由なくPCや情報ネットワークを使いこなすことができるようにすることである。第二に、既存のソフトウェアを扱うことができるようになるだけでなく、独自のプログラムを作成し、自分自身で問題解決をすることができるようになることである。第三は、情報リテラシを学ぶことによって、情報を使いこなしながら生活していく基礎能力を養うことである。皆さんが高校までに習得した一般的な基礎に基づいて、大学生にふさわしくさらに進んだ情報学の基礎を学ぶことができるように、本実習科目では以下の４つのコースを設けている。自分の興味にあったコースを選び、さらに力をつけましょう。

【授業の概要と方法】

ワープロ・通信・表計算コース　（ａコース）
情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するために表計算ソフトを用いて様々なデータの整理、分析を行い、ワークシート上での様々な計算をする方法やグラフの作成法等を学ぶ。

ワープロ・通信・Ｂａｓｉｃコース　（ｂコース）
情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するために初級プログラミング言語として一般的なBasic を用いた初歩的なプログラミングを行う。結果として、様々な問題に対する解決のための思考能力を養う。

ワープロ・通信・データベース・コース　（ｄコース）
情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するためにデータベースソフトウェアを用いてデータの収集・整理・計算・管理方法を学び、グラフの作成法等も学ぶ。

ワープロ・通信・専門基礎 コース　（fコース）
情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でのテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、1.社会現象に対する様々なデータに対して分析を行い、様々な問題を解決する、2.多くのところで活用されている情報システムについて考察し、活用方法について学ぶ等のテーマがある。文系の学生が興味をもてるような具体的な例題、事例を取り上げ、コンピュータを用いた問題解決手法について総合的に学ぶ。

【授業計画】

各コースのページを参照。

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

実習を中心に行う授業であるので、わからない事柄についてはしっかり復習し、授業の進度についていくことが必要である。

【テキスト】

各コースのページを参照。

【参考書】

各コースのページを参照。

【成績評価基準】

各コースのページを参照。

【情報機器使用】

各コースのページを参照。

【その他】

・コースや時間帯によっては応募倍率が高くなる場合があるので、登録時のコース選択には特に注意されたい。第一希望のコマが取れない場合には第二希望や第三希望のコマでも登録することを勧める。
・情報の教職課程を履修する学生は、上記のａコースとプログラミング言語の両方をとることを勧める。
・経営学部の学生は、ｂコースをとることを特に勧める。

情報科学実習Ⅰ（aコース）（2016年度入学者） 専門基礎科目A群　1・2年次／2単位［春学期授業］

情報科学実習Ⅱ（aコース）（2016年度入学者） 専門基礎科目A群　1・2年次／2単位［秋学期授業］

情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（aコース）（2015年度以前入学者） 専門基礎科目A群　1・2年次／4単位［年間授業］

上野　京子　講師、寺脇　由紀　講師、根岸　良征　講師

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語ワードプロセッサ・通信・表計算（aコース）
学問を学ぶ上で必要な知識獲得の方法、情報整理等、情報学の基礎を学ぶ。コンピュータに関する基礎知識、応用事例（コース毎に異なる）について学ぶ。

【到達目標】
学問を学ぶ上で必要なコンピュータの使い方から、問題解決のための分析手法を学ぶために、日本語ワードプロセッサ（Word）、インターネット、表計算をツールとして利用し基本的な情報の収集・編集・集計等が出来るようになることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
[授業の概要]
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受け渡し、WWWとは何か、Webブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。
さらに、aコースでは、ワープロを利用して日本語処理・文書編集の様々な方法を学び、プレゼンテーションソフトウェアによる表現法を学ぶ。また、電子メールやホームページを通じてインターネット上の相手と通信したり必要な情報を収集する方法を学ぶ。表計算ソフトを用いてワークシートの計算法やグラフの作成法などを勉強する。表計算とグラフに関しては、ITパスポート・基本情報技術者試験の出題範囲についても触れる。
授業は情報実習室のコンピュータを用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行く。なお、担当者により下記の授業計画の実施順序が若干異なる場合がある。
[授業の方法]
コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータとは	コンピュータの仕組みを知る。
第2回	コンピュータの基本操作	コンピュータとWindowsの基本操作を学習する。
第3回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第4回	インターネットの仕組み	インターネットの仕組みを知る。
第5回	電子メール	電子メールの仕組みと送受信の操作を学ぶ。
第6回	インターネット検索	各種のWebサイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学ぶ。
第7回	文章入力	日本語ワードプロセッサ（Word）で文章の入力を速く正確にできるようにする。
第8回	日本語ワードプロセッサの基本操作	日本語ワードプロセッサの基本操作を学ぶ。
第9回	文章の編集	各種の編集機能を学び、効果的な文書づくりができるようにする。
第10回	表の作成	表の作成と編集の方法を学ぶ。
第11回	図形の作成	文書内での図形の描き方を練習する。
第12回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入したビジュアルな文書の作成方法を学ぶ。
第13回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学ぶ。
第14回	日本語ワードプロセッサと計算の連携	日本語ワードプロセッサと表計算の連携を行えるようにする。
第15回	まとめ	春学期のまとめとして期末テストまたはそれに代わる課題演習を実施する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第1回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を学ぶ。
第2回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法について学ぶ。
第3回	ワークシート作成の基礎	表計算ソフト（Excel）の基本操作を理解する。
第4回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第5回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を学習する。
第6回	応用的な関数の利用	if関数やlookup関数を利用した集計方法について学習する。
第7回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計の方法を学ぶ。
第8回	グラフの基礎	基本的なグラフ作成の方法を学ぶ。
第9回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第10回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、パレート図など）の作成について学ぶ。
第11回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、置換などのデータベース機能を学習する。
第12回	統計的なデータ処理の基礎	統計データの基礎的な集計方法について学ぶ。
第13回	表計算とワープロの連携	ワープロで利用する表の作成方法について学ぶ。
第14回	総合演習	希望に応じて、履修者の興味に即した自由課題を設定し、学んだ機能を総合的に活用する実習を行う。
第15回	まとめ	秋学期のまとめとして期末テストまたはそれに代わる課題演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの基本操作、表計算について理解できるように担当教員の指示に従い予習・復習を行う。

【テキスト（教科書）】
教材については授業内で適宜指示する。

【参考書】
参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
原則として期末テストあるいは課題演習（春・秋学期各30%）を行い、出席(20%)、毎回の課題提出(20%)を考慮して評価する（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合がある）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業の進め方、使用教材、難易度等につて担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のコンピュータを使用する。学習管理システムClassroomを利用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力および簡単な表計算を使った分析能力を養う。

情報科学実習Ⅰ（bコース）（2016年度入学者）専門基礎科目A群　　1・2年次／2単位［春学期授業］

情報科学実習Ⅱ（bコース）（2016年度入学者）専門基礎科目A群　　1・2年次／2単位［秋学期授業］

情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（bコース）（2015年度以前入学者）専門基礎科目A群　　1・2年次／4単位［年間授業］

児玉　靖司　教授、飯塚　康至　講師、北澤　具子　講師、児玉　好信　講師、寺脇　由紀　講師、富田　稔　講師

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語ワードプロセッサ・通信・Basic (b コース)
学問を学ぶ上で必要な知識獲得の方法、情報整理等、情報学の基礎を学ぶ。コンピュータに関する基礎知識、応用事例 (コース毎に異なる) について学ぶ。

【到達目標】
学問を学ぶ上で必要なコンピュータの使い方から、問題解決のためのプログラミングを理解することを目標とする。

【授業の進め方と方法】
[授業の概要]
情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。
さらに、b コースではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Application による基礎的プログラミング方法を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。
[授業の方法]
コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	操作方法	基本操作について学ぶ。
第 4 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 5 回	パワーポイントによる文章表現法（1）	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 6 回	パワーポイントによる文章表現法（2）	パワーポイントによる応用的な使い方について学ぶ。
第 7 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 8 回	表計算の使い方（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 9 回	表計算の使い方（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 10 回	起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	プログラムの作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 12 回	プログラムの作成手順	プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	簡単な計算	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	飛び越しと分岐	プログラミングにおいて重要な処理である分岐について学ぶ。
第 15 回	春学期のまとめ	春学期に行った授業のまとめを行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 2 回	繰り返し（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 3 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 5 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 7 回	文字や文字列の扱い方 (文字列処理)（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の扱い方 (文字列処理)（2）	プログラム中での文字列の処理の応用について学ぶ。
第 9 回	直線・円・画像などの図形	グラフィックスの基礎について学ぶ。
第 10 回	応用グラフィックス	グラフィックスの応用について学ぶ。
第 11 回	データの保存と読み出し	データ (値) をファイルとして保存する方法について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	いくつかの応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	応用プログラミング（3）	いくつかの応用プログラミングについて学ぶ。
第 15 回	まとめ	授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。

【テキスト（教科書）】
教材については開講時に指示する。

【参考書】
参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピューに向かいながら学習する。学習管理システム Canvas、Classroom を多用効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うで、経営学部生には特に勧めるコースである。

情報科学実習Ⅰ（d コース）（2016 年度入学者）専門基礎科目 A 群　　1・2 年次／ 2 単位［春学期授業］

情報科学実習Ⅱ（d コース）（2016 年度入学者）専門基礎科目 A 群　　1・2 年次／ 2 単位［秋学期授業］

情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（d コース）（2015 年度以前入学者）専門基礎科目 A 群　　1・2 年次／ 4 単位［年間授業］

渡辺　英人　講師

※　**原則春学期、秋学期連続で受講してください。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word、Excel、PowerPoint、そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】
大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータとソフトウエアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【授業の進め方と方法】
在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	コンピューターとは何か（ハードウェアとソフトウェア）	情報処理の基礎
2	キーボード入力練習	情報処理の基礎
3	機器の取扱いと Windows の操作法	情報処理の基礎
4	電子メールやソーシャルメディアの利用	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。
5	インターネットと大学生の研究・学習	インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
6	ワープロ操作（Word による文章入力の練習）	情報処理の基礎。文書作成法。
7	ワープロ操作（Word による文章入力の練習）	プレゼンテーション用資料作成の方法。
8	インターネットと Word を使った課題作成	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
9	Excel の操作法（基本操作）	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
10	Excel の操作法（計算機能と関数）	表計算ソフトの計算機能について解説。
11	Excel の操作法（表作成）	表計算ソフトの作表機能について解説。
12	Excel の操作法（グラフの作成）	表計算ソフトのグラフ作成機能について解説。
13	Excel とインターネット	インターネット上から、統計資料、データをダウンロードして、効率よく処理蓄積し、再利用する方法を解説。
14	Excel とプレゼンテーション	プレゼンテーションに効果的な Excel 資料の作成方法について解説。
15	インターネットと Excel を使った課題作成	インターネットを利用した情報検索、収集と Excel による資料作成。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	PowerPoint による文章表現・プレゼンテーション	プレゼンテーション用ソフトウェア「PowerPoint」の基礎。
17	PowerPoint による文書表現・プレゼンテーション	効果的なプレゼンテーション資料の作成方法。
18	インターネットと PowerPoint を使った課題作成	インターネットを使って情報検索、収集、および効率的なプレゼンテーション資料を作成する。
19	データベース入門	Excel を活用したデータベース構築の基礎。
20	データベース入門	Excel を活用したデータベース構築の基礎。
21	Excel を活用したデータベース資料の作成	Excel を活用したデータベース構築の基礎。
22	Access によるデータベース構築の基礎	効率的な情報収集、蓄積、そして再利用方法の基礎。
23	Access によるデータベース構築の基礎	効率的な情報収集、蓄積、そして再利用方法の基礎。
24	Access によるデータベース構築の基礎	効率的な情報収集、蓄積、そして再利用方法の基礎。
25	Access によるデータベース資料の作成	インターネット上のデータを使って、Access によるデータベース構築を行う。
26	効率的な情報検索、収集、蓄積方法について	情報処理技術を社会科学、人文科学の学習、研究にどう活用するか。
27	効率的な情報検索、収集、蓄積方法について	情報処理技術を社会科学、人文科学の学習、研究にどう活用するか。
28	効率的な情報検索、収集、蓄積方法について	情報処理技術を社会科学、人文科学の学習、研究にどう活用するか。
29	効率的な情報検索、収集、蓄積方法について	情報処理技術を社会科学、人文科学の学習、研究にどう活用するか。
30	情報科学と社会科学、人文科学（総括）	情報科学の知識と技術を大学生活や日常生活に活かす方法について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。

【テキスト（教科書）】
開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】
開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
講義と実習による授業です。とにかく欠席しないこと。春学期、秋学期に試験（課題作成）を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況を合わせて評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】
データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】
〔受講上の注意〕
大学でのあらゆる学習・研究活動の基礎となる「実学」です。実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

情報科学実習Ⅰ（fコース）（2016年度入学者） 専門基礎科目A群　1・2年次／2単位［春学期授業］

情報科学実習Ⅱ（fコース）（2016年度入学者） 専門基礎科目A群　1・2年次／2単位［秋学期授業］

情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（fコース）（2015年度以前入学者） 専門基礎科目A群　1・2年次／4単位［年間授業］

児玉　靖司　教授、上野　京子　講師

※　**原則春学期、秋学期連続で受講してください。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語ワードプロセッサ・通信・情報活用（fコース）
　学問を習得する上で必要な知識獲得、情報整理等、情報学の基礎を学ぶ。コンピュータ基礎、応用事例（コース毎に異なる）について学ぶ。

【到達目標】
　学問を習得する上で必要なコンピュータの使い方から、様々な情報の整理、活用方法を学ぶことを目標とする。後半のテーマ設定は各教員により異なるので注意しよう。

【授業の進め方と方法】
　情報学について、例えばコンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWWとは何か、Webブラウザを用いて情報を収集する、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。
　さらに、fコースでは、後半に各教員の専門に近い形でのテーマ設定を行い、情報処理能力を養う。例えば、1. 社会現象に対する様々なデータに対して分析を行い問題解決をする、2. 多くのところで活用されている情報システムについて考察し、活用方法について学ぶ等のテーマがある。文科系の学生が興味をもてるような具体的な例題を取り上げコンピュータを用いた問題解決手法について学ぶ。
〔授業の方法〕
　コンピュータを実際に操作しながら結果を確認し考察を加える。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み（ハードウェアとソフトウェア）	コンピュータの仕組み、コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習、タッチタイピングソフトウェアについて学ぶ。
第3回	操作法（コンピュータ取扱い法、Windows操作法）	オペレーティングシステムをはじめとした基本操作について学ぶ。
第4回	ワープロ操作（文章表現の練習）	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第5回	パワーポイントによる文章表現・プレゼンテーション法（1）	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第6回	パワーポイントによる文章表現・プレゼンテーション法（2）	パワーポイントによるグラフ表現等、応用的な使い方について学ぶ。
第7回	電子メールの受渡しとWebブラウザの利用法	電子メールのメッセージの書き方、Webブラウザによる情報検索方法について学ぶ。
第8回	表計算の使い方（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第9回	表計算の使い方（2）	表計算の応用について学ぶ。
第10回～第14回	教員独自の導入学習（児玉）	Webアプリケーション（アプリ）構築の基礎を学ぶ。
第10回～第14回	教員独自の導入学習（上野）	Office系アプリケーションソフトウェアを利用して、社会人として必要なスキルを身に付けるための基礎知識を学習する。
第15回	春学期まとめ	春学期に行った授業のまとめを行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第1回～第5回	入門学習（児玉）	Webアプリケーション構築の応用について学習する。無料のクラウドシステムを用いてWebを構築する方法を学ぶ。
第1回～第5回	入門学習（上野）	問題解決に繋がる実践的なスキルをOffice系アプリケーションソフトウェアを利用したケーススタディを用いて学習する。
第6回～第10回	活用学習（児玉）	Webアプリケーションを考察し、サービスとして構築することを目指す。Webサービスについても考察する。コンピュータグラフィックスを用いた動画なども多様することを目指す。
第6回～第10回	活用学習（上野）	一般常識としてのネットワーク利用の作法セキュリティ知識、文書の作成、長文の作成（索引、目次、図表管理）などフォーマルな文書の作成、数値データの有効的可視化、データ分析、意思決定のための数値シミュレーション、効果的なプレゼンテーションと資料作成の方法などを学習する。
第11回～第14回	応用学習（児玉）	クラウドコンピューティングの実態とその身近な活用方法について学習する。Webアプリケーションとの関係についても考察する。
第11回～第14回	応用学習（上野）	ITパスポート・基本情報技術者試験の出題範囲についても触れながら、経営・戦略に関する分析手法、表計算での問題解決などを学習する。
第15回	秋学期まとめ	授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　定期的に課題を与えるので、予習、復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
　教材については開講時に指示する。

【参考書】
　参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
　春学期と秋学期に各1回ずつテスト（レポート提出に代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
　アンケートを多用し、授業の進め方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
　コンピュータ、プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。

【その他の重要事項】
　問題解決のための情報活用能力を養うのでコンピュータを基礎から学びたい学生には特に勧めるコースである。
〔関連科目〕
特になし。

情報科学実習Ⅰ（fコース）（2016年度入学者）専門基礎科目A群　1・2年次／2単位［春学期授業］

情報科学実習Ⅱ（fコース）（2016年度入学者）専門基礎科目A群　1・2年次／2単位［秋学期授業］

情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（fコース）（2015年度以前入学者）専門基礎科目A群　1・2年次／4単位［年間授業］

小寺　浩二　准教授、永保　敏伸　講師

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報活用＜地域環境情報解析＞コース
大学で、様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。特に応用面では、現在、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易ＧＩＳソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

【到達目標】
情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。
特に、空間情報解析の基礎能力を育成する。

【授業の進め方と方法】
春学期は、総合的な情報リテラシーを重視した内容で、ワープロ・電子メール・インターネット・表計算ソフト・プレゼンテーションを利用した表現法などについて学ぶ。各学部学科や、個人的に興味のあるテーマに沿って総合的なリテラシー活用法を身につけた上で、秋学期には、電子地図・衛星画像・統計情報などを利用して様々なマップ（分布図）を作り、様々な地域環境情報の活用法を習得する。利用するのは、高度なＧＩＳソフトではなく、無料で手に入り、誰でも使えるフリーソフトなので、今後の様々なレポート作成などにも活用することができる貴重な能力を身につけることができる。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回（春期）	コンピュータの仕組み	ハードとソフト
第 2 回（春期）	キーボード入力練習	MYKATYPE を使った入力練習
第 3 回（春期）	機器の取り扱いと Windows の操作法	起動、終了操作など
第 4 回（春期）	ワープロ入門	Word による文章入力
第 5 回（春期）	ワープロ応用	Word による文書体裁など
第 6 回（春期）	通信入門	電子メールの送受信とブラウザ利用
第 7 回（春期）	通信応用	Web ブラウザとデータベースの活用
第 8 回（春期）	表計算ソフト入門	Excel の基本操作習熟
第 9 回（春期）	表計算ソフト活用	Excel での表・図の作成
第 10 回（春期）	表計算ソフト応用	Excel での統計解析
第 11 回（春期）	プレゼンテーション入門	PowerPoint の基礎
第 12 回（春期）	プレゼンテーション応用	PowerPoint の応用
第 13 回（春期）	総合実習１	Excel での解析と Word でのレポート
第 14 回（春期）	総合実習２	PowerPoint を用いた実際の発表
第 15 回（春期）	まとめ	春学期のまとめと復習

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回（秋期）	地域環境情報とは？	地域科学・環境科学と様々な情報
第 2 回（秋期）	ＧＩＳとＳＩＳ	地理情報システムと空間情報システム
第 3 回（秋期）	様々な地域環境情報とその収集・管理・活用法	公的機関の HP など
第 4 回（秋期）	地図を作ろう	階級区分図
第 5 回（秋期）	コンビニエンスストアの分布図	具体的事例１
第 6 回（秋期）	東京都の地価分布図	具体的事例２
第 7 回（秋期）	八王子市の土地利用変化	具体的事例３
第 8 回（秋期）	水質調査マップ	具体的事例４
第 9 回（秋期）	ヒートアイランドと環境パラメータ評価	具体的事例５
第 10 回（秋期）	フリーソフトで作る空間情報社会	ＧＩＳの活用１
第 11 回（秋期）	測地系と座標変換	ＧＩＳの活用２
第 12 回（秋期）	統計ＧＩＳプラザ・国勢調査データ・白地図活用	具体的なデータの活用法
第 13 回（秋期）	総合実習１	ＧＩＳソフトによる分布図作成と解析
第 14 回（秋期）	総合実習２	PowerPoint を用いた発表
第 15 回（秋期）	まとめ	秋学期のまとめと復習 １年間のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期：できる限り本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。
秋学期：同様に、様々な講義で扱う地域環境情報について、分布図を作成し、時空間解析を試みる。

【テキスト（教科書）】
春学期：第１回授業時に指示。「情報リテラシー」に関する教科書。
秋学期：後藤真太郎ほか（２０１３）：『MANDARA と EXCEL による市民のためのＧＩＳ講座（第３版）』, 古今書院

【参考書】
・中村和郎ほか（2002）：『地理情報システムを学ぶ』, 古今書院
・佐土原　聡ほか（2005）：『図解！ Arc ＧＩＳ 身近な事例で学ぼう』, 古今書院
・川崎昭如ほか（2008）：『図解！ Arc GIS Part2 ＧＩＳ実戦に向けてのステップアップ』, 古今書院
その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席（30 %）、課題（30 %）、試験（春学期 20 %・秋学期 20 %）をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、配点を変更することもあり得る。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、秋学期では、各専門分野の興味に従った応用に対応するようにする。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のＰＣで実習を行う。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

情報科学実習Ⅰ（f コース）（2016 年度入学者）専門基礎科目 A 群　　1・2 年次／ 2 単位［春学期授業］

情報科学実習Ⅱ（f コース）（2016 年度入学者）専門基礎科目 A 群　　1・2 年次／ 2 単位［秋学期授業］

情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（f コース）（2015 年度以前入学者）専門基礎科目 A 群　　1・2 年次／ 4 単位［年間授業］

築城　厚三　講師

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学で様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。はじめは、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎から実践的な活用法に触れる。その後、画像編集ソフトから描画ソフト、DTP（DeskTop Publishing）ソフトの活用法までを学ぶ。

【到達目標】
大学での学習に必要な情報の収集、整理、発信にかかわる基礎的能力を習得する。DTP ソフトを利用した編集実務および紙面デザインの基礎的技術を習得する。

【授業の進め方と方法】
初めの 10 回は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを学ぶ。その後の 20 回で Adobe Photoshop や Illustrator を用いて基本的な操作方法から画像の編集、デザインの方法までを学ぶ。最終的に InDesign で見開きページを作成する。どのようにすれば簡潔かつ的確に内容を伝えることができるか、いくつかのサンプルを元に考え、実際に形にしてみるという経験を積む。また、実習授業なので、各自のやりたいことがあればそれに沿って柔軟に内容を検討する。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	PC スキルおよび知りたい内容等に関する簡単なアンケート
2	ワープロソフトの操作	基礎的な文書作成、画像の挿入、レポート、論文の書き方、ショートカット等
3	ワープロソフトの操作	レポート、論文の書き方について、演習
4	表計算ソフト、関数について	簡単な関数からよく使う関数（if,vlookup）まで
5	表計算ソフト、データベースとグラフ機能	データベース、グラフ機能。課題提示
6	表計算ソフト実習	実習、課題について回答例提示、解説
7	プレゼンテーションソフトの使い方	アニメーション、スライドマスタ、リハーサル機能、効果的なプレゼン方法
8	プレゼン準備	実習、プレゼン準備
9	プレゼン準備	実習、プレゼン準備
10	プレゼン	プレゼン、相互評価
11	プレゼン講評、まとめ。この先の展望	office の連携。DTP について、これから使うソフトでできること
12	画像編集ソフトの操作方法 1	写真の加工、レイヤーについて
13	画像編集ソフトの操作方法 2	色域選択、トーンカーブ等、使える技術
14	画像編集ソフト実習 1	実習、素材加工
15	画像編集ソフト実習 2	実習、素材加工

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	描画ソフトの操作方法 1	オブジェクトの作成、塗りと線、パスの描き方
17	描画ソフトの操作方法 2	パスの練習、レイヤー、図形の結合、切り抜き等
18	描画ソフト実習 1	実習、ロゴもしくは名刺の作成
19	描画ソフト実習 2	実習、ロゴもしくは名刺の作成
20	描画ソフト実習 3	実習、ロゴもしくは名刺の作成
21	DTP ソフトの操作方法 1	DTP ソフトで何ができるか概観。級、歯、フォントについて、縦書きと横書き、レイアウトグリッド等
22	DTP ソフトの操作方法 2	基本的な機能、使い方、マスター、テキストの流し込み、組み文字
23	DTP ソフトの操作方法 3	画像配置、タイトルの作成、デザイン、編集
24	DTP ソフト実習	課題に沿って、与えたデータを正確に組む。
25	DTP ソフト実習	最終課題提示、実習、課題作成
26	課題	実習、課題作成
27	課題	実習、課題作成
28	課題	実習、課題作成
29	課題	実習、課題作成
30	発表、講評	発表、講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
定期的に課題を与えるので、各自、取り組んでもらう。

【テキスト（教科書）】
指定しない。授業支援システムにテキストやデータをアップしておき、授業時に作業の指示をする。

【参考書】
「すぐわかる Office 2013 Windows 8/7 対応」（アスキー・メディアワークス）、「グラフィック&Web デザイン Illustrator&Photoshop」（技術評論社）、「よくわかる InDesign の教科書」（マイナビ）、「デザインの学校 これからはじめる InDesign の本」（技術評論社）など。類似書籍が多数あるので、書店で実際に手にとってみて、自分で使いやすいものがあればそれでも構わない。

【成績評価の方法と基準】
出席時の取り組み状況（50 %）、課題提出の状況（50 %）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
教卓からの一方通行でなく、学生相互にコミュニケーションをとりながら発展していくような課題設定を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室の PC を使用する。

【その他の重要事項】
コンピュータの数に限りがあるため、履修者は 34 名までとする
文学部科目「編集実務 A」「編集実務 B」（DTP による誌面構成の方法）を履修したい学生は、事前に本科目を履修しておくことをお勧めする。

【オフィス・アワー】
質問がある場合は E-mail で受け付ける。
メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

経営管理論Ⅰ　専門基礎科目Ｂ群　2～4 年次／２単位［春学期授業］

経営管理論Ⅱ　専門基礎科目Ｂ群　2～4 年次／２単位［秋学期授業］

稲垣　保弘　教授

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〔春学期〕
経営管理の主要な理論について理解し、それに基づいて組織活動をどのようにマネジメントしていくのかを検討します。
〔秋学期〕
経営管理論Ⅰの延長であり、経営管理についての主要な理論を理解し、パワー作用などハウツー的な知識も包括して、組織活動のマネジメントについて検討します。

【到達目標】
授業のテーマについて、受講者の知識と論理的思考力などの能力向上を図ること。

【授業の進め方と方法】
受講者数や教室にもよりますが、講義形式の予定です（質問の時間は授業の終わりにとります）。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、テキスト、参考文献などについて説明。
2	経営管理とは何か	経営管理=マネジメントの全体像の説明。
3	管理過程論とバーナード理論による管理の定義	代表的な定義による管理の理解。
4	科学的管理法	科学的管理法の内容と現代的な意味。
5	人間関係論	人間関係論の内容と現代的な意味。
6	人間資源論	人間資源論の内容と現代的な意味。
7	モティベーション	組織の中の動機付けについて説明。
8	目標管理	目標管理の内容と企業への導入。
9	成果主義	日本企業における成果主義について。
10	管理過程理論	ファヨールの理論とアメリカの管理過程論について。
11	管理原則と組織	管理原則の内容と意味。
12	バーナード理論	バーナード理論の概要の説明。
13	インフォーマル組織と排除のメカニズム	インフォーマル組織の形成条件と、そこで作用する排除のメカニズムについて。
14	サイモンの意思決定論	意思決定論の説明。
15	まとめ	経営管理論Ⅰのまとめ。経営管理＝マネジメントの循環的な構図に、それまで説明した理論を位置づける。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期と同じ。
2	コンティンジェンシー理論	コンティンジェンシー理論の内容と意味。
3	ローレンス＝ローシュの研究	コンティンジェンシー理論の代表的な研究の説明。
4	組織要素の連結	組織の構成単位の連結の様相について。
5	コンフリクト	組織のコンフリクトの解消方法について。
6	組織の官僚主義化	官僚主義の特徴と組織の官僚主義化の原因について。
7	組織の官僚主義化の克服	組織の官僚主義化の克服策について。
8	組織の効率性と創造性	組織の効率性を高める方法と、創造性を高める方法。
9	組織の機能について	機能というコンセプトの意味。その組織での意味。
10	組織編成の基軸	組織編成の軸となるものについて。
11	リーダーシップの理論	リーダーシップの概念と主要な理論。
12	変革のリーダーシップ	リーダーシップが重要なのは、どのようなケースか。
13	組織のパワー作用	組織のパワー作用について、フランス現代思想、政治学、コンティンジェンシー理論などにもとづいて説明。
14	組織現象と解釈学的循環	組織現象の循環的な流れについて。
15	まとめ。	経営管理論Ⅱのまとめ。それまで学習した各項目、各理論を、解釈学的循環の構図に位置づける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各時間ごとに、予習・復習の内容を指示します。

【テキスト（教科書）】
稲垣保弘『組織の解釈学』白桃書房を予定。その他、配布プリントなどについて授業の開講時に説明します。

【参考書】
稲垣保弘『経営の解釈学』白桃書房（２０１３年）。経営管理の重要なテーマについて解釈学の視点から検討しているので、授業での理論的説明をより深く理解できます。その他は必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
定期試験中心、詳細は開講時に説明します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
開講時に授業の進め方に関連して説明します。

【その他の重要事項】
関連科目：経営学総論Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ

マーケティング論Ⅰ　専門基礎科目 B 群　2年次／2単位　［春学期授業］
マーケティング論Ⅱ　専門基礎科目 B 群　2年次／2単位　［秋学期授業］

竹内　淑恵　教授

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フィリップ・コトラーは「マーケティング (marketing)」とは的 (mark) に命中させる能力のことである」とし、マーケティング・マネジメントを「標的市場を選択し、優れた顧客価値の創造、伝達、提供を通じて、顧客を獲得、維持、育成する技術である」と定義している。
近年、市場の成熟化に伴って企業の対市場戦略の拡大化が進み、マーケティングは単にプロダクト・マネジャーだけが担えばよいのではなく、経営者を含め、企業全体としてマーケティング志向を持つことが必要になっている。そこで本講義では、マーケティングに関する基礎的な知識を学ぶとともに、製品戦略から事業戦略へ、さらに企業戦略へと拡大しているマーケティング活動に関する実践的で役立つマネジメント・ノウハウを習得することを目的とする。

【到達目標】
・マーケティングの理論と実務について理解する。
・レポート課題に取り組むことにより、文章作成力、情報収集と分析力を身につける。
・マーケティングを通じて企業経営に対して関心を持つ。
・新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。

【授業の進め方と方法】
①春学期：マーケティングの概念とその変遷 (プロダクト志向、販売志向、ニーズ志向、社会志向など) を理解するとともに、送り手である企業レベル (マーケティング組織、競争戦略、STP など)、受け手である消費者 (消費者行動、態度形成、購買行動など) という観点からマーケティングを捉える。あわせて新しい潮流であるリレーションシップ・マーケティングを学ぶ。
②秋学期：マーケティングの要といえる「マーケティングの 4P」、すなわち Product, Price, Promotion, Place について解説するとともに、新しい潮流であるサービス・マーケティング、ブランド・マネジメントに関する知識を習得する。
③春学期・秋学期ともゲストスピーカーを招いて、実際の企業のマーケティング活動について講演をいただく予定である。詳細は決まり次第、授業内で伝える。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について概説する。
第 2 回	マーケティング概念とその変遷①	マーケティングの定義、中核概念について説明する。
第 3 回	マーケティング概念とその変遷②	市場の発展とマーケティング・コンセプトの変化について説明する。
第 4 回	マーケティング組織とプロセス管理①	経営戦略とマーケティング戦略、競争地位類型と競争優位化戦略について説明する。
第 5 回	マーケティング組織とプロセス管理②	事業戦略のポートフォリオ、マーケティング機能の拡大と組織について説明する。
第 6 回	市場機会の発見①	市場機会の発見プロセス、セグメンテーションについて説明する。
第 7 回	市場機会の発見②	ターゲティングについて説明する。
第 8 回	市場機会の発見③	ポジショニングについて説明する。
第 9 回	消費者行動①	マーケティングと消費者行動について説明し、消費者行動論の中でも、知覚、学習という概念を学ぶ。
第 10 回	消費者行動②	消費者行動論における関与、知識、態度、購買意思決定について説明する。
第 11 回	消費者行動③	文化という観点から消費者行動について説明する。
第 12 回	リレーションシップ・マーケティング①	リレーションシップの定義、リレーションシップ・マーケティングについて説明する。
第 13 回	リレーションシップ・マーケティング②	対流通、対消費者とのリレーションについて説明する。
第 14 回	ゲストスピーカーによる事例紹介	2015 年度 (春学期) は、㈱インテージの渋瀬雅彦氏をお招きし、「消費者行動のデータを企業はいかに活用しているか－メディア変化とビッグデータ進展の観点から－」をテーマにご講演いただいた。2016 年度についてはこれから交渉するため、詳細 (日程、内容など) は授業にて伝える。
第 15 回	事例を用いた春学期のまとめ	1 つのブランドを取り上げて、マーケティング・コンセプト、競争地位類型と競争優位化戦略、製品・市場マトリックス、STP など春学期のまとめを行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	プロダクト・デザイン①	マーケティングにおける製品の定義、製品戦略について説明する。
第 2 回	プロダクト・デザイン②	製品ライフサイクル、新製品の普及過程について説明する。
第 3 回	プロダクト・デザイン③	製品開発プロセスについて説明する。
第 4 回	プライシング・デザイン①	コスト、競争に基づく価格設定について説明する。
第 5 回	プライシング・デザイン②	需要に基づく価格設定について説明する。
第 6 回	コミュニケーション・デザイン①	コミュニケーション・プロセス 、統合型マーケティング・コミュニケーション について説明する。
第 7 回	コミュニケーション・デザイン②	広告コミュニケーションについて説明する。
第 8 回	コミュニケーション・デザイン③	広告とプロモーションについて具体的な事例を用いて説明する。2015 年度 (秋学期) は㈱資生堂の執行役員である杉山繁和氏をお招きし、「資生堂のマーケティング改革」をテーマにご講演いただいた。2016 年度の具体的な内容については授業の際に伝える。
第 9 回	流通チャネル・デザイン①	流通チャネルの基本について説明する。
第 10 回	流通チャネル・デザイン②	流通チャネルの変化と今後について説明する。
第 11 回	サービス・マーケティング①	サービス財の特徴について説明する。
第 12 回	サービス・マーケティング②	サービス・マーケティングの枠組みについて説明する。
第 13 回	ブランド・マーケティング①	ブランドの本質、基本戦略について説明する。
第 14 回	ブランド・マーケティング②	ブランド・エクイティについて説明する。
第 15 回	ゲストスピーカーによる事例紹介	2016 年度 (秋学期) は㈱カスミの磯哲章氏をお招きし、「流通小売業の ICT」をテーマにご講演いただいた。2016 年度 (秋学期) はこれから交渉するため、詳細 (日程、内容など) は授業にて伝える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書には基本的な理論が書いてある。マーケティングを知るには、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報に敏感になること、また、実際の売り場を見ることも大切である。教科書による学習だけでなく、「今、市場で起こっていること」に興味を持ち、自分の目と耳で確認する。

【テキスト（教科書）】
・西尾チヅル編著　『マーケティングの基礎と潮流』　八千代出版 (2007 年)。

【参考書】
・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦　『マーケティング戦略第 4 版』有斐閣アルマ (2012 年)。
・小川孔輔　『マーケティング入門』　日本経済新聞出版社 (2009 年)。
・竹内淑恵編著『リレーションシップのマネジメント』文眞堂 (2014 年)。

【成績評価の方法と基準】
・春学期、秋学期ともレポート課題 40 点、定期試験 60 点 (計 100 点) とし、評価を決める。
・課題レポートを提出しないと単位を取ることは難しいので、必ず提出すること。
・出席点は加味しない。ただし、ゲストスピーカーによる講義の際には出席を取り、加点する。
・定期試験において、学生証番号を誤って記入した場合は、D あるいは E になる。各自が自己責任として注意されたい。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
・日経新聞を用いた事例紹介は興味深いという意見があるので継続する。
・私語への注意喚起を徹底したい。
・穴埋め形式の配布資料について再考する。

【その他の重要事項】
・毎回授業の最初に、「今日の日経新聞」と題して、講義内容と関連した記事を解説する。
・授業はパワーポイントを使って行い、授業で用いた資料を毎回プリントして配布する。また、授業支援システムを用いて資料を配布する。
・マーケティング論Ⅰ/Ⅱは、3 年次以降に履修することになるマーケティング関連の専門科目 (消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなど) の基礎科目として重要である。マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属する、あるいは所属したいと考えている学生は受講することをお勧めする。

マーケティング論Ⅰ　専門基礎科目 B 群　2 ～ 4 年次／ 2 単位　［春学期授業］
マーケティング論Ⅱ　専門基礎科目 B 群　2 ～ 4 年次／ 2 単位　［秋学期授業］

長谷川　翔平　専任講師

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マーケティングの役割や方法は，時代と共に変化してきている。近年では，スマートフォンの普及により，消費者と企業を取り巻く環境が大きく変わった。消費者は，製品の比較や購入が場所や時間に関わらず容易に行えるようになった。企業は，SNS を利用して消費者と双方向のやり取りが行えるようになり，消費者にアプローチする方法が多様化している。一方で，環境が変わったとしてもマーケティングの本質的な目的である「ニーズを満たす価値を消費者に届ける仕組みを作ること」は変わらない。
本授業では，マーケティングの基礎を学ぶと同時に，環境の変化に対して応用できる知識を身につけることを目的とする。

【到達目標】
・マーケティングの基礎概念を理解する。
・環境の変化に対応したマーケティング戦略を考えることができる。
・身近にある商品でどのようなマーケティングが行われているか説明できる。

【授業の進め方と方法】
[春学期]
マーケティングの基礎概念を学んだ後に，市場機会の発見とマーケティング・ミックスについて学ぶ。マーケティング・ミックスとは，「4P」とも呼ばれるマーケティングの基本概念であり，Product（製品），Price（価格），Promotion（プロモーションまたはコミュニケーション），Place（流通）の 4 項目で構成される。春学期では，このマーケティング・ミックスの各項目の戦略を中心に学んでいく。
[秋学期]
春学期に学んだマーケティング・ミックスの考えを応用させた発展的な内容について学ぶ。扱うトピックとしては，マーケティング戦略策定をデータから支援するマーケティング・リサーチ，製品とは異なる形の無い財であるサービスに関わるマーケティング，消費者の意思決定過程に焦点をあてる消費者行動，優良顧客の発見と維持・育成を目的とした顧客管理などが挙げられる。その他にも，インターネットの普及やグローバル化によるマーケティングの変化を，最近の事例を参考に学んでいく。
[授業の方法]
PowerPoint のスライドを用いた授業を行う。スライドは講義資料として配布する。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要説明とイントロダクション
2	市場機会の発見 (1)	市場分析と市場機会の発見
3	市場機会の発見 (2)	STP マーケティング
4	製品戦略 (1)	新製品開発
5	製品戦略 (2)	製品ライフサイクル
6	製品戦略 (3)	ブランドの役割と構築
7	価格戦略 (1)	価格の影響と価格決定の方法
8	価格戦略 (2)	実務的な価格戦略
9	コミュニケーション戦略 (1)	コミュニケーションの役割
10	コミュニケーション戦略 (2)	コミュニケーション手法とメディアの選択
11	コミュニケーション戦略 (3)	コミュニケーション戦略の立案と効果測定
12	流通戦略 (1)	流通チャネルの種類と機能
13	流通戦略 (2)	垂直的マーケティングシステム
14	流通戦略 (3)	サプライチェーンマネジメント
15	春学期まとめ	春学期のまとめと復習

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	マーケティング・リサーチ (1)	データの種類と収集方法
2	マーケティング・リサーチ (2)	一次データの分析モデル
3	マーケティング・リサーチ (3)	二次データの分析モデル
4	サービス・マーケティング (1)	製品とサービスの違い
5	サービス・マーケティング (2)	サービス・トライアングル
6	サービス・マーケティング (3)	サービス・ドミナント・ロジック
7	消費者行動 (1)	消費者行動の理論とモデル
8	消費者行動 (2)	行動経済学のマーケティングへの応用
9	顧客管理 (1)	関係性マーケティングと CRM
10	顧客管理 (2)	RFM 分析と顧客生涯価値
11	インターネット・マーケティング (1)	インターネットによるマーケティング環境の変化
12	インターネット・マーケティング (2)	インターネットによる新しいマーケティング手法
13	国際マーケティング (1)	海外進出時のマーケティング戦略
14	国際マーケティング (2)	グローバル・マーケティング
15	秋学期まとめ	秋学期のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
私たち消費者にとってマーケティングは非常に身近なものである。自分が普段使っている製品は，どのように広告が展開され，またどのような販路・方法で売られているか，よく観察して欲しい。

【テキスト（教科書）】
なし。授業中に資料を配布する。

【参考書】
・和田，恩蔵，三浦『マーケティング戦略 第 4 版』有斐閣（2012 年）
・小川『マーケティング入門』日本経済新聞出版社（2009 年）
その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100%）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
企業が行っているマーケティングの実例を紹介するなどして，わかりやすい授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業中に配布する講義資料は授業支援システムにアップロードする。

【その他の重要事項】
[関連科目]
・流通論Ⅰ/Ⅱ
・消費者行動論Ⅰ/Ⅱ
・マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ
・サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ
・製品開発論Ⅰ/Ⅱ

会計学入門Ⅰ　専門基礎科目 B 群　2～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

会計学入門Ⅱ　専門基礎科目 B 群　2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

坂上　学　教授

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3 年次以降に会計学の専門分野を中心に学習しようと思っている学生だけでなく、経営学部のすべての学生が経営学分野を学習する際に会計学の基礎知識は必要です。この講義は企業会計における損益計算の仕組みや収益費用の具体的計算等の財務会計の基本的事項と財務諸表の読み方・分析を中心に企業会計の基礎を学びます。最終的には企業会計の基本的ルールの理解と財務諸表分析の基本的枠組みを理解し、必要に応じて財務諸表が読めるようになることを目標とします。

【到達目標】
企業の財務会計が、どのようにして企業活動の実態を会計情報へと描き出すのか、また人々はその情報をどのように利用して企業の状況を調べよいかを総合的に解説し、財務諸表の作成プロセスだけでなく、実際に公表される財務諸表を基礎として、利用者が企業の経営分析を行えるための基礎知識を習得することを目標としている。

【授業の進め方と方法】
基本的にはテキストに沿って講義を進めるが、理解を深めるための補助教材として、適宜プリントなどを配布する予定である。途中、１～２回ほどミニテストを実施するかもしれない。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要と進め方
第 2 回	会計の種類	会計には、どのような種類があるのかについて説明する。
第 3 回	会計の役割	会計の役割について、説明する。
第 4 回	財務会計のシステム（1）	複式簿記システムのもとで、どのように会計情報が生み出されるのかについて解説する。
第 5 回	財務会計のシステム（2）	前回に引き続き、複式簿記システムのもとで、どのように会計情報が生み出されるのかについて解説する。
第 6 回	財務会計の基本原則	財務会計の基本原則にはどのようなものがあるのかを解説する。
第 7 回	企業の設立の会計	企業の設立に関して、会計がどのように関わっているかについて解説
第 8 回	企業の資金調達の会計	企業が営業活動をおこなうにあたって必要となる資金調達がどのようにおこなわれているかについて解説する。
第 9 回	仕入活動の会計	企業の仕入活動について、どのように会計処理がなされるかについて解説する。
第 10 回	生産活動の会計	企業の生産活動について、どのように原価を把握しているかについて解説する。
第 11 回	販売活動の会計（1）	企業の販売活動について、どのように会計処理をおこなうかについて解説する。
第 12 回	販売活動の会計（2）	前回に引き続き、企業の販売活動について、どのように会計処理をおこなうかについて解説する。
第 13 回	設備投資の会計	設備投資に関わって、減価償却などの会計処理について解説する。
第 14 回	研究開発の会計	研究開発に関わる会計処理について解説する。
第 15 回	本講義のまとめ	春学期に学習した内容について、まとめをおこなう。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	資金の管理の会計	資金をどのように管理したらよいかについて、解説する。
第 17 回	資金の運用の会計	資金をどのように運用したらよいかについて、解説する。
第 18 回	国際活動の会計（1）	企業の経済活動が国際化するにともなって生じる会計問題について、解説する。
第 19 回	国際活動の会計（2）	企業の経済活動が国際化するにともなって生じる会計問題について、解説する。
第 20 回	税金の会計	税金に関する会計処理について、解説する。
第 21 回	配当の会計	配当に関する会計処理について、解説する。
第 22 回	財務諸表の作成	財務諸表がどのように作成されるかについて、解説する。
第 23 回	財務諸表の公開	財務諸表がどのように公開されるのか、制度的な枠組みについて解説する。
第 24 回	企業集団の財務報告（1）	連結決算について、解説する。
第 25 回	企業集団の財務報告（2）	前回に引き続き、連結決算について、解説する。
第 26 回	財務諸表による経営分析（1）	財務諸表を利用した経営分析の初歩的な知識について解説する。
第 27 回	財務諸表による経営分析（2）	前回に引き続き、財務諸表を利用した経営分析の初歩的な知識について解説する。
第 28 回	電子開示システムとＸＢＲＬ（1）	財務情報を記述するためのコンピュータ言語ＸＢＲＬについて解説する。
第 29 回	電子開示システムとＸＢＲＬ（2）	前回に引き続き、財務情報を記述するためのコンピュータ言語ＸＢＲＬについて解説する。
第 30 回	本講義のまとめ	秋学期に学習した内容について、まとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講する前に、必ずテキストを読んで予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣アルマ，最新版（第 10 版）

【参考書】
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社，最新版

【成績評価の方法と基準】
おおむね期末試験８０％、ミニテスト等２０％の割合で、総合的に評価をおこなう。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
なるべく静かな環境で講義が受けられるように、最大限の配慮をおこなう。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントでスライドを表示しながら、講義を進める。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
科目の性格上、１年次に「簿記入門」を受講していることが望ましい。ただ、まったく簿記の知識がない者でも、努力すれば理解できるように配慮して講義をおこなう予定である。

会計学入門Ⅰ　専門基礎科目 B 群　2～4 年次／2 単位［春学期授業］

会計学入門Ⅱ　専門基礎科目 B 群　2～4 年次／2 単位［秋学期授業］

筒井　知彦　教授

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3 年次以降、会計を中心に学ぶ学生にはもちろん、経営学部の他の分野を学ぶ学生にとっても会計の基礎は必須です。本講は初めて会計学を学ぶ学生を対象に、(1) 企業会計の基本となる考え方と、(2) それがどのようにして実際の企業活動の記録に適用されているのかを理解してもらうことを目標とします。

【到達目標】
(1) 企業会計の基本となる考え方と、(2) それがどのようにして実際の企業活動の記録に適用されているのかを理解してもらうことを目標とします。

【授業の進め方と方法】
春学期
財務諸表を利用する立場から、主要な財務諸表の読み方、財務データを利用した経営分析のやり方を学ぶ。任天堂やソニーなどの財務諸表を適宜利用する。基本的には講義形式を取るが、関連するテーマについてビデオを見たり、授業中、学生諸君に問題を解いてもらうことがある。
秋学期
会計学入門Ⅱでは、(1) 損益計算書に計上される収益や費用がどのような考え方に基づいて計算されているか、(2) 貸借対照表に計上される資産、負債、資本がどのような考え方にもとづいて評価されているかについて、基本的な考え方を学ぶ。
基本的には講義形式をとるが、適宜、学生諸君には授業中に計算問題を解いてもらう。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、会計数値の意味
2	会計とは何だろうか？	貸借対照表、損益計算書のしくみ
3	会計の法規制	金融商品取引法、会社法、法人税法の意義と仕組み
4	貸借対照表の仕組み	任天堂とセガの事例をもとにして内容を把握する。具体的には、両者の貸借対照表の３カ年の数値の時系列変化とそこから読み取れる特徴を受講生の作業により把握する。
5	損益計算書の仕組み	任天堂とセガの事例をもとにして内容を把握する。具体的には両社の３カ年の数値の変化とそこから読み取れる特徴を受講生の作業により把握する。
6	キャッシュフロー計算書仕組み	任天堂とセガの事例をもとにして内容を把握する。両社の３カ年の数値の時系列変化とそこから読み取れる特徴を受講生の作業により把握する。
7	貸借対照表データを利用した経営分析 (1)	流動比率、固定比率
8	貸借対照表データを利用した経営分析 (2)	固定長期適合率、株主資本比率
9	貸借対照表データを利用した経営分析 (3)	任天堂とセガの事例をもとに、流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率を受講生が３カ年について時系列分析する。
10	損益計算書データを利用した経営分析 (1)	売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率
11	損益計算書データを利用した経営分析 (2)	任天堂とセガの事例をもとに、売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率を受講生が３カ年について時系列分析する。
12	ROE、ROA などの経営分析指標	株主資本利益率、総資本事業利益率
13	経営分析の実践 (1)	任天堂とセガについて、第９回講義で行った両社の諸比率データをもとに分析する。
14	経営分析の実践 (2)	任天堂とセガについて、第１１回講義で行った両社の諸比率データをもとに分析する。
15	総復習	まとめと問題練習

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、会計理論を学習する意味
2	収益の会計 (1)	収益の認識について、３つの基準を理解し、原則となる実現基準の内容を把握する。
3	収益の会計 (2)	収益の認識について例外的な発生基準、現金基準の内容を把握する。
4	収益の会計 (3)	発生基準についてゼネコンの事例をもとに、会計処理方法の変更を分析し、工事完成基準と工事進行基準の問題練習を行う。
5	費用の会計 (1)	棚卸資産①：先入先出法、後入先出法、総平均法の３つの評価基準について学習し、受講生が計算問題を解く。
6	費用の会計 (2)	棚卸資産②：石油元売り企業の事例をもとに、会計方針の変更について学習する。
7	費用の会計 (3)	有形固定資産の減価償却について、意義や処理方法について学習する。
8	費用の会計 (4)	有形固定資産の減損について、費用配分と評価の違い、現在価値計算の方法、会計処理方法について学習する。
9	費用の会計 (5)	繰延資産について前払費用と繰延資産の違い、即時費用化と繰延の違い、繰延資産の５項目の内容について学ぶ。
10	負債の会計	引当金について、繰延資産と引当金の違い、引当処理の方法、ポイント引当金について学習する。
11	資本の会計	純資産の部の内容について学ぶ。
12	金融資産の会計 (1)	資金調達・運用の手段である株式、社債の内容と違いについて学ぶ。合わせて資金調達方法としての借入金について学習する。
13	金融資産の会計 (2)	有価証券の評価について、保有目的により評価基準が異なることから、売買目的有価証券と満期保有目的有価証券について学ぶ。
14	金融資産の会計 (3)	前回に引き続き、支配目的有価証券とその他有価証券について学ぶ。
15	総復習とまとめ	会計学入門Ⅱで学んだ収益の会計、費用の会計、資産の会計、資本の会計について、各回を振り返り、全体像の把握に努める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義前にテキストの該当する部分を予習するとともに、講義後には配布したプリントを読み直し復習すること。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
桜井久勝「会計学入門（第 3 版）」日経文庫　2006 年
桜井久勝「財務会計講義 第 17 版」中央経済社 2016 年
テキストと同じ著者による定評のある本で、テキストの内容をより詳しく説明している。
広瀬義洲「財務会計 第 13 版」中央経済社 2015 年
872 ページの大著であり、わからないことを調べるのに適している。
(注) ここに示したテキストはシラバス執筆時点での最新版ですが、開講時までに改訂版が出版されることがあります。その場合には最新版を使用します。教科書については第 1 回の授業で説明しますので、それまでは購入を見合わせてください。

【成績評価の方法と基準】
試験（持ち込み不可）を行う。また、適宜出席を取る。成績は試験の成績（80 %）と出席点（20 %）を総合して決定する。授業中に小テストを行う可能性もある。小テストの点数は「ボーナス」として試験の点数に加算する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
ＯＨＰと板書をバランスよく利用していきます。私語について厳しく対処します。出席カードにコメントや質問を記入してもらい、数回に一回の講義でコメントします。

【その他の重要事項】
会計学入門ⅠとⅡは通年で履修することを前提としているので、春学期・秋学期を続けて履修してください。

【関連科目】
1 年次の簿記入門を履修済みであればさらに理解は深まると思われる。未履修の場合、並行履修することが望ましい。

会計学入門Ⅰ　専門基礎科目 B 群　2～4 年次／2 単位［春学期授業］

会計学入門Ⅱ　専門基礎科目 B 群　2～4 年次／2 単位［秋学期授業］

平井　裕久　講師

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業が経営をおこなう上では、「人」「モノ」「カネ」「情報」という資源を効率よく活用することが重要となる。その中でも「カネ」の視点からの会計は、企業経営の実態を明らかにし、また利害関係者に報告するなど多くの役割を果たすものである。経営学関連の分野を学ぶ上で、また企業経営を行う際に、会計に関する知識は必ず必要である。

本講義では、会計についての基礎的事項を理解し、様々な会計情報をあらゆる場面で利用出来る知識の習得を目的とする。

【到達目標】

具体的な到達目標は以下である。
①複式簿記の原理が分かり、簡単な取引事例から決算書が作成できる。
②基本的な財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができ、初歩的な経営分析ができる。
③企業と会計を取り巻く基本的な制度（株式会社制度、証券市場、情報開示など）を理解する。
④会計情報を企業内部の効率化のために利用できる。

【授業の進め方と方法】

本講義では、基本的にプレゼンテーションソフトを用いたスライドを表示して説明する。講義内では、補足説明のためのプリントなどを配布し、より具体的な事例を確認する。また講義内において、数回の課題を行う予定である。

なお、春学期と秋学期の進め方については、以下のようである。

［春学期］

テキストに沿って、企業と会計の関わりについての基礎知識を習得する。

［秋学期］

業種別に事例や実際の企業の財務諸表などを用いて、様々な適用場面で会計の有用性を理解する。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	講義の進め方や、会計学を学ぶ意義について説明する。
第２回	第１章「株式会社制度を知ろう」	・企業と制度 ・株式会社の意義 ・株主の権利と義務 ・所有と経営の分離 ・アカウンタビリティとは何か ・会社は誰のものか
第３回	第２章「資金を集める仕組みを知ろう」	・経営とは何をすることか ・資金を集めるための市場 ・情報開示の必要性 ・有価証券報告書の記載内容 ・粉飾と会計監査
第４回	第３章「財務諸表を理解しよう」	・会計とは何か ・財務諸表の種類 ・損益計算書とは何か ・貸借対照表とは何か
第５回	第４章「簿記の仕組みを知ろう」	・取引を仕訳で記録する ・仕訳を元帳に転記する ・元帳から試算表へ ・精算表の使い方
第６回	第５章「連結財務諸表とは何か」	・企業集団という考え方 ・連結財務諸表の種類 ・なぜ連結が重要なのか ・連結決算の仕方 ・未実現利益とは何か ・少数株主とは何か ・持分法とは何か
第７回	第６章「キャッシュ・フロー計算書を知ろう」	・なぜキャッシュ・フロー計算書に着目するのか ・キャッシュ・フロー計算書の構造 ・キャッシュ・フロー計算書の読み方 ・キャッシュ・フロー計算書の利用 ・株主資本等変動計算書とは何か
第８回	第７章「貸借対照表を読もう－安全性の分析－」	・倒産とは何か ・自己資本比率 ・流動比率 ・固定比率
第９回	第８章「損益計算書を読もう」	・売上と利益から何を読み取るか ・損益計算書をどう読むか ・連結財務諸表をどう読むか
第 10 回	第９章「B/S と P/L を結びつけて読もう－収益生分析－」	・資本利益率とは何か ・資本利益率の分解 ・レバレッジ効果
第 11 回	第 10 章「製品の原価を管理しよう」	・原価計算とは何か ・製品の原価を計算する ・製品の価格はどう決めるのか ・どうすれば原価を下げられるのか
第 12 回	第 11 章「利益を生み出す売上高を知ろう－損益分岐点分析－」	・管理会計とは ・利益計画と直接原価計算 ・固定費と変動費 ・損益分岐点分析 ・企業の費用構造を見る
第 13 回	第 12 章「投資の可否を判断する」	・意思決定会計 ・資金の時間的価値 ・設備投資の意思決定 ・設備投資の意思決定は正しいか
第 14 回	第 13 章「株式市場は企業をどう評価しているか」	・株価はどうやって決まるのか ・リスクとリターンの関係 ・企業価値とは何か ・株価を読む
第 15 回	第 14 章「法人税の計算を理解しよう」 第 15 章「企業の責任について考えよう」	・企業の経営に関わる税金問題 ・企業の社会的責任を理解する

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	イントロダクション	講義の進め方や、会計知識の利用について説明する。
第 17 回	財務会計の基礎Ⅰ	貸借対照表（ＢＳ）の作成と意義について確認する。
第 18 回	財務会計の基礎Ⅱ	損益計算書（ＰＬ）の作成と意義について確認する。
第 19 回	財務会計の基礎Ⅲ	財務諸表の作成と公開について確認する。
第 20 回	管理会計の基礎Ⅰ	管理会計の意義および体系、そして特有の原価概念などについて確認する。
第 21 回	管理会計の基礎Ⅱ	業績評価会計に関するテーマを確認する。
第 22 回	管理会計の基礎Ⅲ	意思決定会計に関するテーマを確認する。
第 23 回	財務諸表分析の基礎Ⅰ	財務諸表分析について安全性分析、収益性分析について確認する。
第 24 回	財務諸表分析の基礎Ⅱ	財務諸表分析について効率性分析、成長性分析について確認する。
第 25 回	財務諸表分析の基礎Ⅲ	実際の企業の財務データを利用し財務諸表分析をおこなう。
第 26 回	財務諸表分析の基礎Ⅳ	実際の企業の公表データ等を用いて経営分析をおこなう。
第 27 回	企業価値評価Ⅰ	企業価値およびその算定方法について理解する。
第 28 回	企業価値評価Ⅱ	実際の企業の財務データを用いて企業価値評価をおこなう。
第 29 回	総復習	会計情報の作成、および利用についての基礎的知識の確認をする。
第 30 回	本講義のまとめ	本講義で学習した会計に関する知識の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当章を事前によく読んで予習しておくこと。
講義終了後には、内容の理解を確実なものとするためにも復習をすること。

【テキスト（教科書）】

「春学期」
　水口剛・平井裕久・後藤晃範 著『企業と会計』税務経理協会，2011
「秋学期」
　利用テキスト等については、講義にて指示する。

【参考書】

片岡 洋一　著『現代会計学の基礎』税務経理協会，2007
伊藤 邦雄　著『新・現代会計入門』日本経済新聞出版社，2014
佐藤倫正・向伊知郎　編著『ズバッ！とわかる会計学』同文舘出版，2014

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70 %）と平常点（30 %）による総合評価
（平常点：中間テスト/授業内課題）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

昨年度の講義で指摘があったので、スライドの文字をできる限り見やすくしたい。また、秋学期では 2 年生を想定し、就職活動に活かせる内容として業種の内容を盛り込むので、就職活動を終えた学生が既に得ている知識も含まれる。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションソフトを用いたスライドを表示し講義を進める。

【その他の重要事項】

「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。また今後、会計関連の専門科目を履修する予定がある場合には本授業を履修しておくことが望ましいであろう。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

基礎統計学Ⅰ　専門基礎科目 B 群　2～4 年次／2 単位［春学期授業］

基礎統計学Ⅱ　専門基礎科目 B 群　2～4 年次／2 単位［秋学期授業］

末松　俊明　講師

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数量的な考察がなされる学問分野や実務では、統計学の知識が大変役に立ちます。さらに、確率的思考に基く統計的手法は、リスク対応しなければならない際に大変有用となります。この授業では、実り多い統計学の入門的事項について学びます。

【到達目標】
・統計学の基本的な考え方を理解し、データ整理ができるようにすること。
・簡単な手法（単回帰分析まで）については、統計データで実際に計算し、結果を出せるようにすること。

【授業の進め方と方法】
板書を中心とした授業を行ないます。受講生は手を使ってノートをとることが求められます。また、問題演習（統計データの計算は 関数電卓でできる範囲）を適宜織り込んだ授業形態になります。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	授業の進め方と学習法、受講態度、必要な予備知識、春学期の内容について説明する。統計学とはどういうものか、について学ぶ。
第２回	統計学の概要とデータ	統計学における分析について概略を学ぶ。統計学で扱うデータについて、どのようなデータがあるか、またデータの分類などについて学ぶ。
第３回	質的データの整理	質的データについて学ぶ。質的データを整理する際の注意点、度数分布表、モードなどについて学ぶ。
第４回	量的データの整理	量的データについて学ぶ。量的データを整理する際の注意点、階級、階級値、累積相対度数などについて学ぶ。
第５回	分布の代表値	分布の代表値について学ぶ。特にモード、メジアン、平均の定義や特徴、また経営や経済においてどのように使われるかを学ぶ。
第６回	さまざまな平均	さまざまな平均を学ぶ。特に、算術平均、幾何平均、調和平均、移動平均などについて、経営や経済の例を通して学ぶ。
第７回	ばらつきを表す値	分布のばらつきを表す指標を学ぶ。特に、範囲、変動係数、分散、標準偏差、平均偏差について学ぶ。
第８回	歪度と尖度	歪度と尖度　前回学んだ標準偏差の計算法について、例を通して学ぶ。また、分布の歪みや尖りの程度を表す指標として歪度と尖度を学ぶ。
第９回	度数分布表の作成	度数分布表の作成について学ぶ。量的データの場合の階級の設定、累積相対度数やメディアンの計算について学ぶ。
第１０回	ヒストグラムの作成	度数分布表からのヒストグラムの作成について学ぶ。階級幅が同一でない場合やオープンエンドの場合におけるヒストグラムや累積相対度数折れ線の作成について学ぶ。
第１１回	分布の不平等度　分布の不平等度	分布の不平等度を表すものとして、ローレンツ曲線とジニ係数の定義と性質、およびローレンツ曲線の作成法などを学ぶ。
第１２回	物価指数	経済データの加重平均の例として、物価指数を学ぶ。ラスパイレス物価指数とパーシェ物価指数の定義と性質を学ぶ。
第１３回	電卓の使い方と計算演習	統計計算のできる電卓の使い方を学び、これまで学んだ統計指標について、電卓を用いて計算演習をおこなう。
第１４回	演習	与えられたデータから度数分布表、ヒストグラム、ローレンツ曲線を作成し、統計指標を求める演習をおこなう。
第１５回	春学期の総復習	春学期の重要なポイントを復習する。また春学期期末試験について説明する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第１回	秋学期ガイダンス	春学期期末試験結果を踏まえて、後期の授業の進め方と学習法、受講態度、必要な予備知識、について説明する。
第２回	２変数データの整理	２変数データの整理を学ぶ。特に、分割表、散布図と相関係数などについて学ぶ。
第３回	回帰分析	回帰分析について学ぶ。回帰式、最小２乗法、決定係数などについて学ぶ。
第４回	回帰分析演習	統計計算のできる電卓を使って、データから回帰式、決定係数、推定値を計算する演習をおこなう。
第５回	確率と離散的確率変数	確率と離散的確率変数について学ぶ。特に、事象、確率、確率分布表、期待値などを学ぶ。
第６回	連続的確率変数	連続的確率変数について学ぶ。特に、確率密度関数、期待値、分散などを学ぶ。
第７回	確率分布	重要な確率分布について学ぶ。特に、二項分布、ポアソン分布、一様分布、指数分布などを学ぶ。
第８回	正規分布	最も重要な確率分布である正規分布について学ぶ。正規分布の密度関数、正規分布の性質、標準正規分布などを学ぶ。
第９回	正規分布表	正規分布表の使い方を学ぶ。正規分布表を使って、確率計算の演習をおこなう。
第１０回	母集団とサンプリング	母集団、標本、無作為抽出、統計的推論の概要について学ぶ。中心極限定理と大数の法則について学ぶ。
第１１回	確率モデルと推定	確率モデルと推定の概要を学ぶ。確率モデル、誤差項、推定量、推定値などについて学ぶ。
第１２回	区間推定	区間推定、信頼区間について学ぶ。特に、正規母集団の母平均の区間推定などについて学ぶ。
第１３回	仮説検定の基本	仮説検定の基本について学ぶ。特に、仮説検定の考え方および仮説検定で使われるさまざまな用語について学ぶ。
第１４回	仮説検定の例	仮説検定の例を学ぶ。特に、正規母集団における平均の検定などについて学ぶ。
第１５回	秋学期の総復習	秋学期の重要なポイントを復習する。また秋学期期末試験について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習：授業後一両日内に基本概念の理解具合を確認する。
予習：必要な場合は指示します。

【テキスト（教科書）】
「基礎コース統計学　第２版」　田中勝人　新世社　2010 年　1900 円

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末定期試験の得点によって成績を評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
実績なし

【学生が準備すべき機器他】
統計計算ができる関数電卓

【その他の重要事項】
事前に履修すべき関連科目：特にありません

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。

基礎統計学Ⅰ　専門基礎科目 B 群　2～4 年次／2 単位［春学期授業］

基礎統計学Ⅱ　専門基礎科目 B 群　2～4 年次／2 単位［秋学期授業］

豊田　敬　教授

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数量的な考察がなされる学問分野や実務では、統計学の知識が必須であることは今や周知の事実です。また、確率的思考に基く統計的手法を修得することは、リスクに対応しなければならない市民としての常識の一つを身に付けることにも繋がります。この授業では、実り多い統計学の入門的事項について学びます。なお、春学期は高校数学（確率・統計の章、新課程なら数学Ⅰ・数学Ａ・数学Ｂに所収）の復習が主な内容です（リメディアル）。

【到達目標】
・統計学の基本的な考え方を理解し、簡単な定義式や公式を記憶して筆記できるようにすること。
・簡単な手法（単回帰分析まで）については、データから実際に計算し、結果を出せるようにすること。

【授業の進め方と方法】
配付資料に沿って、板書を併用して授業を行ないます。受講生は手を使ってノートをとることが求められます。また、問題演習（データの計算は関数電卓でできる範囲）を適宜織り込んだ授業形態になります。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス 複利計算	授業の進め方と学習法、受講態度、必要な予備知識、について説明し、複利の原理について学ぶ.
第２回	複利計算（関数電卓での計算練習）	利付間隔、連続複利、について学ぶ. Napier の数・指数関数・対数関数について補足的に解説する.
第３回	データのソートとグループ化	記号と用語、幹葉図、度数分布、相対度数分布、ヒストグラム、正規曲線、について学ぶ.
第４回	データの平均と標準偏差（１）	平均、偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、変動係数、について学ぶ.
第５回	データの平均と標準偏差（２）	．Σ演算、計算手順、平均と標準偏差の性質、標準化、について学ぶ.
第６回	歪度・尖度と積率	第４回と第５回の内容を復習し、分布の歪みと尖り具合の指標を導入し、積率、について学ぶ.
第７回	メディアンと四分位範囲そして五数要約	メディアン、四分位値、最小値・最大値、四分位範囲、範囲、箱ひげ図、外れ値、について学ぶ.
第８回	２次元データの整理	散布図、偏差積和、共分散、相関係数、結合度数分布と周辺度数分布、について学ぶ.
第９回	回帰（２次元データへの直線のあてはめ）	最小２乗法そして回帰係数、決定係数、について触れる．高校では扱わなかった話題である.
第 10 回	場合の数と確率	順列と組合せについて簡単に復習してから、事象の確率とその基本性質、について学ぶ.
第 11 回	確率分布（１）	事象の独立性、条件つき確率、確率変数と確率分布、確率分布の平均と標準偏差（分散）、について学ぶ.
第 12 回	確率分布（２）	２次元の確率変数、確率変数の和と積、について学ぶ.
第 13 回	二項分布と正規分布	二項分布とその平均・分散、中心極限定理、極限分布としての正規分布について学ぶ.
第 14 回	統計的な推測	秋学期へ向けて、母集団からの無作為標本抽出、標本平均のサンプリング分布、母平均の推定など統計的推論の概略を学ぶ.
第 15 回	復習と問題演習	扱ったテーマ全体の復習と要点について説明し、試験対策に資す.

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第１回	秋学期ガイダンス、	授業の進め方と学習法、受講態度、必要な予備知識、について説明し、Σ記号の演算について復習する。
第２回	確率変数とその期待値	春学期に学んだ事項をより一般的な視点から学ぶ.
第３回	二項分布、ポアソン分布と正規分布（１）	ベルヌーイ分布、二項分布、ポアソン分布について、確率関数、平均と分散、応用、について学ぶ.
第４回	二項分布、ポアソン分布と正規分布（２）	大数法則、中心極限定理、正規分布、正規分布表の使い方、二項分布の正規近似、応用、について学ぶ.
第５回	計数データの統計的推論	母比率の点推定、最尤法、母比率の区間推定、仮設検定について学ぶ.
第６回	多次元の確率分布（一般論）	同時分布、周辺分布、条件付分布、独立性、期待値、独立同分布（IID）、について学ぶ.
第７回	サンプリング分布と点推定	正規母集団からの標本抽出、ｔ分布、カイ２乗分布、F 分布、不偏推定量、について学ぶ.
第８回	区間推定（1）	信頼区間の方式と考え方について学ぶ.
第９回	区間推定（2）	正規母集団の母平均と母分散に関する区間推定のやり方、について学ぶ.
第 10 回	仮説検定（1）	仮説検定に関する用語の導入とその考え方、について学ぶ.
第 11 回	仮説検定（2）	正規母集団の母平均と母分散に関する検定のやり方について学ぶ.
第 12 回	カイ２乗検定	経験分布と理論分布、有意性検定、適合度のカイ２乗検定のやり方、について学ぶ.
第 13 回	二標本問題（1）	二つの正規母集団の母平均の差の検定のやり方について学ぶ.
第 14 回	二標本問題（２）	F 分布を導入し、二つの正規母集団の母分散比の検定のやり方について学ぶ.
第 15 回	復習と問題演習	扱ったテーマ全体の復習と要点について説明し、試験対策に資す.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習：授業後その日のうちに基本概念の理解具合を確認する。練習問題は翌週までに解くこと。
予習：必要な場合は指示します。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
・高校数学の教科書（数学Ⅰ、数学Ａ、数学Ｂ）
・稲垣・吉田・山根・地道『統計学講義』裳華房
・東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】
学期末試験の成績。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
科目の性格上、授業では数式が出てきますが、特に数式が苦手な学生には数式の「数文和訳」と関数電卓操作が結び付くように指導します。

【学生が準備すべき機器他】
統計計算作業には関数電卓が必要です。表計算ソフト（EXCEL）や統計ソフト（Ｒ）が使えると、より実践的に学べます。

【その他の重要事項】
事前に履修すべき関連科目：特にありません。

経営戦略論Ⅰ　専門基礎科目 B 群　2～4 年次／2 単位［春学期授業］

経営戦略論Ⅱ　専門基礎科目 B 群　2～4 年次／2 単位［秋学期授業］

吉田　健二　教授

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】
経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【授業の進め方と方法】
講義を行いますが、ときどきビデオを使って、なるべく分かりやすいようにするつもりです。
板書されないことでも、自分が重要だと思ったことは、ノートに書くようにして下さい。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	コースの説明	コースの概要と進め方等の説明
2	経営戦略の概念（1）	経営戦略とは何か
3	経営戦略の概念（2）	経営戦略の３つのレベル
4	経営戦略の概念（3）	経営戦略の要素
5	経営戦略の策定プロセス（1）	経営戦略の策定プロセス
6	経営戦略の策定プロセス（2）	SWOT 分析
7	経営理念	経営理念
8	企業ドメイン	企業ドメイン
9	外部環境分析（1）	顧客分析
１０	外部環境分析（2）	競争業者分析
１１	外部環境分析（3）	業界分析
１２	外部環境分析（4）	マクロ環境分析
１３	自社能力分析（1）	自社能力分析
１４	自社能力分析（2）	コア・コンピタンス
１５	自社能力分析（3）	バリューチェーン

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	コースの説明	コースの説明と春学期の復習
2	事業戦略（1）	持続可能な競争優位
3	事業戦略（2）	３つの基本戦略
4	事業戦略（3）	差別化戦略
5	事業戦略（4）	コスト・リーダーシップ戦略、集中戦略
6	事業戦略（5）	競争地位別の戦略
7	事業戦略（6）	製品のライフサイクル
8	事業戦略（7）	先制攻撃
9	企業戦略（1）	製品・市場マトリックス
１０	企業戦略（2）	多角化戦略
１１	企業戦略（3）	参入戦略
１２	企業戦略（4）	垂直統合戦略
１３	企業戦略（5）	PPM
１４	経営戦略の実行（1）	経営戦略の実行
１５	経営戦略の実行（2）	戦略の実行の分析フレームワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容の復習とテキストの指定された部分を事前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】
沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略〔新版〕』有斐閣、2008 年。
より良いテキストが見つかった場合には、変更する可能性があります。第 1 回目の授業で、説明します。

【参考書】
①網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011 年。
②清水勝彦『戦略の原点』日経 BP 社、2007 年。
③三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2013 年。
④デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002 年。
⑤ M.E. ポーター『競争の戦略（新訂版）』ダイヤモンド社、1995 年。
⑥ M.E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985 年。
⑦ジェイ・バーニー『企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社、2003 年。
①②④⑦は経営戦略論のテキストで、③は経営戦略論の 100 年の流れを描いた本で、⑤と⑥は経営戦略論の古典といわれる本です。
他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
（経営戦略論Ⅰ）試験（100 %）春学期試験によって評価します。
（経営戦略論Ⅱ）試験（100 %）秋学期試験によって評価します。
当たり前のことですが、真面目に授業に出席しないと、単位が取れないようです。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすい授業にするつもりです。
また、見やすいように板書することに努めます。

【その他の重要事項】
春学期（経営戦略論Ⅰ）と秋学期（経営戦略論Ⅱ）を続けて受講することをお勧めします。
マーケティング論Ⅰ/Ⅱと関連していますので、それらの科目も合わせて履修することをお勧めします。
３年次の専門科目で国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、国際経営論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱを履修したい人は、履修することをお勧めします。
「がっちりマンデー!!」（TBS テレビ、日曜日）、「カンブリア宮殿」（テレビ東京、木曜日）、「ガイアの夜明け」（テレビ東京、火曜日）、「未来世紀ジパング」（テレビ東京、月曜日）、「プロフェッショナル　仕事の流儀」（NHK テレビ、月曜日）のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、それらの番組を見ることをお勧めします。

経営戦略論Ⅰ　専門基礎科目 B 群　2～4 年次／2 単位［春学期授業］

経営戦略論Ⅱ　専門基礎科目 B 群　2～4 年次／2 単位［秋学期授業］

李　瑞雪　教授

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論的講義です。経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養います。

【到達目標】
主要な経営戦略に関する理論と概念を使って、現実の経営戦略を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としています.

【授業の進め方と方法】
ある程度大人数となることがが予想されるため、基本的には講義方式で行いますが、講義中で具体的なケースを用いた作業（小レポート、ディスカッションなど）を適宜行う予定です。事前に講義資料を授業支援システムにアップロードし予習を求めます。質問や発言等は講義中にも随時受け付けます。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	第１講　イントロダクション	講義内容の構成、戦略の定義、経営戦略の定義、経営ビジョンと経営戦略などの説明
2	第２講　プランニング・アプローチ（Ⅰ）	製品・市場ポートフォリオ、戦略的意思決定と業務的意思決定、成長ベクトル、シナジー、企業目標のヒエラルキー
3	第３講　プランニング・アプローチ（Ⅱ）	戦略策定の手順、SWOT 分析、PPM、ビジネス・スクリーン、バランスド・スコアカード
4	第４講　ポジショニング・アプローチ（Ⅰ）	S-C-P モデル（産業構造- 企業行動-経営業績モデル）、ファイブ・フォーセズ・モデル、ハーフィンダール指数、参入障壁
5	第５講　ポジショニング・アプローチ（Ⅱ）	PIMS モデル、戦略グループ、移動障壁
6	第６講　ポジショニング・アプローチ（Ⅲ）	産業構造と戦略的機会（前半）。集約・統合戦略、先行者優位、市場リーダーシップ戦略、ニッチ戦略、収穫戦略、撤退産業、勝者総取り戦略など
7	第７講　ポジショニング・アプローチ（Ⅳ）	産業構造と戦略的機会（後半）。ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ戦略、ﾏﾙﾁﾅｼｮﾅﾙ戦略、ﾄﾗﾝｽﾅｼｮﾅﾙ戦略、ﾃﾞﾌｧｸﾄ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ戦略、勝者総取り戦略、先制破壊戦略、埋没コスト、破滅的競争など
8	第８講　リソース・ベース・アプローチ（Ⅰ）	経営資源、経営資源の異質性と固着性、VRIO 分析フレームワーク、一時的競争優位と持続的競争優位
9	第９講　リソース・ベース・アプローチ（Ⅱ）	経営資源模倣困難の要因、経路依存性、社会的複雑性のある経営資源、経営資源保有のパラドックス、経営資源蓄積のメカニズム、戦略的意図、コア・コンピタンスの探究など
10	第１０講　ゲーム・アプローチ、コーピティション（Ⅰ）	価値相関図（バリュー・ネット）、「付加価値」の概念、競争と協調、顧客への「本質的サービス」の分析視点
11	第１１講　ゲーム・アプローチ、コーピティション（Ⅱ）	「価値」貢献度、明示的ルールと暗黙の認識、MFC 条項と MCC 条項、戦略的補完関係、意図的抑止（contrived deterrence）
12	第１２講　学習アプローチ、創発戦略（Ⅰ）	分析型・計画型アプローチとの違い、意図された戦略と実現された戦略、プロセス重視・学習重視、間接的戦略、帰納的戦略
13	第１３講　学習アプローチ、創発戦略（Ⅰ）	学習の「場」、実験による学習、「反省」の重視、ダイナミック・シナジ
14	第１４講　競争優位と一般戦略	競争優位とその累計、スタック・イン・ザ・ミドル、三つの一般戦略、見える差別化と見えざる差別化、垂直的差別化と水平的差別化
15	第１５講　復習、まとめ	春学期の授業内容のポイントをまとめ、復習します。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	第１６講　ネットワーク外部性と競争優位	ネットワーク外部性、互換性、デファクト・スタンダード獲得戦略（クローズド戦略とオープン戦略）、クリティカル・マス。
2	第１７講　イノベーションと競争優位（Ⅰ）	イノベーションの定義と分類、イノベーションの特徴とそのマネジメント、イノベーションと競争優位との関係、「新結合」、「迅速な追随者」
3	第１８講　イノベーションと競争優位（Ⅱ）	イノベーションのジレンマ、持続的技術と破壊的技術、「死の谷（デスバレー）」、知的財産戦略（イノベーションの収益化）、ｵｰﾌﾟﾝ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ、ﾘﾊﾞｰｽ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ、ﾌﾙｰｶﾞﾙ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ
4	第１９講　競争優位の持続可能性	隔離メカニズム、強みの源泉の専有化、経営資源の不確実性、暗黙知と形式知、強みの累積、先手の連鎖、戦略フィット、活動システム、柔道ストラテジー
5	第２０講　多角化と企業戦略（Ⅰ）	企業戦略、事業展開の方向、企業優位、多角化戦略の定義、多角化の誘因、多角化の類型
6	第２１講　多角化と企業戦略（Ⅱ）	多角化戦略の動機、多角化度、多角化度と経営パフォーマンス、ダイナミックな学習プロセスと多角化
7	第２２講　垂直統合と企業戦略（Ⅰ）	垂直方向の事業展開、垂直統合度、Make or Buy の意思決定、第３の取引形態
8	第２３講　垂直統合と企業戦略（Ⅱ）	取引統治メカニズムの類型（スポット市場契約やクランなど）、垂直統合と持続的競争優位との関係、垂直統合のための組織
9	第２４講　国際化と企業戦略（Ⅰ）	国際化の類型、国際化戦略における範囲の経済、海外顧客の購入意思と購入能力、輸入障壁
10	第２５講　国際化と企業戦略（Ⅱ）	OLI フレームワーク、統合化と適応化、国際企業戦略の類型、CAGE フレームワーク、AAA 戦略
11	第２６講　吸収合併（M&A: merger and acquisition）　（Ⅰ）	M&A の類型、戦略的関連性の源泉、M&A 戦略の動機、M&A 戦略と企業パフォーマンスとの関係
12	第２７講　吸収合併（M&A: merger and acquisition）　（Ⅱ）	ビディング企業の経営者の規範、ターゲット企業の経営者の原則、ターゲット企業の行動、ターゲット企業の対抗策の経済的効果
13	第２８講　戦略的提携（strategic alliance）	戦略的提携の定義と形態、戦略的提携と業界構造、戦略的提携の動機、提携におけるリスク
14	第２９講　ケース・スタディ	具体的なケースを読んで企業の戦略についてディスカッションを行い、小レポートにまとめます。
15	第３０講　復習、まとめ	秋学期内容のポイントを復習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweek などの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身に着け、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。

【テキスト（教科書）】
とくにテキストを指定し購入を求めることをしません。事前に講義資料を授業支援システムにアップロードします。毎回授業参加に先だって必ず該当する資料を印刷して予習してください。授業中は必ずしっかりとノートをとってください。

【参考書】
1）青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』有斐閣
2）沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社
3）M.E. ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社
4）ジェイ・B・バーニー『企業戦略論』（上、中、下）ダイヤモンド社
5）G. サローナーほか『経営戦略論』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
ディスカッション参加（＋α）、小レポートなど平常点（40%）、期末テスト（60%）、授業中の私語や携帯使用（－α）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生の理解度を勘案しながら授業スピードを適宜調整するように心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクター使用。

【その他の重要事項】
経営戦略論Ⅰと経営戦略論Ⅱは、一貫した講義構成になっているため、通年で履修することをお勧めします。とくに、秋学期（経営戦略論Ⅱ）のみの履修では、内容の理解において困難を伴う可能性があります。ご注意ください。主な関連科目として、経営学総論Ⅰ・Ⅱ、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

金融論Ⅰ　専門基礎科目 B 群　2〜4 年次／2 単位［春学期授業］

金融論Ⅱ　専門基礎科目 B 群　2〜4 年次／2 単位［秋学期授業］

林　直嗣　教授

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の血液に相当するのが経済の貨幣である。家計や企業、政府が貨幣を用いて金融を行い、経済を成り立たせている仕組みと働きを、理論と実際の両面から理解することが、この授業のテーマである。

貨幣とは何か、金融とは何か、現代の貨幣経済の仕組み（制度、システム）と働き（作用、機能、役割）など基礎的な問題を易しく説明する。家計の金融や企業金融など金融のミクロ分析を行い、貨幣の供給や需要、インフレ・デフレ・失業、金融政策や財政政策の効果など金融のマクロ分析を行う。さらに預金市場、債券市場、株式市場などさまざまな金融市場について個別に学ぶとともに、金融政策の仕組みと働き、実際の金融政策などについて勉強する。

本講座は証券経済論、企業財務論、国際金融論など金融関係の専門科目を学ぶ上でのベースとなる**専門基礎**科目である。

【到達目標】

貨幣や金融の諸問題を易しく解説することを通じて、履修生が金融への関心や理解を深めるとともに、日常生活や就職に活用できるようにすることを、授業の到達目標とする。単に理論を勉強するだけにとどまらず、章ごとに具体例を用いた問題演習を行い、実際の分析力を養うトレーニングも目標とする。公務員試験、公認会計士試験、ファイナンシャルプランナー試験など各種資格試験や就職試験に役に立つ実践力を養うためには、問題演習は必須である。

【授業の進め方と方法】

授業の方法はパワーポイントのスライドを活用した講義を主体とする。金融論の基礎を易しく解説し、章末では問題演習を行う。また授業内では教員と学生との間で活き活きとした双方向のクイズを Q&A 方式で行い、学生参加型のアクティブ・ラーニングの授業を行う。またレポート提出や小テストなどを行い、履修生の理解を着実に深めていく方法を採る。受講者の希望によっては証券取引所などを見学する**実習**を行うこともある。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1部　貨幣と金融	1 回　市場経済と貨幣・金融 (1)	市場経済の発達と貨幣の出現・発展を歴史的に考える。
2回	市場経済と貨幣・金融 (2)	貨幣や金融の基礎的概念を説明
3回	金融市場と金融機関 (1)	金融市場の形成と役割、種類などを解説
4回	金融市場と金融機関 (2)	金融機関の種類や役割などを説明
5回	金融構造と金融システム (1)	金融構造、金融システムなどについて勉強
6回	金融構造と金融システム (2)	金融・銀行制度、金融規制など制度的な側面を解説
2部　ミクロ分析	7 回　家計の金融 (1)	消費者・家計の金融の基礎的概念を説明
8回	家計の金融 (2)	消費者・家計のミクロの金融行動を分析
9回	家計の金融 (3)	資産選択理論など用いて家計の金融行動を考察
10 回	企業金融 (1)	コーポレート・ファイナンスの基礎的な概念を説明
11 回	企業金融 (2)	MM 理論など企業金融の基礎的な理論を説明
12 回	企業金融 (3)	コーポレート・ガバナンス、所有と経営の分離、株式持合などの諸問題を分析
3部　マクロ分析	13 回　貨幣の供給と需要 (1)	貨幣の供給と需要のマクロのメカニズムを学習
14 回	貨幣の供給と需要 (2)	貨幣数量説と流動性選好説を解説
15 回	1〜14 回のまとめ	まとめをする

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1回	IS = LM 分析と金融・財政政策 (1)	財市場と貨幣市場の同時均衡によりマクロ均衡分析の見方を解説
2回	IS = LM 分析と金融・財政政策 (2)	完全雇用と不完全雇用での金融政策と財政政策の効果を考察
3回	IS = LM 分析と金融・財政政策 (3)	不況時での金融政策と財政政策の効果を説明
4回	インフレとデフレ、失業 (1)	インフレやデフレと失業との関係を理論的に解説
5回	インフレとデフレ、失業 (2)	自然失業率仮説やルーカス供給関数を説明
6回	インフレとデフレ、失業 (3)	ルールか裁量かの違いを解説し、最適政策基準を考察
4部　金融市場	7 回　預金・貸出市場	身近な金融市場として預金・貸出市場を説明
8回	短期金融市場	金融政策の出発点となる短期金融市場の分析
9回	長期金融市場	資本市場ともいわれる長期金融市場の解説
10 回	デリバティブ市場	先物やオプションなど金融派生商品市場を説明
11 回	公的金融	郵貯や政府系金融機関による公的金融について解説
5部　金融政策	12 回　金融政策の目標と手段、効果	金融の政策主体、政策目標、政策手段について考察
13 回	金融政策の方法と種類	段階的アプローチ、ゼロ金利政策、量的金融緩和などを説明
14 回	現代金融の諸問題	金融の自由化・国際化、ビッグバン、バブルと不良債権など現代の諸問題を分析
15 回	1〜14 回のまとめ	まとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか、はっきりするので、授業に臨む態度やモチベーションが高まり、授業の理解を効果的に高めることができる。大学設置基準では、予習 1 時間、授業 1 時間、復習 1 時間を 15 週やって 1 単位とされているので、できるだけ頑張って主体的に学修しましょう。

【テキスト（教科書）】

岸　真清・林　直嗣著『現代金融入門』八千代出版（入門の教科書）
林　直嗣著『問題演習　金融論　再訂版』（スタディ・ガイドと問題集）

【参考書】

書間文彦著『金融論』新世社（初級の教科書）

【成績評価の方法と基準】

定期試験を行う。授業内クイズ、レポート提出ないし小テストをさらに加えることもある。それらの総合点を合計して、問題の難易度や当該クラスのでき具合などをすべて調整した上で、全員の得点分布を算出し、その得点分布に基づく合理的で歪みのない相対評価により成績をつける。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

教室では、板書を利用するとともに、PC を用いてプレゼンテーション用教材（PowerPoint による教材）をスクリーンに投影する。

【その他の重要事項】

金融・経理・財務の関係職を目指したり、公認会計士やファイナンシャル・プランナーなどの資格取得を目指す学生は、本講座を履修することを特に勧める。

［関連科目］

ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ（基礎科目 2 群）を先に又は同時に履修し、金融論Ⅰと金融論Ⅱを合わせて履修することが望ましい。

証券経済論Ⅰ/Ⅱ、企業財務論Ⅰ/Ⅱ、国際金融論Ⅰ/Ⅱ、ファイナンス論Ⅰ／Ⅱなどを履修する上での基礎となる科目である。

経営学科
専門科目

経営組織論Ⅰ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

経営組織論Ⅱ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

稲垣　保弘　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織現象はどのように生起し作用するのか、そのメカニズムについて検討します。有効な組織マネジメントを行うための前提となるように、基本的な組織理論から、ハウツー的な知識まで取り扱います。

【到達目標】
組織現象について理解し、それに対応できるような知識と思考方法の習得を目標とします。

【授業の進め方と方法】
受講者数によりますが、講義形式で授業の終わりに質問を受けるという形式になると思います。詳細は開講時に説明します。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	全体としての授業の流れ、授業の進め方、成績評価などについての説明。
2	組織と組織化	組織現象、組織活動の概要とそれらをどのように理解するかについての大まかな説明。
3	組織の官僚主義化	組織の官僚主義化の機能、逆機能、そして現代的な意味についての説明。
4	組織の形態と構造、そして機能	組織についての基本的知識の解説。機能別組織、事業部制組織、マトリックス組織などの説明。
5	同上	同上
6	チーム活動について	チーム活動の特徴と成功に導く条件を組織論的に説明。
7	組織の重層性	組織階層の形成、機能などについての多面的説明。
8	同上	上司と部下の関係など、具体的なテーマについての説明。
9	組織と意思決定	組織での意思決定についての説明。
１０	組織の流動性	流れとしての組織現象についての説明（組織の進化論など）。
１１	同上	解釈学的循環と組織活動
１２	同上	組織内での競争など具体的なテーマについての説明。
１３	組織の力動性（ダイナミズム）	組織現象におけるパワー作用についての説明。
１４	同上	組織の境界と周辺の役割
１５	まとめ	春学期の内容の要約と補足

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
１６	組織現象の二つのレベル	仮構的レベルと実体的レベルの媒介作用についての説明。
１７	同上	ホロン、暗黙知など実体性の相対化についての説明。
１８	ドラマとしての組織現象	組織現象をドラマとして解明。
１９	組織と遊び	組織現象の日常性と非日常性、そしてそれらの役割についての説明。
２０	組織理論の形成	実証，反証、パラダイムなどの説明。
２１	組織シンボリズム	組織シンボリズム理論の説明（企業文化の理論的解明）。
２２	組織のコンティンジェンシー理論とハウツー	理論とハウツーの接点についての説明。
２３	ドラッカー理論と組織	P.F. ドラッカーは組織をどう捉えているのかの説明。
２４	ミンツバーグ理論	H. ミンツバーグの組織理論についての説明。特にコンフィグレーションとパワー作用について。
２５	バーナードの組織理論	C.I. バーナードの組織理論のエッセンスについての説明。
２６	マーチ=オルセンの意思決定のゴミ箱モデルについて。	H. サイモンの組織理論のエッセンスとの比較で、マーチのゴミ箱モデルの発想を説明。
２７	K. ワイクの理論	ワイクの進化論的モデルとルースカプリングについて説明。
２８	高信頼性組織	組織の失敗を回避したり、上手く対処できる組織にはどのような特徴があるのかについて説明。
２９	組織におけるリーダーシップ、モティベーション	リーダーシップと動機づけについての説明。
３０	全体としてのまとめ	まとめと補足説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各授業時間ごとに必要な内容を指示します。

【テキスト（教科書）】
稲垣保弘『経営の解釈学』白桃書房（２０１３）を予定しています。必要に応じてプリントを配布します。詳細はオリエンテーションのときに説明します。

【参考書】
稲垣保弘『組織の解釈学』白桃書房、２００２、第４，７，８，９章。
その他は、オリエンテーションのときや各授業時間ごとに必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
定期試験を中心に評価します。受講者数によって変更（例えばリポートにする）もあるので、オリエンテーションで説明します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
昨年度の学生の意見は参考にします。

【その他の重要事項】
関連科目：経営学総論Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ

経営情報論Ⅰ　経営学科専門科目　3～4 年次／2 単位［春学期授業］
経営情報論Ⅱ　経営学科専門科目　3～4 年次／2 単位［秋学期授業］

岸　眞理子　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の情報技術環境を前提にすると、企業組織はどのようにして有効な情報処理活動を行うことができるのか、また行うべきなのかについて、多方面から考察することを目的としています。
経営情報論Ⅰでは、企業組織の有効な情報処理活動を考察していくうえで基礎となる理論や概念について学びます。
経営情報論Ⅱでは、経営情報論Ⅰで学んだ理論や概念を応用し、企業組織の有効な情報処理活動について、具体的な現象を様々な角度から考察していきます。

【到達目標】
IT または ICT と称される情報技術は、企業経営にとって不可欠なものとなり、企業の生存を支える基盤となっています。情報技術がもはや特別のものではなくなった今日、情報技術そのものよりも、情報技術をどのように活用するか、また、それによって情報そのものをどのように活用するかが、企業にとってより重要な課題であるといえます。企業を取り巻く情報技術環境の急速な変化を前提とし、どのようにして企業組織が一つの有効な情報システムとして機能し得るのかについて学習していきます。
・情報技術の進展を理解し、コンピュータ・ベースの経営情報システムの展開について学びます。
・情報システムとして企業組織を捉え、その機能について学習します。
・情報技術の進展と情報システムとしての組織の変革について、その相互作用を考慮しながら、有効な組織の情報処理活動の在り方を探っていきます。

【授業の進め方と方法】
毎回、「今日のテーマ」と「考察のためのポイント」を設定し、全体構造を理解できるように解説していきます。講義ではパワーポイントを使用しますが、配布される講義ノートを活用することで、理解をより深めることができるようにします。
実際の企業活動を考察するために、具体的な事例を、さまざまな動画や社会の第一線で活躍するゲスト・スピーカーを通じて紹介します。今年度はゲスト・スピーカーによる生きた事例の紹介の時間を増やしたいと思います。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経営情報論Ⅰのガイダンス
第 2 回	情報社会の到来	情報社会の到来と経営情報論の意義
第 3 回	経営組織と情報処理（1）	組織における意思決定
第 4 回	経営組織と情報処理（2）	組織のコミュニケーション
第 5 回	経営戦略と情報処理	経営戦略と組織の情報技術活用
第 6 回	ゲスト・スピーカによる事例紹介（1）	関連テーマに関する事例研究（1）
第 7 回	システムとネットワーク	システムやネットワークに関する概念
第 8 回	ネットワークの法則	ネットワーク分析
第 9 回	情報技術の進展と経営情報システムの開発・管理	コンピュータとネットワーク
第 10 回	ゲスト・スピーカによる事例紹介（2）	関連テーマに関する事例研究（2）
第 11 回	経営情報システムの変遷（1）	業務の自動化
第 12 回	経営情報システムの変遷（2）	意思決定支援
第 13 回	経営情報システムの変遷（3）	戦略的活用
第 14 回	経営情報システムの変遷（4）	リエンジニアリング
第 15 回	総括	経営情報論Ⅰのまとめ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経営情報論Ⅱのガイダンス
第 2 回	情報技術と組織	情報技術と組織構造、ビジネス・プロセス
第 3 回	企業の組織形態の変化	情報化とネットワーク組織
第 4 回	ネット・ビジネス環境と組織	ネット・ビジネスの現状と可能性
第 5 回	ゲスト・スピーカによる事例紹介（1）	関連テーマに関する事例研究（1）
第 6 回	ネット・ビジネスと組織間関係	オープン化、モジュール化
第 7 回	ネット・ビジネスと仲介組織	仲介組織の役割期待
第 8 回	コミュニケーション・モデル	組織コミュニケーション論の展開
第 9 回	コミュニケーション・メディア	アナログ・メディアとデジタル・メディア
第 10 回	情報技術とコミュニケーション	企業における電子メディアの活用
第 11 回	ゲスト・スピーカによる事例紹介（2）	関連テーマに関する事例研究（2）
第 12 回	ナレッジ・マネジメント	情報技術と知識管理、知識創造
第 13 回	情報技術と社会	情報技術の社会的インパクト
第 14 回	経営情報論の展望	今後の課題
第 15 回	総括	経営情報論Ⅱのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に、テキストの関連箇所を読み、準備すると、より学習効果が高まります。また、各回の授業で提示された参考文献を参照してみると、理解をより深めていくことができます。

【テキスト（教科書）】
遠山暁・村田潔・岸眞理子『経営情報論（新版補訂）』 有斐閣、2015 年。

【参考書】
各回の授業でテーマごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】
評価基準は、期末試験が 50 %、授業内の小テスト（あるいは小レポート）と出席点が 50 %となっています。ゲストをお招きする際には出席をとりますので、必ず出席するようにして下さい。また、期末試験を受けない場合は E 評価となるので注意して下さい。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業の進行スピードにより配慮し、一人ひとりが自分の講義ノートをつくれるようにします。

【その他の重要事項】
「経営情報論Ⅰ」と「経営情報論Ⅱ」は通年で履修することを前提にしています。また、「経営管理論Ⅰ/Ⅱ」、「経営組織論Ⅰ/Ⅱ」、「組織行動論Ⅰ/Ⅱ」、「経営戦略論Ⅰ/Ⅱ」、「情報と倫理」、「情報と職業」、「システム管理論Ⅰ/Ⅱ」、「情報技術論Ⅰ/Ⅱ」などの関連科目の受講することをおすすめします。

経営社会学Ⅰ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

経営社会学Ⅱ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

佐野　哲　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営に関連する「社会及び経済の時事問題」を多角的・多元的に理解すること。それら様々な社会問題について、自ら意見できるようになること。

これが、経営社会学講義の最終目標です。新聞の一面から政治面、経済面、国際面、社会面に渡る毎日の時事トピックスを、経営学部生が知っておくべき重要な頻出キーワードからバランス良く分野ごとに体系化し、それぞれの問題の背景、経緯、法制度、論点、企業経営との関係などについて、経営学の戦略的思考法と社会学の理論的枠組みを織り交ぜながら解説していきます。「現在進行形の時事問題」に関する諸知識は、とりわけ就職活動の面接などにおいて求められる、現代の学生にとって不可欠なものです。問題のコア、賛否双方の論点、自らの立場が明確に整理できていないと、面接者からの問いに対してしっかり答えることができないからです。

【到達目標】

経営社会学Ⅰでは、労働者が直面する社会的な時事問題を扱います。一般的には**「労働社会学」**などが取り上げるトピックスですが、これを企業経営者の目線から再分析していくことで、一方的な企業批判に陥りがちな労働問題の「現実的な解決策の落としどころ」を探ります。ここで狙っているのは、対立しがちな議論における「バランス感覚」の修得でもあります。

経営社会学Ⅱでは、経営者が直面する政治経済的な時事問題を扱います。同じくそれらは**「政治経済学」**などが取り上げるトピックスですが、これも企業経営者の目線から再整理していくことで、営利追求や社会的責任の観点などから「問題を主体的に単純化して捉える分析視覚」を明示します。ここで狙っているのは、拡散しがちな議論における「方向感覚」の修得でもあります。

本講義の最終的な到達目標は、これら多様かつ複雑な時事問題の背景にある大きな経営社会構造を自ら分析し、経済メディア（経済専門紙・専門誌）からの情報を取捨選択していく能力（情報リテラシー）の涵養にあります。

【授業の進め方と方法】

講義形式を取りますが原則毎回、講義最後の 5～10 分間を使って「リアクションペーパー」の記入・提出（出席調査票を使用し、そのコメント欄に 100 字程度の自由記入を基本とします）を求め、その都度、質問や意見を集約します。講義では、その質問への回答等を題材としつつ、教員と参加学生とのディスカッションを可能な限り取り入れるとともに、学生の興味・関心をふまえ可能な範囲で講義内容の変更を加えていきます。また、講義開始時には、各回の講義内容に関する予習の成果として「Web 検索レポート」の提出（事前に提示される検索ワード 3 つについてインターネットで検索し、それぞれ 300 字、計 1,000 字程度にまとめた小レポート）を求めます。

なお、各期折り返し回の講義時間を使って中間テストを実施します。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
[1]	イントロダクション（講義概要）	「経営社会学とはいかなる学問か？」（①応用社会学の一領域、②「経営社会政策論」としての展開）
[2-4]	「就活」と新卒労働市場の社会学	①新規学卒一括採用の構造変化、②新卒採用・就職活動の IT 化、③「就活対策」の採用タイポロジー分析
[5-7]	ビジネスキャリア開発の社会学	①大卒マネジャーの昇進構造、②「失業なき労働移動」の成功要因、③「一億総活躍社会」の下で、私達はいつまで働き続けなければならないのか？
[8]	中間テスト	授業内試験の実施
[9-11]	「派遣」から考える労働問題	①社会成層の中の「非正規化と貧困」、②日本の労働政策と労働者派遣の役割、③「派遣」から考える近未来の労働
[12-14]	難民・移民問題と国際労働移動の社会学	①国際労働移動の類型、②国際労働移動の全体像、③日本における「外国人（難民・移民）受け入れ論議」の動向
[15]	まとめ（予備日）	経営社会学Ⅰのまとめ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
[1]	グループワーク（講義への再導入）	①「ポリティカル・コンパス」（あなた達の政治思想を類型化する）、②「政党政治」ディベート体験
[2-4]	政党政治と官僚支配の政策社会学	①政党政治の社会構造、②政策統治プロセスの二重構造、③経済学的思想と政党政治の対立軸
[5-7]	超高齢化する日本の赤字財政と経済成長	①日本の財政構造、②増大する医療・社会保障コストと消費増税、③人口減少社会の「ＧＤＰ 600 兆円目標」
[8]	中間テスト	授業内試験の実施
[9-11]	地球温暖化と脱原発依存の環境社会学	①環境問題を取り巻く経済イベントの連鎖と混乱、②環境ポリティクスの多重構造、③再生可能エネルギーへの投資か、やはり原発再稼働か？
[12-14]	マスコミと情報メディアの産業社会学	①メディア資本の拡張と「業界」構築、②メディア産業の全体像と構造変化、③「偏向」するマスメディアとニュースコンテンツ産業の将来像
[15]	まとめ（予備日）	経営社会学Ⅱのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記【授業の進め方と方法】の通り、毎回「Web 検索レポート」の提出を求めます（これが毎回の「宿題」となります）。

【テキスト（教科書）】

「社会及び経済の時事問題」を扱う上では、日々の「新聞」こそが最良の教科書となります。近年の新聞は、諸問題に関する論点整理のための記事が充実してきており、非常に便利です。定期的な新聞購読をお勧めします（新聞名は指定しません。各紙の論調をふまえ、各自の判断で自由に選んで下さい）。

なお、テキストに代わるものとして、毎回、トピックごとに主な講義内容を取りまとめたプリントを配布します。

【参考書】

[1] 経営社会学の学問的体系を把握するために：
『経営社会学』（間宏著／有斐閣）
[2] 社会学的な見地と社会学の諸理論を理解するために：
『社会学・第４版』（アンソニー・ギデンズ著／而立書房）

また、各回個別のテーマに関する専門的文献（新書など）については、参加学生の興味・関心に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点を重視しつつ（毎回のペーパー及びレポート提出を出席点に読み替えます。**ただし、指定記述量に満たないものや「単位の嘆願」のような講義内容と無関係な記述などは、減点対象もしくは無効とします。また、各回の回収票と期末の定期試験解答用紙との筆跡照合により発覚する代筆など不正が明らかになった場合には、学部が定める「不正行為」への懲戒基準に則り厳正に対処しますので留意願います**）、以下の配点による合計 100 点満点で評価します。

[1] リアクションペーパー（指定された記述量を満たすもの）
→ 各期 12 回分 ×2 点配点＋初回オリエンテーション分 2 点＝小計 26 点
[2] Web 検索レポート（指定された記述量を満たすもの）
→ 各期 12 回分 ×2 点配点＝小計 24 点
[3] 中間テスト（筆記・参照可・各期講義済み範囲から）
→ 出題 1 題 ×10 点配点＝小計 10 点
[4] 定期テスト（筆記・参照不可・各期全範囲から）
→ 出題 2 題 ×20 点配点＝小計 40 点

＊就活学生に対しては、いずれも当該企業等担当者による欠席証明書がある場合に限り、［1］及び［2］についてはⅠ・Ⅱ各期 5 回を上限に点数を付与し、また［3］については代替措置としてレポート提出を求めます。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

毎回のリアクションペーパーから得られる受講者ニーズに合わせ、必要に応じて、講義内容の難易度及び進行スピードを調整します。

【学生が準備すべき機器他】

各自パソコンを持ち込み、講義を受けながら（わからない概念等について）その都度ワード検索をかけると便利です。

また、参加学生からのリアクションペーパーの一部をツイッターで公開し（匿名化します。「経営社会学／経営学総論」でアカウント検索して下さい）、各学生の考え方やアイデアを共有するとともに教員からのコメントも適宜付け加えるなど、講義外での付加的なコミュニケーション機会を設けます。

【その他の重要事項】

この講義は、企業経営の人間的・政治的側面にフォーカスしながら、経営・労働主体のおかれる社会構造及び、その活動の「社会的合理性」と今後の変化を捉えようとするものです。講義で扱う「社会及び経済の時事問題」は、それを考える際の題材です。こうした学びは、状況判断力や環境変革力などの「就業力」を高める効果があります。もちろん、社会や経済の動きを把握し自ら判断していく力を養うわけですから、企業の人事部や広報部、さらには経営企画部で活躍するための必須の能力といえます。

学問としての経営社会学の本質は、「企業組織や現代社会が抱える社会問題」と「経営者や労働者のおかれた立場及び感情・意思」との間に構造的な関係性を見出し、企業経営の中に「社会を変えていく原動力（社会改革力）」を内在化させようとする試み（**経営社会政策**）でもあります。その意味では、上記のような民間営利企業の一般的部署のみならず、“ソーシャルビジネス（社会問題の解決を目的とする収益事業体、もしくは非営利事業を行う NPO 団体など）”に興味を持つ学生にとっても重要な知識たり得ると考えます。

なお、当授業に関連する科目としては、経営社会学Ⅰでは「人的資源管理Ⅰ/Ⅱ」など、同Ⅱでは上記【授業計画】のテーマに関係する他学部（法、社会、人間環境学部など）公開科目の履修を勧めます。

組織経済学Ⅰ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

組織経済学Ⅱ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

奥西　好夫　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伝統的なミクロ経済学では、企業は市場取引の参加者として重要な役割を担うが、企業内取引などの非市場取引や系列などの企業間関係、あるいは企業の構成員である雇用労働者と雇用主の関係などは、ほとんど不問に付されてきた。そうした中で、特に 1980 年代以降、「取引費用」、「不完全情報」、「契約理論」といった分析ツールが普及するにつれ、組織や人事問題が、経済学的なアプローチによって分析されるようになった。本講義では、その主要な内容を学ぶ。

組織や人事問題に関しては、経済学以外のアプローチが有益なことも多いが、経済学的なアプローチが深い理解を可能にし、一定の有効性を持つことも事実である。本講義を通じてその意義（あるいは限界）を学び、現実の理解に役立つ応用力を養いたい。

【到達目標】

組織や人事制度に関し、主に経済学的方法論を用いて理解したり、改善策を考案したりする力を身につける。

なお、本講義が対象とする組織、人事といった事象は、ほとんどの職業人が直接経験する事柄である。また、「経済合理性」、「効率性」、「公正性」などの基本的なものの見方、考え方は、職業人にとって重要な論理的思考力に不可欠なツールを提供する。したがって、本講義はいわゆる「就業力」の育成にもきわめて有用である。

【授業の進め方と方法】

「組織経済学」と総称される範囲は広範だが、「Ⅰ」では主たる分析手法と組織問題への応用を、「Ⅱ」では人事問題への応用を学ぶ。授業は、ある程度大人数となることが予想されるため、講義形式で行う。ただし、学生諸君の積極的な質問、発言等を歓迎する。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	・組織とは？ ・経済学的アプローチの特徴 ・本講義のねらい、概要
2.	個人の行動原理（1）	・経済合理性
3.	個人の行動原理（2）	・経済非合理性
4.	不完全情報問題（1）	・代表的な不完全情報モデル
5.	不完全情報問題（2）	・機会主義的行動 ・コミットメント問題
6.	取引・ルールの評価基準（1）	・効率性
7.	取引・ルールの評価基準（2）	・公正性
8.	取引費用（1）	・コースの定理
9.	取引費用（2）	・取引費用と市場、組織
10.	制度とルール	・制度、ルールのあり方 ・制度か人か？
11.	組織デザイン（1）	・環境、戦略、組織の適合性
12.	組織デザイン（2）	・市場か組織か？
13.	組織デザイン（3）	・アウトソーシング
14.	ガバナンス	・コーポレート・ガバナンス ・日本の会社法における機関設計
15.	復習、まとめ	・講義全体の復習、まとめ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1.	雇用関係とは？	・雇用関係の経済学的特徴
2.	就業形態の多様性	・雇用形態の多様化 ・雇用関係と類似した契約
3.	雇用関係の成立と解消	・雇用関係の効率性 ・採用 ・退職 ・定年制
4.	労働者の限界価値の決定要因（1）	・労働者の限界価値に影響する諸要因 ・人的資本理論
5.	労働者の限界価値の決定要因（2）	・動機づけ理論
6.	労働者の機会費用の決定要因	・労働者の機会費用に影響する諸要因 ・労働者の限界価値、機会費用、賃金の相互関係
7.	賃金の決定要因（1）	・賃金決定要素の類型
8.	賃金の決定要因（2）	・日本企業の賃金決定要素
9.	賃金の決定要因（3）	・賃金プロファイルに関する理論 ・賃金水準・格差に関する理論 ・福利厚生
10.	人事評価	・評価の目的 ・評価者 ・評価内容、方法 ・公開、フィードバック
11.	職務設計	・職務設計の重要性 ・技術的効率性 ・環境変化への柔軟性 ・動機づけ ・社会的比較
12.	多様性管理（1）	・アメリカの動向 ・日本の現状と問題点 ・多様性管理の考え方
13.	多様性管理（2）	・雇用形態・区分の多様化 ・「均衡処遇」と「格差」問題
14.	労使関係	・労使関係、労働組合に関する基礎理論 ・日本の労使関係の動向 ・労使関係システムの国際比較
15.	復習、まとめ	・講義全体の復習、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ではさまざまな抽象的概念やモデルを紹介するが、授業外でも常に、それらが身近な具体的事象とどのように対応しているかを考えてほしい。そうすることで、講義で学んだ知識を現実のさまざまな問題に応用して、自ら理解、分析し、発言、提案する力が身についていくはずである。

定期試験においても、そうした応用力の達成度合いを測るための質問をなるべく多く尋ねる予定である。

【テキスト（教科書）】

単一の教科書は特に用いない。講義内容の簡単なレジュメは事前に授業支援システムを用いて配付する。

【参考書】

「Ⅰ」に関する参考書として、ミルグロム、ロバーツ『組織の経済学』（NTT 出版、1997 年）、ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』（NTT 出版、2005 年）、伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』（有斐閣、2012 年）を、「Ⅱ」に関しては、今野浩一郎、佐藤博樹『人事管理入門（第 2 版）』（日本経済新聞社、2009 年）、エドワード・ラジアー『人事と組織の経済学』（日本経済新聞社、1998 年）をとりあえず挙げておく。このうち、ミルグロム、ロバーツとラジアーはアメリカのビジネス・スクール（スタンフォード）で使われている教科書で、組織経済学、人事経済学について本格的に学びたい人向けである。

また、「経済合理性」に関する副読本としてロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008 年）を、「公正性」に関する副読本としてマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010 年）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

「Ⅰ」、「Ⅱ」とも学期末に実施する試験結果（「参照不可」、マークシートと記述式の併用）による。試験は、講義の基本的な内容の理解度とその応用力を問うものとする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

2015 年度春学期のアンケートでは、改善点として「黒板の字が読みにくい」、「声が小さい」などの指摘があった。それらの改善は心がけるが、わからないときは質問する、黒板をただ写すのではなく話を聞きながらメモをとる訓練をしてほしい。なお、履修登録者数（例年 400～500 名）と通常の出席者数（数十名程度）に大きなギャップがあることは問題と思っている。授業に出なくてもレジュメが容易に入手できるので「楽勝」と考える向きがあるとすれば誤解である。例年の成績分布をみると「A+」は 10%程度なのに対し「D」は 20%を超えている。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付等で授業支援システムを使用する。講義中は特にパソコンは使わない予定。

【その他の重要事項】

「Ⅱ」の内容は、「Ⅰ」の内容を予備知識としているため、「Ⅱ」を受講する場合は、「Ⅰ」の事前受講を薦める。関連科目は、ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ、人的資源管理Ⅰ/Ⅱ、組織行動論Ⅰ/Ⅱなど。取り上げる事象は、人事、組織関係だが、主にミクロ経済学の手法、視点でアプローチする点に本講義の特徴がある。必要なミクロ経済学の基礎知識は、講義の中で説明する。また、心理学、社会学等とのアプローチの違いも講義の中で触れる。

組織行動論Ⅰ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

組織行動論Ⅱ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

西川　真規子　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
どのようにしたら個人のモチベーションや職務満足度は高まるのだろうか、欠勤や離職など組織にとって望ましくない態度や行動はどうして生じるのか、集団のパフォーマンスはなぜ高まったり、低まったりするのだろうか、効果的なコミュニケーションには何が必要なのか。このようなひとや人間関係に関する課題・問題に対して、心理学や社会心理学、社会学などの学際的知見を応用し解決をはかるのが組織行動論です。この授業では、組織の中でひとが個人として、集団としてどのような態度をとり行動するかについて、基礎概念や基本理論の学習を通じて理解を深めます。

【到達目標】
以下２点がこの授業の目標です。①組織行動論に関わる基礎概念や基本理論を正確に理解する。②これら概念や理論を各自の集団活動（アルバイト、部活等）の経験に応用することで、集団の一員としてひとと効果的にかかわる方法や、そこで生じる問題の改善・解決策を自ら考え実践に生かす力を身につける。

【授業の進め方と方法】
各回において、①講義の前に自らの体験を振り返る Exercise を実施します。②その後、各回のテーマに沿った講義を行います。講義では、アルバイトやサークル、ゼミ活動等受講生の実体験にも十分活用できるレベルでの理論や概念の説明を行います。また授業中に Reflection を行い、各自の実体験を振り返り、概念・理論の応用をはかります。③最後に、講義内容を踏まえ組織行動論の視点から Exercise の内容を再度振り返ります。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	組織行動論とは 組織行動論Ⅰの学習内容
2	学習１	学習とは何か 学習の方法 効果的な学習とは
3	学習２	学校での学習、職場での学習 職場学習のプロセス 学習スタイル
4	認知・帰属１	認知とは何か 認知に影響する要因 認知バイアス 自己の認知
5	認知・帰属２	認知のゆがみ 帰属とは 帰属バイアス
6	ダイバーシティとパーソナリティ	ダイバーシティとは ダイバーシティのメリット パーソナリティとは パーソナリティ特性
7	モチベーション１	モチベーションとは モチベーションの内容理論１ マズロー アルダファー マクレガー
8	モチベーション２	モチベーションの内容理論２ ハーズバーグ マクレランド モチベーションの過程理論１ 目標設定理論
9	モチベーション３	モチベーションの過程理論２ 強化理論 公平理論
10	モチベーション４	モチベーションの過程理論３ 期待理論 職務特性理論
11	ケーススタディ	共通のケースについて皆でその捉え方を検討し、改善（解決）策を探ります
12	意思決定１	合理的意思決定 その他の意思決定
13	意思決定２	意思決定のスタイル 社会的プロセスとしての意思決定
14	仕事と生活	ワークライフバランスとは 仕事と生活の望ましい関係
15	まとめ	組織行動論Ⅰのまとめ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	組織行動論とは 組織行動論Ⅱの学習内容
2	集団	集団の種類 集団の発達 集団の意思決定
3	チーム	集団とチーム チームの種類 高業績チームの特徴
4	コミュニケーション基礎	コミュニケーションとは 相互作用としてのコミュニケーション コミュニケーション上の障害
5	コミュニケーション応用	効果的なコミュニケーション アサーティブネス アクティブリスニング
6	コンフリクト	コンフリクトの捉え方 コンフリクトのプロセス コンフリクトのマネジメント
7	仕事上のストレス	ストレス発生のプロセス ストレスと生産性 ストレスへの対処
8	情動と労働	情動研究の発達 感情と気分 感情労働 感情的知性
9	リーダーシップ１	リーダーシップとは リーダーシップに関する理論 資質理論 行動理論
10	リーダーシップ２	コンティンジェンシー理論１ フィードラー LPC 理論 ライフサイクル理論
11	リーダーシップ３	コンティンジェンシー理論２ その他コンティンジェンシー理論 交換型リーダーと変革型リーダー
12	ケーススタディ	共通のケースについて皆でその捉え方を検討し、改善（解決）策を探ります
13	パワーと影響力	パワーと依存関係 パワーの源泉 パワーの行使
14	組織文化	組織文化の特徴 組織文化の生成と維持 組織文化の見分け方
15	まとめ	組織行動論Ⅱのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義の途中か最後に各自 Exercise の内容を再度振り返り改善する Reflection の時間を設けますが、授業時間中にこの作業が完了しなかった場合、次回の講義までに各自で必ず完了させておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。
毎回授業に使用する資料を事前に授業支援システムを通じて配布します。この資料は、講義中にノートがとれるよう余白が設定されていますので、各自授業前に印刷し持参してください。尚、事前配布資料に記載されているのは要点のみなので、毎回授業中に講義ノートをできるだけ詳しく取っておくこと。

【参考書】
各回引用する文献が異なるため参考書は特に指定しません。
参考文献が知りたい場合は講義後教員に尋ねてください。

【成績評価の方法と基準】
組織行動論Ⅰ/Ⅱそれぞれについて学期末に試験を実施し、試験結果によって成績を評価します。試験内容は授業で学習した内容とします。授業では特定のテキストを使用しませんので、試験の内容を理解するには聴講が欠かせません。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
応用力が身につくという本授業のメリットを、Exercise や Reflection の実施を通じてさらに高めていきます。
黒板が見えづらいとの指摘を受け、パワーポイントを使用して授業を行います。教員の話をよく聴き、自らの気づき等積極的にノートテーキングを行うことで資料を補完してください。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用するパワーポイントファイルを事前に授業支援システム上で公開しています。また、授業に関するお知らせ等についても授業支援システムを通じて行っていますので、各自授業開始後速やかに授業支援システムで自己登録を行ってください。

【その他の重要事項】
組織行動論の理解を深めるため、組織行動論Ⅰ/Ⅱの連続受講を勧めます。

【関連科目】
人的資源管理

人的資源管理Ⅰ

経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

佐野　嘉秀　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、「人的資源管理（HRM = Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。一筋縄にはいきません。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個々人に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】
１）人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
２）人材確保に関わる人事管理の領域として、①採用と②人材育成に関する基本的な議論と理論を理解し、説明できるようになる。
（秋学期開講の人的資源管理Ⅱで、③配置転換、④昇進・昇格、⑤人事評価、⑥賃金管理などの領域について学び、Ⅰ・Ⅱを合わせて、人的資源管理の全体像に対する体系的理解を深めます）。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。レジュメ・資料をプリントとして配布し、それに沿って講義をすすめます。人的資源管理Ⅰで予定しているテーマは、授業計画を参照して下さい。ただし、講義するテーマの順序等は下記と変わる場合があります。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：人的資源管理（ＨＲＭ）とは？	人的資源管理（ＨＲＭ）の授業で勉強する範囲について、ＨＲＭの基本的な目的や担い手について、等
2	人的資源管理（ＨＲＭ）の考え方①	職場の人事管理機能、本社人事部門の役割（人事部不要論の検討）、等
3	人的資源管理（ＨＲＭ）の考え方②	ＨＲＭが前提とする労働者像、伝統的な人事管理とＨＲＭのちがい、等
4	人的資源管理（ＨＲＭ）の考え方③	ＨＲＭの基本思想の循環、ＨＲＭの仮定（ベスト・プラクティスとベスト・フィット）、等
5	人的資源管理（ＨＲＭ）の考え方④	労働者意識の多様化と動機づけの理論、ＨＲＭの諸施策と動機づけとの関係、等
6	採用管理①	ＨＲＭにおける採用の役割、採用計画の考え方（経営戦略、人員構成との関係）、等
7	採用管理②	多様な採用ルート（新卒採用の役割）、ＲＪＰ（リアリスティック・ジョブ・プレビュー）の考え方、等
8	採用管理③	ＲＪＰの限界、ＯＪＲ（オン・ザ・ジョブ・リクルーティング）の多様な展開、等
9	人材育成①	ＨＲＭとＨＲＤ（人的資源開発）、教育訓練の機能（育成 make か採用 buy か）、等
10	人材育成②	労働者タイプの変化と教育訓練、分業と技能（アダムから『組み立てラインの人々』へ）、等
11	人材育成③	幅広い仕事経験と教育訓練、ＯＪＴシステムの転換と教える側の変化、等
12	人材育成④	教育訓練の現状、ＯＪＴと off-ＪＴ、自己啓発支援、教育訓練施策の補完関係、等
13	人材育成⑤	「投資」としての教育訓練、教育訓練の費用（直接費用と機会費用）、等
14	人材育成⑥	キャリア管理（配置転換や昇進の管理）を通じた人材育成、等
15	人的資源管理Ⅰのまとめ	人材育成のまとめ、春学期に学習した各分野についてのまとめ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。

【テキスト（教科書）】
とくに教科書は指定しません。授業内で配布する資料・プリントをもとに講義をすすめます。

【参考書】
各自が自習するための参考書として、①佐野陽子『はじめての人的資源マネジメント』有斐閣、②佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理（第 3 版）』有斐閣アルマ、③今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（第 2 版）』日本経済新聞社をあげておきます。このうち①と②は、人的資源管理に関する基礎的な理解、③は発展的な理解に役立ちます。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、春学期の期末試験の結果をもとに評価します。授業内で学習した議論や理論について、十分に理解できているかを重視して採点し、成績評価につなげます。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。板書を基本としますが、プリントの図表の説明等では、投影設備の利用も適宜行います。

【その他の重要事項】
春学期に開講する人的資源管理Ⅰと秋学期に開講の人的資源管理Ⅱの授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、経営学総論Ⅰ・Ⅱがあげられます。

人的資源管理Ⅱ

経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

藤本　真　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、「人的資源管理（human resource management）」の基礎を体系的に学習します。人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（human resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（management）」の対象は人です。一筋縄にはいきません。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個々人に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】
①人的資源管理の考え方、②採用、③教育訓練、④配置転換、⑤昇進・昇格、⑥人事評価、⑦賃金管理について、各分野の現状や考え方を体系的に理解することを授業の到達目標とします。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。レジュメ・資料をプリントとして配布し、それに沿って講義をすすめます。人的資源管理Ⅰ・Ⅱで予定しているテーマは、授業計画を参照して下さい。ただし、講義するテーマの順序等は下記と変わる場合があります。

【授業計画】
Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション：春学期の復習と秋学期の授業内容	人的資源管理（ＨＲＭ）の考え方、人的資源管理Ⅱで扱う分野の概要、等
第２回	配置転換の管理①	ＨＲＭにおける配置転換、配置転換の人材育成機能、初任配属先の選択、等
第３回	配置転換の管理②	配置転換のコスト、ホワイトカラーの配置転換とその範囲、等
第４回	配置転換の管理③	配置転換における組織と個人、企業主導型の配置転換の限界と「新しい」配置転換、等
第５回	配置転換の管理④	「新しい」配置転換の仕組み（自己申告制度、社内公募制度等）と運用上の課題、等
第６回	昇進の管理①	ＨＲＭにおける昇進、昇進における「選抜」「育成」「動機づけ」の関係、等
第７回	昇進の管理②	昇進の実態とキャリア・ツリー、「トーナメント移動」と日本の昇進、日本の「ファスト・トラック」、等
第８回	昇格と社員等級①	昇進と昇格、社員等級制度と昇格基準、「年功」制の合理性、等
第９回	昇格と社員等級②	社員等級制度の変化、「能力主義」と職能資格制度、「成果主義」と格付け基準、等
第 10 回	専門職制度	日本の昇進・昇格管理と専門職制度、専門職制度の変化と課題、等
第 11 回	人事評価①	ＨＲＭにおける人事評価、評価の主観性と「公平」な評価、評価要素の選択、等
第 12 回	人事評価②	「成果」による評価の課題、ＭＢＯの仕組みと課題、納得性向上のための工夫、等
第 13 回	賃金の管理①	ＨＲＭにおける賃金管理、賃金と動機づけ、賃金の総額管理と個別賃金管理、等
第 14 回	賃金の管理②	賃金制度の基礎、職務給と職能給、年齢・賃金プロファイル等
第 15 回	人的資源管理Ⅱのまとめ	賃金の管理に関するまとめ、秋学期に学習した各分野についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイト、サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。

【テキスト（教科書）】
とくに教科書は指定しません。授業内で配布する資料・プリントをもとに講義をすすめます。

【参考書】
各自が自習するための参考書として、①佐野陽子『はじめての人的資源マネジメント』有斐閣、②佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理（第 3 版）』有斐閣アルマ、③今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（第 2 版）』日本経済新聞社をあげておきます。このうち①と②は、人的資源管理に関する基礎的な理解、③は発展的な理解に役立ちます。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、春学期（「Ⅰ」）秋学期（「Ⅱ」）とも、それぞれ期末試験の結果をもとに評価します。授業内で学習した論点や理論について、十分に理解できているかを重視して採点し、成績評価につなげます。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。板書を基本としますが、プリントの図表の説明等では、投影設備の利用も適宜行います。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期の授業をすべて受講すると人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、経営学総論Ⅰ・Ⅱがあげられます。

国際人事論Ⅰ

経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

菊地　達昭　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
まず、企業の中での重要な機能の一つである人事管理について理解します。それを踏まえた上で、国際人事管理、特に日本と米国の人事管理の違いとその特徴について考えてみることにします。グローバルにビジネスを展開する企業が、人事管理でどのような問題に直面することになるのか、具体的な例をあげて説明を試みます。このような中で、日本人が海外で働く際に起きてくる様々な問題について理解することも本授業での目標となります。

【到達目標】
海外で働く際にヒトに関して発生する種々の問題を理解することで、海外勤務にスムーズに適応できるようになります。

【授業の進め方と方法】
〔授業の概要〕
グローバリゼーションの激しい進展の中で、経営資源であるヒト、モノ、金、情報が国境を越える状況が生まれてきています。しかし、モノ、金、情報が国境を越えても問題が発生しないのに、ヒトが国境を越えると必ず問題が発生します。少子化で国内マーケットが縮小していく中では、ビジネスもグローバルな展開を図っていくことが必要不可欠となってきています。そういった中では、大企業だけではなく、多くの中小企業でも海外の安い労働力を目的とした海外への工場進出が活発に行われるようになっています。
さらには、戦略的な提携による企業の買収、M & A も活発化してきており、日本企業が海外の企業を買収して傘下におさめる、外国企業が日本企業を買収するといったニュースが毎日のように報道されています。ここでは当然、日本の親会社が海外の子会社をコントロールする、あるいは海外の親会社が日本の子会社をコントロールするということが行われることになるわけです。ビジネス、日々のやり取りの中で、ヒトの交流、さらには外国人が日本人をマネージする、日本人が外国人をマネージするということが当たり前のように行われていくことになります。
このような状況の中で、人種、言語、文化、習慣、宗教、気候、風土、考え方、法律といったあらゆるものが違っている人たちをまとめあげ、ベクトルをあわせて企業の目標達成を図っていかなければなりません。このプロセスの中でどのようなことが起こって来るのか、米国に駐在し、米国人トップ 3 人が親会社を訴えるという経験も踏まえて、実例を通した授業を展開したいと思います。
〔授業方法〕
毎回パワーポイントを使った講義形式の授業を考えています。参加者の数にもよりますが、できる限りインタラクティブな授業を行っていきたいと思っています。出欠票を兼ねた質問表を毎回配布し、質問があれば翌週の授業で回答していくことにします。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	世界の中での日本の現状、日米の考え方の違いを説明する
第 2 回	日本の教育について考える	高度経済成長を支えた日本の教育とはどのような特徴があったのか、米国の教育との比較で説明する
第 3 回	日本における人事管理の特徴とその変化	日本の人事管理の特徴を解説し、環境変化の中でどう変容してきているのかを説明する
第 4 回	日本企業の国際化	日本企業の国際化のプロセスについて説明する
第 5 回	異文化を理解する	正しいと考えていることが文化によって違うことを説明する
第 6 回	多国籍企業と企業文化	企業によって違った企業文化が存在することを理解し、その果たしている役割の重要性について解説する
第 7 回	米国の人事管理	米国の人事管理について説明し、日本との違いについて理解する
第 8 回	米国の賃金管理と幹部報酬制度	米国の賃金管理の特徴と様々な幹部報酬制度について解説する
第 9 回	事例を通して考えるⅠ	米国駐在時代に実際に経験した事例をケーススタディで考える
第 10 回	海外で働くⅠ	海外で働くことと日本で働くことの違いについて説明する
第 11 回	事例を通して考えるⅡ	米国駐在時代に実際に経験した事例をケーススタディで考える
第 12 回	海外で働くⅡ	駐在員が仕事をする中で直面する様々な問題について説明する
第 13 回	事例を通して考えるⅢ	米国駐在時代に実際に経験した事例をケーススタディで考える
第 14 回	女性労働力の国際比較	日本の働く女性が世界的にみてどのような実態にあるのかについて解説する
第 15 回	日米の経営の違いが意味すること	日米の経営の違いがどのような問題を派生させているのかについて説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本経済新聞を毎日必ず読むこと。毎週、本を 1 冊紹介するので、その本を読んだ上で次週の授業に参加することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
八城政基 (2000)『日本の経営　アメリカの経営』日経ビジネス文庫

【成績評価の方法と基準】
レポートと授業への参加度を総合的に判断して評価します。詳しくはオリエンテーションで説明します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
米国駐在中に実際に経験した実例を単に解説するのではなく、グループ討議を通じて発表してもらうことで理解を深めてもらうことを試みた。大変評判が良かったので、継続する。

【その他の重要事項】
関連科目として人的資源管理Ⅰ/Ⅱがあり、これら関連科目を受講することが望ましい。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

財務会計論Ⅰ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

財務会計論Ⅱ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

鈴木　智大　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
会計は、一定のルール（会計基準）に従って多岐にわたる企業活動をある数値に変換し、その企業の財政状態あるいは業績をいくつかのデータに整理・統合するツールであるといえる。人間の情報処理能力には限界があるため、膨大な企業活動すべてを把握することは現実的に不可能である。なんらかの取引や投資に関する意思決定を行おうとする際に、膨大な企業活動が要約された会計情報はもっとも有用な情報源の１つといえる。
本講義では、一連の企業活動をどのようなルールのもと金額で表現するのかを学習することで、会計情報の作成方法を理解するとともに、それが意味している内容を理解できるようになることを狙いとする。

【到達目標】
・会計利益の意味を理解すること
・一連の企業活動を会計の文脈で捉えることができるようになること
・財務諸表を読めるようになること

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式をとりますが、一方的に講義を進めるのではなく、クイズ形式の質問を行うなど双方向のコミュニケーションが図れるようにします。また簡単な練習問題を適宜出題します。その際、計算が必要なトピックも多いので電卓の持参を推奨します。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	財務会計を学ぶ目的と意義	財務会計を学ぶ動機づけ、キャリア形成との関係を考察する。
2	財務会計のシステム	財務会計に関する法・制度を概観し、期待される役割を説明する。
3	利益とは何か	会計利益とは何かを説明する。あわせて利益の 2 つの計算方法（損益法と財産法）を学習する。
4	資産とは何か	貸借対照表の構成要素について説明する。
5	財務諸表間の連携	簿記一巡の手続きの説明・実践を行う。損益計算書と貸借対照表の関係を再確認する。
6	会社の設立と資金調達	会社の種類、設立の仕方、資金の集め方について説明する。
7	販売活動の会計 (1)	売上の認識方法について説明する。
8	販売活動の会計 (2)	売上原価の計算方法と在庫の評価について説明・実践を行う。
9	販売活動の会計 (3)	売上代金の回収と貸倒引当金について説明を行う。
10	資産の会計 (1)	流動資産と固定資産の分類を学習し、その後主要な流動資産について説明を行う。
11	資産の会計 (2)	主要な固定資産について説明を行うとともに、減価償却について学習する。
12	資産の会計 (3)	貸借対照表に計上される無形資産について解説を行う。
13	資産の会計 (4)	投資その他の資産について解説を行うとともに、拡大する公正価値について説明を行う。
14	会計研究者の視点	春学期の学習内容に関して、財務会計の研究者が今何を考えているのかを解説する。
15	春学期講義のまとめ	春学期講義を総括して、秋学期講義に向けた学習の課題を明確化する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	春学期の復習と秋学期の学習内容	春学期の学習内容をおさらいするとともに、秋学期の学習内容の概観を説明する。
2	資金の調達源泉	企業がどのように資金を調達しているのかを学習する。
3	純資産の会計 (1)	資本制度と債権者保護について学習する。
4	純資産の会計 (2)	剰余金の配当について学習する。
5	純資産の会計 (3)	評価換算差額等について解説・考察する。
6	CF 計算書	キャッシュ・フロー計算書の役割について説明する。
7	会計政策と会計利益	会計政策とは何かについて学習する。
8	監査の役割と限界	監査の役割について学習する。
9	企業集団の会計 (1)	企業グループを 1 つの会計報告主体としてとらえたときに、その会計報告の考え方と手法について解説する。
10	企業集団の会計 (2)	連結貸借対照表の作成方法について解説・実践する。
11	企業集団の会計 (3)	連結損益計算書の作成方法について解説・実践する
12	国際会計基準	国際会計基準について解説を行い、会計制度のあり方について議論する。
13	コーポレート・ガバナンス	近年注目を集めてるコーポレート・ガバナンスについて、有価証券報告書からどういった情報が得られるかを学習する。
14	会計研究者の視点	秋学期の学習内容に関して、財務会計の研究者が今何を考えているのかを解説する。
15	秋学期のまとめ	演習問題を通じて、秋学期講義の要点を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義レジュメを事前に WEB にて配信するので、講義当日は印刷して持参すること。また有価証券報告書や IR 資料を教材として活用する場合もある。その場合、受講生は各自、企業のホームページから教材として指定された書類を入手・持参すること。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
①桜井久勝『財務会計講義』（2015 年 4 月現在の最新版）中央経済社.
②伊藤邦雄『新・現代会計入門』（2015 年 4 月現在の最新版）日本経済新聞社.

【成績評価の方法と基準】
以下の 2 点を考慮して総合的に評価する。
1　春学期末・秋学期末の筆記試験（80%）
2　質問票への記入状況（20%）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
ほぼ毎回、講義の最後に「本日の質問」を実施し、翌週の最初に解説を実施したが、好評だったので今年度も継続したいと思います。
また講義テーマに合わせて春・秋 1 回ずつ実務家をゲストスピーカーとしてお呼びしましたが、こちらも好評でしたので学期最後のほうの講義で実施したいと思います。

【その他の重要事項】
「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修していることが望ましい。
本授業と関連がある科目として、「管理会計論Ⅰ/Ⅱ」「国際会計論Ⅰ/Ⅱ」「税務会計論Ⅰ/Ⅱ」「監査論Ⅰ/Ⅱ」「経営分析Ⅰ～Ⅳ」があげられる。

監査論Ⅰ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

監査論Ⅱ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

坂上　学　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
監査論Ⅰ（春学期）は、株式会社企業の監査制度の基礎知識を、体系的に理解することを課題としている。株式会社監査の基礎概念の理解に始まり、監査の担い手である監査人（公認会計士や監査法人）の制度、監査意見形成のプロセスについて、ケースを織り交ぜながら学習する。
監査論Ⅱ（秋学期）は、株式会社企業の監査制度の応用的な知識について、体系的に理解することを課題としている。監査のうち、監査意見形成のプロセスに焦点を当て、リスク・アプローチに基づく監査の計画と実施のプロセス、監査報告と情報提供機能について、ケースを織り交ぜながら学習する。

【到達目標】
監査の基本知識として、理論的な基礎と制度の概要を理解することを目標としている。

【授業の進め方と方法】
講義形式でおこなう。必要に応じてプリントなどを配布する予定である。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の進め方と評価方法について説明します。
第 2 回	監査のフレームワーク（1）	テキスト第１章「監査のフレームワーク」について学習します。
第 3 回	監査のフレームワーク（2）	テキスト第１章「監査のフレームワーク」について学習します。
第 4 回	ケーススタディ（1）	テキスト第１章に関連する事例研究をおこないます。
第 5 回	監査制度のフレームワーク（1）	テキスト第２章「監査制度のフレームワーク」について学習します。
第 6 回	監査制度のフレームワーク（2）	テキスト第２章「監査制度のフレームワーク」について学習します。
第 7 回	ケーススタディ（2）	テキスト第２章に関連する事例研究をおこないます。
第 8 回	監査規範の意義とわが国の監査基準（1）	テキスト第３章「監査規範の意義とわが国の監査基準」について学習します。
第 9 回	監査規範の意義とわが国の監査基準（2）	テキスト第３章「監査規範の意義とわが国の監査基準」について学習します。
第 10 回	ケーススタディ（3）	テキスト第３章に関連する事例研究をおこないます。
第 11 回	監査意見形成のプロセス（1）	テキスト第４章「監査意見形成のプロセス」について学習します。
第 12 回	監査意見形成のプロセス（2）	テキスト第４章「監査意見形成のプロセス」について学習します。
第 13 回	ケーススタディ（4）	テキスト第４章に関連する事例研究をおこないます。
第 14 回	ケーススタディ（5）	テキスト第１章～第４章に関連する事例研究をおこないます。
第 15 回	まとめ	春学期講義のまとめをおこないます。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	イントロダクション	本講義の進め方と評価方法について説明します。
第 17 回	リスク・アプローチと監査戦略（1）	テキスト第５章「リスク・アプローチと監査戦略」について学習します。
第 18 回	リスク・アプローチと監査戦略（2）	テキスト第５章「リスク・アプローチと監査戦略」について学習します。
第 19 回	ケーススタディ（1）	テキスト第５章に関連する事例研究をおこないます。
第 20 回	リスク評価、リスク対応および監査の完了（1）	テキスト第６章「リスク評価、リスク対応および監査の完了」について学習します。
第 21 回	リスク評価、リスク対応および監査の完了（2）	テキスト第６章「リスク評価、リスク対応および監査の完了」について学習します。
第 22 回	ケーススタディ（2）	テキスト第６章に関連する事例研究をおこないます。
第 23 回	監査報告書と情報提供機能（1）	テキスト第７章「監査報告書と情報提供機能」について学習します。
第 24 回	監査報告書と情報提供機能（2）	テキスト第７章「監査報告書と情報提供機能」について学習します。
第 25 回	ケーススタディ（3）	テキスト第７章に関連する事例研究をおこないます。
第 26 回	開示情報の多様化と保障機能（1）	テキスト第８章「開示情報の多様化と保障機能」について学習します。
第 27 回	開示情報の多様化と保障機能（2）	テキスト第８章に関連する事例研究をおこないます。
第 28 回	ケーススタディ（4）	テキスト第８章に関連する事例研究をおこないます。
第 29 回	ケーススタディ（5）	テキスト第５章～第８章に関連する事例研究をおこないます。
第 30 回	まとめ	秋学期講義のまとめをおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストの該当箇所を熟読しておくこと。

【テキスト（教科書）】
伊豫田隆俊, 林隆敏, 松本祥尚『ベーシック監査論（七訂版）』同文舘出版

【参考書】
鳥羽至英『財務諸表監査 理論と制度 基礎篇』（国元書房, 2009）

【成績評価の方法と基準】
基本的に各期末テストの点数によって成績を評価するが、時折実施するミニテストの点数を加味する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
真面目に出席している学生をちゃんと評価して欲しいという要望が多く寄せられた。これまで以上に、真面目に出席している学生の把握に勤め、成績へのプラス評価につなげる努力をしたいと思っている。

【学生が準備すべき機器他】
毎回パワーポイントでプロジェクターで投影しながら講義をおこなう。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
会計学の基本的な知識があることを前提として講義を進めるので、「簿記入門」と「会計学入門」を履修していることが望ましい。また財務諸表に関する知識も必要になるので、「財務会計論」を平行して履修するなどして知識の獲得に努めてほしい。

税務会計論Ⅰ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／2 単位［春学期授業］

税務会計論Ⅱ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／2 単位［秋学期授業］

大下　勇二　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期「税務会計論Ⅰ」
　わが国の税金全体の体系と所得税、消費税および法人税の基本的な仕組とその基礎
秋学期「税務会計論Ⅱ」
　わが国の法人税法の課税所得計算の基礎と財務会計との比較

【到達目標】
春学期
　経営学部の学生として必要と思われる税金の基礎的知識の涵養を目標とします。
秋学期
　会社の中心的な税金である法人税の基本的な計算プロセスとその基礎的考え方を理解することにより、会計分野の重要な領域としての税務会計の基礎を修得し、財務会計との相違を理解することを目指します。

【授業の進め方と方法】
春学期
　わが国の所得税、法人税および消費税を中心として、税金全体の概要とその仕組みを理解することを目的としています。所得税と消費税については配布資料に基づき、法人税はテキストを用いて、重要な点をパワーポイントにより解説する形で授業を進めていきます。また、個別事例の紹介、実際の所得税の確定申告の練習等も取り入れる予定です。
秋学期
　わが国において、法律で規制された会計、いわゆる制度会計には金融商品取引法により規制された「金商法会計」(旧証取法会計)、商法・会社法により規制された「会社法会計」および法人税法により規制された「税務会計」が挙げられます。これら三つの制度会計の領域は、相互に密接に結びついてわが国の企業会計制度を形成しております。前二者の制度会計の領域は、主として「財務会計論」で学習します。本講義は三番目の税務会計を取り上げます。
　法人税法の取扱いは実務的で詳細にわたっていますが、授業は、基礎的な内容に限定し、可能な限り財務会計の考え方と法人税法特有の考え方とを対比させながら、税法固有の計算の考え方・見方の修得を目指します。
授業はテキストを事前に学習していることを前提に、企業の事例を紹介しながら重要な点をパワーポイントを用いて解説する形で授業を進めていきます。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	わが国の税金の体系 (1)	わが国の租税体系を概説します。
第 2 回	わが国の税金の体系 (2)	租税構造および税負担に関する国際比較を行います。
第 3 回	所得税 (1)	所得税の概要、所得の種類と計算方法について学習します。
第 4 回	所得税 (2)	給与所得を中心にその計算の仕組みを学習します。
第 5 回	所得税 (3)	所得税の累進税率の意味と税額の計算方法について学習します。
第 6 回	所得税 (4)	所得税申告書の仕組みを概説し、所得税の計算練習を行います。
第 7 回	間接税の仕組み	間接税の体系と特徴を学習します。
第 8 回	消費税の仕組み (1)	消費税を中心にその特徴と計算方法を学習します。
第 9 回	消費税の仕組み (2)	逆進性といった消費税の問題点を検討します。
第 10 回	消費税の仕組み (3)	消費税の益税の問題を検討します。
第 11 回	法人税 (1)	わが国の法人税の概要、法人所得課税の考え方、株主集合体説などを中心に法人税の基礎を学習します。
第 12 回	法人税 (2)	わが国の法人税の対象法人を取り上げ、わが国法人のの特徴を学習します。
第 13 回	法人税 (3)	法人税法の体系、帳簿組織、同族会社、事業年度と繰越欠損金の問題を学習します。
第 14 回	法人税 (4)	課税所得計算の一般原則、益金の額、損金の額、現行法の所得概念、課税所得の計算構造、資本等取引の概念、実質課税原則、権利確定主義・債務確定主義、確定決算主義、税務調整など、課税所得研鑽の基礎を学習します。
第 15 回	総括	財務会計の計算と比較して、法人税の計算の特徴を学習し、総括とします。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
秋学期	法人税の基礎	法人税の計算を概説します。
第 1 回		
第 2 回	売買損益の計算	売買損益、請負損益、売上げ割戻しの取扱いを学習し、税法の考え方を学びます。
第 3 回	営業外収益および特別利益	受贈益、受取配当金、固定資産の譲渡益の取扱いを概説し、税法の考え方を学習します。また、在外子会社からの配当金の問題も取り上げます。
第 4 回	売上原価の計算	売上原価の計算の仕組み、棚卸資産の取得原価、期末棚卸資産の評価方法などを学習し、売上原価算定における税法の考え方を学びます。
第 5 回	有価証券の譲渡原価と期末評価	有価証券の譲渡原価の算定の仕組み、有価証券の取得原価、譲渡原価、期末評価、評価減について学習し、有価証券の譲渡原価の算定における税法の考え方を学びます。
第 6 回	固定資産の減価償却	減価償却費算定の仕組み、取得原価の算定、耐用年数、償却方法、残存価額、償却限度額の計算について学習し、減価償却計算における税法の考え方を学びます。
第 7 回	繰延資産の償却	税法上の繰延資産の内容、償却、償却期間、評価減について学習し、繰延資産の償却計算における税法の考え方を学習します。 陳腐化償却、評価減、修繕
第 8 回	事業形態の多様化と課税問題	ペイ・スルー課税やパス・スルー課税(構成員課税) といった新しい事業体の課税問題を取り上げます。
第 9 回	企業の社会的責任と寄附金・交際費課税	交際費および寄付金について損金算入制限する理由と税法特有の考え方を学習します。
第 10 回	給与の支給形態の多様化と課税問題	役員の給与を中心に、損金算入制限することの理由と税法特有の考え方を学習します。また、業績連動報酬と課税の問題も取り上げます。
第 11 回	不良債権の償却の課税問題	不良債権の問題を中心に、貸倒損失および貸倒引当金の計算における税法の考え方を学習します。また、これに関連して、税効果会計も取り上げます。
第 12 回	企業活動の集団化と課税問題 (1)	合併、分割、株式交換・株式移転といった企業組織再編に係る包括的税制を学習し、企業組織再編税制の考え方を学習します。
第 13 回	企業活動の集団化と課税問題 (2)	グループ法人単体課税制度および連結納税制度の仕組みと特徴を学習し、企業集団の課税制度における税法の考え方を学習します。
第 14 回	企業活動の国際化と課税問題 (1)	企業活動の国際化における法人課税のあり方について、国際課税の基本原理と税法の考え方を学習します。
第 15 回	企業活動の国際化と課税問題 (2)	移転価格税制、過少資本税制およびタックス・ヘイブン税制を学習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　事前にテキスト、または配布資料を読んでおくことが求められます。また、レポートを複数回提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】
・所得税・消費税に関しては、配布資料
・法人税に関しては、大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ』法政大学通信教育部、2013 年。

【参考書】
春学期
　開講時に指示します。
秋学期
　渡辺・山本著『法人税の考え方・読み方』税務経理協会
成松洋一著『法人税法 理論と計算』税務経理協会

【成績評価の方法と基準】
　出席 (15%)、レポート課題 (25%) および定期試験の結果 (60%) を総合的に評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
　毎回、授業の最後に簡単な○ × 問題を解答してもらい、授業内容の理解をその都度深める取り組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
　パワーポイントのスライドを中心に板書を交えて進めていきます。スライドは授業支援システムにアップロードしますので、各自、事前に用意して下さい。

【その他の重要事項】
　本科目は会計関連の専門科目と密接に関連しています。１年次の簿記入門Ⅰ・Ⅱ、２年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱを履修しておくことが望ましく、また、平行して、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱを履修し、会計学の基礎を理解しておくと、本講義の理解がより一層促進されます。所得税、消費税、法人税等の税金関連の新聞記事をほぼ理解できるように頑張りましょう。

管理会計論Ⅰ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

管理会計論Ⅱ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

北田　皓嗣　准教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
管理会計とは，組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって，管理会計の学習にあたっては，単に計算テクニックを使えるというだけでなく，組織実践との関係で，経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では，具体的な意思決定の場面をイメージしながらすすめていきたいと考えています。

【到達目標】
経営管理の問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること，またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を進めるとともに，随時、計算問題や復習のための問題演習を取り入れていきます。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と進め方について説明していきます。
第 2 回	管理会計の基礎概念１	原価の概念
第 3 回	管理会計の基礎概念２	財務分析の方法
第 4 回	管理会計の基礎概念３	組織構造、コントロールの階層
第 5 回	中期経営計画	計画の種類、ROI と利益とキャッシュフロー
第 6 回	短期利益計画１	CVP 分析、変動費と固定費
第 7 回	短期利益計画２	安全余裕率
第 8 回	短期利益計画３	プロダクトミックス
第 9 回	予算管理１	予算管理の前提
第 10 回	予算管理２	総合予算の編成
第 11 回	予算管理３	予算差異分析
第 12 回	事業部の管理会計１	ROEC,RI
第 13 回	事業部の管理会計２	予定一括配賦、内部振替価格
第 14 回	BSC	４つの視点、ストラテジーマップ
第 15 回	まとめ	春学期の授業の総括

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	イントロダクション	講義の概要と進め方について説明していきます。
第 17 回	原価計算について	実際原価計算，総合原価計算，個別原価計算，標準原価計算
第 18 回	モノづくりと管理会計１	生産管理会計，CVP 分析
第 19 回	モノづくりと管理会計２	原価企画
第 20 回	モノづくりと管理会計３	テアダウンを通じた製品と原価への理解
第 21 回	モノづくりと管理会計４	品質管理会計
第 22 回	間接費の管理１	ABC，ABM
第 23 回	間接費の管理２	マーケティングコスト，ロジスティックコスト，ファシリティコスト
第 24 回	営業活動と原価	価格決定，目標原価
第 25 回	設備投資意思決定１	経済性計算の方法
第 26 回	設備投資意思決定２	DCF 法，資本コスト
第 27 回	環境マネジメントと管理会計１	環境管理会計
第 28 回	環境マネジメントと管理会計２	MFCA
第 29 回	無形資産と企業価値のマネジメント	無形資産，ブランド，レピュテーション
第 30 回	まとめ	秋学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。

【テキスト（教科書）】
パワーポイントを利用した授業をしますが，基礎的な概念について下記の参考書を利用すると学習が進むことが期待されます。

【参考書】
谷武幸 (2013)『エッセンシャル管理会計（第 3 版）』中央経済社
浅田孝幸監訳 (2008)『管理会計のエッセンス』同文舘

【成績評価の方法と基準】
レポート，期末テスト，授業参加

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
計算やケーススタディなど参加できる要素も取り入れようと考えています。

【その他の重要事項】
簿記入門や会計学入門など会計系の基礎科目を履修していることが望ましいです。また原価計算論Ⅰ/Ⅱや経営分析Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳと相互に関連しています。ただし管理会計が Management Accounting の訳語であることからも理解できるように、組織のマネジメントを会計情報システムの視点から理解する科目であるため、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、人的資源管理Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱなどのマネジメントに関連する科目の理解を深めるための科目にもなります。

原価計算論Ⅰ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

原価計算論Ⅱ　　経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

福田　淳児　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原価計算の目的は、さまざまな目的に資するために、製品一単位当たりの製造原価を計算することにあります。原価計算論Ⅰでは、主に、原価計算の一連の計算手続を理解することを目的とします。原価計算論Ⅱでは、原価計算システムを通じて提供される原価情報が企業経営のどのような目的に役立つかを理解することを目的とします。

【到達目標】
原価計算論Ⅰでは、原価計算の基本的な概念および用語を説明できること、さらに製品原価の計算のための一連の手続き，すなわち費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算を理解することを目標とします。
原価計算論Ⅱでは、原価計算システムが経営管理目的に有用な情報を提供できることを理解することを目標とします。具体的には、経営管理目的での原価計算としての標準原価計算や直接原価計算が提供する情報の役立ち、さらに Activity-Based Costing の基本的なメカニズムを説明できることを目標とします。

【授業の進め方と方法】
原価計算論ⅠおよびⅡは講義形式で授業を行います。毎回、テキストならびに事業支援システムを通じて事前に配布した資料を利用して、重要な概念および計算メカニズムの説明および理論的な解説を行います。そのうえで、受講者に例題を解いてもらいます。原価計算論Ⅰでは、費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算という原価計算の一連の計算手続きに沿って学習を進めます。原価計算論Ⅱでは、原価管理目的に有用な原価計算である標準原価計算、利益管理目的に有用な直接原価計算、さらに Activity-Based Costing と伝統的な製造間接費の配賦方法との比較について学習を行います。
原価計算論Ⅰ/Ⅱとも、演習のための問題また発展問題を宿題として出すので必ず解いてくること。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	講義の概要紹介	原価計算の目的について説明する。特に、工業企業と商業企業の違いについて説明を行う。また、今後の講義の予定を紹介する。
2	原価計算の目的	原価計算の意義およびその財務会計および管理会計目的について、原価計算基準に依拠して説明を行う。
3	原価計算の諸概念	原価の一般概念および原価計算を学習する上で特に必要となる重要な原価の分類のいくつかについて詳しく説明する。
4	材料費の計算	材料費の意味およびその計算プロセスについて例題演習を交えながら説明する。
5	労務費の計算	直接労務費および間接労務費の区別およびその計算方法を説明する。
6	製造間接費の計算	製造間接費の意義、また製造間接費の配賦の問題を説明する。特に、製造間接費の配賦基準の選択、またその背後にある論理を詳しく説明する。
7	部門別原価計算の意義	部門別原価計算を行うことの意義を説明する。
8	部門別原価計算の計算手続	部門別原価計算の一連の計算手続きを説明するとともに、その具体的な方法を例題を交え説明する。
9	個別原価計算	製品別原価計算の一つである製品別原価計算の方法の一つである個別原価計算が適する生産形態および個別原価計算の一連の計算手続きについて説明する。
１０	総合原価計算の特徴	製品別原価計算のもう一つの方法である総合原価計算の特徴を個別原価計算との比較で説明する。
１１	総合原価計算における仕掛品の評価	総合原価計算における仕掛品の評価方法について説明するとともに、練習問題を解く。
１２	工程別総合原価計算の意義と累加法	部門別原価計算と伴う総合原価計算である工程別総合原価計算の意義また累加法による計算手続を説明する。
１３	工程別総合原価計算における非累加法	非累加法による工程別総合原価計算の計算手続きを説明する。
１４	その他の総合原価計算	等級別総合原価計算また組別総合原価計算について簡単な例題を交えて、説明を行う。
１５	講義のまとめ	春学期の講義のまとめならびに総合問題を解く。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	講義の概要紹介	原価計算論Ⅱで取り扱うテーマの概要を紹介する。特に、経営管理目的での原価計算についてその概略を紹介する。
2	標準原価計算の意義及びその目的	標準原価計算の意義とその目的について説明する。標準原価計算の主目的が原価管理であること、またその生成の歴史を説明する。
3	標準原価計算における原価標準の設定	標準直接材料費、標準直接労務費および製造間接費標準の設定方法について説明する。
4	標準原価計算における原価差異分析（四分法を中心に）	製造直接費および製造間接費の差異分析の方法について説明する。特に、製造間接費の差異分析について詳しく説明する。
5	標準原価計算の現代的な意義	現在の製造環境のもとでの標準原価計算による原価管理の有用性を，企業への調査結果を踏まえて検討する。
6	CVP 分析の意義	C・V・P 分析の意義、ならびに貢献利益の意味を中心に説明する。
7	CVP 分析の計算例	C・V・P 分析にかかわる問題演習を行う。
8	直接原価計算の意義	全部原価計算との対比で直接原価計算の意義・目的を説明する。
9	直接原価計算による損益計算書の作成	直接原価計算による損益計算書の作成について、全部原価計算との対比で説明する。
１０	直接原価計算と全部原価計算における営業利益の差異	直接原価計算と全部原価計算に基づく損益計算書において営業利益に差異生じる原因を明らかにする。さらに、それが経営者の意思決定に及ぼす影響を議論する。
１１	ABC の基礎的な概念	ABC の基本的な用語および概念について説明する。
１２	ABC と伝統的な製造間接費の配賦方法との比較	ABC と伝統的な製造間接費の配賦方法との違いをその相違点に焦点を当てて説明する。
１３	ABC のケース	ABC のケースを利用して、ABC が経営者の意思決定に及ぼす影響を説明する。
１４	日本企業のおける ABC の採用	日本企業における ABC の採用状況について考察する。
１５	講義のまとめ	原価計算の経営管理目的への役立ちまたその方法についてまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義を受ける前に、各回の指定されたテーマについて該当箇所のテキストを読み、また事前に授業支援システムを通じて配布された資料には必ず目を通しておくこと。さらに、テキストの例題を自分なりに解いてみて、わからない箇所を明確にして講義に望むこと。必要に応じて、講義の後に復習また発展的な学習のための例題を配布するので必ず解いて次の講義に持ってくること。

【テキスト（教科書）】
山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社 2016 年 (2400 円税別)

【参考書】
参考文献については、必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
原価計算論Ⅰ/Ⅱのそれぞれについて各期末に行われる定期試験の結果に講義への出席や課題の提出状況を加味して評価を行います。成績評価の配分基準は定期試験の結果 80 %程度、講義への出席、課題の提出を 20 %程度とします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業の内容が、難しいとのコメントとともに、簡単であるとのコメントも同時にもらっています。本授業の特徴上、受講者の事前の知識が大きく影響するので必ずしも全員の要求を満たすことは難しいかもしれませんが、講義では基礎的なところから説明し、発展問題についてはできるだけ課題の形で補足していこうと思います。

【学生が準備すべき機器他】
事前配布資料は授業支援システムを通じて配布します。

【その他の重要事項】
関連科目とし管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱおよび財務会計論Ⅰ/Ⅱなどがありますので同時に履修することを勧めます。また、春学期・秋学期合わせて履修することが望ましいです。

国際会計論Ⅰ　経営学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

国際会計論Ⅱ　経営学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

筒井　知彦　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際会計論Ⅰでは、会計基準の国際的な多様化と調和化について講義します。企業が直面する環境は国によって異なり、それが各国の会計基準の相違を生み出す原因となっています。春学期は、このような会計基準の多様化について取り上げます。具体的には会計と環境（経済的・法的・社会的・文化的環境）、会計基準の国際的多様性（アメリカ、ヨーロッパ、発展途上国等）、多様化に伴う弊害について講義します。
国際会計論Ⅱでは、企業の事業活動の国際化、資本市場の国際化等が進むなかで、国際的に共通の物差しを作り、企業の収益や財政状態の国際的な比較を容易にするよう求める声が強まっていることから、会計基準の国際的調和化を取り上げます。具体的には、国際会計基準の設定の経緯、国際会計基準の基本的考え方、日本的経営と会計、日本基準と国際会計基準の相違、アメリカの会計・監査の変遷と会計不正について講義します。

【到達目標】
国際会計基準の基本的な考え方が理解できる。日本的経営と会計の関係が理解できる。日本が会計を巡って現在置かれている状況と対応が理解できる。

【授業の進め方と方法】
春学期・秋学期
随時プリントを配布し、講義を中心に進める。具体的な事例も取り上げる。計算問題によりにより理解度を確認する。秋学期にはビデオも視聴する。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、会計および経営と環境の関係
2	環境変化が企業経営に及ぼす影響①	規制強化が企業経営に及ぼす影響：牛丼業界の事例
3	環境変化が企業経営に及ぼす影響②	規制緩和が企業経営に及ぼす影響：家電量販業界
4	会計と環境：経済的環境①	経済の発展レベル、政治および経済の安定性
5	会計と環境：経済的環境②	外国為替、円高と円安、外貨建て取引の会計、為替リスクへの対処、インフレーション
6	経営指標①	ＲＯＥ、ＲＯＡ、ＲＯＥとＲＯＡの比較
7	会計と環境：法的環境	成文法と慣習法
8	会計と環境：政治的環境	政治体制、共産主義、政府による資産の収用
9	会計と環境：資本市場	証券取引所、資本市場、負債市場
10	経営指標②	ＲＯＥの 3 分解、ドトールとスターバックスを事例とした計算問題
11	近年改訂された会計基準①	減損会計基準、減価償却と減損、費用配分と評価、公正価値
12	近年改訂された会計基準②	企業結合会計基準、パーチェス法、プーリング法、のれんの償却と減損
13	近年改訂された会計基準③	退職給付会計基準、勤務費用と利息費用
14	近年改訂された会計基準④	棚卸資産会計基準、後入先出法の禁止、資産負債アプローチ
15	まとめ	春学期の講義の総復習

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方
2	会計ルールの変遷	多様化、調和化、コンバージェンス、アドプション、エンドースメント
3	会計ビッグバン①	会計ビッグバンまでの日本：日本的経営、株式の持ち合い、含み益、外国人投資家、資本効率
4	会計ビッグバン②	フリー、フェア、グローバル、会計ビッグバンに伴う会計基準の改訂、ビデオ①
5	国際会計基準の設定①	ＩＡＳＣの設立、４つの転換点、ＩＯＳＣＯ、コアスタンダード
6	国際会計基準の設定②	ＩＡＳＢ、ノーウオーク合意、東京合意
7	国際会計基準への対応	国際会計基準への我が国の対応
8	国際会計基準の基礎①	概念フレームワーク、資産負債アプローチと収益費用アプローチ
9	国際会計基準の基礎②	公正価値と取得原価、原則主義と細則主義、ビデオ②
10	国際会計基準の基礎③	ビデオ③、退職給付会計の計算問題
11	国際会計基準の基礎④	退職給付会計、確定給付型年金と確定拠出型年金
12	アメリカの会計制度の変遷	大恐慌以前、証券法、証券取引法、ＳＥＣ、ＦＡＳＢ
13	アメリカの監査制度の変遷	会計不正、規制強化
14	アメリカにおける会計不正	エンロン、ワールドコムの会計不正と破綻、ビデオ④
15	まとめ	秋学期の講義の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義前にプリントを予習し、講義後にはプリントを読み直すこと。プリントにある計算問題について実際に解いてみること。講義やプリントで関心を持った部分について自ら調べてみるとよい。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】
定評のあるテキストとして、桜井久勝『テキスト国際会計基準第６版』白桃書房、秋葉賢一『エッセンシャルＩＦＲＳ第３版』中央経済社、広瀬義州『新版ＩＦＲＳ財務会計入門』中央経済社などがある。国際会計基準が網羅されている辞書的な文献として『国際財務報告基準 2014』中央経済社がある。

【成績評価の方法と基準】
３年生は試験 (80%)、出席点 (20%) により評価します。４年生は就職活動により出席できない場合もあるため、詳細については開講時に説明します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
ＯＨＰと板書のバランスをとりながら進めます。出席票に質問やコメントを書いてもらい、それについて授業内でフィードバックします。私語について厳しく対処します（退出してもらうこともあります）。

【その他の重要事項】
関連科目：会計学入門Ⅰ/Ⅱを履修していることが望ましい。財務会計論Ⅰ/Ⅱを並行履修することが望ましい。

情報と倫理

経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

寺本　卓史　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
いわゆる情報化の進展にともない、「情報漏えい」や「知的財産権の侵害」から「炎上」「バカッター」などに至るまで、さまざまなトラブルが近年目につくようになっている。こうした問題は、個人であれ企業などの組織であれ、避けて通ることはできない状況にあり、それぞれの立場・場面で対応が求められている。
こうした状況の背景には、ネット空間を中心として、日進月歩で新たな技術やサービスによりメディアのあり方に変化が迫られ続ける環境があげられよう。例えば、LINE を用いたコミュニケーションは数年前までは存在しなかったものであり、こうした新しい環境における問題（たとえば「既読無視」）の解決には明快な答えが用意されていない。このようにメディアの形が変化し続ける中では、個人や組織は定められたルールを順守するだけでなく、基盤となる「原則」と「戦略」の確立が重要となる。個人や組織は問題に対して自ら考えて対処することが必要な状況におかれているのである。
このような「原則」と「戦略」を考える基礎となるのが、個人や組織、そして社会における「倫理」である。本授業では、こうした解のない問題に対する個人、そして組織における対処の仕方について、「倫理」を広義の「コミュニケーション能力」と措定し、コミュニケーションの本質について触れながら、ネット空間における主体の在り方について受講者とともに考察する。

【到達目標】
本授業では、情報化に対して考え行動できるようになるために、以下の３点の理解・構築を授業目標として設定する。
１．現状存在する情報技術・サービス自体を知り、情報・情報化の本質に関して理解すること。
２．情報化に対応する社会制度について理解すること。
３．情報・情報化に対する自分なりの「原則」「戦略」を構築すること。
そして、本授業においては、こうした「原則」「戦略」を倫理と定義する。
この目的の実現のため、単に受け身の授業ではなく、受講者一人一人に「考える」ことを要請する。そのための仕掛けとして、授業内においてグループワークやゲストスピーカーとのディスカッションなどを予定している。

【授業の進め方と方法】
本授業は６つのセクションに分けて行う。
・ガイダンス (1 回)
本授業の内容を概観し、受講の意義と到達目標を明確にする。
・情報化によって発生したトラブルの現状 (2 回)
情報化の現状を、発生しているトラブルから探ることによって、情報化時代における個人と社会、企業と社会の関係を考察する。
・情報の特性 (3 回)
情報の特性を考察し、それによって今日進展している情報化社会の本質を明らかにする。
・情報化の進展と社会制度 (5 回)
法律と情報セキュリティマネジメントという 2 つの制度から、情報・情報化に適合的な制度がどのように設定されているか、またそれらの制度の意義と限界について考察する。
・情報倫理の構築に向けて (3 回)
情報・情報化に適合的な制度の限界を超える「原則」と「戦略」を確立するために必要な事柄について考察する。
・まとめ (1 回)
これまでの授業を総括し、成果と課題について考察する。
単なる一方通行の講義ではなく、獲得した知識を活用する能力を養うことを企図している。参加人数によって異なるが、具体的には、ディスカッションやグループによる作業、メールもしくは授業支援システムやレポートを利用した意見や考察の表明などを求める。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「情報と倫理」を受講するにあたって
2	情報化によって発生したトラブルの現状 (1)	ネットをめぐるトラブル―個人と社会の関係性
3	情報化によって発生したトラブルの現状 (2)	企業と情報戦略―企業と社会の関係性
4	情報の特性 (1)	情報の特性とその認識
5	情報の特性 (2)	情報化の進展
6	情報の特性 (3)	情報化の進展によって実現したサービス
7	情報化の進展と社会制度 (1)	情報化と法的制度―刑法と知財法における情報
8	情報化の進展と社会制度 (2)	情報化と法的制度―知財法と刑法における情報
9	情報化の進展と社会制度 (3)	企業組織における制度―情報セキュリティマネジメント (1)
10	情報化の進展と社会制度 (4)	企業組織における制度―情報セキュリティマネジメント (2)
11	情報化の進展と社会制度 (5)	企業組織における制度―情報セキュリティマネジメント (3)
12	情報倫理の構築に向けて (1)	情報資産の保護と活用―情報保護と利用
13	情報倫理の構築に向けて (2)	情報資産の保護と活用―模倣と社会進化
14	情報倫理の構築に向けて (3)	情報倫理を作り出す能力
15	まとめ	重層的な情報倫理の構築に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムを用いたレポート課題を毎週課す (選択回答式。全授業を通じて 3 回以上提出すること)。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない (参考書を参照)。

【参考書】
村田潔編『情報倫理 インターネット時代の人と組織』有斐閣選書 ISBN ： 4-641-28096-7
梅本吉彦編著『情報社会と情報倫理』丸善 ISBN ： 4-621-07017-7
斉藤了文『テクノリテラシーとは何か』講談社学術メチエ ISBN ： 4-062-58323-7
ローレンス・レッシグ『コモンズ』翔泳社 ISBN ： 4-798-10204-0
Tim O'Reilly "What is Web 2.0"
http://www.oreillynet.com/pub/a/oreilly/tim/news/2005/09/30/what-is-web-20.html
その他の参考書は授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席状況 (10%)、課題レポート (20%)、問題演習等におけるレポート提出 (20%)、期末試験 (50%) による総合評価とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
引き続き、授業支援システムによる課題レポートの提出、毎回の授業冒頭での紹介を行う。ただし、提出されたレポートを、これまで通りレジュメ上で紹介するか、他の方法を用いるかに関しては再検討する。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを用いた課題レポート提出を授業期間中に定期的に課す。(授業期間内に選択して 3 問以上解答すること)

【その他の重要事項】
情報系に関する知識の少ない人にも分かりやすい内容とする。
受講者は受け身ではなく、考えてもらう授業とするため、極力欠席しないことを要請する。
関連科目：
情報と職業 (秋学期) と連続して履修が望ましい (順序は問わない)
経営組織論Ⅰ/Ⅱ、経営社会学Ⅰ/Ⅱと合わせての履修が望ましい (順序は問わない)

【オフィス・アワー】
質問がある場合は E-mail で受け付ける。
メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

情報と職業

経営学科専門科目　　3〜4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

寺本　卓史　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、非正規雇用者の割合が上昇するなど、正規雇用に辿り着けない若者の増加が社会問題化している。さらに、正規雇用の職を獲得しても、いわゆる「七五三問題」と呼ばれる新卒就業におけるミスマッチも問題として指摘されるようになっている。こうした雇用とその後のキャリアにおける問題について考察し、職業に関するキャリアに対する考え方を受講者とともに考察するのが本授業のテーマである。
上記のような職業に関する問題は一方で、情報通信技術 (ICT) の進化に起因する考え方もある。近年見られる情報化による産業構造の変化とは、単なる新技術の導入による既存プロセスの効率化にとどまらず、プロセス自体や組織構造の変革、新しい産業の隆盛や起業の活性化、求められる人材像の変化などまで、きわめて広範囲に及ぶものである。こうした変化が雇用形態の変化に及ぼす影響の大きさは、今日の雇用状況に関する指標などからも確認可能である。
その一方で留意しなければならないのは、情報化によってこれまでの労働及び労働観が完全に変化する訳ではないことである。情報化社会においても、成員同士のコミュニケーションが労働を含めた社会的活動の基本であり、これまでの労働や職業のあり方が根本から変化してしまうわけではない。
こうした雇用の変化と産業構造の変化がどのように関連しているかを明らかにし、またこうした状況が労働自体の何を変化させ、何が変化しないのかについての考察を試みる。

【到達目標】
本授業では、情報化に対して考え行動できるようになるために、以下の３点の理解・構築を授業目標として設定する。
１．雇用形態と産業構造の関連から成立する「働く形」の変化について知ること
２．「職業観」に関して、情報化による影響を受ける部分と受けない部分について理解すること
３．「情報」の本質に関しての考察を通して、「知識労働」について学ぶこと
これらの理解を通して、就職活動期を迎えつつある受講者各人が、情報化社会における「働く意味」を戦略的に確立してもらうことを到達目標とする。この目的の実現のため、単に受け身の授業ではなく、受講者一人一人に「考える」ことを要請する。

【授業の進め方と方法】
本授業は 7 つのセクションに分けて行う。
・ガイダンス (1 回)
本授業の内容を概観し、受講の意義と到達目標を明確にする。
・現代における職業 (3 回)
雇用形態と産業構造の現状を、「非正規雇用」と「情報化」の二つをキーワードにその変化と現状を分析する。
・情報の特性 (2 回)
情報の特性を考察し、それによって今日進展している情報化社会の本質を明らかにする。
・職業観の歴史と変遷 (2 回)
職業観がどのように変遷を遂げたかを、主に西洋社会をテーマに取り上げ、古代、ローマ教会下、プロテスタンティズム、そして今日のリナックスイズムをそれぞれの代表的な論考を参考にしながら、辿って行く。
・情報化によるプロセスの変化 (3 回)
情報化によって、産業構造における労働プロセスにどのような変化が生じているのか、経営情報論を引用しながら明らかにする。
・求められる能力とリテラシー (3 回)
これまで取り上げてきた、情報の特性、職業観、産業構造のプロセス変化より、どのような能力及びリテラシーが今日の職業に求められているか分析する。
・まとめ (1 回)
これまでの授業を総括し、成果と課題について考察する。
単なる一方通行の講義ではなく、獲得した知識を活用する能力を養うことを企図している。参加人数によって異なるが、具体的には、ディスカッションやグループによる作業、メールもしくは授業支援システムやレポートを利用した意見や考察の表明などを求める。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「情報と職業」を受講するにあたって
2	現代における職業 (1)	非正規雇用と情報化の関係
3	現代における職業 (2)	情報化と雇用・産業構造の現状
4	現代における職業 (3)	情報化の職業に与えたインパクトとは何か?
5	情報の特性 (1)	職業活動における情報の意味
6	情報の特性 (2)	情報と知識の関係性
7	職業観の歴史と変遷 (1)	前近代・近代の職業観― M. ウェーバー、ハンナ・アレントから考える
8	職業観の歴史と変遷 (2)	現代の職業観―リーナス・トーバルズ、レイモンド・エリックから考える
9	情報化によるプロセスの変化 (1)	企業組織の情報化による変化
10	情報化によるプロセスの変化 (2)	効率追求のための情報化
11	情報化によるプロセスの変化 (3)	価値創造追求のための情報化
12	求められる能力とリテラシー (1)	情報化による役割変化
13	求められる能力とリテラシー (2)	情報化と個人の関係
14	求められる能力とリテラシー (3)	知識創造と職業
15	おわりに	戦略的な職業観の確立に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムを用いたレポート課題を毎週課す (選択回答式。全授業を通じて 3 回以上提出すること)。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない (参考書を参照)。

【参考書】
近藤勲編著『情報と職業』丸善 ISBN ： 4-621-07091-6
山崎信雄『情報と職業 ― 情報産業で働くための必要知識 ― 』ISBN ： 4-944-02492-4
ハンナ・アレント『人間の条件』ちくま学芸文庫 ISBN ： 4-480-08156-9
ペッカ・ヒマネン、リーナス・トーバルズ、マニュエル・カステル『リナックスの革命』ISBN ： 4-309-24245-3
レイモンド・エリック『伽藍とバザール』青空文庫
http://www.aozora.gr.jp/cards/000029/card227.html
城繁幸『若者はなぜ 3 年で辞めるのか？』光文社 ISBN ： 4-334-03370-9
その他の参考書は授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席状況 (10%)、課題レポート (30%)、期末試験 (60%) による総合評価とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業支援システムによる課題レポートの提出、毎回の授業冒頭での紹介を行う。ただし、提出されたレポートを、これまで通りレジュメ上で紹介するか、他の方法を用いるかに関しては再検討する。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを用いた課題レポート提出を課す。

【その他の重要事項】
情報処理技術者試験の受験経験 (合否は問わない)、もしくは興味・関心があるとより好ましい。
受講者に考えてもらう授業とするため、極力欠席しないことを要請する。
関連科目：
情報と職業 (秋学期) と連続して履修が望ましい (順序は問わない)
経営情報論Ⅰ/Ⅱ、経営社会学Ⅰ/Ⅱと合わせての履修が望ましい (順序は問わない)

【オフィス・アワー】
質問がある場合は E-mail で受け付ける。
メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

経営戦略学科
専門科目

国際経営戦略論Ⅰ　経営戦略学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

国際経営戦略論Ⅱ　経営戦略学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

安藤　直紀　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバライゼーションの進行に伴い、大企業だけでなく、中小企業やベンチャー企業でも何らかのかたちで外国企業や外国市場にかかわる機会が増加し、国際企業戦略が、企業の経営戦略の重要な部分を占めるようになっています。ですが、海外市場は日本とは異なる市場であり、日本と同じ方法で競争しても競争優位を獲得できるとは限りません。
本講義では、学生が、本国とは異なるビジネス環境の中で、企業がどのように現地のライバル企業に対して競争優位を得るのかについて理解し、その知識を活用して企業の国際経営戦略を分析できるようになることを目的とします。

【到達目標】
学生は、多国籍企業が直面するビジネス環境を理解します。
海外市場への参入戦略、現地での経営戦略、国際人材戦略、国際提携戦略など、国際経営戦略を構成する各要素を理解します。
国際経営戦略を理解するために必要な経営学の理論を理解します。
企業の国際経営戦略を分析できるようになります。

【授業の進め方と方法】
授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。
まず日本とは異なる海外のビジネス環境について講義します。その後、海外直接投資や多国籍企業に関する基本的な事項を講義します。さらに、エントリー戦略、海外での経営戦略、国際人材戦略、国際提携戦略などを講義していきます。講義の中では、多国籍企業にとって重要性が増している新興国市場に関する議論の比重を多くします。
理論に関する講義だけでなく、事例研究も行います。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	講義概要	講義に関するオリエンテーション
2	グローバライゼーション	グローバライゼーションの現状、要因
3	グローバル・ビジネス環境（1）	企業が外国で直面するリスク
4	グローバル・ビジネス環境（2）	企業が外国で直面する政治・経済・法システム、社会文化
5	グローバル・ビジネス環境（3）	新興経済で企業が直面する外部環境
6	海外直接投資（ＦＤＩ）	ＦＤＩの類型、ホスト国への影響
7	多国籍企業（ＭＮＣ）	ＭＮＣの定義、課題
8	途上国からの多国籍企業（ＤＭＮＣ）	ＤＭＮＣの現状と課題
9	企業の国際化理論（1）	なぜ企業は海外に進出するのか
１０	企業の国際化理論（2）	企業の国際化を説明する理論
１１	企業の国際化理論（3）	企業の国際化の拡大を説明する理論
１２	エントリー戦略（1）	エントリー・モードの類型
１３	エントリー戦略（2）	どのように外国市場に参入するか
１４	エントリー戦略（3）	各エントリー・モードのアドバンテージ
１５	総括	これまでの学習内容の総括

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	講義概要	これまでの復習と今後の学習内容の概要
2	国際経営戦略（1）	ＭＮＣへの２つのプレッシャー
3	国際経営戦略（2）	国際経営戦略の類型
4	国際経営戦略（3）	ＭＮＣの組織と戦略
5	海外子会社（1）	海外子会社のコントロール
6	海外子会社（2）	海外子会社と本社との関係
7	国際ＨＲＭ（1）	ＰＣＮおよびＨＣＮのコンピテンシー
8	国際ＨＲＭ（2）	ＰＣＮの失敗要因
9	国際ＨＲＭ（3）	海外子会社の人事政策の類型
１０	国際ＨＲＭ（4）	海外子会社の現地化
１１	国際提携戦略（1）	国際戦略的提携への動機
１２	国際提携戦略（2）	国際戦略的提携の締結
１３	国際提携戦略（3）	国際戦略的提携のマネジメント
１４	国際Ｍ＆Ａ	国際Ｍ＆Ａの動機、買収後の統合
１５	総括	これまでの学習内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期
１－２回：グローバライゼーションが企業に与える影響を考える
３－５回：日本と海外とのビジネス環境の違いが国際経営に与える影響を考える
６－８回：多国籍企業の国際経営の事例調査
９－１１回：企業の国際化に関する理論を調査
１２－１４回：エントリー・モードに関する理論を調査
１５回：これまでの学習内容の復習
秋学期
１回：春学期の内容の復習
２－４回：国際経営戦略の類型について調査
５－６回：本社と海外子会社の対立関係について考える
７－１０回：海外子会社の現地化と海外子会社の業績との関係について考える
１１－１３回：国際戦略的提携の事例調査
１４回：国際Ｍ＆Ａの事例調査
１５回：これまでの学習内容の復習

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。補助的な材料として、授業支援システムにパワーポイント資料を掲載します。

【参考書】
浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003 年
Bartlett,C.A. & Ghoshal, S. (1998). Managing Across Borders (2nd ed.). Massachusetts: Harvard Business School Press.

【成績評価の方法と基準】
春・秋学期ともに、定期試験で評価します。
不定期的に講義中に行ってもらう作業をプラス点として評価し、定期試験の点数に加算します。作業については、開講時に指示します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
理論の説明を補完するために、より多く企業の事例や各国の事情に関して言及します。

【その他の重要事項】
経営戦略論Ⅰ/Ⅱを履修しておくと理解がより深まると思います。

国際経営論Ⅰ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

国際経営論Ⅱ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

洞口　治夫　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際経営論とは、企業経営の国際化に伴う諸問題を解決に導く方途を研究する学問の総称です。国際経営論の目的は、グローバル化を進める企業経営の実態を知り、無用な思い込みによる経営の失敗を避ける方途を社会科学的に示すことにあります。本講義では、さまざまな国や地域で事業を営む多国籍企業の諸活動について、理論と実態の双方を織り交ぜながら講義します。どのような企業が製品開発を海外で行ったり、国際的なマーケティングを行っているのでしょうか。国家間の通貨安競争や国境を越えた人的資源の調達などの課題を持つ日本の多国籍企業はいかに行動すべきでしょうか。こうした問題を考えるための基礎的な概念を学んでいきます。

【到達目標】
この授業では、学生諸君が、将来、国際的なビジネスパースンとして活躍するときに必要となる基礎知識を身につけることを目標とします。そのために、多国籍企業が現代社会に対してどのような影響を与えているのかを把握できるようになることを目標とします。また、外国為替レートの変動に関する理論を理解し、その動向への見通しを立てられるようになること、および、理論的な考え方の面白さを理解できるようになることを目標とします。日本語および英語の新聞記事を読み、その意味を的確に理解できるようになることを目的とします。「ものの見方」としての理論を身につけることによって、国際的なビジネスの動向を深く理解して現実に応用できるようになることが目標です。理論的な考え方は数学にもとづくものですが、中学校レベルの予備知識を前提として丁寧に説明します。

【授業の進め方と方法】
春学期には多国籍企業の経営活動について説明します。秋学期には輸出代金の回収や投資収益回収の際に重要となる外国為替レートの決定要因に関する考え方をやさしく説明します。パワーポイントやビデオなどの補助教材は利用しますが、できるだけ黒板への板書を増やし、口頭での講義とともにノートをとるという学習方法を中心とします。その理由は、ビジネスの世界では、すべての情報がパワーポイントによって提供されるわけではないからです。営業先での会話や情報のやりとり、会社内で受ける上司からの指示や会議の内容などは、自らノートにとって整理する必要があります。参加学生による教科書の音読も行い、専門用語の理解を確認します。思わぬ読み間違いは、留学生のみならず、日本人学生にも起こりうることです。春学期、秋学期には、それぞれ１ページ程度の英文を読み、ビジネス用語を学ぶとともに英語力の確認をしていきます。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第１回	国際経営論の概要説明	講義目的、講義概要、成績評価、文献検索方法の説明、研究と実務の関係、英語の勉強方法、経営理論について。
第２回	世界経済の現況と国際経営	現代世界経済における国際経営の時事問題。
第３回	多国籍企業とは何か	多国籍企業の定義と実態について。基本データの確認。
第４回	海外直接投資と企業内貿易	海外直接投資により構築される現地子会社と親会社との企業内貿易について。
第５回	海外直接投資の理論	経営資源、取引費用、機会主義、限定された合理性。平均、分散、相関係数。
第６回	多国籍企業の組織と所有政策	親会社と現地子会社との関係（親子関係）について。極限、導関数、階乗、回帰分析のための最小二乗法。
第７回	知識管理と産業創造性	暗黙知、形式知、集合知。コア技術とコピー技術。
第８回	国際人的資源管理	海外派遣の社内規定。海外赴任のローテーションと現地従業員のモチベーション。
第９回	経営進化理論の展開	社会科学に適用される進化の考え方について。製品開発論の基礎。
第 10 回	生産管理と日本企業	部品在庫、中間在庫、製品在庫、ジャスト・イン・タイム生産、小集団活動、ＴＯＣ理論。
第 11 回	オペレーションズ・マネジメント	組織ルーティン、ルーティンの進化、機械による代替、ＩＴの利用。
第 12 回	流通・ロジスティックス企業の国際化	製造企業と流通関連企業の国際化の同期化について。
第 13 回	クリエイティブ・インダストリーの国際化プロセス	創造性・芸術性と契約。情報の非対称性と「ノバディノウズ」。
第 14 回	ボトム・オブ・ピラミッド（ＢＯＰ）と多国籍企業	ロシア、中国、インド、ブラジル、東南アジアの経済と企業。文化摩擦。
第 15 回	授業内テスト	基本用語の定義の理解。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第１回	外国為替レートと多国籍企業	外国為替レートの重要性、主要な為替制度について。2016 年における通貨危機の事例。
第２回	外国為替と国際マーケティング	国内でのマーケティングと異なる要因と４Ｐ、ＳＴＰなど基礎概念の復習。
第３回	国際マーケティングと移転価格	現地適応とグローバル統合。為替レートの影響をいかに避けるか。
第４回	為替レートの決定理論	購買力平価説、金利平価説、オーバーシューティング、ランダムウォーク、ニュースの役割について。
第５回	金利平価と新聞による為替解説記事	利子率の意味。数学的予備知識の復習、べき乗（累乗）、極限、導関数、階乗について。
第６回	ランダムウォーク入門（１）二項分布と平均・分散・標準偏差	確率・統計の基礎。「３枚のコインを投げて２枚が表になる確率は？」。
第７回	ランダムウォーク入門（２）正規分布	正規分布の数学的な特徴。
第８回	統計的検定	正規分布を応用した統計的検定の例題。
第９回	ランダムウォークとウィーナー過程	二項分布とウィーナー過程の類似性について。
第 10 回	直物、先物、オプション	外国為替取引における直物、先物、オプションについて。
第 11 回	先物市場とニュースの役割	為替レートの安定化のために開発された先物市場がもたらす不均衡について。
第 12 回	オプションとリアルオプション	オプションの応用としてのリアルオプションについて。
第 13 回	直接投資の理論とリアルオプション	直接投資の理論的説明に応用されるリアルオプションの考え方について。
第 14 回	集合知による為替レート予測	最新の研究成果としての人的予測。
第 15 回	授業内テスト	為替レート理解のための総括テスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に参加する前に教科書の該当箇所を読み、わからない用語を調べる必要があります。数学の準備としてはＡ．Ｃ．チャン、Ｋ．ウエインライト『現代経済学の数学基礎（上）』シーエーピー出版を読んでみることを勧めたいと思います。基礎を固めたい諸君には、ＮＨＫラジオの高校数学講座はインターネットで聞くことができるので、数学Ⅱを聞いてみることを勧めます。
http://www.nhk.or.jp/kokokoza/radio/r2_math2/
サイトにアクセスすれば印刷教材をプリントアウトすることも可能です。日本語、英語で新聞記事が配布された回には、それらの内容を読み、理解する必要があります。

【テキスト（教科書）】
(1) 原田順子・洞口治夫編著 (2013)『国際経営（放送大学教材）』放送大学教育振興会。＜授業では、テキストのなかのいくつかの章を、より詳しく説明します。理解を確認するために授業内で音読をします。＞
(2) そのほかに適宜、講義資料を配布します。

【参考書】
(1) 東北大学統計グループ (2002)『これだけは知っておこう！ 統計学』有斐閣。＜春学期の回帰分析、秋学期の正規分布の説明で利用します。＞
(2) 洞口治夫 (2009)『集合知の経営－日本企業の知識管理戦略－』文眞堂。＜知識管理についての研究書であり、すでに中国語、英語に翻訳されて出版されています。本書の内容は春学期授業の一部に該当しています。＞
(3) 洞口治夫・行本勢基 (2012)『入門 経営学 (第 2 版)』同友館。＜出版以来、公認会計士二次試験問題として毎年出題されてきた実績があります。国際経営についての章があり春学期の授業の一部に該当しています。＞

【成績評価の方法と基準】
成績評価は下記の項目を総合的に判断して行います。
(1) 授業内容のノートテイキングを基礎にした課題レポート（20 %）
(2) 授業内テスト (100 点満点)（80 %）
毎回授業に出席していれば解ける設問を試験で出します。毎回の授業に出席することが望ましいでしょう。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
毎年、授業改善アンケートでは感謝の言葉が並んでいます。その具体的な内容としては、「大学での学問と、ビジネス実務とのつながりが理解できた」、「大学らしい授業で学んだ気がした」、「難しいことをわかりやすく解説してもらえた」といったものです。本授業の内容がＳＰＩといった就職活動での筆記試験にも役立つことは、この授業を担当してからの「気づき」といえます。

【学生が準備すべき機器他】
ノートテイキングのためのノートと筆記用具。英和辞書機能つき電子辞書ないしスマホ。授業内容の告知のためには授業支援システムを利用しますので、それが閲覧できるパソコン。授業ではパワーポイント、黒板、パソコン、ＤＶＤ、ＯＨＰなどを用いて講義をします。

【その他の重要事項】
国際経営論を履修する前に、経営学総論、基礎統計、経営戦略論、経営管理論を履修することをお薦めします。第１時限目の授業なので、教員は、授業のベルが鳴る前に教室にいるように心がけています。学生諸君も、授業開始５分前には教室に来て、授業の準備をして下さい。90 分という限られた時間を有効に使いたいと思っています。参加学生諸君は、「もうすぐ社会人」となることを意識して社会人としての常識と礼節を欠かさぬよう心掛けてほしいと思います。オフィスアワーは木曜日の 6 時限、18:30～20:00、ＢＴ 1814 研究室です。

戦略的意思決定論Ⅰ　経営戦略学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

戦略的意思決定論Ⅱ　経営戦略学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

福島　英史　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は，企業組織の戦略的意思決定について考えるための概念，論理，視角を学習することにあります．経営現象は，組織内及び組織外での様々な意思決定の連鎖と合成から理解することができます．この授業では，日々の業務に直接関わる業務的意思決定や，開発・生産・販売といった機能分野ごとの管理的意思決定ではなく，特に戦略性をもった思考が必要とされる企業のあり方・事業のあり方に関わる問題をテーマとして考えます． 現実の事例についても織り交ぜながら学んでいきます．

【到達目標】
経営事象を織りなす様々な戦略の意思決定とその合成過程について，論理的に理解し，説明できるようになることが到達目標です． 戦略の意思決定の背後にどのような経営上の基本的な考え方があるのか．また，自社のみならず，他社の意思決定を考えた場合に，結果としてどのような状況が産業に生じるのか．現実の会社がなぜ M&A 等で規模位を拡大しようとするのか．産業で市場地位の交代が起きるのはなぜか．一見直接の関係がなさそうな会社に出資したり支援したりするのはなぜか．こういった問題について基本的な説明経路の理解を進めていきます．

【授業の進め方と方法】
事業モデルの選択と競争上の位置取り，環境変化への対応の背後にある戦略上の論理を理解するための枠組みを学びます．ある産業，あるいは企業が収益力において勝るのはなぜか，といった問題にアプローチします．講義中に扱われるトピックスに関連したエクササイズやミニ・ケースを解くなどの課題が課されます．その際，指名された履修者は，意見を求められます．

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
2	事業の組立と市場戦略 1	製品事業の基本的観点
3	事業の組立と市場戦略 2	市場戦略の枠組み
4	競争の構造と収益性 1	競争構造の基本的観点
5	競争の構造と収益性 2	プレーヤー間の代替関係
6	競争の構造と収益性 3	プレーヤー間の補完関係
7	産業のライフサイクルと費用構造 1	市場変動と費用構造
8	産業のライフサイクルと費用構造 2	キャパシティ
9	事業背景と参入・撤退の決定 1	参入企業の事業背景と競争
10	事業背景と参入・撤退の決定 2	事業投資の意思決定と収益性
11	事業システムの視点 1	事業システムの基本枠組み
12	事業システムの視点 2	システム内外の競争と協調
13	利益配分とパワー構造の変革 1	パワー分布と利益配分
14	利益配分とパワー構造の変革 2	構造の変革
15	試験	学習成果の確認

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
2	企業の成果尺度	企業戦略の成果を見る基本指標
3	ゲーム理論的発想 1	基本枠組みの理解
4	ゲーム理論的発想 2	競争戦略の新たな視点
5	基本戦略と大規模化 1	規模を追う戦略の論理
6	基本戦略と大規模化 2	規模を追わない戦略の論理
7	技術革新と基本戦略 1	技術革新のライフサイクル
8	技術革新と基本戦略 2	複数戦略の同時追求とコモディティ化の論理
9	技術革新と基本戦略 3	技術・市場の発展と日米の戦略観
10	技術革新と市場地位	市場地位の交代が生じる論理
11	経営資源アプローチ 1	狭義のリソース・ベースド・ビュー
12	経営資源アプローチ 2	学習を重視する戦略観と日本企業の現状
13	全社的な意思決定 1	企業の垂直的範囲と合理化の意思決定
14	全社的な意思決定 2	事業の多様化と集約化の意思決定
15	試験	学習成果の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回講義について復習するとともに，身近な事例についてその意味を考えてみる．

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません．

【参考書】
講義中に適宜案内します．

【成績評価の方法と基準】
期末試験の評点にもとづいて成績を決定します．但し講義中に行われるエクササイズの点数は，「ボーナス」として上記合計点に加算します．

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
昨年とは担当者が変わっています．過年度のフィードバックから話す速度を調整します．

【その他の重要事項】
講義中の私語はご遠慮ください． 関連科目は，経営学総論，経営組織論，経営戦略論，マーケティング論，経営管理論，日本経営論，流通論，技術管理論，製品開発論，国際経営戦略論，中小企業論，組織経済学。戦略的意思決定論Ⅱ（秋学期）は理解の促進のため，Ⅰ（春学期）と併せて履修することが望ましいです．

日本経営史Ⅰ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

日本経営史Ⅱ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

二階堂　行宣　専任講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・19 世紀後半～20 世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。
・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】
・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。
・「各時代における経済・経営環境の変化 → ビジネス・チャンスの発生 → 企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。
・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【授業の進め方と方法】
・配布する資料に基づき、講義形式で進めます。
・江戸時代の後期から解説をはじめ、明治前期 → 産業革命期 → 第一次大戦期 → 戦間期 → 戦時～戦後高度成長期、の順に取り上げます。それぞれの冒頭には、当該期の経済状況について概観する回を設けます。
・また、冬学期の終盤には「日本の鉄道業」を特に取り上げ、創業から現在に至る 150 年弱の事業展開を概観します。今までの授業で解説してきた時代を「鉄道」という切り口からもう一度振り返り、理解を深めることが目的です。
・理解度の確認のため、小テストを数回（各学期 2 回程度）実施する予定です
・関連する映像資料（ビデオ）の視聴も随時行います。
・冬学期の終盤には、ゲストによる特別授業（大手鉄道会社の経営者が候補）を予定しています。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
2	江戸時代の経営	概説：幕末維新期の日本経済
3	江戸時代の経営	幕末維新期の新興商人：丁吟と吉村屋の発展
4	江戸時代の経営	大店の明治維新：三井家と三野村利左衛門
5	江戸時代の経営	海商の活躍：北前船と地方荷受問屋の活躍
6	明治前期の経営	概説：明治前期の日本経済
7	明治前期の経営	政商の登場：三菱の創始者・岩崎弥太郎
8	明治前期の経営	政商の登場：住友の事業再編と広瀬宰平
9	明治前期の経営	企業者活動の組織化：「会社」の誕生と渋沢栄一
10	産業革命期の経営	概説：日本の産業革命
11	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三菱合資会社と荘田平五郎
12	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三井の財閥化と中上川彦次郎
13	産業革命期の経営	ネットワークの発達：安田善次郎と金融ネットワーク
14	産業革命期の経営	地方からの産業革命：安川敬一郎とその時代
15	まとめ	幕末～産業革命期のビジネス・チャンスと企業家活動

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	復習：幕末～明治期における日本経営の概観
2	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済
3	第一次大戦期の日本経済	大戦ブームと企業者活動：鈴木商店と金子直吉
4	第一次大戦期の日本経済	大戦ブームと企業者活動：久原房之助と鮎川義介
5	戦間期の経営	概説： 1920～30 年代の日本経済①
6	戦間期の経営	概説： 1920～30 年代の日本経済②
7	戦間期の経営	新たなビジネス・モデルの創出：小林一三と阪急
8	戦間期の経営	重化学工業の発展：野口遵と日本窒素肥料
9	戦時～戦後高度成長期の経営	概説：戦中～戦後高度成長期の日本経済
10	戦時～戦後高度成長期の経営	軍需産業の再編と財閥解体
11	戦時～戦後高度成長期の経営	高度経済成長と企業経営：中内功とダイエー
12	テーマ別講義：日本の鉄道経営史	明治～戦前期の幹線鉄道経営
13	テーマ別講義：日本の鉄道経営史	戦後～1980 年代までの幹線鉄道経営
14	テーマ別講義：日本の鉄道経営史	国鉄分割民営化～現在までの幹線鉄道経営
15	まとめ	近現代日本のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、事前に 19 世紀以降の歴史の大まかな流れを予習してください。
・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。

【テキスト（教科書）】
・使用しない。

【参考書】
①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣、2004 年）。
②宮本又郎・阿部武司ほか『日本経営史［新版］』（有斐閣、2007 年）。
③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧　補訂版』（東京大学出版会、2010 年）。
④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣、2011 年）。
⑤三和良一『概説日本経済史　近現代（第 3 版）』（東京大学出版会、2012 年）。
⑥粕谷誠『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会、2012 年）。
⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』（中央公論新社、2013 年）。

【成績評価の方法と基準】
・定期試験（70 %）＋小テスト（30 %）。
・以上の配点を基本としますが、優れた答案の場合はさらに加点することがあります。
・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。
・科目の性格上、試験問題はすべて論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説をしてほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。
・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時にできるだけ拡大して掲載するなどの改善を心がけます。
・「授業のポイントがつかみにくい」という声に対しては、毎回の資料の末尾に練習問題を設け、授業中に解説することで対応します。

【学生が準備すべき機器他】
・資料の配布や諸連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
・日本経済論Ⅰ／Ⅱ、産業史Ⅰ／Ⅱ、日本経営論Ⅰ／Ⅱをあわせて受講すれば、理解がより深まります。

中小企業論Ⅰ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

中小企業論Ⅱ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

稲垣　京輔　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、創業初期段階にある企業の事業創造プロセス、あるいは成熟化を乗り越えようとする企業のマネジメントと組織にフォーカスすることをテーマの中心に据え、変革の主体としての中小企業の活動について主に学びます。中小企業論Ⅰでは、中小企業間の連携やネットワークといった企業間関係を主にみていきます。そこでは、グローバル化、技術や市場ニーズの急激な変化に対応するなかで、新たなビジネスモデルを構築し、経済の活性化に貢献する中小企業が存在する一方で、戦略的な行動がとれず、既存のネットワークの中で経営に苦しむ中小企業の姿も見えてきます。企業間の関係を分析することによって、中小企業の二面的な姿をとらえることが目標です。

【到達目標】
就職先として中小企業やベンチャー企業により深い関心を持ち、より豊富な知識を得ることです。

【授業の進め方と方法】
講義は、パワーポイントの資料をもとに展開されます。各回の資料は、講義前日までにホームページ上にアップしますので、事前に各自でダウンロードした上で、印刷したものを持参するようにしてください。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方 学問としての中小企業とは
第 2-3 回	ネットワークと組織	市場・組織・ネットワーク 企業間のネットワーク 企業内ネットワーク
第 4-5 回	戦略的ネットワーク	戦略的ネットワークとは何か 提携のためのコスト ネットワークの活用と効率化
第 6-7 回	相互行為的ネットワーク	相互行為的ネットワークとは何か 商店街の衰退について考える 協同組合
第 8 回	ソーシャルキャピタル	ソーシャルキャピタルとは何か 創発的ネットワーク 信頼関係とは何か
第 9-10 回	地域ネットワークと中小企業	衰退する日本の中小企業とネットワークの弱さ イタリアの中小企業と産業集積
第 11-13 回	中小企業の組織問題	環境への適応と組織変革 組織の設計
第 14-15 回	事業承継	高齢化する中小企業 事業承継者の不足

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方 起業家活動の担い手
第 2-3 回	日本の事業創造の担い手	事業創造を取り巻く環境と日本の新規開業者のプロフィール
第 4 回	社内ベンチャー	大企業における社内ベンチャーと事業創造戦略
第 5 回	大学発ベンチャー	大学発ベンチャーの意義 日本の大学発ベンチャー
第 6 回	起業家と戦略形成	起業は戦略的におこなわれるのかについて考える
第 7 回	起業家のリーダーシップ	事業創造型組織、クリエイティブ組織における創発型のリーダーシップとは何か
第 8-12 回	中小企業における人的資源管理	社員の帰属意識 モティベーション 集団行動の原理
第 13 回	中小企業における働き方	転職とキャリア構造の変化 キャリア形成
第 14 回	事業創造型のネットワーク	自分の人脈について考える
第 15 回	期末試験	持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
講義資料は毎回、各自でダウンロードして持参すること。

【参考書】
講義資料は、各自でダウンロードすること。
毎回の講義で用いた文献については、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
１期末の定期試験： 100 点満点　 50 %（60 点未満は単位無効）
２課題レポート（ほぼ毎回）： 50 %（各学期 4 回以上欠席すると単位無効）
※各学期の課題レポートの欠席回数が 3 回以下であっても、定期試験で 60 点未満であれば、評定が「D」となるので注意すること。
※課題レポートは、講義中に出された課題に答え、提出してもらいます。授業時間外や翌週に提出しても無効です。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
期末試験だけではなく、より出席点を反映した評価を行うようにしました。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
関連科目は、経営社会学Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、組織行動論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、日本経営論Ⅰ/Ⅱです。

日本経済論Ⅰ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

日本経済論Ⅱ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

平田　英明　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。（中略）　日本は世界で最も好きな国々の一つだ。でも、私が仮に 20 歳以下の日本人なら国を出ていくだろう」という衝撃的な発言しています。一方で、ノーベル賞を受賞した世界的に著名なプリンストン大学のクルグマン教授のように、消費税増税を凍結して、いわゆるアベノミクスを推進すれば、日本経済は心配ないといった主張もあります。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、ということを理解することを目的とします。

【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中枢の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に理解することが目標です。大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかると思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目先の目標として「経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解する」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【授業の進め方と方法】

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て授業支援システムを使って発信します。

昨年度は、政策当局の経済分析責任者と国会議員の方に授業内で２回講演してもらいました。皆さんの意見も踏まえ今年度も実務家の講演を織り込む予定です。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	日本経済をなぜ学ぶのか	授業計画の紹介と日本経済の基本的特徴の説明をします
2-3	日本経済を丸ごとつかむ	マクロ経済学的な視点から日本経済を概観します
4	マーケットをつかむ	需要と供給の基本的な仕組み、マーケットの役割を学びます
5-6	働くこと、会社の機能をつかむ	学ぶことと働くことの関係、企業の基本的な仕組みを把握します
7	カネは天下をめぐる－お金とは何かをつかむ	お金がどのように経済の中で循環しているのかを理解する必要がありそうです
8-9	利子（金利）の役割をつかむ	そもそも利子がなぜ企業経営に大事なのでしょうか。マイナス金利の意味も含めて学びます
10	日本経済の底力をつかむ	国際比較も通じながら日本の潜在的な経済力の現況を理解します
11-12	政府の役割をつかむ	政府の日本経済の中での位置づけを理解します
13-14	貿易と日本経済の関係をつかむ	日本の貿易構造、ＴＰＰの特徴を理解します
15	おさらい	春学期の内容を復習します

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1-2	日本経済のボトルネック１：デフレ問題	バブル経済とその後についての歴史を学びます
3-5	同２：少子高齢化問題	少子高齢化問題が、なぜ大事なのでしょうか
6-7	同３：労働市場の構造問題	日本的な雇用システムの合理性と非合理性を理解します
8-9	同４：わが国の家計貯蓄率の低下	日本経済における貯蓄の特徴とその歴史的な経緯を理解します
10-11	ビッグデータと日本経済	ビッグデータの役割を理解しましょう
12-13	経済ショック１：金融危機と日本経済	アジア通貨危機とリーマンショックを中心に議論します
14	同２：東日本大震災と企業行動	東日本大震災が企業行動に与えた影響について紹介します
15	同３：エネルギー価格と日本経済	燃料価格と日本経済の関係について考えていきます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに復習に重点を置いてください。宿題は任意提出です。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しません。マクロ経済学の教科書（例：福田・照山『マクロ経済学入門』（有斐閣））、浅子・飯塚・篠原『入門・日本経済』（有斐閣, 2015）があると便利でしょう。

【参考書】

各種論文等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

１．出席は取りません。
２．単位の評価は２つの方法で行います（期末試験時に選択）。
【コース１】成績のウエイトは、宿題（各学期１回）等３５％＋期末試験（持込可）６５％＋Ｘ％（授業への参加（発言、質問等））です。昨年度の場合、Ａ＋＝３５％、Ａ＝３５％、Ｂ＝２５％、Ｃ＝５％、Ｄ＝０％でした。
【コース２】期末試験（持込可）のみで評価します。取得可能な成績はＡ～Ｄです。昨年度のこのタイプの履修生の成績は、Ｂ＝４７％、Ｃ＝５０％、Ｄ＝３％でした（注：昨年度の取得可能な成績はＢ～Ｄでした。今年度からＡ～Ｄにルールを変更します）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

在外研究中の授業参観の成果を取り込む予定です。

【その他の重要事項】

Ⅰ、Ⅱを連続履修することを薦めます。マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ、ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

国際経済論Ⅰ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

国際経済論Ⅱ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

高橋　理香　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2015 年 10 月に日本とその他 11 カ国の間で TPP に関する大筋合意が成立し、国際通商システムや国際取引における世界のルールのあり方が大きく変わろうとしています。このニュースを知っていても、TPP とは何か、TPP によって何がどう変わろうとしているのか、日本はどの国とどのような貿易をどのくらいの規模で行い、どのような貿易政策をこれまで行ってきたかを正しく理解している人は少ないのではないでしょうか。本授業では、このような内容を踏まえた上で、現代のグローバル経済のもとで行われているさまざまな国際取引のメカニズムを考察し、その本質を明らかにします。国際経済学の中でも主に貿易に焦点を当て、その流れについて理論的・歴史的な解説を行った上で、現代において特に重要とされるトピックスを取り上げて問題点を解明します。国際経済論Ⅰでは国際貿易の基本構造について、国際経済論Ⅱでは貿易政策や国際経済システムについて、理論と現実のトピックスを交えた講義を行います。

【到達目標】

この授業を通して、現実の国際経済にまつわる出来事に関心を持ち、現代の複雑な国際経済のメカニズムを論理的に分析できるようになることを目標とします。現代では、日本を含めて殆ど全ての国が他国との関わりの中で経済活動を行っています。日本の企業活動や私たちの消費活動にも外国との取引や外国の経済状況が大きく関わっていることは、日々の生活から皆さんも実感しているのではないでしょうか。この授業では、日本や世界でどのような国際的な取引が行われ、そのような取引によって日本や世界の経済がどう変化してきたのかを理解するために、理論的な分析ツールと様々なエビデンスデータを使って講義を進めていきます。

【授業の進め方と方法】

各回の講義ノートを予め配布した上で、パワーポイントのスライドを使って講義を展開していきます。理解を深めるために、統計データなどの資料も参照しながら解説します。授業の冒頭では、各回のテーマに入る前に、国際経済に関する時事的なトピックスとして、新聞記事（日本語・英語）を紹介しながら解説します。また、授業内演習や宿題の答え合わせなどを行うこともあります。2015 年度からは、授業内のグループワークを行い、学生からの能動的な学習を重視しています。授業に関する告知や講義ノート・宿題の問題等は、授業支援システムを使って配信しますので、各自が適宜確認してください。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	データから日本の貿易を理解します。
2	貿易と市場 1	モノやサービスを買う人と売る人の考え方を学びます（ミクロ経済学の復習）。
3	貿易と市場 2	市場・均衡・交換の利益とは何かを学びます（ミクロ経済学の復習）。
4	貿易と市場 3	貿易を考慮した場合の市場メカニズムや貿易の利益を理解します。
5	問題演習	部分均衡分析を使って、貿易市場のメカニズムを理解します。
6	技術格差と生産パターン	各国は何を輸出し何を輸入するが望ましいか、リカードの比較優位のモデルを使って考察します。
7	比較優位と日本の貿易	比較優位の理論と現実の日本経済の関係を理解します。
8	生産要素の賦存量と貿易パターン	各国は何を輸出し何を輸入するのが望ましいか、ヘクシャー=オリーンの貿易モデルを使って考察します。
9	問題演習	伝統的貿易理論を理解します。
10	新しい貿易理論の登場	現実の経済では、同一財の貿易や、生産要素（労働や資本）の国際間移動が増えていますが、これまで学んだ伝統的貿易理論ではそのような想定はされていませんでした。この回では、新しい貿易理論が登場した背景について学びます。
11	水平的産業内貿易の理論と実証	車と車の貿易がなぜ成立するのか、製品のバラエティと規模の経済をキーワードに学びます。
12	垂直的産業内貿易の理論と実証	車と車の部品の貿易がなぜ拡大しているのか、フラグメンテーションをキーワードに学びます。
13	企業の異質性と貿易に関する理論と実証	輸出を行う企業は、全体のごく一部です。貿易に関わる企業の特質は何か、最新の研究にふれながら学びます。
14	資本や労働の国際移動	海外直接投資や外国人労働の導入によって、日本経済がどのように変化したのかを理解します。
15	まとめ	春学期の授業を総括します。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	日本の貿易政策について、他国と比較しつつ、データを用いて学びます。
2	日米貿易摩擦とさまざまな貿易政策	日本の貿易政策に関する歴史的背景について、日米貿易摩擦を軸に説明します。
3	関税政策の理論	関税をかけると、誰がどのくらい利益を得るのか、もしくは不利益を被るのかを分析します。
4	日本や外国の関税政策	日本やアメリカの関税政策について、理論・データ・歴史的観点から多角的に理解します。
5	輸入数量割当政策と日本の牛肉・オレンジ自由化政策	日本の牛肉・オレンジ・コメの輸入数量制限とその後の自由化政策について、関税政策との類似点・相違点を理解します。
6	輸出自主規制と日本の自動車産業	日本の自動車の輸出自主規制について、理解します。輸出に対する貿易政策は輸入に対する政策とどう違うのか理解します。
7	国内不完全競争政策と日本の流通市場	かつての日本の大店法による競争制限が貿易を通じて日本の流通市場にどのような影響を与えたのかを理解します。
8	戦略的相互依存関係と貿易政策	互いの国が戦略的に貿易政策を採用する時の均衡を記述し、分析します。
9	ダンピングと競争	ダンピングとは何か、ダンピングの違法性とはどのようなものか、競争の観点から考察します。
10	アンチダンピング政策	貿易政策としてのダンピングの効果について、理解します。
11	問題演習	日本のさまざまな貿易政策について、部分均衡分析を使って理解します。
12	国際経済システムの中の日本経済	国際経済システムの構造・ルールや自由貿易の理念を学びます。また、日本経済と国際経済システムとのかかわりについて理解を深めます。
13	GATT と WTO	多国間交渉である GATT-WTO の役割と課題について、理解を深めます。
14	FTA と TPP	二国間交渉・地域内交渉である FTA/EPA や TPP の役割と課題について、理解を深めます。
15	まとめ	秋学期の授業を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を出しますので、指定された日時までに必ず解いて提出してください。また、授業支援システムを通じて配信された講義ノートを各自ダウンロード・印刷して授業時に持ってきてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。毎回配布する授業ノートを基に進めていきます。ただし、下記の参考書のうち、どれか 1 冊を入手して読むことを薦めます。参考書の特徴や難易度については、春学期・秋学期それぞれ第 1 回の授業で説明します。

【参考書】

① 阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』有斐閣、2012 年。
② 石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ第 2 版』有斐閣、2013 年。
③ Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2014) *International Economics: Theory and Policy,* 10th edition, Pearson.

【成績評価の方法と基準】

宿題・授業内演習・グループディスカッション： 50 %
定期試験： 50 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

現実のトピックに関心を持つ学生が多いことから、国際経済学にまつわる新聞記事の紹介と簡単な解説を授業内で行います。また、授業への積極的なかかわりを希望する学生が多いことから、グループディスカッションの機会を設けています。宿題の解説や解答例は、できるだけ宿題提出後すぐに提示します。

【学生が準備すべき機器他】

授業ノートや資料の配信・課題の提出・連絡事項は授業支援システムを使います。

【その他の重要事項】

① ⅠとⅡを通年で履修することを強く勧めます。
② ミクロ経済学の知識があったほうが良いでしょう。これまでミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱを履修していない人は、本授業と同時並行で履修するか自習することを勧めます。2016 年度には「例題で学ぶミクロ経済学入門」も開講されます。
③ 日本経済論・国際金融論・産業組織論・応用経済学と関連していますので、卒業までに併せて履修することを勧めます。

国際金融論Ⅰ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

国際金融論Ⅱ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

高　準亨　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期には、為替レートに関わる理論や実証文献を幅広く学習します。外国為替の仕組みと形態、外国為替相場、外国為替市場、為替リスクヘッジの手段と方法、国際収支の仕組み、為替相場決定理論等を解説します。後期には、国際通貨の仕組み、国際通貨制度の変遷、ドルの基軸通貨としての役割、ヨーロッパの通貨統合、円の国際化、東アジアの国際協力等について解説します。授業内容に関連する時事問題のデータや資料を適宜紹介します。

【到達目標】
国際金融・外国為替の基礎理論を体系的に理解し、為替レートの決定メカニズムを習得します。現実の経済で起こっているでき事を、講義を通じて身につけた知識から理解できるようにします。

【授業の進め方と方法】
スライドによる講義タイプ。履修者は事前に講義スライドと教科書等で予習すること。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	教科書の目次を参考にしながら、一年間学ぶ内容を簡単に説明する
2	国民所得勘定	開放経済における国民所得勘定
3	対外貿易不均衡	国民所得勘定の概念を用いて対外貿易不均衡を分析する。
4	国際収支表	国際収支の基本的な恒等式を理解する
5	為替レートと外国為替市場	為替レートと外国為替市場を理解する
6	外貨建て資産に対する需要	外貨建て資産に対する需要がどう決まるかを理解する
7	外国為替市場における均衡	外国為替市場均衡と利子率平価
8	貨幣需要と金融市場の均衡	貨幣の定義を復習し、金融市場の均衡を理解する
9	マネーサプライと為替レート	金融市場と外国為替市場の同時均衡
10	購買力平価説	一物一価の法則。購買力平価説
11	購買力平価説の問題点、ビックマック指数	購買力平価説の問題点、ビックマック指数の数値例。
12	バラッサ＝サミュエルソン理論	バラッサ＝サミュエルソン理論
13	長期的な為替レートの決定理論	為替レートが長期的にどう決まるかを理解する
14	国際的な利子率の差と実質為替レート	国際的な利子率の差と実質為替レート
15	前期のまとめ	前期のまとめ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	後期のガイダンス	後期に学ぶ内容を簡単に説明する
17	短期的な生産と為替レートⅠ	財・サービス市場と総需要の決定
18	短期的な生産と為替レートⅡ	金融市場と均衡及び一時的政策の効果
19	短期的な生産と為替レートⅢ	恒常的な政策効果
20	IS-LM モデル、J カーブ効果	IS-LM モデル、J カーブ効果
21	為替レートの浸透度、流動性トラップ	為替レートの浸透度、流動性トラップ
22	マギー効果	マギー効果
23	中央銀行のバランスシート、不胎化、固定為替相場制	中央銀行のバランスシート、不胎化、固定為替相場制
24	第 1 世代モデル：国際収支危機と資本の逃避	第 1 世代モデル：国際収支危機と資本の逃避
25	第 2 世代モデル	自己実現的通貨危機
26	資産の代替性が不完全な場合の政策効果	資産の代替性が不完全な場合の政策効果
27	ヨーロッパの経験	ヨーロッパの経験
28	最適通貨圏	最適通貨圏
29	発展途上国：成長、危機、および改革	発展途上国：成長、危機、および改革
30	後期のまとめ	後期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習として発表スライドをダウンロードして教科書と合わせて予習する。事後学習として発表スライドと教科書を復習する。

【テキスト（教科書）】
クルーグマン＆オブズフェルド（著）『クルーグマンの国際経済学－理論と政策－下（金融編）』

【参考書】
Paul R. Krugman, Maurice Obstfeld, Marc Melitz (著), International Economics, Prentice Hall; 9th edition

【成績評価の方法と基準】
授業内テスト（100%）で評価します。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格とします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
実績なし。

【学生が準備すべき機器他】
事前にネット上で講義スライドをアップしますので、ダウンロードして持ってきてください。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学やマクロ経済学など経済学関連科目を履修済みであることが望ましい。
オフィスアワー：授業後に質問を受け付ける。

産業史Ⅰ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／2 単位［春学期授業］

産業史Ⅱ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／2 単位［秋学期授業］

藤澤　利治　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
資本主義世界における基軸産業の歴史的発展過程を学ぶ。

【到達目標】
①資本主義経済の世界史的発展過程を理解する。
②各時代の産業の特徴と発展過程、企業組織、国際分業や貿易の構造を理解する。
③現代の産業が直面している地球環境問題や資源・エネルギー問題等を理解する。

【授業の進め方と方法】
進め方：今日、我々はわずか数十年前に比べてさえも、非常に豊かかつ便利な社会で生活している。だが、この物のあふれるほど豊かな社会は、突然そして自然発生的に我々の前に出現したわけではない。先人達が様々な困難に直面し、それらを新発見や発明の積み重ねによって克服しながら築き上げたものである。その延長線上に、我々の豊かな生活が実現できているが、しかし今日、地球環境問題等の大問題にも直面している。これらの点を講義形式で、歴史的に論じていく。
方法：本講義では、この経済の発展を各時代の中軸で支えてきた各産業の発達史を、資本主義経済の発展過程に沿ってたどって行く。その際、各時代の主要産業の特徴を、技術、企業組織、国際分業や貿易のパターン等に焦点をあてて、論じていく。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Ⅰ イントロダクション	授業の方法と進め方を説明する。
第 2 回	Ⅱ 資本主義の発展過程と基軸産業の展開 1 重商主義期－イギリス毛織物工業を中心に 1-1 新大陸貿易の発展	15 世紀末からの大航海時代以降、世界貿易が活発化し、大陸間で商業が発展していく過程を見る。
第 3 回	1-2 新大陸貿易と毛織物工業の発展	新大陸貿易において、西ヨーロッパからの輸出品の中心となった毛織物工業の発展が、それまでの封建社会を崩壊させて行く過程を見る。
第 4 回	1-3 資本の原始的蓄積の展開	毛織物工業の発展が、他国に先駆けてイギリスで資本主義の形成を推し進めたことを論じる。
第 5 回	2 自由主義期－イギリス綿織物工業を中心に 2-1 イギリスの産業革命	18 世紀半ば以降、イギリスで始まった産業革命、それとともに発展したイギリス綿織物工業の発展を見る。
第 6 回	2-2 イギリスにおける産業資本の発展と資本主義の確立	産業革命によって発展したイギリス綿織物工業が、イギリスに資本主義を確立させる過程を見る。
第 7 回	2-3 自由貿易と資本主義の拡大	イギリス資本主義の発展が周辺諸国にも波及し、世界的に資本主義が拡延していく過程を概観する。
第 8 回	3 帝国主義期－ドイツ鉄鋼業を中心に 3-1 後発国ドイツの経済的特徴	19 世紀末葉以降、イギリスに代わってドイツが鉄鋼業を中心に世界経済の発展をリードするようになるが、その過程を見る。
第 9 回	3-2 ドイツにおける鉄鋼業の発展と株式会社	英仏に遅れて資本主義化したドイツでは鉄鋼業が発展し、株式会社の導入や、銀行と企業との関係も特徴的であったことを見る。
第 10 回	3-3 保護貿易主義と帝国主義的対立	ドイツの対外経済政策は保護主義的で、イギリスの自由主義に対抗的であった。このような英独間の対抗関係が世界史に及ぼした影響を概観する。
第 11 回	Ⅲ 第 1 次世界大戦後の世界経済と新産業の展開 1 第 1 次大戦後の世界とアメリカの地位	第 1 次世界大戦後の世界経済におけるアメリカの台頭と西欧の弱体化を概観する。
第 12 回	2 相対的安定期と耐久消費財産業の芽生え	1920 年代のアメリカの耐久消費財産業、特に自動車産業と家電産業の発展を理解する。
第 13 回	3 世界恐慌の勃発	1920 年代末に相対的安定が崩壊し、世界大恐慌が勃発する過程を見る。
第 14 回	4 世界経済のブロック化・アウタルキー化	世界恐慌下の主要国は、経済的苦境からの脱出を模索し、経済のブロック化・アウタルキー化に向かっていく過程を理解する。
第 15 回	まとめと展望	産業史Ⅰのまとめと、第 2 次世界大戦後を展望する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Ⅰ イントロダクション	授業の方法と進め方を説明する。
第 2 回	Ⅱ 第 2 次大戦後の世界経済と重化学工業の発展 1-1 アメリカ産業の圧倒的地位	第 2 次世界大戦後の世界経済の再編は、圧倒的な経済力を誇ったアメリカ中心に行われたことを概観する。
第 3 回	1-2 アメリカ経済の強大化	アメリカ産業の世界市場における地位が強大であったことを、主要産業を取り上げて分析する。
第 4 回	1-3 アメリカ産業の盛衰	1950 年代半ば以降のヨーロッパと日本の経済再建・発展に伴い、アメリカ産業の地位が侵食されていく過程を理解する。
第 5 回	2 欧州産業の失地回復の試み－経済統合への歩み 2-1 欧州の凋落	第 2 次大戦で弱体化した西欧諸国が、米ソ冷戦の狭間で政治的安定と経済復興を模索する過程を見る。
第 6 回	2-2 欧州経済統合の推進	欧州の経済的繁栄を求めて市場と経済の統合を進める過程を理解する。
第 7 回	2-3 EC/EU による経済統合	EC による統合が拡大・深化し、今日の EU に発展する過程を概観する。
第 8 回	3 日本産業の挑戦－重化学工業化・経済大国化 3-1 戦後の改革と復興	敗戦国日本は、戦後の荒廃から復興を果たすが、連合国軍の占領下で戦後改革も行われた。このプロセスを見る。
第 9 回	3-2 高度経済成長の内実	昭和 30 年代から高度経済成長を遂げ、日本経済が変貌を遂げる過程を見る。
第 10 回	3-3 産業の高度化と経済大国化	高度成長期には重化学工業化を実現し、経済大国と呼ばれるようになるが、この過程を理解する。
第 11 回	Ⅲ ハイテク産業をめぐる日米欧の角逐 1 アメリカ経済の相対的弱体化と欧日の躍進	1970 年代以降の世界経済は激動の時代を迎える。その主因となったアメリカ経済の不調・日欧の経済的躍進を概観する。
第 12 回	2 ニクソンショックと二度の石油危機	第 2 次大戦後の世界経済を支えてきた国際通貨制度の崩壊と、産業発展の基盤となってきた石油をめぐる危機の世界経済に及ぼした影響を見る。
第 13 回	3 日本産業の構造調整とバブル経済	主要国ではこれらのショックに対応するために産業の構造調整を迫られるが、日本のその内実を見る。
第 14 回	4 ハイテク産業の発展と日米欧の角逐	石油危機後、主要国が競ってハイテクの産業化と産業のハイテク化を推進するプロセスを見る。
第 15 回	Ⅳ むすびにかえて－グローバル経済の中の産業	1990 年代に急展開したグローバル経済における産業の発展と、それによって突き当たった地球環境問題や資源・エネルギー面での制約の深刻さを理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期：産業史Ⅰ
第 1 回　産業発展の歴史を概観しておくこと。
第 2～4 回　15 世紀以降の大航海時代の世界史を予習しておくこと。
第 5～7 回　イギリスにおける資本主義発達史を予習しておくこと。
第 8～10 回　19 世紀半ば以降のドイツ史を予習しておくこと。
第 11～12 回　第 1 次世界大戦後の世界経済について予習しておくこと。
第 13～14 回　1930 年代の世界史の展開を予習しておくこと。
第 15 回　授業で取り上げたことを復習しておくこと。
秋学期:産業史Ⅱ
第 1 回　第 2 次世界大戦後の経済史を概観しておくこと。
第 2～4 回　第 2 次世界大戦後のアメリカ経済史を概観しておくこと。
第 5～7 回　ヨーロッパ経済統合のプロセスを概観しておくこと。
第 8～10 回　日本経済の第 2 次世界大戦後の歩みを予習しておくこと。
第 11～14 回　ハイテク産業、特に IT 産業について予習しておくこと。
第 15 回　グローバル経済における地球環境問題と資源・エネルギー問題について、あらかじめ理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。講義レジュメと資料を授業時に配布する。

【参考書】
①宇野弘蔵『経済政策論（改訂版）』弘文堂、1971 年
②石見徹『世界経済史－覇権国と経済体制』東洋経済新報社、1999 年
③杉山伸也『グローバル経済史入門』岩波新書、2014 年
④ F. アマートリ/A. コリー『ビジネス・ヒストリー』ミネルヴァ書房、2014 年
⑤金井・中西・福澤編『世界経済の歴史』名古屋大学出版会、2010 年
⑥ロンド・キャメロン/ラリー・ニール『概説世界経済史Ⅰ・Ⅱ』東洋経済新報社、2013 年

【成績評価の方法と基準】
Ⅰ、Ⅱともに学期末の試験で評価する。論述式の試験により、授業で取り上げたテーマを正確に理解しているか、正しく説明できるかを評価の基準にする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
教室の後部で、私語がうるさいとの指摘があったため、対応策として教室後部の状況を注意して授業を進めるようにする。また、授業で扱うテーマについて関心を高めるために、資料や教材を回覧するようにする。

【その他の重要事項】
日本経済論Ⅰ/Ⅱ、日本経営史Ⅰ/Ⅱ、国際経済論Ⅰ/Ⅱ、国際金融論Ⅰ/Ⅱを、並行してでも良いから履修することが望ましい。

経営分析Ⅰ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］
経営分析Ⅱ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

平井　裕久　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書など）から得られる情報を利用し、そこから算定される経営指標などによって、企業の経営状態の実像や課題を観察する眼を養うことを目標とする。
財務諸表分析における、企業の収益性、安全性、効率性、成長性などに関する伝統的な分析方法を中心とし、また近年話題のテーマである企業価値評価についても、設例や上場企業のデータを用いて講義していく。

【到達目標】
具体的な到達目標は以下である。
①基本的な財務諸表 (貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができる。
②財務数値の意味を理解する。
③企業の財務数値を用いて分析を行える。

【授業の進め方と方法】
本講義では、基本的にプレゼンテーションソフトを用いたスライドを表示して説明する。講義内では、補足説明のためのプリントなどを配布し、より具体的な事例を確認する。また講義内において、数回の課題を行う予定である。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方や、経営分析を学ぶ意義について説明する。
第 2 回	第１章　財務諸表分析の基礎	・財務諸表分析の意義 ・財務諸表分析の方法 ・財務諸表分析と実証会計研究
第 3 回	第２章　財務諸表の見方	・連結財務諸表について ・連結財務諸表の相互関係
第 4 回	第３章　貸借対照表データの分析	・貸借対照表データによる基本分析 ・短期財務安全性の分析 ・長期財務安全性の分析 ・有利子負債の分析
第 5 回	第４章　損益計算書データの分析	・損益計算書データによる基本分析 ・段階別売上高利益率の算定 ・プロフォーマ利益 ・セグメント情報の分析
第 6 回	第５章　収益性分析―相互関係比分析―	・相互関係比と収益性分析について
第 7 回	第５章　収益性分析―相互関係比分析―	・投下資本利益率の算定 ・投下資本利益率の分解
第 8 回	第５章　収益性分析―相互関係比分析―	・ＲＯＡとＲＯＥの関係
第 9 回	第６章　効率性分析	・使用総資本回転率 ・使用総資本回転率の細分化
第 10 回	第６章　効率性分析	・回転期間の分析
第 11 回	第６章　効率性分析	・増加運転資本
第 12 回	第７章　キャッシュ・フロー計算書データの分析	・キャッシュ・フローと会計利益 ・活動区分別キャッシュ・フロー
第 13 回	第７章　キャッシュ・フロー計算書データの分析	・キャッシュ・フロー・データによる分析
第 14 回	第７章　キャッシュ・フロー計算書データの分析	・フリー・キャッシュ・フローの算定
第 15 回	まとめ	本講義で学習した経営分析に関する知識の確認をする。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	前期に学んだ経営分析に関する基礎的内容の確認を行う。
第 2 回	第８章　損益分岐点分析	・損益分岐点分析の意味 ・限界利益と損益分岐点 ・利益図表
第 3 回	第８章　損益分岐点分析	・営業レバレッジ ・変動費と固定費
第 4 回	第９章　成長性分析	・業績の推移 ・業績予想との比較 ・上場企業の成長性
第 5 回	第 10 章　付加価値分析	・付加価値の意味 ・労働生産性の分析 ・労働分配率 ・経済的付加価値
第 6 回	第 13 章　利益マネジメントと財務諸表分析	・会計利益の操作性 ・利益マネジメントの方法
第 7 回	第 13 章　利益マネジメントと財務諸表分析	・利益マネジメントの行使パターン ・利益マネジメント行動の検出
第 8 回	補章　貨幣の時間的価値と割引計算	・貨幣の時間的価値 ・年金の現在価値 ・年金型投資商品の現在価値
第 9 回	第 11 章　キャッシュ・フローに基づく企業価値評価	・ファンダメンタル分析
第 10 回	第 11 章　キャッシュ・フローに基づく企業価値評価	・企業価値評価の間便法 ・配当割引モデル
第 11 回	第 11 章　キャッシュ・フローに基づく企業価値評価	・割引キャッシュ・フローモデルと企業価値評価
第 12 回	第 12 章　会計利益に基づく企業価値評価	・会計利益と株式価値評価
第 13 回	第 12 章　会計利益に基づく企業価値評価	・残余利益と株式価値評価モデル ・価値関連性分析
第 14 回	第 12 章　会計利益に基づく企業価値評価	・株価説明力に影響を及ぼす要因
第 15 回	まとめ	本講義で学習した経営分析に関する知識の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当章を事前によく読んで予習しておくこと。
講義終了後には、内容の理解を確実なものとするためにも復習をすること。

【テキスト（教科書）】
乙政正太 著『財務諸表分析 (第 2 版)』同文舘出版，2014

【参考書】
青木茂男『要説 経営分析（三訂版)』森山書店，2008
桜井久勝『財務諸表分析（第 5 版)』中央経済社，2012
佐藤裕一『ビジュアル経営分析の基本（第 5 版)』日本経済新聞出版社，2012
森田松太郎『経営分析入門（第 4 版)』日本経済新聞出版社，2009
パレプ他、斉藤静樹監訳、筒井知彦他訳『企業分析入門（第 2 版)』東京大学出版会，2001
平松一夫他『事例でわかる企業分析』東京経済情報出版，2009
ペンマン、杉本徳栄他訳『財務諸表分析と証券評価』白桃書房，2005

【成績評価の方法と基準】
定期試験 (70 %) と平常点 (30 %) による総合評価
（平常点：中間テスト 等）
授業中に小テスト (課題) を行う可能性もあるが、これは期末試験にボーナス (＋ α) として加点する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
担当は今年度からである。

【学生が準備すべき機器他】
毎回プレゼンテーションソフトを使用して講義を行う。

【その他の重要事項】
受講に際して「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」「会計学入門Ⅰ・Ⅱ」を履修し、簿記の基礎的な知識 (日商簿記 3 級程度) はあることが望ましい。
授業および試験においては、“電卓” を持参のこと。

計量経営分析Ⅰ　経営戦略学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

計量経営分析Ⅱ　経営戦略学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

蓮見　亮　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
統計学、計量経済学の知識・技術をビジネスで活用できるようになることを目指します。

【到達目標】
ビジネスに関連する意思決定のために、データを収集し、分析し、解釈することができるようになることを目標とします。
分析ツールは Excel と R を用います。両者とも使いこなすには慣れが必要ですが、勘所を授業中に丁寧に説明します。用いるサンプルデータはビジネスに関係するものを中心に、その他の数値データも対象とします。
講義では一部で数式を使いますが、実際の計算の多くはソフトウェアにさせることになります。分野としては統計学、計量経済学に属しますが、秋学期の後半ではコンピュータ・シミュレーションを用いたデータ解析にも踏み込みます。

【授業の進め方と方法】
春学期は講義と演習（パソコン使用）を交互に行います。
秋学期は講義をメインに、適宜演習時間を設け、最後に学生発表を行います。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方について説明します。
2	統計学の意義	統計学が何に役立つか、使いどころについて考えます。
3	演習 1 ―データ収集・グラフ化 (1)	データ収集・グラフ化について演習を行います。
4	統計の解釈―平均値、相関	平均値や相関関係を用いた統計の解釈の方法を考えます。
5	演習 2 ―データ収集・グラフ化 (2)	データ収集・グラフ化について演習を行います。
6	統計学の基礎 1 ―平均、分散	平均、分散について説明します。
7	演習 3 ―平均、分散の計算	平均、分散についてデータを用いて考えます。
8	統計学の基礎 2 ―確率分布	確率分布について説明します。
9	演習 4 ―散布図、ヒストグラムの作成	散布図、ヒストグラムの作成を行い、確率分布と比較します。
10	回帰分析 (1) ―最小二乗法、検定	最小二乗法、検定について説明します。
11	演習 5 ―最小二乗法	最小二乗法を実際のデータに適用して、解釈を行います。
12	回帰分析 (2) ―時系列データ	時系列データの分析方法について説明します。
13	演習 6 ―時系列分析	実際のデータを用いて時系列分析を行います。
14	まとめと復習	春学期全体を振り返り、まとめと復習をします。
15	試験	試験を行い、理解度を確認します。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	統計学の基礎、回帰分析の復習	統計学の基礎、回帰分析について復習します。
17	回帰分析 (3) ―時系列分析の応用、予測	時系列分析の進んだトピックと予測について説明します。
18	演習 7 ―時系列分析の応用	実際のデータを用いて時系列分析を行います。
19	回帰分析 (4) ―最尤法・プロビット	最尤法・プロビットについて説明します。
20	演習 8 ―質的データの分析	質的データのプロビット分析を行います。
21	期末課題の説明―クロスセクションデータの分析	期末課題について説明します。
22	モンテカルロ・シミュレーションの方法	モンテカルロ・シミュレーションの方法について説明します。
23	待ち時間のシミュレーション (1)	待ち時間のシミュレーションモデルを考えます。
24	待ち時間のシミュレーション (2)	待ち時間のシミュレーション結果を分析します。
25	市場シミュレーション (1)	市場シミュレーションモデルを考えます。
26	市場シミュレーション (2)	設定を変えながら、市場シミュレーションを実行します。
27	市場シミュレーション (3)	市場シミュレーションの結果を分析します。
28	まとめと復習	講義全体を振り返り、まとめと復習をします。
29	期末課題の発表 (1)	学生に期末課題の発表をしてもらいます。
30	期末課題の発表 (2)	同じく、学生に期末課題の発表をしてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で指示する課題が演習時間内に終わらない場合は、宿題とします。
秋学期は期末課題のレポート作成と発表準備が授業外に必要になる可能性があります。

【テキスト（教科書）】
参考書のみ指定する予定です。

【参考書】
1. 松原 望（著）『わかりやすい統計学 第 2 版』、丸善、2009 年
2. Sau Sheong Chang（著）瀬戸山 雅人 他（翻訳）『R と Ruby によるデータ解析入門』、オライリージャパン 、2013 年

【成績評価の方法と基準】
春学期は 6 回程度の小レポート 60 %、期末試験 40 %の配点比率とします。
秋学期は 2 回程度の小レポート 40 %、期末課題（レポートと発表）60 %の配点比率とします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
初年度につき該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
据付のパソコンがない教室を割り当てられた場合は、貸与パソコンの持参が必要になります。

【その他の重要事項】
関連科目：基礎統計学 I/II
オフィスアワー：授業後に質問を受け付けます。

統計学Ⅰ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

統計学Ⅱ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

豊田　敬　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級から中級へかけての統計解析法の基本を学ぶ。内容的には２年次配当科目「基礎統計学」の続きであるが、受講生の予備知識の状況に応じて、適宜復習を交えて授業を進める。

【到達目標】
・基本的な公式を書けるようにすること。
・関数電卓や表計算ソフト、統計ソフトを使って統計データ処理ができるようにすること。
・確率的思考に基いて統計的推論（推定、仮説検定）の論理を理解すること。

【授業の進め方と方法】
配付資料に沿い、板書を併用して授業を進める。数式を身につけるためにも、ノートをとることが要求される。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	授業の進め方と学習法、この授業の統計学における位置付けについて説明する。
第２回	カイ２乗検定（１）	適合度の検定について学ぶ。Fisher の有意性検定と通常の仮説検定の違いについても触れる。
第３回	カイ２乗検定（２）	独立性の検定について学ぶ。Cramer の V（連関係数）にも触れる。
第４回	カイ２乗検定（３）	多項分布、カイ二乗分布について学び、サンプリング過程についての理解を深める。
第５回	コルモゴロフ・スミルノフの適合度検定	ノンパラメトリック検定の例として、正規性の検定について学ぶ。
第６回	サンプリング分布（１）	正規母集団からの標本平均と標本分散に関わるサンプリング分布について学ぶ。
第７回	サンプリング分布（２）	ベルヌーイ母集団、平均と分散のみ規定された母集団からのサンプリング分布について学ぶ。
第８回	正規母集団への推論 (１)	母平均、母分散の仮説検定について、仮設検定の考え方の復習を交えて学ぶ。
第９回	正規母集団への推論 (２)	前回に扱った検定についての練習問題を解いて検定の手順を習得する。
第 10 回	正規母集団への推論：区間推定	信頼区間について復習し、仮説検定との関係を学ぶ。
第 11 回	ベルヌーイ母集団への推論	大標本の場合の母比率の点推定、区間推定（信頼区間）、仮設検定について復習する。
第 12 回	正規母集団への推論：二標本問題（１）	母平均の差の仮説検定について、Welch の検定も含めて学ぶ。並行して区間推定についても学ぶ。
第 13 回	正規母集団への推論：二標本問題（２）	F 分布、母分散比の検定、その区間推定について学ぶ.
第 14 回	正規母集団への推論：二標本問題（３）	練習問題を解くことによって仮設検定の手順を習得し、信頼区間との関係の理解を深める。
第 15 回	春学期の総復習	総復習と質疑応答。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	授業の進め方と学習法、この授業の統計学における位置付けについて説明する.
第２回	相関分析（１）	２次元データの整理（記述統計）で学んだ共分散と相関係数について復習する。
第３回	相関分析（２）	２次元確率分布における平均、分散、共分散、相関係数について復習する。条件付き分布についても触れる。
第４回	相関分析（３）	２次元正規分布、その相関係数、回帰直線について学ぶ。
第５回	相関分析（４）	無相関の検定と母相関係数の区間推定（Fisher の z 変換による）について学ぶ.
第６回	回帰分析（１）	記述統計で学んだ２次元データへの直線のあてはめ法としての最小２乗法について復習する。
第７回	回帰分析（２）	あてはめ値、残差、決定係数、誤差分散について学ぶ（復習）。
第８回	回帰分析（３）	線形回帰モデルにおける標準的諸仮定、母集団モデルとサンプリングモデルについて学ぶ。
第９回	回帰分析（４）	最小２乗推定量の特性（BLUE）について学ぶ。
第 10 回	回帰分析（５）	誤差項に正規性を仮定すると回帰係数とその標準誤差を用いて区間推定や仮説検定ができることを学び、数値例で実践する。
第 11 回	重回帰分析（１）	説明変数が複数個ある場合の正規方程式を示し、説明変数間の相関の度合いがポイントであることを学ぶ。
第 12 回	重回帰分析（２）	使用頻度の高い手法なので、多重共線性や説明変数の選択についてその概略を説明する。
第 13 回	ノンパラメトリック検定（１）	符号検定、順位検定、について学ぶ。
第 14 回	ノンパラメトリック検定（２）	その他の良く使われるノンパラメトリック検定について学ぶ。
第 15 回	回顧と展望	総復習と取り扱った事項の統計学全般における位置付けの説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習：授業終了後一両日中に授業内容の復習をして理解具合を確認する。
予習：指示がない場合は必要ない。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。

【参考書】
・東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』東京大学出版会
・押川・坂口『基礎統計学』培風館
・永田・棟近『多変量解析法入門』サイエンス社
その他は必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
文系の学生でもかなりの水準の数学を理解できる者がいる。そのような学生に対して、多変量解析の入門までの知識のレベルアップに資するよう対応したい。

【学生が準備すべき機器他】
統計計算作業には関数電卓と統計ソフト（R）を使用する予定。ただし、期末試験は関数電卓のみの使用可とする。

【その他の重要事項】
事前に履修すべき関連科目：基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

システム管理論Ⅰ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

システム管理論Ⅱ　　経営戦略学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

児玉　靖司　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営情報学として必要な様々な概念について学習する。
春学期は、ICT(情報通信技術) の基本的な知識の修得を目的とする。具体的にはシステムとは何かを学び、システム設計法を中心に学ぶ。特に、近年注目されている要求定義手法について学ぶ。
秋学期は、ICT に関わる経営学的問題分析手法について学ぶ。具体的には、情報セキュリティ、新聞売り子問題、作業工程分析、ゲーム理論、線形計画法等である。

【到達目標】
職業人として ICT(情報通信技術) の基本的な知識を活用し、上位者の指導の下で、業務の分析と解決およびシステム化の支援を行うための手法を学ぶ。経営に必要な数理的分析に関する素養や、離散数学的素養を養うことを目標とする。応用としてシステムインテグレータに役立つ素養を養う。

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に資料に沿って行う。専門性の高い分野に関する講義の場合は、別途、参考文献を指定する場合がある。原則として毎回簡単な小テスト(確認テスト) を行い、理解度を調査しながら進める。
さらに、本年度は米国の話題に触れ、最新情報を講義するように努力する。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータのはじまり等	システム開発をする上で基本的なコンピュータに関する知識を学ぶ。
第 2 回	システム開発	システム開発の全体的な流れについて学ぶ。
第 3 回	システム開発プロセス	システム開発プロセス全体について、種々の開発方法を学ぶ。
第 4 回	要求分析（1）	要求分析について概説し、要求獲得について学ぶ。
第 5 回	要求分析（2）	要求分析について概説し、要求表現、要求検証について学ぶ。
第 6 回	外部設計（1）	システムへの入出力について主に 設計する外部設計について学ぶ。
第 7 回	外部設計（2）	外部設計の具体的事例について学ぶ。
第 8 回	内部設計	内部設計について学ぶ。
第 9 回	テスト手法について（1）	システム開発におけるテスト手法について学ぶ。
第 10 回	テスト手法について（2）	システム開発におけるテスト手法の具体例について学ぶ。
第 11 回	オブジェクト指向設計 (1)	オブジェクト指向設計について学ぶ。
第 12 回	オブジェクト指向設計 (2)	オブジェクトとは何か、さらに、 オブジェクトを用いた設計方法について学ぶ。
第 13 回	2 進数について (1)	システム開発における基本的な知識として 2 進数について学ぶ。
第 14 回	2 進数について (2)	浮動小数点の 2 進数表現、補数の表現について学ぶ。
第 15 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、情報とは	データ、情報、知識の違いについて概説し、情報学の意義について学ぶ。
第 2 回	情報セキュリティ（1）	コンピュータウィルスを中心にセキュリティについて学ぶ。
第 3 回	情報セキュリティ（2）	共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式を中心に学ぶ。
第 4 回	新聞売り子の問題（1）	新聞売り子の問題について学ぶ。
第 5 回	新聞売り子の問題（2）	新聞売り子の問題について応用事例について学ぶ。
第 6 回	プロジェクト管理（1）	プロジェクト管理に重要な作業工程分析について学ぶ。
第 7 回	プロジェクト管理（2）	作業工程分析について応用事例を学ぶ。
第 8 回	ゲーム理論（1）戦略をたてる	ゲーム理論全体について学ぶ。
第 9 回	ゲーム理論（2）ミニマックス戦略	ミニマックス戦略について学ぶ。
第 10 回	ゲーム理論（3）確率を用いたモデル	混合戦略、確率モデルを用いた戦略について学ぶ。
第 11 回	ゲーム理論（4）基本定理	ゲーム理論の基本定理について学ぶ。
第 12 回	ゲーム理論（5）囚人のジレンマ	囚人のジレンマについて学ぶ。
第 13 回	線形計画法（1）	線形計画法について概略を学ぶ。
第 14 回	線形計画法（2）	線形計画法の応用について学ぶ。
第 15 回	まとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則として毎回確認テストを行い、次の時間に解説を行うので、予習、復習を行うこと。授業中に紹介する参考図書等も読むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
開講後指定する。原則としてパワーポイントによる資料を配布する。

【参考書】
開講後指定する。

【成績評価の方法と基準】
(課題) 確認テストおよび出席点 (20%)、定期試験 (80%) により評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。板書が出来るように、授業の進め方を工夫 (進度をやや遅く) する。

【学生が準備すべき機器他】
PC 上でのパワーポイントによるプレゼンテーションを多用する。学習管理システム Classroom を多用して効率的な授業を行う。Classroom 上で小テストを行う。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
特になし。

市場経営学科
専門科目

日本経営論Ⅰ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

日本経営論Ⅱ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

金　容度　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的考える能力を高める。

【到達目標】
この授業の到達目標は、第 1 に、国際比較を通じて日本の企業システムの特殊性と普遍性を理解すること、第 2 に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第 3 に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【授業の進め方と方法】
毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、学期ごとに 1 回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。
授業内容については、春学期の日本経営論Ⅰでは、日本の経営についての国内外の議論を検討し、日本の企業システムの特徴を考察する。また、それを踏まえて、企業経営の国際比較を行う。
秋学期の日本経営論Ⅱでは、市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視角から日本の企業間関係を考察する。具体的に、企業間取引 (自動車部品、液晶部材、鉄鋼、半導体)、メインバンクシステムが取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツ、韓国である。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
2	日本の経営についての国内議論①	日本の企業経営の特殊性を強調する議論を検討する。
3	日本の経営についての国内議論②	日本の企業経営の普遍性を強調する議論を検討する。
4	海外での日本研究の流れの概観	日本についての海外での研究の全体的な流れを歴史的に概観する
5	日本の経営についての海外での議論①	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、日本特殊性を強調する議論を検討する。
6	日本の経営についての海外での議論②	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、普遍性を強調する議論を検討する。
7	日本の企業システムの特徴	戦後日本の企業システムの特徴を考察する。
8	日米比較① (労使関係)	日本的経営の「3 種の神器」といわれるのがすべて労使関係と絡んでいる点に着目して、日米の労使関係を概観する
9	日米比較② (労使関係)	日米の共通点に注目して、20 世紀前半のアメリカにおける労使関係を検討する。
10	日米比較③ (企業システムの歴史)	日米の共通点に着目して、米企業システムの歴史的特徴を考察する。
11	日米比較④ (1980 年代以降の米企業システム)	1980 年代以降の米企業システムの変化と日本への示唆点を検討する。
12	日米比較⑤ (1980 年代以降の米企業システム)	1980 年代以降、米企業システムの変化要因を検討する。
13	日米比較⑥ (歴史と現状の対話)	日米企業システムの比較から得られた示唆点を整理したうえで、今後の日本企業システムの改革についてディスカッションする。
14	日韓比較	企業に対する見方や経営文化の日韓比較を行う。
15	まとめ	春学期授業内容についてのまとめを行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	企業間関係をみる理由と視点、日本の企業間関係の特徴の概観	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義するとともに、日本の企業間関係の特徴を概観する。
2	企業間関係の国際比較について	日米の共通点を中心に、企業間関係の国際比較の視点を検討する。
3	自動車部品の企業間取引①	日本の代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
4	自動車部品の企業間取引② (日米比較)	日米の共通点に焦点を合わせて、米自動車産業初期における企業間取引を検討する。
5	自動車部品の企業間取引③ (日韓比較)	韓国自動車産業の事例を取り上げ、自動車部品の企業間取引において、日韓の類似点を考察する。
6	自動車部品の企業間取引④ (日韓比較)	部品の企業間取引において日韓にどのような相違点が現れているかを考察する。
7	自動車部品の企業間取引⑤ (日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引を比較する。
8	液晶部材の企業間関係	日本企業の競争力が極めて高い液晶部材産業を取上げ、企業間取引を検討する
9	鉄鋼の企業間関係	「産業の米」といわれる鉄鋼の企業間取引について検討する。
10	半導体の企業間関係	もう一つの「産業の米」である半導体の共同開発とマーケティングについて検討する。
11	メインバンクシステム①	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
12	メインバンクシステム②	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
13	メインバンクシステム③	1990 年代以降のメインバンクシステムの変化を考察する。
14	日本の企業間関係についての理論	中間組織論を中心に、日本の企業間関係についての理論を検討する。
15	まとめ	秋学期授業内容についてのまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献は、適宜、「授業支援システム」にアップロードするので、毎週、提示される次週の参考文献を読んでから授業に参加すること。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。参考文献は、毎週の講義中で提示する。なお、毎週レジメを授業中に配布する。

【参考書】
橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直『現代日本経済第 3 版』有斐閣、2011 年
Yongdo Kim, The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd.,2015
金容度『日本ＩＣ産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会、2006 年
浅沼萬里『日本の企業組織革新的適応のメカニズム:長期取引関係の構造と機能』東洋経済新報社、1997 年

【成績評価の方法と基準】
成績評価基準は、期末試験（70 %）、授業内小試験（30 %）である。授業内小試験は学期ごとに 3 回行われる。また、ディスカッション時の発言者には加算点を与える上、リアクション・シート、授業中に作成する感想文（学期に 1 回）についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
リアクション・シートなどで提出される受講者からの質問に答える時間を増やす。

【その他の重要事項】
授業中の私語は絶対禁ずる。
[関連科目]
日本経営史Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

流通論Ⅰ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

流通論Ⅱ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

横山　斉理　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済の基本は生産と消費ですが、高度に分業化されている現代社会では、生産と消費を結びつける流通が不可欠です。ところが、多くの人は流通を「商品の流れ？」「お店？」「トラックでの配送？」といったように、曖昧に認識しているのが現状です。この授業では、日用用語レベルで何となく知っている「流通」について、体系的に深く理解することを目指します。

【到達目標】
到達目標は、流通というものの全体像を把握し、現実に起きている流通に関する出来事（たとえば、都市型のミニスーパーの誕生や、コンビニとメーカーの共同開発など）を流通論の視点から分析できるようになることです。この目標のために、この授業では、流通の理論や分析アプローチなどを体系的に学びます。適宜、事例を学び、それを活用しながら理論や分析アプローチを体系的に理解していく、というスタイルです。

【授業の進め方と方法】
春学期は、流通論の理論や分析アプローチ、そして主要概念を体系的に学んでいきます。出来る限り、現実の問題と関連させて学習を進めていきます。秋学期は、春学期で学んだことを現実のビジネスと対応させて深く理解ために、われわれ消費者にもっとも身近な流通ビジネスである小売業に焦点を当て、そのビジネスの特徴を現実のケースを通じて多面的に学んでいきます。秋学期の小売ビジネスのケースを通じた学習により、抽象的になりがちな内容の理解が容易になるものと思います。
春学期・秋学期を通じて、双方向的な授業を目指します。教員が壇上からレクチャーを続けるだけではありません。受講生に発言を求めることは頻繁にありますし、簡単なグループワークを実施し、その内容を発表してもらうこともあります。（それほど難しいことを質問したり課したりはしませんのでご心配なく。）
なお、秋学期の内容を深く理解するためには、春学期の内容を押さえておくほうがよいため、通年での履修をお勧めします。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	商学の学び方	商学の学び方
2	流通・商業の発達①	流通・商業の発達について学ぶ
3	流通・商業の発達②	流通・商業の発達について学ぶ
4	小売機構①	小売機構について学ぶ
5	小売機構②	小売機構について学ぶ
6	小売機構③	小売機構について学ぶ
7	小売機構④	小売機構について学ぶ
8	小売機構⑤	小売機構について学ぶ
9	小売機構⑥	小売機構について学ぶ
10	小売機構⑦	小売機構について学ぶ
11	小売機構⑧	小売機構について学ぶ
12	卸売機構①	卸売機構について学ぶ
13	卸売機構②	卸売機構について学ぶ
14	卸売機構③	卸売機構について学ぶ
15	春学期総括	春学期に学んだことを総括する

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	変化対応業としての小売業	イトーヨーカ堂の事例
17	個人商店からチェーンストアへ	マルハチの事例
18	チェーンストアの存在意義	ダイエーの事例
19	顧客起点の小売経営	成城石井の事例
20	品揃えのマネジメント	ユニーの事例
21	売り場のデザイン	サンシャインの事例
22	バックヤードのデザイン	関西スーパーマーケットの事例
23	取引関係とロジスティクスのマネジメント	ライフの事例
24	小売業の商品開発	CGC の事例
25	小売業の価格マネジメント	西友の事例
26	顧客情報の活用	オギノの事例
27	店舗立地と商圏分析	まいばすけっとの事例
28	チェーンストアの人材活用	ハローデイの事例
29	ネットスーパーの革新	エブリデイフレスタの事例
30	小売業の国際展開	イオンの事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では、予習より復習が重要です。復習として、授業計画の「内容」に示されたテキストや参考書の該当章を読み直すことが求められます。加えて、日々の生活において、流通に関する現象を意識して観察しておくと、授業の理解がよりスムースになると思います。

【テキスト（教科書）】
久保村隆祐『商学通論』（編著）同文舘出版
清水信年・坂田隆文『1 からのリテール・マネジメント』（編著）碩学舎

【参考書】
石原武政・竹村正明『1 からの流通論』（編著）、碩学舎
高嶋克義『現代商業学〔新版〕』有斐閣アルマ
矢作敏行『現代流通 理論とケースで学ぶ』有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】
春学期末試験 50%
秋学期末レポート 50%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
静穏な授業環境を実現するために状況をみながら様々な対応をとります。

【その他の重要事項】
マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。

消費者行動論Ⅰ　市場経営学科専門科目　3～4 年次／2 単位［春学期授業］

消費者行動論Ⅱ　市場経営学科専門科目　3～4 年次／2 単位［秋学期授業］

新倉　貴士　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
消費者の行動は、非常に微妙なものに左右されてしまいます。昨日まで飛ぶように売れていたブランドが、突然売れなくなってしまいます。一体何が消費者の行動を規定しているのでしょうか。当授業では、このような消費者行動について、さまざまな角度から講義します。履修者は、消費者行動に関する体系的な知識を獲得できるようにし、マーケティング戦略の構築との関連性を意識して、より効果的な消費者戦略を想定しながら受講することが必要になります。

【到達目標】
当科目の履修者は、消費者行動に関する基礎的な知識獲得のために、2015 年までに展開されてきた消費者行動研究の枠組みとその流れを把握できるようになることを目的とし、また消費者認知・消費者態度・消費者行動という３つの視点を置きながら、消費者とマーケティング戦略に関する応用的な知識の獲得を目指します。とりわけ、ブランドマーケティングの実践を想定した消費者に関する知識の獲得ができるようになることを目指します。

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方】
授業の形態は、講義を中心にして進めます。講義中に、ディスカッションや課題を投げかけることがありますので、瞬時に対応できるように授業に取り組んでください。
「消費者行動論Ⅰ」では、消費者行動に関する体系的な基礎知識を学習します。特に消費者の行動を規定する消費者の心理プロセスに着目し、消費者行動モデルを基にして、その行動を規定する様々な要因を考察していきます。「消費者行動論Ⅱ」では、マーケターと消費者との橋渡し役をするブランドに着目して、両者のコミュニケーションのあり方を様々な角度から理解していきます。
【授業の方法】
講義形式により授業を進めます。毎回パワーポイントによるスライドを使用します。また、授業内でのディスカッションや課題も予定している。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	消費者行動とマーケティング	消費者行動とマーケティングとの関係を中心にして、当科目の概要を説明します。
第 2 回	消費者行動の分析フレーム	消費者行動の分析レベル、購買行動分析の視点と枠組み、消費者行動の分析モデルを詳解します。
第 3 回	消費者行動研究の系譜	消費者行動研究の源流とその系譜について詳解します。
第 4 回	消費行動と消費パターンの分析	生活資源配分と消費行動、消費様式の選択メカニズムについて詳解します。
第 5 回	消費者行動の変化とその諸相	消費者行動の変化、家事の外部化と消費の多様化、インターネットが変える消費者行動について詳解します。
第 6 回	情報処理メカニズム	情報処理システム、処理能力と処理資源、情報処理モデルについて詳解します。
第 7 回	情報処理の動機づけ	動機、動機づけ、動機づけられるメカニズム、関与について詳解します。
第 8 回	情報処理の能力	処理能力と知識、長期記憶の仕組み、認知構造の水準、専門知識力について詳解します。
第 9 回	購買意思決定の分析	購買意思決定プロセスを中心に情報処理の多様性を詳解します。
第 10 回	購買前の情報処理	情報の探索と解釈について詳解します。
第 11 回	購買時の情報処理	低関与情報処理、情報処理のモード、相互適応的な情報処理について詳解します。
第 12 回	購買後の情報処理	購買後の再評価、再評価と満足、消費者間の社会的相互作用について詳解します。
第 13 回	購買意思決定プロセスとマーケティング	情報処理プロセスをベースにして、購買意思決定とマーケティングとのかかわりを詳解します。
第 14 回	購買意思決定の特性とマーケティング	購買意思決定を中心にして、提案価値、伝達価値、インターネットについて詳解します。
第 15 回	ブランド構築と統合型マーケティング・コミュニケーション	ブランド構築について、その概要とコミュニケーションを詳解します。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	当科目についての概要を説明します。
第 2 回	消費者行動とブランドマーケティングの枠組み	ブランドをベースにした消費者行動とマーケティングとの関係を説明します。
第 3 回	ブランドのアイデンティティとイメージ	マーケターの理想的なブランドアイデンティティが、消費者のブランドイメージにどのように変換されるかを説明します。
第 4 回	消費者志向のブランド理念	消費者を中心とするブランドマーケティングのあり方を考察します。
第 5 回	ブランド認知	ブランド認知について、その分類や役割を説明します。
第 6 回	ブランド連想	知識構造をベースにした連想のあり方を説明します。
第 7 回	ブランド態度	ブランド態度の機能や構造について説明します。
第 8 回	消費者とブランドの信頼	ブランドへの信頼とはどのようにあるべきかを、事例をもとに考えます。
第 9 回	ブランドの情報処理	ブランドに対する情報処理のあり方を説明します。
第 10 回	コンテスクトとブランド	コンテクストとブランドの関係から、ブランドの価値について考察します。
第 11 回	ブランドコミットメント	ブランドへの思い入れを、コミットメント概念から説明します。
第 12 回	ブランドスウィッチング	バラエティシーキングなどにみられる消費者の多様性行動を説明します。
第 13 回	消費者とブランドの意味	消費者にとってのブランドの意味やストーリーについて考えます。
第 14 回	消費者とエリアブランド	地域ブランドのあり方やそのマネジメントについて説明します。
第 15 回	最終試験	授業内容をどの程度理解できているかを見極める試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容に関する消費者の認知・態度・行動について、自分もしくは身近な隣人の様子を観察して、ノートに整理してください。授業で詳解する様々な理論やモデルを適用して、その様子を自分なりに分析してください。そして、それに対応する有効なブランドマーケティング戦略を考案してください。

【テキスト（教科書）】
青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ

【参考書】
青木幸弘『消費者行動の知識』、日経文庫
田中洋・清水聰、『消費者・コミュニケーション戦略』、有斐閣アルマ
新倉貴士、『消費者の認知世界』、千倉書房

【成績評価の方法と基準】
消費者行動論Ⅰ：最終試験（100 %）にて評価します。
消費者行動論Ⅱ：最終試験（100 %）にて評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
適切な速度で講義を進める予定です。また、板書の文字の大きさにも配慮する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントによるスライドやビデオを利用します。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
　マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ
〔受講上の注意〕
　マーケティング論Ⅰ/Ⅱを履修した上で受講することが望ましい。

マーケティング・リサーチⅠ　市場経営学科専門科目　3～4 年次／2 単位［春学期授業］
マーケティング・リサーチⅡ　市場経営学科専門科目　3～4 年次／2 単位［秋学期授業］

西川　英彦　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
商品企画書の作成を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。
はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」を題材に、実際にインタビューや観察法などの定性調査をもとに商品企画の仮説（コンセプト）を作成し、アンケート作成やさまざまなデータ分析などの定量調査をもとにその仮説を検証することを通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を体系的・実践的に学ぶ。

【到達目標】
春学期は、①インタビューや観察法などの定性調査のスキルを身につけ、自ら実際に分析し、その結果を考察することができる、②複数の定性調査を統合し、商品企画の仮説を作成することができる、という２点である。
秋学期は、①アンケート作成やさまざまなデータ分析などの定量調査のスキルを身につけ、自ら実際に分析し、その結果を考察することができる、②複数の定量調査を統合し、商品企画の仮説を検証することができる、という２点である。

【授業の進め方と方法】
授業では、リサーチの基礎と方法を講義で学んだ上で、自ら簡単なリサーチを通して演習を行い、そこでの発見を発表し周りからの意見やコメントを受け、理解を深める。各授業で、リアクションペーパーにより疑問点や感想をあげ、次週の授業でフィードバックをうける。
なお、秋学期は無料分析ソフトの R を使って、アンケート調査の演習を行なう。数学が苦手でも、パソコンに詳しくなくても、簡単に操作できるので安心ください。難しい数式は、使いません。アシスタントによる支援もあり。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	商品企画をテーマに、リサーチしよう！	オリエンテーション テキスト第１章 昨年の最終課題（企画書）の紹介
2	インタビューをしてみよう！ ①	グループ・インタビュー、デプス・インタビュー テキスト第２章 講義中にミニ演習①実施（録音）
3	インタビューをしてみよう！ ②	インタビュー法の優秀課題の報告 **＊ミニ演習①提出**
4	観察をしてみよう！ ①	観察法 テキスト第３章
5	観察をしてみよう！ ②	観察法の優秀課題の報告 **＊ミニ演習②提出（要スマホあるいはデジカメ）**
6	リード・ユーザーに聴いてみよう！ ①	リード・ユーザー法 テキスト第４章
7	リード・ユーザーに聴いてみよう！ ②	リード・ユーザー法の優秀課題の報告 **＊ミニ演習③提出**
8	アイデアをつくろう！	アイデア創出 テキスト第５章
9	カタチにしつつ、コンセプトをつくろう！	コンセプト開発 テキスト第６章
10	コンセプトをテストし、市場規模を推定しよう！ ①	コンセプト・テスト、 テキスト第 10 章 市場規模の推定、２次データ分析 テキスト第８章
11	コンセプト・テストと、市場規模推定をしよう！ ②	コンセプト・テストと市場規模推定の優秀課題の報告 **＊ミニ演習④提出**
12	企画書をつくろう プレゼンもかっこよく！	企画書作成 テキスト第 14 章、第 15 章 最終課題の説明
13	リサーチの実際（ゲスト・スピーカー）	講義と議論（なお、日程はゲストの都合で前後する可能性あり）
14	最終課題を報告しよう！ ①	**＊最終課題提出** 最終課題を報告する
15	最終課題を報告しよう！ ②	最終課題を報告する

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	アンケートでリサーチしよう！	定量調査の概要、R の説明 テキスト第１章
2	データの特徴を理解しよう！	平均と標準偏差 講義と演習 テキスト第６章
3	データの関係を検証しよう！	相関分析、χ２検定 講義と演習 テキスト第７、８章
4	データの差を検証しよう！	t 検定 講義と演習 テキスト第９章
5	中間課題にとりくもう！	講義とグループ分け、サンプルケースをもとに説明 テキスト第４、15 章
6	中間課題に向けてのグループワーク	グループで、中間課題に向けて作業実施
7	中間課題の報告	**＊中間課題提出** 中間報告会
8	中間課題の再提出	中間課題の再報告
9	データをまとめよう！	因子分析 講義と演習 テキスト第 12 章
10	因果関係をあきらかにしよう！	回帰分析 講義と演習 テキスト第 11 章
11	最終課題の説明	サンプルケースをもとに説明
12	最終課題に向けての準備	各自、最終課題に向けて作業実施
13	リサーチの実際（ゲスト・スピーカー）	講義と議論（なお、日程はゲストの都合で前後する可能性あり）
14	最終課題の報告	最終課題の報告 **＊最終課題提出**
15	最終課題の再提出	最終課題の再報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期は、４回のミニ演習と最終課題のレポートを授業外に作成することとなる。
秋学期は、原則講義内演習ですが、終わらない場合は自宅のパソコンで作業する場合があります。

【テキスト（教科書）】
春学期　西川英彦・廣田章光『１からの商品企画』碩学舎、2012 年
＊各自購読のこと。

【参考書】
春学期　佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002 年
秋学期　恩藏直人・冨田健司『１からのマーケティング分析』碩学舎、2011 年
山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年

【成績評価の方法と基準】
春学期　出席点 30 点（リアクションペーパー）、ミニ演習 40 点（各 10 点×4 回）、最終課題 30 点
秋学期　出席点 60 点（リアクションペーパー）、中間課題 20 点、最終課題 20 点
なお、春学期・秋学期ともに、授業内での報告者には加点あり。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
昨年、受講生が難しかったプロセスを考慮して、３点を改善した。
①最終課題をイメージしやすいように、昨年の優秀例を紹介する。
②学生の理解不足の点を把握するため、リアクションペーパーの導入。
③学生が分析に時間のかかったプロセスを２回の講義に分割した。

【学生が準備すべき機器他】
春学期は、デジカメが必要。秋学期は、課外で作業する場合は、自宅のパソコンに無料の分析ソフト R をインストールして使用する。

【その他の重要事項】
関連科目は、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。
従業計画は、履修者の状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。なお、情報実習室利用のため、選抜となる可能性もあります。

サービス・マネジメント論Ⅰ　市場経営学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

サービス・マネジメント論Ⅱ　市場経営学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

木村　純子　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サービス・マネジメントを学ぶ人は、自分が経験・体験したことがあるサービスについてのみ語ることができます。つまり、自分で見たことや使ったことのないサービスについて語ってはいけません。

インターネットを始めとする情報技術の発達のおかげで、私たちはさまざまな情報を手に入れることができるようになりました。見たことがないことも、まるで見たことがあるように語ることが簡単にできてしまう世の中だからこそ、実際の体験が重要です。

【到達目標】

各章で取り上げられた事例に合わせた体験をしていただきます。授業以外の時間とお金を費やすことになりますが、「コスト」とは思わず「（自分への）投資」だととらえてください。

活動を通じて、4 つの力を習得することを本講義の達成目標とします。

1)　身につけた「概念・理論」と「現実・（自らの）経験」を架橋する力
2)　定性的方法論を用いて、自分の足を使ってデータを集め分析する力
3)　内部者（サービス・マーケターや消費者）の論理的思考を理解する力
4)　自分が経験／理解したことを、他の人たちに説得的に丁寧に伝え理解してもらう力

【授業の進め方と方法】

本講義は原則として【英語による講義】となります。

形式は講義形式と演習形式です。学生同士および教員とのインタラクションを通じて活発な議論を展開します。

講義形式で、学生は教員のレクチャーによってサービス・マネジメントの理論を理解します。

演習形式で、学生は各章にあわせた課題にグループで取り組み、発表します。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Basic Concepts of Marketing
第 2 回	What is Marketing?	Basic Concepts of Marketing
第 3 回	Marketing myopia	Avoid Marketing myopia
第 4 回	Marketing myopia	Avoid Marketing myopia
第 5 回	Service Profit Chain	Theoretical framework of Service Profit Chain
第 6 回	Service Profit Chain	Theoretical framework of Service Profit Chain
第 7 回	Guest Speaker	OMOTENASHI
第 8 回	Hospitality Marketing	Case Study: SUGAMO Shinkin
第 9 回	Hospitality Marketing	SUGAMO Shinkin
第 10 回	Intercultural Service Management	Theoretical framework
第 11 回	Intercultural Service Management	Case Study
第 12 回	Internal Service Marketing	Human Resource Management
第 13 回	Internal Service Marketing	Leadership and Motivation
第 14 回	Internal Service Marketing	Organizational Culture
第 15 回	Presentation	Students' Presentation

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Basic Concepts of Marketing
第 2 回	Corporate Social Responsibility	Business Ethics in 21th century
第 3 回	Corporate Social Responsibility	Case Study: Grameen Danone Foods Ltd
第 4 回	Tourism and Rural Development	Theoretical Framework
第 5 回	Tourism and Rural Development	Case Study
第 6 回	Global Service Management	TPP and Agriculture, Forestry and Fisheries
第 7 回	Global Service Management	TPP and Agriculture, Forestry and Fisheries
第 8 回	Competitive advantage and premium price in Services	Theoretical Framework
第 9 回	Competitive advantage and premium price in Services	Case Study: Oji Nepia
第 10 回	Service Innovation	Theoretical Framework
第 11 回	Service Innovation	Case Study: Japan Cliniclown Association
第 12 回	Guest Speaker	(being coordinated)
第 13 回	Interactive Service Marketing	Customer Loyalty
第 14 回	Interactive Service Marketing	Case Study: Food Service Industry
第 15 回	Presentation	Students' presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、課題に沿ったフィールドワークやインタビューなどの調査を行います。

【テキスト（教科書）】

英語の文献を適宜配布します。

【参考書】

適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】

1)　平常点　50%
2)　定期試験　50%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

講義形式ではなく学生同士のインタラクションを望む声がありましたので、グループワークを取り入れた演習形式と講義形式の異なるスタイルでの授業を実施します。

【その他の重要事項】

関連科目「マーケティング論」「マーケティング・リサーチ論」「消費者行動論」「製品開発論」「流通論」

製品開発論Ⅰ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

製品開発論Ⅱ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

田路　則子　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC、DVD、iPod 等ハイテク製品の進歩は目覚しく、我々の生活に便益を与えている。そのハイテク製品とは、どのような技術知識が統合されているのか、製品として世に出るまでにどのようなプロセスをたどるのか、どのような組織で製品開発は行われているのかを学ぶ。

顧客の満足を高めるために、サイエンスを製品化することが製品開発である。サイエンスそのものを追求して研究することは理工系人材の仕事であるが、戦略上の位置づけを考えること、組織の設計や運営は、社会科学系人材の役割でもある。ハイテク産業のマネジメントについて理解を深めることが目標である。

【到達目標】

ハイテク製品を生み出す製品開発を学ぶ意義
・サイエンスとビジネスの関係、ハイテク製品がもたらす便益、製品開発を文科系が学ぶ意義
ハイテク製品の構造
・統合される多様な技術知識
・コスト構造
製品開発のプロセス
・研究、開発、製造、販売までのプロセス
・コンセプト・デザインの重要性
・マニュファクチャリング（製造）
イノベーション
・市場と技術の関係
・イノベーションの定義
・ドミナント・デザインの決定
製品開発戦略
・競争戦略論と資源蓄積論
・ライセンシング、アウトソーシング、アライアンス、ハイテク・スタートアップ
製品開発組織
・研究所と事業部
・プロジェクト・マネージャーの仕事
・グローバル市場への対応

【授業の進め方と方法】

製品の感覚や製品開発の仕事のイメージが持てるようなメニューを用意している。
・技術者やベンチャー経営者によるゲスト講義
・ビデオ教材の利用

半分のケースは事例記述があるので、事前に読んでおくことが望ましい。ケースは大学院レベルのものを使用しているので、かなり難解である。講義は、ケースを読んできたことを前提として進める。VTR 視聴や事前解説の後で、各自が設問に対する考察を記入して提出する。その後で、設問の解説をする。

また、秋学期は、原則として英語の講義となる。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	全体の狙い	ハイテク製品の位置づけ ハイテク産業がもたらす便益
2	Kodak(カメラ)	ラディカル・イノベーションとは何か
3	Kodak（カメラ）	破壊的イノベーション (デジタルカメラの台頭)
4	時計 (セイコー 1)	ラディカル・イノベーションとインクリメンタル・イノベーションの違い
5	時計 (セイコー 2)	イノベーションの収益化
6	液晶テレビ (シャープ)	日本電子産業のコモディティ化
7	医療機器 1　(テルモ)	技術蓄積
8	医療機器 2　(テルモ)	事業ドメインの構築
9	炭素繊維 1(東レ)	素材の製品開発
10	炭素繊維 2(東レ)	川上から川下に広がる事業ドメイン
11	空調機 1（ダイキン工業)	欧州市場における製品サービス
12	空調機 2(ダイキン工業）	グローカル戦略 (グローバル+ローカル
13	半導体 IC(Techwell)	米国におけるスタートアップの成長
14	バイオテクノロジー (Tercica,Tacere)	米国におけるスタートアップの成長
15	復習	まとめ

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	Fashion Gear Watch "Swatch": Swiss	Making a new concept and challenging for radical innovation
17	An unbreakable watch “GSHOCK”: Casio Computer ①	Defining concept design in the consumer market
18	An unbreakable watch “GSHOCK”: Casio Computer ②	Building a global brand in the consumer market
19	A new switch equipped with LCD display: Nihon Kaiheiki ①	Product development in a middle-size manufacturing company
20	A new switch equipped with LCD display: Nihon Kaiheiki ②	Global strategy in a middle-size manufacturing company
21	Electronics: Panasonic ①	Global strategy in a large company How to sell electronic products in Europe
22	Electronics: Panasonic ②	Supply chain management
23	Furniture: Ikea	Global strategy How to sell Swedish furniture in Japan
24	Approaching Globalization	Global or Local
25	Japanese entrepreneurial environment	Venture financing market and founding team
26	Semiconductor inspection equipment: RAYTEX ①	Finding a business opportunity by startup
27	Semiconductor inspection equipment: RAYTEX ②	Growing process of a startup
28	Guest Speaker	TBD
29	Ending	Preparing for the test
30	Test	Writing a simple answer in English

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にケースを読んでおくことを前提する。授業支援システムからダウンロードできる。

【テキスト（教科書）】

『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子　東洋経済新報社　2010 年

【参考書】

①『MOT“技術経営” 入門』延岡健太郎 日経新聞社 2006 年

【成績評価の方法と基準】

設問に対する考察の提出率、テストを総合して評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

なじみのない製品を扱う回もあるが、VTR や写真等を使うことにより、「製品を理解することができた」という意見は多かった。

【学生が準備すべき機器他】

事前のリーディング用のケースや講義中のレジュメは、すべて、授業支援システムからダウンロードできる。原則、レジュメを印刷して配布しない方針のため、PC 持参が望ましい。

【その他の重要事項】

秋学期は英語で運営するため、多くの時間を予習や復習に使う覚悟がなければ履修は難しいだろう。理解を助けるために、要所で日本語の解説や配布資料を用意する。秋学期末の試験は、英語で長文を書くことは求めないが、単語や短い説明を英語で求める予定。
関連科目は、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、国際経営論Ⅰ/Ⅱ等

【教員の研究テーマ】

「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」
「グローバル戦略」
「ハイテク・スタートアップの成長」

【主要研究業績】

“Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,” Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group,Vol. 14,pp.263-287,2014
「WEB ビジネスの起業家像―シリコンバレーのモバイル＆ソーシャルメディア・ビジネス」単著『赤門マネジメントレビュー』第 10 巻 10 号, pp.753-774.2011 年
『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』共編　東洋経済新報社　2010 年
『キャリアデザイン』共著　ファーストプレス 2008 年
『アーキテクチュラル・　イノベーション』単著　白桃書房　2005 年

技術管理論Ⅰ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

技術管理論Ⅱ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

近能　善範　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
技術管理論（イノベーション・マネジメント）の習得

【到達目標】
この授業では、技術管理論に関わる基本的な考え方や概念などを身につけてもらうことを目標とします。

【授業の進め方と方法】
〔授業の概要〕
技術管理論とは、ごく簡単に言えば、「技術を中核に据えた経営戦略論」、あるいは「技術をてこにした経営戦略論」とでも言うべきものです。「技術経営論」や「イノベーション・マネジメント」と呼ばれることもあります。
多くの日本企業では、かつては「技術力さえ優れていれば自ずと収益はあがる」という認識が根強かったのですが、それは誤りです。一般に、研究・技術開発の成果を製品化し、市場に投入し、それが幅広い顧客に受け入れられるまで育て上げ、なおかつ、続々と参入してくる競合他社との激烈な競争に勝ち残っていくためには、戦略的なマネジメントが必要不可欠となります。ここでは、研究・技術開発や生産のマネジメントはもちろん、いかにして技術力を新たな顧客価値に結びつけ、ビジネスとして成立・成長させていくのか、といった点がより重要となります。
この授業では、こうした技術管理論に関わる基礎的な内容を、さまざまな業界の事例を交えながら、なるべく分かりやすく説明していきます。
〔授業方法〕
授業は講義を中心に進めます。また、理解を助けるために、ビデオ教材を適宜取り入れます。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション (1)	技術管理論とはどういう学問か
第 2 回	イントロダクション (2)	イノベーションとは何か、どうして重要なのか
第 3 回	イノベーション・プロセス	イノベーション・プロセスのモデルと三つの関門
第 4 回	イノベーションのパターン (1)	「製品ライフサイクル」と「普及曲線」
第 5 回	イノベーションのパターン (2)	「技術進歩の S 字曲線」
第 6 回	イノベーションのパターン (3)	「A-U モデル」
第 7 回	イノベーションのパターン (4)	「ラディカル・イノベーション」と「インクリメンタル・イノベーション」
第 8 回	イノベーションと企業の競争力 (1)	ラディカル・イノベーションと企業の競争力 (1):「大企業病」
第 9 回	イノベーションと企業の競争力 (2)	ラディカル・イノベーションと企業の競争力 (2):「過去の資産の負債化」
第 10 回	イノベーションと企業の競争力 (3)	「能力増強型イノベーション」／「能力破壊型イノベーション」と企業の競争力
第 11 回	イノベーションと企業の競争力 (4)	「持続的イノベーション」／「分断的イノベーション」と企業の競争力
第 12 回	技術ロードマップの作成と活用 (1)	研究・技術開発のマネジメントとは何か、その難しさ
第 13 回	技術ロードマップの作成と活用 (2)	「技術ロードマップ」とは何か、どのように用いるのか
第 14 回	技術ロードマップの作成と活用 (3)	産業レベルでの「技術ロードマップ」の作成と活用
第 15 回	学習成果の確認	まとめと復習

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	業界標準のマネジメント (1)	「業界標準」とは何か、なぜ重要か
第 2 回	業界標準のマネジメント (2)	三つの「業界標準」
第 3 回	業界標準のマネジメント (3)	「デファクト・スタンダード」を確立するための戦略 (1):「ネットワーク外部性」
第 4 回	業界標準のマネジメント (4)	「デファクト・スタンダード」を確立するための戦略 (2):「クローズド・ポリシー」と「オープン・ポリシー」
第 5 回	業界標準のマネジメント (5)	「デファクト・スタンダード」の世代交代に伴う戦略
第 6 回	新製品開発のマネジメント (1)	新製品開発のプロセス
第 7 回	新製品開発のマネジメント (2)	「製品コンセプト」の開発
第 8 回	新製品開発のマネジメント (3)	事業収益性の評価・検討～市場導入まで
第 9 回	企業間関係のマネジメント (1)	分業構造のマネジメント
第 10 回	企業間関係のマネジメント (2)	アウトソーシングのマネジメント：「make or buy decision」
第 11 回	企業間関係のマネジメント (3)	アライアンスのマネジメント:「距離を保った関係」と「協調的な関係」
第 12 回	ビジネスモデルのマネジメント (1)	「ビジネスモデル」とは何か、なぜ重要か
第 13 回	ビジネスモデルのマネジメント (2)	「ビジネスシステム」のマネジメント
第 14 回	ビジネスモデルのマネジメント (3)	「収益モデル」のマネジメント
第 15 回	学習成果の確認	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込んでおく事を求めます。

【テキスト（教科書）】
近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』, 新世社, 2010 年。
その他に、必要な場合には適宜プリントを配布します。

【参考書】
参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】
Ⅰ・Ⅱとも、「期中のレポート（25 点満点）＋出席 and ビデオ感想（10 点満点）＋期末試験（65 点満点）レポート」の総合計に基づいて評価します。
なお、期末試験を受けなかった場合は成績を「E」とします。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
企業における実際のマネジメントをイメージしやすいように、ビデオ教材を適宜使用しながら説明を行います。

【学生が準備すべき機器他】
事前配布資料は、原則として法政大学授業支援システムを通じて行う予定です。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】
関連科目は、経営学総論Ⅰ・Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、国際戦略論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営情報論Ⅰ/Ⅱなどです。
なお、授業中の私語や携帯電話の使用、黒板等の写真撮影は、他の学生に迷惑がかかるので厳禁です。2 回以上注意しても直らない場合、教室から退出していただきます。また、授業中の迷惑行為が目に余る場合には、本授業の単位を付与しません。
以上を予めご承知の上で履修して下さい。

産業組織論Ⅰ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

産業組織論Ⅱ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

大木　良子　准教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、ミクロ経済学と企業の行動や市場の構造を結びつけることを目的とする。ビジネスの現場でみられる現象をミクロ経済学を使って深く掘り下げることに加え、企業と政府との関係も分析する。
講義では、産業組織論の基本的なフレームワークをなるべく数式を用いずに説明した上で、最近の企業の事例や独占禁止法違反事例を紹介しながら、企業の行動や市場競争のしくみについて詳しく理解する。
「経済学を勉強した（してみたい）が、仮想的な設定ばかりで現実の結びつきがあまり感じられない」という人や、「企業や市場を分析する新しい視点を身につけたい」と考えている人の問題意識に応える内容を目指す。

【到達目標】
産業組織論の基本的な考え方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】
全て講義形式で行う。講義はスライドを用いて解説する。資料は毎回配布し、オンラインでも公開する。
学習内容の確認のために、数回の宿題と中間試験、期末試験を行う。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ミクロ経済学で「企業」「市場（産業）」「政府」はどのように扱われているか
2	市場と競争	企業の数と競争の度合いとの関係（市場集中度） 独占市場、完全競争市場、寡占市場とは？
3	完全競争市場	企業は何を決めることができるのか？ 企業の利潤はどのように決まるのか？ 完全競争市場は存在する？
4	独占 1	独占企業の行動と完全競争市場における企業の行動との違い なぜ独占になるのか？
5	独占 2	独占企業の意思決定、価格、数量の決まり方。独占企業は悪者か？
6	中間試験	これまでの学習内容につて計算問題・論述問題を出題
7	寡占 1	数量を決定して競争する場合（クールノー競争） 企業の数が変化していくと競争はどのように変わっていくか？
8	寡占 2	価格を決定して競争する場合（ベルトラン競争） クールノー競争との違い
9	ゲーム理論 1	ゲーム理論とはなにか？ ゲーム理論を使うとどのような分析が可能になるのか？
10	ゲーム理論 2	いろいろなゲームの均衡を求める
11	ゲーム理論 3	数量競争・価格競争再考
12	カルテル	価格カルテル、数量カルテルが競争に与える影響。企業はなぜカルテルを形成するのか？
13	合併 1	合併とは？ 直近の合併事例と競争政策。政府によって認められない合併とは？
14	合併 2	企業はなぜ合併するのか？ 合併の経済モデル、合併が市場競争に与える影響。
15	まとめ	これまでの授業の復習と関連する最近の独禁法事例の紹介。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	企業行動と法制度	法律や制度がどのように経済主体の意思決定に影響を与えるのか
17	競争政策と産業組織論	カルテル、水平合併、垂直的取引制限と政府による規制
18	研究開発と特許	技術開発・特許制度と市場競争との関係
19	価格差別 1	価格差別の定義と経済モデルの紹介、価格差別と市場における競争の関係
20	価格差別 2	完全価格差別、グループごとの価格差別。休日と平日で料金が違うのはなぜ？
21	価格差別 3	自己選択型価格差別、価格差別の具体的な事例紹介。まとめて買うとお得？
22	垂直的取引制限 1	垂直的取引制限とは？ 具体事例の紹介
23	垂直的取引制限 2	垂直的取引制限に対する競争政策
24	中間試験	これまで学習した経済理論について計算問題・論述問題を出題
25	製品の差別化と競争 1	市場における製品は同じか？ 違うか？（同一財と差別化財）差別化の源泉は何か？（立地、ブランド）
26	製品の差別化と競争 2	主要な製品差別化の経済モデル。牛丼やさんは隣同士に立地する？
27	製品の差別化と競争 3	主要な製品差別化の経済モデル（つづき）。何ギガのスマホを買う？
28	ネットワーク外部性 1	ネットワーク外部性の定義とそれが見られる市場の事例。どの SNS を使う？
29	ネットワーク外部性 2	ネットワーク外部性の経済モデルと企業の戦略 多面的市場とその事例。プレイステーションと Wii の競争を考える。
30	まとめ	これまでの授業の復習と最近の独禁法事例の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。積極的なアクセスを期待します。
『ミクロ経済学』伊藤元重著、 日本評論社、2003 年
『入門　ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004 年
『競争政策論』小田切宏之著、日本評論社、2008 年
『プラクティカル　産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013 年
『経営の経済学　新版』丸山雅祥著、有斐閣、2011 年
『産業組織の経済学　第 2 版』長岡・平尾著、日本評論社、2013 年

【成績評価の方法と基準】
宿題 20 %
中間試験 20 %
期末試験 60 %
授業中に周囲の迷惑になるような行動をした場合は、減点となります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度や、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
ミクロ経済学について基本的な知識を習得していることを受講の前提とします。この授業は、ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ、応用経済学Ⅰ/Ⅱと関連しています。

非営利組織経営論Ⅰ　市場経営学科専門科目　3～4 年次／2 単位［春学期授業］

非営利組織経営論Ⅱ　市場経営学科専門科目　3～4 年次／2 単位［秋学期授業］

湧口　清隆　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が、非営利組織の社会・経済上の位置づけとマネジメントの範囲・方法を理解することにより、どのような事業を非営利組織がどのように担うべきかを具体的に述べることができることを目的とする。

【到達目標】
学生が、非営利組織が現代社会で果たす役割の大きさを理解する一方で、営利企業や行政と比較しながら非営利組織の特徴を把握し、非営利組織は個別事業の担い手としては代替的な組織形態の一つに過ぎないことを認識する。そのうえで、学生が、非営利組織がどのような事業を担い、どのように運営していくべきなのかを考え、しくみづくりができるようになることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
【非営利組織経営論Ⅰ】
公共財・公共サービスは、理論上、「市場の失敗」の産物と位置づけられ、長らく政府によって供給されるものと考えられてきた。しかし、1980 年代から本格化した規制緩和の結果、排除性のある準公共財や価値財を中心に民間によって供給される事例が増えている。その中には営利を目的とする私企業のみならず、非営利・共同セクターに属する団体（NPO、NGO、協同組合など）によって供給される準公共財や公共財も含まれている。なぜ近年、政府や私企業に代わって非営利・共同セクターの重要性が増しているのか、このような供給形態にはどのような特徴や課題があるのかを、経済学や非営利組織研究の観点から理解する。
【非営利組織経営論Ⅱ】
非営利組織は非営利である点で私企業とは異なり、組織である点で個人のボランティアとは異なる。どのように資金を調達し、どのような目的、どのような組織体制の下で活動しているのか、また、制度的にどのように位置づけられているのかをマネジメントの観点から NPO を中心とする非営利組織を理解する。
【授業の方法】
図表・写真などの資料、テキストなどをもとに講義する。大人数の講義ではあるが、自ら考える力を養うために、学生に挙手回答を求めたり、学生を指名して質疑応答しながら授業を進めていく。また、3 回に 1 回程度は出席カードを使って学生の質問や要望を聞き、授業に反映させるようにしているので、授業内で疑問に感じたことは積極的に質問するようにして欲しい。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション－NPO の神話－	非営利組織とは何かを喚起する
2	NPO の鳥瞰図	制度上、非営利組織に位置づけられる組織を知る
3	NPO 改革の方向	近年進められる公益法人改革、NPO 改革の動向を紹介する
4	収入源から見た日本の NPO	非営利組織の収入の大きさや構成を知る
5	NPO の占める位置	経済の中で非営利組織の占めるウェイトを知る
6	NPO の国際比較	非営利組織の経済に占める状況を国際比較する
7	非営利革命の背景	非営利組織が登場し、発展した要因を考える
8	さまざまな NPO（教育・文化分野）	教育・文化分野で活動する非営利組織の実態を知る
9	さまざまな NPO（法政大学）	定義上「NPO」と位置づけられる法政大学を分析しよう
10	さまざまな NPO（医療・福祉分野）	医療・福祉分野で活動する非営利組織の実態を知る
11	さまざまな NPO（国際分野）	国際的に活動する非営利組織（NGO）の実態を知る
12	さまざまな NPO（その他の分野）	その他の分野で活動する非営利組織の実態を知る
13	フィランソロピー	個人や企業がなぜ寄付やボランティア活動をするのかを知る
14	NPO をめぐる制度設計	NPO にかかわる制度を紹介、検討する
15	授業のまとめ	春学期の授業を総括する

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期試験の正解確認と秋学期授業の概要紹介を行う
2	NPO のマネジメントの必要性と特徴	自発的に活動する組織になぜマネジメントが必要かを考える
3	ボランティア・マネジメント	ボランティア活用術を学ぶ
4	理事会のマネジメント	理事会にもマネジメントが必要な理由と内容を学ぶ
5	ファンド・レイジング	寄付や補助金・助成金を必要とする理由を知り、獲得のための方法を学ぶ
6	NPO の予算	非営利組織の予算の立て方を学ぶ
7	プログラム・プランニング	非営利組織における事業計画の意味を理解する
8	プログラム・プランニングの具体的手法	非営利組織における事業計画の立て方を学ぶ
9	戦略計画	戦略計画の意味や策定方法を知る
10	リスク・マネジメント	リスク管理のあり方や方法を学ぶ
11	NPO の制度と政策	非営利組織の運営や税に関する制度を学ぶ
12	NPO の今後の動向	非営利組織の将来の可能性を考える
13	事例研究（広義の非営利組織）	いくつかの非営利組織の活動内容や組織を紹介する
14	事例研究（NPO 法人）	いくつかの NPO 法人の活動内容や組織を紹介する
15	授業のまとめ	秋学期の授業を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
非営利組織や行政のウェブ・サイトを適宜紹介するので、学生が各自で閲覧してその組織の活動を調べたり、資料をダウンロードし分析することを求める。春学期、秋学期ともに、広義の非営利組織に含まれる（学校法人）法政大学をしばしば例として挙げるので、学生が大学のサイト上にある建学の精神、沿革、事業計画書、事業報告書などの情報をはじめ、学内にあるパネル、学報なども確認してもらいたい。

【テキスト（教科書）】
【非営利組織経営論Ⅰ】授業の都度、図表などを中心に資料を配布する。
【非営利組織経営論Ⅱ】参考書に挙げる柏木宏著『NPO マネジメントハンドブック―組織と事業の戦略的発想と手法』に沿って授業を進めるが、図表や具体的事例を追加した資料とレジュメを配布する。

【参考書】
柏木宏、『NPO マネジメントハンドブック―組織と事業の戦略的発想と手法』、明石書店、2004 年。
山内直人、『NPO 入門』第 2 版、日経文庫、日本経済新聞社、2004 年。
山内直人、『ノンプロフィットエコノミー― NPO とフィランソロピーの経済学』、日本評論社、1997 年。

【成績評価の方法と基準】
【非営利組織経営論Ⅰ】期末試験の成績による（100%）。
【非営利組織経営論Ⅱ】期末試験の成績による（100%）。授業内に集める任意提出（希望者のみ提出）のレポートを課す場合がある。このレポートの成績は期末試験の成績の枠外でオマケとして加算する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
賛否両論あるが、双方向授業を心がけている。受講生全体に対し挙手回答や学生を指名して発言を求めることも多い。授業の理解が深める意味でも、当たっても構わない方はぜひ前方に座ってもらいたい。
学生から板書や配布物をウェブ上にアップして欲しいという要望も強いが、アップしない。この授業は暗記を目的とするのではなく、考えることをテーマとしている。一度も授業に参加せず、ウェブ上の情報のみを鵜呑みにして試験を受ける学生には受講してほしくない。したがって、期末試験も暗記だけで解ける問題は 50%以下に抑え、応用力を問う論述式問題を多く（50%以上）採用している。

【学生が準備すべき機器他】
何回かの講義で、パソコン現示による図表・写真の投影や DVD などを利用する予定である。

【その他の重要事項】
制度上、法政大学も非営利組織に分類される。学生にとって最も身近な法政大学についても十分に理解されたい（例えば建学の精神の意味）。
本科目は、「ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ」、「マーケティング論Ⅰ／Ⅱ」、「経営学総論Ⅰ・Ⅱ」などで学習したことの応用（理論に対して実務的な部分）であり、行政が提供すべき財・サービスを代替的に供給する主体の一つが非営利組織であることを考慮すると、「財政論Ⅰ／Ⅱ」、「交通経済論Ⅰ／Ⅱ」との関連も深い。また、サービスの供給という点に着目すると、「サービス・マネジメント論Ⅰ／Ⅱ」との関連もあろう。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

応用経済学Ⅰ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

応用経済学Ⅱ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

宮澤　信二郎　准教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業の経営者あるいは部門の責任者は，どのようなことに注意して，どのように行動したら良いのでしょうか。自社の製品をどのぐらい，どのように生産したら良いでしょうか。そのとき製品の価格はどうなるのでしょうか。どのような人を雇って，どのように処遇したら良いでしょうか。必要となるお金はどのように調達したら良いでしょうか。これらの問いに対する答えは，様々な条件によって子違ってくることがあります。
「応用」経済学という科目名から，だいぶハイレベルなことを学ぶように予想するかもしれませんが，決してそのようなことはありません。この授業では，ミクロ経済学の基本的な考え方を企業経営のさまざまな問題に当てはめる（応用する）と何がわかるのかについて，生産，販売，人事・組織，財務の 4 つの観点から概観します。

【到達目標】
以下の 3 点をこの授業の到達目標とします。
1）企業の生産，販売，人事・組織，財務に関して，どのようなことに注意して，どのような決定をすればよいのかについて自分の頭で考えられるようになる。
2）関連する経済学の考え方，つまり，最適化，ゲーム，契約の理論に関して，その基本を押さえ，具体的な状況に当てはめて考えられるようになる。
3）複雑な状況の本質を押さえて，より論理的に考えられるようになる。

【授業の進め方と方法】
この授業では，各テーマについて，具体的な状況の例を挙げながら，基本的な考え方を説明します。説明にあたっては，概念図や簡単なグラフなどを用い，なるべく直観的に理解できるようにします。質疑・応答の時間を十分に取り，必要に応じて，簡単な例題を出題するなどして，参加者の理解度を確認しながら進めます。理解度の確認のため，毎回，授業内容の要約（200 字程度）をする宿題を提出してもらいます。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の目的・内容・進め方などについて説明する。
第 2 回	経済と企業	経済と企業の関わりについて概観する。
第 3 回	生産 (1) ：費用	生産に関わる費用について考える。
第 4 回	生産 (2) ：短期	生産について，短期的な視点から考える。あわせて，企業の意思決定に関する基本的な考え方について学ぶ。
第 5 回	復習	第 4 回までの内容を確認する。
第 6 回	生産 (3) ：長期	生産について，長期的な視点から考える。
第 7 回	生産 (4) ：その他	どのような生産物をどれだけ作るかなどについて考える。
第 8 回	復習	第 6 回と第 7 回の内容について確認する。
第 9 回	販売 (1) ：完全競争	ライバルは非常にたくさんいる場合にどのような価格でどれだけ販売することになるのかについて考える。
第 10 回	販売 (2) ：独占	ライバルが全くいない場合にどのような価格でどれだけ販売することになるのかについて考える。
第 11 回	復習	第 9 回と第 10 回の内容について確認する。
第 12 回	販売 (3) ：寡占	ごく少数のライバルがいる場合にどのような価格でどれだけ販売することになるのかについて考える。あわせて，戦略的な相互作用がある場合の意思決定に関する基本的な考え方について学ぶ。
第 13 回	販売 (4):その他	どのようなときにどのような製品を販売するようになるのか（逆に販売しないようになるのか）などについて考える。
第 14 回	復習	第 12 回と第 13 回の内容について確認する。
第 15 回	授業内試験	春学期の内容について簡単な試験を行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	イントロダクション	春学期に扱った内容を確認するとともに，秋学期の内容に関するイントロダクションを行う。
第 17 回	人事・組織 (1) ：労働市場	労働の供給と需要に関して考える。
第 18 回	人事・組織 (2) ：採用	採用に関わる問題について考える。あわせて，「隠された情報」の問題とその対処法について学ぶ。
第 19 回	復習	第 17 回と第 18 回の内容について確認する。
第 20 回	人事・組織 (3) ：人的資源管理	雇用者の行動を管理する際の問題について考える。あわせて，「隠された行動」や「ホールド・アップ」の問題とその対処法について学ぶ。
第 21 回	人事・組織 (4) ：企業組織	企業の組織に関して考える。
第 22 回	復習	第 20 回と第 21 回の内容について確認する。
第 23 回	財務 (1) ：企業活動と資金調達	企業が活動する上で必要となる資金とその調達方法について考える。
第 24 回	財務 (2) ：株式・負債	典型的な資金調達手段である株式と負債について考える。
第 25 回	復習	第 23 回と第 24 回の内容について確認する。
第 26 回	財務 (3) ：調達費用	資金を調達する際に発生する「費用」について考える。あわせて，資金調達方法の選択に関する議論について学ぶ。
第 27 回	財務 (4) ：倒産・再建	企業の倒産と再建について考える。
第 28 回	復習	第 26 回と第 27 回の内容について確認する。
第 29 回	予備日	授業の進度を調整する。場合によっては，ここまででは扱えなかったテーマについて議論する。
第 30 回	授業内試験	秋学期の内容について簡単な試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，授業内容の確認のため，授業内容の要約を作成してもらいます。合わせて，よく分からなかった点，正しく理解できているか確認したい点などをまとめてもらいます。
この授業の復習以外では，他の授業の復習や新聞を読んだりニュースを聞いたりする中で，この授業で扱っている内容と関連がある話を探し，当てはめて考える訓練をしてみてください。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学　ミクロ編（第三版）』東洋経済新報社（2013 年）
ミルグロム＝ロバーツ（奥野ほか訳）『組織の経済学』ＮＴＴ出版（1997 年）

【成績評価の方法と基準】
各学期とも，期末テスト（授業内）（50 %）と平常点（50 %）で評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業で扱う内容について，具体的な状況などを紹介することで，参加者の関心を高められるようにしたいと思います。また，数式を使って説明すると，理解が追い付かない学生が多いようなので，数式なしで説明するようにしたいと思います（ただし，参加者の要望があれば，数式を用いた説明もすることにします。）。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
1）科目名に「応用」がついていますが，ミクロ経済学の基本的な考え方を企業経営のさまざまな問題に当てはめる（応用する）と何がわかるのかについて扱うだけであり，他の科目と比べて難易度が高いということはないと思います。
2）専門基礎科目Ａ群の『ミクロ経済学入門』を履修していることが望ましいですが，履修していなくても理解できるように配慮します。この授業のⅠの内容は『ミクロ経済学入門』の復習と位置付けることもできます。『ミクロ経済学入門』の内容がいまいち理解できなかったというような方も，是非履修してみてください。他の専門基礎科目の内容も参考になると思います。
3）関連する専門科目として，『産業組織論』，『組織経済学』，『企業財務論』，『日本経済論』，『国際経済論』などがあります。

交通経済論Ⅰ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

交通経済論Ⅱ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

橋本　悟　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、ミクロ経済学の基礎理論をベースに「交通産業」を分析する。交通産業の研究は事情分析的なものになりがちで、一般的・普遍的な視点を見失うことが多いが、本講義では、ミクロ経済学の確立された手法を用いることで、普遍的な分析と洞察を行う。

【到達目標】
到達目標は以下の 2 つである。
1．交通産業の概要、および交通政策を理解することができる。
2．交通産業を経済学的な視点から論じることができる。

【授業の進め方と方法】
講義方式で授業を行う。毎回、レジュメを配り、それをもとに講義を行う。授業では黒板を用いる場合とスライドを使う場合がある。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	交通経済学とは何か？ 市場の失敗と交通産業についてを学習する。
第 2 回	交通産業の特徴 1	鉄道、航空、バス、タクシーなどのさまざまな交通産業の概要・特徴を知る。
第 3 回	交通サービスの特徴 2 (ユニバーサルサービスと公共性)	「ユニバーサルサービス」と「公共性」の概念について学習する。さらに、交通の単位についても学習する。
第 4 回	市場の失敗と公的介入 (自然独占)	なぜ交通産業は市場が失敗するのかについて学習し、その対処法として公的規制が行われていることを確認する。特に自然独占について学習する。
第 5 回	交通産業の費用特性 1 (規模の経済)	規模の経済の定義、および、交通に規模の経済は働くかについて学習する。
第 6 回	交通産業の費用特性 2 (範囲の経済等)	範囲の経済、密度の経済、ネットワークの経済について学習する。
第 7 回	運賃理論 1	運賃、料金、ピークロードプライシング、混雑税について学習する。
第 8 回	運賃理論 2	自然独占産業における限界費用価格規制、平均費用価格規制について学習する。
第 9 回	運賃理論 3	総括原価方式、ラムゼイの価格理論について学習する。
第 10 回	規制緩和による新しい運賃規制	プライスキャップ、ヤードスティック規制等について学習する。
第 11 回	日本の交通産業政策 1	鉄道産業における内部補助、および近年の活性化政策について学習する。
第 12 回	日本の鉄道産業政策 2	国鉄の民営化について学習する。
第 13 回	日本の鉄道産業政策 3	整備新幹線政策について学習する。
第 14 回	日本の鉄道産業政策 4	地方鉄道の上下分離政策について学習する。
第 15 回	総復習	まとめ・知識の確認を行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	交通経済学とは何か？ 市場の失敗と交通産業について学習する。
第 2 回	交通産業の特徴	鉄道、航空、バス、タクシー、船舶などの様々な交通の概要を知る。
第 3 回	交通需要予測 1	費用便益分析の概要について学習する。
第 4 回	交通需要予測 2	費用便益分析の実際の適用について学習する。また、適用における問題点についても言及する。
第 5 回	道路インフラ整備	道路計画から道路建設・維持までの流れについて学習する。また、道路公団の民営化についても学習する。
第 6 回	高速道路インフラ整備計画	日本の高速道路建設計画の概況、および建設状況、維持管理、債務の返済等について学習する。
第 7 回	日本の航空政策 1	日本の航空政策と幼稚産業保護論、内部補助についても学習する。
第 8 回	日本の航空政策 2	規制緩和と LCC の台頭について学習する。規制には安全規制と経済的規制があり、これらについても学習する。
第 9 回	日本の空港政策	PFI による空港の建設、空港の民営化について世界と比較しながら日本の特徴について学習する。
第 10 回	交通産業の代替関係・補完関係 1	取引費用経済学を用いて企業の境界と合併について学習する。
第 11 回	交通産業の代替関係・補完関係 2	取引費用経済学等を用いて、交通産業における戦略的代替関係・補完関係について学習する。
第 12 回	日本の地方交通の活性化 1	日本の地方交通を活性化させる必要があるか？ また、現在行われている地方交通の活性化政策を学習する。
第 13 回	日本の地方交通の活性化 2（交通とまちづくり）	日本で現在行われている地方交通活性化政策について学習する。
第 14 回	交通の海外投資	新幹線の海外投資戦略について学習する。
第 15 回	総復習	まとめ。知識の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は新聞を読み、ニュースを聞く程度でよいが、復習はしっかりと行ってほしい。特に授業で学習した専門用語は覚えるように努力すること。授業で計算問題を学習したときは、必ず復習でその問題を解いてみること。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。毎回のレジュメで対応する。ただし、授業を受けて、もっと詳しい知識を得たいと思った場合は、参考文献に目を通してほしい。

【参考書】
山内弘隆・竹内健蔵（2002）『交通経済学』有斐閣アルマ。
竹内健蔵（2008）『交通経済学入門』有斐閣ブックス。

【成績評価の方法と基準】
授業中の課題・宿題など（40 %）、期末試験（60 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
でいるだけ具体例を挙げながら説明をする予定である。

【学生が準備すべき機器他】
筆記用具等

【その他の重要事項】
ミクロ経済学の知識があれば、理論の理解がスムーズになる。授業ではミクロ経済学の復習も行う予定である。なお、春学期、秋学期あわせての履修が望ましい。
（オフィスアワー）
　授業が終わった後に質問してほしい。また、簡単な質問については、メールでも受け付ける。アドレスは次の通りです。
橋本悟（はしもとさとる）sr_coma@yahoo.co.jp
（関連科目）
ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ（事前にこの科目の知識があると授業がよりわかりやすくなる。すべての基礎になる科目である）
応用経済学Ⅰ・Ⅱ（この授業の受講後に履修すると双方の知識がより高まると思われる）
産業組織論Ⅰ・Ⅱ（若干内容が重なる部分がある。したがって、双方を履修するとお互いの理解がより深まると思われる）

企業財務論Ⅰ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

企業財務論Ⅱ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

金　瑢晋　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業の経営者、とりわけ、CFO と呼ばれる最高財務責任者は、経営上直面する様々な財務意思決定問題に対し、その解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定とは、新しい投資案の評価、資金調達手段の選択、利益処分方法の決定、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、運転資本管理など等があり、実に多岐に渡ります。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資金提供者である投資家達の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値の値評は、企業の経営者と投資家の両方の意思決定において極めて重要なプロセスとなります。この授業は、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、企業の最高財務責任者が、どのような基準に基づき、どのようなアプローチを取ることによって、問題を解決すべきかについて考える機会を提供します。

【到達目標】
・コーポレートファイナンスのイメージが捕まえられます。
・お金の時間価値と割引現在価値の重要性が自然に理解できます。
・資産価値の評価に関する一般原理が理解できます。
・株式会社の経営者と投資家との関係が理解できます。
・経営者の立場からプロジェクトの評価を行うことが出来ます。
・企業価値の算定が出来ます。
・資金調達手段の選択について理解が深まります。
・金融・財務データの使い方について理解が深まります。
・経済・金融のニュースについて理解が深まり、興味が持てるようになります。
・数字を使い具体的に答えを導く能力が培われます。

【授業の進め方と方法】
授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので質問などの積極的な授業参加を高く評価します。電卓（関数電卓を含む）を持参し、授業中に使用して構いません。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	企業と資本市場	企業組織とりわけ株式会社の仕組みの理解、企業統治機構とステークホルダーの関係、投資家と資本市場の関係
2	財務諸表分析入門	会計学とファイナンスにおける考え方、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書から読み取れる情報、市価と簿価、資本市場の役割
3	無裁定価格と財務意思決定Ⅰ	裁定機会と一物一価法則の理解、一期間の世界
4	無裁定価格と財務意思決定Ⅱ	無裁定機会に基づく証券価格の評価、財務意思決定への応用
5	お金の時間価値Ⅰ	お金の時間価値の理解、キャッシュフローの割引現在価値の計算とその重要性の確認、割引現在価値と資産評価との関係
6	お金の時間価値Ⅱ	特殊なキャッシュフローを持つ場合の割引現在価値、表計算ソフトを用いた計算例
7	利子率	利子率表示の理解、割引率と利子率との関係、利子率の決定要因、リスクと利子率、税引き後利子率
8	投資の意思決定Ⅰ	プロジェクト評価の諸手法、正味現在価値、内部収益率、回収期間法、収益性辞表など
9	投資の意思決定Ⅱ	内部収益率法の落とし穴、複数のプロジェクトがある場合の評価、資金制約がある場合のプロジェクト評価
10	資本予算の実際	利益の予測、フリーキャッシュフローの予測、EBIT、減価償却費、損益分岐点分析、感度分析、シナリオ分析
11	債権評価Ⅰ	債権の価格、利回り曲線、債券価格の動的変化
12	債権評価Ⅱ	利回り曲線と債券の裁定取引、社債の評価、社債の格付け
13	株式評価Ⅰ	配当割引モデルとその拡張、自社株買戻しと総還元モデル
14	株式評価Ⅱ	類似企業に基づく評価、情報・競争と株価
15	総括	学習内容の復習、定期試験のガイダンス

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	リスクとリターンⅠ	リスクとリターンのあらまし、収益率の計算、リスクとリターンのトレードオフ
2	リスクとリターンⅡ	共通リスク対個別リスク、株式ポートフォリオにおける分散化
3	最適ポートフォリオと資本資産評価モデルⅠ	ポートフォリオのリスク、効率的ポートフォリオの選択、
4	最適ポートフォリオと資本資産評価モデルⅡ	資本資産評価モデルの直感的理解
5	資本コストの推定Ⅰ	市場ポートフォリオの理解、ベータの推定
6	資本コストの推定Ⅱ	株主資本コストの算定、エクセルによる実演
7	投資家行動と資本市場の効率性	情報と合理的期待、市場効率性論争
8	資本構成Ⅰ	法人税なしの完全資本市場、MM の命題Ⅰ・Ⅱ、加重平均資本コスト
9	資本構成Ⅱ	法人税の導入、負債の節税効果、MM の命題の拡張
10	資本構成Ⅲ	倒産可能性、エージェンシー費用の考慮、MM の命題Ⅰ・Ⅱの再考、最適資本構成
11	企業価値	フリー・キャッシュフローの計算、加重平均資本コスト、企業価値の計算
12	レバレッジのある場合の企業価値評価手法の比較検討	APV、FTE、WACC 法の比較分析
13	新規株式公開	IPO の動機、IPO 市場の特徴、IPO のプロセス
14	ペイアウト政策	配当政策と自社株買いの意思決定
15	総括	学習内容の復習、定期試験のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当授業の理解を深めるためにも現実の企業活動に興味を持つことが重要です。日頃から日経新聞などの企業の財務活動に関する記事を読み理解するよう努めることが望ましいです。

【テキスト（教科書）】
ジョナサン・バーク、ピーター・ディマーゾ著、『コーポレートファイナンス』入門編第 2 版 (久保田・芹田・竹原・徳永訳)、丸善出版

【参考書】
図書館の開架にある図書で、コーポレートファイナンス、企業財務論、経営財務論というタイトルがついている図書を参照して下さい。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %
期末試験 80 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
内容によっては、エクセルで計算過程を示しながら説明を行いますが、その結果は、授業支援システムにアップロードして置きます。

【その他の重要事項】
関連科目：ファイナンス論Ⅰ／Ⅱ、証券経済論Ⅰ／Ⅱ

【前提知識】
授業では、初歩的な計算を行いますが、特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

証券経済論Ⅰ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

証券経済論Ⅱ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

岸本　直樹　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融資産は、学生の皆さんにとってまだ縁の薄いものかもしれません。しかし、卒業後数年もすれば、預金、債券、株式、投資信託、年金、さらに貯蓄性保険等、様々な金融資産に投資することがあるでしょう。また、自動車購入、住宅購入に伴ってローンを組む必要が生じるかもしれません。さらに、職場の業務で金融資産あるいは負債に関わる人も多いでしょう（経営学部の卒業生の 20%は金融業界に就職します）。さて、金融資産や負債について意思決定するときもっとも重要な問題は、価値の評価とその見通しです。したがって、「証券経済論Ⅰ」及び「証券経済論Ⅱ」の履修者は、金融資産及び負債の価格形成に関して学術上かつ実務上もっとも重要なモデルを学習し、将来、金融資産や負債に関して意思決定する際、それらの分析ツールに基づいて合理的な判断ができるのに備えることができます。

より具体的に言えば、「証券経済論Ⅰ」では、代表的な金融資産である債券と株式を学習します。また、それに続いて「証券経済論Ⅱ」では金融資産の管理手法と、金融資産のリスクとリターンに関する理論モデルを学習します。したがって、Ⅰは個人として金融資産や負債に関わる人と、業務で金融資産あるいは負債に携わる人の両方にとって有用な知識を提供します。他方、Ⅱは、理解が比較的難しく、かつ、通常、業務で金融資産あるいは負債に関わる者だけが必要な知識を提供します。よって、Ⅱは、金融機関等に就職する希望ないし可能性を持つ学生には履修を強く勧めます。他方、そうでない学生には、Ⅰだけの履修でも十分かもしれません。

【到達目標】

①簡単な金利計算ができる。
②債券投資の収益に影響する主要な要因とその影響を列挙できる。
③株式評価で最もよく使われる配当割引モデルを使って株式の適正な価値を計算できる。
④先物等のデリバティブの仕組みや損益について説明できる。
⑤情報が資産価格に及ぼす影響を効率的市場仮説に沿って説明できる。
⑥ポートフォリオ理論の概要を説明できる。
⑦資産のリスクとリターンの関係を CAPM に沿って説明できる。

【授業の進め方と方法】

講義形式です。ただし、授業時間中に学生各自が練習問題を解く時間を設け、ランダムに学生に質問します。さらに、出席者数が極端に多くない場合は、必要に応じて授業内小テストを実施します。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1-3	金利、現在価値、将来価値	金利、現在価値、将来価値の計算方法を説明する。
4-8	債券入門	債券の仕組み、債券市場、最終利回り、債券投資とそのリスクを説明する。
9-11	株式入門	株式の仕組み、株式市場のほか、配当割引モデル及びマルチプル法等の、株式に関する基本的な分析ツールを説明する。
12-14	デリバティブ入門	先渡取引及び先物取引の概要を解説する。
15	効率的市場仮説入門	情報が資産価格に及ぼす影響を効率的市場仮説の観点から概観する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16-17	収益率の期待値と標準偏差	収益率を定義した後、確率変数、期待値、分散、標準偏差を丁寧に説明する。
18-19	共分散と相関係数	異なる資産の収益率が同じ方向あるいは逆の方向に変動する傾向を捉える尺度について丁寧に説明する。
20-26	ポートフォリオ理論	投資家が投資資金を各資産にどう投資するのがよいかという問題について、マーコウィッツが提唱した方法（通常、ポートフォリオ理論と呼ばれるもの）を紹介する。
27-29	資本資産評価モデル	直感的に言って、投資家は資産のリスクが高くなればなるほど、高い期待収益率を要求するだろう。資本資産評価モデル（CAPM）は、一定の仮定の下で、この直感が資産市場に妥当すると主張する。本科目では、このモデルの主張が成立する所以をできるだけ直感的に説明する。
30	アセット・アロケーションの実際	投資資金をどの種類の資産にどのくらい投資するかという問題（アセット・アロケーションと呼ばれる）について実際的な観点からアプローチする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の予習及び復習。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹著、『証券経済論　Ⅰ　Ⅱ講義資料』（授業中に配布する）

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業態度及び（履修者数が多くない場合に実施する）授業内小テストに 30%、定期試験に 70%。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

より分かりやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

〔関連科目〕
ファイナンス論Ⅰ/Ⅱ、企業財務論Ⅰ/Ⅱ、金融論Ⅰ/Ⅱ、簿記入門Ⅰ・Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ
〔予備知識〕
授業で期待値、標準偏差、共分散を使いますが、これらは授業中に説明するので、それらの予備知識は必ずしも必要ではありません。
〔注意事項〕
Ⅰの理解はⅡの理解を助けるので、Ⅱの履修を予定する学生はⅠを履修することを推奨します。また、担当教員は、できるだけ平易な説明を心がけていますが、その結果、講義が「積み上げ式」になっています。つまり、授業に毎回出席していなければ授業内容を十分に理解することが難しいです。したがって、本科目の履修者には授業に毎回出席することを強く求めます。
なお、授業中の私語やその他の授業の迷惑になる行為は厳に慎んでください。悪質な場合は、厳しく注意し、教室から退室させたり、授業評価に反映させたりします。

財政論Ⅰ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

財政論Ⅱ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

徐　一睿　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財政とは、国や地方自治体などの政府が租税や公債によって財源を調達し、それを用いて国民や住民にサービスを提供する活動のことである。財政は、私たちの生活と密接に結びついている。テレビを付けると、新聞を開いて読むと、財政に関するニュースに接しない日はないと言えよう。税制改革や予算編成、国債発行など、なんか難しくて分からないと言う人もいるでしょう。しかし、普段の我々の生活を見渡せば、道路や水道といった日々の生活に欠かせないものの多くは財政を通じて提供されている。
財政学は、政府による歳出や歳入の管理（財政活動）が我々の経済生活にどのような影響を及ぼすのかを考える学問である。すなわち、政府による社会保障や公共投資といった歳出活動は人々の生活の改善にどのようにつながるのか、課税や公債の発行等による政府の資金調達活動は民間の経済活動にどのような影響を及ぼすのか、国と地方の財政はお互いにどのように影響しあうのかといった問題を究明する学問である。
本講義では、財政のメカニズムを理解するために必要な財政学の基礎知識について解説する。租税制度、公共支出、政府間財政関係を学ぶことを通じて、今日の日本における財政運営で残された課題を明らかにし、これからの財政のあり方を考えてもらう。こうした日本の財政の諸課題を学習することは、先進諸国のみならず現在目覚ましい勢いで経済成長を遂げつつあるアジア諸国の財政などを考えるうえでも多くのヒントが得られることができる。

【到達目標】
財政理論の基本を学び、日本を中心に、世界各国の財政に関する諸問題を理解・考察することを目標とする。特に、各国の経済の発展において公共支出, 租税制度, 政府間財政関係などが果たしてきた役割に関する専門知識を得るとともに、今日の日本における財政運営で残された課題を明らかにし、これからの財政のあり方を考える能力を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
講義方式

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
（1）	講義・履修ガイダンス	講義の内容、進め方、成績評価基準について説明する。
（2）	財政とは何か？ 財政学とは何か？	財政学について概説する。
（3）	予算（1）予算とは何か？	予算とは何かということについて概説する。
（4）	予算（2）予算原則	予算の原則についてが説明する。
（5）	予算（3）予算の内容	予算の内容について説明する。
（6）	予算（4）予算の編成と決算	予算の編成と決算の特徴と現状について説明する。
（7）	租税（1）租税原則と租税理論	租税原則と租税の理論について説明する。
（8）	租税（2）所得税Ⅰ	所得税の理論と現実について説明する。
（9）	租税（3）所得税Ⅱ	所得税の理論と現実について説明する。
（10）	租税（4）法人税	法人税について説明する
（11）	租税（5）消費税Ⅰ	消費税の理論と現状について説明する。
（12）	租税（5）消費税Ⅱ	消費税の理論と現状について説明する。
（13）	租税（6）資産課税	資産課税について説明する。
（14）	租税（7）最近の税制改正の概要	最近の税制改正の概要について説明する
（15）	試験	成績評価のための試験を行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
（16）	講義・履修ガイダンス	講義の内容、進め方、成績評価基準について説明する。
（17）	財政支出（1）：財政支出の理論	財政支出の理論について説明する
（18）	財政支出（2）：財政支出の構造	財政支出の構造について、説明する
（19）	財政支出（3）：社会保障（1）：社会保障の原理と日本の社会保障	財政支出のうちの重要項目である社会保障支出に注目し、社会保障の原理と日本の社会保障について概説する。
（20）	財政支出（4）：社会保障（2）：公的年金と医療保険	財政支出のうちの重要項目である社会保障支出に注目し、公的年金と医療保険について説明する
（21）	財政支出（5）：公共事業	財政支出のうちの重要項目である公共事業について説明する。
（22）	公債と財政赤字（1）：公債とは何か？	公債とは何かについて、概説する。
（23）	公債と財政赤字（2）：公債の負担と経済効果	公債の負担と経済効果について説明する。
（24）	公債と財政赤字（3）公債と財政再建の国際比較	公債と財政再建における国際比較を行う。
（25）	財政投融資（1）：財政投融資計画	財政投融資制度を説明しつつ、財政投融資計画について、概説する。
（26）	財政投融資（2）：財政投融資改革	財政投融資における制度改革について紹介する。
（27）	「現代財政」の機能（1）：「現代財政」の３機能	現代財政の３機能について説明する。
（28）	「現代財政」の機能（2）：プライバタイゼーションと「現代財政」の機能の変質	プライバタイゼーションと「現代財政」の機能の変質について説明する
（29）	グローバル化と財政	グローバル化が進む中における財政の役割変化について説明する
（30）	試験	成績評価のための試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメを中心に授業を進めるが、毎回は必ず教科書と参考書を事前予習して、授業を受講してください。

【テキスト（教科書）】
レジュメを中心に授業をすすめる

【参考書】
片桐正俊編著『財政学―転換期の日本財政 第 3 版』東洋経済新報社 (2014 年)
神野直彦著『財政学 改訂版』有斐閣 (2007 年)
神野直彦著『財政のしくみがわかる本』岩波ジュニア新書（2007 年）
池上岳彦編著『現代財政を学ぶ』有斐閣（2015)

【成績評価の方法と基準】
定期試験を 100 %とする

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
特になし

【関連科目】
特になし

情報技術論Ⅰ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

情報技術論Ⅱ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

江島　夏実　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータを中心とした様々な情報技術や通信ネットワーク技術に関する仕組みや役割の学習を通じて、その社会的な意義を理解する。

【到達目標】
情報技術、通信ネットワーク技術の基礎を理解し、発展的な活用方法を見出すための基礎知識を身につけることを目標とする。具体的には、経産省情報処理技術者試験「IT パスポート」試験の合格レベルを目指す。

【授業の進め方と方法】
コンピュータの構成や仕組みなどについての基礎知識から、われわれの生活のあらゆる場面に浸透したパソコン、スマートフォン、インターネットに関する利用技術まで、最近の話題を織り交ぜながら体系的に取り上げる。また、それらのビジネスへの展開や活用事例についても解説して行く。IT パスポート試験における出題なども取り上げる。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	情報技術人材の位置づけ
2	基礎理論	離散数学、応用数学、情報に関する理論、通信に関する理論、計測・制御に関する理論
3	アルゴリズムとデータ構造	データ構造、アルゴリズム、プログラミング、プログラム言語など
4	コンピュータ構成要素	プロセッサ、メモリ、バス、入出力デバイス、入出力装置など
5	システム構成要素	システム構成方式、システム評価指標など
6	ソフトウェア、ハードウェア	OS、ミドルウェア、ファイルシステム、開発ツール、オープンソース
7	ヒューマンインタフェース、マルチメディア	ヒューマンインタフェース技術、インタフェース設計、マルチメディア
8	データベース	データベース方式、データベース設計、データ操作、トランザクション処理
9	ネットワーク	ネットワーク方式、通信プロトコル、ネットワーク応用
10	セキュリティ	情報セキュリティ、情報セキュリティ管理、情報セキュリティ対策・実装技術
11	システム開発技術とソフトウェア開発管理技術	要件定義、方式設計、コーディング、テストなど
12	プロジェクトマネジメント	統合マネジメント、タイムマネジメント、品質マネジメントなど
13	サービスマネジメント	サービスサポート、ファシリティマネジメント
14	まとめ	まとめ
15	問題演習	問題演習

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	ガイダンス	総論、学ぶことの位置づけ
17	組織基盤	株式会社、PDCA、組織形態、企業再編、経営環境、人材育成
18	IT と会計情報システム	財務会計、管理会計、経営工学（OR、IE）
19	IT に関わる法律	産業財産権、不正競争防止法、不正アクセス禁止法、労働関係法令その他
20	IT をめぐる倫理・スタンダード	コンプライアンス、情報モラル、技術者倫理、コーポレートガバナンス、標準化など
21	IT と経営戦略・マーケティング	経営戦略手法（SWOT 分析、PPM など）、マーケティング（プロダクトライフサイクルなど）
22	ビジネス戦略と目標・評価、技術戦略マネジメント	CSF、KGI、KPI、BSC、MOT、研究・開発、イノベーションなど
23	IT と経営管理システム	CRM、SCM、ERP、TQC、ナレッジマネジメントなど
24	IT とビジネスシステム、エンジニアリングシステム	POS、GPS、トレーサビリティ、IC カード、CAD、CAM、MRP など
25	IT と e ビジネス	ロングテール、BtoB、BtoC、EDI、インターネット広告など
26	IT と組込みシステム	家電製品と IT、自動車と IT など
27	IT システム基盤	システム活用促進、情報システム戦略、ソリューションビジネス
28	IT システムの企画・調達	業務プロセス、システム化計画、システムの要件定義、システムの調達計画・実施
29	まとめ	まとめ
30	問題演習	問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
情報処理推進機構（IPA）のホームページ等から、IT パスポート試験に関する情報を調べておく。IT パスポート試験の出題内容を調べ、授業の前後において実際に解く演習を行う。

【テキスト（教科書）】
オンライン学習システムである Classroom にて毎回配布する。

【参考書】
IT パスポート試験受験対策書籍一般。

【成績評価の方法と基準】
小テスト 50 %、期末試験 50 %の総合評価とする。60 点以上を合格とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
身近な IT システムの最新動向と授業内容の関係を理解することによって、知識の定着を促進する。

【その他の重要事項】
関連科目　システム管理論Ⅰ／Ⅱ

【オフィス・アワー】
①授業後に質問を受け付ける。
②質問がある場合は E-mail で受け付ける。

ファイナンス論Ⅰ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

ファイナンス論Ⅱ　　市場経営学科専門科目　　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

山嵜　輝　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてファイナンスを学ぶ学生を対象に入門的なファイナンス理論の講義を行う。ファイナンス理論は金融実務に深く浸透しており、これなくして現代の金融ビジネスは成り立たない。金融機関や企業の財務・経理部門への就職を希望する学生だけでなく、多くの学生にとって将来必要となるであろうファイナンスの基礎知識を体系的に修得できる授業を提供する。ファイナンス論Ⅰでは、金融・証券市場の基礎知識や債券・株式の計量分析がテーマとなる。ファイナンス論Ⅱでは、デリバティブ取引のしくみや役割、デリバティブのプライシング手法が主なテーマであり、ポートフォリオ理論の基本的な考え方についても学ぶ。

【到達目標】
次の 3 つを到達目標に掲げる。
①金融・証券市場やデリバティブ市場の基礎知識や用語を習得する。
②株式・債券・デリバティブの取引のしくみを理解し、基本的な計量分析や価格評価ができる。
③初等的な確率論を用いて、証券のリスク・リターンや金融市場の不確実性を分析することができる。

【授業の進め方と方法】
ファイナンス論Ⅰでは、金融・証券市場の概観や基礎用語を説明した後に、キャッシュフローの現在価値の考え方や債券・株式の基礎的な分析手法を解説する。ファイナンス論Ⅱでは、デリバティブ市場の概観と基礎用語を解説した後に、個別のデリバティブ取引のしくみと無裁定価格理論に基づく価格評価の考え方について解説する。また、ファイナンス論Ⅱの後半には、ポートフォリオ理論の初歩的な解説を行う。授業はスライドを用いた講義形式であるが、黒板にも板書するので必要に応じてメモをとること。講義中には証券・デリバティブ分析に必要な数学の解説も適宜行う。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、到達目標、成績評価、スライド資料のダウンロード方法などの説明。
第 2 回	金融・証券市場の概観	金融・証券市場の分類、機能、店頭取引と取引所取引、部門別資金過不足など。
第 3 回	本邦の債券市場	債券の種類、発行形態、国債市場と社債市場、発行市場と流通市場など。
第 4 回	本邦の株式市場	株式の種類、株式の保有構造、売買のしくみ、発行市場と流通市場など。
第 5 回	キャッシュフローと現在価値 1	キャッシュフローを矢印図によって把握する方法、将来価値、現在価値、複利の概念など。
第 6 回	キャッシュフローと現在価値 2	付利期間、連続複利、ネイピア数、割引率など。
第 7 回	債券分析入門 1	利付債と割引債の価格計算、債券投資の収益率、パーレートなど
第 8 回	債券分析入門 2	スポットレートとフォワードレートの概念、ブートストラップ法など。
第 9 回	債券分析入門 3	金利の期間構造、イールドカーブの決定仮説、イールドカーブ間の関係など。
第 10 回	債券分析入門 4	債券投資のリスク、債券のリスク分析、デュレーションによる債券価格の近似方法など。
第 11 回	債券分析入門 5	社債の信用リスク、信用格付け、確率論の基礎（事象、確率、確率変数、期待値など）。
第 12 回	債券分析入門 6	社債価格の評価方法、企業の経験的デフォルト率、インプライド・デフォルト率など。
第 13 回	株式分析入門 1	配当割引モデル（ゼロ成長モデル、定率成長モデル）による理論株価の算出。
第 14 回	株式分析入門 2	株価評価のための企業財務分析、サステイナブル成長率、成長機会の現在価値など。
第 15 回	株式分析入門 3	フリーキャッシュフロー割引モデル、残余利益モデル、倍率法による株式投資尺度など。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、到達目標、成績評価、スライド資料のダウンロード方法などの説明。
第 2 回	短期資金・為替・貸出・預金市場の概要	短期資金市場、外国為替市場、貸出市場、預金市場など。
第 3 回	デリバティブ市場の概要	デリバティブ市場の概観、先物市場、先渡市場、スワップ市場、オプション市場など。
第 4 回	先渡・先物分析入門 1	先渡取引のしくみ、代表的な先渡取引、先物取引のしくみ、代表的な先物取引、金融実務での活用例など。
第 5 回	先渡・先物分析入門 2	無裁定条件、為替予約の理論価格、FRA（金利先渡取引）の理論金利、株価指数先物の理論価格など。
第 6 回	スワップ分析入門 1	金利スワップ、通貨スワップ、金融実務での活用例など。
第 7 回	スワップ分析入門 2	金利スワップのプライシング、損益計算方法、ブートストラップ法など。
第 8 回	オプション分析入門 1	オプション取引の種類としくみ、オプションのペイオフと損益、max 関数など。
第 9 回	オプション分析入門 2	プットコール・パリティ、オプション取引の活用例、オプションを用いた投資戦略など。
第 10 回	オプション分析入門 3	1 期間 2 項モデルによるオプションの価格評価方法、複製ポートフォリオ、リスク中立確率など。
第 11 回	オプション分析入門 4	2 期間 2 項モデルによるオプションの価格評価方法、動的複製ポートフォリオ、オプションのデルタなど。
第 12 回	ポートフォリオ理論入門 1	効用関数の概念、確率論の基礎（分散、標準偏差、共分散、相関係数など）。
第 13 回	ポートフォリオ理論入門 2	平均・分散アプローチ、証券のリスクとリターン、効用無差別曲線、効率的フロンティアなど。
第 14 回	ポートフォリオ理論入門 3	CAPM、市場ポートフォリオ、資本市場線、証券市場線、ジェンセンのアルファなど。
第 15 回	金融実務の新しい展開	最近の金融実務の動向とファイナンス理論の接点を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
スライド資料の予習・復習を十分に行うこと。

【テキスト（教科書）】
教員ホームページ（http://akira2yamazaki.com/）にスライド資料（テキスト）をアップロードするので、各自でダウンロードして持参すること。

【参考書】
①佐野三郎、『証券アナリスト第 1 次レベル合格最短テキスト　証券分析とポートフォリオ・マネジメント< 2016 >』、2015 年、ビジネス教育出版社
②伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ　実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
③ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】
春学期末・秋学期末に行う筆記試験（100 %）の結果で評価する。筆記試験では、ファイナンスの知識および理解を問う問題と計量分析や価格評価などの計算問題を出題する予定。筆記試験では「計算機能のみの一般的な電卓」を持ち込むことが出来る。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
私語などには厳しい対応をとり、授業に集中できる環境を確保する。

【学生が準備すべき機器他】
計算例題では、電卓（関数電卓やエクセルなどの表計算ソフトでも可）を使うので各自持参すること。ただし、試験では「計算機能のみの一般的な電卓」のみ持ち込み可とする。

【関連科目】
証券経済論Ⅰ/Ⅱ、企業財務論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】
ファイナンス論Ⅰは特段の前提知識を必要としない。ファイナンス論Ⅱでは、ファイナンス論Ⅰの知識を前提とするため、両方の講義を履修することをお勧めする。講義では、中学・高校の数学の基礎知識（連立方程式、1 次関数や 2 次関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）を使うが、極度の数学アレルギーでない限り心配は無用である。

選　択

- **外国語経営学科目**
- **キャリアプログラム科目**
- **特殊講義**
- **情報関係**

※入門演習、演習は、**1** 演習に掲載しています。

入門外国語経営学Ⅰ　　選択＜外国語経営学科目＞　　1～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

入門外国語経営学Ⅱ　　選択＜外国語経営学科目＞　　1～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

稲垣　京輔　教授

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
入門外国語経営学（中級）
この講義では、経営学や企業経営に関する英語の文献、雑誌記事を読み、読解力を養うと同時に、テーマに沿って討論するノウハウや関心を高めていくことが課題です。

【到達目標】
基本的に，毎回の講義において英訳の宿題が与えられます。持ち回りの輪読ですが、かなりの頻度で回ってきます。
15 回の授業を通じて，英文に慣れて、解釈できるようになること、そして文化や経済事情に関する素養を身につけることが目的です。

【授業の進め方と方法】
段落ごとに割り当てられた受講者は、辞書を参照しながら訳していきます。この講義では、完璧な訳出を求めるわけではありません。むしろ、センテンス毎に内容を把握し、文章を理解するスピードを上げていくことを目的とします。したがって、頭から訳出していくことを心がけ、文章の構造を理解するように努めてください。全ての訳出が終わり、内容を理解したら、テーマに即して 2 つのグループに分かれて、討論をおこないます。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	講義の進め方
第２回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文に慣れる（基礎編）
第３回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文に慣れる（基礎編）
第４回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文に慣れる（基礎編）
第５回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文に慣れる（基礎編）
第６回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第７回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第８回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第９回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第１０回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第１１回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第１２回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第１３回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第１４回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第１５回	まとめと確認	講義内テスト

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第１６回	前期のまとめ	前期のまとめ 後期のテーマ
第１７回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第１８回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第１９回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第２０回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第２１回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第２２回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第２３回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第２４回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第２５回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第２６回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第２７回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第２８回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第２９回	英文の和訳 テーマにまつわる課題を考え、ディスカッションする	英文記事を通じて、各国の経済事情や文化について学ぶ（応用編）
第３０回	まとめと確認	講義内テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
段落ごとに割り当てられた受講者は、辞書を参照しながら訳していきます。この講義では、完璧な訳出を求めるわけではありません。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。受講者のレベルに合わせて、企業経営に関する文献を読んでいきたいと思います。

【参考書】
とくになし。

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義での発表による評価（50 %）
期末試験（50 %）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
久々の担当なので、学生からの積極的なフィードバックを期待します。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
必ず英和辞書（電子辞書でもよい）を持参してください。
［関連科目］
経営学総論

入門外国語経営学Ⅰ　選択＜外国語経営学科目＞　1～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

入門外国語経営学Ⅱ　選択＜外国語経営学科目＞　1～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

岸本　直樹　教授

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目の履修者は、特定企業のアニュアル・レポート（企業の事業活動、中期計画、財務結果等を主に株主向けにまとめた冊子）やケース・スタディを読んで、企業経営に係る実際的な英語を学習します。また、副次的な効果として、企業経営には、マクロ経済、経営戦略、経営組織、生産管理、マーケティング、ファイナンス、会計学等、経営学の諸分野の知識が必要になることを実感するでしょう。

【到達目標】
①アニュアル・レポートやケースで使われるビジネス英語を辞書や Web 等を利用しながら読むことができる。
②アニュアル・レポートの対象企業の概況を説明できる。
③英文を読む際 Web を効率的に利用できる。

【授業の進め方と方法】
①最初に受講者に原文を声を出して読んでもらい、次にその部分訳をしてもらい、最後に、担当教員が解説するというやり方で授業を進める。
②ただし、担当教員は、単に、和訳の説明だけでなく、該当部分の理解に必要な経営学等の知識についても説明する。
③さらに、必要に応じてアニュアル・レポートあるいはケースの対象企業に関する新聞記事、あるいは、Web 上の記事、さらに、経営学に関する文献も読む予定である。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1-10	対象企業の活動及び経営計画	対象企業及び同業種他企業のアニュアル・レポート、新聞記事、Web 上の記事、経営学に関する文献の輪読。
11-13	対象企業の経営成績	対象企業の財務諸表、特に、貸借対照表及び損益計算書を学習する。
14-15	対象企業の財務成績の分析	対象企業に関する Yahoo! Finance のページを使って証券分析を概説する。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16-22	学生による簡単な企業分析の発表	各履修者が自分の選んだ企業について行った分析を授業で発表し、その後、他の履修者とディスカッションをする。
23-30	ケースの分析	履修者の希望等を考慮して適切なケースを選び、講師が丁寧に説明しながらケースを使って学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予定箇所の予習及びそれを講師が確認するための「確認シート」の作成、宿題を解いてその結果を講師に提出するための文書作成、1 学期に数回実施される小テストに備えるための学習。

【テキスト（教科書）】
特定企業のアニュアル・レポート及びケース（授業中に適宜配布する）

【参考書】
授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
出席状況及び授業内でのディスカッションへの貢献及び全体的な授業態度に対して 20%、宿題及び予習確認シートに対して 30%、学期中に数回実施する小テストに対して 50%。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
より明瞭な授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特に無し。

【その他の重要事項】
授業の進度は学生の学力に合わせます。また、英語及び内容の両方について丁寧に説明しますので、英語がそれほど得意でない学生にも履修を勧めます。ただし、履修希望者が多い場合には、第 1 回の授業でクイズを実施し、成績の高い順に履修を許可する予定です。なぜならば、本科目は、語学の授業という性格があるため、予習・復習・クイズ等の提出物が多く、また、毎回の授業ですべての学生に発言してもらうように運営しているからです。
ちなみに、2015 年度の春学期には、GM のアニュアル・レポートの一部や Yahoo! Finance の関連ページを読みました。また、同年度秋学期には GE のアニュアル・レポートの一部や Yahoo! Finance の関連ページを読みました。
また、2014 年度は、春学期に特定企業のアニュアル・レポートの一部を読んだ後、秋学期には Harvard Business School のケースを読みました。さらに、2013 年度は、春学期に特定企業のアニュアル・レポートの一部を読んだ後、秋学期には各学生に自分が選んだ企業の簡単な分析をしてもらい授業で発表してもらいました。
最後に、本科目に関連する科目について述べておきます。上でも述べたように、本科目の内容は特定企業の英文アニュアル・レポートや英文ケースを読むことです。したがって、経営学全般の知識が有用です。また、財務諸表についてある程度の知識がある方が望ましいです。したがって、1 年次生が履修できる科目の中では、「経営学総論Ⅰ・Ⅱ」と「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」の履修を強く勧めます。また、2 年次生が履修できる科目の中では、「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」のほか、「経営管理論Ⅰ/Ⅱ」、「経営戦略論Ⅰ/Ⅱ」の履修を強く勧めます。

入門外国語経営学Ⅰ　選択＜外国語経営学科目＞　1～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

入門外国語経営学Ⅱ　選択＜外国語経営学科目＞　1～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

高橋　理香　教授

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は、英語を使って経済・経営を学びたい皆さんや、英語圏への留学（SA 含む）を希望する皆さんを対象としたクラスです。経済・経営に関する時事的なトピックを中心にとりあげて英語のリーディング・リスニング・ライティングのスキルアップを目指すとともに、トピックの背景にある経済学・経営学の概念・知識・考え方を学びます。

【到達目標】
　英語「を」学ぶことから、英語「で」学ぶことが出来るようになるまでのきっかけをつかむことを到達目標とします。この授業では、英語で読む・聞く・書くことをバランスよく学びます。読むことについては、時事的なトピックを辞書無しで読み、逐次訳することなく英語のまま概要をつかめることを目標とします。聞くことについては、英語になれて聞き取りのポイントをつかめるようになることを目標とします。書くことについては、アカデミック・ライティングやビジネス・ライティングの基本ルールや表現方法を習得することを目標とします。また、英語のスキルだけでなく、現実の経済・経営に対する理解と関心を深めることも目標とします。

【授業の進め方と方法】
　限られた時間の中で、リーディング・リスニング・ライティングをバランスよく学び、総合的な英語スキルを高めます。具体的には、経済・経営に関する英語の文献や英字新聞の記事を読み、英語のニュースの聞き取りを訓練し、アカデミック・ライティングやビジネス・ライティングの基礎を学びます。講義は日本語で行います。
・リーディング：隔週（奇数回）で英字新聞のレポートを提出してもらいます。これは、各自が記事を選び、その記事を読んで理解した上で、その内容を日本語で要約し、記事に関連する内容の調査と分析を行うものです。授業時には、ランダムであてて提出されたレポートの内容を発表してもらいます。また、隔週（偶数回）では、教員の選んだ英字新聞の記事や英語の文献をその場で読んで理解し、履修者全員で記事に関するディスカッションを行います。
・リスニング：隔週（偶数回）でリスニング教材を使って、英語のニュースの聞き取り訓練を行います。聞き取り後に関連するクイズを行うこともあります。
・ライティング：隔週（奇数回）でライティングの基礎について学びます。春学期は、アカデミック・ライティングの基本的な手法について学びます。秋学期は、ビジネスの場で使う簡単なライティングの表現方法について学びます。グループワークや宿題で理解を深めます。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の概要を説明し、今後のスケジュールを決めます。
偶数回	Listening and Reading	リスニング：英語のニュースの聞き取り訓練。漫然と聞くのではなく、リスニングのポイントを身につけます。 リーディング：英字新聞の読解を行います。まずは辞書無しに短時間で読んで大意をつかみます。その後、履修者で議論をしながら理解を深めます。
奇数回	Writing and Reading	ライティング：アカデミック・ライティングの基礎を学びます。 リーディング：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。
15	Summary	春学期のまとめ。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	Review	春学期の復習
偶数回	Listening and Reading	リスニング：英語のニュースの聞き取り訓練。 リーディング：英語の文献の読解を行います。
奇数回	Writing and Reading	ライティング：ビジネス・ライティングの基礎を学びます。 リーディング：履修者による英字新聞のレポートを発表してもらいます。
15	Conclusion	一年間のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習は隔週で提出する英字新聞のレポート作成に注力してください。復習はライティングとリスニングの課題・宿題に注力してください。

【テキスト（教科書）】
　とくにテキストは指定しません。授業時に用いるプリントを授業支援システムにアップすることがありますので、各自ダウンロード・印刷して授業時に持参してください。また、配布プリントは、なくさないようにファイリングしてください。詳細は初回授業時に説明します。

【参考書】
　Hogue, A. and A. Oshima, Writing Academic English, Pearson Education, 1998.
　Strunk, W and E.B. White, The Elements of Style, fourth edition, Longman, 1999.

　上記の参考文献については、初回の授業時に説明をしますので、事前の購入は控えてください。授業で用いる英字新聞についても、初回の授業時に説明します。
　また、それ以外に、毎回、辞書を持参してください（電子辞書可。英英辞典や類義語辞典がある方が望ましい）。

【成績評価の方法と基準】
英字新聞のレポートと発表： 30 %
授業への積極的な参加： 20 %
授業時のグループワーク： 20 %
宿題： 30 %
授業に対する姿勢や上記の項目を総合的に判断して評価します。
欠席は成績評価を大きく下げます。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
　2013 年度に入門外国語経営学を担当した際は、特に改善要望などありませんでしたが、英語の総合的なスキルアップのため、今年度はリーディングだけでなく、リスニングやライティングにも取り組みたいと考えています。履修者の皆さんの理解度や希望をなるべく反映して授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
　授業時に持参する必要は必ずしもありませんが、履修者はできるだけ自分のパソコンを用意してください。本授業では、授業支援システムを使います。また、ワード・エクセル・パワーポイントや、インターネットを使ったデータ収集を行うことがあります。これらの使い方は授業で説明します。

【その他の重要事項】
　初回の授業時に、授業の概要および 2 回目以降のスケジュールについてお話しますので、興味のある方は、初回の授業に必ず出席して下さい。
　この授業に関連する科目は、英語の授業全般、経営学総論Ⅰ/Ⅱ、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、例題で学ぶミクロ経済学入門です。

入門外国語経営学Ⅰ　選択＜外国語経営学科目＞　1～4 年次／2 単位［春学期授業］

入門外国語経営学Ⅱ　選択＜外国語経営学科目＞　1～4 年次／2 単位［秋学期授業］

二階堂　行宣　専任講師

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・経営学・経済学に関する基礎的な英語文献の輪読と、ディスカッションを行っていきます。
・授業を通じて、論理的な英文を読解・要約し、内容について議論する力を向上させます。
・あわせて、経営学・経済学の基礎的な知識を深めることを目指します。

【到達目標】
・英語文献を読むことへの抵抗感をなくす。
・論理的な英語文献を読み、その意味を理解する。
・文献を要約し、その内容を人前でわかりやすく発表する習慣を身につける。
・経営学・経済学に関して、建設的なディスカッションを展開することができる。
・以上を通じて、経営学・経済学の基礎知識を習得し、今後の専門的な学習に備える。

【授業の進め方と方法】
・事前にテキストを配布します。
・テキストのそれぞれの部分について、事前に報告者（グループ）を決めます。
・毎回の報告者（グループ）は、担当部分の内容について事前に予習し、メール等の手段により要約・和訳を提出します。
・報告の際、担当部分に関連する追加的な調査を求めることがあります。
・担当報告者（グループ）によるプレゼンテーションのあと、参加者全員によるディスカッションを行い、疑問点を解消するとともに、内容についての理解を深めます。
・他の参加者は、テキストの英語表現や内容の疑問点について事前にまとめ、授業中に必ず質問を行います。
・配布するテキストは、主に日本経済・経営の歴史や、現状の日本経営をめぐる諸制度に関する実証的な文献を取り上げる予定ですが、参加者の興味・関心により変更する可能性があります。
・資料の作成や、ディスカッションは日本語で行います。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
2	導入①	発表資料の作成方法について説明を行う。
3	導入②	日本経済の歴史と現状について、概説的な説明を行う。
4-6	実践①	戦後復興期～高度経済成長期の日本経済に関する英文の輪読・報告・議論を行う。
7-9	実践②	バブル期～低成長期の日本経済に関する英文の輪読・報告・議論を行う。
10-12	実践③	日本の金融システムに関する英文の輪読・報告・議論を行う。
13-15	実践④	日本の財政システムに関する英文の輪読・報告・議論を行う。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	秋学期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
2-4	実践⑤	日本の企業経営に関する英文の輪読・報告・議論を行う。
5-7	実践⑥	日本の労使関係に関する英文の輪読・報告・議論を行う。
8-10	実践⑦	日本の地域経済に関する英文の輪読・報告・議論を行う。
11-12	実践⑧	日本の外資系企業に関する英文の輪読・報告・議論を行う。
13-14	実践⑨	経済学・経営学の理論に関する初歩的な英文の輪読・報告・議論を行う。
15	まとめ②	英文読解力・発表能力・専門知識向上の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回の報告者（グループ）は、事前の予習や関連調査をしっかり行ってください。
・他の参加者は、テキストの該当部分を読解した上で、毎回疑問点をまとめ、授業中のディスカッションに備えてください。

【テキスト（教科書）】
・授業中にコピーを配布する。

【参考書】
・必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・報告（40 %）＋出席（30 %）＋質問・議論への参加（30 %）。
・出席する際には、積極的に議論に参加してください。
・ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。
・欠席する場合は、理由の如何を問わず必ず事前に連絡してください。
・4 回以上欠席する場合は、評価に大きく関わります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
・ひとつのテーマに関する文章を続けて読むより、多様なテーマについて幅広く学びたいという声が寄せられました。テキストの選定の際には、改善を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
・発表資料の作成の際は、パソコン（ワードやパワーポイント）を使用してください。
・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【その他の重要事項】
・授業には、電子辞書（英和・和英・英英）を持参することをすすめます。
・授業の難易度・進度は、受講者のレベルによって適宜調整していきます。
・日本経営史Ⅰ／Ⅱをあわせて受講すれば、理解がより深まります。

入門外国語経営学Ⅰ　選択＜外国語経営学科目＞　1～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

入門外国語経営学Ⅱ　選択＜外国語経営学科目＞　1～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

宮澤　信二郎　准教授

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，経済学の入門テキスト（英文）を輪読します。これらを通じて，経済学の基礎を理解し、その英語による表現を身につけます。また，まとまった量の英文を読み、その内容を把握する能力を身につけます。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下の通りです。
1）経済学の基礎を英文のまま理解できる。
2）経済学の考え方を使って身近な問題を考えることができる。

【授業の進め方と方法】
入門的な経済学の英文テキストを輪読します。具体的には以下のように進めます。
1）授業前に，参加者全員が指定の箇所を読む。
2）授業中に，キーワードおよび各パラグラフの内容について確認する。
3）授業中に，簡単なクイズに答えることで理解を確認する。
4）授業中に，質疑応答および議論をする。
5）小テスト（各学期とも 3 回の予定）をして理解度を確認する。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容・進め方について説明します。
2-4	テキストの輪読（その 1）	テキストのいくつかの章について，質疑応答・クイズを交えて，理解を確認しながら読み進めます。
5	小テスト（1）	第 2 回～第 4 回までの内容についての確認テストをする。
6-8	テキストの輪読（その 2）	テキストのいくつかの章について，質疑応答・クイズを交えて，理解を確認しながら読み進めます。
9	小テスト（2）	第 6 回～第 8 回までの内容についての確認テストをする。
10	復習（1）	これまでの内容について復習する。
11-13	テキストの輪読（その 3）	テキストのいくつかの章について，質疑応答・クイズを交えて，理解を確認しながら読み進めます。
14	小テスト（3）	第 11 回～第 13 回までの内容についての確認テストをする。
15	小括	春学期の内容についてのまとめをする。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	秋学期のガイダンス	授業の内容・進め方について確認します。また，春学期の内容について確認します。
17-19	テキストの輪読（その 4）	テキストのいくつかの章について，クイズ・小テストなどを交えて，理解を確認しながら読み進めます。
20	小テスト（4）	第 17 回～第 19 回までの内容についての確認テストをする。
21-23	テキストの輪読（その 5）	テキストのいくつかの章について，質疑応答・クイズを交えて，理解を確認しながら読み進めます。
24	小テスト（5）	第 21 回～第 23 回までの内容についての確認テストをする。
25	復習（2）	これまでの内容について復習する。
26-28	テキストの輪読（その 6）	テキストのいくつかの章について，質疑応答・クイズを交えて，理解を確認しながら読み進めます。
29	小テスト（6）	第 26 回～第 29 回までの内容についての確認テストをする。
30	総括	秋学期の内容についてのまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定された箇所を事前に読むこと。

【テキスト（教科書）】
参考書欄の Mankiw (2012) を使用する予定ですが，履修者数や履修者の希望により変更する可能性があります。

【参考書】
"Principles of Economics (6th edition, International Edition)," N. G. Mankiw, Cengage Learning, 2012

【成績評価の方法と基準】
平常点（70 %）と小テスト（30 %）で評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
内容理解と英文読解の両方を十分なものとするため，進度を少しゆっくり目にしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
メール等で授業に関する連絡を取ることがあります。

【その他の重要事項】
1）この授業で読む予定の Mankiw (2012) は経済学の入門的なテキストとして世界的に定評があるものですので，1 年生には「ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ」や「マクロ経済学」と同時履修がおすすめです。
2）テキストのどの章を読むかについては，参加者と相談して決定します。
3）要望があれば，英文の新聞や雑誌の記事を読む，他のテキストを読むなど，内容の一部または全部を変更する場合があります。
4）議論などは基本的に日本語で行いますが，英文を音読してもらう場合があります。
5）毎回出席することを前提に進めます。無断欠席は厳禁で，2 回以上無断欠席した場合にはその学期の単位を修得できません。体調不良などやむを得ない理由で欠席する場合には，当日の朝 10 時までにメールで連絡してください。理由がある場合でも 4 回以上欠席した場合には単位を修得できませんのでご注意ください。

入門外国語経営学Ⅰ　選択＜外国語経営学科目＞　1～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

入門外国語経営学Ⅱ　選択＜外国語経営学科目＞　1～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

横山　斉理　教授

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた論文を精読することにより、経営学に関する専門的な内容を英語で読むスキルを身につけると同時に、ビジネスに関する基礎（専門）知識を学びます。この授業では、経営学の中でも特に流通・マーケティングに関する専門書を取り上げますが、経営学に関する専門的内容にも触れることになります。

【到達目標】
到達目標は、①英語で書かれた論文や文献の内容を読んで正確に理解できるようになること、②そのスピードを上げる事、そして、③理解した内容を他人に分かりやすく伝えられるようになること、です。

【授業の進め方と方法】
毎回、英語論文の一定の範囲を一文ずつ精読していきます。専門書購読では、「英語の単語と文法は分かるのに内容が分からない」ということがよく起こります。この現象は、多くの場合は、専門的知識が欠落していることにより生じます。そのため、この授業では専門知識が必要になる際にはその内容をやや詳しく解説します。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	春学期ガイダンス	授業概要の説明
2	論文精読	英語で書かれた論文を一文ずつ正確に読み進めていく
3	同上	同上
4	同上	同上
5	同上	同上
6	同上	同上
7	同上	同上
8	同上	同上
9	同上	同上
10	同上	同上
11	同上	同上
12	同上	同上
13	同上	同上
14	同上	同上
15	同上	同上

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	秋学期ガイダンス	授業概要の説明
17	英文精読	英語で書かれた論文を一文ずつ正確に読み進めていく
18	同上	同上
19	同上	同上
20	同上	同上
21	同上	同上
22	同上	同上
23	同上	同上
24	同上	同上
25	同上	同上
26	同上	同上
27	同上	同上
28	同上	同上
29	同上	同上
30	同上	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回かならず予習をしてくること。予習は、単語を調べるだけではなく、文章を読んで内容の理解に努めるようにしてください。予習範囲の目安は授業内に知らせますが、それほど大きな負担にはならないはずです。

【テキスト（教科書）】
Dawson, J., R. Larke, & M. Mukoyama (eds), Strategic Issues in International Retailing, Routledge, 2006.
上記のテキストを予定していますが、受講生の状況により、難易度が高すぎたり低すぎたりすることがあると思います。そのため、テキストを変更することがあります。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
報告・議論への参加（10%）
小テスト（50%）
平常点（40%）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講生の状況により、授業の内容や進め方を調整します。

【その他の重要事項】
区切りのよいタイミングで授業内にテストを実施し、理解度を確認します。
経営学、とくに流通・マーケティング関連の専門的知識があるほうが英文読解が楽になりますが、なくても問題ありません。

外国語経営学Ⅰ（経営 A）　選択＜外国語経営学科目＞　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

外国語経営学Ⅱ（経営 A）　選択＜外国語経営学科目＞　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

三澤　一文　教授

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを活用したコミュニケーション技術の進歩のため、過去の組織設計の方法論はどんどん陳腐化しています。もしかしたら今後の「強い会社」「良い会社」の組織の形は、スパゲッティ型に変わっているかもしれません。一方で、戦略を確実に実行に移せる組織論は企業の現場で必要不可欠であることは変わりありません。変化の激しいこれからのビジネス環境下の組織論は、会社視点の組織論だけでなく、いかなる状況でも組織の一員である個人の知的生産性、創造性を高められるような個人視点の組織論も必要です。本授業では、グローバル企業の現場で実際に使われている最新の英語資料を用いて、会社と個人の視点からの二つのタイプの組織論を学びます。

【到達目標】
本授業は、①個人の知的生産性、創造性を高める手法の英語解説資料（毎授業ごとに一つ紹介）、②戦略を実行に移すための方法論の英語パワーポイント資料、の二つを毎回の授業で共有します。①の内容を理解し、日常的に利用することで、受講生の皆さんが、将来、いかなる企業のどのような仕事に就いても、個人としてより創造的、生産的な成果を出せるようになります。また、②の内容を理解することで、今、多くの企業の中で問題になっている「なぜ戦略が実行できないのか？」の問いに対する方法論が理解できます。また、英語でのパワーポイント資料の作成方法も習得できますので、将来の海外留学や英語を使っての仕事などで役立ちます。

【授業の進め方と方法】
すべて英語の資料を用いた講義としますが、毎回の講義後のリアクションペーパー（①授業で興味をもった点、②疑問に思った点、③その他の感想や意見、などを記入し、指定期限までに提出）を活用し、担当教員と受講生との間の効率的、継続的な双方向コミュニケーションを図ります。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	Method 1 + Introduction	Bodystorming + Effective meeting management
2	Method 2 + Execution management overview	Extreme User Interview + Effective execution management
3	Method 3 + Communication management 1	Shadowing + Giving and receiving feedback
4	Method 4 + Communication management 2	Cross-cultural comparisons + Communication challenges between female and male
5	Method 5 + Execution management 1	Empathy tools + Achievable plan
6	Method 6 + Execution management 2	Five Whys? + Personal motivation
7	Method 7 + Execution management 3	Personal Inventory + Behavior change
8	Method 8 + Execution management 4	Competitive product survey + Engaged sponsors
9	Method 9 + Execution management 5	Role playing + Risk assessment
10	Method 10 + Execution management 6	Card sort + Compelling intent
11	Method 11 + Execution management 7	A day in the life + Reviews of psychological theories
12	Method 12 + Personal development 1	Flow analysis + Establishing a mentor relationship
13	Method 13 + Personal development 2	Paper prototyping + Inspiring leadership
14	Method 14 + Personal development 3	Surveys & questionnaires + Making star teams (video)
15	Wrap-up	Open questions and answers

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	Method 15 + Macro themes driving global growth	Word concept association + Macros trends' growth potential
17	Method 16 + Case study	Historical analysis + Nike vs. Reebok
18	Method 17 + Corporate strategy	Scenario testing + Profit from the core
19	Method 18 + Case study	Unfocus group + IKEA
20	Method 19 + Business strategy	Social network mapping + Repeatability
21	Method 20 + Case study	Secondary research + Amazon/Apple/Shell
22	Method 21 + Growth strategy	Quick-and-dirty prototyping + Strategy in uncertainty
23	Method 22 + Case study	Draw the experience + Kodak/De Beers
24	Method 23 + Sustainable growth strategy	Behavioral mapping + Continuous value creation
25	Method 24 + Organization management	Error analysis + Time is money!
26	Method 25 + Organization design	Experience prototype + Design principles
27	Method 26 + Organizational simplification	Activity analysis + Spans and layers
28	Method 27 + Capability sourcing	Try it yourself + Strategic offshoring (video)
29	Method 28 + IT enablement	Be your customer + New IT application (video)
30	Wrap-up	Open questions and answers

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英語でのコミュニケーションの要点は Structure（話の流れ、ロジック、構造）, Content（話の内容、意味）, Delivery（視覚表現や動作を含めた情報の伝達）の３点です。いくら話のなかみが良くても話のロジックがわかりづらいと相手にうまく伝わりません。逆に、いかに理路整然と語っているようでも、そもそもの話の内容自体が空虚であれば、コミュニケーションの意味がありません。また、どんなに上手な英会話をしても、そこに視覚や動作での表現が加わらないと、相手にインパクトを与えることが難しくなります。本授業は、英語コミュニケーションにおける Structure, Content, Delivery の要点を習得することも目的とします。

【テキスト（教科書）】
授業で共有する英語資料の Take-away（要点部分）ページを授業支援システムで配布します（復習用）。

【参考書】
英語パワーポイント資料の内容を補足解説する英語資料がある場合には、授業後に授業支援システムで配布します。これらは、主に、期末の課題レポートを英語パワーポイントで作成するときの参考資料として活用ください。
なお、担当教員の以下の日本語での書籍で参考になる部分は、必要に応じ、該当ページのコピーを共有します。
三澤一文　『ネットワーク時代の新・仕事術』ダイヤモンド社（1996 年）、1600 円

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーの提出含む）５０点
期末レポート課題 ５０点

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本年度新規科目につき、過去にアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
授業はパワーポイントと板書を併用して行います。また、授業に必要な資料の配布や課題提出等には授業支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】
関連科目は経営学総論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱなどです。
毎回の授業中、授業後の質問を歓迎します。

外国語経営学Ⅰ（経営戦略Ｂ）　選択＜外国語経営学科目＞　3～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

外国語経営学Ⅱ（経営戦略Ｂ）　選択＜外国語経営学科目＞　3～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

三澤　一文　教授

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「企業寿命 30 年」という日経新聞社の調査に基づく説があります。同様の調査は海外にもあり、企業繁栄の期間は意外と短いので、常に事業環境の変化に対応して進化する必要がある、それができない企業は、名門・大企業といえども没落する、という内容です。本授業の担当教員の私も、世界中の自動車メーカーの業績を長期間にわたって比較調査して、自動車業界の栄枯盛衰の推移を戦略や組織、リーダーなど観点から分析しました（三澤一文『なぜ日本車は世界最強なのか』2005 年、ＰＨＰ研究所）。
本授業では、今、企業が「企業寿命３０年」説に陥らないため、現場で真剣に議論している戦略や組織、オペレーションなどに関する現代的論点を広範に学びます。受講生は、将来も発展し続けられる企業の最新の「活きた経営手法」が習得できます。

【到達目標】
本授業では、春学期は製造業（食品、日用品、自動車など）、秋学期はサービス産業（小売・卸売、金融、コンサルティングなど）を中心に、最新の経営課題と経営手法に関する英語資料やビデオを毎回の授業で共有します。内容的には、トヨタの経営手法など日本発の経営の考え方と、新興国市場の攻略方法などグローバル共通の経営の考え方の両方をバランス良く学びます。受講生の皆さんは、将来、いかなる企業のどのような仕事に就いても、現場での議論に必要な有用な知識が身につきます。また、企業で使われる英語のパワーポイント資料の作成方法の要点も習得できますので、将来の海外留学や英語を使っての仕事にも役立ちます。

【授業の進め方と方法】
すべて英語の資料を用いた講義（英語・日本語）を主体としますが、毎回の講義後のリアクションペーパー（①授業で興味をもった点、②疑問に思った点、③その他の感想や意見、などを記入し、次回授業までに提出）を活用し、担当教員と受講生との間の効率的、継続的な双方向コミュニケーションを図ります。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course overview
2	Industry trends basics 1	Consumer trends #1
3	Industry trends basics 2	Consumer trends #2
4	Industry trends basics 3	Winning in emerging markets
5	Industry trends basics 4	What emerging markets shoppers really do
6	Consumer Products topics 1	Private label case examples (Yogurt, Diapers, Breakfast bars, etc.)
7	Consumer Products topics 2	Private label growth implications
8	Consumer Products topics 3	Perfecting sales executions
9	Consumer Products topics 4	Strategy for the next billion consumers
10	Consumer Products topics 5	Winning operating models
11	Automotive topics 1	A car is born (video)
12	Automotive topics 2	Auto industry trends #1
13	Automotive topics 3	Auto industry trends #2
14	Automotive topics 4	Toyota way, Toyota-style problem solving
15	Wrap-up	Open questions and answers

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	Retail topics 1	Retail trends to watch
17	Retail topics 2	Store labor management
18	Retail topics 3	Omnichannel retailing
19	Retail topics 4	Quick service restaurants best practices
20	Retail topics 5	Supply chain strategy for grocery retailers
21	Retail topics 6	China e-commerce
22	Banking topics 1	Digitalization trend #1
23	Banking topics 2	Digitalization trend #2
24	Banking topics 3	Mobile's role in retail banking
25	Banking topics 4	Retail bank of the future
26	Consulting topics 1	Strategy consulting, IT consulting (video)
27	Consulting topics 2	Business integration
28	Consulting topics 3	Change management
29	Consulting topics 4	Business process design & IT planning
30	Wrap-up	Open questions and answers

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英語でのコミュニケーションの要点は Structure（話の流れ、ロジック、構造）, Content（話の内容、意味）, Delivery（視覚表現や動作を含めた情報の伝達）の３点です。いくら話のなかみが良くても話のロジックがわかりづらいと相手にうまく伝わりません。逆に、いかに理路整然と語っているようでも、そもそもの話の内容自体が空虚であれば、コミュニケーションの意味がありません。また、どんなに上手な英会話をしても、そこに視覚や動作での表現が加わらないと、相手にインパクトを与えることが難しくなります。本授業は、英語コミュニケーションにおける Structure, Content, Delivery の要点を習得することも目的とします。

【テキスト（教科書）】
授業で共有する英語資料の Take-away（要点部分）ページを授業支援システムで配布します（復習用）。

【参考書】
英語パワーポイント資料の内容を補足解説する英語資料がある場合には、授業後に授業支援システムで配布します。これらは、主に、期末の課題レポートを英語パワーポイントで作成するときの参考資料として活用ください。
なお、担当教員の以下の日本語での監修書で参考になる部分は、必要に応じ、コピーを共有します。本書は多くの公立図書館でも閲覧できます。
三澤一文　『日本の工業』ポプラ社（2008 年）、6800 円+税

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーの提出含む）５０点
期末レポート課題 ５０点

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本年度新規科目につき、過去にアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
授業はパワーポイントと板書を併用して行います。また、授業に必要な資料の配布や課題提出等には授業支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】
関連科目は経営学総論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱなどです。
毎回の授業中、授業後の質問を歓迎します。

ビジネス英語Ⅰ（初級）　選択＜外国語経営学科目＞　2～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

ビジネス英語Ⅱ（初級）　選択＜外国語経営学科目＞　2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

ジョナサン・エーブル　講師

※　初級、中級の同時履修はできません。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ビジネス英語（初級）
This is a beginners' introduction to Oral communication in English for a Business environment. Students will have writing and reading ability. This course focuses on practical spoken English.

【到達目標】
The purpose of this class is to give students confidence through practise.

【授業の進め方と方法】
With the text book as a model we will progress through the essentials of business communication building confidence through constant use of spoken English.

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class selecion
2	Meeting People	Introductions at work and elsewhere.
3	Your Company	What is a company? Companies in Japan and around the world.
4	Your Company 2	Company histories and how they operate.
5	Routines	Planning your days. What do you do and when?
6	Business in Progress	The workplace; the office, shopfloor and saleroom.
7	Business in Progress 2	The workplace; describing a working environment.
8	Presentation Preparation	Presentations on business themes. Ttopics, plans and tips on practical presentations
9	Presentations	Practical presenting in small groups to the rest of the class.
10	Businesses.	How different types of business operate in Japan.
11	Businesses 2.	international Business. How is it different and how much the same?
12	On the Telephone	Practical class on using the telephone in English. Manners and language.
13	On the Telephone 2	Situations and practice for speaking in international situations.
14	Review	Looking back and revising the semester's main theme in preparation for final interviews.
15	Interviews	The final self-assessment and small group interview as part of the grading process

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	Intro/Review	Looking at the ground that we have covered and what we aim to do next.
2	Location	The best places for business geographically and demographically.
3	Transport.	How we get around by land air and even sea.
4	Travel.	The reasons, destinations and practicalities of International travel.
5	Working Overseas.	A look at the different environments and customs we encounter working overseas.
6	Socializing	How to make visitors to Japan welcome and comfortable.
7	Socializing 2	How to cope with social situations abroad.
8	Meetings	Agenda, Minutes, Structure. How to prepare for meetings in English.
9	Meetings 2	Practical demonstrations and situations of meetings in the classroom.
10	Your Culture	Talking about Japanese life and culture. Explaining Japan to visitors and colleagues.
11	Products	Product description. How to put a product in front of the consumer.
12	Advertising	How to make people want the product we are selling.
13	Business Plans	The future of a company on paper. Taking a current model and planning the future.
14	Plans in practice.	Taking the plans we made and marketing them to the public.
15	Interviews	Grading process as in the previous semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Occasional preparation for presentations. No fixed homework schedule.

【テキスト（教科書）】
Text book to be announced.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Assessment is continuous. Attendance is mandatory. Testing by interview.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
まだアンケート結果が出ていないため、コメントできなかった。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善を試みたい。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
ビジネス英語Ⅰ/Ⅱ（中級）
英語オーラル・コミュニケーションⅠ/Ⅱ

【オフィス・アワー】
質問がある場合は E-mail で受け付ける。
メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

ビジネス英語Ⅰ（中級）　選択＜外国語経営学科目＞　2～4 年次／ 2 単位［春学期授業］
ビジネス英語Ⅱ（中級）　選択＜外国語経営学科目＞　2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

ジョナサン・エーブル　講師

※　初級、中級の同時履修はできません。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ビジネス英語（中級）
This is a course for students who already have some speaking ability. It is a practical course in which the sole classroom language is English.

【到達目標】
Confident communication

【授業の進め方と方法】
Using the textbook as a basis we will build confidence through practical exercises, using English as it is used in a Business environment.

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction.	Class selection and an introduction to the course.
2	Work.	Describing what you do now and what you may do in the future.
3	Leisure.	How we spend free time together and alone.
4	Problems.	Explaining what has gone wrong in the workplace.
5	Problems 2.	Finding solutions and assisting others.
6	Travel 1.	Getting away, getting back. Transport practicalities.
7	Travel 2.	What we need to know about foreign travel and how to make the most of the experience.
8	Presentation Preparation.	Planning a small group presentation for the classroom.
9	Presentations.	Giving presentations to your peers in the classroom.
10	Food and Entertaining.	What to eat and how from the point of view of the visitor to Japan and the Japanese traveler abroad.
11	Sales 1.	Products. How we decide on a product and describe it.
12	Sales 2.	Strategies for marketing the products we have identified.
13	Sales 3.	Advertising and Sales plans for the products we have identified.
14	Review.	Looking back at the semester's themes with the interview test in mind.
15	Interviews.	Grading process. Self-assessment and small group interviews.

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
1	Review/Introduction.	Looking back at last semester and forward to the new ideas ahead.
2	People 1.	Customers. How to deal with the public in a working environment.
3	People 2.	Staff. How to talk to your colleagues both Junior and Senior.
4	Advertising.	Images and slogans. The most communicative ideas.
5	Advertising 2.	Campaigns. How to persuade others with effective English.
6	Markets.	Who buys what from whom and why?
7	Presentations preparation	Preparing for presentations. Choosing topics and making detailed plans
8	Presentations.	Group presentations to class. Practical persuasive English.
9	Companies 1.	Describing companies and explaining their structure and history.
10	Conpanies 2.	What company would you start? A group exercise in imaginative English.
11	The Web.	Business on the net. The beauties and dangers of online commercial activity.
12	Cultural Difference.	Diversity is good. Why we should not be afraid of different business cultures.
13	Jobs.	What we do now and how we do it. The practicalities of work.
14	Review.	Looking back in order to prepare for the final grading process.
15	Interviews.	Self-assessment and small group interviews to finish the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Some preparation, no schedule of homework.

【テキスト（教科書）】
Text book to be announced

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Students will be assessed continually. Attendance is mandatory.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
まだアンケート結果が出ていないため、コメントできなかった。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
ビジネス英語Ⅰ/Ⅱ（初級）
英語オーラル・コミュニケーションⅠ/Ⅱ

【オフィス・アワー】
質問がある場合は E-mail で受け付ける。
メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

キャリア・マネジメントⅠ　選択＜キャリアプログラム科目＞ 3 年次／ 2 単位　［春学期授業］
キャリア・マネジメントⅡ　選択＜キャリアプログラム科目＞ 3 年次／ 2 単位　［秋学期授業］

今城　志保　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会人初期のキャリアに必要な知識を学びます。就職活動や、会社組織、そこで働く個人のキャリアの在り方などについて、理論を学ぶとともに、自分に当てはめて考えることで将来のキャリアマネジメントに使える考え方を身につけます。

【到達目標】
春学期、秋学期を通して、以下の 3 点を目標とします。
①社会人としての初期のキャリアをスタートする際に役立つ知識を身につけること
②自分の将来のキャリアについて、自分なりの考えを持つこと
③社会人生活の中で重要になる「主体的に考え活動する力」「他者と共同して目標に向かう力」をきたえること

【授業の進め方と方法】
春学期（Ⅰ）は、就職活動に重点を置いた内容についての講義を行います。秋学期（Ⅱ）は、社会人になって初期のキャリアを歩む際に知っておくべき内容を中心に講義を行います。春学期、秋学期とも、講義を聴くほかにグループでのディスカッションとワークを行ってもらう予定です。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	授業の進め方のガイダンス、グループ分け
第２回	採用について知る①	組織は社員に何を求めているか（人材要件とは何か、組織や仕事への適合）
第３回	採用について知る②	評価の方法１　適性検査（一般知的能力検査、性格適性検査など）
第４回	採用について知る③	評価の方法２　面接（模擬面接を体験する、評価者側の視点に立つ）
第５回	採用について知る④	評価の方法３　グループディスカッション（「あなただったら誰を採用しますか？」採用の意思決定を学ぶ）
第６回	採用について知る⑤	採用活動はどうあるべきか（社会的視点から、組織の視点から、個人の視点から考える）
第７回	仕事について知る①	誰かの仕事を紹介し、仕事の特徴を整理する（その人の仕事を行う際に必要な人材要件、その仕事を他の人に紹介する、ディスカッション、まとめ）
第８回	仕事について知る②	自分にとって重要な仕事の特徴は何か（前回のまとめのプレゼンテーション、自分にとって重要な仕事の特徴は何かを考える）
第９回	仕事について知る③	仕事と報酬（報酬に影響を与えるものは何か）
第 10 回	仕事について知る④	仕事の価値（自分にとっての価値、組織にとっての価値、社会にとっての価値、を考える）
第 11 回	会社を知る①	会社のイメージと会社の現実（自分が今まで所属してきた集団との違いを考える、自分は会社の何を知りたいか）
第 12 回	会社を知る②	会社という組織の見方を学ぶ（階層、権限、暗黙のルール、人間関係）
第 13 回	会社を知る③	気になる会社を調べてみよう（ビジネスの観点ではなく、“組織の見方”の視点から）
第 14 回	まとめ	半期のまとめとグループ活動の振り返り
第 15 回	グループ課題の提出	学期中に行ってきたグループ課題をまとめて提出する

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	授業の進め方のガイダンス、グループ分け
第２回	就職したら最初に何が起きるかを知る①	組織社会化について（理論の紹介、自分の社会化経験を振り返る）
第３回	就職したら最初に何が起きるかを知る②	一年目の仕事について考えるⅠ（調べてきたことを共有、ディスカッション、まとめ）
第４回	就職したら最初に何が起きるかを知る③	一年目の仕事について考えるⅡ（組織社会化研究の紹介、前回のグループディスカッションの発表）
第５回	キャリアについて考える①	日本の企業組織のキャリア（若手、中年期、高年期、女性）
第６回	キャリアについて考える②	キャリアの理論（主な理論の紹介、将来の自分をイメージする）
第７回	キャリアについて考える③	転職市場を知る（ゲストスピーカー）※予定
第８回	キャリアについて考える④	2030 年の働き方を考える（ゲストスピーカー）※予定
第９回	職場の人間関係について考える①	職場のコミュニケーション（上司、先輩、同期、他部署の人、社外の人）
第 10 回	職場の人間関係について考える②	チームで働くということ 1（チームワークに関する主な理論の紹介、役割性格、ＮＡＳＡのゲーム）
第 11 回	職場の人間関係について考える③	チームで働くということ 2（リーダーシップに関する理論の紹介、自分のグループの特徴と課題の振り返り）
第 12 回	適応について考える①	メンタルヘルスについて（主な理論の紹介、現在の日本企業の取り組み）
第 13 回	適応について考える②	ストレスマネジメント（ストレス診断、自分のストレス体験を振り返る、ストレスコーピング、ソーシャルサポートの活用）
第 14 回	まとめ	半期のまとめとグループ活動の振り返り
第 15 回	グループ課題の提出	学期中に行ってきたグループ課題をまとめて提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期、秋学期ともに、3 回ずつ授業外の学習活動が課せられます。3 回のうち 2 回は、授業の前準備としての情報収集です。情報収集のうち 1 回は、直接人に話を聞いて情報を集めるもので、もう 1 回は、本やインターネットなどを使って情報を集めます。残る 1 回の授業外活動は、授業を受けて自分の考えをまとめるものです。いずれも 1 時間程度の活動になる予定です。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
外島 裕・ 田中 堅一郎『産業・組織心理学エッセンシャルズ』増補改訂版 [ナカニシヤ出版]2004
古川 久敬『産業・組織心理学』[朝倉書店 (朝倉心理学講座)]2006
藤森 立男『産業・組織心理学－変革のパースペクティブ』[福村出版]2010
金井 寿宏, 高橋 潔『組織行動の考え方―ひとを活かし組織力を高める 9 つのキーコンセプト』[東洋経済新報社 (一橋ビジネスレビューブックス)]2004

【成績評価の方法と基準】
春学期、夏学期とも、出席点、個人の授業外の学習活動（3 件）、グループ課題（2 件）で成績評価を行います。
出席は 70 %以上を条件とし、出席率に応じて 40 点満点で評価します。
個人の学習活動は、1 件あたり 10 点 ×3（30 点満点）で評価します。
グループ課題はグループで一つレポートを提出していただき、1 件当たり 15 点 ×2（30 点満点）で評価し、それをグループメンバーの評価とします。ただし、グループ活動への貢献度が不十分な場合は、評価が低くなる場合があります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
アンケートでいただいた意見は、積極的に生かしていきたいと思います。

【その他の重要事項】
・ⅠとⅡは通年で履修することが望ましいですがですが、一方の履修でも可とします。
・授業でのグループは最初の授業で決めて、同じグループで半期の活動を行っていただきます。
・他の方の迷惑になるような行動（個人の課題を行わない、グループでのディスカッションやワークに真剣に取り組まない）が顕著な場合には、授業への参加をお断りすることがあります。
・関連科目は「インターンシップⅠ/Ⅱ」がありますが、特に働く個人の心理に着目した講義内容である点で異なります。

【オフィス・アワー】
・授業後に質問を受け付けます。
・質問・相談は E-mail でも受け付けます。
メールアドレスは授業の中でお知らせします。

キャリア・マネジメントⅠ　選択＜キャリアプログラム科目＞ 2～4 年次／2 単位［秋学期授業］

キャリア・マネジメントⅡ　選択＜キャリアプログラム科目＞ 2～4 年次／2 単位［秋学期授業］

小川　憲彦　教授

※　Ⅰ、Ⅱとも秋学期に開講するので注意してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア論の基本について学習します。その中で、キャリアを歩んでいく上での考え方、就職活動のことに加えて、会社のこと、会社組織を取り巻く社会環境についてもお話したいと考えています。自分の考えを持ったうえで参加できるよう、適宜ディスカッション等を行います。

【到達目標】
①キャリアの基本理論の概要を知っていること
②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めること

【授業の進め方と方法】
キャリア論の基礎に関する講義、企業の採用活動の事例紹介などを行います。理論や事例を材料にディスカッション等を行う予定です。

【授業計画】
Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第 2 回	キャリアとは	経営学におけるキャリア論の位置づけやキャリアという概念の理解
第 3 回	キャリアを取り巻く環境の変化	これからの世の中で、どのような変化が生じうるのか、その上でどのようなキャリアが求められるのか
第 4 回	企業の新卒採用活動（1）	採用側の理論について
第 5 回	企業の新卒採用活動（2）	採用研究について紹介します
第 6 回	企業の新卒採用活動（3）	面接研究について紹介します
第 7 回	企業の採用活動事例の紹介（1）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第 8 回	企業の採用活動事例の紹介（2）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第 9 回	職場適応の理論（1）	入社した後の会社への適応について（概要）
第 10 回	職場適応の理論（2）	入社した後の会社への適応について（人間関係）
第 11 回	キャリア発達の理論（1）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第 12 回	キャリア発達の理論（2）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第 13 回	キャリア・トランジション論	転職など、キャリアの移行期について
第 14 回	近年のキャリア論	偶発性アプローチの紹介など
第 15 回	テスト	必須です

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第 2 回	仕事とキャリア	仕事や働くことの意味について考えます
第 3 回	就職活動	大学生の就職活動について考えます
第 4 回	採用活動（1）	企業の採用活動について考えます（人材要件）
第 5 回	採用活動（2）	企業の作用活動について考えます（面等接）
第 6 回	エントリー・マネジメントのまとめ	求職側と求人側の双方の視点から就職活動について考えます。今後の学生生活についても考えましょう。
第 7 回	給与とやりがい 大企業と中小企業	就活でよくある疑問について考えます
第 8 回	働く人の思い（1）	可能であればゲストを呼んで自身の仕事についてお話いただきます
第 9 回	働く人の思い（2）	可能であればゲストを呼んで自身の仕事についてお話いただきます
第 10 回	キャリア初期について	働き出しての数年について考えます
第 11 回	キャリア中期について	中年の時期について考えます
第 12 回	上司やリーダーシップの話（1）	職場の人間関係、とくに上司との関係について考えます
第 13 回	上司やリーダーシップの話（2）	職場の人間関係、とくに上司との関係について考えます（フォロワー・シップ）
第 14 回	事例の発表	興味のある業界について調べた結果を共有します
第 15 回	まとめ	振り返りと課題レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
任意での宿題（レポートや読書）を適宜出します。

【テキスト（教科書）】
金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所。

【参考書】
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏（訳）(2003)『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】
・任意提出のレポートと期末試験の結果で評価する予定です。
・出席は取りませんが、時々講義中に課題を出し、加点対象とすることがあります。
・ただし、レポートも課題も、内容が不十分であれば加点はしません。コピペ、内容のないもの、不十分と思われるもの、読めないものなどは減点もありえます。
・参加する際の注意事項（その他参照）が守られない場合、私の判断で大幅な減点や単位不認定があります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
実際の採用過程に関する私の調査結果に基づいた話を取り入れます。

【その他の重要事項】
①各回の内容はあくまで予定です。内容の前後や変更がありえます。
②不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。
③初回講義で具体的な注意など指示し、以降は無条件で②のような対応をします。
　携帯電話の電源を切って鞄にしまう、写真をとらない、関係のないおしゃべりをしない等は基本です。
関連科目は特にありません。

検定会計Ⅰ　　選択＜キャリアプログラム科目＞ 2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

検定会計Ⅱ　　選択＜キャリアプログラム科目＞ 2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

市川　佳功　講師

※　Ⅰ、Ⅱとも秋学期に開講するので注意してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日商簿記検定 2 級レベルの簿記を対象としています。日商簿記検定 2 級では商業簿記と工業簿記の双方の知識が要求されます。そこで、検定会計Ⅰでは商業簿記、検定会計Ⅱでは工業簿記を講義のテーマとして設定しています。
※ 検定会計Ⅰ・検定会計Ⅱはそれぞれ別個独立の科目ですから、一方のみの履修登録でも問題ありません。

【到達目標】
日商簿記 2 級検定試験の出題範囲が改訂され難易度が上がったように思います。この講義では新しい出題範囲を意識しながら日商簿記検定 2 級の合格に必要な基礎知識を習得することを到達目標としています。

【授業の進め方と方法】
〔概要〕
検定会計Ⅰ・検定会計Ⅱは、いずれも秋学期集中の授業です。限られた講義コマ数の中で日商簿記検定 2 級の出題範囲を網羅しなければならないことから、初歩的な簿記の学習経験や日商簿記検定 3 級程度の能力が学生に備わっていることを前提として講義を進めていきます。期末の定期試験では 2 級レベルの計算問題を出題し、学生の目標到達度を確認します。
〔授業方法〕
第 1 回目から本格的な講義を実施します。テキストに基づいて授業を進めていきます。電卓を用意してください（定期試験では必須のアイテムです）。時間の都合上、授業時間中に大きな問題を解いてもらうといった演習形式等による講義を提供することができません。したがって、問題を解く練習は学生が各自で問題集などを利用して補強してください。レポート等の提出は予定していません。
なお、平成 28 年度および平成 29 年度は日商簿記検定の出題範囲の改訂期にあたっています。これに対応してさまざまな学習書の最新版が随時発刊されると思いますが、シラバス執筆時には新テキスト等の内容が明らかになっていません。そのためシラバスとは異なる順序で講義を進めることがあるのであらかじめご了承ください。指定したテキストに掲載されていない重要部分については授業内で補助教材を配布するなどして対応する予定です。

【授業計画】
Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	商品売買の会計処理	値引き、戻し、割戻し、割引きの処理。
第 2 回	当座預金	貸借対照表の預金残高の把握方法。
第 3 回	有価証券	特に決算時の有価証券の評価方法。
第 4 回	手形の会計処理	為替手形の特殊な利用方法と不渡手形。
第 5 回	有形固定資産	有形固定資産の取得、利用、売却の会計処理。
第 6 回	無形固定資産・繰延資産	無形固定資産と繰延資産の違い。
第 7 回	引当金	数種類の引当金の計上方法。
第 8 回	株式の発行	株式会社の純資産の構造と株式発行の関係
第 9 回	剰余金の配当と処分	株主総会決議による剰余金の配当と処分
第 10 回	株式会社の税金と決算	法人税、消費税等の処理。 決算手続の概要。
第 11 回	本支店会計	本支店会計の構造
第 12 回	本支店会計	本支店合併財務諸表
第 13 回	連結会計	資本連結
第 14 回	連結会計	連結会社間取引の処理 未実現利益の消去
第 15 回	連結会計	連結清算表の作り方

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	原価とは	工業簿記の仕組み・原価とは何か。
第 2 回	材料費	材料の購入と消費。
第 3 回	材料費	材料の予定価格の使用方法。
第 4 回	労務費・経費	賃金・その他の経費のとらえ方。
第 5 回	製造間接費	製造間接費の管理方法。
第 6 回	個別原価計算	製造指図書ごとの原価計算方法。
第 7 回	部門別原価計算	工場の各部門別に製造間接費を集計する方法。
第 8 回	単純総合原価計算	総合原価計算の基本形。
第 9 回	減損・仕損の処理	材料の蒸発、製造の失敗が生じた場合の原価計算。
第 10 回	工程別総合原価計算	製造工程が 2 以上存在する場合の総合原価計算。
第 11 回	組別原価計算・等級別原価計算	品質の異なる製品ごとの原価計算・種類の異なる製品ごとの原価計算。
第 12 回	標準原価計算	標準原価の意味。原価計算方法。
第 13 回	標準原価計算	詳細な原価差異分析方法。
第 14 回	直接原価計算	変動費のみによる原価計算。
第 15 回	直接原価計算	工場の意思決定を左右する短期利益計画の考え方。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日商簿記検定 2 級レベルの能力を身に着けるには、問題集等を利用して問題を解くことが最良・最短の方法です（特に過去問は有効です）。授業内で問題を解くことは時間的に難しいので、学生は各自で問題を解くことを心がけてください。検定会計Ⅰ・Ⅱはいずれも秋学期集中講義です。期末の定期試験終了後には、2 月に実施される日商簿記検定 2 級に合格する能力がついているはずです。

【テキスト（教科書）】
検定会計Ⅰ： TAC 株式会社簿記検定講座編著『合格テキスト日商簿記 2 級　商業簿記』TAC 出版 （授業開始時において最新版のものを使用する）
検定会計Ⅱ： TAC 株式会社簿記検定講座編著『合格テキスト日商簿記 2 級　工業簿記』TAC 出版 （授業開始時において最新版のものを使用する）

【参考書】
渡部裕亘等編著　検定簿記ワークブック 2 級商業簿記　中央経済社
岡本　清　廣本敏郎著　検定簿記ワークブック 2 級工業簿記　中央経済社
日商簿記検定試験の過去問題集（各社が出版しています）

【成績評価の方法と基準】
検定会計Ⅰ・検定会計Ⅱのいずれについても、通常の期末定期試験を実施します。
期末定期試験では日商簿記検定 2 級レベルの計算問題を出題します（電卓の準備が必要です）。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
進み具合の早さは所定のコマ数で全範囲を網羅する必要から避けることができませんが、論点を整理しながら講義を進めていくことで充実させていきます。

【その他の重要事項】
検定会計Ⅰ・検定会計Ⅱは株式会社における会計を学習対象とするものです。そのため次の科目を履修するのに役立ちます。
会計学入門Ⅰ/Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅲ/Ⅳ、検定会計Ⅰ/Ⅱ、会社法

インターンシップⅠ 【企業と仕事研究（事例編）】 選択＜キャリアプログラム科目＞ 2～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

小林　健一　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「企業活動と仕事の実際を学ぶ」

■企業の経営や経営判断はどのようになされているのか、また、その経営判断が現場の企業活動/マーケティング活動の中で、障害を乗り越えながら、どのように実現していくのかを、さまざまな企業の企業活動/マーケティング活動の実際に触れる事により実践的に理解します。
　➡「経営学を学ぶ自分」としての理解/学習
■企業の中では、ひとりひとりが、どのような能力、どのような判断を求められているのか、また仕事の楽しさとは何かを、さまざまな仕事の実態に触れることにより理解します。
　➡「将来社会に出ていく自分」としての理解/学習
※秋学期授業インターンシップⅡでは、夏休みに、インターンシップの受け入れをご了解いただいた企業で 5 日～ 10 日程度の実習を行います。インターンとして派遣する学生は、インターンシップⅠの受講者から選抜しますので、インターンシップⅡの受講希望者は、必ず、インターンシップⅠを受講してください。（インターンシップⅡの単位は秋学期扱いですが、実際の授業は、夏休みのインターンシップ体験となります。）

【到達目標】
①実際の企業活動/マーケティング活動のケースを聞きながら、そのポイントを要約できる。
②さまざまな業界/業種の企業活動/マーケティング活動の特徴、共通点、相違点について説明できる。

【授業の進め方と方法】
●ゲストをお招きする授業の性格上、受講学生数を最大 80 名に絞ることにより、集中して授業に取り組める環境を重視しています。
●毎回企業からゲスト・スピーカーを招き、約 60 分間のスピーチの後、質疑応答の時間を設けます。
●第 1 回目の授業で、各企業のプレゼンテーションを聞くための視点、及び春学期に事例として学ぶ各企業を紹介、その後各回授業で、実際に 13 社の企業事例を聞く事により、理解を深めます。
●以下の授業計画は 2015 年度の実績に基づくものです。2016 年度のゲストは今後の交渉によって決定します。そのため、授業計画とスケジュールは変更になる可能性が大きく、詳細は第 1 回目の授業時に説明します。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	教員自己紹介 インターンシップⅠおよびインターンシップⅡの受講の仕方について ゲスト企業の紹介 （受講希望者多数の場合は、受講生選抜のための受講動機等に関するアンケートの実施）
第 2 回	広告制作会社の仕事	ゲスト・スピーカー： (株) アド・エンジニアーズ・オブ・トーキョー　取締役営業副本部長　中嶋章博　氏
第 3 回	三井住友銀行と銀行業務	ゲスト・スピーカー： (株) 三井住友銀行　成長産業クラスター第三グループ　矢幡重孝 氏
第 4 回	広告会社の仕事	ゲスト・スピーカー： (株) 電通　マーケティングソリューション局　プロセスイノベーション部　部長　田島幸一郎 氏
第 5 回	ドラッグストアの現状と進むべき方向性	ゲスト・スピーカー： (株)CFS コーポレーション　教育訓練部　丸山智史 氏
第 6 回	プラットフォームサービスについて	ゲスト・スピーカー：プラットフォームサービス (株)　取締役会長　田辺恵一郎　氏
第 7 回	新聞業界の現状と新聞社の仕事	ゲスト・スピーカー： (株) 日本経済新聞社　デジタル編成局編成部　浦野創 氏
第 8 回	飲料メーカーの仕事	ゲスト・スピーカー：アサヒ飲料 (株)　カルピス営業本部　広告部　課長　養畑英幸 氏
第 9 回	調査会社の仕事	ゲスト・スピーカー： (株) ビデオリサーチ　ソリューション推進局生活者インテリジェンス部 緒方直美　氏　石倉裕大　氏
第 10 回	生命保険業	ゲスト・スピーカー：朝日生命保険相互会社　総務人事部門　人事ユニット　採用担当課長 稲葉実輝彦 氏
第 11 回	不動産流通の仕事	ゲスト・スピーカー：三井不動産リアルティ (株)　人事本部　人材開発一部人材開発グループ 関戸邦彦 氏
第 12 回	弥生と今とこれから	ゲスト・スピーカー：弥生 (株) 代表取締役社長　岡本浩一郎　氏
第 13 回	社会で働くこととは～資生堂のある社員の事例をもとに考える～	ゲスト・スピーカー： (株) 資生堂 国内化粧品事業部　営業推進部　営業研修グループ　掛田茉莉 氏
第 14 回	授業の振り返り	授業の振り返り
第 15 回	総括／インターンシップⅡガイダンス	授業の総括 インターンシップⅡ参加者へのガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
60 分のレクチャーで、その企業の経営/マーケティングを理解する事は容易ではありません。事前にネット等でその企業についての情報を収集する事により、あらかじめ十分な予備知識をもって授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、授業に必要な資料は適宜配布します。

【参考書】
特に使用しません。

【成績評価の方法と基準】
出席はとりません。
授業終了時に提出するレポート 8 回以上を必須として、
8 回を超えるレポート提出回数 24 %、レポート内容 76 %で評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
各業界の現状もさることながら、ゲストご本人のこれまでのキャリアや仕事についての考え方を聞きたいという学生の声があるため、今年度はできる限りゲストの方ご自身のことについてお話いただくようにお願いします。

【学生が準備すべき機器他】
ゲスト企業の諒解が得られた場合は、授業で使用したスライドを授業支援システムで共有します。

【その他の重要事項】
●教員は、（株）電通 IMC プランニングセンター長、（株）電通マーケティングインサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。
●企業活動やマーケティング活動は常にさまざまな選択肢からの意思決定の連続です。この授業を通じて養っていただきたいのは、さまざまな仕事に対する想像力や洞察力です。常に「自分なら」という視点から、実際の経営や仕事を想像、洞察する習慣を身につける努力をしてください。
【関連科目】秋学期「インターンシップⅡ」で企業に派遣される学生は、この授業の受講生の中から選抜されますので、「インターンシップⅡ」を受講希望の学生は、この授業を必ず受講してください。

インターンシップⅡ 【企業と仕事研究（体験編）】 選択＜キャリアプログラム科目＞ 2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

小林　健一　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「企業活動と仕事の実際を学ぶ」

■企業の経営や経営判断はどのようになされているのか、また、その経営判断が現場の企業活動/マーケティング活動の中で、障害を乗り越えながら、どのように実現していくのかを、さまざまな企業の企業活動/マーケティング活動の実際に触れる事により実践的に理解します。
　➡「経営学を学ぶ自分」としての理解/学習
■企業の中では、ひとりひとりが、どのような能力、どのような判断を求められているのか、また仕事の楽しさとは何かを、さまざまな仕事の実態に触れることにより理解します。
　➡「将来社会に出ていく自分」としての理解/学習
※この授業は、実際の企業における就業体験です。受講者は、春学期インターンシップⅠ受講生の中から選抜します。従って、この授業の受講希望者は、必ず春学期インターンシップⅠを受講してください。

【到達目標】
①社会人としての最低限のルールやマナーが身に付いている。
②インターン先企業の業務内容/企業風土を迅速に理解し、その中に溶け込む事ができる。
③現在の自分の出来る範囲で、インターン先の業務に貢献できる。
④インターン経験を経た段階で、将来自分が就きたい仕事についての考え方をまとめ、説明できる。

【授業の進め方と方法】
通常の講義と形式が異なります。
昨年度は７企業で１６名の学生が就業体験を行いました。
春学期の「インターンシップⅠ」の授業中に、詳細について説明しますが、以下の点に注意してください。
●インターンシップⅡだけを単独で履修することはできません。
●企業研修は、インターンシップⅠを履修した者の中から、選抜された学生を対象に、夏休み期間中に実施、終了しますが、履修登録は秋学期科目扱いです。
●実際のプロセスは、下記のようになります。
①インターンシップ参加希望企業（第 1 志望、第 2 志望）の提出
　（春学期インターンシップⅠ期間内）
②インターンシップⅠ提出レポートによって研修参加者の選考
③合格者発表
④企業研修オリエンテーション（春学期インターンシップⅠ最終授業）
⑤単位登録変更手続き
　(インターンシップ保険、守秘義務契約などの手続きもこの時点で行う。)
⑥ 企業研修の実施 (夏休み期間中。研修期間は実施企業ごとに異なる。)
⑦ インターンシップ参加者による企業研修報告会の実施 (9 月中旬予定)

【授業計画】
Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	インターンシップ・ガイダンス（春学期インターンシップⅠ最終授業）	企業での研修について説明。 インターンシップ保険への加入、履修登録の手続き。 （必要に応じて）守秘義務契約、誓約書等の締結。
第２回～14 回	派遣先企業での研修	派遣先企業によって期間（５日～１０日）、研修内容は異なるので、インターンシップⅠの授業を聞いた上で、各企業の研修内容を確認すること。
第 15 回	インターンシップ報告会	派遣先企業のご担当者にもご出席いただき、各企業でどのような研修を受けたのか、またどのような学びを得たのかをプレゼンテーションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
●派遣される学生は企業との契約書の有無にかかわらず、注意事項をよく守ってインターンに参加してください。
●インターンに参加する学生の態度や行動が、次年度のインターン受け入れ、さらには今後の企業の採用活動にも影響を及ぼすため、法政大学経営学部の学生であるとの自覚をもって、実習に臨んでください。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
「ビジネスマナー以前の社会人の心得」古川裕倫、日本能率協会マネジメントセンター、2013 年。

【成績評価の方法と基準】
①研修に関するレポート
②インターンシップ報告会プレゼンテーションの発表
　（グループあるいは個人）
①＋②により、総合的に判断します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
履修登録上は秋学期科目ですが、企業研修自体は夏休み期間中に終了するため、授業評価アンケートは実施していません。
ただ、研修に参加した学生のレポートによると、いずれの企業研修も得難い貴重な体験として評価されています。

【その他の重要事項】
〈インターン期間中は…〉
●朝夕の挨拶、電話の応対等社会人として最低のマナーを身につけた上で、臨んでください（キャリアセンターが実施するマナー講座等にも積極的に参加してください。）
●それぞれの会社には、その会社毎の就業規定、仕事を進めて行く上でのルールがあります。早期にそのルールを理解するように努めてください。
●漫然と言われた仕事を行うだけでは、仕事の真の理解にはつながりません。常にその仕事の目的、仕事の結果を考え、積極的に質問する事により、企業活動及び仕事を理解する事に努めてください。
【関連科目】インターンとして派遣される学生は、春学期「インターンシップⅠ」受講者の中から選抜されますので、この授業を希望する学生は、必ず「インターンシップⅠ」を受講してください。

広告論

選択＜特殊講義＞　　2～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

小林　健一　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「マーケティングと広告」

「広告」は、「経営」「マーケティング」「マーケティングコミュニケーション」等と密接な関連を持ちながら、企業活動を支えています。。
この講座では、そのような「広告」の役割を明らかにした上で、特に「マーケティングコミュニケーション」の一手段としての「広告」に焦点を絞り、その理論や実務上の知識を学ぶ事を目的とします。
（春学期「広告論」講義の実践編として、秋学期「プランニング実務」を開講しています。実際の広告の計画や制作に興味のある方は、秋学期「プランニング実務」の受講もお奨めします。但し、秋学期「プランニング実務」は演習のため受講生数を３０名程度に絞ります。）

【到達目標】
①「経営」「マーケティング」と「広告」の関係を理解し、説明できる。
②広告の機能/役割について理解し、説明できる。
③広告戦略/広告計画の立案手順を理解し、説明できる。
④広告ビジネスの構造や、関連企業の役割について理解し、説明できる。

【授業の進め方と方法】
●講義は、電通出身の教員が勤めます。
●講義を中心に進めますが、理解を深めるために授業内課題を併用します。
●また、広告ビジネスの現状に関する理解を深めていただくために、事業会社、広告会社等からのゲストを招いてお話をうかがいます。
●ゲストは今後の交渉によって決定します。そのため、授業計画とスケジュールは変更になる可能性が大きく、詳細は第 1 回目の授業時に説明します。
（授業計画には、参考までに、昨年度のゲスト講師を記載してあります。）

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	教員自己紹介 授業計画の説明 受講動機等に関するアンケート
第 2 回	広告の定義 経営における広告の機能と役割	広告の定義 経営に果たす広告の機能と役割 社会・経済に果たす広告の機能と役割
第 3 回	マーケティングにおける広告の機能と役割	マーケティングにおける広告の機能と役割とは？ マーケティングコミュニケーションとは？
第 4 回	広告ビジネス	広告業務の流れ 広告主、広告会社、媒体社、その他の広告関連企業の機能と役割 広告会社の組織と機能
第 5 回	広告戦略/広告計画１	広告計画立案の流れ６段階 広告計画の意味と重要性
第 6 回	広告戦略/広告計画２	状況分析と広告目標の設定 （消費者の行動変容パターンと広告目標レベル）
第 7 回	（ゲスト講師）事業会社	事業会社における広告業務 （昨年度は アサヒ飲料株式会社 カルピス営業本部 広告部長 唐木田陽一氏）
第 8 回	広告戦略/広告計画３	戦略とは？ 広告戦略の基本 （ターゲットとコンセプト）
第 9 回	媒体計画	媒体計画とは？ 媒体計画の作成手順
第 10 回	（ゲスト講師）広告会社	最近の広告キャンペーン事例 （昨年度は（(株）電通　マーケティングソリューションセンター プロセスイノベーション部 部長　田島幸一朗 氏）
第 11 回	表現計画	広告表現とは？ 広告表現の類型（左脳系アプローチと右脳系アプローチ）
第 12 回	（ゲスト講師）広告会社	広告表現制作の実際 （昨年度は （株）電通 シニアクリエーティブディレクター 佐藤義浩氏）
第 13 回	広告効果過程	消費者の購買意思決定過程 広告効果過程のモデル
第 14 回	広告効果測定	広告調査の種類と方法 広告効果測定の新しい流れ
第 15 回	ブランドと広告	ブランドとは？ ブランドと広告の関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常的に、新聞/テレビ/雑誌/ラジオ/インターネット等の広告に積極的な関心を持って接しながら、その背景にある企業の意図や戦略を読み取る習慣を身につけてください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しませんが、適宜以下の参考書に基づいて講義を行います。

【参考書】
「現代広告論」岸志津恵/田中洋/嶋村和恵、有斐閣、2000。
「消費者・コミュニケーション戦略」田中洋/清水聰（編）有斐閣、2006。

【成績評価の方法と基準】
出席はとりません。
授業内課題 30 ％　学期末試験 70 ％の比率で評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
・教員の実務経験についてもっと聞きたいという声があったので、適宜広告会社での経験についてもお話したいと思います。
・質問コーナーを設けてほしいという声があったので、できる限り学生の皆さんの質問に答える時間を作りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
講義のアジェンダは授業開始前、講義に使用したスライドは、授業終了後授業支援システムで共有します。

【その他の重要事項】
教員は、（株）電通 IMC プランニングセンター長、（株）電通マーケティングインサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。過去の経験も交えながら、皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。
【関連科目】秋学期「プランニング実務」が、この講義の実践編となります。

社会貢献・課題解決教育

選択＜特殊講義＞　　2～4 年次／ 4 単位［年間授業］

宮木　いっぺい　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、学生自身が中小企業、商店街のコンサルティング（問題解決）に実際に取り組むプロジェクト型授業です。複数学部、学年の学生が履修可能な公開授業です。社会で必要とされる、問題発見・解決能力、コミュニケーションとチームマネジメントの能力、プレゼンテーションの能力などが身につきます。

【到達目標】
東京都台東区内（上野、浅草、カチクラ等）の中小企業、商店街（クライアント）の経営課題の解決に取り組みクライアントを笑顔にする具体的な成果をあげること、そして、それを通して下記のスキルや知識を身につけること、以上 2 つが、授業の到達目標です。
本授業に参加した学生が身につけるべき能力は、以下の 5 点です。
1. 問題を発見する力＜発見＞
2. 問題を分析し解決策を提案する力＜分析＞
3. 解決策を実践する力＜実践＞
4. コミュニケーションとチームマネジメントの力
5. プレゼンテーションの力

【授業の進め方と方法】
学生はチームに分かれて、年間を通して各チームが 1 つの中小企業や商店街を担当し、問題の「発見 → 分析 → 提案 → 実践」というコンサルティングプロセスを実地に体験します。
年間の授業スケジュールとしては、アイスブレイクを経て、最初に取組に必要な見方、考え方等基礎を身につけるためのレクチャーとワークショップを集中的に行います。学年も学部も様々な学生が集まる授業なので、お互いにスムーズにコミュニケーションを取るためにも、最初のアイスブレイクは重要です。春学期は問題の「発見と分析」に、後期は解決策の「提案と実践」に重点を置き、活動を進めていきます。授業の最終回には、社長や経営陣などクライアントの皆さまや関係者に集まっていただき、提案・展示を行う最終成果報告会を実施します。この報告会は、司会進行も含め、全て学生自身が企画運営します。また、夏休みにはフィールドスタディ合宿を実施し、多数の学生が参加して地域課題の解決に取り組み、最終的には市長をはじめ地元の方々に向けて成果報告を行います。（これまで石川県七尾市、栃木県益子町、秋田県仙北市で実施しました。）一年間を通じて中小企業や商店街の方々と行動をともにすることにより、社会貢献、地域貢献および、問題解決のための実践的能力が身につく授業内容となっています。
授業は、レクチャーやワークショップ、現場でのフィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーション、E ラーニング教材を使った自宅学習等から構成されています。
これまでの成果としては、例えば、学生が提案したアイディアを商品化して売り出した企業もありますし、学生の提案により店舗を移転し内装をまったく変え、訪問客を倍増させた企業もあります。あるチームは、企業の企画会議に定期的に参加し、社員とともに広告戦略の重要媒体であるチラシのデザインを一新しました。商店街のプロモーションビデオを作成し関係者から絶賛されたチーム、産直市の企画運営に尽力し商店街の方々に表彰されたチームもあります。ネット販売の仕組みを提案して採用されたチームもあります。中には乞われて就職した学生もいます。
本授業は全学的な取組みとなっており、学部や学年を越えて様々な学生が参加しています。既習者の多くから「異なる分野を専門としている他学部生との交流から得られるものは大きく、楽しい」という声が聞かれます。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	説明と質問
第 2 回	レクチャー・アイスブレイク	会社とは何か・自己紹介・全員と話す
第 3 回	フィールドワーク	下町を歩く
第 4 回	レクチャー・ワークショップ	魅力を発見する（社課教の出発点）
第 5 回	レクチャー・ワークショップ	問題を発見する（社課教のロジック①）
第 6 回	レクチャー・ワークショップ	問題を解決する（社課教のロジック②）
第 7 回	レクチャー・ワークショップ	チーム編成・チーム紹介・担当クライアント決定 実践する（プロジェクトマネジメントの実際①）
第 8 回	レクチャー・ワークショップ	実践する（プロジェクトマネジメントの実際①）
第 9 回	チーム別面談	クライアント訪問の準備
第 10 回	グループワーク	クライアント訪問
第 11 回	チーム別面談	クライアントの魅力を発見する
第 12 回	プレゼンテーション	クライアントの紹介と今後の方針
第 13 回	グループワーク	クライアントの魅力を発見する
第 14 回	チーム別面談	前期成果報告の準備
第 15 回	プレゼンテーション	前期成果報告
第 16 回	グループワーク	これまでの成果と今後の方針
第 17 回	チーム別面談	これまでの成果と今後の方針
第 18 回	グループワーク	問題の原因を分析する
第 19 回	レクチャー	春学期集中レクチャーの復習
第 20 回	チーム別面談	課題を絞り込む
第 21 回	プレゼンテーション	課題を絞り込む
第 22 回	グループワーク	解決策を提案する
第 23 回	チーム別面談	解決策を提案する
第 24 回	プレゼンテーション	解決策を提案する
第 25 回	ワークショップ	夏合宿成果検討会
第 26 回	グループワーク	解決策を提案・実践する
第 27 回	プレゼンテーション	中間成果報告
第 28 回	グループワーク	最終成果報告会の準備・役割分担
第 29 回	プレゼンテーション	最終成果報告会のための直前練習
第 30 回	プレゼンテーション	最終成果報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プレゼン資料の作成、フィールドワーク、クライアント訪問に加えて、E ラーニング教材の独習など。具体的には授業内で指示します。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】
履修生は、法政大学地域研究センターが提供している E ラーニング教材（課題発見・解決教育、クリティカルシンキング、マーケティング、コンサルティング手法等）を無料で利用できます。授業と並行して、これらのコンテンツを自習することにより、予備知識の無い学生でも、無理なく基礎的な知識、スキルを身につけることができます。

【成績評価の方法と基準】
本授業には正解はありません。知識量で判断するのではなく、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力がどれだけ身についているかで判断します。具体的には（詳細は初回授業の際に説明しますが）、授業への参加姿勢（出席を前提としたうえで、積極的な発言、発表・討議などの平常点）50%、フィールドワーク 25 %、プレゼンテーション 25 %とし、総合的に評価します。プロジェクト型授業なので、参加することが前提です。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学部も学年も違うメンバーの混成チームでプロジェクトを進めるため、メンバー間のスケジュール調整の難しさに履修生は直面します。そこで、授業時間内になるべくグループワーク・クライアント訪問の時間を設けるよう工夫しています。

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しません。

【その他の重要事項】
1）予備知識は特に必要ありませんが、熱心に取り組む意欲のある学生の受講を希望します。とりわけフィールドワークに対する積極的参加が不可欠です。質問等は喜んで受け付けます。これまでの実績などは、以下のホームページを参照してください。http://www.hosei-hurin.net/tri/kadai/index.html
2）履修希望者は初回の授業（ガイダンス）に必ず出席してください。どうしても出席できない場合は、必ず法政大学地域研究センターにお問い合わせください。
3) 公開科目となっているキャリアデザイン学部開講の「地域活性論」（宮木いっぺい担当）を同年度もしくは別年度に履修すると広い視野から問題発見・解決力を身につけることができます。（ただ、3 年生は忙しくなるので同年度に同時履修しない方が良いかもしれません。）

【オフィスアワー】
①授業後に質問を受け付けます。なお履修した学生にはメールアドレスを教えるので、E-mail でも受け付けます。

チェーンストア経営論（寄附講座）　選択＜特殊講義＞　2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

横山　斉理　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法政大学イノベーション・マネジメント研究センターが流通・外食産業の有力企業の協力を得て開設する、チェーンストア経営に関する自主企画・寄付講座です。チェーンストアは戦後日本の流通・サービス業の産業化を推し進め、豊かな消費社会の実現に貢献してきました。そのチェーンストア経営の手法を講義します。

【到達目標】
小売業や外食産業のチェーンストア経営を通して経営の実際を学びます。講義は有力企業から派遣された実務家が行うので、生きた事例研究であると同時に、就職活動の一環として企業研究を行うという視点での履修も可能です。

【授業の進め方と方法】
実務家が外部講師として講義を行います。各回のテーマや担当講師名・所属会社は春学期末までに掲示します。参考までに、前回開講された 2014 年度のテーマ、担当講師名・職位・所属会社を【授業計画】に記載しておきます。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	コーディネータが講義の目標と体系などについて説明します。
2	市場戦略	（参考）2014 年度に開講された際の講演者：株式会社日本リテイリングセンター・リサーチャー・渥美六雄様、イオン株式会社・執行役グループマーケティング最高責任者・小玉毅様、株式会社ファーストリテイリング・グループ人事統括上席執行役員・横濱潤様、サミット株式会社・ブロック担当役員・橋本吉彦様、コーネル大学・ジャパン RMP コーディネーター、大塚明様、株式会社成城石井・執行役員店舗運営本部本部長兼業務改革室室長・早藤正史様、株式会社ニトリホールディングス・教育研修部シニアコーディネーター・安孫子尋美様、株式会社セブン&アイ・ホールディングス・システム企画部・シニアオフィサー・伏見一茂様、株式会社カインズ・ロジスティクス部・部長・根岸充様、タニザワフーズ株式会社・開発チーム SC 開発担当・河木智規様、株式会社ライフコーポレーション・首都圏販売促進部・部長・金子和夫様
3	立地・出店戦略	同上
4	店舗オペレーション	同上
5	人的資源管理	同上
6	商品開発	同上
7	フランチャイズ・チェーン経営論	同上
8	海外出店	同上
9	情報システムの革新	同上
10	物流システムの構築・改善	同上
11	販売促進戦略	同上
12	チェーンストア経営の課題	同上
13	特別テーマ①	同上
14	特別テーマ②	同上
15	予備	予備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容をより深く理解するために以下の点を心がけてください。
①新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどのメディアで報道される商品やサービスについてのニュースを普段から意識しておく。
②日ごろから消費者として利用している店舗やサービスについて注意深く観察しておく。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】
履修者数等を参考に開講時に示します。出席点とレポートを中心に評価する予定です。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
企業の方を学外からお迎えするので、失礼のないよう、十分気をつけるようにしてください。

【その他の重要事項】
マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなど、関連科目を積極的に履修してください。

証券投資基礎

選択＜特殊講義＞　　2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

金　瑢晋　教授、陸川　富盛　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
諸君は大学生になるまでは、「これまでに既に起きたこと」を学んできました。「既に起きたこと」は変わりようがありませんから必ず正解があり、それらを覚えておけば済みました。しかし、諸君がこれから歩を進めていく実社会では「明日を創っていく」のですから、そこに決まり切った正解はありません。自分で自分の答えを創り出して行くしかないのです。
自ら考え判断し行動する「賢い経済主体」となるためには、先ずは市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、様々なリスクや不確実性に果敢に立ち向かっていく必要があります。経済や法律そして金融に関する正しい知識を身に着け、それらを日常的に活用していくことは、単にお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせないのです。
本講義の目的は、人生のさまざまな局面で的確に決断し行動できるよう、金融知識を活用する実戦的な金融インテリジェンスの基本を身に着けることです。

【到達目標】
実戦的な金融インテリジェンスの基本を身に着け、経済生活やビジネスライフにおいて適宜的確に行動できるようになることを目指します。
講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、この目標に到達することはあり得ません。「講義を毎回きちんと受講し、自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力が不可欠です。

【授業の進め方と方法】
本講義は、教科書を使用した講義形式の授業により、次の三つのステップで進めます。
①　先ずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。
②　次に、金融の基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実戦的に学んでいきます。
③　更に、それらを統合的に活用する能力（＝金融インテリジェンス）を、社会生活に応用する方法を学びます。
なお、本講義ではレジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず購入してください。
但し、講義内容は教科書通りではありませんので、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「経済主体としての立ち位置 」 テキスト＜ P4～15 ＞: 私たちのくらしと経済、戦後の社会発展、パラダイムシフト、変革の必要性
2	経済・金融の基礎知識①	「国際経済と国家財政」 テキスト＜ P38～49 ＞: 国際経済、国家の財政
3	経済・金融の基礎知識②	「市場経済と金融の役割」 テキスト＜ P16～29 ＞: 金融の役割、市場経済のしくみと意義、金融の役割と銀行
4	法律の基礎知識	「契約の基本」 テキスト＜ P147～149・152～159 ＞: 契約社会Ⅰ、ローン・クレジット、契約社会Ⅱ
5	リスクと向き合う①	「リスクマネジメント」 テキスト ＜ P74～81・150～152・159～161 ＞： リスクマネジメント、契約社会Ⅲ
6	リスクと向き合う②	「リタイアメント」 テキスト＜ P82～91 ＞： 年金制度、老後生活資金
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」 テキスト＜ P92～98 ＞： 投資とは、投資意思決定プロセス
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」 テキスト＜ P30～37・50～53 ＞： 景気、景気と株価
9	金融商品の基礎知識①	「代表的な金融商品（株式等）」 テキスト＜ P118～129 ＞： 株式、投資信託、外貨建て商品、保険商品、デリバティブ
10	金融商品の基礎知識②	「代表的な金融商品（債券他）」 テキスト＜ P111～118 ＞： 預貯金、信託、債券
11	金融商品の基礎知識③	「金融市場と金融商品の性格」 テキスト＜ P99～111 ＞： 直接金融と間接金融、金融商品の性格
12	投資のリスク管理	「資産分散と時間分散」 テキスト＜ P130～146 ＞： 分散投資、時間分散、長期投資
13	ライフプランニング①	「ライフプランニング表」 テキスト＜ P54～63 ＞： ライフプランニング
14	ライフプランニング②	「ライフイベントごとの課題」 テキスト＜ P64～73 ＞： キャッシュフロー表の見直し、ライフイベントごとの課題
15	最終まとめ。 試験及びレポート提出	講義のまとめ。 試験実施と課題レポート提出日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①　受講内容の復習を行い、身近な経済・時事問題などに疑問を持って考えること。
②　最終回までに表計算ソフト「エクセル」で出題されるレポートに必要事項を調査・入力し、内容を精査すること。

【テキスト（教科書）】
金融知力普及協会発行　『今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎』
ISBN ： 978-4-907341-00-8
（本講義では毎回使用しますので、必ず購入し持参してください。）

【参考書】
特定のものは指定しません。

【成績評価の方法と基準】
下記のとおり、本講義と課題に対する取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。
・試験　　：20 %（知識の正確性を評価します。）
・レポート：50 %（自分で考え、調査し、問題解決する能力を評価します。）
・平常点　：30 %（全体の受講状況と受講態度、質疑応答、課題・討議などを評価します。出席点ではありません。）

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本講義は情報量が多いため、多種多様な情報の中から必要な知識を的確に抽出する工夫も併せて伝えていきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題レポートは、授業支援システムを利用して提示します。

【その他の重要事項】
本講義で得た知識は、自分が学んでいる様々な専門知識と組み合わせていくことで、より高い効果を得ることができます。
なお、本講義はＳＭＢＣ日興証券グループによる「寄附講座」です。実務経験の豊富な外部講師から、資産運用に対する考え方や実践的アプローチが学習できます。また、本講義の受講に当たって前提知識は特に要りませんので、奮ってご参加下さい。
関連科目：ファイナンス論Ⅰ/Ⅱ、証券経済論Ⅰ/Ⅱ、企業財務論Ⅰ/Ⅱ

プランニング実務

選択＜特殊講義＞　　2～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］

小林　健一　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「実際に広告を作ってみる」

将来、誰もが「広告」の仕事に携わる訳ではありません。ただ、ある状況の中で、与えられた課題を解決するために、環境を分析し、戦略を組み立て、その戦略に基づいて様々な施策のアイデアを発想することは、どのような仕事にも共通して求められる力です。

この実習では、身近な存在である「広告」を企画することにより、戦略とは何か、プランニングとは何かを体感していただきたいと思います。

（この授業は、春学期「広告論」の実践編という位置付けになるため、併せて「広告論」を受講することをお奨めします。）

【到達目標】
①広告のプランニングの手順を理解し、説明できる。
②プランニングに必要な情報/データを的確に収集分析できる。
③ターゲットの策定やコンセプトの決定に関して、その手順を理解し、その手順に従ってプランを作ることができる。
④アイデアを発想する方法論を理解し、実際にアイデアを出すことができる。
⑤自分が作った広告プランを、他の人たちに説明し、納得させることができる。

【授業の進め方と方法】
●グループワークを通じて、あるブランドの課題（「ソフトドリンク○○」のシェアを拡大する、「シャンプー○○」をターゲット ×× に向けてリポジショニングする）を解決するための広告戦略と広告表現を作り、実際にプレゼンテーションを行っていただきます。
●具体的には、プランニングフローの各パートについて、教員が講義を行い、そのパートについて実際に作業を行いながら、最終的に広告計画全体と広告表現案を組み立て、各グループ毎に発表してもらいます。
●授業にはメーカー、調査会社、広告制作会社の方々にもご参加いただき、実際のオリーエンテーションから、広告計画の策定、広告表現企画のサポートをしていただきます。
●プランニングは、知的な作業であるとともに、豊かな感性も求められます。プランニングは楽しい！ ということをぜひ実感していただきたいと思います。

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業オリエンテーション 広告概論	教員自己紹介 授業計画の説明 広告概論（春学期「広告論」授業のポイント） （受講希望者多数の場合は、選抜のためのアンケートを実施します。）
第 2 回	（講義） 広告計画の作成手順	授業で行う広告計画作成、広告表現企画の手順の説明
第 3 回	課題オリエンテーション	広告商品、課題の提示 （昨年度は、大手飲料メーカー広告部長からオリエンテーションをいただきました。）
第 4 回	（ゲスト講義） 市場データ分析の基本	実際の市場データ、消費者データを見ながら、市場分析の基本を学ぶ （昨年度は（株）インテージ　FMCG 事業本部　陸良太郎様にお願いしました。）
第 5 回	（個人演習/グループ演習） 市場環境分析	３ C 分析（市場環境、競合商品、自社商品の分析）を個人、およびグループで行う
第 6 回	（グループ演習） ターゲットの策定	ターゲット策定の方法の理解、およびターゲット策定のためのグループ討議
第 7 回	（グループ演習） 広告コンセプトの策定	広告コンセプト策定の方法の理解、および広告コンセプト策定のためのグループ討議
第 8 回	（グループ演習） 広告計画書の作成	第５回～第７回の議論を踏まえて、広告計画書を作成する
第 9 回	第１回プレゼンテーション	各グループから、広告計画のプレゼンテーション
第 10 回	（ゲスト講義） 広告表現企画の基本	広告表現企画の手順の説明 （昨年度は（株）アド・エンジニアーズ・オブ・トーキョー　コピーディレクター　藤枝祐子様にお願いしました。）
第 11 回	（グループ演習） 広告表現企画１	各グループ毎に広告計画の再確認 キャッチコピー作成
第 12 回	（グループ演習） 広告表現企画２	各グループで、広告表現案の作成
第 13 回	（グループ演習） 広告表現企画３	プレゼンテーション資料の作成
第 14 回	第２回プレゼンテーション	プレゼンテーション、および質疑 （昨年度は、審査員として、大手飲料メーカー広告部長、（株）インテージ様、（株）アド・エンジニアーズ・オブ・トーキョー様が参加）
第 15 回	プレゼン講評 プレゼン採点結果発表	各グループのプレゼンテーションの講評、および採点結果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
●授業では、グループワークを行うため、毎回のグループワークに必要な情報、データはグループ毎に事前に収集していただきます。
●またアイデアは教室の中、机の前だけで出るものではありません。街を歩きながら、あるいはテレビや新聞を見ながら、解決策のブレークスルーや、新しいアイデアが出る瞬間の楽しさを実感してください。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、必要な資料は毎回の講義で配布します。

【参考書】
必要に応じてご紹介します。

【成績評価の方法と基準】
出席 10 回以上を必須として、
10 回を超える出席回数 20 %、
個人提出レポート 30 %、
グループプレゼン評価 50 %、
の比率で評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
昨年度授業内アンケートより、
実際の広告表現案の作成にかける時間が少ない、という声があったため、
今年度は、広告表現の作成に時間を取りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業で用いたスライドは、授業終了後、授業支援システムで共有します。

【その他の重要事項】
●教員は、（株）電通 IMC プランニングセンター長、（株）電通マーケティングインサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。
●積極的に授業に参加する学生を歓迎します。受講希望者が多い場合は、選抜のためのテスト/アンケートを行って受講者数を制限します（３０名程度）
【関連科目】この授業は、春学期「広告論」の実践編となります。

例題で学ぶミクロ経済学入門

選択＜特殊講義＞　　1～4 年次／ 4 単位［年間授業］

高橋　理香　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　ミクロ経済学は、講義で理論を学ぶだけでなく、自らの手を動かして問題を解くことで、はじめて理解できる学問です。音楽で例えるならば、楽譜のルールを覚えた上で、実際に譜面をみながら楽器を弾いてみて、はじめて音楽を理解し楽しむことができるのと似ています。美しい音を奏でるためには、いくつものテクニックを身につける必要があります。ミクロ経済学の場合も同様です。この授業では、ミクロ経済学の問題を実際に自分で解くことで、スキルを身につけ、現実の経済の仕組みや動向を分析する方法を習得します。経済学の初心者を対象とした問題演習の授業です。

【到達目標】
　一人で取り組むには厄介な計算問題やグラフを使った問題を中心にとりあげ、最初は教員や他の履修者の助けを得ながら学び、最終的には自力で問題を解くことができるようになることが目標です。また、授業や宿題でのトレーニングによって、ミクロ経済学のものの見方や考え方を理解できるようになります。2 年次以降に経済学系の科目を履修する上で必要なスキルを身につけます。

【授業の進め方と方法】
　講義は授業の冒頭での要点整理にとどめ、多くの時間は問題を解くことに充てます。まず、用意された問題を各自で解き、その後、グループを作ってディスカッションを行います。最後に、ランダムに指名されたグループが発表し、答えあわせをします。また、授業で扱った問題の類題が宿題として出されます。履修者は、最先端のオンライン教材を使用し、ウェブ上で宿題を解くことが求められます。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の進め方・年間スケジュール・オンラインソ教材の使い方・宿題などについてガイダンスを行います。
2	ミクロ経済学の考え方 1	ミクロ経済学のテーマや他の科目との関係について理解します。
3	ミクロ経済学の考え方 2	ミクロ経済学を解くにあたって必要なツールについて解説します。
4-5	需要と供給	モノやサービスの買い手の思考（需要）と売り手の思考（供給）：安く買いたい！ 高く売りたい！
6-7	均衡	需要と供給の一致：市場が「落ち着く」ところをさがす。
8-9	弾力性	値段が上がったら、どのくらいモノが売れなくなる？
10	復習 1	需要と供給：均衡・弾力性に関する復習問題を解き、理解を深めます。
11-12	政府の役割	価格規制や消費税増税は私たちの生活にどのような影響を及ぼすか？
13-14	余剰分析	今のモノの価格で売り手と買い手はどのくらい満足しているか？
15	復習 2	政府の役割・余剰分析に関する復習問題を解き、理解を深めます。

通年

回	テーマ	内容
16-17	外部性	他者のせいで迷惑を被っているいる影響や恩恵を受けている影響をどう評価する？
18-20	生産と費用	企業の費用の内訳や特徴を理解しよう。
21	復習 3	外部性・生産と費用に関する復習問題を解くことで理解を深めます。
22-23	競争市場	競争市場において企業はどんな行動をするのが合理的だろうか。
24-26	独占	独占企業の企業行動を理解します。
27-29	寡占	寡占企業の企業行動を理解します。
30	復習 4・まとめ	競争市場・独占・寡占に関する復習問題を解くことで理解を深めます。これまでの授業の総括をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　宿題を出しますので、各自必ず解いてください。宿題は、指定する教科書のオンライン・ソフトウェアを使用する予定です。履修者は、ウェブ上で問題を解く事が求められます。

【テキスト（教科書）】
マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学　ミクロ編（第三版）』東洋経済新報社　2013 年。
ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ（平田教授クラス・大木准教授クラス）と共通のテキストを使用します。上記のクラスを履修する学生は、その授業での指示に従ってください。それ以外の学生は、1 回目の授業で教科書購入について詳しく説明しますので、絶対に授業の前に購入しないでください。

【参考書】
伊藤元重　『ミクロ経済学　（第 2 版）』日本評論社　2003 年。
伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社　2007 年。
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』　有斐閣　2013 年。

【成績評価の方法と基準】
授業でのグループワークと発表への積極性： 50 %
宿題： 50 %

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
　学期中の学生の皆さんの理解度や感想をなるべく反映して授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
　資料や宿題はオンラインで配布します。提出もオンラインでして頂きます。詳細は第 1 回の授業で説明します。

【その他の重要事項】
①　ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱを併せて履修することを強く勧めますが、履修していない学生でも、本授業を履修できます。2 年生以降でミクロ経済学の勉強を再チャレンジしたい学生の履修も歓迎します。
②　すべての経済学分野の基礎となる科目です。また、経営学は経済学から発展した学問分野であることから、経営学の基礎となる科目でもあります。
③　指定教科書は、世界で最も知られたミクロ経済学の教科書の 1 つです。また、最近では、オンライン・ソフトウェアの使用も世界的に進んでいます。本講義は、こうしたグローバル・スタンダードに添った内容の授業を展開します。
④　第 1 回の講義で授業概要・年間計画・教科書・ソフトウェアの使い方などについてガイダンスを行いますので、履修希望者は必ず出席してください。

国際経営ワークショップ

選択＜特殊講義＞　　1～4 年次／ 4 単位［春学期授業］

洞口　治夫　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際経営ワークショップでは、法政大学で学んだ経験を持つ実務家と海外の研究者を招いてプレゼンテーションをしてもらい、参加学生による質疑応答や議論を通じてテーマに関する理解を深めることを目的としています。かつて法政大学経営学部において国際経営論を学び、現在、社会で活躍している講師の方々から、会社の紹介、勤務の経験、大学での学びとの関連、海外業務とのつながり、将来の展望などを語って頂きます。また、海外からゲストスピーカーを招き、日本語の解説をつけながら、英語での講義とディスカッションを試みていきます。

【到達目標】
将来、国際的に活躍するビジネスパースンとなるために何を、どう準備していけばよいのか、その心がまえを学生諸君に身に着けてもらうことが、このワークショップの目標です。ゲストスピーカーの講義やその後のセッション（質疑応答・議論）を通じて、現実の経営・経済に対する理解を深め、質問を考えだす能力の育成に努めます。そのうえで、大学で学ぶ経営学の理論と、社会で必要とされる実務との関係を理解し、かつ実務を理論で裏づけて理解できるようになることを目標とします。また、講義内容をノートに正しく書き取ってまとめる作業を行うことで、経営学の学習に必要な取材能力を身につけていきます。ゲストスピーカーによるプレゼンテーションの手法を学ぶことで、自分自身のプレゼンテーション能力を向上させることも本講義の目標です。

【授業の進め方と方法】
講義は、主に実務家を中心としたゲストスピーカーによる講演と、講演の内容を基にしたセッション（質疑応答・議論）から構成されます。ゲストスピーカーの講演を通して、経営戦略、組織デザイン、人材活用に関する理解を深めていきます。ゲストスピーカーの講演を聞きディスカッションを行うとともに、テーマに関するグループあるいは個人での報告を通じて理解を深めていきましょう。ワークショップでは、受講者は単なる聴衆ではなく、積極的なインタビューとディスカッション、報告を行うことが求められます。質問を考えながら講義ではノートをとりましょう。授業は２時限連続の 3 時間授業として行いますが、もちろん 10 分間の途中休憩はあります。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションとネットワーキング	・授業ガイダンス ・スケジュール説明、教科書紹介 ・ミニワークショップ（自己紹介とインタビュー） ・グループセッション ・全体セッション ・ミニ講義「定性的研究の系譜」
第 2 回	アメリカでの輸入業務と市場開発	・【事例】ゲスト講義 ・グループセッション ・全体セッション ・ミニ講義
第 3 回	グローバル化する日本の自動車産業（１）	・【事例】ゲスト講義 ・グループセッション ・全体セッション ・ミニ講義
第 4 回	外資系企業の特徴	・【事例】ゲスト講義 ・グループセッション ・全体セッション ・ミニ講義
第 5 回	起業とコンテンツ・ビジネス	・【事例】３０代起業家によるゲスト講義 ・グループセッション ・全体セッション ・ミニ講義
第 6 回	保険業・不動産業と女性の活力	・【事例】ゲスト講義 ・グループセッション ・全体セッション ・ミニ講義
第 7 回	学生による事例比較の中間報告	・グループセッション ・全体セッション ・ミニ講義
第 8 回	電機産業システムの進化と国際化の課題	・【事例】ゲスト講義 ・グループセッション ・全体セッション ・ミニ講義
第 9 回	日本企業の特徴をどう理解するか	・【事例】アメリカ・ワシントン大学教授によるゲスト講義 ・グループセッション ・全体セッション ・ミニ講義
第 10 回	組織文化の変革	・【事例】ゲスト講義 ・グループセッション ・全体セッション ・ミニ講義
第 11 回	中国ビジネスと組織文化	・【事例】ゲスト講義 ・グループセッション ・全体セッション ・ミニ講義
第 12 回	大学院修士課程での学びと職業の質	・【事例】ゲスト講義 ・グループセッション ・全体セッション ・ミニ講義
第 13 回	ワークスタイルの変革	・【事例】ゲスト講義 ・グループセッション ・全体セッション ・ミニ講義
第 14 回	グローバル化する日本の自動車産業（２）－ドイツでの経験－	・【事例】ゲスト講義 ・グループセッション ・全体セッション ・ミニ講義
第 15 回	結び：変革のマネジメント	・各講演者の論点整理 ・グループセッション ・全体セッション ・まとめ ・グループセッション ・総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・初回の講義で紹介するゲストスピーカーの所属企業の概要について、インターネットを通じて調べましょう。
・毎回の講義の後には、講義内容の要旨や考察などを記載してノートを作成しましょう。
・レポートをもとに中間報告、最終報告のレポートを作成しましょう。
・自身の関心のあるゲストの講義内容を発展させて、さらなる情報を収集し、レポートないしはプレゼンテーションの準備を行いましょう。

【テキスト（教科書）】
①洞口治夫・行本勢基『入門　経営学－はじめて学ぶ人のために－』同友館、2200 円＋税.
②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント－学部ゼミナール編－』白桃書房、3000 円＋税.

【参考書】
坂本光司『日本でいちばん大切にしたい会社』あさ出版、2008 年、1400 円＋税.
その他、各回の講義の際に参考文献の紹介を行います。

【成績評価の方法と基準】
1）授業への参画度：　30　％
（評価基準）出席頻度，議論での積極性，授業への貢献度.
2）中間レポートの提出：　30　％
（評価基準）ゲスト講義についての理解の深さ，考察内容の深さ.
3）最終レポートの提出 (中間レポートの内容改善を含む)：　40　％
（評価基準）提示された意見の妥当性/新規性/進歩性，意見の興味深さ，表現の明快性.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
この授業は今年はじめて開講しますので、前年度の授業改善アンケートはありませんでした。受講生の関心に合わせたゲスト・スピーカの招聘をするように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出のために、授業支援システムを利用することがありますので、ログイン可能な状態になっていることを確認して下さい。パソコン・タブレットなどの情報端末を使って情報収集を行うことが求められます。

【その他の重要事項】
この科目とともに学部の国際経営論を履修することをお勧めします。双方の科目には理論と実務としての関連があります。土曜日の午後に学生諸君のために貴重な時間を割いてプレゼンテーションを行ってくれる先輩に敬意を払い、尊敬の念を質の高い質問で表現してもらいたいと思います。法政大学の卒業生が、多様な意味で優秀であることを理解できると思います。

租税法

選択＜特殊講義＞　　2～4 年次／ 4 単位［年間授業］

菊谷　正人　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
租税の意義・根拠・種類、租税法の意義・範囲および基本原則（租税法律主義、租税公平主義）等の租税法における基本的概念を身に付けた上で、租税実体法として法人税法、所得税法、相続税法、消費税法、地方税法等の基本的必要事項を学習します。さらに、納税猶予・更正・決定等の国税手続、滞納処分等の徴収方法も理解します。

【到達目標】
難解な租税法の条文を理解できるようにします。わが国におけるほぼすべての税目の理解を深めます。

【授業の進め方と方法】
授業は、基本的にテキストを用いて講義します。必要に応じて、判例・新聞記事等のプリントを配布します。なお、毎回小テスト形式による出席カードを取ります。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第１回	租税の意義・根拠・種類	租税の根拠、租税の種類（収得税・消費税・財産税・流通税、・国税・地方税等）
第２回	租税法の意義・範囲	租税法の種類（租税実体法・租税手続法・租税処罰法）
第３回	租税法の基本原則	租税法律主義（課税要件法定主義・課税要件明確主義・手続的保障原則）、課税公平性
第４回	法人税の特色	法人税の性格（法人擬制説・法人実在説）法人税の納税義務者、法人税の申告制度
第５回	法人税の所得金額・税額の計算構造	所得概念、法人税の課税標準、各事業年度の所得の金額、所得の特別控除、税額控除
第６回	主な益金算入項目	通常の販売収益、特殊な販売収益、役務収益、譲渡収益
第７回	主な益金不算入項目	受取配当等（益金不算入の根拠・益金不算入額の計算）、資産評価益、法人税等の還付金等
第８回	主な損金算入項目（１）	棚卸資産の売上原価（取得価額・評価方法等）有価証券の譲渡原価
第９回	主な損金算入項目（２）	固定資産の減価償却費（取得価額・普通償却限度額の計算・租税特別措置法による特別償却）
第１０回	主な損金算入項目（３）	固定資産の圧縮記帳損、繰延資産の償却費、資産評価損、貸倒損失、引当金繰入額・準備金積立額
第１１回	主な損金不算入	交際等、過大役員報酬等、寄附金の損金不算入額
第１２回	法人税額等の計算	所得金額の計算、所得の特別控除、法人税額の計算、税額控除
第１３回	所得税の納税義務者・所得概念・所得の種類	居住者・非居住者、純資産増加説、勤労所得・不労所得・財産所得・資産労働結合所得
第１４回	課税所得の分類	利子所得・配当所得・不動産所得・事業所得・給与所得等
第１５回	所得金額の計算	総合課税・分離課税・源泉分離課税・源泉徴収、損益通算の仕組み
第１６回	所得控除の種類	雑損控除・医療費控除・社会保険料控除・寄付金控除・配偶者控除・扶養控除等
第１７回	所得税額の計算	超過累進税率・特別税率、総所得金額の税額、分離課税の税額、税額控除
第１８回	相続税の課税対象	相続税・贈与税の課税根拠、法定相続人と法定相続分、課税財産
第１９回	相続税法の計算	課税価格の計算、相続税額の総額の計算、税額控除（贈与税額控除、未成年者控除、相次相続控除等）
第２０回	相続財産の評価問題	財産評価の原則、法定評価、財産評価基本通達の共通原則、財産の評価方法
第２１回	消費税の意義と課題	消費税の課税対象、非課税取引、不課税取引、事業者免税点制度
第２２回	簡易課税制度の現状と課題	仕入税額控除の意義、実額控除と概算控除、みなし仕入れ率の問題
第２３回	帳簿方式・税率の課題	帳簿方式とインボイス方式、単一税率と複数税率（標準税率と軽減税率）
第２４回	その他の国税	酒税、たばこ税、印紙税、登録免許税、揮発油税、石油税等
第２５回	地方税（道府県税）	道府県民税、事業税、不動産取得税、道府県たばこ税、ゴルフ場利用税、自動車税等
第２６回	地方税（市町村税）	市町村民税、固定資産税、軽自動車税、鉱産税等
第２７回	国税通則法（１）	納税義務の成立、申告納税方式、賦課課税方式、国税の還付、国税の徴収
第２８回	国税通則法（２）	納税の猶予、延滞税、利子税、加算税、国税の更正決定、不服審査及び訴訟（不服申立前置主義）
第２９回	国税徴収法	滞納処分（財産の調査・財産の差押え・財産の換価、換価代金の配当、換価の猶予）
第３０回	国税徴収法等	国税優先の原則、租税相互間の調整、第二次納税義務、国税犯則取締法、行政不服審査法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わが国の租税法は、「一読して難解、再読して誤解、三読して不可解、四読して曲解、五読しても無理解」に終わる条文が多いと言われるように、複雑・難解であるため、事前に該当条文を読むようにしてください。

【テキスト（教科書）】
菊谷・依田・井上・酒井著『租税法入門』同文舘出版、平成 28 年。

【参考書】
前川・菊谷共編著『租税法全説』同文舘出版、平成 13 年。
菊谷正人『税制革命』税務経理協会、平成 20 年。
菊谷・前川・依田共著『租税法要説』同文舘出版、平成 24 年。

【成績評価の方法と基準】
テスト 80 %、出席 (3 分の 2 以上出席のみ評価対象)10 %、レポート 10%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
初年度開講のため、記載不能。（なるべく、遅刻をしないでください。）

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞会計学、租税法
＜研究テーマ＞国際課税、英国租税制度、国際会計基準（IFRS・IAS）、企業結合会計、連結会計
＜主要研究業績＞
「消費税法における問題点」『経営志林』第 43 巻第 1 号、2006 年。
「会計基準の国際化と課税所得」『税務会計研究』第 20 号、2011 年。
「わが国会計の『質』の点検・評価―わが国会計制度の国際化の観点から―」『會計』第 183 巻第 3 号、2013 年。
「英国税法における減価償却制度の特徴」『経営志林』第 48 巻第 3 号、2011 年。
「英国における中小法人課税の特徴」『租税実務研究』第 1 号、2013 年。
「『番号法』創設に伴う税務処理の課題」『租税実務研究』第 4 号、2015 年。
「特別償却と税額控除の現状と課題」『税研』第 31 巻第 3 号、2015 年。

【関連科目】
税務会計論、民法

連結会計

選択＜特殊講義＞　　2～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

菊谷　正人　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業活動の多角化・国際化により形成された企業集団を単一の経済組織体とみなして、連結財務諸表が作成されています。本講義では、企業会計基準第 22 号「連結財務諸表に関する会計基準」、企業会計基準第 16 号「持分法に関する会計基準」、企業会計基準第 25 号「包括利益の表示に関する会計基準」および「連結キャッシュ・フロー計算書等の作成基準」を中心にして、連結会計の基本的必要事項を学習します。

【到達目標】
最新の連結会計基準に基づいて、上級簿記検定・公認会計士試験等の上級国家試験に合格できる論文作成能力・計算能力の涵養を目指します。

【授業の進め方と方法】
授業は、基本的にテキストを用いて講義します。たとえば、連結の範囲、資本連結、連結会社間の債権・債務の相殺消去、持分法等の理解を深めます。重要な課題については、計算問題（数値例・仕訳例）を解きながら、連結会計システムの理解を深めます。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	連結財務諸表の性格	意義・目的、一般原則、連結主体論
2	連結範囲判定基準等	持株基準・支配力基準の長所・短所
3	支配獲得時の資本連結（１）	資本連結の意義、資本連結の手続
4	支配獲得時の資本連結（２）	子会社の資産・負債の評価等（部分時価評価法・全面時価評価法）
5	支配獲得時の資本連結（３）	のれん・非支配株主持分等の計算
6	支配獲得時の資本連結（４）	段階取得の意義・会計処理
7	支配獲得後の資本連結（１）	子会社株式の追加取得における資本連結の計算等
8	支配獲得後の資本連結（２）	子会社株式の時価発行増資等、子会社株式の一部売却
9	連結会社間取引の消去	債権・債務の相殺消去等の会計処理方法
10	未実現損益の消去（１）	ダウン・ストリーム、アップ・ストリーム等
11	未実現損益の消去（２）	固定資産に含まれる未実現損益等の排除（理由と計算方法）
12	持分法	持分法の具体的手続等（部分時価評価法・持分法による損益）
13	連結会計固有の税効果会計（１）	資本連結の税効果処理（支配獲得時・段階取得時・支配獲得後における資本連結仕訳）
14	連結会計固有の税効果会計（２）	連結会社間取引の税効果処理
15	連結財務諸表の様式	連結貸借対照表・損益計算書・包括利益計算書・キャッシュフロー計算書・株主資本等変動計算書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポートの計算問題を解いて、復習を徹底的に行ってください。

【テキスト（教科書）】
菊谷正人・吉田智也『連結財務諸表要説（改訂版）』同文舘、平成 22 年。

【参考書】
稲垣冨士男『連結財務諸表の基礎』中央経済社、平成 11 年。
杉山　学『連結会計の基礎知識』中央経済社、平成 18 年。

【成績評価の方法と基準】
テスト 80 %、出席 (3 分の 2 以上出席のみ評価対象)10 %、レポート 10%

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
初年度開講のため、記載不能。（なるべく、遅刻をしないでください。）

【備考】
毎回、小テスト形式による出席カードを取り、レポート（計算問題中心）も課します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞会計学、租税法
＜研究テーマ＞国際会計基準（IAS・IFRS）、企業結合会計、連結会計、国際課税、英国租税制度
＜主要研究業績＞
『英国会計基準の研究』同文舘出版、昭和 63 年。
『企業実体維持会計論- ドイツ実体維持学説およびその影響―』同文舘出版、平成 3 年。
Financial Reporting in Japan,Blackwell,1992.
『国際会計の研究』創成社、1994 年。
『多国籍企業会計論』創成社、1997 年。
『国際的会計概念フレームワークの構築』同文舘出版、平成 14 年。
『税制革命』税務経理協会、平成 20 年。
『国際会計の基礎』創成社、2016 年。

【関連科目】
簿記入門、会計学入門、財務会計論、国際会計論

問題解決技法入門

選択＜特殊講義＞　　1～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

三澤　一文　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今、多くの日本企業が問題解決能力に優れたリーダーの不足に頭を悩ましています。ＩＴ化、グローバル化の流れの中で、将来を見越したイノベーションを起こし、世界的な視野をもって決断し、俊敏に実行できるようなリーダー人材が社内で育っていないのです。そんな中でも、トヨタ自動車はリーダー人材を次々に輩出し、業界トップの座を守り続けています。のみならず、トヨタのリーダーたちが身につけた問題解決手法は、他業界にも移植され、成果を挙げています。そんなトヨタが、リーダーたちに何を伝え、どういう経験を積ませてきたのかを知ることは、いまの日本企業にとってとても重要なヒントを与えてくれるはずです。本授業は、トヨタ社内で実際に活用されている問題解決手法を習得し、さらに、それを応用した新しい経営知識を事例学習で身につけることが目的です。

【到達目標】
本授業で採りあげる「問題解決手法」は次の８つのステップから成ります。①問題を明確にする②問題をブレイクダウンする③達成目標を決める④真因を考え抜く⑤対策を立てる⑥対策をやりぬく⑦結果とプロセスを評価する⑧成果を定着させる。この問題解決手法は、すでに日本企業の中で広く普及していて、サービス業、製造業、金融業など業界を問わず、成果を上げています。本授業を受講することで、受講生は、日常の様々な問題を経営の視点でうまく解決することができるようになります。また、将来、リーダーとなる人材が押さえておくべき経営手法も習得することができます。

【授業の進め方と方法】
講義形式を主体としますが、適時、リアクションペーパー（①授業で興味をもった点、②疑問に思った点、③その他の感想や意見、などを記入し、授業後に提出）を活用し、担当教員と受講生との間の効率的、継続的な双方向コミュニケーションを図ります。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	漫画で学ぶトヨタの問題解決手法
2	問題を明確にする	いったい何が問題なのかをはっきりさせる
3	問題をブレイクダウンする	取り組むべき問題はどこにあるのかを決める
4	事例研究	ナイキ　VS. リーボック、アマゾン、シェル石油、など
5	達成目標を決める	挑戦的で具体性のある目標を設定する
6	真因を考え抜く	真の原因を深堀して突き止める
7	対策を立てる	源流までさかのぼって対策を立てる
8	事例研究	トヨタ、シマノ、ＩＤＥＯ、など
9	対策をやりぬく	スピード重視でチーム一丸となって実行する
10	結果とプロセスを評価する	実行の結果とプロセスを振り返る
11	成果を定着させる	成功の仕組みを定着させる
12	事例研究	日本の半導体メーカー　ＶＳ．米国テキサス・インスツルメンツ、イケア、３M、など
13	問題解決手法の応用実例	トヨタでの事例紹介
14	トヨタのリーダー像	仕事の進め方、行動、心がけ、心構え
15	まとめ	講義全体を通じての質疑応答、自由討議、など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
トヨタは日本で最大かつ最強の「ベンチャー企業」です。いまから 80 年以上前に、創業者の豊田喜一郎は、自動織機の工場の片隅にある板張りの囲いの中で、本業とはまったく関係のない小さなガソリンエンジンをこっそりつくり始めました。その「起業家精神」は、かたちを変えていまも受け継がれています。本授業で学習するトヨタで受け継がれる問題解決手法を体得するのは簡単ではありませんが、意識して日々の問題解決に応用する場面を増やすことで、次第に、いかなる問題の解決にも役立つ物事の進め方、すなわち「仕事の型」が身に付きます。

【テキスト（教科書）】
三澤一文『トヨタ式リーダー育成法』日本経済新聞出版社（2014 年）、1400 円＋税

【参考書】
問題解決手法に関する世界の標準的古典の一冊は以下の書籍です。やや、難解ですが、良書ですので、機会あれば、本授業とあわせ、一読をおすすめします。
バーバラ ミント (著), 山崎 康司 (翻訳)『考える技術・書く技術―問題解決力を伸すピラミッド原則』ダイヤモンド社　(1999), 2800 円＋税
また、トヨタの問題解決手法に関するより具体的な紹介書籍は以下が参考になります。
（株）ＯＪＴソリューションズ　『トヨタの問題解決』ＫＡＤＯＫＡＷＡ（2014 年）、1300 円＋税

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーの提出含む）５０点
レポート課題　５０点

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本年度新規科目につき、過去にアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
授業はパワーポイントと板書を併用して行います。また、授業に必要な資料の配布や課題提出等には授業支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】
関連科目は経営学総論Ⅰ/Ⅱです。
毎回の授業中、授業後の質問を歓迎します。

ものづくり経営論

選択＜特殊講義＞　　1～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

三澤　一文　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
トヨタが考える理想の車は、孫悟空の「きんと雲」です。今日のトヨタ自動車を築いた豊田英二氏が、理想の車のイメージとして挙げた「きんと雲」は、ものすごいスピードで目的地に着きながら、環境を汚さない、究極の省エネ、そして安全な理想的な乗り物です。このような一般人の想像を絶する理想をめざすことが、日本の「ものづくり」の社会的使命のひとつです。一方、日々のビジネスの競争は、ますます、厳しくなっています。いずれの業界も、コスト競争、スピード競争は激烈です。とくに、日本企業にとって、かつての欧米企業へのキャッチアップ一辺倒の時代は終わり、新興国からの追い上げに負けないようにしなければいけないのが実情です。
本授業は、「きんと雲」のような「理想主義」と、企業の現場での「現実主義」の間での「ものづくり」の葛藤を適切にマネジメントする考え方と方法を習得することが目的です。

【到達目標】
企業の現場にとって、「価格競争に陥らないような独創的な製品を開発したい」「製品開発のスピードで他社より勝りたい」「コスト競争力をもっと上げたい」「高い品質で顧客に満足してもらいたい」といった現実の要望に応えられる考え方や方法論がたいへん重要です。しかし、無理に「ものづくり」のスピードを上げると品質が落ちてしまったり、また、製品の訴求力にこだわり過ぎるとコスト競争に勝てなくなったりします。現実に「ものづくり」を成功させるには、相反、矛盾するこれら複数の要望のあいだでの微妙なバランスが欠かせません。本授業を受講することで、以上のような、企業のものづくりの現場で実際に起きている典型的な問題とその原因を理解し、さらにそれらの問題の解決方法を習得し、他の様々な問題解決に応用できるようになります。

【授業の進め方と方法】
講義形式を主体としますが、適時、リアクションペーパー（①授業で興味をもった点、②疑問に思った点、③その他の感想や意見、などを記入し、授業後に提出）を活用し、担当教員と受講生との間の効率的、継続的な双方向コミュニケーションを図ります。

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	なぜ、あのグローバル著名企業は「ものづくり」に失敗したのか？
2	なぜ「ものづくり」にマネジメントが必要なのか？	経営環境の変化と今後の経営課題
3	問題解決型「ものづくり」の重要性	独創性、スピード、コスト、品質のバランス追求
4	なぜ企業は不毛な値引き競争に陥るのか？	コモディティ化のわな、事例紹介
5	脱コモディティの戦略	ブラックボックス戦略、ニッチ戦略、などの事例紹介
6	なぜ企業は商品開発に失敗するのか？	スニーカーゲームの負け組企業の事例紹介など
7	ヒットする「ものづくり」の生産性向上手法	商品・技術・製品の三つの開発プロセスの連携管理
8	なぜコストダウンは思うようにできないのか？	従来のコスト感覚が非常識に変わる時
9	コストは改善・改革・革新の三位一体で削減	企業事例紹介
１０	日本企業はこれからも品質競争で勝てるのか？	そもそも品質の考え方や定義が従来と変わった
１１	予期せぬ問題や不具合の発生を防ぐ方法	人間系とＩＴ系の連携、事例紹介
１２	「ものづくり」の二律背反問題とは？	企業事例紹介
１３	二律背反問題の典型的な解決方法	企業事例紹介
１４	トヨタの「ものづくり」の考え方	トヨタの仕事の仕方、Toyota Way
１５	まとめ	講義全体を通じての質疑応答、自由討議、など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
トヨタでは「ものづくり」の根本は「人づくり」にある、と言われています。単なる技術的な「モノづくり」は単発で一過性のヒット商品に終わる可能性が大ですが、トヨタのように、事務系、技術系を問わず、すべての人が共通の心がけと心構えで、日々の問題解決に努めることができるようになれば、その仕事の進め方やスキルは２０２０年、２０３０年、さらにはもっと将来のいかなる業界、業種でも活かされるはずです。本授業でも、「人づくり」の視点から講義をしますが、補完的に、話題の『下町ロケット』『下町ロケット２』を（再）鑑賞、（再）読書することを推奨します（参考書ではありません）。

【テキスト（教科書）】
三澤一文　『技術マネジメント入門』日本経済新聞出版社（2007 年）、830 円＋税

【参考書】
教科書の巻末１８９頁の「より深く理解するためのブックガイド」を参照してください。「ものづくり」に関わる経営論、産業論、組織論、技術革新論、オペレーション論などの分野ごとに合計２２冊の推奨書籍を紹介していますので、この中から自身で興味を引きそうな書籍を１－２冊選んでください。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーの提出含む）５０点
レポート課題　５０点

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
本年度新規科目につき、過去にアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
授業はパワーポイントと板書を併用して行います。また、授業に必要な資料の配布や課題提出等には授業支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】
関連科目は経営学総論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱなどです。
毎回の授業中、授業後の質問を歓迎します。

Skills for SA

選択＜特殊講義＞　　2～4 年次／ 2 単位［春学期授業］

ジェームス・ラセガード　教授

※　クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Intercultural Communication and adjusting to life in a foreign country

【到達目標】
The aim of this course is to help students to prepare for their Study Abroad (SA) studies at the University of Nevada (Reno) and the University of Monash (Australia). Students gain self-confidence using English as a means of communication and learning while studying useful intercultural and social skills that are necessary for a successful study life in a foreign country.

【授業の進め方と方法】
Students participate in a variety of activities emphasizing all four skills of reading, writing, listening, and speaking. These activities include pair and group work and class presentations. The class is highly interactive, and the overall class atmosphere is somewhat informal. The students are expected to speak only in English throughout the course.

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	Course orientation; Unit 1 Identity	Self-introductions. Explanation of course guidelines. Textbook readings and listening activities.
2	Identity Part 2	Discussion: cultural differences. Essay #1 due.
3	Unit 2 Values	Readings, questionnaire and discussion.
4	Unit 3 Culture Shock	Readings and discussion.
5	Unit 1-3 Review Midterm Test	Midterm test & Student Presentations #1.
6	Unit 4: Culture in Language	Readings and discussion of the close relationship between culture and language.
7	Unit 5 Body Language & Customs.	Readings and discussion of non-verbal communication.
8	Unit 5 Body Language and Customs.	Readings and discussion of non-verbal communication.
9	Unit 8 Communication Styles	Readings, listening & discussion.
10	Unit 8 Communications Styles part 2	Readings; discussion activities.
11	Unit 10 Diversity	Readings; listening.
12	Diversity part 2	Readings and discussion. Essay #2 due.
13	Unit 11 Social Change	Readings and Discussion.
14	Social Change part 2	Student presentations #2
15	Unit Review and Final Test	Final test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to come prepared to class each week by doing the readings and homework in advance, looking up unfamiliar vocabulary, writing the assigned essays, etc.
The student should also listen to the audio CD included with the textbook BEFORE class each week. Late work will not be accepted unless there is a good reason (illness, emergency).

【テキスト（教科書）】
Identity. Oxford University Press　ISBN 0-19-438574-4

【参考書】
For self-study of grammar points, please refer to: Raymond Murphy. Grammar in Use Intermediate with Answers 2nd edition). Cambridge University Press.　ISBN-13 978-0521625982

【成績評価の方法と基準】
Students will be assessed on their class participation (15%), homework, presentations, tests and quizzes, writing assignments, etc.(85%).
Any student who misses more than three classes without a reasonable excuse will not receive credit for this class.
Even is the student is absent, homework (including essays) must be turned in to the instructor and tests must be made up before the next class.
The instructor must receive a message by e-mail, a written note, or in person no later than the following week in case of absence.

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
A number simulations and roleplays are added to the curriculum to give students practice dealing with real situations and problem-solving related to the study abroad setting.

【学生が準備すべき機器他】
Audio-visual equipment will be used as appropriate.

【その他の重要事項】
Important note on taking this course:
This course is primarily for students in the Faculty of Business Administration who will participate in the SA program in 2016. However, students who are interested in the subject matter may also join the course with the instructor's permission if fewer than 15 SA students are registered. Students will be selected on the basis of their motivation, interest, and their English ability.
Note: Students' oral communication ability will be assessed both before and after the study abroad.

プログラミング言語Ⅰ（C 言語コース）（2016 年度入学者）　選択<情報関係>　1～4 年次／ 2 単位［春学期授業］
プログラミング言語Ⅱ（C 言語コース）（2016 年度入学者）　選択<情報関係>　1～4 年次／ 2 単位 ［秋学期授業］
プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（C 言語コース）（2015 年度以前入学者）　選択<情報関係>　1～4 年次／ 4 単位 ［年間授業］

飯塚　康至　講師

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
楽しくプログラミングを行いプログラミングスキルを身につけることをテーマとしています。そしてプログラミングを通じて論理的思考を身につけて行きましょう。
春学期はプログラムが動作する仕組みから、変数の基礎、条件分や繰返し文などプログラミングの基礎となる知識を学び、身につける事を目的とします。
秋学期は春学期の知識をもとにアルゴリズムや GUI のプログラムの作成を通じ、グラフィカルなプログラムを作成できるようになることを目的とします。

【到達目標】
下記を授業の到達目標とします。
1. 自発的に楽しくプログラムを作成できるようになる
2. 論理的な思考を身につけプログラム以外にも応用できるようになる

【授業の進め方と方法】
[授業の概要]
1972 年に誕生した C 言語はその自由度の高さから現在までに最も利用されているプログラム言語です。C 言語はその後の言語である C++、Java、C#といった言語に大きな影響を与えました。さらに Perl や PHP といったスクリプト言語は C 言語で作成されています。このような C 言語を学ぶことにより、プログラムとは何か、プログラム言語とは何かを学んでいきます。またアルゴリズムも学びプログラムを組む上での論理的な思考を身につけて行きます。
[授業の方法]
授業の最初に本日の狙いと目指すところを説明します。その後、資料をもとに内容を説明し、プログラムを見ながら理解を深めます。後半は自分でプログラムを組み、実際に動作を確認します。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
(1)	C 言語の特徴	C 言語の特徴と環境について学びます
(2)	変数と画面への表示	変数を利用して画面へ表示する方法について学びます
(3)	簡単な計算	演算子を利用して簡単な計算を行います
(4)	キーボードからの読み込み	キーボードからの入力を読み込む方法について生びます
(5)	条件分岐	条件によって処理を分岐する方法について学びます
(6)	繰り返し	処理を繰り返す方法について学びます
(7)	配列	たくさんの値を扱う方法について学びます
(8)	文字列の扱い	文字列配列を利用した文字列の扱いについて学びます
(9)	ポインタの利用 1	変数や配列のポインタについて学びます
(10)	関数	関数を利用したプログラムの小分けの方法について学びます
(11)	構造体	データをまとめる構造体について学びます
(12)	ポインタの利用 2	関数や構造体のポインタについて学びます
(13)	ファイルの入出力	ファイルへの読み書きについて学びます
(14)	標準関数	用意されている関数の利用方法について学びます
(15)	復習	前期に学んだことを復習します

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
(1)	グラフィカルユーザー・インタフェースアプリケーション（GUI）の基礎	GUI アプリケーションの基本構造について学びます
(2)	スライド・ショーアプリの作成１	画像をスライド・ショーするアプリを作成します
(3)	スライド・ショーアプリの作成２	画像をスライド・ショーするアプリを作成します
(4)	メモ帳の作成１	メモ帳のアプリを作成し入出力のストリームについて理解します
(5)	メモ帳の作成２	メモ帳のアプリを作成し入出力のストリームについて理解します
(6)	メモ帳の作成３	メモ帳のアプリを作成し入出力のストリームについて理解します
(7)	RSS リーダーの作成１	インターネットのデータを読み込んで表示する方法について学びます
(8)	RSS リーダーの作成２	インターネットのデータを読み込んで表示する方法について学びます
(9)	RSS リーダーの作成３	インターネットのデータを読み込んで表示する方法について学びます
(10)	住所録の作成１	住所録を作成しオブジェクトの概念を学びます
(11)	住所録の作成２	住所録を作成しオブジェクトの概念を学びます
(12)	住所録の作成３	住所録を作成しオブジェクトの概念を学びます
(13)	課題作成 1	独自のアプリケーションの作成します
(14)	課題作成 2	独自のアプリケーションの作成します
(15)	復習	後期に学んだことを復習します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた結果は実際にプログラミングし検証しましょう。

【テキスト（教科書）】
1. 初級 C 言語―やさしい C（筧 捷彦 実教出版 ISBN-10: 4407320893）
※授業はテキストがなくても大丈夫なように進めますが書き込みや進行上あったほうが望ましいです。

【参考書】
最新の話題とともに適時授業中にて紹介します。
後期は次の書籍を参考に授業を進めます。
つくって覚える C#入門（オフィス加減 著 アスキー・メディアワークス ISBN-10: 4048701126）

【成績評価の方法と基準】
出席、及び提出された成果物をもとに評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
プログラミングを利用するシステム業界やシステム開発の話も交え、実践的でシステム業界に就職した場合に役に立つような話をしていきます。

【学生が準備すべき機器他】
大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。

【その他の重要事項】
春学期は言語基礎となるため、難しく退屈と感じる場合があります。私語等を含め、授業に参加していないものは退席させる場合があります。コピー＆ペースト等、自己努力していないものは評価しない場合があります。
【関連科目】
情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（b コース）

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける

プログラミング言語Ⅰ（C 言語コース）(2016 年度入学者)　選択<情報関係> 1～4 年次／ 2 単位 ［春学期授業］
プログラミング言語Ⅱ（C 言語コース）(2016 年度入学者)　選択<情報関係> 1～4 年次／ 2 単位 ［秋学期授業］
プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（C 言語コース）(2015 年度以前入学者)　選択<情報関係> 1～4 年次／ 4 単位 ［年間授業］

小川　久夫　講師

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プログラミングそのものの基本を理解する。
Ｃ言語特有なプログラミングについて学習する。

【到達目標】
Ｃ言語の文法、プログラミング手法を学ぶ。
最終的には、Ｃ言語を使ったプログラムを作成できるようにする。

【授業の進め方と方法】
「概要」
はじめＵＮＩＸ用言語として開発され、現在ではパソコンでも最もよく使われており、Ｃ言語を使っていろいろなプログラムやシステムが作成されている（パソコンのＯＳ等もＣ言語で作られている）から発展したＶＣ＋＋を使った C 言語の基礎的な入門コースである。
「方法」
授業時間の前半にその日の要点を説明し、後半で例題を使って実際にプログラミングを行い、例題を使用することにより不明点等を把握し、最後に模範解答を示すことで自己添削し、その日の要点を理解させる。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータとは何か・操作方法	（ハードウェアとソフトウェアとは）・（各機器の取扱い、キーボード操作等）
第 2 回	プログラムとは何か（考え方、流れ）	（考え方、しくみ、構造、流れ等）
第 3 回	変数　①	（整数型変数の定義・演算・表示）
第 4 回	変数　②	（実数型変数の定義・演算・表示）
第 5 回	変数　③	（文字型変数の定義・表示）
第 6 回	条件判断　①	（if 文の定義と使用法）
第 7 回	条件判断　②	（switch 文の定義と使用法）
第 8 回	繰り返し　①	（while 文の定義と使用法）
第 9 回	繰り返し　②	（for 文の定義と使用法）
第 10 回	無条件分岐	（goto 文の定義と使用法）
第 11 回	プリプロセッサ	（#define 文・#include 文の定義と使用法）
第 12 回	変数　④	（配列の定義と使用法）
第 13 回	変数　⑤	（ポインタの定義と使用法）
第 14 回	変数　⑥	（構造体・共用体の定義と使用法）
第 15 回	関数　①	（関数とは）

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	関数　②	（いろいろな関数の使い方）
第 17 回	変数　⑦	（外部変数・静的変数の定義と使用法）
第 18 回	ファイル処理　①	（ファイルの入力）
第 19 回	ファイル処理　②	（ファイルの出力（新規・追加））
第 20 回	ファイル処理　③	（ファイル操作（ランダムアクセス））
第 21 回	ファイル処理　④	（ファイルの更新）
第 22 回	総合演習　①	（例題による実際のプログラミング）
第 23 回	総合演習　②	（同上）
第 24 回	総合演習　③	（同上）
第 25 回	総合演習　④	（同上）
第 26 回	総合演習　⑤	（同上）
第 27 回	総合演習　⑥	（同上）
第 28 回	総合演習　⑦	（同上）
第 29 回	総合演習　⑧	（同上）
第 30 回	ビジュアルプログラミング	（ビジュアルプログラミングの解説）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキスト等で関連内容を把握する。
把握できなかった箇所は、質問できるように準備する。
不明な点は、なるべく授業中または講義終了後に質問する。

【テキスト（教科書）】
「実習　ＶｉｓｕａｌＣ＋＋．ＮＥＴ」
サイエンス社
児玉靖司・小川久夫・入戸野健　共著

【参考書】
市販のＣ言語入門書
授業支援システムの教材
Ｗｅｂ上のＣ言語関連の情報

【成績評価の方法と基準】
春学期の授業中（７月）に課題を出す。
秋学期の授業中（１２月）に筆記試験を行う。
課題、試験結果及び出席状況により総合的に評価する。
評価配分は、課題：２５％、出席：２５％、筆記試験：５０％とする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
授業支援システム等を活用し、よりわかりやすくする。
例題を多用し、より平易な説明に努める。
実際の C 言語を使用したシステムの開発事例を紹介する。

【その他の重要事項】
「すべてに関連する科目」

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

プログラミング言語Ⅰ（COBOL コース）（2016 年度入学者）　選択<情報関係>1～4 年次／ 2 単位［春学期授業］
プログラミング言語Ⅱ（COBOL コース）（2016 年度入学者）　選択<情報関係>1～4 年次／ 2 単位［秋学期授業］
プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（COBOL コース）（2015 年度以前入学者）　選択<情報関係>1～4 年次／ 4 単位［年間授業］

根岸　良征　講師

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
COBOL は最も古くから利用されている事務処理用プログラミング言語である。1960 年代以降，企業経営を支える基幹業務システムを開発するために使われており，現在でも IT 社会の根幹を支えるシステムの多くで COBOL のプログラムが動いている。この授業では，COBOL の基礎機能をとりあげ，COBOL を利用したプログラミング技能を習得しつつ，コンピュータでの事務処理の考え方を理解できるようにする。さらに，企業経営と IT の関わりについても考察する。

【到達目標】
Windows でのプログラミング実習環境に慣れることから始め，COBOL 文法の基礎を理解する。プログラミング演習を通して，データ型や基本的なファイル入出力処理，データ構造，アルゴリズムの実現方法を理解し，簡単なプログラムを自由に作成できること，および基本情報技術者試験 (国家試験，経産省) の COBOL 問題に向けての学習の導入をスムーズにできるレベルを目指す。

【授業の進め方と方法】
配布する資料を用いて授業を進める。解説と演習を適宜おりまぜながら，個別の理解度に応じて進めていく。毎回の授業中に，演習課題を完成させるようにする。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	講義概要	COBOL 言語について 授業内容と授業方法について プログラム、プログラミング言語とは？
2	COBOL の基礎知識	エディタ、Cygwin、OpenCOBOL の使い方 基本的な COBOL 文法 簡単な COBOL プログラム作成
3	データ項目の定義	COBOL で扱えるデータの種類と定義方法 作業域を使用したプログラムの作成
4	数値データと計算１	四則演算プログラムの作成
5	数値データと計算２	計算式を含むプログラムの作成
6	データの転記 データ交換	転記のされ方と編集項目の指定方法 データ交換プログラムの作成
7	条件による処理の制御１	IF 文と条件式 IF のネストを使用したプログラムの作成
8	条件による処理の制御２	EVALUATE 文を使用した多重分岐プログラムの作成
9	処理の繰返し１	指定回数だけ処理を繰り返すプログラムの作成
10	処理の繰返し２	条件により処理の実行制御プログラムの作成
11	表操作１	表の定義と添え字 データの再定義 表を参照するプログラムの作成
12	表操作２	指標付票の定義と利用 逐次表引きプログラムの作成
13	復習	まとめと復習問題
14	春学期試験	課題プログラムの作成
15	課題提出と秋学期への展望	課題の提出

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	ファイル操作１	ファイルの定義と使用方法 ファイル作成プログラムの作成
17	ファイル操作２	データ項目の修飾とデータ転記 ファイル読込みプログラムの作成
18	ファイル操作３	ファイルの読込みと書出しプログラムの作成
19	ソート１	ソートファイルの使用方法
20	ソート２	ソートを利用したプログラムの作成
21	コントロールブレイク１	グループコントロールの考え方 コントロールブレイクプログラムの作成１
22	コントロールブレイク２	コントロールブレイクプログラムの作成２
23	コントロールブレイク３	ソートと組み合わせたコントロールブレイクプログラムの作成
24	マッチング１	マッチング処理の基礎 1 対 0、1 対 1 マッチング処理プログラムの作成１
25	マッチング２	1 対 0、1 対 1 マッチング処理プログラムの作成２
26	マッチング３	1 対 n マッチング処理プログラムの作成１
27	マッチング４	1 対 n マッチング処理プログラムの作成２
28	復習	まとめと復習問題
29	秋学期試験	ファイルを使用した課題プログラムの作成
30	総復習	まとめの筆記問題 課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
時間内に課題を完成できなかったときは，次回授業時までに完成するように努力してほしい。また欠席した場合は，次回授業時までに必要な作業について問い合わせてほしい。

【テキスト（教科書）】
授業で配布するプリントを使用

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
出席率（35 %）と提出された課題（40 %），および試験・最終課題レポート（25 %）により総合的に判断する。課題の提出については期限までに提出されたかも考慮する。連絡なくしての連続欠席 4 回以上の場合、また全授業回数の 1/3 以上の欠席（公欠を除く）の場合には単位を認定しない。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
プログラミングは難しいと感じる学生が多いので「達成感があって面白い」と感じてもらえるような授業にしたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室内の PC

【その他の重要事項】
基本的なコンピュータリテラシーを身につけていることが望ましい。プログラムを作成してみたいという意欲がある人，論理的に考えることが楽しい人を特に歓迎する。毎回の授業で作成したプログラムを理解するように努め，わからなかったことは積極的に質問し，疑問点を解決するようにしてほしい。授業はステップバイステップで進めるので，欠席はしないようにすること。

【オフィス・アワー】
質問がある場合は授業後に受け付けます

【関連科目】
情報科学実習Ⅰ・Ⅱ

プログラミング言語Ⅰ（BASIC コース）（2016 年度入学者）　選択<情報関係>1～4 年次／ 2 単位 ［春学期授業］
プログラミング言語Ⅱ（BASIC コース）（2016 年度入学者）　選択<情報関係>1～4 年次／ 2 単位 ［秋学期授業］
プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（BASIC コース）（2015 年度以前入学者）　選択<情報関係>1～4 年次／ 4 単位 ［年間授業］

島野　孝史　講師

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、Windows アプリケーションを簡単に作ることができるプログラミング言語のひとつである、Visual Basic 2013（ VB2013 ）を用いて、プログラムの作り方を学習する。

【到達目標】
　最終的には、各自が、問題に応じた “自分独自のプログラム” を作ることができるようになることを目標としている。

【授業の進め方と方法】
　初歩的な例題から始めて、VB2013 の文法を習得し、データの検索、データの並べ替え、図形の表示などのより高度なプログラムの作り方を、パソコンを使った実習を通じて学んでいく。

【授業計画】

Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	授業の進め方について（使用する教科書、成績の評価方法など）、ハードウェアとソフトウェアの使い方の概要
第２回	コンピュータの基礎知識	ハードウェアの操作方法、コンピュータの五大機能、記憶容量の単位（ビットとバイト）
第３回	日本語文字の入力方法（１）	MS-IME（Microsoft Input Method Editor）を使った日本語文字の入力（１）
第４回	日本語文字の入力方法（２）	MS-IME を使った日本語文字の入力（２）
第５回	VB2013 の基本操作（１）	プログラムを作る手順、流れ図、ファイルとフォルダ（ファイル名の付け方、ツリー構造など）、VB2013 の基本操作（フォームの作成、プログラムコードの入力、実行、保存など）
第６回	VB2013 の基本操作（２）	VB2013 の基本操作（復習）、簡単な例題（文字の表示）など
第７回	定数と変数（１）	定数と変数、変数名の付け方、定数と変数のデータ型、変数の型宣言（Dim 文）、式と演算子、代入文、変数を使った例題（データの入力と出力）
第８回	定数と変数（２）	前回の復習、コード記述の基本（行の継続、マルチステートメント、コメント文）、変数を使った例題など
第９回	数値処理関数	主な数値処理関数、数値処理関数を使った例題、三角関数を使った例題など
第１０回	Format 関数と書式	Format 関数、ユーザー定義書式（書式制御文字）、Format 関数を使った例題
第１１回	条件判断による分岐（１）	GoTo 文、従来型 If 文、条件式の書き方（関係演算子、論理演算子）、従来型 If 文を使った例題
第１２回	条件判断による分岐（２）	ブロック If 文（二者択一型）、ブロック If 文（複数条件型）、ブロック If 文を使った例題
第１３回	条件判断による分岐（３）	Select Case 文、Select Case 文を使った例題、コードの印刷方法、フォームの印刷方法
第１４回	春学期試験	春学期試験問題を二題出題する。
第１５回	春学期予備日	春学期予備日

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
第１６回	春学期試験の解答例	春学期の授業内容の復習を兼ねて春学期試験問題の解答例について説明する。
第１７回	選択コントロールによる分岐	RadioButton、CheckBox、GroupBox、RadioButton を使った例題、CheckBox を使った例題、変数の適用範囲など
第１８回	回数指定による繰り返し	For ～ Next 文、For ～ Next 文の例、多重ループ、For ～ Next 文を使った例題
第１９回	条件指定による繰り返し	Do ～ Loop 文、Do ～ Loop 文の流れ図、Do ～ Loop 文を使った例題
第２０回	配列を用いた処理（１）	配列とは、配列の次元、配列要素、配列の宣言（Dim 文）、配列を使った例題
第２１回	配列を用いた処理（２）	配列の初期設定、配列を使った例題（データの並べ替えなど）
第２２回	文字列の処理	文字列型データ、Unicode、ASCII コード、文字列の結合、文字列の大小関係、文字列関数など、文字列関数を使った例題
第２３回	プログラムの分割と構造化（１）	プログラムの分割（Sub プロシージャ、Function プロシージャ）、プログラムの構造化
第２４回	プログラムの分割と構造化（２）	Sub プロシージャを使った例題、Function プロシージャを使った例題
第２５回	グラフィックス（１）	グラフィックスオブジェクトの定義、主なグラフィックスメソッド（直線を描く、長方形を描く、楕円を描くなど）、色の指定、ペンの定義、ブラシの定義など
第２６回	グラフィックス（２）	グラフィックスを使った例題（１）
第２７回	グラフィックス（３）	グラフィックスを使った例題（２）、円グラフの表示など
第２８回	秋学期課題（１）	秋学期課題を出題、秋学期課題の説明
第２９回	秋学期課題（２）	秋学期課題の解答（コード、実行結果）を各自印刷し提出する。
第３０回	秋学期予備日	秋学期予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　特になし。

【テキスト（教科書）】
　教科書は開講時に指示する。

【参考書】
　参考書は必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　“平常点”（50 ％）と、“授業中に出題する課題、春学期試験および秋学期課題の結果”（50 ％）から成績を評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
　春学期の授業内容に比べ、秋学期の内容がやや難しいという指摘があったので、秋学期では、文法や例題の説明を工夫し、より理解しやすい授業をこころがけたい。

【オフィス・アワー】
　授業終了後に質問を受け付ける。

【関連科目】
応用プログラミングⅠ・Ⅱ［計量分析コース］

プログラミング言語Ⅰ（JAVA コース）（2016 年度入学者）　選択<情報関係>　1～4 年次／ 2 単位　［春学期授業］
プログラミング言語Ⅱ（JAVA コース）（2016 年度入学者）　選択<情報関係>　1～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業］
プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（JAVA コース）（2015 年度以前入学者）　選択<情報関係>　1～4 年次／ 4 単位　［年間授業］

神林　靖　講師

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プログラミングに取り組むのが初めてという人を対象にして，Java 言語を使ったプログラミングを初歩から並行プログラムまで丁寧に学習します。

【到達目標】
例題や練習問題で基本的な Java 言語の機能を理解し，それらを組み合わせて多少複雑なプログラムを作成することができる。そして “オブジェクト指向” とは何かについても理解し，説明することができる。オブジェクト指向プログラムを作成できる。更に並行処理プログラムの概念を理解し，マルチスレッドを用いた単純なプログラムを作成することができる。プログラムからファイルを扱うことができる。

【授業の進め方と方法】
（講義の概要）
オブジェクト指向という概念にもとづいたプログラミング言語 Java について，簡単な例題を理解して練習問題のプログラムを作成することによって，Java の基礎について学習します。後半では，現代のプログラミングでは避けることのできない “オブジェクト指向” につても学びます。
本講義を受講するには，一般的なコンピュータの知識があれば十分で，プログラミングに関しての予備知識は必要としません。
（授業方法）
授業は，実習室において講義と実習を行います。教科書の例題や基本的なプログラム例を説明した後，それを応用した練習問題について考え，実際にプログラミングを行うことによってコンピュータ上で動作を確認します。
春学期で Java プログラミングに慣れて，秋学期はオブジェクト指向を用いた Java 言語らしいプログラミングを中心に学びます。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	Java プログラムとコンピュータの関係	コンピュータシステムを構成するハードウェアとソフトウェアの関係を学びましょう。
2	コンパイルと実行	人間が記述する文字列としてのプログラムをハードウェアが理解するプログラムへと変換することを学びます。併せてプログラミング環境の使い方も学びます。
3	計算してみよう	コンピュータは “電子計算機” です。コンピュータに計算をさせてみましょう。
4	変数と代入	プログラムにおける変数と，それへの値の設定について学びます。
5	入出力（1）	記述するプログラムが，どのようにして外部と情報のやり取りをするかについて学びます。
6	四則演算と型変換	プログラム上で四則演算ができるようにします。また整数と実数ではコンピュータ内部でのデータ表現が異なることを学びます。
7	プログラム構造（条件の表現）	プログラムで作業を行う際に必要となる制御（プログラムの流れ）を変化させる条件の表現方法を学びます。
8	プログラム構造（もっと細かい条件の表現）	多くの選択肢の中から 1 つを選んで実行するプログラムの構造について学びます。
9	プログラム構造（繰返し）	コンピュータに一定の作業を繰り返し行わせるためのプログラム制御構造を学びます。
10	文字列と繰り返し	文字列を用いて繰り返しの構造について理解を深めます。
11	クラスとメソッド（ちょっとだけオブジェクト指向）	Java 言語の基本概念であるクラスとメソッドについて学びます。
12	1 次元配列	多くのデータを保存し利用するための配列と呼ばれる構造を使えるようになりましょう。
13	2 次元配列	行列のようなデータ表現をプログラムでどのように実現するかを学びます。
14	クラスとコンストラクタ（もうちょっとだけオブジェクト指向）	Java プログラムでは，クラスを実体化することでプログラムが生成されます。実体化のためにコンストラクタと呼ばれるメソッドが実行されることを学びます。
15	Java クラスライブラリ（更にもうちょっとだけオブジェクト指向）	Java プログラミング言語には様々な関数がクラスライブラリとして備わっています。どのように構成されているか，そしてどのように利用するかを学びます。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	これまでの復習	後半は，オブジェクト指向プログラミングについて学びます。春学期に学んだことを思い出しましょう。
17	クラスとインスタンス	オブジェクト指向プログラミング特有の用語があります。慣れましょう。インスタンスはクラスから精製されます。
18	クラスフィールドとクラスメソッド	クラスフィールドとクラスメソッドを学ぶことで，クラスとインスタンスの違いをはっきりさせます。
19	スーパークラスとサブクラス	クラスは “拡張” することができます。拡張されたクラスがサブクラスです。
20	継承と抽象クラス	拡張するクラス（サブクラス）では，元のクラス（スーパークラス）のフィールドとメソッドが使えます。継承の方法を学びます。
21	入出力と例外処理	プログラムが外部と自由度の高い情報のやり取りを行う方法を学びます。また期待したデータと異なる入力に対処する方法（例外処理）を学びます。
22	様々な例外処理	例外には様々なものがあります。例外の “階層” を学び，全体像を理解しましょう。
23	インタフェース	インタフェースを実装することで，クラス構造に柔軟性をもたせることができます。インタフェースとは何かを学びます。
24	クラスとインタフェース	クラスとインタフェースを比較することによって，それぞれをどのような場面で使用することが効率的かを学びます。
25	ガベージコレクション	Java 言語の処理系には，“ゴミ集め” が実装されています。ガベージコレクションについて学びます。
26	スレッド	スレッドとは，プログラムを実行している主体です。スレッドの概念を学びます。
27	スレッドを作る方法 (1)	スレッドを作る方法には 2 通りあります。Thread クラスを拡張してスレッドを生成してみましょう。
28	スレッドを作る方法 (2)	Runnable インタフェースを実装してスレッドを生成してみましょう。
29	ファイル操作と入出力	Java プログラムからファイルを生成したり，ファイルからデータを読み込む方法を学びます。
30	まとめ	これまで学んできたことをまとめます。Java プログラミングは奥が深いです。学んでいないこともあります。新たな学びの出発点としましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習は確実に各自が時間外に行ってください授業では，毎時間新しいことを学びます。出席は厳格に要求しませんが，休んだ箇所は，各自で独習しておいてください。

【テキスト（教科書）】
結城浩，Java 言語プログラミングレッスン第 3 版　上，下，ソフトバンククリエイティブ，2012.

【参考書】
柴田望洋，明解 Java 入門編，ソフトバンククリエイティブ，2007.

【成績評価の方法と基準】
主として課題提出により評価します。課題はすべて提出してください。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
積極的に質問してください。わからないことをわからないままにして先に進まないでください。ただし，具体的にどこがわからないかを指摘してください。

【学生が準備すべき機器他】
PC を用いて実習しつつ講義を行います。

【その他の重要事項】
コンピュータリテラシーを身につけていることが望ましい。無償で入手できる統合開発環境 Eclipse を用いて実習するので，自宅学習（予習・復習）可能です。学習内容を復習して，より理解を深めてください。授業中にできなかった課題は，完成しておいてください。

【オフィス・アワー】
・授業後に質問を受け付ける。
・質問がある場合は E-mail で受け付ける。
メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

【関連科目】
特になし

プログラミング言語Ⅰ（JAVA コース）(2016 年度入学者)　選択<情報関係> 1～4 年次／ 2 単位 ［春学期授業］
プログラミング言語Ⅱ（JAVA コース）(2016 年度入学者)　選択<情報関係> 1～4 年次／ 2 単位 ［秋学期授業］
プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（JAVA コース）(2015 年度以前入学者)　選択<情報関係> 1～4 年次／ 4 単位 ［年間授業］

北澤　具子　講師

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Java 言語によるプログラミングに取り組むのが初めてという人を対象にして，初歩から丁寧に学習する。いくつかのテーマを設け，テーマに沿った簡単なシステムを設計してプログラムを自作し，正常に動作させる。これによって，Java 言語によるプログラミング能力を身につける。

【到達目標】
次のように段階的に目標を達成する。
(1) 例題や練習問題で基本的な Java 言語の機能と文法を理解する。
(2) 比較的簡単なプログラムを作成する。
(3)Java 言語の機能を組み合わせて多少複雑なプログラムを作成する応用力を身につける。また，その過程でオブジェクト指向とは何かについても理解する。
(4) 簡単な情報システムを設計して作成する。

【授業の進め方と方法】
授業は，実習室において講義と実習を行う。
講義にて，教科書の例題や基本的なプログラム例を理解した後，それを応用した練習問題のプログラムを作成する。実際に PC を使用してプログラミングを行い，動作を確認する。この学習によって Java の基礎を身につける。
併せて，代表的なアルゴリズムや，情報システムの設計方法についても学習する。なお，受講にあたっては，一般的なコンピュータの知識を必要であるが，プログラミングに関しての予備知識は必要としない。

【授業計画】
Ⅰ　春学期

回	テーマ	内容
1	Java プログラムとコンピュータの関係	コンピュータシステムを構成するハードウェアとソフトウェアの関係を学ぶ。
2	コンパイルと実行	人間が記述する文字列としてのプログラム（ソースプログラム）とハードウェアが理解するプログラム（オブジェクトプログラム）の関係と，前者から後者への変換・翻訳について学ぶ。併せてプログラミング環境の使い方も学ぶ。
3	変数と代入	プログラムにおける変数と記憶領域の関係，そして記憶領域への値の設定について学ぶ。
4	四則演算と型変換	プログラム上で四則演算ができるようにする。また整数と実数ではコンピュータ内部でのデータ表現が異なることを学ぶ。
5	プログラム構造（条件分岐 1）	プログラムで作業を行う際に必要となる制御（プログラムの流れ) を変化させる条件の表現方法を学ぶ。
6	プログラム構造（条件分岐 2）	多くの選択肢の中から 1 つを選んで実行するプログラムの構造について学ぶ。
7	プログラム構造（繰返し 1）	コンピュータに一定の作業を繰り返し行わせるためのプログラム制御構造を学ぶ。
8	プログラム構造（繰返し 2）	同上
9	文字列と繰り返し	文字列を用いて繰り返しの構造について理解を深める。
10	小テスト	ここまでの理解度チェックのための小テストを行う。
11	配列 1	多くのデータを保存し利用するための配列と呼ばれる構造を使えるようになる。
12	配列 2	配列を使ったアルゴリズムを学ぶ。
13	小テスト	繰り返しと配列についての理解度チェックのための小テストを行う。
14	クラスとメソッド	Java 言語の基本概念であるクラスとメソッドについて学ぶ。
15	クラスとコンストラクタ	コンストラクタについて学ぶ。

Ⅱ　秋学期

回	テーマ	内容
16	これまでの復習	後半は，オブジェクト指向プログラミングについて学ぶ。まず，春学期に学んだことを思い出す。
17	クラスとインスタンス	オブジェクト指向プログラミング特有の仕組みを学ぶ。
18	クラスフィールドとクラスメソッド	クラスフィールドとクラスメソッドを学ぶことで，クラスとインスタンスの違いをはっきりさせる。
19	スーパークラスとサブクラス	クラスは “拡張” することができる。拡張したクラス（サブクラス）について学ぶ。
20	標準入出力と例外処理	標準入出力の方法について学ぶ。これによって，プログラムと外部との自由度の高い情報のやり取りを行うことができる。また，その際，必要となる例外処理についても学ぶ。
21	ファイル出力	ファイルへのデータ出力について学ぶ。
22	ファイル入力	ファイルからのデータ入力について学ぶ。
23	小テスト	クラスと入出力についての理解度チェックのための小テストを行う。
24	GUI	GUI を使用したウィンドウプログラムの作り方を学ぶ。
25	課題 1	ファイル出力するウィンドウプログラムを作成する。
26	課題 2	課題 1 で作成したファイルからデータを入力して表示するウィンドウプログラムを作成する。
27	課題 3	課題 1 で作成したファイルからデータを入力して，指定した条件に一致するデータを表示するウィンドウプログラムを作成する。
28	課題 4	整列，探索などのアルゴリズムを理解し，応用プログラムを作成する。
29	課題 4 続き	同上
30	まとめ	これまで学んできたことをまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習は確実に行うこと。
授業では，毎時間新しいことを学ぶ。前回十分に理解できなかった点はあいまいにせず，講師に質問したり，独習したりして，解決しておく。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %，小テスト 30 %，課題提出 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
わからないことをそのままにせず，積極的に質問してください。その際，具体的にどこがわからないかを指摘してください。

【学生が準備すべき機器他】
PC 教室で PC を使って実習しながらの学習を行う。

【その他の重要事項】
コンピュータリテラシーを身につけていることが望ましい。
また，無償で入手できる統合開発環境 Eclipse を用いて実習するので，自宅に PC があれば，予習・復習で，より理解を深めたり，授業中にできなかった課題を完成させることができる。
【関連科目】
「情報科学実習Ⅰ・Ⅱ」などで基礎的学習を終えている，または，同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

応用プログラミングⅠ・Ⅱ（計量分析コース）　選択＜情報関係＞　　3～4 年次／ 4 単位［年間授業］

林　直嗣　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな経済・社会現象の統計的データを科学的に分析して理解を深める力を付けることを目標とする。この授業では、統計学や計量経済学の基礎理論を理解した上で、計量分析ソフトを用いて、統計的な実証分析ができるように、初歩から易しく教える。また各自が自由にテーマを決めて計量分析を行い、レポートを書く自由研究も行う。これらにより実社会に出てから即戦力となる統計分析力を養うトレーニングをする。

【到達目標】
第 1 の到達目標は、経済・社会現象を統計的に分析する統計学の基礎を理解することである。第 2 の到達目標は、統計データを使って FORTRAN に基づく TSP の文法と計量分析のやり方を習得することである。第 3 の到達目標は、習得した分析ツールを用いて自分が興味あるテーマの統計分析を自由研究として実施できることである。

【授業の進め方と方法】
経営学部生なら、売上高の予測をどのように行うか、消費者の需要をどうやって測定するか、景気動向や経済成長の要因はどう分析するか、学生の就職状況は何により影響されるかなど。
文学部生なら、都市化や核家族化の進展をどのような要因で説明できるか、天気はどのような要因で影響を受けるか、行動パターンと心理的要因との関係はどうかなど。
法学部生なら、刑事犯罪の増加はどのように説明できるか、青少年犯罪の凶悪化にどのような要因が影響しているか、選挙結果に景気動向が影響しているかなど。
理論だけでは分からないこうした現実の問題を分析するのが、統計的な計量分析である。この授業では、統計学と計量経済学の基礎理論を勉強し、計量分析ソフトの TSP（Time Series Processor）を用いて、統計的な実証分析の方法を初歩から学習する。
授業は情報実習室で行う。授業の方法は、講義とコンピューター実習とをセットで交互に行う。また各種資料やデータをファイルサーバーの共用データベースから取得したり、インターネット上の関連サイトから検索・取得する方法を教える。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第１回	情報処理とコンピューター	情報と情報処理、コンピューターの歴史、システム構成などの入門的な説明。
第２回	コンピューターの基本原理と仕組み	コンピューターの基本原理、２進法、16 進表現などコンピューターの基本理論を解説。
第３回	コンピューターの利用技術	コンピューターの利用技術、ハードウェアとソフトウェア、言語、パッケージ言語、操作法などについて説明。
第４回	英文処理・日本語処理とワープロの基本操作	プログラミングにおける英文処理、日本語処理について、ワープロ操作を勉強しながら説明。
第５回	ネットワーク・メールの基本操作	インターネットを利用してネット上のデータベースにアクセスしたり、データ転送する仕組みを勉強。
第６回	データの入出力と処理	スカラー、ベクトル、行列などによるデータの取り扱い法を解説。
第７回	演算と組み込み関数	データを使って四則演算、組み込み関数による演算をどう行うか、説明。
第８回	代入文の使い方とデータ変換の方法	代入文を使ってデータの変換法・作成法を説明。
第９回	飛び越し（GOTO 文）制御の仕方	無条件制御の飛び越し文を使ってプログラミングの基礎を勉強。
第 10 回	分岐（IF 文）制御の仕方	条件制御の分岐文を使い、進んだプログラムを作る。
第 11 回	繰り返し（DO 文）制御の仕方	反復制御の繰り返し文を使って、進んだプログラムを作る。
第 12 回	データセットの繰り返し制御と外部記憶装置によるデータ入出力	データセットの繰り返し制御、外部記憶装置を用いたデータの入出力方法を勉強。
第 13 回	記述統計量のプログラム	総和、平均、分散、標準偏差のプログラムを作成。
第 14 回	最小自乗法のプログラム	最小自乗法のプログラムを作成。
第 15 回	前期のまとめ	前期のまとめをする。
第 16 回	記述統計量の簡易プログラム	総和、平均、分散、標準偏差をパッケージ・プログラムＴＳＰを用いて計算。
第 17 回	最小自乗法の簡易プログラム	最小自乗法の計測をパッケージ・プログラムＴＳＰを用いて行う。
第 18 回	ＴＳＰプログラムによる図形処理	ＴＳＰによる図形処理を学ぶ。
第 19 回	外部データベースとエクセルによるグラフ処理	官庁など外部データベースからデータを収集し、エクセルに取り込んで作図。
第 20 回	外部データのＴＳＰへの取り込み	外部データをＴＳＰに取り込んで計量分析を行う。
第 21 回	時系列データの季節調整	移動平均法などを使って、時系列データの季節調整を行う。
第 22 回	主成分分析	主要な変動要因を主成分分析により検出。
第 23 回	回帰分析の有意性と仮説検定（ｔ検定）	回帰分析の係数推定値の有意性を、ｔ検定によりテスト。
第 24 回	構造変化検定（Ｆ検定）	構造パラメーターに構造変化があるかどうか、Chow の F 検定でテスト。
第 25 回	構造変化検定（長期時系列データ）	長期の時系列データの構造変化を検出し、分割期間毎の安定性をテスト。
第 26 回	系列相関と一般化最小自乗法	残差に系列相関がある場合、一般化最小自乗法により歪みを是正。
第 27 回	間接最小自乗法	説明変数が内生変数である場合、間接最小自乗法により歪みを是正。
第 28 回	将来の予測－シミュレーション	将来の予測値を Box-Jenkins 法などによりシミュレーション。
第 29 回	自由研究プログラムの作成とその指導	各自が研究課題を自由に選び、データ収集、プログラムの作成と実行を行う研究を指導。
第 30 回	後期のまとめ	後期のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、プログラムを書いてみよう。何が理解できて何がわからないか、はっきりするので、授業に臨む態度やモチベーションが高まり、授業の理解を効果的に高めることができる。大学設置基準では、予習 1 時間、授業 1 時間、復習 1 時間を 15 週やって 1 単位とされているので、できるだけ頑張って主体的に学修しましょう。

【テキスト（教科書）】
縄田　和満著『TSP による計量経済分析入門』朝倉書店
プリント教材

【参考書】
伴・和合共著『TSP による経済データの分析』東大出版会

【成績評価の方法と基準】
日常の出席、実行課題の提出、自由研究レポート、試験などの総合点を出して、問題の難易度や当該クラスのでき具合などをすべて調整した上で、全員の得点分布を算出し、その得点分布に基づく合理的で歪みのない相対評価により成績をつける。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
学生諸君の意見をできるだけ反映させる。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室では板書を利用するとともに、CAI（Computer Aided Instructions:コンピューター授業支援システム）を利用して教材、プログラム、その実行結果などを各自のモニターに配信する。またファイルサーバーや各種サイトにアクセスして資料やデータを取得する。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱ、計量経営分析Ⅰ／Ⅱ　など

応用プログラミングⅠ・Ⅱ（統計コース）　選択＜情報関係＞　3〜4 年次／ 4 単位［年間授業］

中平　千彦　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、経営学部、文学部、法学部の学生を対象としています。(それ以外の学部生および大学院生でも受講できる場合がありますので、希望者は担当教員に相談してください。) また、講義内容と進行については、受講生と相談の上、柔軟に調整することもあります。要望がある場合は、申し出てください。
受講生のみなさんは、統計学やデータ分析について、どのような印象を持っているでしょうか？ 統計学は人文科学、社会科学、自然科学の幅広い分野に応用されている、データ分析の科学です。この講義を履修して、統計学とデータ分析の基礎を学び、また、Excel と R によるデータ分析とプログラミングの基礎を習得し、自ら統計解析を行うことができるようになりましょう。

【到達目標】
この講義では、統計学、プログラミングの基礎を、以下のような目標が到達できるように心がけて学んでください。
・統計学の基礎理論を理解し、それをデータ分析に応用できるようになる。
・経済学、経営学を含む社会科学における各種のデータを用い、自らデータ分析ができるようになる。
・Excel をデータ分析に適用できるようになる。
・R による基本的なプログラミングを習得し、データ分析ができるようになる。

【授業の進め方と方法】
本講義では、まず、統計学の基礎を学びます。次に、その知識を応用し、Excel によるデータ分析を行います。さらに、R の基本的なプログラミングを理解し、それを応用したデータ分析を行います。Excel については、単にそれを表計算ソフトとして利用するに留まらず、適切な “関数” や “分析ツール” を用い、統計解析のツールとして利用するための手法を学びます。Excel で可能な範囲を超える分析には、より専門性の高い学術統計ソフト (例えば、SAS、SPSS、Stata、EViews、TSP など) や、プログラミングが必要となります。本講義では R に注目し、その基本的なプログラミングを学び、プログラミングによるデータ分析にアプローチするきっかけをつかみます。オープンソースの統計解析システム・環境 “R” の機能は国際的に評価されており、また、フリーソフトであるため、自由にダウンロードして利用することができます。従って、本講義で R の基本的なプログラミングを習得すれば、自宅のコンピューターでも専門的なデータ分析を行うことが可能になります。
以上のように、まず、統計学やデータ分析の基礎を学び、次に Excel を統計解析ツールとして用いる手法を習得し、さらに、R によってデータ分析を行うための基本的なプログラミングを理解すれば、自ら統計解析による実証分析を行うことができるようになります。
Excel の操作を学ぶ (春学期) テキストは、データの特性、確率分布、推定と検定、相関と回帰など、データ分析の基本を丁寧に解説したものを用います。配布資料で VBA プログラミングの概略にも触れましょう。また、R について学ぶ (秋学期) テキストは、計量経済学を題材にしていますが、様々な統計解析手法を学ぶプロセスにおいて、極めて重要な基礎項目の 1 つである回帰分析の理論と応用を、R のプログラミングと並行して要領よく学ぶように構成されており、将来のより高度な学習や研究の入口となるものです。
ぜひ、この機会に統計解析、および Excel と R によるデータ分析とプログラミングの基礎を学び、それらを将来の発展的な学習や研究へと繋げて欲しいと思っています。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 01 回	データの平均 (1)	データの平均、データのソート
第 02 回	データの平均 (2) + データの分散	移動平均、データの分散、偏差
第 03 回	度数分布	度数分布、グラフ
第 04 回	相関関係 (1)	相関関係、回帰線
第 05 回	相関関係 (2)	決定係数、分割表
第 06 回	乱数	乱数、乱数の応用
第 07 回	2 項分布 (1)	確率、確率分布、2 項分布
第 08 回	2 項分布 (2)	幾何分布、ポアソン分布、中心極限定理
第 09 回	正規分布 (1)	2 項分布の近似曲線、正規分布、標準正規分布
第 10 回	正規分布 (2)	指数分布、カイ 2 乗分布、t 分布，F 分布
第 11 回	推定と検定 (1)	標本平均、大数の法則、標本分散と不偏分散
第 12 回	推定と検定 (2)	母平均と母分散の区間推定、分散比の推定
第 13 回	推定と検定 (3)	母平均の検定、等分散と平均差の検定、比率と適合度の検定
第 14 回	VBA プログラミング	Excel による VBA プログラミング
第 15 回	計量分析について	理論分析と計量分析＋春学期課題配布

通年

回	テーマ	内容
第 16 回	R プログラミング (1)	プログラミング演習 (1)
第 17 回	R プログラミング (2)	プログラミング演習 (2)
第 18 回	単回帰分析 (1)	最小 2 乗法、関数の特定化と回帰分析
第 19 回	単回帰分析 (2)	単回帰分析の R プログラミング
第 20 回	回帰式の説明力と仮説検定 (1)	誤差分散、標準誤差、自由度、残差平方和、決定係数、最小 2 乗法の仮定
第 21 回	回帰式の説明力と仮説検定 (2)	回帰係数の標準誤差、有意性検定、R プログラミング
第 22 回	自己相関	最小 2 乗法の仮定と自己相関、ダービン・ワトソン検定、自己相関への対処、R プログラミング
第 23 回	不均一分散 (1)	最小 2 乗法の仮定と不均一分散、不均一分散の検定
第 24 回	不均一分散 (2)	不均一分散の対処、R プログラミング
第 25 回	重回帰分析 (1)	重回帰分析、重回帰係数の推定
第 26 回	重回帰分析 (2)	重回帰係数の有意性検定、自由度修正済み決定係数、R プログラミング
第 27 回	多重共線性と変数選択	多重共線性、多重共線性への対処、変数変換、変数選択
第 28 回	構造変化・理論の妥当性に関するテスト	ダミー変数、構造変化テスト、R プログラミング
第 29 回	同時方程式体系 (1)	識別問題、構造方程式と誘導型
第 30 回	同時方程式体系 (2)	間接最小 2 乗法、2 段階最小 2 乗法、R プログラミング＋秋学期課題配布

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・受講後に、テキストやノートによって講義内容を復習してください。また、余裕があれば予習を行ってください。

【テキスト（教科書）】
＊テキストは変更の可能性があります。各学期第 1 回講義での指示に注意してください。
(春学期)
・白石修二 (著)『例題で学ぶ Excel 統計入門 (第 2 版)』森北出版，2012 年.
(秋学期)
・秋山裕 (著)『R による計量経済学』オーム社，2009 年.

【参考書】
・青木繁伸 (著)『R による統計解析』オーム社，2009 年.
・秋山裕 (著)『統計学基礎講義』慶應義塾大学出版会，2009 年.
・大森崇 / 阪田真己子 / 宿久洋 (著)『R Commander によるデータ解析 (第 2 版)』共立出版，2014 年.
・片山直也 (著)『実例と EXCEL による統計学トレーニング』牧野書店, 2009 年.
・竹内淳 (著)『高校数学でわかる統計学』講談社，2012 年.
・辻谷将明 / 和田武夫 (著)『R で学ぶ確率・統計』共立出版，2012 年.
・長畑秀和 (著)『R で学ぶ統計学』共立出版，2009 年.
・長畑秀和 /中川豊隆 / 國米充之 (著)『R コマンダーで学ぶ統計学』共立出版, 2013 年.
・福地純一郎 / 伊藤有希 (著)『R による計量経済分析』朝倉書店，2011 年.
・蓑谷千凰彦 (著)『これからはじめる統計学』東京図書，2009 年.
・宮川公男 (著)『基本統計学 (第 4 版)』有斐閣，2015 年.
・宮田庸一 (著)『統計学がよくわかる本－ Excel 解説付き』アイケイコーポレーション，2012 年.
・村井潤一郎 (著)『はじめての R: ごく初歩の操作から統計解析の導入まで』北大路書房，2013 年.
・山田剛史 / 杉澤武俊 / 村井潤一郎 (著)『R によるやさしい統計学』オーム社, 2008 年.
・Lander, Jared P.(著), 高柳慎一 / 牧山幸史 / 簑田高志 (訳)『みんなの R - データ分析と統計解析の新しい教科書』マイナビ，2015 年.
・Wickham, Hadley(著), 石田基広 / 市川太祐 / 高柳慎一 / 福島真太朗 (訳)『R 言語徹底解説』共立出版，2016 年.
・Crawley, Michael J., *Statistics: An Introduction Using R* (2nd ed.)(pap), Wiley, 2014.
・Verzani , John, *Using R for Introductory Statistics* (2nd ed.), Chapman & Hall / CRC, 2014.

【成績評価の方法と基準】
・[春学期課題点 (45 %) ＋春学期出席点 (5 %) ＋秋学期課題点 (45 %) ＋秋学期出席点 (5 %) ＝総合点 (100 %)] の評点配分で成績が決定されます。
・単位認定には規定数以上の出席が必要ですが、各種行事の出席や疾病などによる止むを得ない欠席は、出席扱いとすることがあります。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
・講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【学生が準備すべき機器他】
・情報実習室でコンピューターを用いた講義と演習を行います。

【その他の重要事項】
・＜関連科目＞は、経営学部、文学部、法学部、あるいはその他の学部で開講された、統計学やデータ分析を用いる科目といたします。
・テキストは必ず購入し、参考文献の購入は、各自の必要性に応じて判断してください。

【オフィス・アワー】
講義日の 13:10〜13:30 ：講義教室で対応

データ処理論Ⅰ・Ⅱ（データベースコース）　選択＜情報関係＞　2～4 年次／ 4 単位［年間授業］

飯塚　康至　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在の高度情報化社会にあっては日々増大するデータをいかに効率よく蓄積・処理し、そのデータを解釈するかが重要となります。
データを解釈するためには皆さんが学んでいる専門課程の教育が役に立ちます。しかし、データが膨大すぎる場合は解釈するステージにまで至らない可能性があります。
本授業ではデータを解釈するために、Microsoft 社の Office 製品の Excel/Access を利用しデータの効率的な蓄積方法、データの分析手法について学びます。これらの手法について身につけ、専門課程で学んだことが生かせるようになることが本授業のテーマです。

【到達目標】
本授業での到達目標は次の通りです。
1.Excel の基本的な利用方法を身につけることができる
2.Excel を利用してビジネスデータ分析を行うことができる
3.Access の基本的な利用方法を身につけることができる
4.Access を利用したデータベースシステムを作成することができる

【授業の進め方と方法】
授業は演習方式で行います。あるテーマや課題を元に実際に Excel や Access を利用しデータを処理していきます。その過程で必要なスキルを身につけていきます。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
(1)	Office 製品概要	Office 製品の概要について学びます。
(2)	Excel 2010 入門 (1)	Excel の基本的な利用方法について学びます (データ入力から計算まで)。
(3)	Excel 2010 入門 (2)	Excel の基本的な利用方法について学びます (書式指定からグラフの作成まで)。
(4)	Excel 2010 入門 (3)	Excel の基本的な利用方法について学びます (印刷、ソート、検索)。
(5)	Excel によるビジネスデータ分析 (1)	ビジネスデータ分析とは何か
(6)	Excel によるビジネスデータ分析 (2)	分析に必要なデータの取込
(7)	Excel によるビジネスデータ分析 (3)	表の活用
(8)	Excel によるビジネスデータ分析 (4)	ピボットテーブルの活用
(9)	Excel によるビジネスデータ分析 (5)	グラフ機能の活用
(10)	Excel によるビジネスデータ分析 (6)	シミュレーション機能の活用
(11)	Excel によるビジネスデータ分析 (7)	PPM 分析、レーダーチャート、価格弾力性
(12)	Excel によるビジネスデータ分析 (8)	回帰分析、Z チャート、ファンチャート
(13)	Excel によるビジネスデータ分析 (9)	ABC 分析、パレート図、在庫回転率
(14)	Excel によるビジネスデータ分析 (10)	発注点、線形計画法、予実管理
(15)	復習	前期に学んだことを復習します
(16)	データベース概要	データベースとは何かを学びます。
(17)	表の作成と利用１	表の作成方法と利用方法について学びます
(18)	表の作成と利用２	表の作成方法と利用方法について学びます
(19)	クエリによるデータの加工１	クエリを利用したデータの抽出や演算について学びます
(20)	クエリによるデータの加工２	クエリを利用したデータの抽出や演算について学びます
(21)	クエリによるデータの加工３	クエリを利用したデータの抽出や演算について学びます
(22)	フォームによる画面作成１	フォームを利用して入力画面等を作成します
(23)	フォームによる画面作成２	フォームを利用して入力画面等を作成します
(24)	フォームによる画面作成３	フォームを利用して入力画面等を作成します
(25)	レポートによデータの印刷１	レポートを利用してデータの印刷画面を作成します
(26)	レポートによデータの印刷２	レポートを利用してデータの印刷画面を作成します
(27)	名簿管理システムの作成	名簿管理システムを作成します
(28)	書籍管理システムの作成１	書籍を管理するシステムを作成します
(29)	書籍管理システムの作成２	書籍を管理するシステムを作成します
(30)	復習	全体の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
WindowsPC の利用やキーボード入力は一般的なレベルで利用・入力できるものとして授業を進めますので、不安のある方は自己学習しておいてください。

【テキスト（教科書）】
PowerPoint 等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】
1. これからはじめるエクセル 2010 の本 (技術評論社)
2. 仕事の現場で即使える！ エクセルビジネスデータ分析 (技術評論社)
3. 仕事の現場で即使える！ Access データベース作成入門 (技術評論社)
4. 入門！ Access2010（ムイスリ出版）

【成績評価の方法と基準】
出席と提出課題を元に評価します。演習形式の授業なので、特に出席し授業に参加することを重視します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
ゼミやサークル活動のみならず、社会人になってからも役に立つ知識、技術を習得できるように授業を行います。

【学生が準備すべき機器他】
大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。

【その他の重要事項】
演習中心の授業ですので、遅刻しないようにしてください。途中、リクナビなどを利用しデータを集め分析するなど、就職活動に役に立つような話もしますので、楽しみにしてください。
【関連授業】
情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（a コース）

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。

データ処理論Ⅰ・Ⅱ（データベースコース）　選択＜情報関係＞　2～4 年次／ 4 単位［年間授業］

木村　昌史　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究活動、社会で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するための情報通信技術の修得

【到達目標】
データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【授業の進め方と方法】
PC、ネットワーク、Excel、Access の活用法を学びながら、次の 4 つの技術を実習を通じて修得する。
1. データを収集・整理する方法
2. データを検索する方法
3. データを分析する方法
4. データを設計する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。
課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上で、論文形式のレポートを作成するものとする。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術の重要性について
2	ネットワークの仕組み 各種 Web サービスの理解	ネットワークの仕組み、Web サービスの活用について
3	情報の検索・収集方法 Web による情報収集	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
4	情報の蓄積と管理 ファイルやフォルダ、ストレージ	ファイルとフォルダ、ストレージサービスの利用について
5	表計算ソフトとは 表計算ソフトの基本操作	Excel の基本、ワークシート編集・加工について
6	表計算ソフトの活用 表計算ソフトの関数	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
7	データベースの基本概念 データベースの考え方と位置づけ	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
8	Excel によるデータベース的処理 (1) 検索やフィルタ	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
9	Excel によるデータベース的処理 (2) 整列、集計、追加、アウトラインの操作	整列、集計、追加、アウトラインの操作と表示について
10	Excel によるデータベース的処理 (3) データベース関数	Excel のデータベース関数の活用と条件設定について
11	Excel によるデータベース的処理 (4) ピボットテーブル	クロス集計とピボットテーブルによるデータ分析ついて
12	Excel の実際的な活用 Excel によるデータ分析	Excel の分析ツールの活用とデータ分析への応用
13	Excel マクロの活用 (1) マクロの作成の基本	マクロレコーダとデータ分析の自動化・再利用化
14	Excel マクロの活用 (2) VBA の基本	VBA の基本的な編集とデータの一括処理、実行ボタンの配置
15	春学期授業のまとめ	春学期授業内容の総括と内容確認について
16	データベースソフトとは Access の位置づけ	データベースソフト Access の起動・データ読み込みとテーブルの作成
17	Access の基本操作 (1) データの検索方法	データの検索方法と検索条件の指定について
18	Access の基本操作 (2) フィルタと並べ替え	フィルタの活用とレコードの並べ替えについて
19	Access のデータ編集 (1) レコードとフィールドの編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
20	Access のデータ編集 (2) 画像データの扱い	画像データの扱いとフォームの作成について
21	テーブルの操作 (1) 各種クエリの理解	選択クエリ、クロス集計クエリ、アクションクエリの作成について
22	テーブルの操作 (2) 各種クエリの作成と実行	テーブル作成クエリの利用と SQL による操作について
23	データベースの設計 (1) データベースの設計の考え方	データベースの設計とデータの正規化について
24	データベースの設計 (2) リレーションシップの考え方	リレーションシップと高度なクエリの活用について
25	外部データベースへの接続 Web 上のデータベース	Web 上のデータベースと Access の関係および MySQL の理解
26	外部データベースの操作 インポートとエクスポート	MySQL との間のテーブルのインポートとエクスポートの実行
27	Access のマクロとは マクロの活用	Access VBA とデータベース操作の自動化について
28	総合演習 (1) フォームの設計	フォームの設計とデータ検索処理の対応について
29	総合演習 (2) フォームとレポートのデザイン	フォームとレポートのデザインについて
30	通年授業の総括	通年の授業をふり返り、内容の確認と課題の完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 学内 PC 環境自宅のネットワーク環境、の確認
2. ネットワークの仕組みについて調べる
3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習
4.～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の復習
15. 配布資料の予習と復習
16.～24. 教科書各章の予習・復習
25.～30. 配布資料の予習と復習

【テキスト（教科書）】
タイトル：実習データベース ～Excel と Access で学ぶ基本と活用～
著者：内田治 編著　藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著
発行：サイエンス社
発行日： 2016 年 1 月 10 日

【参考書】
タイトル： 30 時間アカデミック　情報リテラシー　Office2013
タイトル： 30 時間でマスター　パーフェクト演習　Excel2013
タイトル： 30 時間でマスター Access 2013
著者：実教出版編修部
発行：実教出版株式会社
毎回 Web で資料を提示する。最新の参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 80 %、演習課題 20 %とする。
期末レポートはこの授業を通じて得られた情報技術を利用して、自ら課題を設定し、データを収集、整理、加工、分析、考察を加え、論文形式のレポートをまとめるものとする。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
今後も学生の演習内容の理解とフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
毎回 PC を利用する。学内 PC での自習とできれば自宅での PC の利用にも期待する。

【その他の重要事項】
関連科目は「情報科学実習Ⅰ・Ⅱ」はじめ、情報関係科目全般である。
[オフィスアワー]
授業後に質問を受け付ける。
また課外ではネットを利用して質問も受け付ける。

データ処理論Ⅰ・Ⅱ（コンピューターグラフィックス）　選択<情報関係>　　2～4 年次／ 4 単位［年間授業］

飯塚　康至　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
広く普及している Java 言語を利用してコンピューターグラフィックスの基礎を身につけます。グラフィックの描画からアニメーション作成などを行います。
後半 Java 言語を利用したスマートフォン向けのグラフィック描画に挑戦します。

【到達目標】
本授業の到達目標は次の通りです。
1.Java を利用しグラフィックを描画する方法を身につける
2.Java のオブジェクト指向を理解し現在のプログラミング手法を身につける
3. スマートフォン向けのグラフィック描画方法を身につける

【授業の進め方と方法】
【授業の概要】
Java 言語は広く社会で使われており、IT やシステム系の企業に就職する場合、必須の基本スキルとなっています。最近ではスマートフォンのアプリケーション開発でも Java 言語が利用されています。
そのため本授業では Java 言語を利用し、コンピューター・グラフィックを表現するスキルを身につけていきます。その過程でオブジェクト指向プログラミング手法を身につけ、Java 言語以外の言語にも対応できるようなスキルを身につけていきます。
【授業の方法】
演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
(1)	Java の基礎知識	基本的なプログラムの記述方法や変数の利用について学びます
(2)	図形の描画	図形を描画する方法について学びます。
(3)	繰り返しと条件判断	処理の繰り返しと条件を判断し処理を分岐する方法について学びます。
(4)	アニメーション	繰り返し処理を利用してアニメーションを作成する方法について学びます。
(5)	クラス・オブジェクト	効率良くアニメーションを作成する方法について学びます。
(6)	配列・Vector	効率良くたくさんの図形をアニメーションする方法について学びます。
(7)	継承	似たような図形を効率良く描画剃る方法について学びます。
(8)	イベント	キーボードからのイベント処理について学びます。
(9)	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは自機であるプレイヤーを作成していきます。
(10)	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは自機であるプレイヤーを作成していきます。
(11)	ゲームを作ろう（敵の作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは敵を作成していきます。
(12)	ゲームを作ろう（敵の作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは敵を作成していきます。
(13)	ゲームを作ろう（衝突判定）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは弾丸や自機と敵の衝突判定を行います。
(14)	ゲームを作ろう（進行管理）	ゲームのクリアやゲームオーバーの表示などゲームの進行を管理できるようにします。
(15)	春学期復習	春学期の復習を行います。
(1)	スマートフォンアプリの構造	ひな形のアプリケーションを元にスマートフォンアプリの構造について学びます。
(2)	記述の方法	スマートフォンのアプリケーションを作成するときの 2 つの記述の方法について学びます。
(3)	イベントの利用	ユーザーの操作に応じてプログラムを駆動する方法について学びます。
(4)	音楽プレイヤーの作成	Android で音楽プレイヤーを作成する方法について学びます。
(5)	Intent の利用	アプリケーション間連携を行う方法について学びます。
(6)	Log の確認	Log を利用してプログラムの状態を確認する方法について学びます。
(7)	独自の View の作成 1	グラフィックを描画する手法について学びます。
(8)	独自の View の作成 2	グラフィックを描画する手法について学びます。
(9)	SurfaceView の利用 1	SurfaceView を利用してアニメーションを行う方法について学びます。
(10)	SurfaceView の利用 2	SurfaceView を利用してアニメーションを行う方法について学びます。
(11)	ライブ壁紙の作成 1	ライブ壁紙の構造について学び下準備を行います。
(12)	ライブ壁紙の作成 2	ライブ壁紙の設定を記述し登録できるようにします。
(13)	ライブ壁紙の作成 3	ライブ壁紙のロジックを作成していきます。
(14)	ライブ壁紙の作成 4	ライブ壁紙を完成させます。
(15)	秋学期復習	秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　スマートフォンを利用するだけでなく、自分だったらどのようなアプリケーションやサービスを作成するのか、考えながら授業に望んでください。

【テキスト（教科書）】
初級 Java: やさしい Java 筧 捷彦 (監修) 実教出版 ISBN-10: 4407325860
※授業時に話しながら PowerPoint ファイルを作成していきます。希望者には授業終了後ファイルを配布します。

【参考書】
挫折しないための Android プログラミング 128 のキホン 飯塚 康至 秀和システム ISBN-10: 4798032921
Android アプリ開発実践ノウハウ 128 飯塚 康至 秀和システム ISBN-10: 4798035807

【成績評価の方法と基準】
出席、及び提出された成果物をもとに評価します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
受講される皆さんがスマートフォンを持っている場合、作成したアプリケーションはそのスマートフォンで動きます。作って楽しい、動いて楽しい授業を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
　大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。

【その他の重要事項】
演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。また欠席して間が開くと理解できない部分出てきますのでやむを得ない理由がない限り、欠席もしないようにしてください。
【関連科目】
プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ [Java コース]

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

データ処理論Ⅰ・Ⅱ（プレゼンテーションコース）選択＜情報関係＞　　2～4 年次／ 4 単位［年間授業］

上野　京子　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【授業の進め方と方法】
■春学期
(1) 静止画から動画を作成、音声や楽曲などを加え、発表形式ではないプレゼンテーションを作成する
(2) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する
(3) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得する
(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	動画のプレゼンテーション	動画編集ソフトを使用したプレゼンテーションの紹介
第 2 回	動画編集ソフトの機能	動画編集ソフトの概要、基本操作、応用操作（ビデオおよび写真の追加、音楽の追加、オートムービーの設定、タイトル、キャプション、クレジットなど）
第 3 回	動画作成演習 1	文字、写真、チャート、映像等の取扱い方法
第 4 回	動画作成演習 2	計画・要素作成
第 5 回	動画作成演習 3	動画作成（ビデオおよび写真の追加、音楽の追加、オートムービーの設定、タイトル、キャプション、クレジット追加）
第 6 回	動画鑑賞と相互評価 1	各人の動画を鑑賞し、様々な観点から評価
第 7 回	動画鑑賞と相互評価 2	各人の動画を鑑賞し、様々な観点から評価
第 8 回	自己評価	自身の動画の評価を集計し、レポート作成、提出
第 9 回	コンテンツ作成の技術	表計算ソフトを利用した集計
第 10 回	コンテンツ作成の技術	表計算ソフトを利用したコンテンツ作成
第 11 回	コンテンツ作成の技術	表計算シフトを利用したデータ分析の基本
第 12 回	配布資料の作成方法	日本語文書処理ソフトを利用した資料作成（目次、索引、引用、脚注など）
第 13 回	プレゼンテーションソフトの機能	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作、応用操作（テンプレート、画面切り替え効果、アニメーション効果など）
第 14 回	プレゼンテーションソフトの機能	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作、応用操作（テンプレート、画面切り替え効果、アニメーション効果など）
第 15 回	予備日	春学期に学習したことの総復習
第 16 回	失敗しないプレゼンテーション 1 －導入－	聞き手をつかむ　結論から見せる 目標を示す　序論で動機づけ
第 17 回	失敗しないプレゼンテーション 2 －可視化－	百聞は一見に如かず　見える形に具現化する 喩えてみせる　表現の段階化
第 18 回	失敗しないプレゼンテーション 3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第 19 回	失敗しないプレゼンテーション 4 －構造や関係－	分類と包含　階層構造　流れの構造 連続的な関係　合流・複合の関係
第 20 回	失敗しないプレゼンテーション 5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第 21 回	比較的簡単な演習 1	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 22 回	比較的簡単な演習 2	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 23 回	プレゼンテーション作成演習 1	プレゼン用スライドの鑑賞
第 24 回	プレゼンテーション作成演習 2	計画・要素収集
第 25 回	プレゼンテーション作成演習 3	プレゼンテーション作成
第 26 回	プレゼンテーション作成演習 4	プレゼンテーション作成、提出
第 27 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 28 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 29 回	自己評価	自身のプレゼンテーションの評価を集計し、レポート作成、提出
第 30 回	予備日	秋学期に学習したことの総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
PowerPoint を使ったことがあるという程度まで

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
出席 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。定期試験期間内の筆記試験は行わない

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
実践的演習を増やす

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する
〔関連科目〕
特になし

【オフィス・アワー】
質問がある場合は E-mail で受け付ける。
メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

データ処理論Ⅰ・Ⅱ（空間情報システムコース）選択＜情報関係＞　　2～4 年次／ 4 単位［年間授業］

小寺　浩二　准教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では，G 空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。
　空間情報システムの発達とともに，商圏分析や立地分析，災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく，地図アプリケーションなども web を通して日常生活に普及してきた。一方，地理空間情報活用推進基本法の制定により，行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って，空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また，東日本大震災後，行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集成し利用していることから，「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】
　社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用，また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【授業の進め方と方法】
　授業では，初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ，まず空間情報システムの構造や考え方，空間情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション，データを使用して授業を進める。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	空間情報システムとは何か？	空間情報システムについて具体的な事例を交えながら紹介する
第 2 回	空間情報システムの歴史と応用事例	空間情報システムの歴史を簡単に述べ事例とともに解説する
第 3 回	空間情報（デジタルデータ）について	空間情報システムで取り扱うデジタルデータについて解説する
第 4 回	空間情報のマッピング 1	国土数値情報を利用しながらアプリケーションの操作を学ぶ
第 5 回	空間情報のマッピング 2	基盤地図情報を利用しながらアプリケーションでのレイアウトを変更・編集する
第 6 回	空間情報と統計データ 1	統計データに合致したレイアウトの考え方を学ぶ
第 7 回	空間情報と統計データ 2	レイアウトの応用と主題図作成を学ぶ
第 8 回	空間情報の統計演算 1	統計データの新規追加を学ぶ
第 9 回	空間情報の統計演算 2	統計データの変換を学ぶ
第 10 回	空間情報の統計演算 3	統計データの演算を学ぶ
第 11 回	空間情報の保存・変換	空間情報の保存と投影 (座標系) 変換
第 12 回	ジオプロセシングと空間解析	簡単な空間解析法（バッファリング・空間結合・属性結合・距離と面積の測定）を学ぶ
第 13 回	空間情報の分析と考察 1	課題に対して空間情報を選択する
第 14 回	空間情報の分析と考察 2	空間情報の処理を行う
第 15 回	空間情報の分析と考察 3	分析を行い結果・考察を行う
第 16 回	アドレスマッチングの利用	ジオコーディングを学びポイントデータを自作する
第 17 回	GNSS（GPS）を用いた位置情報の取得と表示	GNSS で取得した座標からポイントデータを自作する
第 18 回	ベクトルデータとラスタデータの作成 1	オルソ化空中写真の表示を学びラインデータを自作する
第 19 回	ベクトルデータとラスタデータの作成 2	ポリゴンデータを自作する
第 20 回	ベクトルデータとラスタデータの作成 3	ラインデータおよびポリゴンデータの形状を編集する
第 21 回	ベクトルデータとラスタデータの作成 4	地理院地図を使いながらベクトルデータを作成しラスタデータへ変換する
第 22 回	ジオリファレンス (幾何補正) の行い方	位置情報を持たない画像データに位置情報を与え，空間情報を取得する
第 23 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 1	DEM について解説し簡単な地形解析を行う
第 24 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 2	地形解析を行い空間情報を取得する
第 25 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 3	任意の演算式によって空間情報を取得する
第 26 回	空間解析の実践 1	空間補間 (内挿) を行い空間情報の推定を行う
第 27 回	空間解析の実践 2	リモートセンシングデータを利用する
第 28 回	空間情報の作成・分析と考察 1	課題とデータ処理の方法を設定する
第 29 回	空間情報の作成・分析と考察 2	空間情報の作成とデータの解析を行う
第 30 回	空間情報の作成・分析と考察 3	分析結果を表し考察を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また，使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから，受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。

【テキスト（教科書）】
　自作テキストを利用する。

【参考書】
「地理情報学入門」（野上道男ほか，東京大学出版会，2001 年）
「国土を測る技術の基礎　―地理空間情報技術者を目指す人のために―」（高木方隆，（公社）日本測量協会，2014 年）
　その他，適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　本授業は実習科目であることから，平常点を重視する。その他，春学期および秋学期に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。
　成績評価の配分は，平常点が 50 点満点，春学期レポートが 25 点満点，秋学期レポートが 25 点満点である。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
　質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに，空間情報システムの社会での最新の動向を紹介し，授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】
　本授業では，授業支援システムを積極的に使用する。主に資料配布，課題提出，受講生向けの連絡，掲示板での質問対応である。

【その他の重要事項】
　本授業では，講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ，コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する基礎的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア，無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【関連科目】
コンピュータ・リテラシーに関連する科目

データ処理論Ⅰ・Ⅱ（空間情報システムコース）選択＜情報関係＞　　2〜4 年次／ 4 単位［年間授業］

沼尻　治樹　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，G 空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。
空間情報システムの発達とともに，商圏分析や立地分析，災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく，地図アプリケーションなども web を通して日常生活に普及してきた。一方，地理空間情報活用推進基本法の制定により，行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って，空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また，東日本大震災後，行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集成し利用していることから，「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】
社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用，また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【授業の進め方と方法】
授業では，初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ，まず空間情報システムの構造や考え方，空間情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション，データを使用して授業を進める。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	空間情報システムとは何か？	空間情報システムについて具体的な事例を交えながら紹介する
第 2 回	空間情報システムの歴史と応用事例	空間情報システムの歴史を簡単に述べ事例とともに解説する
第 3 回	空間情報（デジタルデータ）について	空間情報システムで取り扱うデジタルデータについて解説する
第 4 回	空間情報のマッピング 1	国土数値情報を利用しながらアプリケーションの操作を学ぶ
第 5 回	空間情報のマッピング 2	基盤地図情報を利用しながらアプリケーションでのレイアウトを変更・編集する
第 6 回	空間情報と統計データ 1	統計データに合致したレイアウトの考え方を学ぶ
第 7 回	空間情報と統計データ 2	レイアウトの応用と主題図作成を学ぶ
第 8 回	空間情報の統計演算 1	統計データの新規追加を学ぶ
第 9 回	空間情報の統計演算 2	統計データの変換を学ぶ
第 10 回	空間情報の統計演算 3	統計データの演算を学ぶ
第 11 回	空間情報の保存・変換	空間情報の保存と投影 (座標系) 変換
第 12 回	ジオプロセシングと空間解析	簡単な空間解析法（バッファリング・空間結合・属性結合・距離と面積の測定）を学ぶ
第 13 回	空間情報の分析と考察 1	課題に対して空間情報を選択する
第 14 回	空間情報の分析と考察 2	空間情報の処理を行う
第 15 回	空間情報の分析と考察 3	分析を行い結果・考察を行う
第 16 回	アドレスマッチングの利用	ジオコーディングを学びポイントデータを自作する
第 17 回	GNSS（GPS）を用いた位置情報の取得と表示	GNSS で取得した座標からポイントデータを自作する
第 18 回	ベクトルデータとラスタデータの作成 1	オルソ化空中写真の表示を学びラインデータを自作する
第 19 回	ベクトルデータとラスタデータの作成 2	ポリゴンデータを自作する
第 20 回	ベクトルデータとラスタデータの作成 3	ラインデータおよびポリゴンデータの形状を編集する
第 21 回	ベクトルデータとラスタデータの作成 4	地理院地図を使いながらベクトルデータを作成しラスタデータへ変換する
第 22 回	ジオリファレンス (幾何補正) の行い方	位置情報を持たない画像データに位置情報を与え，空間情報を取得する
第 23 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 1	DEM について解説し簡単な地形解析を行う
第 24 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 2	地形解析を行い空間情報を取得する
第 25 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 3	任意の演算式によって空間情報を取得する
第 26 回	空間解析の実践 1	空間補間 (内挿) を行い空間情報の推定を行う
第 27 回	空間解析の実践 2	リモートセンシングデータを利用する
第 28 回	空間情報の作成・分析と考察 1	課題とデータ処理の方法を設定する
第 29 回	空間情報の作成・分析と考察 2	空間情報の作成とデータの解析を行う
第 30 回	空間情報の作成・分析と考察 3	分析結果を表し考察を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また，使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから，受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。

【テキスト（教科書）】
自作テキストを利用する。

【参考書】
「地理情報学入門」（野上道男ほか，東京大学出版会，2001 年）
「国土を測る技術の基礎　―地理空間情報技術者を目指す人のために―」（高木方隆，（公社）日本測量協会，2014 年）
その他，適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
本授業は実習科目であることから，平常点を重視する。その他，春学期および秋学期に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。
成績評価の配分は，平常点が 50 点満点，春学期レポートが 25 点満点，秋学期レポートが 25 点満点である。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに，空間情報システムの社会での最新の動向を紹介し，授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】
本授業では，授業支援システムを積極的に使用する。主に資料配布，課題提出，受講生向けの連絡，掲示板での質問対応である。

【その他の重要事項】
本授業では，講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ，コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する基礎的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア，無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【関連科目】
コンピュータ・リテラシーに関連する科目

ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ（通信ネットワークコース）選択＜情報関係＞　　2～4 年次／ 4 単位［年間授業］

飯塚　康至　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組と、インターネットを利用した情報発信のスキルを身に付けることが本授業のテーマです。また情報セキュリティについても理解し適切な対応がとれるスキルを身につけることを目標とします。

【到達目標】
本授業の到達目標は次の通りです。
1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新技術について理解する。
5. 基本的な Web 技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【授業の進め方と方法】
インターネットを中心としたコンピューターネットワークはすでにインフラとなりわれわれの生活に深く浸透しています。
講義前半では主にコンピューターネットワークの基本的な知識と技術と情報セキュリティについて学びます。後半では Web ページの作成技術を中心に Web サイトの構築方法について学習します。
授業は演習形式で実際に作成や確認を行いながら進めていきます。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	通信技術の発展と現在	情報通信技術の変遷と現在の姿について理解します。
2	コンピューターの構成	ネットワークの理解に入る前にネットワークに利用するコンピューターの構成について理解します。
3	IP ネットワークの理解	インターネットを支えるインターネットプロトコルについて理解します。
4	LAN の仕組みと構成	LAN の仕組みと構成
5	ドメインの理解	名前解決であるドメインの仕組みについて理解します。
6	TCP とパケットの理解	インターネット上のサービスを実現するための TCP とパケットについて理解します。
7	インターネットサービスとアプリケーション	主要なインターネットのサービスとアプリケーションについて理解します。
8	情報セキュリティ１	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます
9	情報セキュリティ２	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます
10	HTML の基礎知識	Web ページを作成するための HTML の歴史や現在の基礎知識について理解します。
11	HTML の基本文法	HTML の基本的な文法について理解します。
12	ホームページ作成の基礎①	見出を作成したり文字装飾を行う方法を理解します。
13	ホームページ作成の基礎②	リスト、テーブル、リンク等を作成する方法を理解ます。
14	フォームと画像の貼付け	フォームや画像を扱う方法について理解します。
15	春学期復習	春学期の復習を行います。
16	サーバーサイド技術の概念	サーバーサイド技術である PHP を利用しサーバーサイド技術の概念を学びます
17	PHP の基本文法（変数、関数）	PHP の基本的な文法について学びます
18	PHP の基本文法（条件分岐、繰り返し）	PHP の基本的な文法について学びます
19	練習用フォームの作成	練習用フォームを作成し POST や GET データを送信します
20	メールフォームの作成	メールフォームを作成し Session でデータを保持します
21	メールフォームからのメールの送信	メールフォームからメールを送信する方法について学びます
22	アンケートフォームの作成１	応用としてアンケートフォームを作成します
23	アンケートフォームの作成２	応用としてアンケートフォームを作成します
24	HTML5 の利用１	新しい HTML の仕様である HTML5 の概要について学びます
25	HTML5 の利用２	新しい HTML の仕様である HTML5 の概要について学びます
26	jQuery の利用	jQuery を利用した動的なページの作成方法について理解します。
27	jQuery UI の利用	jQuery UI を利用したリッチなページの作成方法について理解します。
28	jQuery プラグインの利用	jQuery のプラグインを利用したリッチなページの作成方法について理解します。
29	jQuery Mobile の利用	jQuery Mobile を利用したモバイルサイトの作成方法について理解します。
30	秋学期復習	秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現在の個人活動や企業活動ではコンピューターネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。

【テキスト（教科書）】
PowerPoint 等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】
ムダをゼロにするフロントエンド開発で使える JavaScript ライブラリ（秀和システム ）

【成績評価の方法と基準】
出席と提出課題を元に評価します。演習形式の授業なので、特に出席し授業に参加することを重視します。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。

【その他の重要事項】
演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。また欠席して間が開くと理解できない部分出てきますのでやむを得ない理由がない限り、欠席もしないようにしてください。
私語等を含め、授業に参加していないものは退席させる場合があります。コピー＆ペースト等、自己努力していないものは評価しない場合があります。
【関連科目】
情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（b コース）

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ（通信ネットワークコース）選択＜情報関係＞　　2～4 年次／ 4 単位［年間授業］

石原　浩幸　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業における度重なる個人情報漏洩の問題は、コンピュータ・ネットワークの知識及び情報セキュリティに関する意識・知識の欠落によるものである。この授業では、コンピュータ・ネットワークを構成する技術とルール、コンピュータ・ネットワークを安全に利用するための方法論、情報セキュリティの重要性を講義していく。

【到達目標】
(1) コンピュータ・ネットワークの基本的な知識が理解できる。
(2) コンピュータ・ネットワークを安全に利用する方法と技術の習得ができる。
(3) 情報セキュリティの重要性を理解し、実践することができる。

【授業の進め方と方法】
知識に関する講義と技術習得のための演習を交互に実施し、知識と技術の定着をはかる。
また、テーマごとに、なぜその知識が必要で、将来どのように役立つかを具体的な事例を交えて伝えたのち、講義・演習に入るようにする。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと 2 進数の理解	講義の概要、評価の方法などを説明する。また、講義全般で必要となる 2 進数について学習する。
第 2 回	ネットワークについて理解する 1	情報伝達の歴史、ネットワークとは何か、ネットワーク化によってもたらされる利点について学習する。
第 3 回	ネットワークについて理解する 2	コンピュータ・ネットワークとは何か、回線交換とパケット交換、ネットワークアーキテクチャ（階層化モデル，OSI 基本参照モデル）について学習する。
第 4 回	インターネットプロトコルを理解する 1	インターネットプロトコルの仕組みと IP アドレスについて学習する。
第 5 回	インターネットプロトコルを理解する 2	ネットワーク部とホスト部、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、IP ルーティング、ルーティングプロトコルについて学習する。
第 6 回	インターネットプロトコルを理解する 3	IP アドレスについての演習（計算問題）を行い、インターネットプロトコルの理解を深める。
第 7 回	インターネットプロトコルを理解する 4	ドメイン名とは何か、DNS とは何かとその仕組みについて学習する。
第 8 回	TCP と UDP を理解する	TCP の働きと仕組み、UDP の働きと仕組みについて学習する。
第 9 回	LAN を理解する 1	WAN と LAN、イーサネットについて学習する。
第 10 回	LAN を理解する 2	グローバル IP アドレスとプライベート IP アドレス、アドレス変換技術（NAT,IP マスカレード）について学習する。
第 11 回	LAN を理解する 3	無線 LAN について学習する。
第 12 回	ネットワークアプリケーションを理解する 1	ホームページ配信プロトコルである HTTP について学習する。
第 13 回	ネットワークアプリケーションを理解する 2	電子メール（送信）配送の仕組み、電子メール配送に使われるプロトコルである SMTP について学習する。
第 14 回	ネットワークアプリケーションを理解する 3	電子メール受信の仕組み、電子メールの受信に使われるプロトコルである POP、IMAP について学習する。
第 15 回	次世代インターネットプロトコルを理解する	IPv6 について学習する。
第 16 回	情報セキュリティを理解する 1	情報セキュリティの定義と目的について学習する。
第 17 回	情報セキュリティを理解する 2	リスクの発生要件（情報資産、脅威、脆弱性）について学習する。
第 18 回	情報セキュリティを理解する 3	リスク対応について学習する。
第 19 回	情報セキュリティを理解する 4	関連法令、情報セキュリティマネジメントの概要について学習する。
第 20 回	メッセージダイジェストを理解する	メッセージダイジェストとハッシュ関数について学習する。
第 21 回	メッセージダイジェストの演習	メッセージダイジェスト（MD5,SHA1）に関する演習を行い、理解を深める。
第 22 回	暗号化技術を理解する 1	暗号とは何か、暗号に関する用語を学習する。
第 23 回	暗号化技術を理解する 2	共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式、デジタル署名について学習する。
第 24 回	その他のセキュリティ技術を理解する	秘密分散技術、アクセスコントロール技術、フィルタリング技術、信頼性向上技術、侵入検知システム、侵入防止システムについて学習する。
第 25 回	公開鍵暗号方式による暗号化演習 1	公開鍵と秘密鍵の作成と破棄証明書の作成を行う。
第 26 回	公開鍵暗号方式による暗号化演習 2	鍵交換の方法（公開鍵の認証方法など）についての演習を行う。
第 27 回	公開鍵暗号方式による暗号化演習 3	デジタル署名の作成、デジタル署名の検証についての演習を行う。
第 28 回	公開鍵暗号方式による暗号化演習 4	暗号文の作成、暗号文の復号についての演習を行う。
第 29 回	総合演習 1	講義内容（知識・技術）の理解を深める総合的な演習を行う。
第 30 回	総合演習 2	講義内容（知識・技術）の理解を深める総合的な演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回までの講義内容が理解できていることを前提に学習をすすめるので、しっかり復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
ネットワーク技術は日々進化しており、最新技術をより多く伝えたいため、テキストは使用しない。なお、必要があれば、講義中に指示する。

【参考書】
必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）平常点（80%）
前回の講義内容の理解度をチェックする課題を与え、その内容と提出状況で評価する。
（2）授業内最終課題（20%）
年間の講義内容の理解度をチェックする総合問題（演習課題）を出題し、その点数で評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
「自分はパソコンが好きだったので楽しく受講できたが、そうでない人には難しい授業だったかもしれません」というアンケート結果があり、また、指導の中で PC 操作スキルの低い学生の習熟度が低い傾向にあるため、第 1 回から第 5 回までの間は、講義の前半 15 分程度は、Windows 操作、キーボード操作など PC 操作の基本を教えるようにしたい。

【その他の重要事項】
関連科目：情報と倫理、経営情報論Ⅰ/Ⅱ

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ（ホームページコース）　選択＜情報関係＞　　2～4 年次／ 4 単位［年間授業］

北澤　具子　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し，コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。

【到達目標】
インターネットの仕組みを理解し，Web ページ・Web システムの作成ができることを目標とする。

【授業の進め方と方法】
授業の前半は，社会生活においてなくてはならないインフラであるコンピュータネットワークの利用方法やそれらの技術について学ぶ。後半は，Web ページ・Web システムの作成を中心に，最新の技術も併せて学ぶ。
授業は，講義と実習を実習室で行い，実習ではパソコンを用いて実際に Web ページ，Web システムを作成する。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基礎知識	2 進数，コンピュータシステムの処理形態等について学習する。
第 2 回	ネットワークの歴史	ネットワークとは何か。その有用性と変遷について学習する。
第 3 回	ネットワークの構成	ネットワークを構成するもの，その方式について学習する。
第 4 回	ネットワークの規格	ネットワークに関するいくつかの規格とその概要について学習する。
第 5 回	LAN と WAN(1)	LAN とは WAN とは何か，伝送媒体，回線等について学習する。
第 6 回	LAN と WAN(2)	イーサネットについて学習する。
第 7 回	LAN と WAN(3)	無線 LAN 等について学習する。
第 8 回	インターネット (1)	インターネットのプロトコルと IP アドレスについて学習する。
第 9 回	インターネット (2)	経路制御について学習する。
第 10 回	インターネット (3)	ドメイン名と DNS について学習する。
第 11 回	インターネット (4)	IP アドレス (IPv4 と IPv6) について学習する。
第 12 回	ネットワークアプリケーション (1)	Web の仕組みについて学習する。
第 13 回	ネットワークアプリケーション (2)	メールの仕組みについて学習する。
第 14 回	ネットワークセキュリティ	通信の暗号化，デジタル署名等について学習する。
第 15 回	春学期のまとめ	これまでの学習内容をまとめる。
第 16 回	HTML の基本 (1)	Web ページ作成用言語である HTML の基礎を学習する。
第 17 回	HTML の基本 (2)	HTML 要素の概要について学習し，簡単な Web ページを作成する。
第 18 回	HTML の基本 (3)	テキスト表現，表，リスト，リンク等の要素について学習する。また，Web ページの全体像を設計して，リンク先の Web ページを作成する。
第 19 回	HTML の基本 (4)	フォーム，マルチメディアの要素について学習する。
第 20 回	HTML の基本 (5)	HTML5 について学習する。
第 21 回	スタイルシート (1)	スタイルシートの役割と概要について学習する。
第 22 回	スタイルシート (2)	HTML だけでは細かく指定できない Web ページのデザインをスタイルシートを用いて，見やすく，操作しやすいものにする。
第 23 回	JavaScript(1)	JavaScript の役割と基本文法，各種構文について学習する。
第 24 回	JavaScript(2)	JavaScript を用いて，HTML だけではできないバリエーションをつけたり，動きがある Web ページを作成する。
第 25 回	JavaScript(3)	前回に続き，JavaScript を用いた，より高度な Web ページを作成する。
第 26 回	Web システム	サーバサイドの Web プログラムについて学習する。
第 27 回	総合演習 (1)	Web サイトを設計・作成する。
第 28 回	総合演習 (2)	Web サイトを設計・作成する。
第 29 回	総合演習 (3)	Web サイトを設計・作成する。
第 30 回	まとめ	この授業で学んできたことをまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は，次の授業までに完成させておくこと。また，わからないことは，講師等に質問したり，独学したりして，次回の授業までに解決しておく。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%，課題点 50%，授業中に行う小テストの得点 20%で，総合的に評価する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると、解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Web システムに興味があり，自分で作成してみたいと思っていれば，ネットワークや Web ページに関する前提知識は不要。
【関連科目】
「情報科学実習Ⅰ・Ⅱ」などで基礎的学習を終えている，または，同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

連環科目

- 法律関係
- 交換留学生受け入れプログラム

民法

連環科目＜法律関係＞　　2～4 年次／ 4 単位［年間授業］

松田　佳久　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民法は市民生活に関連する法律の中で最も基本的かつ重要な法律である。民法は取引を中心とする財産法と家族の生活を中心とする家族法に大別されるが、本講義は経営学部の学生を対象とすることから、前者の財産法を中心に扱うことにしたい。

【到達目標】
取引を中心とする生活関係についての基本的な法制度を十分に理解し、経営学部の専門的知識がより一層効果を発揮するような背景を築くことである。
具体的には、①契約の有効な成立のための要件、②契約によって成立する債権の内容、③債権の効力、④物権変動と対抗要件、⑤債権担保の手段、とりわけ抵当権と保証債務について十分な法的知識を修得することである。

【授業の進め方と方法】
最も代表的な契約関係にある売買契約を基礎に置きながら、財産法の基本的な仕組みを概観する。
講義はパワーポイントを使用して行う。
講義資料は授業支援システムにアップしますので、これに基づいて予習した上で出席して下さい。なお、講義に際しては六法を必ず持参すること。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	講義を始めるに際しての諸注意
	民法の仕組み (1)	物権と債権
第２回	民法の仕組み (2)	物権と債権
		私法の三大原則
第３回	契約の成立要件	権利の主体
		権利能力
		意思の合致
第４回	契約の有効要件 (1)	契約の無効原因 (意思無能力・意思の欠缺)
第５回	契約の有効要件 (2)	契約の取消原因 (制限行為能力者)
第６回	契約の有効要件 (3)	契約の取消原因 (詐欺・強迫)
第７回	契約の効果帰属要件	代理
		表見代理
第８回	売主の義務 (1)	特定物の引渡し
		瑕疵担保責任
第９回	売主の義務 (2)	種類物の引渡し
第 10 回	買主の義務	金銭債務
		利息債務
第 11 回	債権の消滅	弁済・相殺など。
	債務不履行の効果 (1)	現実的履行の強制
第 12 回	債務不履行の効果 (2)	債務不履行による損害賠償
第 13 回	債務不履行の効果 (3)	債務不履行による損害賠償
		危険負担
第 14 回	債務不履行の効果 (4)	契約の解除
第 15 回	予備	予備
第 16 回	法律の規定に基づく債権 (1)	事務管理
		不当利得
第 17 回	法律の規定に基づく債権 (2)	特殊な不当利得
		不法行為
第 18 回	法律の規定に基づく債権 (3)	特殊の不法行為 (監督者の責任・使用者責任)
第 19 回	法律の規定に基づく債権 (4)	特殊の不法行為 (共同不法行為)
第 20 回	物権変動 (1)	物権の種類
		物権の効力
第 21 回	物権変動 (2)	不動産物権変動と登記
第 22 回	物権変動 (3)	登記と第三者
		動産物権変動と対抗要件
第 23 回	占有権と所有権	占有の効力
		相隣関係
第 24 回	債権の回収	債権回収の基本原則
第 25 回	責任財産の保全	債権者代位権
		債権者取消権
第 26 回	物的担保 (1)	抵当権
第 27 回	物的担保 (2)	根抵当
		仮登記担保
		譲渡担保
第 28 回	人的担保 (1)	連帯債務
		保証債務
第 29 回	人的担保 (2)	連帯保証
		共同保証
第 30 回	予備	予備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
上記の授業計画に基づき、テキストの該当箇所を事前に読んだ上で講義に出席して下さい。
なお、予習に際しては、授業支援システムにアップした講義資料を活用して下さい。

【テキスト（教科書）】
宮本健蔵編著『コンダクト　民法』2014 年 3 月　嵯峨野書院

【参考書】
民法判例百選 Ⅰ、Ⅱ (第 7 版)　有斐閣
法律学小辞典　第４版・補訂版　有斐閣
基本法コンメンタール　日本評論社

【成績評価の方法と基準】
原則として定期試験の成績によるが、出席点を加味する場合もある。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
毎回出席して、講義をしっかりと聞くようにして下さい。

【学生が準備すべき機器他】
板書。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

会社法

連環科目＜法律関係＞　　2～4 年次／ 4 単位［年間授業］

金澤　大祐　講師

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、会社、特に株式会社の活動に関連する法律問題のうち会社法に関わる問題について講義する。主に、株式会社のガバナンスに関する問題、ファイナンスに関する問題、およびM＆Aに関する問題を取り扱う。

【到達目標】
この授業では、実社会で問題となっている会社（特に株式会社）の活動に関連する法律問題のうち会社法に関わる事象を理解できるようにすることを目標としている。なお、公認会計士試験の試験科目である「企業法」の問題は、その多くが会社法に関係する分野から出題されているので、そのような問題に対応できる基礎力をつけることも目標としている。

【授業の進め方と方法】
〈授業の概要〉
株式会社がどのような機関を設置するかは、会社の自治に委ねられており、各機関の権限も他にどのような機関が置かれているかにより異なる場合がある。このため、株式会社がどのように運営されるかを理解するには、機関設計と各機関の権限の内容が重要となる。そこで、この授業では、まず、株式会社の機関の権限について説明し、どのように株式会社が運営されるかについて説明する。
後半の授業では、企業活動で重要なファイナンスに関連する問題と、M＆Aに関連する問題を中心に説明する。
初めて法律を勉強する人でも理解できるように配慮して、法律用語の解説をしながら講義を進める。
また、判例の事案についての検討も行う。
〈授業の方法〉
講義形式で授業を行う。適宜、質疑を取り入れたいと考えている。

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス・会社の種類	会社の意義及び各種類の会社の異同点について説明する。
2 回	会社の能力と会社の法人格	会社の権利能力や法人格の意義について説明し、関連する判例を検討する。
3 回	株式会社の機関と機関設計の選択	株式会社の機関の権限について説明した上で、機関設計の違いについて説明する。
4 回	株主総会の権限と招集手続き	株主総会の権限を説明した後に、その招集手続きにつき説明し、関連する判例を検討する。
5 回	株主総会の運営と計算書類の確定・剰余金の配当	株主総会の決議方法について説明するとともに、計算書類の確定手続きと、剰余金の配当手続きについて説明し、関連する判例を検討する。
6 回	株主総会の瑕疵（１）	株主総会の瑕疵の問題について説明し、関連する判例を検討する。
7 回	株主総会の瑕疵（２）	株主総会の瑕疵の問題について説明し、関連する判例を検討する。
8 回	役員の資格・選解任手続と取締役会	役員の資格や選解任の手続を説明し、取締役会設置会社と非取締役会設置会社の差異について説明する。
9 回	取締役の義務（１）	取締役の善管注意義務と忠実義務の関係、経営判断原則、および内部統制システムについて説明し、関連する判例を検討する。
10 回	取締役の義務（２）	取締役の競業避止義務取締役の利益相反取引に関する規制について説明を行い、関連する判例を検討する。
11 回	取締役の不正行為に対する監視・監督（１）	監査役・監査役会、会計監査人、および会計参与による監視・監督について説明する。
12 回	取締役の不正行為に対する監視・監督（２）	指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社の構造について説明する。
13 回	取締役の対会社責任	取締役の責任免除と株主代表訴訟について説明し、関連する判例を検討する。
14 回	取締役の第三者責任	取締役の第三者責任について説明し、関連する判例を検討する。
15 回	春学期授業のまとめ	春学期授業のまとめ
16 回	株式と有限責任	株式の意義と株主有限責任についてについて説明する。
17 回	株主平等原則とその例外	株主平等原則の意義とその例外について説明し、関連判例を検討する。
18 回	種類株式	種類株式の内容について、相互に比較しながら説明し、関連する判例を検討する。
19 回	株式の譲渡と株主名簿	株式の自由譲渡とその制限について説明する。 また、株主名簿と株券について説明する。
20 回	自己株式の取得と株式分割・株式併合	自己株式の取得規制の概要と株式分割・株式併合の仕組みについて説明する。
21 回	募集株式の発行手続き	募集株式の発行等の手続きについて説明する。
22 回	募集株式発行における救済手段	募集株式発行の差止め、無効、不存在について説明し、関連する判例を検討する。
23 回	新株予約権・社債	新株予約権の利用方法について説明する。 また、社債の特徴・株式の違いについて説明する。
24 回	組織再編総論	組織再編の方法としてどのようなものがあるかについて説明する。
25 回	組織再編の手続	組織再編の手続について、合併、会社分割、株式交換・株式移転における差異を意識しながら説明する。
26 回	組織再編における救済手段	組織再編の手続に違法な点があった場合の株主・債権者等の救済手段について説明し、関連する判例を検討する。
27 回	事業譲渡等	事業譲渡等について説明するとともに、吸収分割との比較を行う。
28 回	株式会社の設立	株式会社の設立手続きについて説明し、関連する判例を検討する。
29 回	持分会社の法規制	持分会社の法規制を株式会社と比較しながら、説明する。
30 回	秋学期授業のまとめ	秋学期授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を授業支援システムを通じてアップするので、授業の開始前までにダウンロードし、テキストの該当箇所を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
『会社法講義３０講』松嶋隆弘編（中央経済社、2015 年）
六法（会社法及び民法、並びに会社法施行規則及び会社計算規則が掲載されているもの、ただし、平成 28 年版のものが好ましい）

【参考書】
『会社法判例百選第２版』江頭憲治郎ほか編（有斐閣、2011）

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）と試験（70 %）で評価する。
試験は春学期末に実施する中間試験と秋学期末に実施する期末試験により評価する。
合計が 60 点以上の場合を合格とし、60 点未満の場合を不合格とする。なお、合格者の評価については相対基準を導入する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】
試験問題が難しいとの意見があるので、対応することとする。
学生が主体的に授業に参加できるように、適宜、質疑応答を行うこととする。

【その他の重要事項】
六法は授業に必ず持参すること。
〔関連科目〕
民法

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

労働法

連環科目＜法律関係＞　　2～4 年次／ 4 単位［年間授業］

沼田　雅之　教授

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、労働法全体の基本原則等について説明するとともに、解雇や労働条件の変更といった労働者個人と企業との関係を扱った「個別的労働関係法」を中心に取り上げる。労働組合の組織率が低下している現状を考慮し、労働組合と企業との関係を扱った集団的労働関係法は必要に応じて言及する程度とする。

「ブラック企業」に関心が集まるなど、労働法は大きな注目を集めている。しかし、労働法の内容は複雑になっており、その情報の整理だけでも苦労することになる。

そこで本講義では、労働法の各テーマについて基本的問題について理解することに重点をおく。基本的な知識の理解が進めば、簡単な事例（実際の労働相談の内容）に自力で解答できるよう展開する。

したがって、この講義の受講生は、（1）労働法に関する基本的な知識を身につけて、自らの生命や人格を守れるようになり、さらに（2）自らまたは同僚（場合によっては使用者の立場から）に生じた労使関係の問題に適切なアドバイスができるようになることが期待される。

【到達目標】

1．労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解する。
2．労働法上の基本的な法規制および重要な判例ついての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定レベル）を解答できるようになる。さらに難易度の高い問題（社会保険労務士や労働基準監督官の試験問題レベル）にも解答できるようになるのが望ましい。
3．さらに優秀な学生は、労働法上の法規制および重要な判例について、社会保険労務士・労働基準監督官の試験程度の問題もある程度解答できるようになる。
4．労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題に、文章で説明できる。

【授業の進め方と方法】

PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める。
講義の内容に関する質問をコメントカードで受け付ける。このコメントカードに記載されている質問等に次回の講義で回答する形でフィードバックを行い、講義内容の定着を図る。

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	講義内容や評価方法の説明。労働法の全体像の説明。
第２回	労働条件決定の根拠	労働条件を決定している大要なツール（労働契約、就業規則、労働協約）について学習する。
第３回	労働契約上の権利義務	労働関係の当事者の基本的な権利義務の内容について学習する。
第４回	労働関係の終了（１）（解雇の手続き規制、法律上の解雇理由規制、労使の自主的ルールによる規制）	労働基準法上の解雇の手続き規制、様々な法律によって定められている解雇理由規制、労使の自主的ルール（就業規則等）による解雇規制について学習する。
第５回	労働関係の終了（２）（解雇権の濫用、整理解雇に関するルール）	解雇についての重要なルールである解雇権濫用法理について学習する。
第６回	労働関係の終了（３）（有期労働契約の規制、期間途中解雇）	期間の定めのある労働契約（有期労働契約）について、使用者が一方的に解雇する場合のルールについて学習する。
第７回	労働関係の終了（４）（有期労働契約の更新拒絶（雇止め））	有期労働契約を更新しない場合の法的問題について学習する。
第８回	労働関係の終了（５）（辞職、合意解約、定年、当事者の消滅）	その他の労働契約の終了場面について学習する。
第９回	企業秩序と懲戒	企業が労働者に対して行う制裁（懲戒）の根拠と限界について学習する。
第１０回	募集・採用	募集・採用時の法的ルールについて学習する。
第１１回	採用内定・試用	採用内定の取消しや、試用期間後に本採用しないこと（本採用の拒否）に関するルールについて学習する。
第１２回	就業規則に関するルール（就業規則の効力、就業規則による労働条件の不利益変更）	現実に多くの労働条件を規律している就業規則に関する法的問題について学習する。
第１３回	配転	転勤や職務の変更といった配置転換に関する法的問題について学習する。
第１４回	出向・転籍	元の企業に籍を残しながら別企業で就労する出向等に関する法的問題について学習する。
第１５回	労働基準法上の実効性確保の手段	労働基準法が定める基準を守らせるための手段について学習する。
第１６回	労働基準法上の「労働者」「使用者」	労働基準法の基準が適用される「労働者」とはなにかについて学習する。
第１７回	賃金（１）（賃金の定義、賃金支払規制）	生活にとって必要な賃金の保護について学習する。
第１８回	賃金（２）（休業手当、最低賃金規制）	使用者の原因によって就労できない場合の取扱いや、最低賃金規制のついて学習する。
第１９回	賃金（３）（賞与（ボーナス）、退職金）	賞与や退職金をめぐる法定問題について学習する。
第２０回	労働時間規制（１）（法定労働時間規制、労働時間の概念）	長時間労働の抑制にとって必要な労働時間規制について学習する。
第２１回	労働時間規制（２）（休日規制、時間外・休日労働、深夜業規制）	例外的な時間外労働や休日労働に関するルールについて学習する。
第２２回	労働時間規制（３）（割増賃金、労働時間規制の適用除外）	管理監督者等の労働時間規制の適用除外について学習する。
第２３回	変形労働時間制（変形労働時間制・フレックスタイム制）	多様な労働時間制度のうち、変形労働時間制度について学習する。
第２４回	みなし労働時間制（事業場外労働のみなし時間制・裁量労働制）	多様な労働時間制度のうち、裁量労働制などについて学習する。
第２５回	年次有給休暇	労働者の休暇・余暇の確保について学習する。
第２６回	妊産婦の保護、男女同一賃金原則、均等法	女性の保護、男女の雇用平等について学習する。
第２７回	無期転換制度、均等・均衡処遇	非正規労働者の保護に関する諸制度について学習する。
第２８回	不当労働行為	使用者と労働組合との団体交渉に関するルール等について学習する。
第２９回	労働協約	使用者と労働組合との間で合意した労働条件が書面化された労働協約に関するルールについて学習する。
第３０回	まとめ	この講義についてのまとめ、総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】

1．浜村彰ほか『ベーシック労働法（第６版）』（有斐閣、2015 年）1,900 円＋税
2．金子征史ほか『基礎から学ぶ労働法Ⅰ（第３版）』（エイデル研究所、2012 年）2,381 円＋税

【成績評価の方法と基準】

1．「期末試験」（60 %）
期末試験として 1 回実施。論述形式の問題を出題する。
2．「小テスト」（40 %）
授業支援システム（オンライン）上、あるいは「確認問題」として講義中に小テストを実施する。
この小テストの問題は、正誤問題や択一式問題を中心としたものになる。試験の難易度は、法学検定やワークルール検定のレベルを想定している。ただし、一部には公務員試験・社会保険労務士試験・労働基準監督官試験等のレベルの問題を出題する。

【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

関連科目：「民法」

【オフィスアワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

交換留学生受け入れプログラム（ESOP）科目について

法政大学グローバル教育センターでは、海外協定校からの交換留学生と本学学生がともに学ぶことのできる英語による特別プログラムとして、交換留学生受け入れプログラム（ESOP）科目を開講しています。授業は、少人数のセミナー方式で、すべて英語で行います。今ある語学力をさらに向上させ、国際的感覚を身に付ける上で有意義なプログラムです。

履修を希望する経営学部生は、以下の点に注意してください。
・履修希望者は、事前にグローバル教育センターへお問い合わせください。
・交換留学生受け入れプログラム（ESOP）の受講が許可になった方のみ連環科目として履修登録できます。
・講義概要については、グローバル教育センター発行のパンフレットもしくはWebシラバスを参照してください。
・時間割、教室については、グローバル教育センター掲示板にて確認してください。

学期	ESOP日本科目名	ESOP英語科目名	単位数	担当者名
春学期	ESOP：日本近現代史	Modern and Contemporary History of Japan	2	鈴村　裕輔
	ESOP：日本の資本主義の形成と起業家精神	Japanese Capitalism and Entrepreneurship	2	Julia YONGUE
	ESOP：日本の文学	Japanese Literature	2	Paul ZIEGLER
	ESOP：日本文化史入門	Introduction to Cultural History of Japan	2	前島　志保
	ESOP：日本の演劇	Japanese Theater	2	竹内　晶子
	ESOP：家族とセクシャリティ	Families and Sexualities in Japan	2	釜野　さおり
	ESOP：日本の金融システムⅠ	The Contemporary Japanese Financial System Ⅰ	2	John REILLY
	ESOP：日本の仮面の諸相	Facets of Japanese Mask	2	Ray NAULT
	ESOP：上級マーケティング論	Advanced Marketing	2	Nei l　ROSENBLATT
	ESOP：異文化マーケテイング	Crosscultural Marketing	2	木村　純子
	ESOP：日本のマイノリティー社会	Japan's Ethnic Minorities	2	堀田　千里
	ESOP：日本の思想Ⅰ	Japanese Thought Ⅰ	2	Ioannis GAITANIDIS
	ESOP：日本の金融論	Money and Finance in Japan	2	林　直嗣
	ESOP：ディスカバージャパンⅠ	Discover Japan　Ⅰ	2	James LASSEGARD 村田　晶子
	ESOP：マーケティング論	Marketing in Japan	2	畑野浩 木村行裕 都丸啓吉 名達博吉 舟橋金之介 遠藤研二
	ESOP：日本の社会問題	Japanese Social Problems	2	堀口 佐知子
	ESOP：日本の経済	Japan's Economy	2	Patrick COLLINS
	ESOP：日本におけるジャーナリズム　Ⅰ	Journalism in Japan　Ⅰ	2	Robert SAKAI-IRVINE
	ESOP：国際金融論	International Finance	2	家弓広一 小泉英次 石橋満 齊藤守
	ESOP：上級経済学	Advanced Economics	2	Shiaw Jia EYO
	ESOP：国際開発協力論	International Development Cooperation	2	後藤　一美
秋学期	ESOP：ネット社会と日本	Japan As a Net Community	2	大嶋　良明
	ESOP：日本の若者・大衆文化	Japanese Youth and Popular Culture	2	Robin O'DAY
	ESOP：日本の思想Ⅱ	Japanese ThoughtⅡ	2	Ioannis GAITANIDIS
	ESOP：日本の近代とメディア	Media and Modernity in Japan	2	前島　志保
	ESOP：事業創造論	Business Creation and Development	2	田路　則子
	ESOP：日本の金融システムⅡ	The Contemporary Japanese Financial SystemⅡ	2	John REILLY
	ESOP：木版画を通じた日本理解	Themes in Wood Block Printing	2	Ray NAULT
	ESOP：比較語用論入門	Introduction to Comparative Pragmatics	2	椎名　美智
	ESOP：日本社会のジェンダー	"Gender" in Japanese Society	2	溝口　彰子
	ESOP：コンテンツツーリズム	Culture Tourism and J-Pop	2	増淵　敏之
	ESOP：ディスカバージャパンⅡ	Discover Japan　Ⅱ	2	James LASSEGARD 村田　晶子
	ESOP：近代日本の文化と社会	Culture and Society in Late Meiji and Taisho Japan	2	衣笠 正晃
	ESOP：日本経営論	Japanese Management Systems	2	金　容度
	ESOP：日本の国際協力	International Cooperation of Japan	2	武田　長久
	ESOP：日本におけるジャーナリズム　Ⅱ	Journalism in Japan　Ⅱ	2	Robert SAKAI-IRVINE
	ESOP：日本の経済と産業	Japanese Economy and Industry	2	Shiaw Jia EYO

総合科目、公開科目、グローバル・オープン科目について

総合科目：市ヶ谷基礎科目・総合科目講義概要（シラバス）を参照してください。
公開科目、グローバル・オープン科目：公開科目講義概要（シラバス）を参照してください。

法政大学
HOSEI University

経 営 学 部

学生証番号	
氏　　名	

R70
再生紙を使用しています